

成田国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書XXII

— 十余三稲荷峰遺跡(空港No.67遺跡) —

(縄文時代以降編)

平成 18 年 3 月

成田国際空港株式会社
財団法人 千葉県教育振興財団

成田国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書XXII

—とよみいなりみね
十余三種荷峰遺跡(空港No. 67遺跡)—



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県教育振興財団調査報告第540集として、成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）の成田（旧新東京）国際空港建設事業に伴って実施した成田市十余三稲荷峰遺跡（空港No.67遺跡）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代早期の遺構・遺物が多数検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成18年3月

財団法人 千葉県教育振興財団
理事長 佐藤 健太郎

凡 例

- 1 本書は、成田（旧新東京）国際空港予定地内の成田市十余字天神峰151はかに所在した十余三稲荷峰遺跡（空港No.67遺跡）の発掘調査報告書で、成田（旧新東京）国際空港関連の発掘調査報告書の第22集にあたるものである。
- 2 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉県文化財センター（平成17年9月1日付で財団法人千葉県教育振興財団と名称変更）が実施した。
- 3 調査で使用した遺跡のコード番号は、211-021・211-029である。
- 4 発掘調査は昭和56年度から昭和62年度にかけて実施し、整理作業は平成12年度から本格的に開始し、平成17年度にかけて断続的に実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、第1章に記載した。
- 5 本書の執筆分担は以下のとおりである。
黒沢 崇 第1章・第2章第1節
鳴田 浩司 第3章・第4章第2節
宮 重行・池田 大助 第2章 土器
西口 徹 上記以外
- 6 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による昭和56年に撮影のものを使用した。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「新東京国際空港」(NI-54-19-10-1)
第2図 新東京国際空港公団発行 1/2,500 新東京国際空港平面図
- 8 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 9 本書に収録した遺物及び記録類は、当教育振興財団で保管している。
- 10 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）の関係者各位、成田市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 11 挿図に使用したスクリーントーン等の用例は本文中に記載した。
- 12 本書で用いた公共座標、抄録の緯度・経度は日本（旧）測地系によるものである。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
第2節	調査の方法	2
第3節	遺跡の位置と環境	3
第2章	縄文時代	11
第1節	遺構	11
1	竪穴住居跡・竪穴状遺構	11
2	陥穴	34
3	炬穴・焼土跡	67
4	土坑	89
第2節	遺構出土遺物	98
1	竪穴住居跡・竪穴状遺構	98
2	炬穴	103
3	土坑・陥穴	104
第3節	包含層の調査	106
1	出土状況	106
2	包含層出土の土器	106
3	包含層出土の土製品等	270
4	包含層出土の弥生時代土器	271
5	縄文時代草創期のS-J地点	284
6	縄文時代早期のS-N地点	294
7	縄文時代早期のN-13地点	298
8	グリッド一括の石器	316
第3章	奈良・平安時代	376
第1節	遺構	376
第2節	遺物	376
第4章	中・近世	382
第1節	遺構	382
第2節	中・近世遺物	388
第5章	まとめ	391
第1節	縄文時代	391
第2節	弥生時代	393
第3節	奈良・平安時代	393
第4節	中・近世	393
	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図	周辺遺跡分布図	5	第36図	陥穴(10)	54
第2図	年度別調査範囲	6	第37図	陥穴(11)	56
第3図	グリッド設定図	7	第38図	陥穴(12)	58
第4図	縄文時代遺構分布図(1)	8	第39図	陥穴(13)	60
第5図	縄文時代遺構分布図(2)	9	第40図	陥穴(14)	62
第6図	縄文時代遺構分布図(3)	10	第41図	陥穴(15)	64
第7図	001・002・003号竪穴	12	第42図	陥穴(16)	66
第8図	004・005・006号竪穴	13	第43図	陥穴(17)	67
第9図	007号竪穴	15	第44図	土坑・陥穴検出遺物	68
第10図	008号竪穴	16	第45図	炉穴・焼土跡(1)	70
第11図	009号竪穴	17	第46図	炉穴・焼土跡(2)	72
第12図	010号竪穴	18	第47図	炉穴・焼土跡(3)	75
第13図	012号竪穴	19	第48図	炉穴・焼土跡(4)	78
第14図	011・013・014・015号竪穴	20	第49図	炉穴・焼土跡(5)	80
第15図	016・017・018号竪穴	21	第50図	炉穴・焼土跡(6)	82
第16図	019・021号竪穴	23	第51図	炉穴・焼土跡(7)	85
第17図	020号竪穴	24	第52図	炉穴・焼土跡(8)	87
第18図	022・023号竪穴	25	第53図	炉穴・焼土跡(9)	89
第19図	024・025号竪穴	26	第54図	炉穴・焼土跡検出遺物	90
第20図	026・027号竪穴	27	第55図	土坑(1)	92
第21図	028・029号竪穴	29	第56図	土坑(2)	94
第22図	030・031・032号竪穴	30	第57図	土坑(3)	96
第23図	033・034号竪穴	31	第58図	土坑(4)	97
第24図	035号竪穴	32	第59図	土坑(5)	99
第25図	036・037・038号竪穴	33	第60図下	撫糸文系土器(1)	108
第26図	039・040・041号竪穴	35	第60図上	撫糸文系土器(2)	108
第27図	陥穴(1)	37	第61図下	撫糸文系土器(3)	110
第28図	陥穴(2)	39	第61図上	押型文系土器(1)	110
第29図	陥穴(3)	41	第62図下	押型文系土器(2)	112
第30図	陥穴(4)	43	第62図上	押型文系土器(3)	112
第31図	陥穴(5)	45	第63図下	凹線文・削痕文(1)	114
第32図	陥穴(6)	47	第63図上	凹線文・削痕文(2)	114
第33図	陥穴(7)	49	第64図下	三戸条線文(1)	116
第34図	陥穴(8)	51	第64図上	三戸条線文(2)	116
第35図	陥穴(9)	53	第65図下	三戸条線文(3)	119

第65図上	三戸(瓜形・格子目)(1)……………	119	第84図下	条痕文系土器(4)……………	175
第66図下	三戸(瓜形・格子目)(2)……………	121	第84図上	条痕文系土器(5)……………	175
第66図上	三戸(瓜形・格子目)(3)……………	121	第85図下	条痕文系土器(6)……………	177
第67図下	三戸(瓜形・格子目)(4)……………	124	第85図上	条痕文系土器(7)……………	177
第67図上	三戸(瓜形・格子目)(5)……………	124	第86図下	条痕文系土器(8)……………	178
第68図下	沈線文系土器(1)……………	127	第86図上	条痕文系土器(9)……………	178
第68図上	沈線文系土器(2)……………	127	第87図下	条痕文系土器(10)……………	181
第69図下	沈線文系土器(3)……………	128	第87図上	無文(1)(条痕文系)……………	181
第69図上	沈線文系土器(4)……………	128	第88図下	無文(2)(条痕文系)……………	183
第70図下	沈線文系土器(5)……………	131	第88図上	無文(3)(条痕文系)……………	183
第70図上	沈線文系土器(6)……………	131	第89図下	無文(4)(条痕文系)……………	185
第71図下	沈線文系土器(7)……………	134	第89図上	無文(5)(条痕文系)……………	185
第71図上	沈線文系土器(8)……………	134	第90図下	底部(1)(条痕文系)……………	188
第72図下	沈線文系土器(9)……………	137	第90図上	底部(2)(条痕文系)……………	188
第72図上	沈線文系土器(10)……………	137	第91図下	底部(3)(条痕文系)……………	191
第73図下	沈線文系土器(11)……………	141	第91図上	底部(4)(条痕文系)……………	191
第73図上	沈線文系土器(12)……………	141	第92図下	底部(5)(条痕文系)……………	195
第74図下	刺突文(1)……………	143	第92図上	子母口式土器(1)……………	195
第74図上	刺突文(2)……………	143	第93図下	子母口式土器(2)……………	197
第75図下	刺突文(3)……………	146	第93図上	子母口式土器(3)……………	197
第75図上	刺突文(4)……………	146	第94図下	子母口式土器(4)……………	203
第76図下	刺突文(5)……………	149	第94図上	野島式土器(条痕文)(1)……………	203
第76図上	刺突文(6)……………	149	第95図下	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(1)……………	205
第77図下	腹緑文(1)……………	153	第95図上	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(2)……………	205
第77図上	腹緑文(2)……………	153	第96図下	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(3)……………	207
第78図下	腹緑文(3)……………	155	第96図上	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(4)……………	207
第78図上	腹緑文(4)……………	155	第97図下	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(5)……………	211
第79図下	腹緑文(5)……………	159	第97図上	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(6)……………	211
第79図上	腹緑文(6)……………	159	第98図下	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(7)……………	216
第80図下	腹緑文(7)……………	163	第98図上	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(8)……………	216
第80図上	田戸上層(1)……………	163	第99図下	鞠ヶ島台式土器(条痕文)(9)……………	219
第81図下	田戸上層(2)……………	165	第99図上	茅山式土器(条痕文)(1)……………	219
第81図上	田戸上層(3)……………	165	第100図下	茅山式土器(条痕文)(2)……………	221
第82図下	田戸上層(4)……………	167	第100図上	茅山式土器(条痕文)(3)・底部……………	221
第82図上	条痕文系土器(1)……………	167	第101図下	黒浜式土器(1)……………	224
第83図下	条痕文系土器(2)……………	171	第101図上	黒浜式土器(2)……………	224
第83図上	条痕文系土器(3)……………	171	第102図下	黒浜式土器(3)……………	227

第102図上	黒浜式土器(4)……………	227	第126図	S-J地点出土石器(5)……………	293
第103図下	諸磯式土器(1)……………	230	第127図	S-N地点器種別出土状況……………	295
第103図上	諸磯式土器(2)……………	230	第128図	S-N地点出土石器(1)……………	297
第104図下	浮島式土器(1)……………	232	第129図	S-N地点出土石器(2)……………	298
第104図上	浮島式土器(2)……………	232	第130図	N-13地点器種別出土状況……………	299
第105図下	浮島式土器(3)……………	235	第131図	N-13地点出土石器(1)……………	300
第105図上	浮島式土器(4)……………	235	第132図	N-13地点出土石器(2)……………	304
第106図下	浮島式土器(5)……………	238	第133図	N-13地点出土石器(3)……………	307
第106図上	浮島式土器(6)……………	238	第134図	N-13地点出土石器(4)……………	309
第107図下	浮島式土器(7)……………	242	第135図	N-13地点出土石器(5)……………	311
第107図上	浮島式土器(8)……………	242	第136図	N-13地点出土石器(6)……………	313
第108図下	興津式土器(1)……………	246	第137図	N-13地点出土石器(7)……………	315
第108図上	興津式土器(2)……………	246	第138図	N-13地点出土石器(8)……………	317
第109図下	興津式土器(3)……………	249	第139図	N-13地点出土石器(9)……………	318
第109図上	前期末~中期初頭(1)……………	249	第140図	N-13地点出土石器(10)……………	319
第110図下	前期末~中期初頭(2)……………	252	第141図	グリッド一括石器類(1)……………	320
第110図上	前期末~中期初頭(3)……………	252	第142図	グリッド一括石器類(2)……………	322
第111図下	中期(1)……………	255	第143図	グリッド一括石器類(3)……………	324
第111図上	中期(2)……………	255	第144図	グリッド一括石器類(4)……………	327
第112図下	後期(1)……………	257	第145図	グリッド一括石器類(5)……………	330
第112図上	後期(2)……………	257	第146図	グリッド一括石器類(6)……………	332
第113図下	後期(3)……………	260	第147図	グリッド一括石器類(7)……………	336
第113図上	後期(4)……………	260	第148図	グリッド一括石器類(8)……………	338
第114図下	後期(5)……………	262	第149図	グリッド一括石器類(9)……………	341
第114図上	後期(6)……………	262	第150図	グリッド一括石器類(10)……………	343
第115図	別地区(1)・(2)(東側)……………	265	第151図	グリッド一括石器類(11)……………	344
第116図	別地区(3)・(4)(南側)……………	267	第152図	グリッド一括石器類(12)……………	347
第117図下	別地区(67C地区)……………	269	第153図	グリッド一括石器類(13)……………	349
第117図上	包含層出土の土製品等……………	269	第154図	グリッド一括石器類(14)……………	352
第118図	包含層出土の弥生時代土器……………	271	第155図	グリッド一括石器類(15)……………	354
第119図	縄文時代石器集中地点全体図……………	283	第156図	グリッド一括石器類(16)……………	356
第120図	S-J地点器種別出土状況……………	284	第157図	グリッド一括石器類(17)……………	358
第121図	S-J地点石材別出土状況……………	285	第158図	グリッド一括石器類(18)……………	359
第122図	S-J地点出土石器(1)……………	287	第159図	グリッド一括石器類(19)……………	360
第123図	S-J地点出土石器(2)……………	289	第160図	グリッド一括石器類(20)……………	363
第124図	S-J地点出土石器(3)……………	291	第161図	グリッド一括石器類(21)……………	364
第125図	S-J地点出土石器(4)……………	292	第162図	グリッド一括石器類(22)……………	365

第163図	グリッド一括石器類(23)……………	366	第169図	001・002・003・004・005・006・007・	
第164図	グリッド一括石器類(24)……………	367	008・009・010・011・012・020・021・		
第165図	グリッド一括石器類(25)……………	368	022・023号溝……………	383・384	
第166図	溝状遺構全体図……………	377	第170図	001・003・020・021・024・025・026・	
第167図	021号溝遺物分布図……………	378	027・028号溝……………	385・386	
第168図	土師器・須恵器類……………	380	第171図	中・近世遺物……………	389

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧……………	4	第14表	縄文土器出土点数表(大グリッド11グリッ ド列)……………	279
第2表	縄文土器出土点数表(大グリッド00グリッ ド列)……………	273	第15表	縄文土器出土点数表(大グリッド12グリッ ド列)……………	279
第3表	縄文土器出土点数表(大グリッド0グリッ ド列)……………	273	第16表	縄文土器出土点数表(大グリッド13グリッ ド列)……………	280
第4表	縄文土器出土点数表(大グリッド1グリッ ド列)……………	274	第17表	縄文土器出土点数表(大グリッド14グリッ ド列)……………	280
第5表	縄文土器出土点数表(大グリッド2グリッ ド列)……………	274	第18表	縄文土器出土点数表(大グリッド15グリッ ド列)……………	281
第6表	縄文土器出土点数表(大グリッド3グリッ ド列)……………	275	第19表	縄文土器出土点数表(大グリッド16グリッ ド列)……………	281
第7表	縄文土器出土点数表(大グリッド4グリッ ド列)……………	275	第20表	縄文土器出土点数表(大グリッド17グリッ ド列)……………	282
第8表	縄文土器出土点数表(大グリッド5グリッ ド列)……………	276	第21表	縄文時代草創期S-J地点出土石器属性表 ……………	369
第9表	縄文土器出土点数表(大グリッド6グリッ ド列)……………	276	第22表	縄文時代草創期S-J地点石器組成表…………	370
第10表	縄文土器出土点数表(大グリッド7グリッ ド列)……………	277	第23表	縄文時代早期S-N地点出土石器属性表 ……………	370
第11表	縄文土器出土点数表(大グリッド8グリッ ド列)……………	277	第24表	縄文時代早期S-N地点石器組成表…………	370
第12表	縄文土器出土点数表(大グリッド9グリッ ド列)……………	278	第25表	縄文時代早期N-13地点石器属性表(1)~ ~29表(5)……………	371~375
第13表	縄文土器出土点数表(大グリッド10グリッ ド列)……………	278	第30表	中・近世溝 No 新旧対照表……………	382
			第31表	銀貨属性表……………	390

图版目次

- 图版 1 十余处稻荷峰遗迹 (空港No.67遗迹) 航空写真
- 图版 2 遗迹全景 (北より)・遗迹北半部 (南より)・遗迹北半部 (南西より)
- 图版 3 001号竖穴, 002号竖穴, 003号竖穴, 004号竖穴, 005号竖穴, 006号竖穴, 007号竖穴, 008号竖穴, 009号竖穴, 010号竖穴
- 图版 4 011号竖穴, 012号竖穴, 013号竖穴, 014号竖穴, 015号竖穴, 016号竖穴, 017号竖穴, 018号竖穴, 019号竖穴, 020号竖穴
- 图版 5 022号竖穴, 023号竖穴, 024号竖穴, 025号竖穴, 026号竖穴, 027号竖穴, 028号竖穴, 029号竖穴, 030号竖穴, 031号竖穴
- 图版 6 032号竖穴, 033号竖穴, 034号竖穴, 035号竖穴, 036号竖穴, 037・38号竖穴, 039号竖穴, 040号竖穴, 041号竖穴
- 图版 7 001号炉穴, 002号炉穴, 003号炉穴, 004号炉穴, 005号炉穴, 006号炉穴, 007号炉穴, 008号炉穴, 009号炉穴, 010号炉穴, 011~013号炉穴, 014号炉穴, 015号炉穴, 016号炉穴, 017号炉穴, 018・019号炉穴, 019号炉穴, 020号炉穴, 021号炉穴, 022号炉穴, 023・024号炉穴, 025・026号炉穴, 027号炉穴, 028号炉穴, 029号炉穴, 030・031号炉穴, 032号炉穴, 033号炉穴, 034号炉穴
- 图版 8 035号炉穴, 036・037号炉穴, 036~040号炉穴, 041・042号炉穴, 043~045・047号炉穴, 046号炉穴, 048~050号炉穴, 051号炉穴, 052号炉穴, 053号炉穴, 054号炉穴, 055号炉穴, 056号炉穴, 057号炉穴, 058~061号炉穴, 062・063号炉穴, 064号炉穴, 065号炉穴, 066~068号炉穴, 069号炉穴, 070~073号炉穴, 074・075号炉穴, 076号炉穴, 077号炉穴, 078号炉穴, 079号炉穴, 080・081号炉穴, 082号炉穴, 083号炉穴, 084号炉穴
- 图版 9 085号炉穴, 086号炉穴, 087~089号炉穴, 090号炉穴, 091~098号炉穴, 099~101号炉穴, 102~104・106号炉穴, 105号炉穴, 107・108号炉穴, 109号炉穴, 111号炉穴, 112~114号炉穴, 115号炉穴, 116~120号炉穴, 121号炉穴, 122号炉穴, 123号炉穴, 124・125号炉穴, 126号炉穴, 127号炉穴, 128~130号炉穴, 131号炉穴, 133号炉穴, 134号炉穴, 135号炉穴, 136号炉穴, 137号炉穴
- 图版 10 001号土坑, 002号土坑, 003号土坑, 004号土坑, 005号土坑, 006号土坑, 007号土坑, 008号土坑, 009号土坑, 010号土坑, 011・012号土坑, 013号土坑, 014号土坑, 015号土坑, 016号土坑, 017号土坑, 018号土坑, 019号土坑, 020号土坑, 021号土坑, 022号土坑, 023号土坑, 024号土坑, 025号土坑, 027号土坑, 028号土坑, 029号土坑, 031号土坑, 032号土坑
- 图版 11 034号土坑, 035号土坑, 036号土坑, 037号土坑, 038号土坑, 039号土坑, 040号土坑, 041号土坑, 042号土坑, 043号土坑, 044号土坑, 001・002号陷穴, 003号陷穴, 004号陷穴, 005号陷穴, 006号陷穴, 007号陷穴, 008号陷穴, 009号陷穴, 010号陷穴, 011・012号陷穴, 014号陷穴, 015号陷穴, 016号陷穴, 017・018号陷穴
- 图版 12 019号陷穴, 021号陷穴, 022号陷穴, 023号陷穴, 024号陷穴, 025号陷穴, 027号陷穴, 030号陷穴, 031号陷穴, 032号陷穴, 033号陷穴, 034号陷穴, 035号陷穴, 036号陷穴, 037号陷穴, 040号陷穴, 041号陷穴, 042号陷穴, 038号陷穴, 039号陷穴, 044号陷穴, 043号陷穴, 045号陷穴, 052号陷穴, 046号

	陷穴, 049号陷穴, 050号陷穴, 051号陷穴,	上	押型文(1)
	056号陷穴, 057号陷穴, 061号陷穴	图版20下	押型文(2), 三戸条線文(1)
图版13	063号陷穴, 064号陷穴, 065号陷穴, 067号	上	三戸条線文(2)
	陷穴, 069号陷穴, 071号陷穴, 075号陷穴,	图版21下	三戸条線文(3)
	076号陷穴, 077号陷穴, 078·079号陷穴,	上	三戸(爪形·格子目)(1)
	081号陷穴, 082号陷穴, 083号陷穴, 084号	图版22下	三戸(爪形·格子目)(2)
	陷穴, 085号陷穴, 087号陷穴, 088号陷穴,	上	三戸(爪形·格子目)(3)
	089号陷穴, 091号陷穴, 092号陷穴, 093号	图版23下	三戸(爪形·格子目)(4)
	陷穴, 094号陷穴, 097号陷穴, 098号陷穴,	上	沈線文(1)
	100号陷穴, 101号陷穴	图版24下	沈線文(2)
图版14	102号陷穴, 107号陷穴, 108号陷穴, 109号	上	沈線文(3)
	陷穴, 110号陷穴, 113号陷穴, 115号陷穴,	图版25下	沈線文(4)
	116号陷穴, 117号陷穴, 118号陷穴, 119号	上	沈線文(5)
	陷穴, 120号陷穴, 124号陷穴, 122号陷穴,	图版26下	沈線文(6)
	123号陷穴, 125号陷穴, 129号陷穴, 132号	上	沈線文(7)
	陷穴, 133号陷穴, 134号陷穴, 136号陷穴,	图版27下	沈線文(8)
	137号陷穴, 138号陷穴, 139号陷穴, 141号	上	沈線文(9)
	陷穴, 142号陷穴, 143号陷穴, 144号陷穴,	图版28下	沈線文(10)
	146号陷穴, 147号陷穴	上	刺突文(1)
图版15	遺構遺物 001号壑穴住居, 002号壑穴住居,	图版29下	刺突文(2)
	003号壑穴住居, 006号壑穴住居, 007号壑	上	刺突文(3)
	穴住居, 008号壑穴住居, 009号壑穴住居,	图版30下	刺突文(4)
	010号壑穴住居, 012号壑穴住居, 016号壑	上	刺突文(5)
	穴住居	图版31下	腹線文(1)
图版16	018号壑穴住居, 019号壑穴住居, 020号壑	上	腹線文(2)
	穴住居, 021号壑穴住居, 022号壑穴住居,	图版32下	腹線文(3)
	023号壑穴住居, 024号壑穴住居, 025号壑	上	腹線文(4)
	穴住居, 026号壑穴住居, 027号壑穴住居,	图版33下	腹線文(5)
	028号壑穴住居, 029号壑穴住居, 031号壑	上	腹線文(6), 田戸上層(1)
	穴住居, 032号壑穴住居, 033号壑穴住居,	图版34下	田戸上層(2)
	034号壑穴住居	上	田戸上層(3)
图版17	035号壑穴住居, 036号壑穴住居, 037号壑	图版35下	田戸上層(4)
	穴住居, 040号壑穴住居, 041号壑穴住居,	上	条痕文(1)
	遺構遺物 土坑, 陷穴	图版36下	条痕文(2)
图版18下	遺構遺物 炉穴, 陷穴 土製品	上	条痕文(3)
	上 摺糸文(1)	图版37下	条痕文(4)
图版19下	摺糸文(2)	上	条痕文(5)

- 図版38下 条痕文(6)
上 条痕文(7)
- 図版39下 無文(1)
上 無文(2)
- 図版40下 無文(3)
上 子母口(1)
- 図版41下 子母口(2)
上 子母口(3), 野島(1)
- 図版42下 縄ヶ島台(1)
上 縄ヶ島台(2)
- 図版43下 縄ヶ島台(3)
上 縄ヶ島台(4)
- 図版44下 縄ヶ島台(5)
上 縄ヶ島台(6), 茅山条痕(1)
- 図版45下 茅山条痕(2)
上 黒浜(1)
- 図版46下 黒浜(2)
上 黒浜(3), 浮島(1)
- 図版47下 浮島(2)
上 浮島(3)
- 図版48下 浮島(4)
上 浮島(5)
- 図版49下 浮島(6)
上 興津(1)
- 図版50下 興津(2)
上 興津(3), 諸磯(1)
- 図版51下 諸磯(2)
上 前期末~中期初頭(1)
- 図版52下 前期末~中期初頭(2)
上 前期末~中期初頭(3)
- 図版53下 中期(1)
上 中期(2)
- 図版54下 後期(1)
上 後期(2)
- 図版55下 後期(3)
上 後期(4)
- 図版56下 後期(5)
上 後期(6)
- 図版57下 別地区東側
上 別地区南側
- 図版58下 別地区67C区, 弥生時代土器片
上 S-J地点土器出土状況
- 図版59下 S-J地点出土土器(1)・(2)
上 S-J地点出土土器(3), S-N地点出土土器
- 図版60下 N-13地点出土土器(1)・(2)
上 N-13地点出土土器(3)・(4)
- 図版61下 N-13地点出土土器(5)・(6)
上 グリッド一括出土土器(1)・(2)
- 図版62下 グリッド一括出土土器(3)・(4)
上 グリッド一括出土土器(5)・(6)
- 図版63下 グリッド一括出土土器(7)・(8)
上 グリッド一括出土土器(9)・(10)
- 図版64下 グリッド一括出土土器(11)・(12)
上 グリッド一括出土土器(13)・(14)
- 図版65下 グリッド一括出土土器(15)・(16)
上 グリッド一括出土土器(17)・(18)
- 図版66下 グリッド一括出土土器(19)・(20)
上 グリッド一括出土土器(21)・(22)
- 図版67下 古代, 中・近世溝等(1)
上 古代, 中・近世溝等(2)
- 図版68下 古代, 中・近世溝等(3)
上 古代関係出土遺物
- 図版69 中・近世関係出土遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の概要（第1・2図）

財団法人千葉県教育振興財団では、成田国際空港（旧新東京国際空港）予定地内及び関連事業地に所在する遺跡について千葉県教育委員会の指導のもと、成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公園）の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの調査成果の一部は既に報告書として刊行されている。

今回報告する十余三稲荷峰遺跡（空港 No.67遺跡）についても、千葉県教育委員会が成田国際空港株式会社と遺跡の取り扱いについて協議した結果、記録保存の措置がとられることになった。そこで、当振興財団では成田国際空港株式会社とこの遺跡の発掘調査について調整を行い、成田国際空港建設事業として昭和56年度から実施することとなった。

十余三稲荷峰遺跡のうち、282,000m²に対し、昭和56～58・62年度に断続的に発掘調査を行った。調査の結果、旧石器時代の石器集中地点39か所、縄文時代の竪穴住居跡・竪穴状遺構41軒、陥穴147基、炬穴137基、土坑44基、奈良・平安時代の溝状遺構2条、中・近世の溝状遺構16条を検出した。また、縄文時代早期を中心とする包含層48,000m²の調査を行い、多量の土器片等が出土した。

その後、年度計画に基づき、平成12年度から本格的に整理作業が開始され、平成16年度に旧石器時代（下層）が報告書刊行の運びとなった。今回は、縄文時代以降（上層）についての報告書刊行である。

発掘調査及び整理作業に係わる各年度の組織、担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

昭和56年度	期 間	昭和56年9月1日～昭和57年3月31日
	組 織	班 長 西山太郎 担当職員 横山 仁、西口 徹、麻生正信、糸川道行、大野康男
	内 容	発掘調査 22,253m ² （対象面積）
昭和57年度	期 間	昭和57年4月1日～昭和58年3月22日
	組 織	班 長 西山太郎 担当職員 兩宮龍太郎、川島利道、西口 徹
	内 容	発掘調査 57,000m ² （対象面積）
昭和58年度	期 間	昭和58年5月6日～昭和58年7月6日
	組 織	班 長 西山太郎 担当職員 田坂 浩、岸本雅人、小畑 巖
	内 容	発掘調査 30,000m ² （対象面積）
昭和62年度	期 間	昭和62年5月11日～昭和63年3月31日
	組 織	班 長 矢戸三男

	内 容	担当職員 上野純司, 森本和男, 部 淳一, 西口 徹 発掘調査 139,000m ² (対象面積)
平成12年度	期 間	平成12年4月1日～平成13年3月31日
	組 織	東部調査事務所長 折原 繁 担当職員 小笠原水隆
	内 容	整理作業 記録整理～接合の一部
平成13年度	期 間	平成13年4月1日～平成13年3月31日
	組 織	東部調査事務所長 折原 繁 担当職員 宮 重行, 遠藤治雄, 永塚俊司, 黒沢 崇
	内 容	整理作業 接合の一部～挿図作成の一部
平成14年度	期 間	平成14年4月1日～平成15年3月31日
	組 織	東部調査事務所長 折原 繁 担当職員 宮 重行, 永塚俊司, 黒沢 崇
	内 容	整理作業 挿図作成の一部～原稿の一部
平成15年度	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	組 織	東部調査事務所長 折原 繁 担当職員 宮 重行, 永塚俊司
	内 容	整理作業 原稿の一部～刊行 (下層分)
平成16年度	期 間	平成16年4月1日～平成17年3月31日
	組 織	東部調査事務所長 鈴木定明 担当職員 宮 重行, 西口 徹
	内 容	整理作業 原稿執筆
平成17年度	期 間	平成17年4月1日～平成17年10月31日
	組 織	東部調査事務所長 鈴木定明 担当職員 池田大助, 西口 徹
	内 容	整理作業 原稿の一部～刊行 (上層分)

第2節 調査の方法 (第3・4図)

調査対象範囲全域に、公共座標に合わせて東西南北に50m×50mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称法は、北西に起点を置いて、北から南に1, 2, 3, ……とし、西から東へA, B, C……として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内には5m×5mに100分割の小グリッドを設

定し、北西隅を起点に00, 01, 02……として南西隅を99とした。グリッド名はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、8B-34のように表示することにした。しかし、昭和58年度に行った発掘調査はグリッドを別に設定したため本報告にあたり、変更を行った。(第3図参照)

調査は、上層・下層確認調査、上層本調査、下層本調査の順に実施した。上層確認調査は、2m×2mのグリッドを基本とし、調査対象面積の8%を設定して遺構と遺物の分布を確認した。下層確認調査は、2m×2mのグリッドを地形に合わせて調査対象面積の8%を設定し、遺物の分布を確認した。それぞれの確認調査の結果をうけて、本調査に移行し、検出遺構や出土遺物を詳細に調査した。

なお、調査時には、遺構番号を大グリッド毎に(例えば3Cイ001, 3Cイ002のように)付していたが、整理段階で編集の都合上、遺構番号を遺構種類毎に分け、新たに遺構番号に変更した。旧番号と新番号との対照は、各遺構の事実記載の部分で()内に旧番号を表示することに行えるようにした。

第3節 遺跡の位置と環境(第1図)

今回報告する十余三稲荷峰遺跡は、成田国際空港予定地内の北端に位置し、羽尾根川と取香川の分水域に当たる平坦な台地に展開する。周辺で本遺跡に関係する主な時期である縄文時代早期を中心に概観することにする。取香和田戸遺跡(空港No.60遺跡)^{注1)}では、縄文時代早期前半(燃糸文期)の竪穴住居跡が6軒、沈線文期のものが1軒検出され、焼窯の礫群や炉穴などの遺構がまとめて検出されている。早期燃糸文系土器、沈線文系土器を主体とする包含層も検出された。また草創期多縄文土器の出土もあった。東峰御幸畑西遺跡(空港No.61遺跡)^{注2)}では早期前半(燃糸文期)の竪穴住居跡5軒と炉穴が検出され、燃糸文系土器、沈線文系土器、条痕文系土器を主体とする包含層が検出された。東峰御幸畑東遺跡(空港No.62遺跡)^{注3)}では縄文時代早期を中心に陥穴23基、炉穴2基、土坑40基が検出された。早期燃糸文～沈線文期の土器が多量に出土している。一鍛田甚兵衛山遺跡^{注4)}では、燃糸文期の竪穴住居跡や早期～前期の包含層の調査が行われている。香山新田中横堀遺跡(空港No.7遺跡)^{注5)}では井草I式期の竪穴住居跡を検出している。古込遺跡(空港No.14・55・56遺跡)^{注6)}では沈線文期と条痕文期の土器が多く出土している。稲荷峰遺跡^{注7)}では早期から前期の竪穴住居跡15軒の調査が行われている。包含層からは、沈線文・条痕文が主体として出土している。灰塚遺跡では、早期でも沈線文系土器が多く出土し、本遺跡との関連が興味深い。

このように遺跡周辺では縄文時代早期の包含層調査例が豊富だけでなく、全国的にみても検出例の比較的小ない該期の住居跡の調査が行われていることから、今回の本遺跡の成果も合わせ、該期の土器研究や集落研究に欠かすことのできない重要な地域である。

注

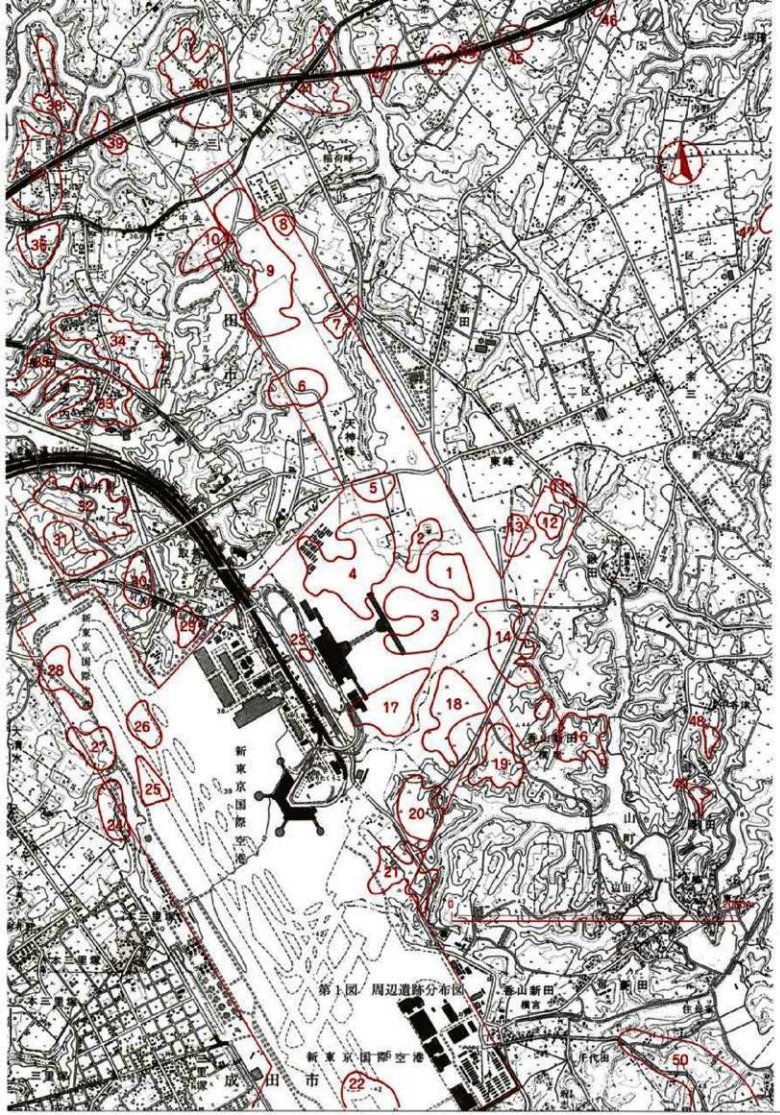
- 1) 小久貴隆史・新田浩三 1994 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ-取香和田戸遺跡-(空港No.60遺跡)』(財)千葉県文化財センター
- 2) 宮 重行・麻生正信・永塚俊司 2000 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書13-東峰御幸畑西遺跡-(空港No.61遺跡)』(財)千葉県文化財センター
- 3) 宮 重行・麻生正信・永塚俊司 2004 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書19-東峰御幸畑東遺跡-(空港No.62遺跡)』(財)千葉県文化財センター

- 4) 矢本 節朗 1997 『多古町一蹴田甚兵衛山道跡』（財）千葉県文化財センター
- 5) 西川博孝他 1984 『新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書4-No7道跡-』（財）千葉県文化財センター
- 6) 野口行雄他 1983 『新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書3-No14道跡-』（財）千葉県文化財センター
- 西野 元他 1971 『三里塚 新東京国際空港用地内の考古学的調査』（財）千葉県北総公社
- 7) 齋木 勝他 1985 『関東東自動車道埋蔵文化財調査報告書-成田地区-』（財）千葉県文化財センター

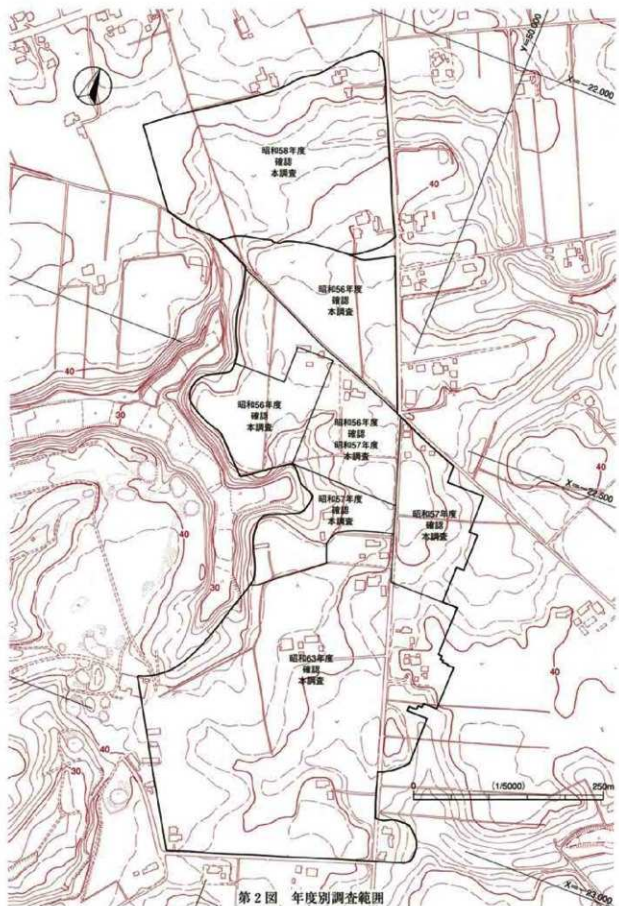
第1表 周辺道跡一覧

1	東峰御幸畑西道跡（空港 No61道跡）	29	台ノ田Ⅱ道跡
2	東峰御幸畑東道跡（空港 No62道跡）	30	胸井野荒追道跡
3	古込道跡（空港 No14・55・56道跡）	31	胸井野西ノ下道跡
4	取香和田戸道跡（空港 No60道跡）	32	胸井の城
5	東峰西笠峰道跡（空港 No63道跡）	33	堀之内道跡群
6	天神峰最上道跡（空港 No64道跡）	34	堀之内宮ノ台道跡
7	天神峰奥之台道跡（空港 No65道跡）	35	長田砦
8	十余三稲荷峰東道跡（空港 No66道跡）	36	十余三円妙寺Ⅱ道跡
9	十余三稲荷峰道跡（空港 No67道跡）	37	十余三瓜生池Ⅰ道跡
10	十余三稲荷峰西道跡（空港 No68道跡）	38	十余三瓜生池Ⅱ道跡
11	一蹴田甚兵衛山北道跡（空港 No11道跡）	39	十余三四本木Ⅰ道跡
12	一蹴田甚兵衛山南道跡（空港 No12道跡）	40	十余三四本木Ⅱ道跡
13	一蹴田甚兵衛山西道跡（空港 No16道跡）	41	十余三稲荷峯Ⅱ道跡
14	香山新田新山道跡（空港 No10道跡）	42	大安場道跡
15	香山新田安戸台道跡（空港 No9道跡）	43	来光台第1道跡
16	香山新田念仏面道跡（空港 No8道跡）	44	来光台第2道跡
17	古込朝日台道跡（空港 No13道跡）	45	来光台第3道跡
18	香山新田中横堀道跡（空港 No7道跡）	46	新堀第1道跡
19	香山新田金沢台道跡（空港 No15道跡）	47	クラカイⅡ道跡
20	木の根拓美道跡（空港 No6道跡）	48	菱田梅ノ木道跡
21	木の根東台道跡（空港 No51道跡）	49	根切台道跡
22	東三里塚吉野台道跡（空港 No3・51・52道跡）	50	大里田廻台古墳群
23	古込込前道跡（空港 No22道跡）		
24	胸井野横谷津道跡（空港 No17道跡）		
25	天浪大里道跡（空港 No18道跡）		
26	天浪浪丘道跡（空港 No19道跡）		
27	胸井野新田道跡（空港 No20道跡）		
28	胸井野新堀道跡（空港 No21道跡）		

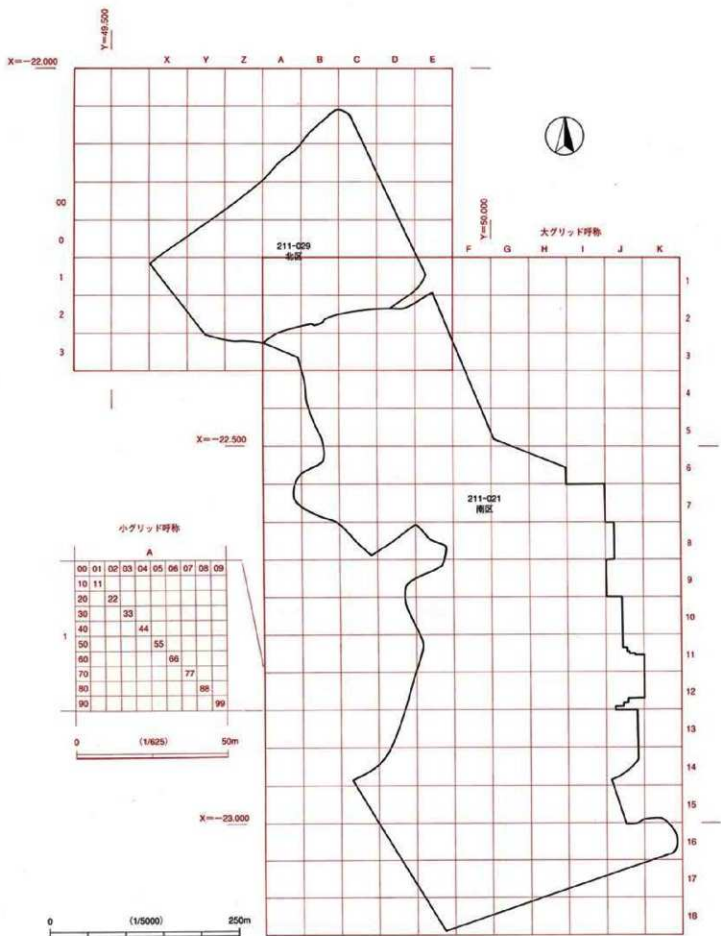
*No. は第1図周辺道跡分布図に対応



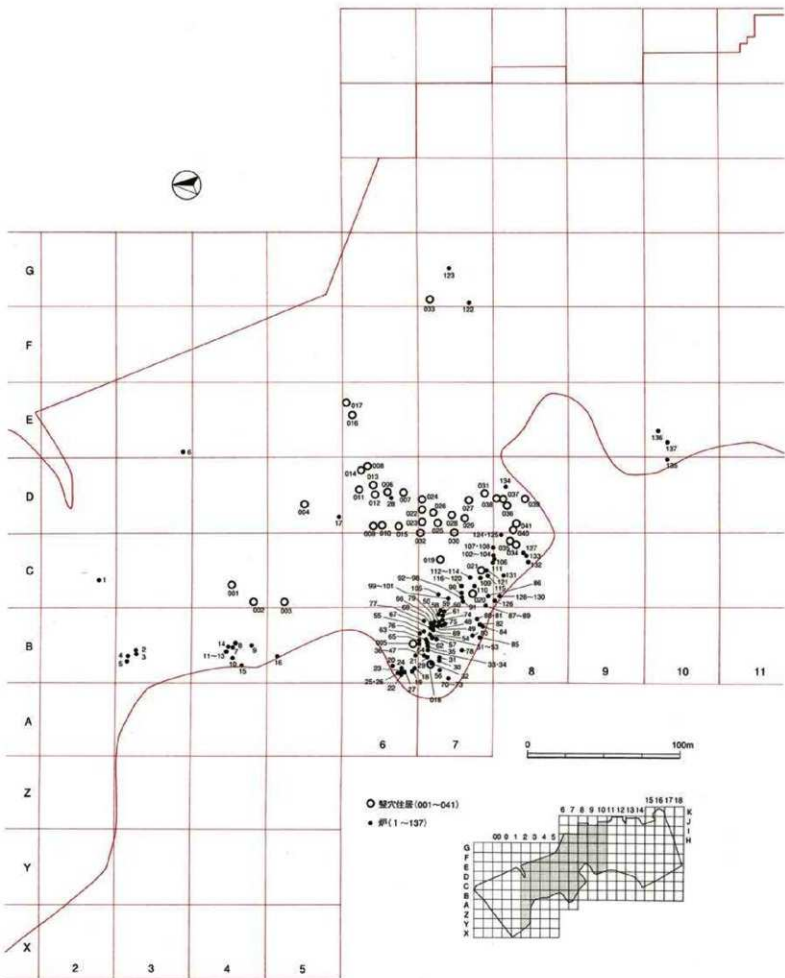
第1図 周辺遺跡分布図



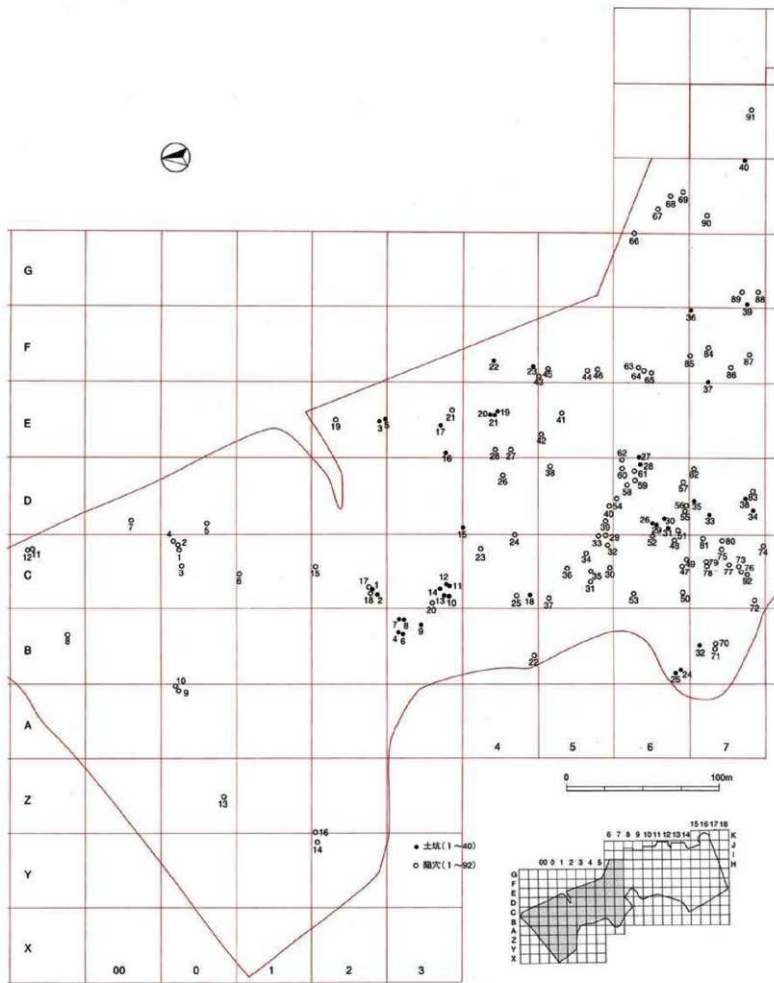
第2図 年度別調査範囲



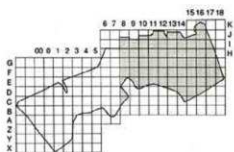
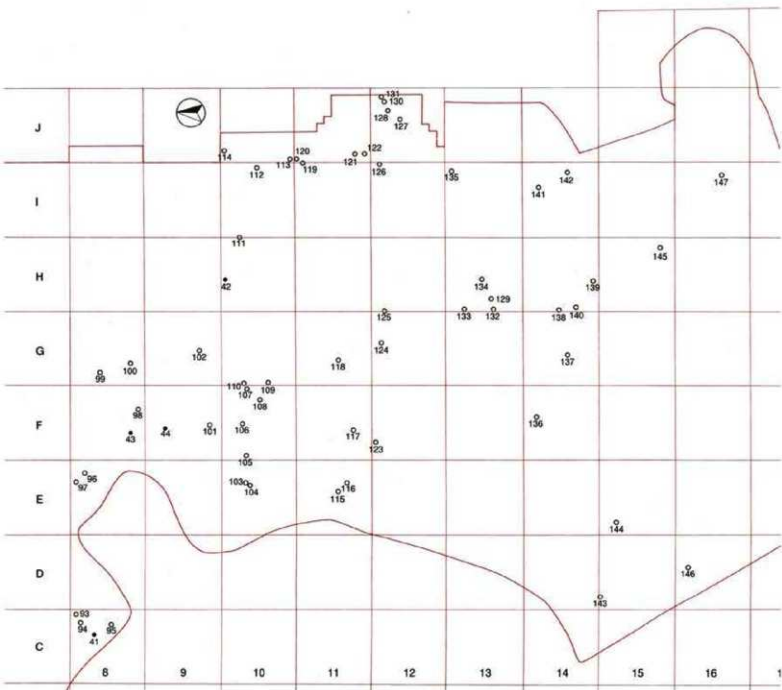
第3図 グリッド設定図



第4図 縄文時代遺構分布図(1)



第5図 縄文時代遺構分布図(2)



第6図 縄文時代遺構分布図(3)

第2章 縄文時代

第1節 遺構

縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡・竪穴状遺構、陥穴、炉穴、土坑を検出した。縄文時代早期を中心とする遺構群であると考えられる。竪穴住居跡・竪穴状遺構・炉穴は遺跡のほぼ中央部の谷に面する台地縁辺部に集中する。陥穴・土坑は全体に分布するが、比較的中央部に多く検出された。

1 竪穴住居跡・竪穴状遺構

今回の調査では形態・検出面・遺物から縄文時代早期と考えられる竪穴状の遺構を41基検出した。調査時に積極的に住居跡と認定したものと竪穴状遺構として立場を保留したものがある。しかし、年度ごとに調査員が変わっており、遺構に対する視点や住居跡と認定する基準が一定でないため、ここでは、まとめて記載していくことにする。平面図・断面図は1/60で統一した。

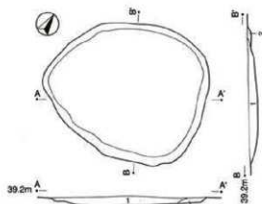
001号竪穴 (4C-イ002) (第7図) 4C-53グリッドに位置する。平面形は、いびつな円形である。規模は、長軸2.6m、短軸2.2m、検出面からの深さ0.13mである。遺物は、覆土中位から少量出土している。ピット・炉は検出することはできなかった。底面はほぼ平らであるが、壁際が若干高く、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土には、炭化物が少量含まれている。

002号竪穴 (4C-イ004) (第7図) 4C-81グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Eに軸を持つ楕円形である。中央部が攪乱により削られている。規模は、長軸5.2m、短軸3.5m、検出面からの深さ0.16mである。ピットを8基検出した。深さはピット1から17cm, 11cm, 11cm, 41cm, 26cm, 19cm, 27cm, 29cmと一定していない。炉を検出することはできなかった。遺物は、北東側に比較的集中して出土した。底面はほぼ平らであり、壁面は緩やかに立ち上がる。

003号竪穴 (5C-イ010) (第7図) 5C-21グリッドに位置する。平面形は、いびつな四角形である。規模は、一辺1.8m、検出面からの深さ0.13mである。ピット及び、炉を検出することはできなかった。遺物は、黒曜石の剥片・破片類が出土している。この遺構の北側に石鏃製作ブロックが検出されているため、関連が考えられる。底面は凹凸が見られ、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色土が主体で、壁際にロームが多く含まれる土が堆積する。

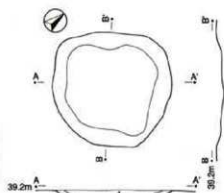
004号竪穴 (5D-イ002) (第8図) 5D-54グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.4m、短軸2.8m、検出面からの深さ0.2mである。ピット及び、炉を検出することはできなかった。遺物は、覆土上層から数点出土している。底面はやや凹凸が見られ、硬化は見られないが覆土との区分は明確である。壁面は明瞭ではなく、緩やかに立ち上がる。覆土は、下層ほどローム粒子が多く含まれる。

005号竪穴 (6B-イ001) (第8図) 6B-95グリッドに位置する。平面形は、N-70°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.8m、短軸2.9m、検出面からの深さ0.18mである。ピットは6基検出されたが、規則的に配列されていない。深さはピット1から16cm, 17cm, 14cm, 15cm, 18cm, 13cm, 12cmである。



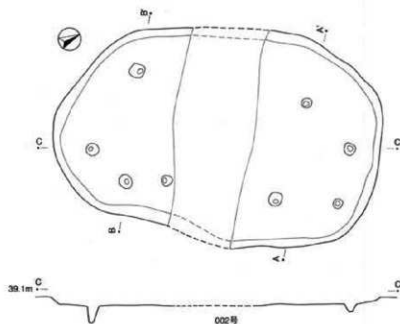
1. 暗褐色土………細粒で炭化粒を少量含む。ややしまりなし。
2. 暗黄褐色土………ソフトローンを多量に含む。しまりあり。

001号

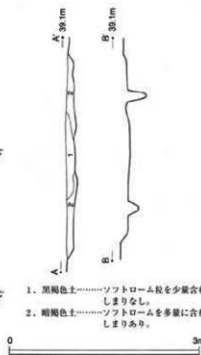


1. 暗褐色土………ソフトローンを少量含む。ややしまりなし。
2. 暗黄褐色土………ソフトローンを多量に含む。しまりあり。

003号

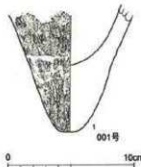


002号



1. 黒褐色土………ソフトローンを少量含む。しまりなし。
2. 暗褐色土………ソフトローンを多量に含む。しまりあり。

0 3m



001号

0 10cm



002号

002号

002号

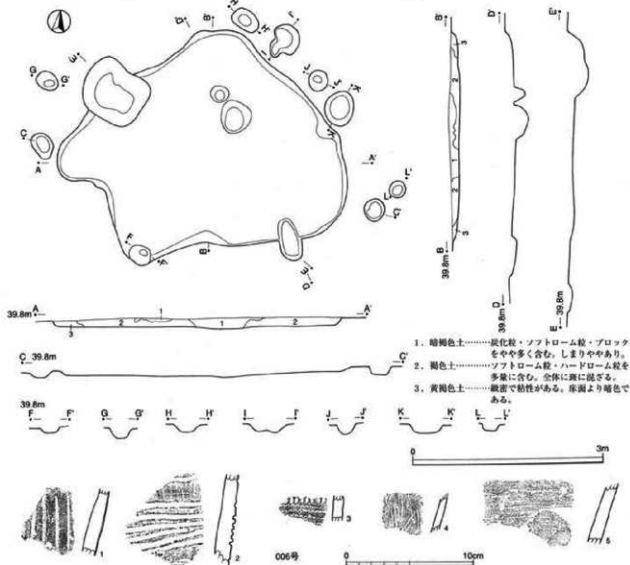
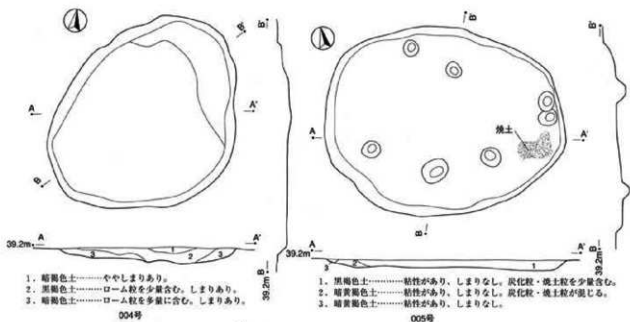


003号

003号

0 5cm

第7図 001・002・003号竪穴



第8図 004・005・006号堅穴

東側で焼土の堆積が見られたが、被熱による床面の硬化は見られない。遺物が14点出土している。底面はほぼ平らで、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は、粘性・しまりがあまりなく、炭化粒子・焼土が少量含まれる。

006号竪穴 (6D-I007) (第8図) 6D-55グリッドに位置する。平面形は、不整形である。規模は、長軸4.6m、短軸3.0m、検出面からの深さ0.16mである。掘り込みはあまりしっかりしたものではないが、外部周辺にピットが巡るように配置される。北西部に土坑状の大きなピットを有する。炬を検出することはできなかった。遺物は、土器片が数点出土した。底面は、ほぼ平らで、壁の立ち上がりははっきりしない。覆土には、炭化粒子が少量含まれる。

007号竪穴 (6D-I010) (第9図) 6D-75グリッドに位置する。平面形は、N-70°-Eに軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸4.2m、短軸2.7m、検出面からの深さ0.16mである。ピットが竪穴中に4基、外部周辺に巡る様に配置されている。炬を検出することはできなかった。遺物は、沈線文系の土器片が出土した。底面は、皿状に中央部がややくぼみ、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

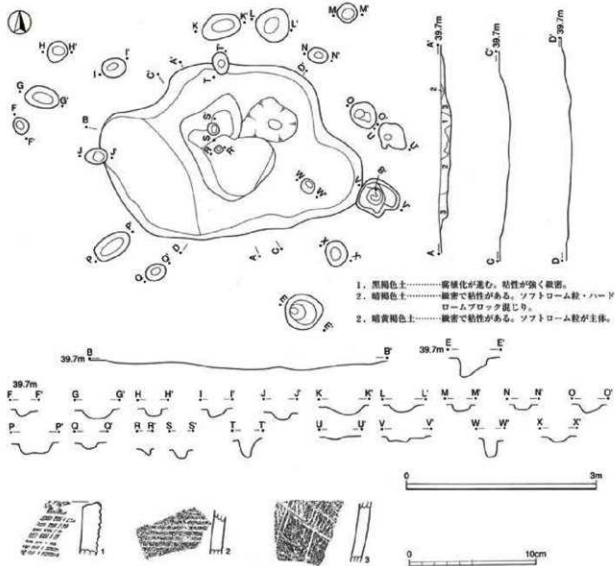
008号竪穴 (6D-I013) (第10図) 6D-38グリッドに位置する。平面形は、N-60°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸4.4m、短軸3.5m、検出面からの深さ0.17mである。ピットが竪穴内中央部と周辺部とに配置されている。炬を検出することはできなかった。遺物は土器片が小片ではあるが、比較的多く出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ローム主体であるが、中央部では、炭化粒子が少量含まれる。

009号竪穴 (6D-I014) (第11図) 6D-50グリッドに位置する。平面形は、ほぼ円形である。規模は、径3.2m、検出面からの深さ0.15mである。026号土坑に切られる。ピットは中心部に1基、周辺に7基、竪穴外部にもいくつかを検出した。炬を検出することができなかった。遺物は、第1層の暗褐色土中を中心に出土した。底面は、やや凹凸を持ち、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

010号竪穴 (6D-I016) (第12図) 6D-60グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に長軸を持つ長方形である。規模は、長軸4.5m、短軸3.5m、検出面からの深さ0.3mである。ピットが長軸方向に2列並んで配置され、しっかりとした掘り込みを有する。炬を検出することができなかった。遺物は、全体から比較的多く土器片が出土した。底面は、ほぼ平らであり、壁面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土は、全体的にローム粒子を多く含み、一部で焼土粒子・炭化粒子を少量含む。

011号竪穴 (6D-I017) (第14図) 6D-25グリッドに位置する。平面形は、N-75°-Eに長軸を持つ長方形である。規模は、長軸2.6m、短軸2.1m、検出面からの深さ0.15mである。058号陥穴に切られる。ピット・炬を検出することはできなかった。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、全体的にロームが多く含まれる。

012号竪穴 (6D-I019) (第13図) 6D-44グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸4.8m、短軸4.3m、検出面からの深さ0.22mである。ピットは、竪穴内中央部で9基が巡るよう検出された。竪穴外部にも、ピットをいくつか検出することができた。北西部に焼土の分布が見られたが、床面から浮いた状態であった。遺物は、沈線文系の土器片が床面直上から出土している。底面は、中心部にくぼみが見られるが、他はほぼ平らで、壁面はやや緩やかに立ち上がる。覆土には、ロームブロックが少量含まれる。

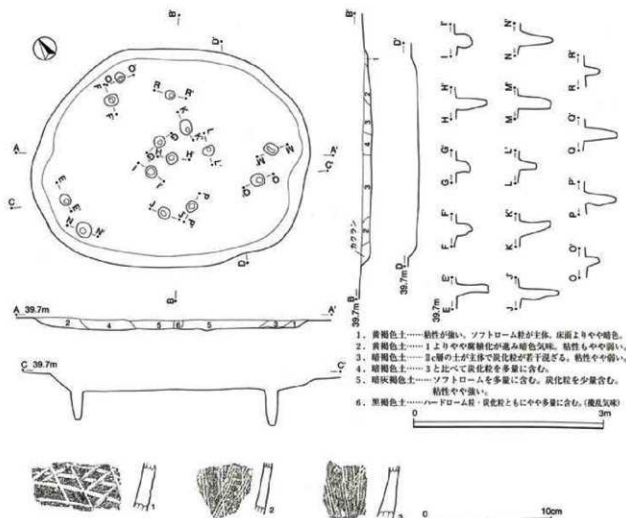


第9図 007号堅穴

013号堅穴 (6Dイ023) (第14図) 6D-46グリッドに位置する。平面形は、N-55°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸2.0m、検出面からの深さ0.27mである。南東側が一段低く、その部分にピットが検出された。炬を検出することはできなかった。遺物は、ピット付近から出土している。底面は、平らではなく、壁面も所によって傾斜が大きく変わって安定していない。覆土は、ロームを主体とする。

014号堅穴 (6Dイ024) (第14図) 6D-38グリッドに位置する。平面形は、南側が攪乱されているが、N-30°-Eに軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、長軸2.2m、短軸1.8m、検出面からの深さ0.36mである。ピット・炬を検出することはできなかった。遺物は、土器片が数点出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色土を主体とし、一部に黒色土が混じる。

015号堅穴 (6Dイ026) (第14図) 6D-71グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Eに長軸を持つ長方形である。北側で、030号土坑に切られている。規模は、長軸4.1m、短軸3.2m、検出面からの深さ0.1m

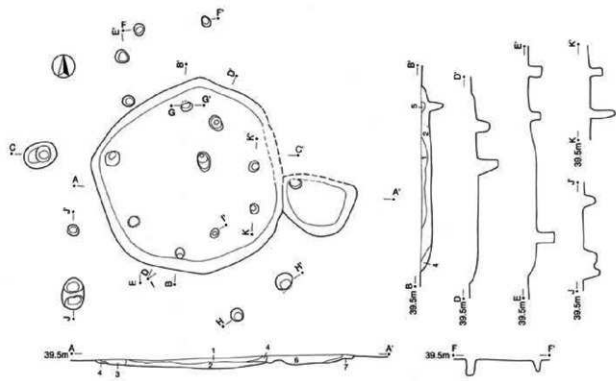


第10図 008号竪穴

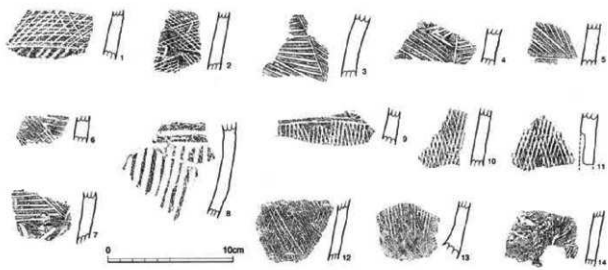
である。ピットが壁際に3基検出された。炉を検出することはできなかった。遺物は、数点土器片が出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色土と黒褐色土を主体とする。

016号竪穴 (6E-イ001) (第15図) 6E-05グリッドに位置する。平面形は、軸をN-80°-Wに持つほぼ円形に近い楕円形である。東側は一部攪乱によって削られている。規模は、長軸3.8m、短軸3.4m、検出面からの深さ0.2mである。ピットは9基検出されているが、規則的に配列されていない。深さは、ピット1から23cm、16cm、21cm、36cm、31cm、31cm、29cm、31cm、25cm、29cmとしっかりした掘り込みを持つ。炉を検出することはできなかった。遺物は攪乱の影響で西側からの出土が目立っている。底面は、ほぼ平らであり、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、壁際に近づくほどロームが多く含まれる。

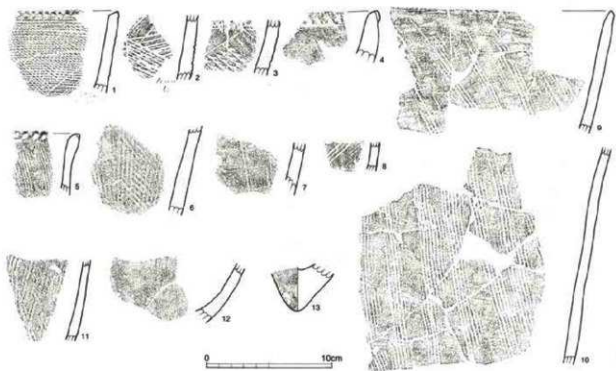
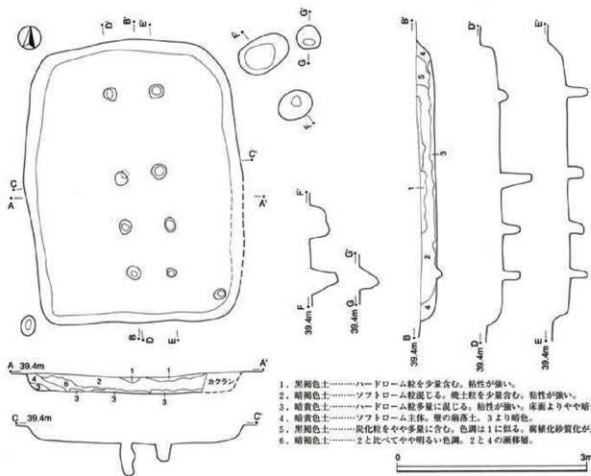
017号竪穴 (6E-イ002) (第15図) 6E-07グリッドに位置する。平面形は、軸をN-75°-Wに持つほぼ円形に近い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸2.5m、検出面からの深さ0.16mである。ピットを8基検出したが、規則的に配列されていない。深さは、ピット1から15cm、16cm、15cm、19cm、18cm、33cm、13cm、43cmである。遺物は出土しなかった。底面は、ほぼ平らで、壁面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土は、全体的にしまり・粘性が弱く、下層ほどローム主体となる。



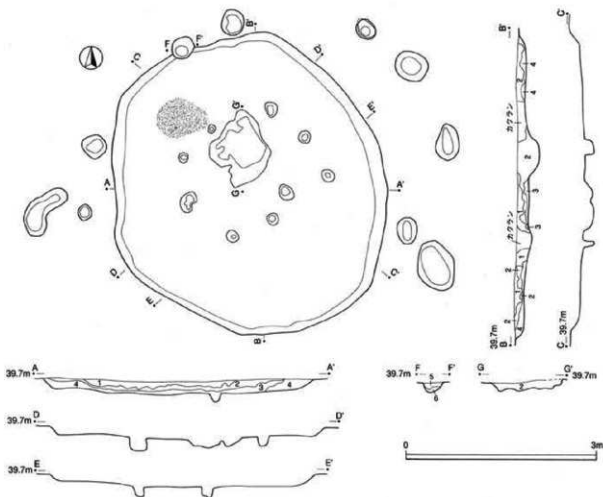
- C 39.5m
1. 暗褐色土………Bc層の土が主体。炭化粒・焼土粒・ローム粒等はみられない。
 2. 黄褐色土………ソフトローム粒が主体でハードロームブロックが若干含まれる。
 3. 暗褐色土………黒味がより2よりハードロームブロックを多量に含む。粘性あり。
 4. 黄褐色土………ソフトロームが主体。粘性あり。床面よりやや色調が暗い。
 5. 暗褐色土………Bc層の土が主体。ハードロームブロックを多量に含む。粘性あり。
 6. 黒褐色土………ハードローム粒・ソフトローム粒・炭化粒を少量含む。粘性やや弱い。
 7. 暗褐色土………Bc層の土が主体。若干のソフトローム粒・炭化粒を含む。
- 0 3m



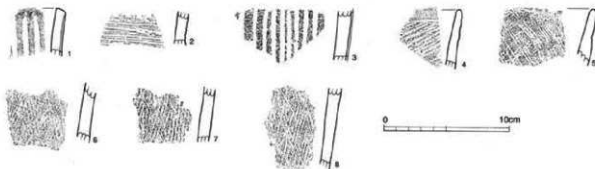
第11図 009号竪穴



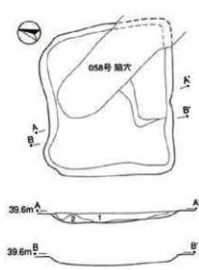
第12図 010号竪穴



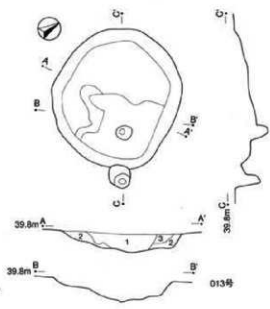
1. 黒褐色土………両々ソフトローム粒・炭化粒を含む。腐植化進行。細粒でやや粘性あり。
2. 暗黄褐色土………ハードロームブロックを若干含む。
3. 暗黄褐色土………ハードロームブロックをやや多量に含む。粘性が強い。
4. 暗褐色土………ハードローム粒を若干含む。床面より暗色。
5. 暗褐色土………ハードローム粒をやや多量に含む。炭化粒も若干含む。粘性がやや強い。
6. 黄褐色土………ソフトローム粒主体。ハードローム粒を若干含む。床面よりやや暗色。



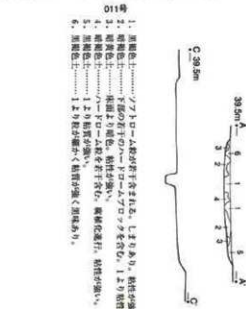
第13図 012号竪穴



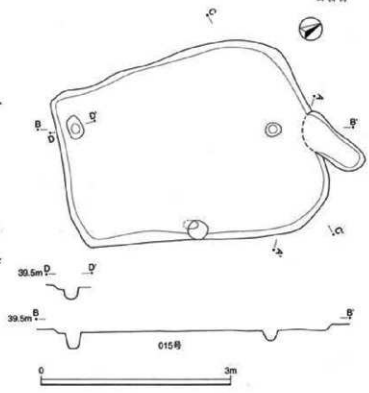
1. 黒褐色土……部分的にソフトローンをシム状に含む。粘性あり。
2. 黄褐色土……ソフトローンに近い色調でやや粘性。



1. 黒褐色土……黒色の土が主体。A-Dローン層が若干含まれる。粘性が強い。
2. 黄褐色土……ソフトローンが主体。1と比べて粘性が強い。断面は1より強い。
3. 黄褐色土……1より黄色味が強い。粘性が強い。



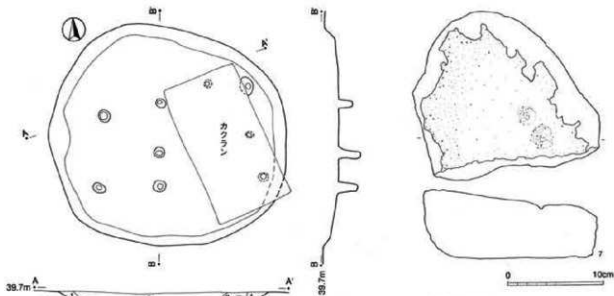
1. 黒褐色土……ソフトローン層が若干含まれる。粘性が強い。黄褐色土。
2. 黄褐色土……黒褐色土に近い色調で粘性が強い。
3. 黄褐色土……黒褐色土に近い色調で粘性が強い。
4. 黄褐色土……黒褐色土に近い色調で粘性が強い。
5. 黄褐色土……黒褐色土に近い色調で粘性が強い。
6. 黄褐色土……1より粘性が強く断面が強く粘性あり。



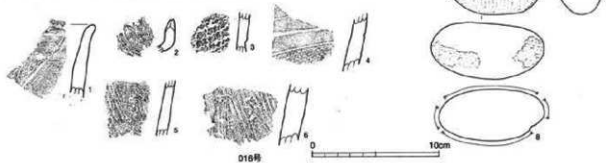
1. 黄褐色土……やや砂っぽい粘土。粒が粗い均一な土層。
2. 黄褐色土……1と比べて色調は近似。粘質は強い。
3. 黄褐色土……1と比べて黒色粘土が混ざり混雑が強い。粘性は乏しい。
4. 黄褐色土……所々のハードローンアロツクが混入。ソフトローンが主体。
5. 黒褐色土……ソフトローンと黒色の土が混ざりあり。黒色土を含む。



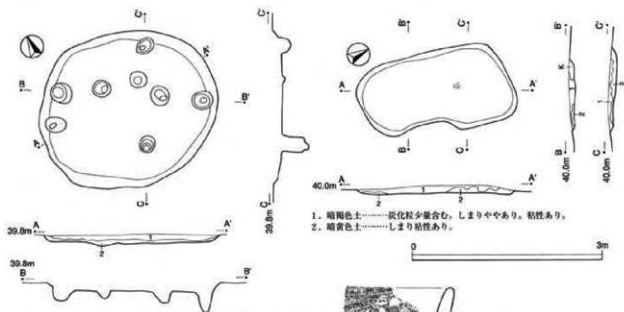
第14図 011・013・014・015号竪穴



1. 黄褐色土……ソフトローム・ハードロームブロックを多量に含む。しまり弱い。
 2. 黄褐色土……しまりややあり。
 3. 暗褐色土……焼土粒・炭化粒を少量含む。しまりがある。



016号



1. 黒褐色土……ソフトローム粒を多量に含む。黒色土主体。しまり粘性とも弱い。
 2. 暗褐色土……ソフトローム主体。しまり粘性とも弱い。

017号

018号

第15図 016・017・018号堅穴

018号竪穴 (7B イ003) (第15図) 7B-32グリッドに位置する。平面形は、軸をN-25°-Eに持つ楕円形である。規模は、長軸2.5m, 短軸1.1m, 検出面からの深さ0.12mである。遺物が比較的多く出土した。中心よりやや北側で焼土の分布が見られる。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、粘性のある暗褐色土である。

019号竪穴 (7C イ016) (第16図) 7C-26グリッドに位置する。平面形は、N-85°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.9m, 短軸2.7m, 検出面からの深さ0.26mである。ピットは、壁際を中心に12基検出したが、深さはいずれも10cm~15cmと掘り込みはしっかりしていない。炬を検出することはできなかった。遺物は、土器片が9点出土したのみである。底面は、ほぼ平らで、壁面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土には、全体的にロームがまだらに含まれ、第1層には、炭化粒子が少量含まれる。

020号竪穴 (7C イ017) (第17図) 7C-62グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ長方形である。規模は、長辺3.2m, 短辺2.9m, 検出面からの深さ0.2mである。壁際に沿ってピットを17基検出した。深さは、20cm~30cmでしっかり掘り込みを持つ。炬を検出することはできなかった。遺物は、中心部分で多く出土し、殆どが黒浜式の土器片である。底面は、やや波打ち、壁面は、比較的急に立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とし、まだらにロームが含まれる。

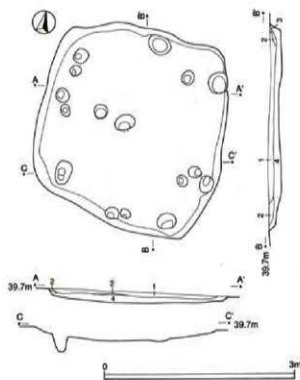
021号竪穴 (7C イ026) (第16図) 7C-85グリッドに位置する。平面形は、攪乱が多いが楕円形と考えられる。中央部で072号陥穴と切り合っており、断面図から判断するとこちらが新しい。規模は、残存部で2.9m, 検出面からの深さ0.1mである。ピットは、攪乱を受けていない部分の壁寄りから4基検出された。深さは、20cm~30cmである。炬を検出することはできなかった。遺物は、中央部分で、尖底部が出土している。底面は、ほぼ平らであり、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黒褐色土で、焼土粒子・炭化粒子が微量含まれる。

022号竪穴 (7D イ001) (第18図) 7D-03グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Eに軸を持つ楕円形で、南東部に1.5mの張り出し部を持つ。規模は、長軸2.6m, 短軸1.9m, 検出面からの深さ0.11mである。中心やや南に深さ20cmのピットが検出された。焼土が多く分布するが、床面から浮いた状態であった。遺物は、覆土中から土器片が7点出土した。底面は、ピット以外はほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、上層で焼土粒子、下層でローム粒子が多く含まれる。

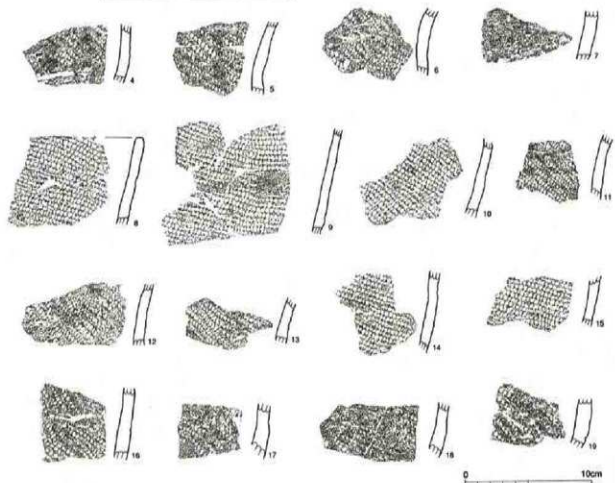
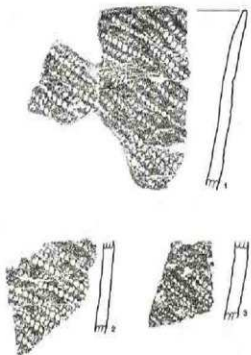
023号竪穴 (7D イ002) (第18図) 7D-01グリッドに位置する。平面形は、不整形である。規模は、最も長い部分で3.1m, 短い部分で2.7m, 検出面からの深さ0.16mである。竪穴内で7基、外部に1基、ピットが検出された。炬を検出することはできなかった。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、上層でローム粒子、下層でローム粒子が含まれる。

024号竪穴 (7D イ003) (第19図) 7D-04グリッドに位置する。平面形は、N-60°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.5m, 短軸3.1m, 検出面からの深さ0.17mである。ピットが5基検出され、全体的に東寄りに配置される。ピットの深さは、15cm前後である。炬を検出することはできなかった。遺物は、覆土中から12点沈線文系の土器片が出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色土と暗黄褐色土の2層に大きく分けることが可能である。

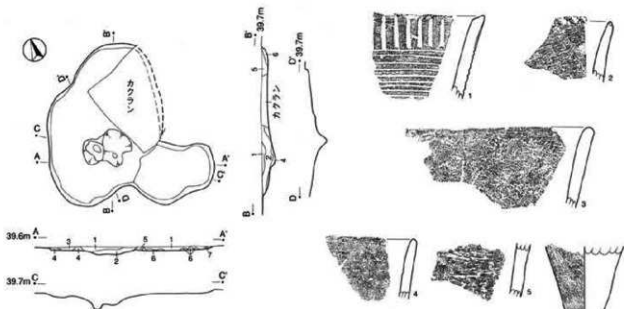
025号竪穴 (7D イ006) (第19図) 7D-20グリッドに位置する。平面形は、いびつな円形である。規模は、径2.8m, 検出面からの深さ0.17mである。ピットが竪穴内に2基、外部に1基検出された。深さは、それぞれ30cmあり、しっかりした掘り込みである。炬を検出することはできなかった。遺物は、中心部付



1. 暗褐色土……腐植が進行、ソフトローンを若干含む。ややしまりあり。縦筋は強い。
 2. 黒褐色土……ソフトローンを少し含む。ややしまりあり。縦筋は強い。
 3. 黒色土……しまりあり。縦筋が強い。
 4. 灰褐色土……ソフトローンを数層に少し含む。まきソフトローンを含む。

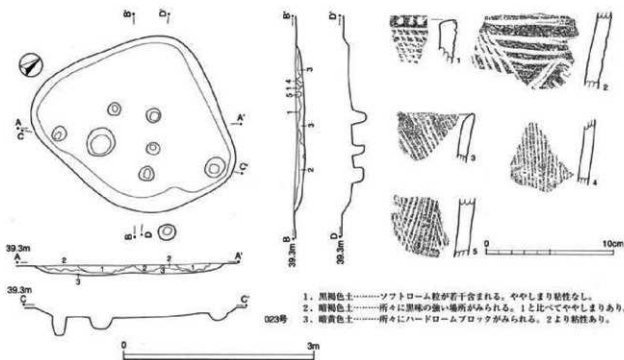


第17図 020号堅穴



1. 黒褐色土……粘土粒多量に含む。炭化粒・ハードローム粒を少量含む。粘質が強い。
2. 黒褐色土……粘土粒少量含む。ハードローム粒を多量に含む。1と粘性は同じ。
3. 暗黄色土……ハードローム粒を少量含む。粘性が2よりは弱い。
4. 暗黄色土……3より黄色味が強く粘性が強い。
5. 暗黄色土……ハードローム粒を多量に含む。粘性が強い。
6. 暗黄色土……3と似た色調。4と比べて粘質が強い。
7. 暗黄色土……4と似た色調。粘質が強い。

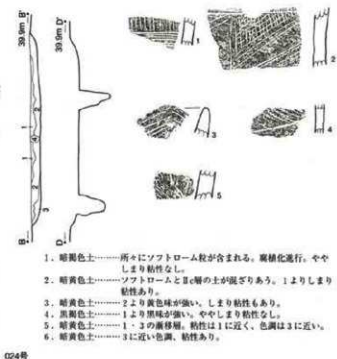
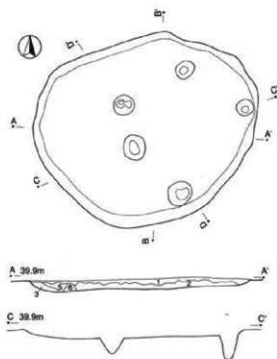
022号



1. 黒褐色土……ソフトローム粒が若干含まれる。ややしまり粘性なし。
2. 暗褐色土……所々に黒味の強い場所がみられる。1と比べてややしまりあり。
3. 暗黄色土……所々にハードロームブロックがみられる。2より粘性あり。

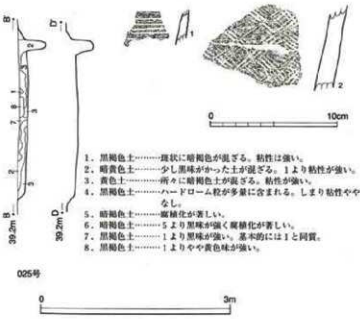
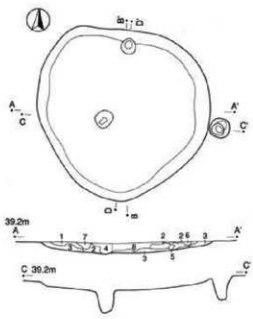
023号

第18図 022・023号竪穴



1. 暗褐色土……所々にソフトローム粒が含まれる。腐植化進行、ややしまり粘性なし。
2. 暗黄色土……ソフトロームと3c層の土が混ざりあう。1よりしまり粘性あり。
3. 暗黄色土……2より黄色味が強い。しまり粘性もあり。
4. 黒褐色土……1より黒味が強い。ややしまり粘性なし。
5. 暗黄色土……1・3の腐植層。粘性は1に近く、色調は3に近い。
6. 暗黄色土……3に近い色調。粘性あり。

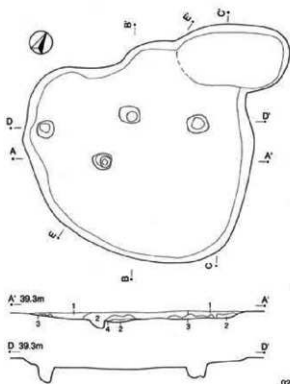
024号



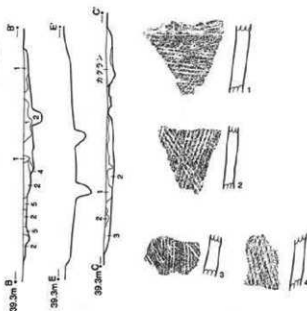
1. 黒褐色土……塊状に暗褐色が混ざる。粘性は強い。
2. 暗黄色土……少し黒味がかった土が混ざる。1より粘性が強い。
3. 黄色土……所々に暗褐色土が混ざる。粘性が強い。
4. 黒褐色土……ハードローム粒が多量に含まれる。しまり粘性ややなし。
5. 暗褐色土……腐植化が著しい。
6. 暗褐色土……5より黒味が強く腐植化が著しい。
7. 黒褐色土……1より黒味が強い。基本的には1と同質。
8. 黒褐色土……1よりやや黄色味が強い。

025号

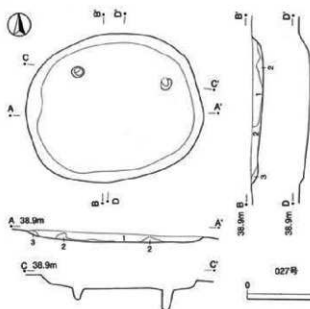
第19図 024・025号堅穴



026号



1. 黒褐色土……両々にソフトロームブロックが混ざる。あまり粘性なし。
2. 暗褐色土……ソフトローム粒混じり。やや粘性あり。
3. 暗黄色土……両々の暗褐色ブロック混じり。粘性あり。
4. 暗褐色土……2よりやや粘土質化が進行。
5. 黒褐色土……3とはほぼ同質の土層。



027号



0 10cm

1. 暗褐色土……ソフトローム粒多量含む。ハードロームブロック少量含む。粘性しまりあり。
2. 暗黄色土……ソフトローム粒少量含む。1より粘性が強い。床面よりやや暗い。
3. 暗黄色土……2より粘性しまりあり。床面より暗い。

第20図 026・027号竪穴

検出することはできなかった。遺物は、土器片が数点出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が少量含まれる。

028号竪穴 (7D-イ011) (第21図) 7D-42グリッドに位置する。平面形は、いびつな円形である。規模は、最も長い部分で2.7m、短い部分で2.5m、検出面からの深さ0.16mである。ピットを北側で2基検出した。炉を検出することはできなかった。遺物は、南側を中心に土器片が数点出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色土と暗黄色土を主体とする。

029号竪穴 (7D-イ012) (第21図) 7D-52グリッドに位置する。平面形は、東西に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸4.1m、短軸3.3m、検出面からの深さ0.23mである。ピットを7基検出したが、規則的な配置ではない。炉を検出することはできなかった。遺物は、全体からまばらに土器片が出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、上層で焼土粒子が多く含まれる。

030号竪穴 (7D-イ013) (第22図) 7D-40グリッドに位置する。平面形は、一部の調査であるため不明である。規模は、1.1m以上、検出面からの深さ0.1mである。浅いピットがあり、平面図上では、焼土範囲と重なるが、焼土は、床面から浮いて堆積している。底面は、ほぼ平らであり、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、上層で焼土・炭化粒子が含まれる。

031号竪穴 (7D-イ015) (第22図) 7D-85グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸2.7m、検出面からの深さ0.2mである。ピット・炉を検出することはできなかった。遺物は、東側を中心に土器が数点出土している。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

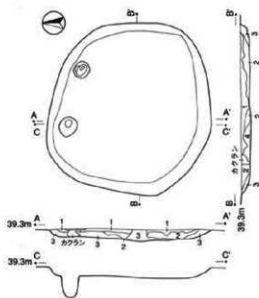
032号竪穴 (7D-イ016) (第22図) 7D-00グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Wに軸を持つやや角張る楕円形である。規模は、長軸4.3m、短軸3.2m、検出面からの深さ0.1mである。ピットは4基で、しっかりと掘り込みを持つが、規則的な配置ではない。炉を検出することはできなかった。遺物は、比較的多く出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

033号竪穴 (7G-イ003) (第23図) 7G-11グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Wに軸を持つ長方形である。規模は、長辺2.8m、短辺2.6m、検出面からの深さ0.2mである。ピットは、壁面沿いと中心に配置される。ピットの深さは、壁面沿いのものが20cm前後、中心部のものが30cm前後である。炉を検出することはできなかった。遺物は、東側から数点土器片が出土している。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、下層ほどしまりが強まる。

034号竪穴 (8C-イ003) (第23図) 8C-28グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸2.6m、検出面からの深さ0.2mである。壁面に沿って深さ15~20cmのピットが配置される。炉を検出することはできなかった。遺物は、全体から比較的多くの土器片が出土している。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とする。

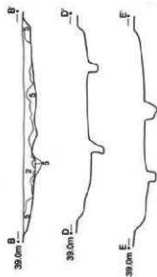
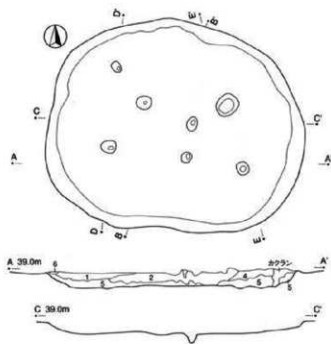
035号竪穴 (8C-イ005) (第24図) 8C-28グリッドに位置する。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.3m、短軸2.7m、検出面からの深さ0.2mである。ピットを7基検出した。ピットの深さは15cm前後である。炉を検出することはできなかった。遺物は、比較的多くの土器片が出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とする。

036号竪穴 (8D-イ001) (第25図) 8D-13グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.6m、短軸3.3m、検出面からの深さ0.2mである。ピットが壁際に沿って配列され



1. 暗褐色土………黒色粘質土が塊状にみられる。粘性やや弱い。
2. 暗黄色土………1より黒色粘質土が少量含む。黄色味が強い。粘性も強い。
3. 暗黄色土………床面より暗色。2より黄色味が強い。
4. 暗黄色土………2より黒色粘質土が多量に含まれる。粘質はほぼ同じ。

028号



1. 暗褐色土………土層の土が主体。ハードローム粒・凝土粒を若干含む。しまりなし。
2. 暗褐色土………1に比べて凝土粒を多量。粘土をかなり含む。しまりなし。
3. 暗褐色土………2に比べて凝土が減少。凝土化が進行。あまりしまりなし。
4. 暗褐色土………ハードローム粒を多量に含む。ややしまりなし。
5. 暗黄色土………ハードロームアロックを含む。しまりあり。粘性は強い。
6. 暗黄色土………ハードロームアロックが浮いたものが主体。粘性は強い。

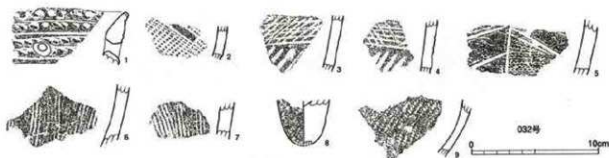
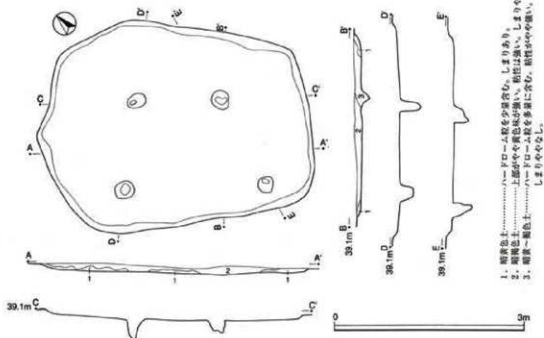
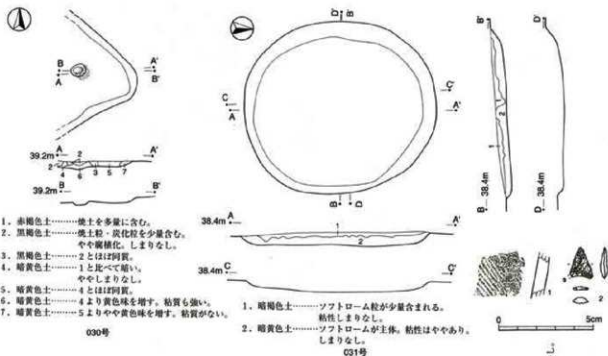
0 3m



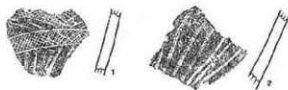
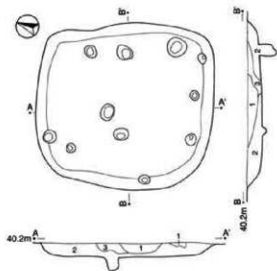
029号

0 10cm

第21図 028・029号竪穴

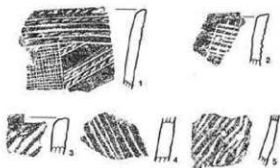
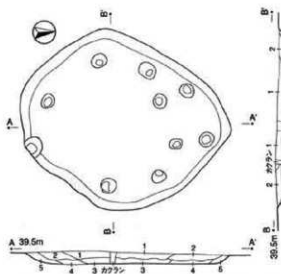


第22図 030・031・032号堅穴

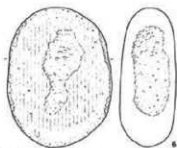


1. 黒褐色土……しまりがなくゴソボン。腐植化が進行した土。
2. 暗黄色土……粘性しまりあり。
3. 暗黄色土……1と2の移行層。しまりはあまりない。

033号



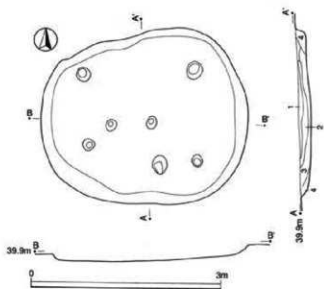
1. 黒褐色土……ソフトローンをシミ状に僅かに含む。粘性はやや強くしまりはない。
2. 黒褐色土……1より明るい。ソフトローンをシミ状に僅かに含む。
3. 黒褐色土……1より明るい。2より暗い。ソフトローンをシミ状に僅かに含む。
4. 黒褐色土……3より明るい。粘性しまりがなく床面との識別は容易である。
5. 黒褐色土……2より暗い。量よりはるかに暗い。粘性しまりあり。



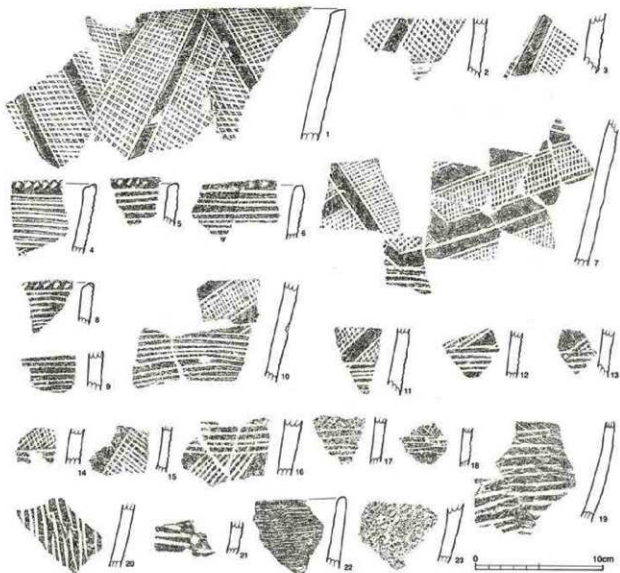
034号



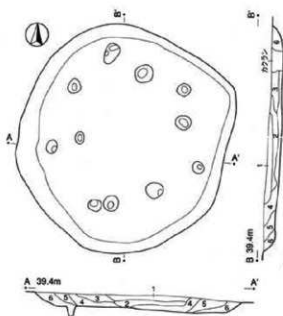
第23図 033・034号竪穴



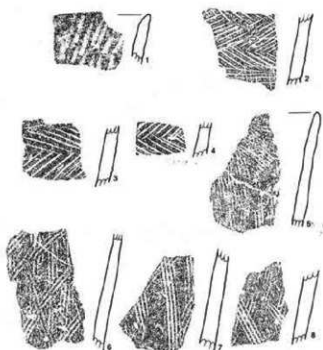
1. 黒褐色土………Ⅱc層・ソフトローム粒を若干混入。粘性しまりややなし。
2. 黒褐色土………1 - 3より黒くぼくソフトローム粒を若干混入。粘性しまりややなし。
3. 黒褐色土………1 - 2より黄色味をおびソフトローム粒を多量に混入。
4. 黒褐色土………3より明るい。Ⅱc層とソフトローム粒が混ざりあう。密ではない。



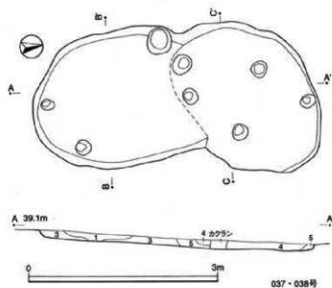
第24図 035号竖穴



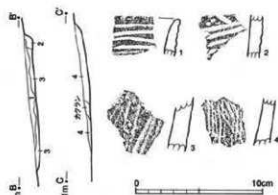
1. 黒褐色土……黄色味がある。ソフトローム殻を少量含む。しまり粘性あまりなし。
2. 黒褐色土……ソフトローム殻を殆ど含まない。1よりしまりあり。
3. 黒褐色土……2より暗褐色。ソフトローム殻を少量含む。
4. 暗褐色土……2より明るい。ソフトローム殻を多量に含む。粘性はない。
5. 暗褐色土……4よりソフトローム殻を多く含む。粘性しまりはややある。
6. 暗褐色土……ソフトローム殻が主体でややゴツゴツ。



036号



037・038号



1. 暗褐色土……少しクサクサした土。しまり粘性あまりなし。
2. 黒褐色土……粘性は強いがあまりしまりなし。
3. 黒褐色土……2より黄色味がある。しまりがない。
4. 黒褐色土……粘性が強い。
5. 黒褐色土……部分的に黒色土が混ざる。

第25図 036・037・038号堅穴

る。ほとんどが深さ15cm～20cmである。炉を検出することはできなかった。遺物は、沈線文系の土器片を中心に出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、上層が黒褐色土、下層が暗黄褐色土で、ロームが多く含まれている。

037号竪穴 (8D イ002) (第25図) 8D-04グリッドに位置する。038号竪穴と切り合っており、断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、推定長軸3.0m、短軸2.1m、検出面からの深さ0.1mである。竪穴内でピットを5基検出したが、内2基は、038号と重複した部分にあり、帰属は不明である。炉を検出することはできなかった。遺物は、土器片が数点出土した。底面は、北東側に傾斜しており、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、038号竪穴に比べ、しまりが弱い。

038号竪穴 (8D イ003) (第25図) 8D-04グリッドに位置する。037号竪穴と切り合っており、断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-50°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸2.1m、検出面からの深さ0.1mである。ピットは、竪穴内で5基検出したが、内2基は037号と重複した部分にあり、帰属は不明である。炉を検出することはできなかった。遺物は、北側で2点土器片が出土した。底面は、北東側に傾斜しており、北東壁は、はっきりと立ち上がりを確認することができない。覆土は、黒褐色土を主体とし、037号竪穴の覆土とは、しまりの差で識別が可能であった。

039号竪穴 (8D イ005) (第26図) 8D-44グリッドに位置する。平面形は、軸をN-30°-Eに持つ楕円形である。規模は、長軸3.2m、短軸2.8m、検出面からの深さ0.3mである。ピットが壁面に沿って6基検出された。床面からの深さはP1から16cm、17cm、18cm、30cm、11cm、10cmと一定していない。炉を検出することはできなかった。遺物は壁面近くから出土している。底面は、ほぼ平らで、壁面は、やや急に立ち上がる。覆土は、粘性のない暗黄褐色土である。

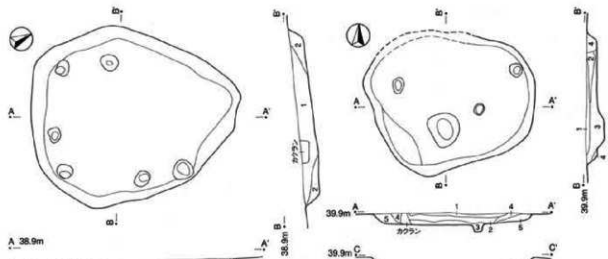
040号竪穴 (8D イ006) (第26図) 8D-21グリッドに位置する。平面形は、軸をN-25°-Eに持つ楕円形である。規模は、長軸3.2m、短軸3.0m、検出面からの深さ0.22mである。ピットが6基検出され、P1～P5は壁に沿ってバランスよく配置されていることから柱穴と考えられる。ピットの深さはP1から20cm、15cm、20cm、10cm、15cm、16cmである。炉を検出することはできなかった。遺物は覆土中より石鉄が1点出土している。底面は、やや凹凸が見られ、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、しまり・粘性が強い。

041号竪穴 (8D イ007) (第26図) 8D-30グリッドに位置する。平面形は、軸をほぼ東西に持つ楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸2.2m、検出面からの深さ0.2mである。ピットが4基検出されたが、規則的に配置されていない。ピットの深さは、10cm～15cmとあまりしっかりしたものではない。遺物が比較的多く出土した。底面は、ほぼ平らで、壁面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

2 陥穴

形態・規模・検出面から、縄文時代の陥穴と考えられる土坑を147基検出した。陥穴という性格上、遺構に確実に伴う遺物が殆ど出土しなかった。いくつかの遺構で土器片が出土したがその殆どが小破片であり、覆土上層からの出土であるため遺構の時期を特定することはできなかった。平面図・断面図は1/80で統一した。

001号陥穴 (001A) (第27図) 5G-28グリッドに位置し、002号陥穴と切り合っている。断面図によりこ

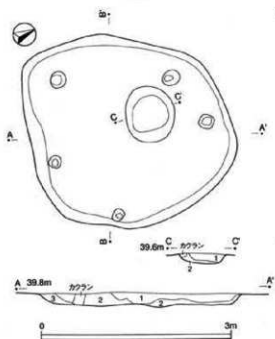


1. 暗黄褐色土……サクサクした土。粘性しまりなし。
ソフトロームより若干暗色化。
2. 暗黄褐色土……1より僅かに黒く灰褐色とでもいうべき土層。

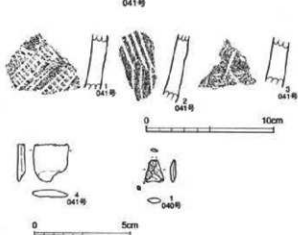
039号

1. 暗赤褐色土……やや赤っぽくまばら層を主体としている。粘性しまりともなし。
2. 黒褐色土……1より黒くまばら層を主体としている。粘性しまりややあり。
3. 暗黄褐色土……ソフトロームに近い色調で粘性が強くやしまりあり。
4. 黒褐色土……2より明るくより細かい。粘性は強く、しまりはあまりなし。
5. 暗黄褐色土……3とはほぼ同じ。

041号



040号



1. 黒褐色土……粘性が強い。2との境はシミ状になる。
2. 黒褐色土……1より黄色味が強い。ハードローム粒を若干含む。
3. 黒褐色土……2よりさらに黄色味が強い。ハードロームブロックを含む。

第26図 039・040・041号竪穴

ちらが新しい。平面形は、南北に軸を持つ長方形である。規模は、長辺1.9m、短辺0.9m、検出面からの深さ0.7mである。底面に2つのピットを持つ。ピットの規模は、北側から、径28cm、深さ41cm、径19cm、深さ44cmである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

002号陥穴 (001B) (第27図) 5G-28グリッドに位置し、001号陥穴と切り合っている。断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-36°-Eに軸を持つ長方形である。規模は、長辺は現存で1.6m、短辺0.9m、検出面からの深さ0.7mである。底面は、平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。

003号陥穴(002)(第27図) 5G-26グリッドに位置する。平面形は、N-42°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層でローム粒子、下層でロームブロックが目立ち、最下層にはしまりのない黒色土が堆積する。

004号陥穴(003)(第27図) 5G-19グリッドに位置する。南側は攪乱によって削られている。平面形は、N-46°-Eに軸を持つ長方形である。規模は、長辺1.9m、短辺0.8m、検出面からの深さ0.7mである。底面は、やや凹凸が見られる。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層で、ローム粒子、下層にはロームブロックが目立ち、最下層にはしまりのない黒褐色土が堆積する。

005号陥穴(004)(第27図) 5H-41グリッドに位置する。平面形は、N-36°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸1.1m、検出面からの深さ2.3mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方で緩やかなオーバーハングが見られる。覆土には、上層でローム粒子、中層でロームブロックの混入が見られ、下層では粘性を帯びた土が堆積する。

006号陥穴(005)(第27図) 6G-04グリッドに位置する。平面形は、N-66°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸1.9m、検出面からの深さ2.1mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、上層でローム粒子、中層でロームブロックの混入が見られ、下層では粘性を帯びた土が堆積する。

007号陥穴(006)(第27図) 4H-52グリッドに位置する。平面形は、N-8°-Eに軸を持つ円形に近い楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、平らであり、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸両端部の中位で緩やかなオーバーハングが見られる。覆土には、上層ではローム粒子・ロームブロックが含まれ、下層では粘土の混入が見られる。

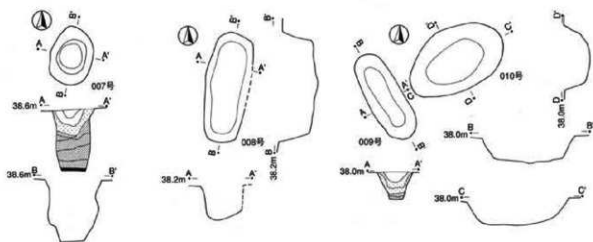
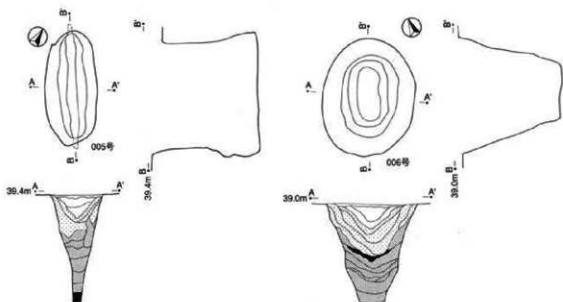
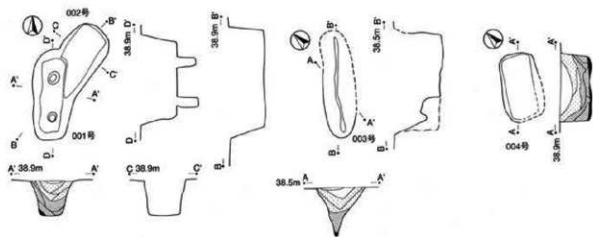
008号陥穴(007)(第27図) 3F-77グリッドに位置する。平面形は、N-15°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸1.9m、検出面からの深さ0.7mである。底面は、凹凸があり、側面は、垂直に立ち上がる。

009号陥穴(008A)(第27図) 5F-09グリッドに位置する。平面形は、N-32°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.6mである。底面は、凹凸が見られ、側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には全体的にローム粒子が含まれ、最下層には粘土が含まれる。

010号陥穴(008B)(第27図) 5F-09グリッドに位置する。平面形は、N-22°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸1.4m、検出面からの深さ0.5mである。底面は、やや丸みを持ち、皿状を呈する。

011号陥穴(009A)(第28図) 3G-28グリッドに位置する。012号陥穴と切り合うが、断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-48°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸1.1m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らで、中心部が若干高い。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

012号陥穴(009B)(第28図) 3G-28グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ円形に近い楕円形と考えられる。規模は、長軸推定1.8m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.1mである。011号陥穴によって壊されている。底面はほぼ平らで、側面は、やや急に立ち上がる。覆土は、下層に粘土が含まれる。



0 2m

第27图 陷穴(1)

013号陥穴(010)(第28図) 5D-75グリッドに位置する。平面形は、N-12°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.3m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方で緩やかなオーバーハングが見られる。覆土には、上層でローム、下層で粘土が主体的に含まれる。

014号陥穴(011)(第28図) 6C-99グリッドに位置する。平面形は、N-67°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.1m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.6mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方でオーバーハングが見られる。覆土には、上層でローム、下層では粘土が多く含まれ、最下層では黒色土が堆積する。

015号陥穴(012)(第28図) 7G-06グリッドに位置する。平面形は、N-8°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸両端部の下方で緩やかなオーバーハングが見られる。覆土は、下層ほどしまりが弱く、最下層には黒色土の堆積が見られる。

016号陥穴(013)(第28図) 6D-90グリッドに位置する。平面形は、N-43°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.3m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、ロームブロックが全体的に含まれ、最下層ではしまりのない黒色土が堆積する。

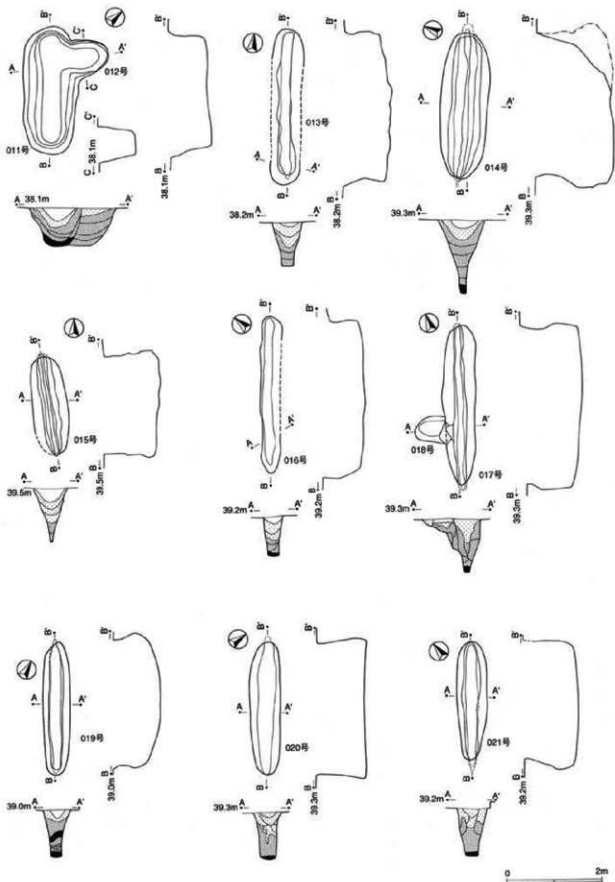
017号陥穴(2C-イ004A)(第28図) 2C-72グリッドに位置する。018号陥穴と切り合っているが断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-16°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.4m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

018号陥穴(2C-イ004B)(第28図) 2C-72グリッドに位置する。017号陥穴と切り合っているが断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、不明である。規模は、いずれも現存で長軸0.7m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.6mである。土器が1点出土した。覆土は、ローム粒が含まれる暗褐色土を主体とする。

019号陥穴(2E-イ003)(第28図) 2E-35グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、中心に向かってなだらかに傾斜している。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の中位から下方にかけてオーバーハングが見られる。覆土は、上層でローム土を主体とし、下層で黒褐色土を主体としている。

020号陥穴(3C-イ007)(第28図) 3C-30グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸端部で緩くオーバーハングする。覆土は、ローム土を主体とし、最下層に黒褐色土の堆積が見られる。

021号陥穴(3E-イ005)(第28図) 3E-86グリッドに位置する。下層確認調査中に検出されたため、北東側長軸端部の上場は推定である。平面形は、N-36°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、平らで、側面は、やや開きながら立ち上がる。南東長軸端部下方でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とし、最下層に黒褐色土の薄



第28图 陷穴(2)

い堆積が見られる。

022号陥穴 (4B-イ011) (第29図) 4B-94グリッドに位置する。平面形は、N-66°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.4mである。遺構確認レベルが低かったため現存深さは浅いが、本来は他の陥穴と同規模と考えられる。底面は、ほぼ平らである。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層でローム土を主体とし、下層で黒色土を主体としている。

023号陥穴 (4C-イ001 [S56]) (第29図) 4C-27グリッドに位置する。平面形は、N-51°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.1m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.6mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開きながら立ち上がる。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。南東長軸端部の下方でオーバーハングが見られる。覆土には、ロームが主体的に含まれ、ロームブロックが目立つ。

024号陥穴 (4C-イ001 [S57]) (第29図) 4C-69グリッドに位置する。平面形は、N-22°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸1.5m、検出面からの深さ1.3mである。他の陥穴に比べ短軸が広く、礫を中心とする遺物も多く出土している。底面は、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、上層でしまりのある暗褐色土、下層でロームを主体とするしまりのない土が堆積する。

025号陥穴 (4C-イ003) (第29図) 4C-72グリッドに位置する。平面形は、N-51°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。遺物が出土しているが、第1層からの出土である。底面は、ほぼ平らであるが、中央部にわずかに高まりが見られる。側面は、開きながら立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

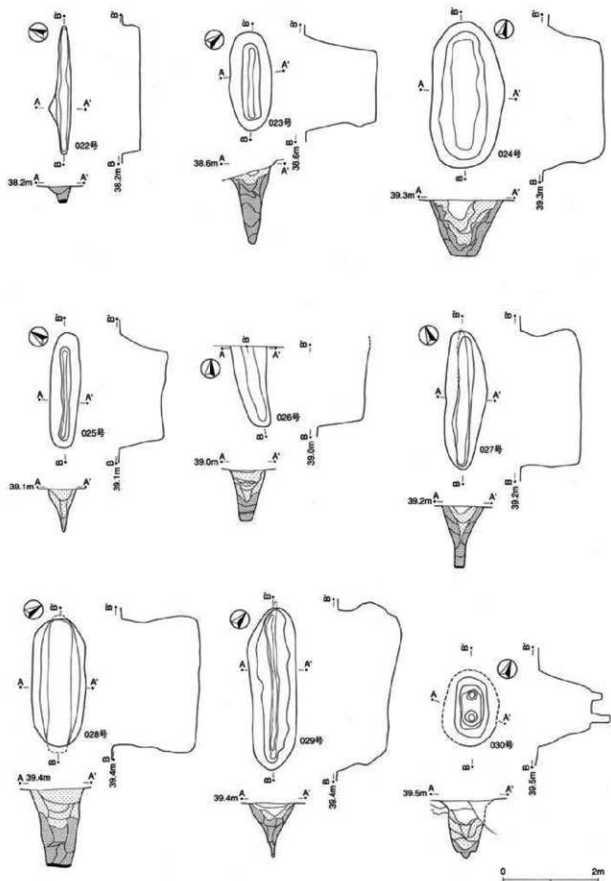
026号陥穴 (4D-イ001) (第29図) 4D-57グリッドに位置する。下層確認調査後に検出されたため、遺構の北半分が削平されている。平面形は、N-14°-Wに軸を持つ細長い楕円形と考えられる。規模は、現存で長軸1.7m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、残存している部分については、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、上層でわずかに黒色土が含まれるが、ロームを主体とする。

027号陥穴 (4E-イ007) (第29図) 4E-60グリッドに位置する。平面形は、N-18°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.9m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。北側長軸端部で緩くオーバーハングが見られる。覆土は、ロームが主体的で、最下層に黒色土の堆積が見られる。

028号陥穴 (4E-イ008) (第29図) 4E-41グリッドに位置する。平面形は、N-37°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸1.2m、検出面からの深さ1.7mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸両端部で緩くオーバーハングが見られる。覆土は、上層で黒色土、中から下層にかけて、ロームが多く含まれる。

029号陥穴 (5C-イ001) (第29図) 5C-89グリッドに位置する。平面形は、N-38°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.4m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、北西側がやや深く傾斜する。側面は、上部で大きく開きながら立ち上がる。覆土は、上層が黒褐色土、下層がロームを主体とする暗褐色土であり、全体的にしまりが弱い。

030号陥穴 (5C-イ002) (第29図) 5C-94グリッドに位置する。平面形は、N-19°-Wに軸を持つ楕円形



第29图 陷穴(3)

である。規模は、長軸1.6m、短軸1.1m、検出面からの深さ1.1mである。底面には2つのピットを有し、規模は、それぞれ北から径19cm、深さ19cm、径26cm、深さ40cmである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とするが、下層にはローム粒子が多く含まれている。

031号陥穴 (5C-イ003) (第30図) 5C-83グリッドに位置する。平面形は、N-12°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.8m 検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部はオーバーハングが見られる。覆土は、上層がしまりが強く、下層ほどしまりが弱い。

032号陥穴 (5C-イ004) (第30図) 5C-98グリッドに位置する。平面形は、N-7°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸1.2m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らであるが、中央部にわずかに高まりが見られる。側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、中央部の1～3層がしまりが弱く、壁面に近い層がしまりが強いいため、掘り直しを行った可能性がある。

033号陥穴 (5C-イ005) (第30図) 5C-88グリッドに位置する。平面形は、N-20°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.3m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.5mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方はオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

034号陥穴 (5C-イ007) (第30図) 5C-66グリッドに位置する。平面形は、N-76°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方で緩くオーバーハングが見られる。覆土は、全体的にしまりがなく、ローム粒子が含まれる。

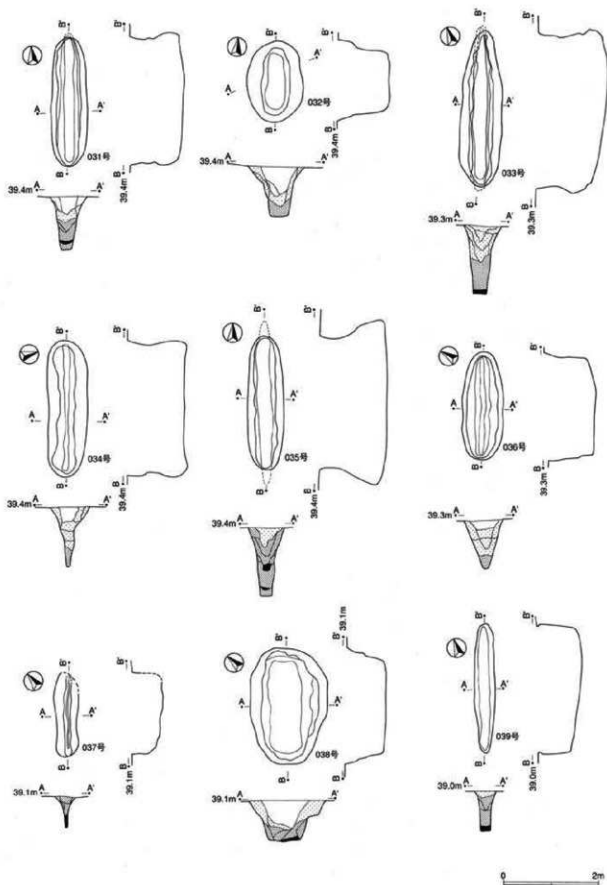
035号陥穴 (5C-イ008) (第30図) 5C-65グリッドに位置する。平面形は、N-4°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.4mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方はオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

036号陥穴 (5C-イ009) (第30図) 5C-34グリッドに位置する。平面形は、N-57°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、下層でロームブロックが含まれる。

037号陥穴 (5C-イ011) (第30図) 5C-10グリッドに位置する。平面形は、N-39°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.6mである。底面は、平らではない。側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、下層でロームブロックが多く含まれる。

038号陥穴 (5D-イ001) (第30図) 5D-18グリッドに位置する。平面形は、N-44°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸1.6m、検出面からの深さ0.9mである。他の陥穴に比べ短軸幅が広い。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、殆どの層でローム粒子が含まれ、最下層に黒色土の堆積が見られる。

039号陥穴 (5D-イ004) (第30図) 5D-81グリッドに位置する。平面形は、N-22°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、北東側に向かって深くなる。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、最下層に黒色土の堆積



第30图 陷穴(4)

が見られる。

040号陥穴 (5D イ005) (第31図) 5D-93グリッドに位置する。平面形は、N-29°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部はオーバーハングが見られる。覆土は、黒褐色土を主体とし、最下層に粘性の強い黒色土が堆積する。

041号陥穴 (5E イ001) (第31図) 5E-35グリッドに位置する。平面形は、N-34°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.1m、短軸1.1m、検出面からの深さ1.4mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部で開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方はオーバーハングが見られる。覆土は、ローム主体である。

042号陥穴 (5E イ002) (第31図) 5E-02グリッドに位置する。平面形は、N-85°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.5mである。遺物が覆土上層から出土している。底面は、平らであり、側面は、上部で開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方はオーバーハングが見られる。覆土には、ローム粒子が含まれ、最下層には黒色土粒子が含まれる。

043号陥穴 (5F イ001 [S56]) (第31図) 5F-00グリッドに位置する。平面形は、N-46°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸1.5m、検出面からの深さ1.1mである。他の陥穴に比べ短軸幅が広い。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、ローム主体で、最上層と最下層に黒色土が堆積する。

044号陥穴 (5F イ001 [S57]) (第31図) 5F-61グリッドに位置する。平面形は、N-56°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.4m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下位から中位にかけてオーバーハングが見られる。覆土は、黄褐色土を主体とし、上層と最下層で黒褐色土の堆積が見られる。

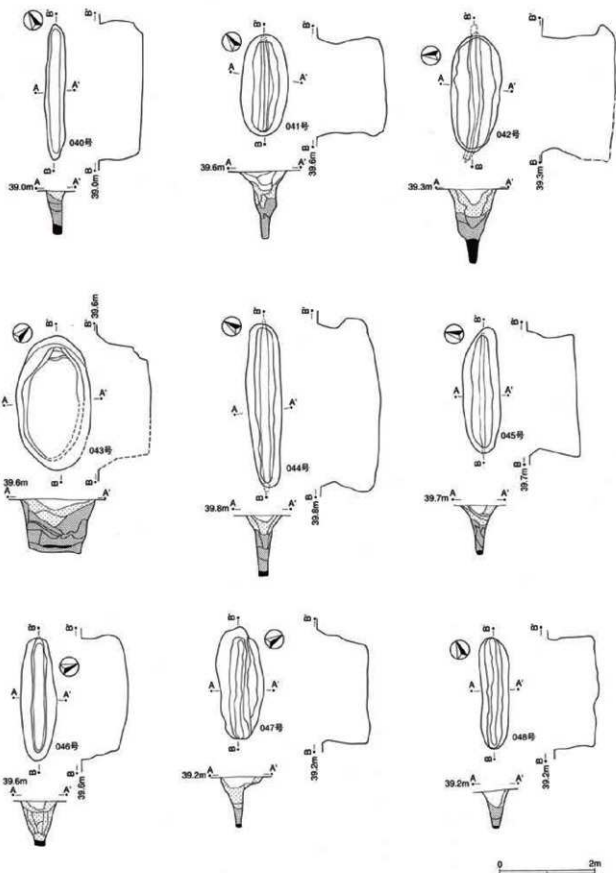
045号陥穴 (5F イ002 [S56]) (第31図) 5F-11グリッドに位置する。平面形は、N-80°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方から中位にかけてオーバーハングが見られる。覆土はロームが主体で、第1層と最下層に黒色土が堆積する。

046号陥穴 (5F イ002 [S57]) (第31図) 5F-82グリッドに位置する。平面形は、N-66°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、長軸両側から中央部に向かい緩やかに傾斜する。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームが主体で、第1層と最下層に黒色土が堆積する。

047号陥穴 (6C イ001) (第31図) 6C-84グリッドに位置する。平面形は、N-58°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.1mである。底面にはやや凹凸が見られる。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、ロームが主体で、第1層と最下層に黒色土が堆積する。

048号陥穴 (6C イ002) (第31図) 6C-88グリッドに位置する。平面形は、N-19°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。底面にはやや凹凸が見られる。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、ロームが主体で、第1層と最下層に黒色土が堆積する。

049号陥穴 (6C イ003) (第32図) 6C-95グリッドに位置する。平面形は、N-7°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸4.2m、短軸2.6m、検出面からの深さ2.2mである。他の陥穴に比べ規模が大きく、



第31圖 陥穴 (5)

上層から遺物が多く出土した。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、下層ほど粘性が強い。

050号陥穴 (6C-イ004) (第32図) 6C-81グリッドに位置する。平面形は、N-27°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.4m、短軸2.0m、検出面からの深さ2.4mである。底面は、平らであり、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸両端部の下位から中位にかけてオーバーハングが見られる。覆土は、ロームが含まれる黒褐色土を主体とし、最下層に黒色土が堆積する。

051号陥穴 (6C-イ005) (第32図) 6C-89グリッドに位置する。平面形は、N-51°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、南西側が低く、やや凹凸が見られる。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、黒色土を主体とする。

052号陥穴 (6C-イ006) (第32図) 6C-58グリッドに位置する。平面形は、N-41°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.9mである。1点のみ土器が出土している。底面は、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とする。

053号陥穴 (6C-イ007) (第32図) 6C-21グリッドに位置する。平面形は、N-8°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.9m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。北半分の中層から下層にかけて遺物が出土している。覆土は、黒褐色土を主体とする。

054号陥穴 (6D-イ002) (第32図) 6D-03グリッドに位置する。平面形は、N-24°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部にオーバーハングが見られる。覆土は、黒褐色土を主体とし、最下層には黒色土が堆積する。

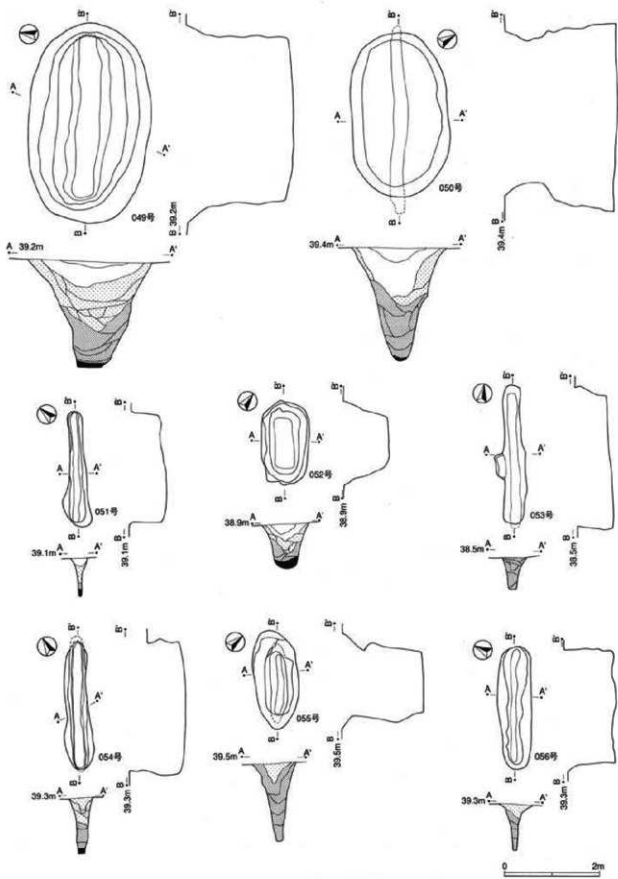
055号陥穴 (6D-イ005) (第32図) 6D-92グリッドに位置する。平面形は、N-48°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.7mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部はオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

056号陥穴 (6D-イ006) (第32図) 6D-81グリッドに位置する。平面形は、N-66°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.0mである。上層から遺物が出土している。底面には凹凸が見られる。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

057号陥穴 (6D-イ008) (第33図) 6D-94グリッドに位置する。平面形は、N-89°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.4mである。底面は、平らであり、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸両端部にオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

058号陥穴 (6D-イ009) (第33図) 6D-26グリッドに位置する。平面形は、N-66°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

059号陥穴 (6D-イ011) (第33図) 6D-36グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Eに軸を持つ細長い



第32图 陷穴 (6)

楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.69mである。底面の中央部に高まりが見られる。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

060号陥穴 (6D-イ012) (第33図) 6D-16グリッドに位置する。平面形は、N-12°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方で、オーバーハングが見られる。覆土は、黒褐色土を主体とする。

061号陥穴 (6D-イ018) (第33図) 6D-27グリッドに位置する。平面形は、N-54°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.3m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、緩やかな丸みを帯び、側面は、南西側長軸端部のみオーバーハングが見られる。規模・形態ともに、他の陥穴とは異質である。覆土には、ローム粒子が多く含まれる。

062号陥穴 (6D-イ029) (第33図) 6D-19グリッドに位置する。平面形は、N-17°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.9m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、中心に向かって緩やかに傾斜する。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、ロームが主体的に含まれ、第1層と最下層に黒褐色土が堆積する。

063号陥穴 (6F-イ002) (第33図) 6F-31グリッドに位置する。平面形は、N-36°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、ほぼ平らであるが、北側がやや深い。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、ロームが主体的に含まれ、最下層に黒褐色土が堆積する。

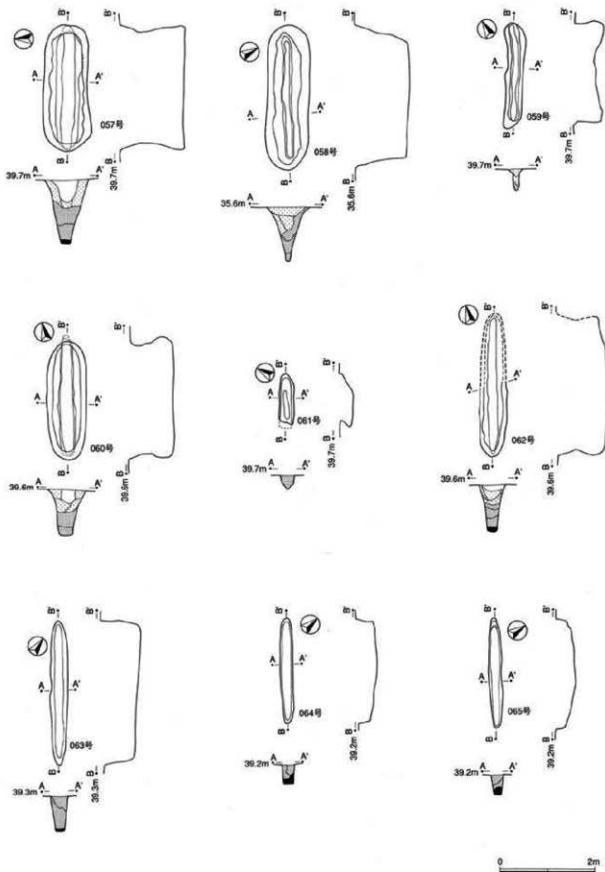
064号陥穴 (6F-イ003) (第33図) 6F-41グリッドに位置する。平面形は、N-47°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸0.3m、検出面からの深さ0.4mである。底面にはやや凹凸が見られる。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層でロームが主体的に含まれ、下層に黒褐色土が堆積する。

065号陥穴 (6F-イ004) (第33図) 6F-50グリッドに位置する。平面形は、N-62°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸0.3m、検出面からの深さ0.4mである。底面にはやや凹凸が見られる。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層でロームが主体的に含まれ、下層に黒褐色土が堆積する。

066号陥穴 (6G-イ001) (第34図) 6G-28グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下位でオーバーハングが見られる。覆土は、全体的にしまりの弱い土の堆積が目立つ。

067号陥穴 (6H-イ001) (第34図) 6H-62グリッドに位置する。平面形は、N-62°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.1m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、北東側が深い。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

068号陥穴 (6H-イ002) (第34図) 6H-83グリッドに位置する。平面形は、N-37°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.5m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。



第33圖 陥穴 (7)

069号陥穴 (6H-I003) (第34図) 6H-94グリッドに位置する。平面形は、N-44°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸北側端部でオーバーハングが見られる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

070号陥穴 (7B-I053) (第34図) 7B-34グリッドに位置する。平面形は、N-78°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

071号陥穴 (7B-I054) (第34図) 7B-23グリッドに位置する。平面形は、N-60°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.5mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

072号陥穴 (7C-I003) (第34図) 7C-85グリッドに位置する。平面形は、N-76°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.1m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.8mである。遺物が上層から中層にかけて出土している。底面は、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、上層でローム粒子、下層でロームブロックが含まれる。

073号陥穴 (7C-I012) (第34図) 7C-64グリッドに位置する。平面形は、N-52°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、全体的にしまりが強い。

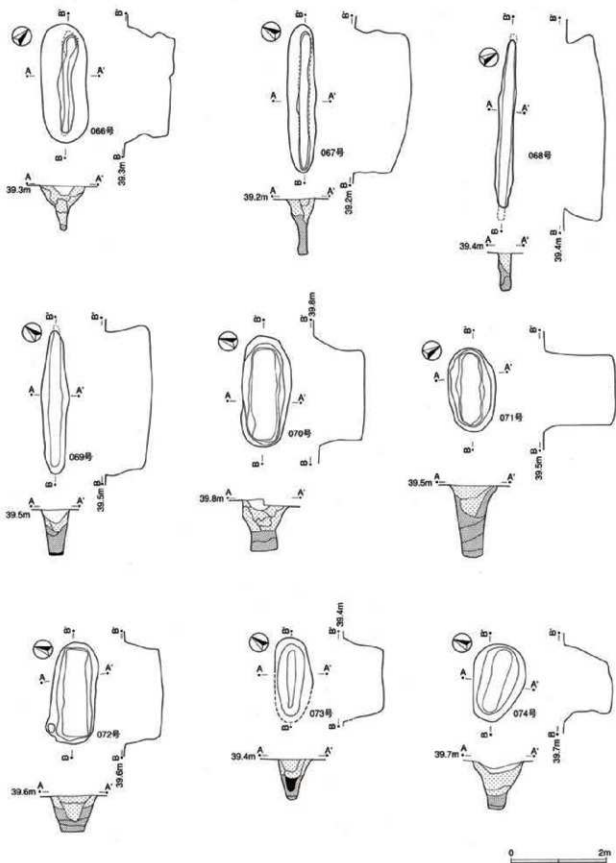
074号陥穴 (7C-I013ハ) (第34図) 7C-97グリッドに位置し、107号陥穴・108号陥穴と切り合っている。平面形は、N-78°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸1.1m、検出面からの深さ1.0mである。遺物が覆土上層から出土している。底面は、平坦部が少ない。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、全体的にロームを主体とする。

075号陥穴 (7C-I020) (第35図) 7C-36グリッドに位置する。平面形は、N-14°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.5m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、北側がやや深い。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、最下層を除きしまりが強い。

076号陥穴 (7C-I021イ) (第35図) 7C-73グリッドに位置する。平面形は、N-55°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.2m、短軸1.1m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部で開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部下方で緩くオーバーハングが見られる。覆土の中心部に細い溝状の落ち込みがあり、その側面に当たる第6・7層はロームを人為的に埋めていることが確認できた。

077号陥穴 (7C-I022) (第35図) 7C-54グリッドに位置する。平面形は、N-27°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸1.2m、検出面からの深さ1.0mである。遺物が上層を中心に出土している。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土上層には炭化粒子が含まれる。

078号陥穴 (7C-I027) (第35図) 7C-25グリッドに位置し、079号陥穴と切り合っている。断面図から判断するところから新しい。平面形は、N-58°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれ、最下層には黒色土が堆積する。



第34图 陷穴(8)

079号陥穴(7C-イ030)(第35図) 7C-25グリッドに位置し、078号陥穴と切り合っている。断面図から判断するところが古い。平面形は、N-29°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.2m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とする。

080号陥穴(7C-イ028)(第35図) 7C-48グリッドに位置する。平面形は、N-21°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方でオーバーハングが見られる。覆土は、全体的にローム主体で、最下層には黒土が堆積している。

081号陥穴(7C-イ034)(第35図) 7C-17グリッドに位置する。平面形は、N-48°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、第5層を除いてしまりが強い。

082号陥穴(7D-イ004)(第35図) 7D-07グリッドに位置する。平面形は、N-48°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸1.2m、検出面からの深さ1.0mである。底面にピットが4基存在する。ピットの深さは底面から18cm~24cmである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層でしまりが弱く、下層でロームブロックが多量に含まれる。

083号陥穴(7D-イ009)(第35図) 7D-84グリッドに位置する。平面形は、N-57°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸1.3m、検出面からの深さ2.0mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半は一段段になるがほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方でオーバーハングが見られる。最下層の覆土は、埋め戻しの可能性がある。

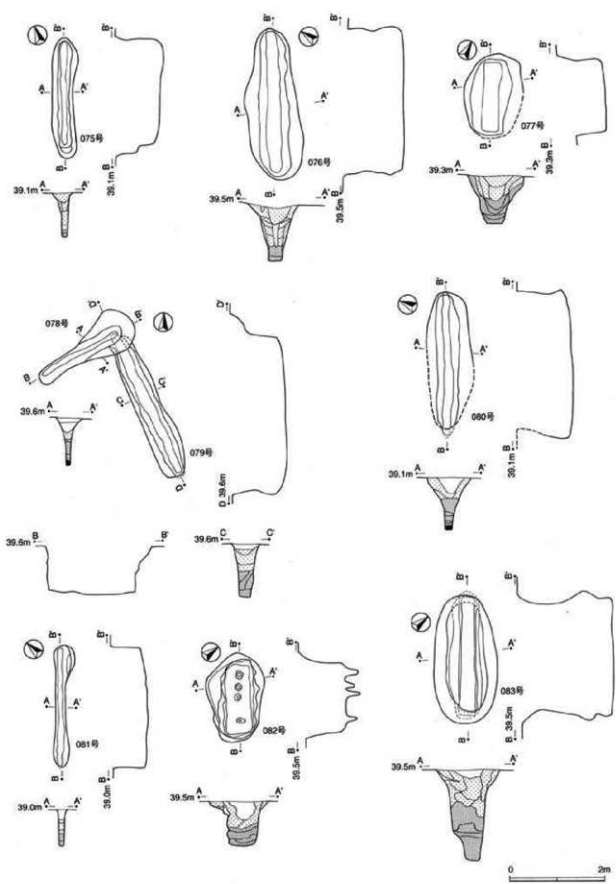
084号陥穴(7F-イ001)(第36図) 7F-34グリッドに位置する。平面形は、N-39°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.9m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.9mである。底面は、南西側がやや低くなり、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸南西側端部は大きくオーバーハングする。覆土は、全体的にロームを主体とする。

085号陥穴(7F-イ002)(第36図) 7F-02グリッドに位置する。平面形は、N-43°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.2m、短軸0.5m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、北東側がやや低く、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部でオーバーハングが見られる。覆土は、ローム主体の暗黄褐色土で、最下層のみ黒褐色土が堆積する。

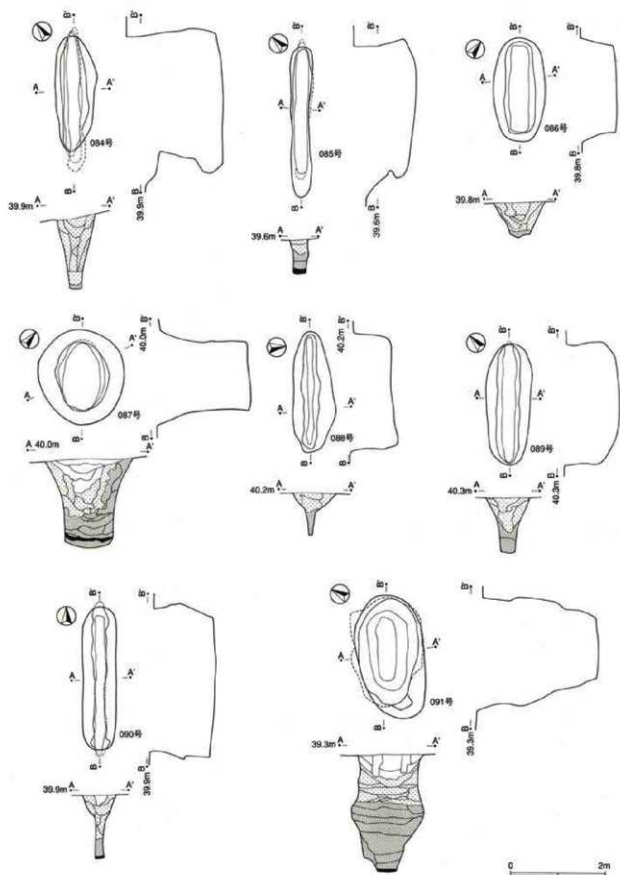
086号陥穴(7F-イ005)(第36図) 7F-51グリッドに位置する。平面形は、N-37°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.7mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、開きながら立ち上がる。覆土は、上層から中層がローム主体の暗褐色土であり、最下層が黒褐色土である。

087号陥穴(7F-イ006)(第36図) 7F-93グリッドに位置する。平面形は、N-37°-Wに軸を持つ円形に近い楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸1.8m、検出面からの深さ1.9mである。遺物が上層から下層にかけて出土している。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、最下層を除いてしまりが弱い。

088号陥穴(7G-イ001)(第36図) 7G-91グリッドに位置する。平面形は、N-82°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、東側が低い。

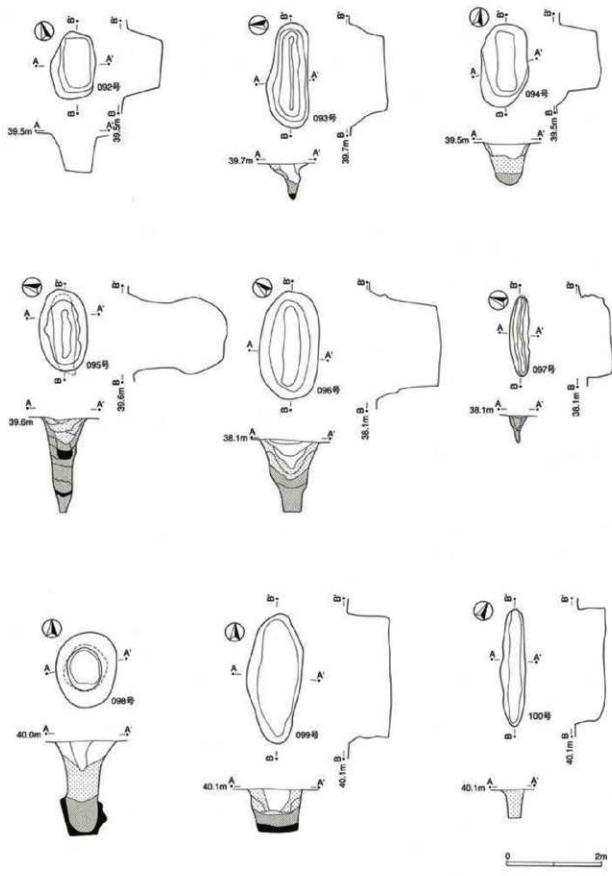


第35图 陷穴(9)



第36圖 陥穴 (10)

- 側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。
- 089号陥穴 (7G-イ002) (第36図)** 7G-70グリッドに位置する。平面形は、N-44°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、中心部がやや深い。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。
- 090号陥穴 (7H-イ001) (第36図)** 7H-31グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の中位でオーバーハングが見られる。覆土は、最下層が黒褐色土で、それ以外はロームを主体とする。
- 091号陥穴 (7I-イ001) (第36図)** 7I-95グリッドに位置する。平面形は、N-59°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸1.4m、検出面からの深さ2.5mである。底面は、ほぼ平らである。側面中位でオーバーハングが見られる。覆土は、第14・15層のしまりが非常に強い。
- 092号陥穴 (7C-イ015) (第37図)** 7C-72グリッドに位置する。110号炉穴と切り合っており、断面図から判断するところが古い。平面形は、N-20°-Eに軸を持つ長方形である。規模は、長軸1.4m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土の上層は炉穴によって不明、下層はロームを主体とする。
- 093号陥穴 (8C-イ001) (第37図)** 8C-09グリッドに位置する。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部で大きく開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、下層ほど粘性を増す。
- 094号陥穴 (8C-イ002) (第37図)** 8C-18グリッドに位置する。平面形は、N-10°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.85mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とする。
- 095号陥穴 (8C-イ011) (第37図)** 8C-57グリッドに位置する。平面形は、N-75°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.9mである。底面はやや凹凸が見られ、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸端部の下位でオーバーハングが見られる。覆土には全体的にローム粒子・ブロックが含まれ、しまりは弱い。
- 096号陥穴 (8E-イ001) (第37図)** 8E-18グリッドに位置する。平面形は、N-49°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸1.3m、検出面からの深さ1.5mである。遺物が上層を中心に多く出土している。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。
- 097号陥穴 (8E-イ002) (第37図)** 8E-07グリッドに位置する。平面形は、N-68°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.6mである。底面は、西側がやや深い。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれ、第3層にブロックとして多量に含まれる。
- 098号陥穴 (8F-イ001) (第37図)** 8F-97グリッドに位置する。平面形は、N-8°-Wに軸を持つほぼ円形に近い楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸1.3m、検出面からの深さ2.0mである。底面は、平らであり、側面は、底面近くで全体が緩く、オーバーハングする。覆土は、最下層でしまりの強いロームが堆積する。



第37图 陷穴 (11)

099号陥穴 (8G イ001) (第37図) 8G-32グリッドに位置する。平面形は、N-4°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸1.2m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

100号陥穴 (8G イ002) (第37図) 8G-72グリッドに位置する。平面形は、N-29°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.6mである。底面は、やや凹凸が見られる。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

101号陥穴 (9F イ001) (第38図) 9F-85グリッドに位置する。平面形は、N-54°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.9mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層と下層で黒色土、中層でロームを主体とする。

102号陥穴 (9G イ001) (第38図) 9G-75グリッドに位置する。下層確認調査時に検出された。平面形は、N-83°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部下方はオーバーハングが見られる。覆土には、ロームが主体的に含まれ、最下層のみ黒色土が堆積する。

103号陥穴 (10E イ001) (第38図) 10E-37グリッドに位置する。平面形は、N-58°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、北西側が一段深く、側面は、上部で大きく開き、下部はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部下方で緩やかなオーバーハングが見られる。覆土は、黒色土を主体とする。

104号陥穴 (10E イ002) (第38図) 10E-37グリッドに位置する。平面形は、N-17°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.9mである。底面は、平らである。側面は、開きながら立ち上がる。覆土は、中層でロームブロックが多く含まれる。

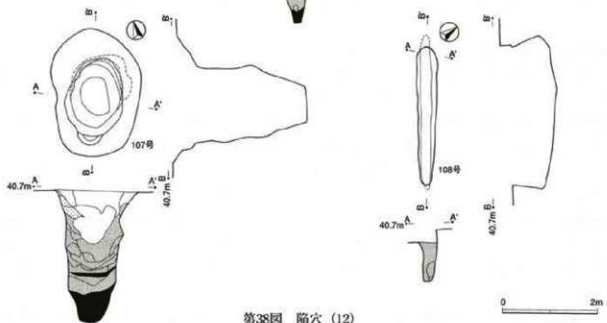
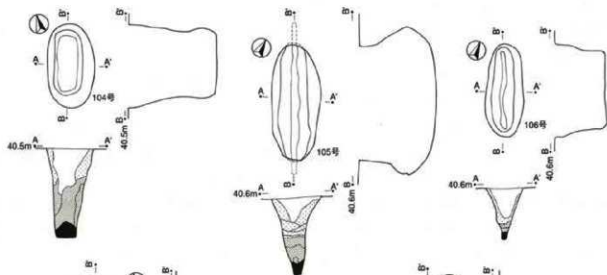
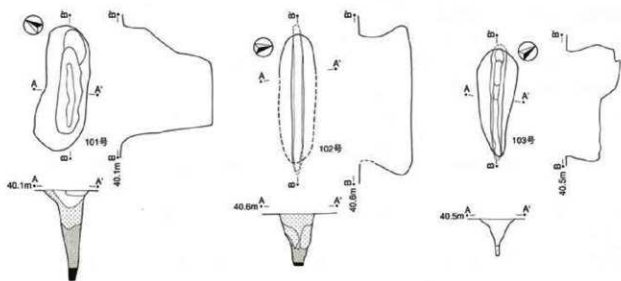
105号陥穴 (10F イ001) (第38図) 10F-31グリッドに位置する。平面形は、N-34°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸1.0m、検出面からの深さ1.6mである。底面は、中心に向かって緩やかに傾斜し、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸端部でオーバーハングが見られる。

106号陥穴 (10F イ002) (第38図) 10F-25グリッドに位置する。平面形は、N-23°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、平らである。側面は、開きながら立ち上がる。覆土は、黒色土と暗黄褐色土が交互に堆積する。

107号陥穴 (10F イ004) (第38図) 10F-39グリッドに位置する。平面形は、N-15°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸1.9m、検出面からの深さ2.8mである。遺物が上層から中層にかけて出土した。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれ、最下層は黒色土が厚く堆積している。

108号陥穴 (10F イ006) (第38図) 10F-58グリッドに位置する。平面形は、N-56°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.4m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、中心北西寄りやや深く、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸端部の下方で緩やかにオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

109号陥穴 (10G イ001) (第39図) 10G-50グリッドに位置する。平面形は、N-69°-Eに軸を持つ細長い



第38图 陷穴 (12)

0 2m

楕円形である。規模は、長軸3.5m、短軸1.2m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

110号陥穴(10G-イ002)(第39図) 10G-30グリッドに位置する。平面形は、N-47°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。北西側長軸端部の下方のみオーバーハングが見られる。覆土には、全体的にロームブロックが多く含まれる。

111号陥穴(10H-イ002)(第39図) 10H-29グリッドに位置する。平面形は、N-62°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.3m、短軸1.4m、検出面からの深さ1.6mである。底面は、平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、上層～中層でロームが主体的に含まれ、下層で白色粘土が含まれる。

112号陥穴(10I-イ001)(第39図) 10I-49グリッドに位置する。平面形は、N-62°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸1.7m、検出面からの深さ2.2mである。底面は、中心部に段を持つ。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

113号陥穴(10J-イ001)(第39図) 10J-90グリッドに位置する。平面形は、N-84°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.9m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.4mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、ロームが主体的に含まれ、最下層で黒色土が薄く堆積する。

114号陥穴(10J-イ002)(第39図) 10J-01グリッドに位置する。平面形は、N-72°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸1.5m、検出面からの深さ2.5mである。底面は、平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にロームブロック、下層で白色粘土が含まれる。

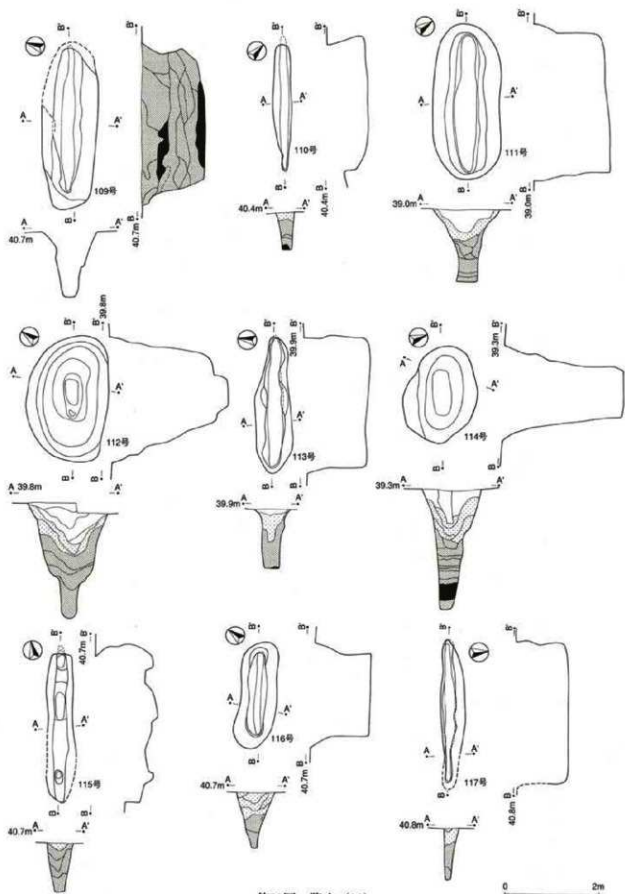
115号陥穴(11E-イ001)(第39図) 11E-55グリッドに位置する。平面形は、N-6°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.2m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、凹凸が多く、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸北側端部のみでオーバーハングが見られる。覆土は、均一な土が堆積する。

116号陥穴(11E-イ002)(第39図) 11E-76グリッドに位置する。平面形は、N-46°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、平らである。側面は、大きく開きながら立ち上がる。覆土は、上層と下層にややしまりの弱い黒褐色土が堆積する。

117号陥穴(11F-イ001)(第39図) 11F-84グリッドに位置する。下層確認調査中に検出された。平面形は、N-3°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.5m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、平らである。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

118号陥穴(11G-イ001)(第40図) 11G-63グリッドに位置する。平面形は、N-89°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸0.3m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、中心がやや深く、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸端部で緩くオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

119号陥穴(11I-イ001)(第40図) 11I-09グリッドに位置する。平面形は、N-8°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.3m、短軸1.2m、検出面からの深さ1.7mである。底面は、やや凹凸があり、側面



第39回 陥穴 (13)

は、上部で開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸端部の下方で緩くオーバーハングが見られる。覆土は、第10層・12層において、非常にしまりが強い。

120号陥穴 (11Jイ001) (第40図) 11J-00グリッドに位置する。平面形は、N-87°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、東側に向かって傾斜し、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。東側のみ緩くオーバーハングが見られる。覆土は、暗褐色土であり、しまり弱く、ロームブロックが混じる。

121号陥穴 (11Jイ002) (第40図) 11J-80グリッドに位置する。平面形は、N-86°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸東側端部のみオーバーハングが見られる。覆土は、全体的にしまりが弱く、ロームブロックが含まれる。

122号陥穴 (11Jイ003) (第40図) 11J-90グリッドに位置する。平面形は、N-88°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.9m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、やや凹凸が見られる。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にロームブロックが多く含まれる。

123号陥穴 (12Fイ001) (第40図) 12F-02グリッドに位置する。平面形は、N-52°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸1.4m、検出面からの深さ1.6mである。底面は、やや凹凸が見られる。側面は、上部で開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

124号陥穴 (12Gイ001) (第40図) 12G-16グリッドに位置する。下層確認調査時に検出された。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸北側端部でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

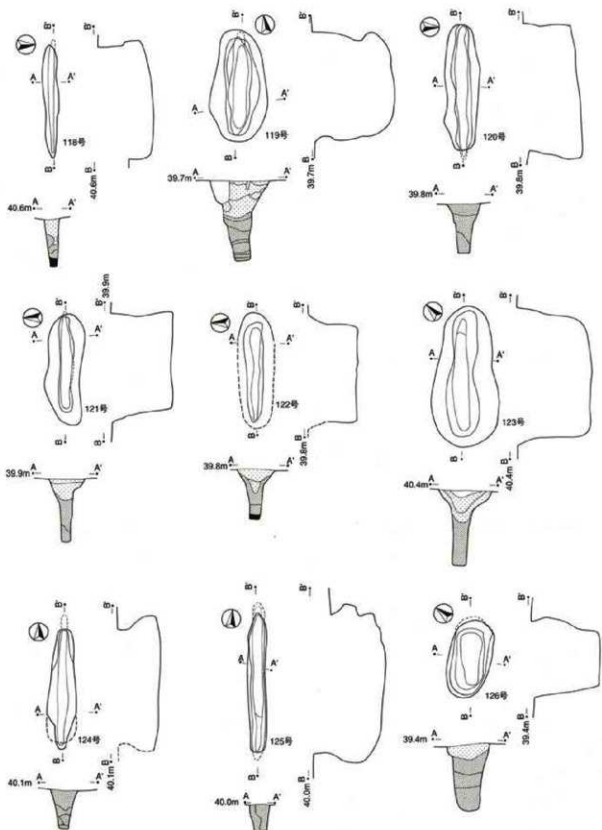
125号陥穴 (12Hイ001) (第40図) 12H-20グリッドに位置する。下層確認調査時に検出された。平面形は、N-12°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.6mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

126号陥穴 (12Iイ001) (第40図) 12I-19グリッドに位置する。平面形は、N-54°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.4mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸北東側端部の上位でオーバーハングが見られる。覆土には、ロームが主体的に含まれ、下層はしまりが非常に強い。

127号陥穴 (12Jイ001) (第41図) 12J-45グリッドに位置する。平面形は、N-58°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、やや凹凸が見られる。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

128号陥穴 (12Jイ002) (第41図) 12J-26グリッドに位置する。平面形は、N-23°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸1.1m、検出面からの深さ1.4mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層が下層に比べてしまりが強く、最下層に、暗褐色土が薄く堆積する。

129号陥穴 (13Hイ001) (第41図) 13H-62グリッドに位置する。南側は攪乱により削られている。平面



第40图 陷穴 (14)

0 2m

形は、N-30°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.5m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、中心がやや深い。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

130号陥穴 (12Jイ004) (第41図) 12J-28グリッドに位置する。平面形は、N-18°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸1.4m、検出面からの深さ1.9mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、やや開きながら、立ち上がる。長軸北側端部のみ下位でオーバーハングが見られる。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

131号陥穴 (12Jイ003) (第41図) 12J-27グリッドに位置し、130号陥穴と切り合うが、断面図から判断するところから古い。平面形は、N-20°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸1.1m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、南側がやや低く、側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

132号陥穴 (13Hイ002) (第41図) 13H-60グリッドに位置する。平面形は、N-3°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸0.5m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、中心やや南寄りが高く、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸東側端部でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

133号陥穴 (13Hイ003) (第41図) 13H-00グリッドに位置する。平面形は、N-86°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.4m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.5mである。底面中央寄りに浅いピット状のものがある。側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸東側端部で緩くオーバーハングが見られる。覆土は、全体的にしまりが弱く、第1層・3層には砂質土が含まれる。

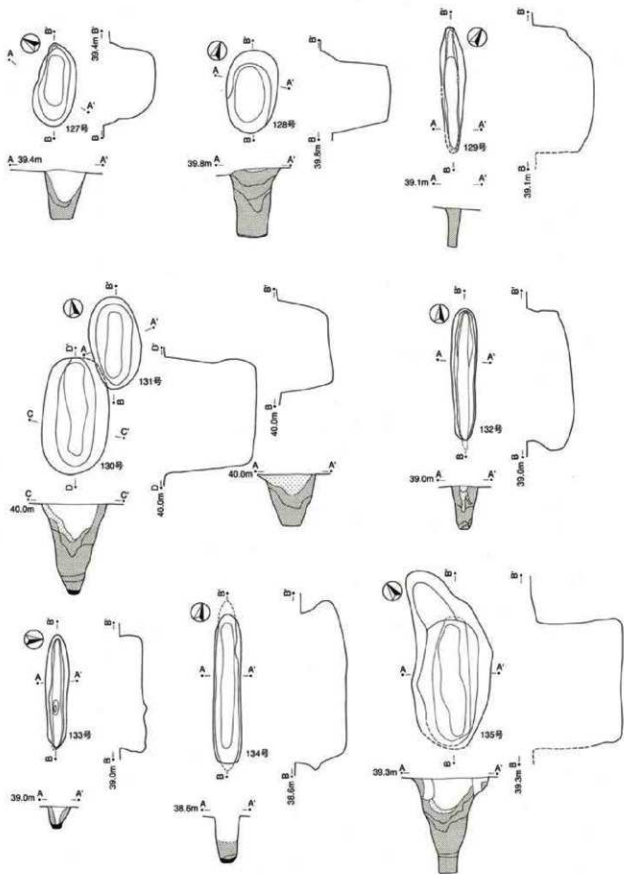
134号陥穴 (13Hイ004) (第41図) 13H-44グリッドに位置する。平面形は、N-14°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.2m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.0mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

135号陥穴 (13Iイ001) (第41図) 13I-08グリッドに位置する。南側は攪乱により削られている。平面形は、N-39°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸1.6m、検出面からの深さ2.0mである。底面は、ほぼ平らである。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

136号陥穴 (14Fイ001) (第42図) 14F-16グリッドに位置する。平面形は、N-14°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸1.0m、検出面からの深さ2.1mである。底面は、やや凹凸が見られる。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層で黒褐色土を主体とし、中層～下層でロームを主体とする。

137号陥穴 (14Gイ001) (第42図) 14G-54グリッドに位置する。下層確認調査時に検出された。平面形は、N-54°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.5m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.9mである。底面は南西側がやや深い。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

138号陥穴 (14Hイ001) (第42図) 14H-40グリッドに位置する。平面形は、N-7°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.8m、検出面からの深さ1.4mである。底面は、やや凹凸がある。側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、ロームブロックが含まれ、下層ほどしまりが弱い。



第41圖 陥穴 (15)

139号陥穴 (14H-I002) (第42図) 14H-93グリッドに位置する。平面形は、N-37°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.9mである。底面は、平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部でオーバーハングが見られる。覆土は、最下層にしまりのない黒褐色土が堆積する。

140号陥穴 (14H-I003) (第42図) 14H-70グリッドに位置する。平面形は、N-7°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.5m、検出面からの深さ1.3mである。底面は、平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部でオーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。

141号陥穴 (14I-I001) (第42図) 14I-26グリッドに位置する。平面形は、N-6°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.5m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部でオーバーハングが見られる。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

142号陥穴 (14I-I002) (第42図) 14I-68グリッドに位置する。平面形は、N-65°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.3m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.5mである。側面は、やや開きながら立ち上がる。長軸南東側端のみオーバーハングした形態をとり、北西側は底面中央部に向かって緩やかに傾斜する。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

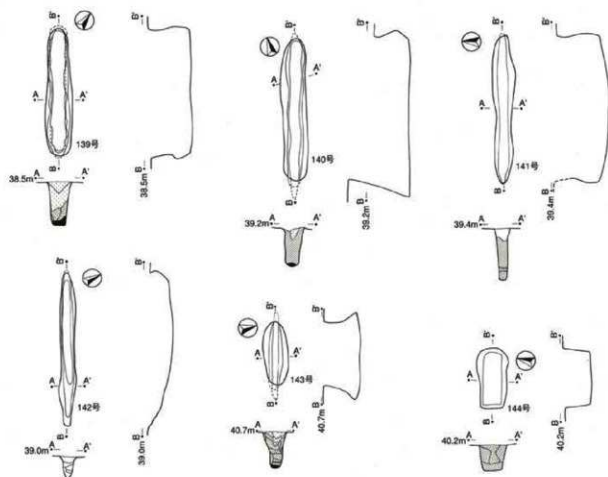
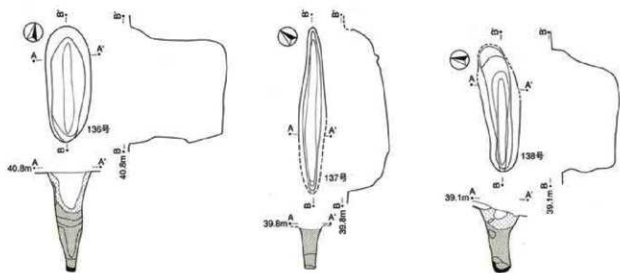
143号陥穴 (15D-I001) (第42図) 15D-02グリッドに位置する。平面形は、N-12°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.4m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.8mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸両端部の下方においてオーバーハングが見られる。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

144号陥穴 (15E-I001) (第42図) 15E-22グリッドに位置する。平面形は、N-71°-Eに軸を持つ長方形である。規模は、長辺1.3m、短辺0.7m、検出面からの深さ0.6mである。底面は、平らである。側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

145号陥穴 (15H-I001) (第43図) 15H-88グリッドに位置する。下層確認調査時に検出したため、西側上部は削られている。平面形は、N-82°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.4m、短軸0.6m、検出面からの深さ1.2mである。底面は、平らであり、側面は、上部でやや開き、下半はほぼ垂直に立ち上がる。長軸南側端部の下方では、オーバーハングが見られる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。

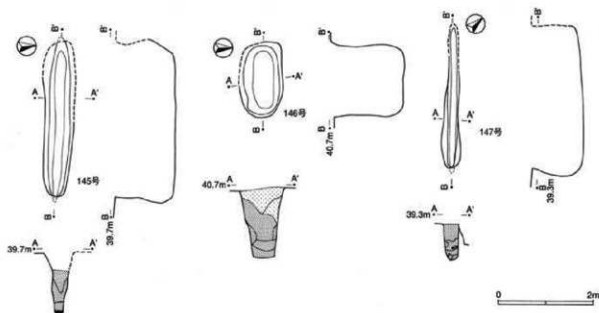
146号陥穴 (16D-I001) (第43図) 16D-26グリッドに位置する。平面形は、N-88°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸0.9m、検出面からの深さ1.5mである。底面にやや凹凸が見られ、中央部にわずかに高まりが見られる。側面は、やや開きながら立ち上がる。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

147号陥穴 (16I-I001) (第43図) 16I-68グリッドに位置する。北西部は、攪乱のため削られている。平面形は、N-48°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.0m、短軸0.4m、検出面からの深さ1.1mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、ほぼ垂直に立ち上がる。長軸北側端部では、オーバーハングが見られる。覆土は、ロームを主体とする。



0 2m

第42图 陷穴 (16)



第43図 陥穴 (17)

3 炉穴・焼土跡

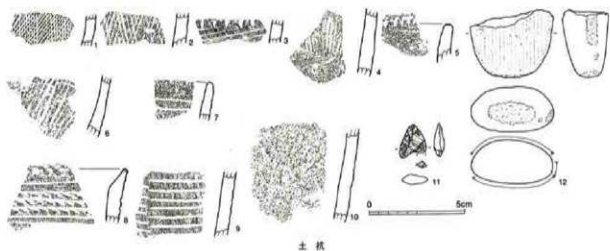
今回の調査では、床面に被熱による土の硬化、赤化が明確に見られず、焼土が覆土中のみに含まれる程度で炉穴と断定できないものがあったが、一括して炉穴・焼土跡の項で記載を行うことにした。名称は煩雑をさけるため○号炉穴とした。平面図・断面図は1/60で統一した。

001号炉穴 (2Cイ003) (第45図) 2C-82グリッドに位置する。南側は攪乱によって削られている。平面形は、N-35°-Wに軸を持つ楕円形であると推定できる。規模は、長軸は現存で0.6m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、北側が深くなる。覆土は、上層に焼土が含まれる。

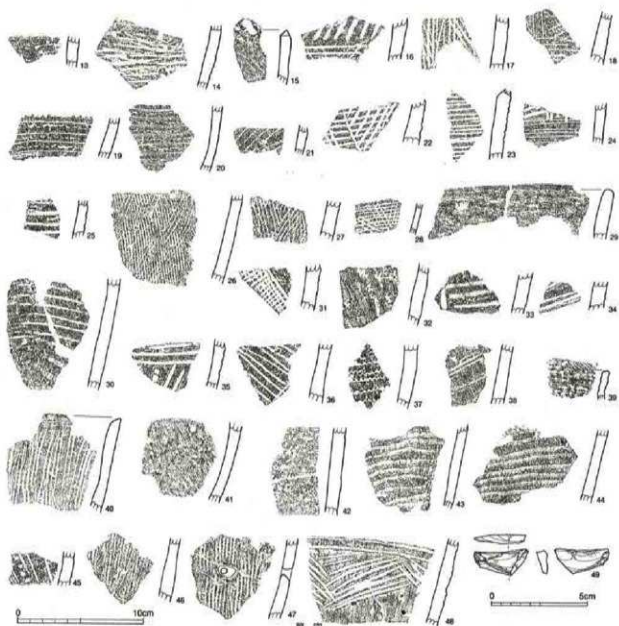
002号炉穴 (3Bイ006) (第45図) 3B-23グリッドに位置する。攪乱により平面形は、不明である。規模は残存部の長いところで0.6m、検出面からの深さ0.16mである。遺物が出土したが、攪乱内である。底面は、やや凹凸が見られ、側面はやや急に立ち上がる。底面中央に深さ5cmのビットがあり、覆土は第2層と同様である。覆土は全体的にローム粒子が含まれ、最下層に焼土を主体とする土が堆積する。

003号炉穴 (3Bイ007) (第45図) 3B-23グリッドに位置する。平面形は、N-5°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.8m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、全体に赤化し平らである。側面は、北側が緩やかに立ち上がる。覆土にはローム粒子が含まれ、第3層に焼土粒子が多量に含まれる。

004号炉穴 (3Bイ009) (第45図) 3B-12グリッドに位置する。平面形は、いびつな円形である。規模は、径0.5m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、平らで赤化している。側面は、一部で赤化し、緩やかに立ち上がる。覆土は、ローム主体で、焼土粒子・炭化物粒子が多く含まれる。



土坑



土坑

第44圖 土坑・陷穴檢出遺物

005号炉穴 (3B イ010) (第45図) 3B-12グリッドに位置する。平面形は、N-73°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.65m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.15mである。底面に赤化は顕著に見られないが、下層に焼土塊が多く含まれる。底面は、中心部が低く、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土はロームを主体とする。

006号炉穴 (3E イ001) (第45図) 3E-80グリッドに位置する。風倒木痕部分に掘り込まれているため、平面形は、断面図から推定復元した。平面形は、N-20°-Wに軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、長軸0.85m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、中心部が深く、側面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土には、第1層を除き、ローム粒子・焼土粒子が含まれ、下層ほど焼土が多く含まれる。

007号炉穴 (4B イ001) (第45図) 4B-65グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.65m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.3mである。北側の底面から側面下部において赤化が見られる。底面は凹凸が見られ、側面はやや急に立ち上がる。覆土には、全体的に焼土粒子が含まれる。

008号炉穴 (4B イ002) (第45図) 4B-54グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、南側が低くなり、その部分に焼土が厚く堆積する。側面は、比較的緩やかに立ち上がる。覆土上層には、焼土・炭化物粒子が少量含まれている。

009号炉穴 (4B イ003) (第45図) 4B-84グリッドに位置する。平面形は、不整形で、南側に丸く張り出した部分の底面に被熱による赤化が見られる。規模は、最も長い部分で0.8m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、凹凸があり、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、炭化物・焼土粒子を含む黄褐色土である。

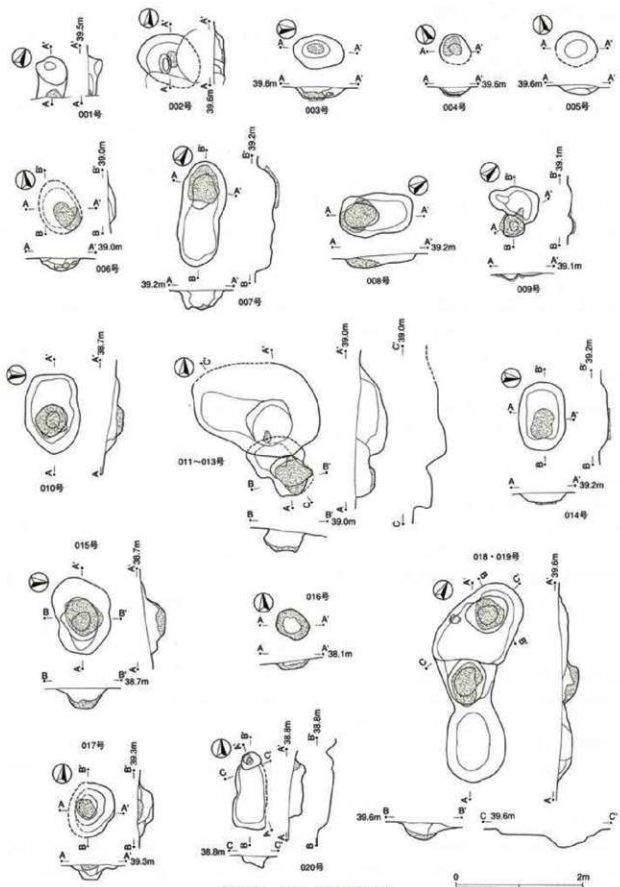
010号炉穴 (4B イ004) (第45図) 4B-53グリッドに位置する。平面形は、N-85°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.3m、短軸0.85m、検出面からの深さ0.25mである。底面は、中心やや東寄りが高く、その部分に焼土が厚く堆積する。側面は、緩やかに立ち上がる。

011号炉穴 (4B イ005A) (第45図) 4B-53グリッドに位置する。012・013号炉穴と切り合っており、断面図から判断すると一番新しい。平面形は、N-50°-Wに軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、南側が低く、底面近くに焼土が堆積する。側面は、比較的急に立ち上がる。

012号炉穴 (4B イ005B) (第45図) 4B-53グリッドに位置する。011・013号炉穴と切り合っており、断面図から判断すると011号より新しく、013号より古い。平面形は、断面のみで確認したため不明である。規模は、推定で幅1.0m、検出面からの深さ0.3mであると考えられる。

013号炉穴 (4B イ005C) (第45図) 4B-53グリッドに位置する。011・012号炉穴と切り合っており、断面図から判断すると一番古い。平面形は、N-80°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.1m、短軸1.5m、検出面からの深さ0.45mである。底面は、東側が一段低く、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、焼土・ローム粒子が少量含まれる。

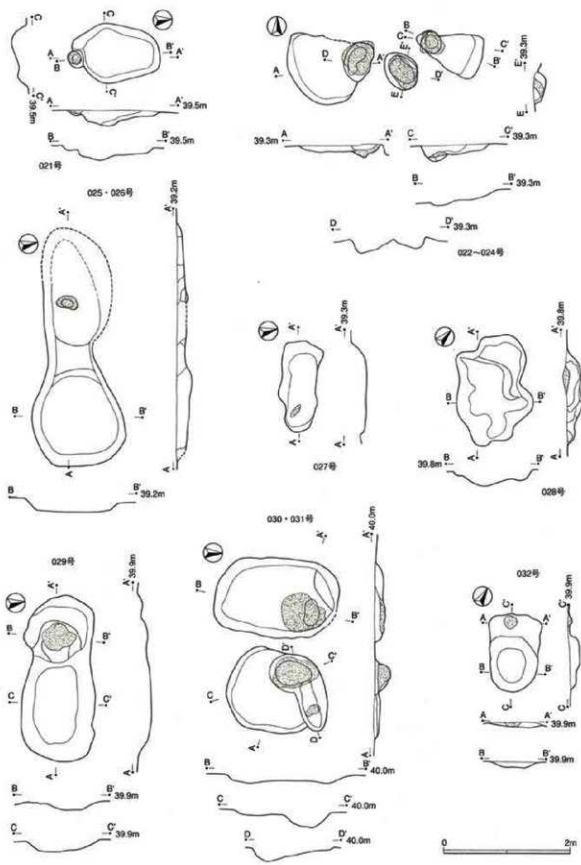
014号炉穴 (4B イ006) (第45図) 4B-54グリッドに位置する。平面形は、N-80°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、ほぼ平らで、東側に火床部を持つ。側面は、比較的緩やかに立ち上がる。覆土には、焼土粒子が少量含まれる。



第45图 炉穴·烧土迹 (1)



- 015号炉穴 (4B イ008) (第45図) 4B-62グリッドに位置する。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、中心部が一段低く、側面は、緩く立ち上がる。覆土下層に厚く焼土が堆積する。
- 016号炉穴 (5B イ001) (第45図) 5B-13グリッドに位置する。炉穴の火床面のみが検出された。平面形は、N-50°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.55m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、やや凹凸が見られる。覆土には、焼土・炭化物が多量に含まれる。
- 017号炉穴 (5D イ003) (第45図) 5D-92グリッドに位置する。平面形は、N-15°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸推定0.7m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、平らで、側面には、一段テラス状の部分がある。覆土の第1層には焼土が多く含まれ、炭化物粒子がわずかに含まれる。
- 018号炉穴 (6B イ002) (第45図) 6B-91グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Wに軸を持つ橢圓形である。北側を19号炉穴に切られる。規模は、現存長軸2.0m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.25mである。底面は、凹凸があり、焼土が集中する部分が一段低くなる。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、北側に焼土粒子、炭化物粒子が集中する。
- 019号炉穴 (6B イ006) (第45図) 6B-91グリッドに位置する。018号炉穴を切っている。平面形は、N-20°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.65m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.4mである。底面は、火床部が一段低くなる部分以外は平らである。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、全体的に焼土粒子は含まれ、最下層で焼土が厚く堆積する。
- 020号炉穴 (6B イ004) (第45図) 6B-62グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、凹凸が見られ、側面は、急に立ち上がる。焼土は底面からやや浮いて堆積する。
- 021号炉穴 (6B イ005) (第46図) 6B-93グリッドに位置する。平面形は、N-10°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.5m、短軸0.95m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、中心部が低く、焼土集中部はテラス状に高い。側面は、比較的緩やかに立ち上がる。覆土には、全体的に焼土粒子が含まれる。
- 022号炉穴 (6B イ007) (第46図) 6B-71グリッドに位置する。平面形は、N-85°-Eに軸を持つ不整形である。規模は、長軸1.4m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、火床部のみ一段低く、他はほぼ平らである。側面は緩やかに立ち上がる。火床部には、焼土が厚く堆積する。
- 023号炉穴 (6B イ008) (第46図) 6B-71グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.65m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、丸みを持ち、側面は緩やかに立ち上がる。覆土には、上層で焼土粒子が多く含まれ、下層には殆ど含まれない。
- 024号炉穴 (6B イ009) (第46図) 6B-71グリッドに位置する。平面形は、N-70°-Wに軸を持つ不整形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.25mである。底面は、火床部が一段低く、他はほぼ平らである。側面は、比較的急に立ち上がる。焼土は、底面からやや浮いて堆積する。
- 025・026号炉穴 (6B イ010・6B イ011) (第46図) 6B-72グリッドに位置する。2基の遺構が連なり、平面形は、N-75°-Wに軸を持つ橢圓形を呈している。全体の規模は、長軸3.6m、短軸1.5m、検出面からの深さ0.24mである。攪乱が多いため、時期の新旧関係は確定できない。底面は、ほぼ平らで、026号が一段低い。側面は、緩やかに立ち上がる。025号の床面の一部が赤化している。



第46图 妒穴·烧土迹(2)

027号炉穴 (6B イ014) (第46図) 6B-81グリッドに位置する。022号の炉穴 (イ007) の下から検出されたため平面プランははっきりしない。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ。規模は、長軸1.4m、短軸0.55m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、ほぼ平らで、側面は緩やかに立ち上がる。東側の一部で焼土が確認できた。

028号炉穴 (6D イ020) (第46図) 6D-64グリッドに位置する。平面形は、N-45°-W に軸を持つ不整形である。規模は、長軸1.55m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.25mである。底面は、凹凸があり、側面は緩やかに立ち上がる。覆土上層に焼土が堆積する。

029号炉穴 (7B イ001) (第46図) 7B-23グリッドに位置する。平面形は、N-80°-W に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.65m、短軸1.15m、検出面からの深さ0.2mである。上層から遺物が多く出土した。底面は、凹凸が見られ、西側のやや高くなった部分に赤化が見られる。側面は、緩やかに立ち上がる。

030号炉穴 (7B イ002A) (第46図) 7B-22グリッドに位置する。平面形は、N-5°-E に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.95m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、北西側の火床部が一段低い他はほぼ平らである。側面は、緩やかに立ち上がる。火床部の焼土は厚く堆積する。

031号炉穴 (7B イ002B) (第46図) 7B-22グリッドに位置する。平面形は、N-15°-W に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸1.25m、検出面からの深さ0.25mである。底面は、火床部にやや凹凸があり、やや低い。側面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土最下層に焼土が堆積する。

032号炉穴 (7B イ004) (第46図) 7B-12グリッドに位置する。平面形は、N-35°-W に軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸1.25m、短軸0.75m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、凹凸があり、火床部が一段高い。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、粘性のある暗褐色土である。

033号炉穴 (7B イ005A) (第47図) 7B-14グリッドに位置する。034号炉穴と切り合っており、断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-65°-W に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.7m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.18mである。底面は、中心部がやや低く、側面は、緩やかに立ち上がる。東端に火床部があり、焼土の薄い堆積が見られる。

034号炉穴 (7B イ005B) (第47図) 7B-14グリッドに位置する。033号炉穴と切り合っており、断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-30°-E に軸を持つ楕円形であると考えられる。規模は、推定長軸1.5m、短軸0.95m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、中心の火床部のみ一段低く、側面は、緩やかに立ち上がる。火床部の焼土は、床面からやや浮いて堆積する。

035号炉穴 (7B イ006) (第47図) 7B-14グリッドに位置する。平面形は、N-10°-W に軸を持つが不整形である。規模は、長軸1.25m、短軸0.95m、検出面からの深さ0.12mである。底面は、中心部の火床部が一段低く、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、全体的に焼土粒子・炭化物粒子が含まれる。

036号炉穴 (7B イ007A) (第47図) 7B-03グリッドに位置し、周辺には炉穴が群集し、切り合いが著しい。037号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-30°-E に軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸0.55m、短軸0.3m、検出面からの深さ0.05mである。覆土上部が037号に削られ、下層に焼土を含む層が薄く堆積している。

037号炉穴 (7B イ007B) (第47図) 7B-03グリッドに位置する。036・042号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-35°-W に軸を持つが不整形である。規模は、長軸0.7m、

短軸0.45m、検出面からの深さ0.05mである。底面には、凹凸が見られ、南側に焼土が集中する。

038号炉穴(7B-イ008)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つびつな瓢箪形である。規模は、長軸0.7m、短軸0.35m、検出面からの深さ0.05mである。底面には、凹凸が見られ、北側に焼土が集中する。

039号炉穴(7B-イ009A)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。040号炉穴と切り合っており、断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-20°-Eに軸を持つが不整形である。規模は、長軸0.7m、短軸0.35m、検出面からの深さ0.05mである。底面には、凹凸が見られ、南側に焼土が集中する。

040号炉穴(7B-イ009B)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。039号と切り合っており、断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-50°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.4m、短軸0.25m、検出面からの深さ0.05mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。

041号炉穴(7B-イ010A)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Eに軸を持つびつな瓢箪形である。規模は、長軸0.5m、短軸0.45m、検出面からの深さ0.05mである。底面は、くびれている部分が高く、北側に焼土が集中する。

042号炉穴(7B-イ010B)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。037・044号炉穴と切り合っており断面図から判断すると、037号より古く、044号より新しい。平面形は、N-70°-Wに軸を持つが不整形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、火床部が低く、覆土上層には、焼土が堆積する。

043号炉穴(7B-イ011)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。047号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、ほぼ東西に軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、段を有し東側の火床部が深くなる。

044号炉穴(7B-イ022)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。042号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-25°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.45m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、火床部が低く、覆土上層には、焼土が堆積する。

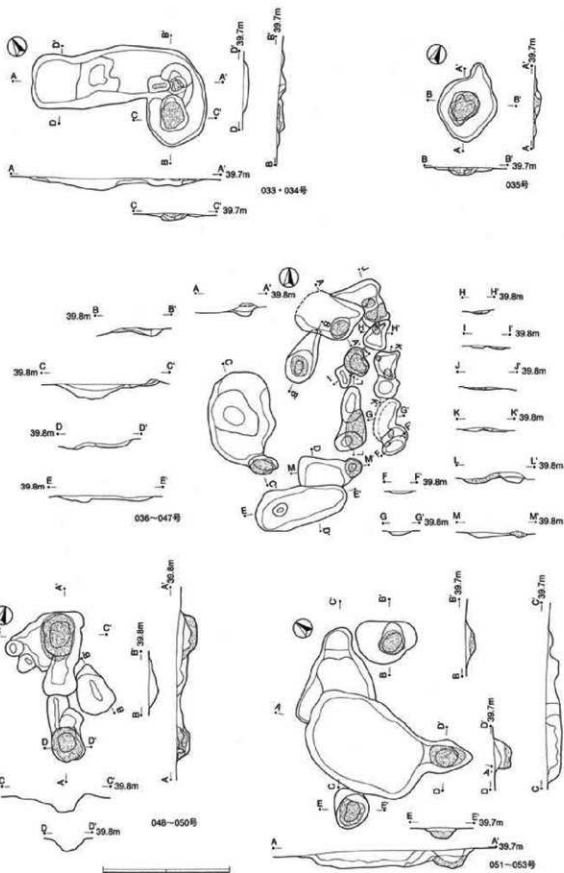
045号炉穴(7B-イ023)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。平面形は、N-20°-Wに軸を持つ楕円形で、火床部が南側に張り出す。規模は、長軸1.7m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.25mである。底面は、中心部が深く掘り込まれ、側面は、緩やかに立ち上がる。火床部覆土上層には、焼土が堆積する。

046号炉穴(7B-イ025)(第47図) 7B-03グリッドに位置する。平面形は、N-10°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、中心部が高く、南側に焼土が集中する。

047号炉穴(7B-イ045)(第47図) 7B-13グリッドに位置する。043号と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-70°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.5m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、西側にやや深い部分があるが、焼土はほとんど見られない。

048号炉穴(7B-イ012)(第47図) 7B-27グリッドに位置する。049号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-20°-Wに軸を持つが不整形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、南側の火床部が一段低くなり、焼土が厚く堆積する。

049号炉穴(7B-イ014)(第47図) 7B-27グリッドに位置する。048号と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-25°-Wに軸を持つが不整形である。規模は、長軸1.3m、短軸



第47图 炉穴·烧土跡(3)

0.5m, 検出面からの深さ0.3mである。底面は、北側の火床部が一段低くなり、焼土が厚く堆積する。

050号炉穴 (7B-イ036) (第47図) 7B-27グリッドに位置する。平面形は、N-45°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.8m, 短軸0.5m, 検出面からの深さ0.15mである。底面は、中心部が低く側面が緩やかに立ち上がる。覆土に焼土層は見られないが、焼土粒を多く含む土が堆積している。

051号炉穴 (7B-イ013) (第47図) 7B-16グリッドに位置し、052・053号炉穴と隣接する。平面形は、N-60°-Eに軸を持つ楕円形で、北東部と火床部のある南東部に張り出しを持つ。規模は、長軸2.65m, 短軸1.3m, 検出面からの深さ0.3mであり、北西側は1m張り出す。底面は、張り出し部に凹凸が見られ、火床部は、一段低くなる。覆土上層を中心に条痕文系の土器片が、多量に出土した。覆土は、全体的にしまりが弱い。

052号炉穴 (7B-イ015) (第47図) 7B-16グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.95m, 短軸0.65m, 検出面からの深さ0.15mである。底面は、中心部が低く、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、しまりが強い黒色粘質土である。

053号炉穴 (7B-イ039) (第47図) 7B-19グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.65m, 短軸0.55m, 検出面からの深さ0.15mである。底面には、焼土が厚く堆積し、側面は、比較的立ち上がりが急である。

054号炉穴 (7B-イ016) (第48図) 7B-14グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Wに軸を持つ不整な瓢箪形である。規模は、長軸3.0m, 短軸1.0m, 検出面からの深さ0.25mである。底面は、くびれ部がやや高い。側面は緩やかに立ち上がる。覆土は全体的にしまりがよく、焼土の堆積は見られないが、遺構中央部に炭化粒が多量に出土した。

055号炉穴 (7B-イ017) (第48図) 7B-06グリッドに位置する。平面形は、N-45°-Eに軸を持つ不整形である。規模は、長軸2.5m, 短軸1.8m, 検出面からの深さ0.15mである。底面中央付近に火床部を持ち、側面は緩やかに立ち上がる。遺物は土器片が北側からやや多く出土した。

056号炉穴 (7B-イ018) (第48図) 7B-21グリッドに位置する。平面形は、N-60°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.25m, 短軸0.9m, 検出面からの深さ0.13mである。底面は、中央が低く、側面は緩やかに立ち上がる。

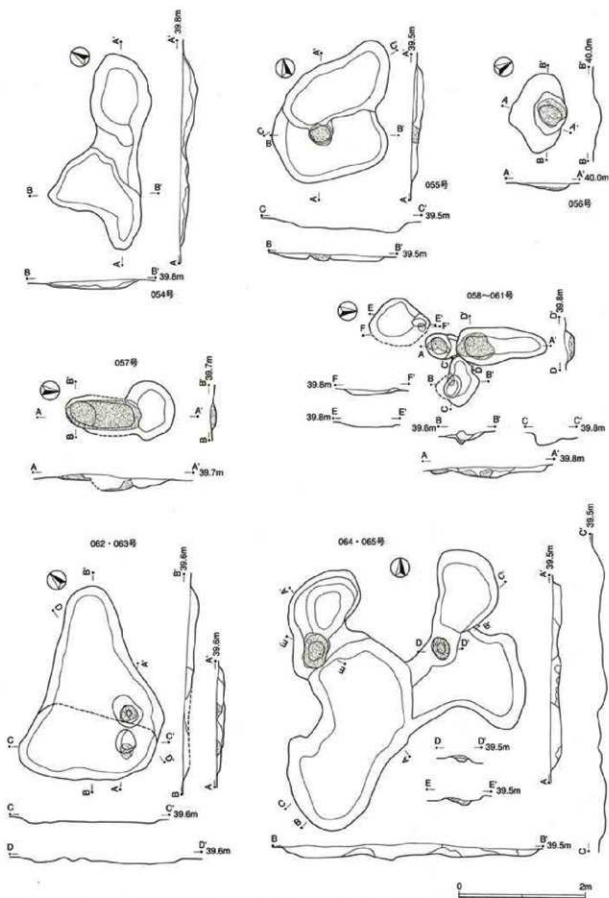
057号炉穴 (7B-イ019) (第48図) 7B-15グリッドに位置する。平面形は、中心部が攪乱を受け、不整形である。規模は、長軸1.6m, 短軸0.9m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、中心部が深く、南側に焼土の集中が見られる。

058号炉穴 (7B-イ020) (第48図) 7B-29グリッドに位置する。060号炉穴と切り合っており断面図から判断するところから新しい。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.4m, 短軸0.6m, 検出面からの深さ0.16mである。底面は、火床部がやや低く、側面は、緩やかに立ち上がる。

059号炉穴 (7B-イ021) (第48図) 7B-29グリッドに位置する。平面形は、一部攪乱を受け、N-65°-Wに軸を持つ不整形である。規模は、長軸0.8m, 短軸0.6m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、火床部が深く、東壁以外は緩やかに立ち上がる。

060号炉穴 (7B-イ041) (第48図) 7B-39グリッドに位置する。058号炉穴と切り合っており断面図から判断するところから古い。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.45m, 短軸0.4m, 検出面からの深さ0.06mである。火床部のみの残存で、覆土はしまりがない。

- 061号炉穴 (7B-イ042) (第48図) 7B-39グリッドに位置する。平面形は、一部攪乱を受けるが、ほぼ南北に軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、長軸1.0m、短軸0.75m、検出面からの深さ0.08mである。底面は、平らで、側面は緩やかに立ち上がる。覆土はしまりが強い。
- 062号炉穴 (7B-イ026) (第48図) 7B-14グリッドに位置する。063号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-45°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、やや火床部に凹凸が見られるが、比較的平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。
- 063号炉穴 (7B-イ027) (第48図) 7B-05グリッドに位置する。平面形は、062号炉穴と切り合っており、不整形である。規模は、長軸3.1m、短軸1.8m、検出面からの深さ0.12mである。底面は、火床部周辺に凹凸が見られるが比較的平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。
- 064号炉穴 (7B-イ028) (第48図) 7B-04グリッドに位置する。065号と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、不整形である。規模は、長軸4.1m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、凹凸が見られ、側面は緩やかに立ち上がる。火床部の南側に遺物が多く出土した。
- 065号炉穴 (7B-イ029) (第48図) 7B-05グリッドに位置する。064号と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、不整形であるが064号と同様の形状である。規模は、長軸3.0m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.15mである。火床部が周辺に比べやや高く、側面は、緩やかに立ち上がる。遺物は火床部北側から比較的多く土器片が出土した。
- 066号炉穴 (7B-イ030) (第49図) 7B-27グリッドに位置する。067号と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-50°-Eに軸を持ついびつな楕円形である。規模は、長軸1.4m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.26mである。南西側に火床部があり、一段低くなっている。沈線文系の土器片が出土した。
- 067号炉穴 (7B-イ031) (第49図) 7B-27グリッドに位置する。066号と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。068号とも切り合っているが新旧関係ははっきりしない。平面形は、N-20°-Wに軸を持つ不整形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.15mである。掘り込みは浅い。
- 068号炉穴 (7B-イ032) (第49図) 7B-27グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.3mである。ピット状に掘り込みがしっかりしており、明確な火床部が検出されなかったことから067号の付属施設の可能性が考えられる。
- 069号炉穴 (7B-イ034) (第49図) 7B-27グリッドに位置する。平面形は、N-60°-Eに軸を持ついびつな橢圓形である。規模は、長軸1.9m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、くびれ部が高く、東側の火床部がやや深い。側面は緩やかに立ち上がる。覆土中から沈線文系の土器片が比較的多く出土した。
- 070号炉穴 (7B-イ033) (第49図) 7B-39グリッドに位置する。071・072・073号炉穴と切り合うが、掘り込みが浅いため新旧関係は不明である。平面形は、N-50°-Eに軸を持ついびつな楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸1.4m、検出面からの深さ0.12mである。火床部が一段低く、その部分のみ立ち上がりが急である。
- 071号炉穴 (7B-イ033) (第49図) 7B-49グリッドに位置する。平面形は、南東側が一部削られているが、



第48图 炉穴・烧土跡(4)

N-50°-Wに軸を持つびつな楕円形であると考えられる。規模は、長軸(1.3)m、短軸(0.9)m、検出面からの深さ0.16mである。底面は、凹凸が見られ、側面は緩やかに立ち上がる。

072号炉穴(7B-イ033)(第49図) 7B-39グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.3m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、凹凸が見られ、側面は、緩やかに立ち上がる。

073号炉穴(7B-イ033)(第49図) 7B-39グリッドに位置する。平面形は、N-52°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.6m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.1mである。火床部のみの検出である。

074号炉穴(7B-イ037)(第49図) 7B-38グリッドに位置する。075号と軸を同じくして隣接する。平面形は、N-45°-Eに軸を持つ不整形である。規模は、長軸1.7m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、中心部が深く、側面は緩やかに立ち上がる。覆土に殆ど焼土粒が含まれないため炉穴ではない可能性がある。

075号炉穴(7B-イ038)(第49図) 7B-37グリッドに位置する。平面形は、N-45°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.12mである。底面は、火床部が他の部分に比べ高く、中心部が深い。側面は、緩やかに立ち上がる。

076号炉穴(7B-イ040)(第49図) 7B-05グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Eに軸を持つ細長い楕円形で、火床部が張り出す。規模は、長軸1.8m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.1mである。底面はくびれ部が高く、火床部が一段低くなる。

077号炉穴(7B-イ044)(第49図) 7B-08グリッドに位置する。平面形は、N-10°-Wに軸を持つ不整形で南側に火床部が張り出す。規模は、長軸1.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.12mである。底面は、凹凸が見られ側面は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。

078号炉穴(7B-イ046)(第49図) 7B-64グリッドに位置する。平面形は、N-15°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.3m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.1mである。底面は北側が低く、火床部がやや高い。

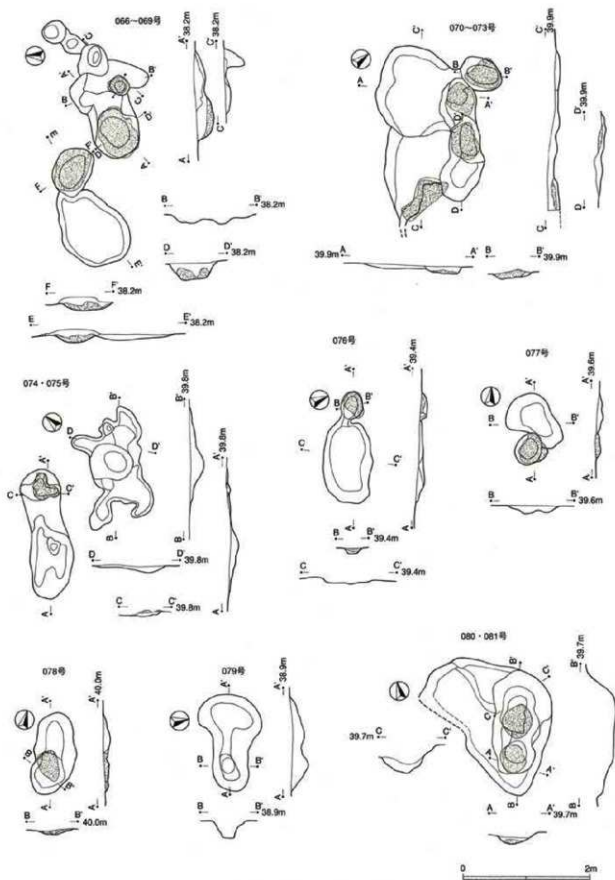
079号炉穴(7B-イ047)(第49図) 7B-28グリッドに位置する。平面形は、N-15°-Eに軸を持つ瓢箪形である。規模は、長軸1.5m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.26mである。底面は、くびれ部が高く、側面は緩やかに立ち上がる。形状から炉穴としたが火床部は検出できなかった。

080号炉穴(7B-イ048A)(第49図) 7B-78グリッドに位置する。081号と切り合っており断面図から判断するところらが新しい。平面形は、N-15°-Eに軸を持つやや細長い楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.5mである。北側にある火床部が本遺構のものである。掘り込みは深く、北側面は急に立ち上がる。

081号炉穴(7B-イ048B)(第49図) 7B-78グリッドに位置する。080号と切り合っており断面図から判断するところらが古い。平面形は、N-35°-Wに軸を持つ不整形である。規模は、長軸2.3m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.24mである。一部攪乱を受け、上部は080号によって削られているため残存が悪い。

082号炉穴(7B-イ049)(第50図) 7B-87グリッドに位置する。平面形は、N-70°-Wに軸を持つ楕円形で、東側に火床部の張り出しを持つ。規模は、長軸1.5m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.16mである。底面は、くびれ部が高く、火床部も比較的高い位置にある。側面は、緩やかに立ち上がる。

083号炉穴(7B-イ050)(第50図) 7B-76グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Wに軸を持つ不整形



第49图 炉穴·烧土迹(5)

である。規模は、長軸2.9m、短軸1.8m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、火床部が一段低くなり、側面は、緩やかに立ち上がる。土器片は火床部以外から比較的多く出土した。

084号炉穴 (7B イ051) (第50図) 7B-87グリッドに位置する。平面形は、N-80°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、火床部が一段低くなり、側面は、緩やかに立ち上がる。

085号炉穴 (7B イ052) (第50図) 7B-76グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.08mである。底面は、凹凸を持ち、北西部の覆土に焼土粒が含まれる。

086号炉穴 (7C イ001) (第50図) 7C-91グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.9m、短軸1.6m、検出面からの深さ0.14mである。底面は、やや凹凸が見られ、中心よりやや西側に焼土の堆積が見られる。

087号炉穴 (7C イ002) (第50図) 7C-80グリッドに位置する。088号・089号と群在し、周辺が一段低くなっている。088号と切り合っており、断面図から判断するところらが新しい。平面形は、N-60°-Eに軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、長軸(1.4)m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.4mである。底面は、火床部がかなり深い。

088号炉穴 (7C イ002) (第50図) 7C-80グリッドに位置する。087号と切り合っており断面図から判断するところらが古い。平面形は、N-75°-Wに軸を持つが不整形である。規模は、長軸(0.6)m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.16mである。底面は平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。

089号炉穴 (7C イ002) (第50図) 7C-80グリッドに位置する。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.1m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.16mである。底面は、長軸端が一段低くなる。

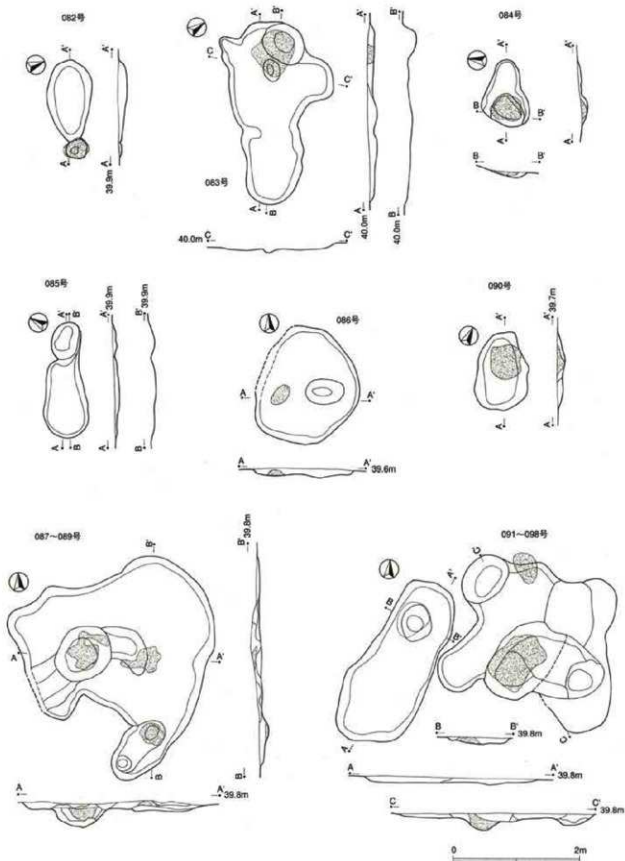
090号炉穴 (7C イ005) (第50図) 7C-51グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.12mである。底面は、火床部がやや低く、側面は、緩やかに立ち上がる。

091号炉穴 (7C イ006) (第50図) 7C-50グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、火床部が若干低く、側面は、緩やかに立ち上がる。遺物は火床部以外から比較的多く出土した。

092号炉穴 (7C イ007イ) (第50図) 7C-50グリッドに位置する。093号から098号炉穴まで切り合いながら群在する。093号と切り合い断面図から判断するところらが新しい。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.8m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.18mである。底面は、中心部が低く、側面は、緩やかに立ち上がる。顕著な焼土の堆積はないが、覆土下層に焼土粒が多く含まれる。

093号炉穴 (7C イ007ロ) (第50図) 7C-51グリッドに位置する。092・094・095号炉穴と切り合っており、断面図から判断するところらが古い。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、比較的平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。

094号炉穴 (7C イ007ハ) (第50図) 7C-51グリッドに位置する。093号・095号・096号炉穴と切り合い断面図から判断すると093号・095号より新しく、096号より古い。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ楕円形



第50图 炉穴・烧土迹 (6)

である。規模は、長軸1.3m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.26mである。底面は、中心部の掘り込みが深く、焼土が厚く堆積する。

095号炉穴(7C-I007二)(第50図) 7C-51グリッドに位置する。平面形は、切り合って削られているため詳細は不明であるが、N-10°-Eに軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、長軸0.8m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、比較的平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。

096号炉穴(7C-I007木)(第50図) 7C-51グリッドに位置する。094・095・096・097・098号炉穴と切り合い断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-50°-Wに軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、長軸0.8m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、南東側がやや低く、その部分に焼土粒が含まれる土が堆積する。

097号炉穴(7C-I007へ)(第50図) 7C-51グリッドに位置する。095・096号炉穴と切り合い、断面図から判断すると095号よりも新しく、096号よりも古い。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、長軸1.2m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、比較的平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。

098号炉穴(7C-I007ト)(第50図) 7C-51グリッドに位置する。096号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形であったと考えられる。規模は、長軸0.6m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.1mである。底面などは096号により削られ、不明である。

099号炉穴(7C-I008イ)(第51図) 7C-30グリッドに位置する。100・101号炉穴と群在する。それらの東側に浅い掘り込み部分があるが、炉穴群に付属するものであるか不明である。100号・101号よりこちらが新しい。平面形は、N-60°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、北西側の火床部が一段深く、側面は、緩やかに立ち上がる。

100号炉穴(7C-I008ロ)(第51図) 7C-30グリッドに位置する。099・101号炉穴と切り合い断面図から判断すると099号より古く、101号より新しい。平面形は、N-60°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.8m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.3mである。掘り込みがしっかりしており、火床部の焼土の堆積が厚い。

101号炉穴(7C-I008ハ)(第51図) 7C-41グリッドに位置する。099・100号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが一番古い。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ楕円形であったと考えられる。規模は、長軸0.7m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.18mである。掘り込みは浅く、側面は緩やかに立ち上がる。焼土の堆積も明確でなく、覆土に焼土粒子が含まれる程度である。

102号炉穴(7C-I009イ)(第51図) 7C-96グリッドに位置する。平面形は、N-10°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m、短軸1.4m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、火床部は103号炉穴との接する部分にある焼土が対応すると考えられる。底面は、北側がやや深く、側面は、緩やかに立ち上がる。

103号炉穴(7C-I009ロ)(第51図) 7C-96グリッドに位置する。104号と切り合うが掘り込みが浅く、新旧関係は不明である。平面形は、N-10°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.5m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.1mである。長軸両端部に焼土の分布がある。底面は、平坦で、側面は、緩やかに立ち上がる。

104号炉穴(7C-I009ハ)(第51図) 7C-26グリッドに位置する。103号と切り合うが、掘り込みが浅く、

新旧関係は不明である。平面形は、N-20°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.2mである。南側に焼土が堆積し、北側が一段低くなる。側面は、緩やかに立ち上がる。

105号炉穴(7C-イ010)(第51図) 7C-21グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸1.4m、検出面からの深さ0.2mである。形状から炉穴としたが、覆土に殆ど焼土は含まれない。側面は、緩やかに立ち上がる。

106号炉穴(7C-イ011)(第51図) 7C-96グリッドに位置する。平面形は、不整形である。規模は、長軸2.0m、短軸1.6m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、やや凹凸があり、側面は、緩やかに立ち上がる。

107号炉穴(7C-イ013イ)(第51図) 7C-97グリッドに位置する。長楕円形の浅い掘り込みの中に108号炉穴と群在する。焼土の堆積する範囲の平面形は、N-40°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.85m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、中心部が深く、側面は、緩やかに立ち上がる。

108号炉穴(7C-イ013ロ)(第51図) 7C-97グリッドに位置する。長楕円形の浅い掘り込みの中に108号炉穴と群在する。焼土の堆積する範囲の平面形は、N-50°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.7m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、中心部が深く、側面は、緩やかに立ち上がる。

109号炉穴(7C-イ014)(第51図) 7C-83グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Eに軸を持つ不整形で、一部攪乱を受けている。規模は、長軸1.6m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、火床部以外が一段低い。

110号炉穴(7C-イ015イ)(第51図) 7C-73グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.9m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、凹凸が見られ、底面からやや浮いたレベルで、焼土の堆積が見られる。

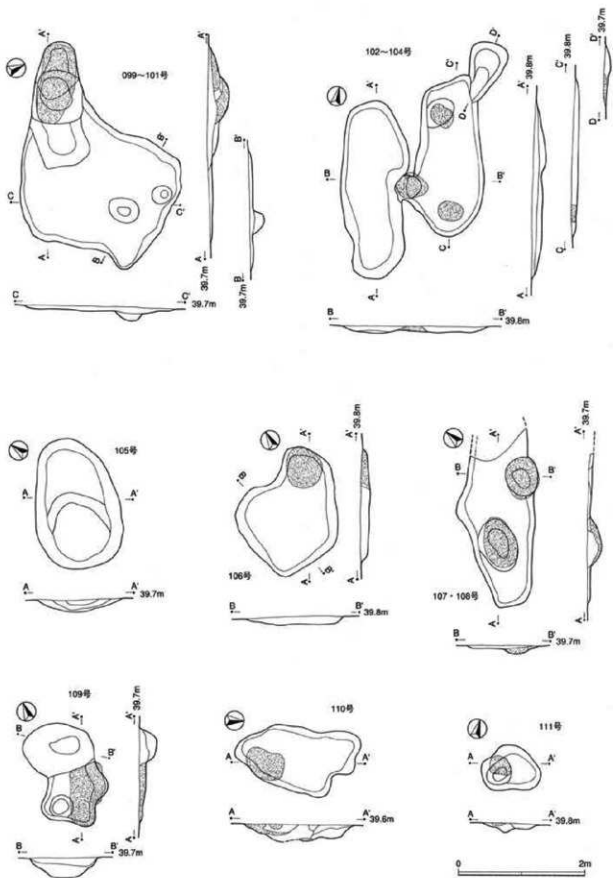
111号炉穴(7C-イ019)(第51図) 7C-96グリッドに位置する。平面形は、N-60°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、南西側が一段低くなり、焼土はやや浮いたレベルで確認できる。側面は、緩やかに立ち上がる。

112号炉穴(7C-イ021ロ)(第52図) 7C-63グリッドに位置する。平面形は、N-60°-Eに軸を持つ楕円形で、南西部に火床部の張り出しを有する。規模は、長軸1.0m、短軸0.45m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、中心部が深く、長軸両端部に焼土の堆積が見られる。

113号炉穴(7C-イ021ハ)(第52図) 7C-63グリッドに位置する。114号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.1m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.15mである。底面は、ほぼ平らで焼土の堆積が厚く、側面は、比較的急に立ち上がる。

114号炉穴(7C-イ021ニ)(第52図) 7C-63グリッドに位置する。113号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが古い。平面形は、N-35°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、中心部が深く、側面は、急に立ち上がる。覆土に焼土の堆積は見られない。

115号炉穴(7C-イ023)(第52図) 7C-94グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Eに軸を持つ楕円形で



第51图 炉穴・烧土跡(7)

ある。規模は、長軸1.2m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、火床部が一段やや低く、火床部側壁は、急に立ち上がる。

116号炉穴(7C-イ024イ)(第52図) 7C-52グリッドに位置する。117~120号炉穴と群在する。117号と切り合っており断面図から判断するところが新しい。平面形は、N-30°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.3mである。火床部は南東端に位置し、中央付近から比較的多くの条痕文系土器片が出土した。側面は、緩やかに立ち上がる。

117号炉穴(7C-イ024ロ)(第52図) 7C-52グリッドに位置する。116・118号炉穴と切り合い、断面図から判断すると116号より古く、118号より新しい。平面形は、切り合いが多く詳細は不明であるが、N-30°-Wに軸を持つ細長い楕円形であると考えられる。規模は、長軸1.5m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.4mである。底面は、火床部が一段低くなり、側面は、緩やかに立ち上がる。

118号炉穴(7C-イ024ハ)(第52図) 7C-52グリッドに位置する。117・119号炉穴と切り合っており断面図から判断すると117号より古く、119号より新しい。平面形は、N-40°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、中心部が低く、側面は、急に立ち上がる。

119号炉穴(7C-イ024ニ)(第52図) 7C-52グリッドに位置する。118号と切り合っており断面図から判断するところが古い。平面形は、N-40°-Eに軸を持つ楕円形であると考えられる。規模は、長軸1.0m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、中心部が低く、側面は、比較的急に立ち上がる。焼土は床面からやや浮いたレベルで堆積する。

120号炉穴(7C-イ024ホ)(第52図) 7C-52グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸推定1.4m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、攪乱が入っており、凹凸が著しい。覆土には焼土が殆ど含まれず、炉穴ではない可能性がある。

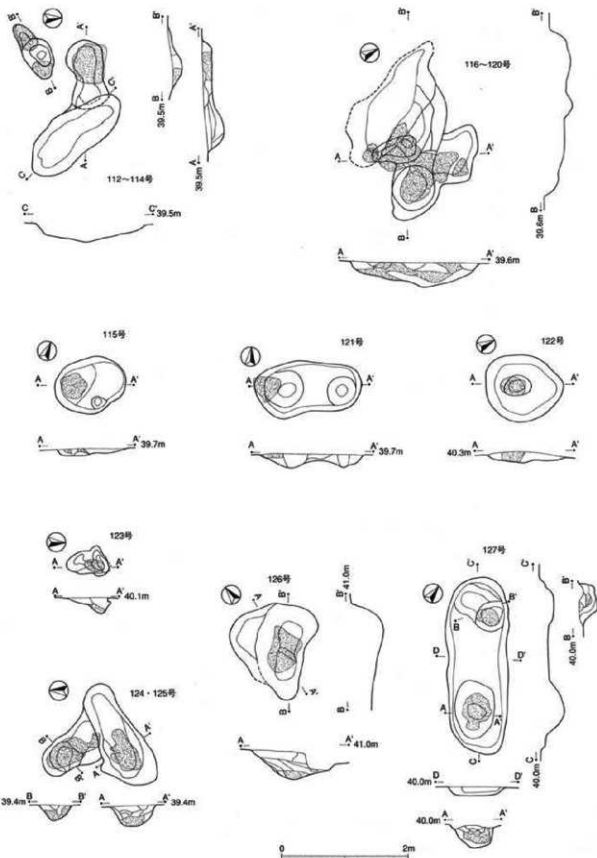
121号炉穴(7C-イ025)(第52図) 7C-84グリッドに位置する。平面形は、N-80°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、長軸両端部が低くなるが、攪乱の影響を受けたものかもしれない。西側に焼土の堆積が見られるが、床面からやや浮いた状態である。遺物は条痕文系土器の細片10点が出土した。

122号炉穴(7G-イ004)(第52図) 7G-60グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Eに軸を持つやや楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.2mである。底面は中心部が低く、その部分に厚く焼土が堆積する。

123号炉穴(7G-イ005)(第52図) 7G-44グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ不整形である。規模は、長軸0.7m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.25mで、小規模である。火床部がビット状に深くなる。

124号炉穴(8C-イ004イ)(第52図) 8C-19グリッドに位置する。125号炉穴と切り合っており断面図から判断するところが古い。平面形は、N-30°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、ほぼ平らであり、火床部を中心に条痕文系土器片が出土した。

125号炉穴(8C-イ004ロ)(第52図) 8C-09グリッドに位置する。124号炉穴と切り合い断面図から判断するところが新しい。平面形は、N-50°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.0m、短軸



第52图 炉穴・烧土跡 (8)

0.6m, 検出面からの深さ0.25mである。底面は、火床部が一段低くなる。焼土の堆積が顕著に見られる。

126号炉穴 (8C-イ006) (第52図) 8C-00グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Eに軸を持つ楕円形で、北西側に浅い張り出し部を持つ。規模は、長軸1.5m, 短軸0.8m, 検出面からの深さ0.45mである。底面は、中心部が低く、側面は、比較的急に立ち上がる。

127号炉穴 (8C-イ008) (第52図) 8C-27グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.8m, 短軸1.0m, 検出面からの深さ0.3mである。長軸両端部が低くなり、その部分に焼土が堆積する。2地点の火床部に時期差がある可能性があるが、新旧関係は不明である。南東側の火床部を中心に条痕土器片が出土した。

128号炉穴 (8C-イ009イ) (第53図) 8C-01グリッドに位置する。130号炉穴と切り合うが新旧関係は判然としない。平面形は、N-30°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.2m, 短軸0.8m, 検出面からの深さ0.3mである。長軸両端部に焼土の堆積が見られる。南西側の底面は、一段低くなる。

129号炉穴 (8C-イ009ロ) (第53図) 8C-01グリッドに位置する。128・130号炉穴と切り合うが128号とは新旧関係不明、130号より古い。平面形は、N-40°-Wに軸を持つ楕円形であると考えられる。規模は、長軸0.6m, 短軸0.4m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、平らで、やや浮いたレベルで焼土が堆積する。側面は、比較的急に立ち上がる。

130号炉穴 (8C-イ009ハ) (第53図) 8C-01グリッドに位置する。129号炉穴と切り合っており断面図から判断するとこちらが新しい。平面形は、N-40°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.4m, 短軸1.0m, 検出面からの深さ0.25mである。底面は、火床部が若干低くなる。側面は、緩やかに立ち上がる。

131号炉穴 (8C-イ010) (第53図) 8C-14グリッドに位置する。平面形は、N-45°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.7m, 短軸0.8m, 検出面からの深さ0.3mである。底面は、南西側の火床部が一段低く、条痕土器片が北東部を中心に出土した。

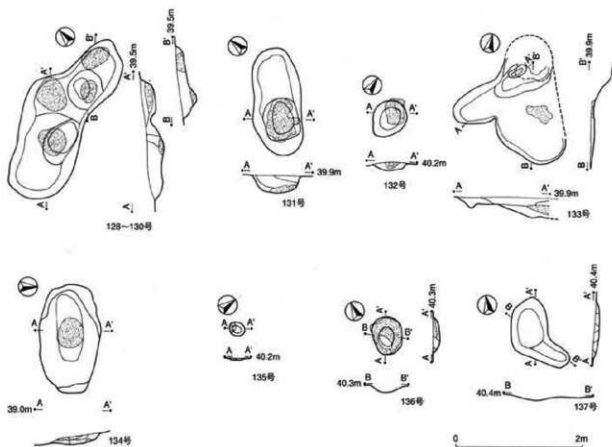
132号炉穴 (8C-イ012) (第53図) 8C-46グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.6m, 短軸0.5m, 検出面からの深さ0.1mである。底面は、中心部がやや低く、側面は緩やかに立ち上がる。小規模で、焼土も底面から浮いて堆積するため、炉穴ではない可能性がある。

133号炉穴 (8C-イ013) (第53図) 8C-46グリッドに位置する。平面形は、南側に浅い張り出し部があり、N-40°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸推定1.1m, 短軸推定0.5m, 検出面からの深さ0.3mである。底面は、北側の火床部が低いのが、攪乱により詳細は不明である。張り出し部にも焼土の堆積が見られ、別の炉穴の可能性が考えられるが、堆積が浅く不明である。条痕土器片がまばらに出土した。

134号炉穴 (8D-イ004) (第53図) 8D-06グリッドに位置する。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.7m, 短軸1.0m, 検出面からの深さ0.1mである。中心部に焼土の堆積が見られ、やや浮いた状態ではあるが、その床面は熱を受け硬化が著しい。

135号炉穴 (10D-イ001) (第53図) 10D-29グリッドに位置する。平面形は、円形である。規模は、径0.25m, 検出面からの深さ0.05mである。掘り込みが浅く、小規模である。

136号炉穴 (10E-イ003) (第53図) 10E-13グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.6m, 短軸0.5m, 検出面からの深さ0.1mである。底面は、中心部がやや低く、側面は、緩やかに立ち上がる。焼土は、床面からやや浮いて堆積する。



第53図 炉穴・焼土跡（9）

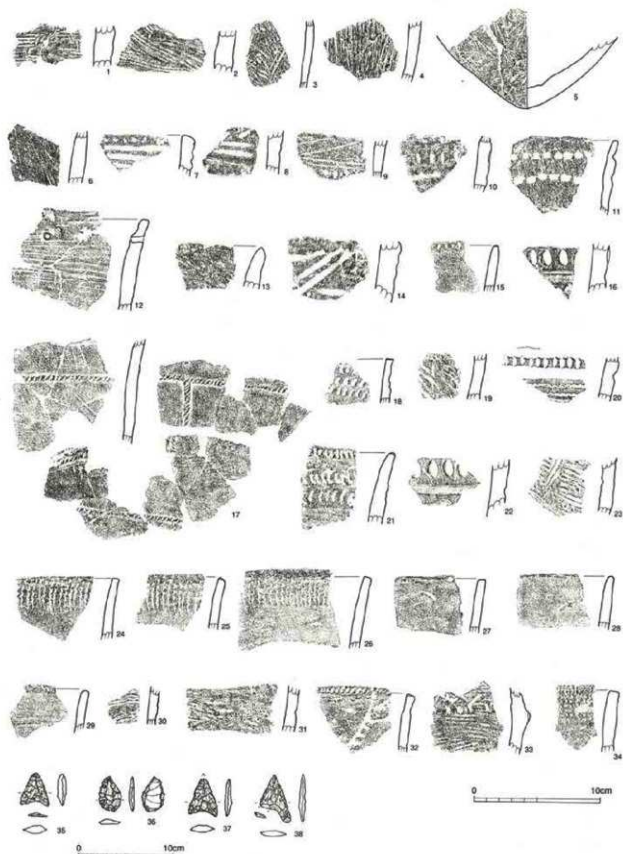
137号炉穴（10E-イ004）（第53図） 10E-21グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Wに軸を持つ不整形である。規模は、長軸1.1m、短軸0.3m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、北側がやや低く、側面は、緩やかに立ち上がる。焼土の明確な堆積はないが、覆土には焼土粒子が含まれる。

4 土坑

土坑として調査されたものの中に形が不整形であり覆土などを考え合わせると攪乱と判断できるものがあったため、それらは整理段階で、遺構番号を欠番とし、削除を行った。土坑は全体的に小規模で、掘り込みが浅く、散在して分布する傾向がある。平面図・断面図は1/40で統一した。

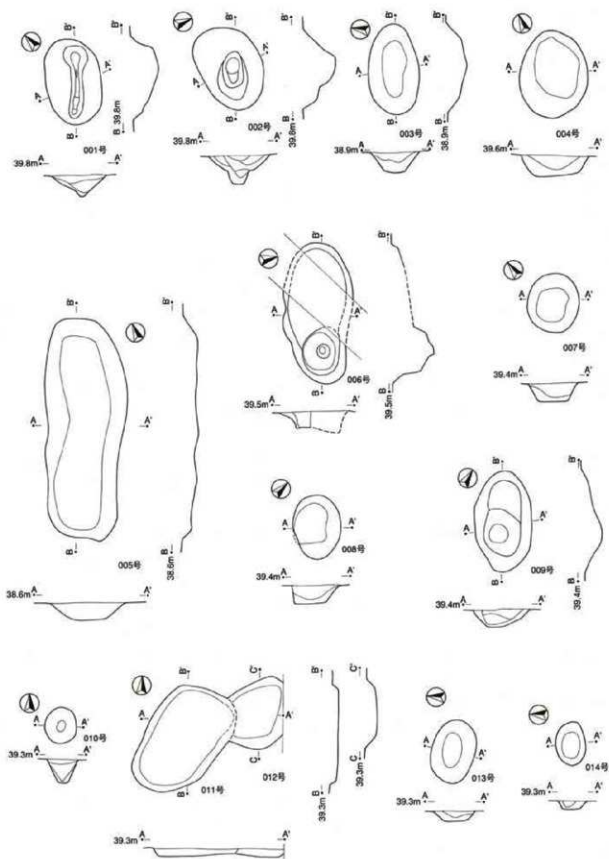
001号土坑（2C-イ001）（第55図） 2C-72グリッドに位置する。平面形は、N-45°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、中心部が急に深くなる。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、上層が黒色土、下層が黄褐色土を主体とする。

002号土坑（2C-イ002）（第55図） 2C-81グリッドに位置する。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.4mである。底面は、中心部が深くなり、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土の堆積状況から新たに掘り直していることが分かる。



第54图 炉穴・烧土跡検出遺物

- 003号土坑 (2E-イ001) (第55図) 2E-84グリッドに位置する。平面形は、N-85°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.0m, 短軸0.5m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを含む暗褐色土を主体とする。
- 004号土坑 (3B-イ002) (第55図) 3B-16グリッドに位置する。平面形は、N-30°-Eに軸を持つほぼ円形に近い楕円形である。規模は、長軸0.9m, 短軸0.7m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土には、ローム粒子が含まれる。
- 005号土坑 (2E-イ002) (第55図) 2E-94グリッドに位置する。平面形は、N-20°-Eに長軸を持つ丸みのある長方形である。規模は、長辺2.3m, 短辺0.8m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土には、底面近くのレベルで木炭粒子が多く含まれる。
- 006号土坑 (3B-イ001) (第55図) 3B-06グリッドに位置する。中心部が攪乱によって削られている。平面形は、N-77°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.5m, 短軸0.7m, 検出面からの深さ0.4mである。底面は、東側がピット状に深くなる。覆土には、ローム粒子が含まれる。
- 007号土坑 (3B-イ003) (第55図) 3B-18グリッドに位置する。平面形は、N-45°-Eに軸を持つほぼ円形の楕円形である。規模は、長軸0.6m, 短軸0.5m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、ローム粒子が含まれる。
- 008号土坑 (3B-イ004) (第55図) 3B-08グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Wに軸を持つほぼ円形に近い楕円形である。規模は、長軸0.7m, 短軸0.5m, 検出面からの深さ0.3mである。底面は、平らで、側面は、南西側が急に立ち上がる。覆土には、ローム粒子が含まれる。
- 009号土坑 (3B-イ005) (第55図) 3B-37グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.1m, 短軸0.6m, 検出面からの深さ0.2mである。底面は、南東側が深く、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、全体的にローム粒子が含まれる。
- 010号土坑 (3C-イ002) (第55図) 3C-71グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つほぼ円形である。規模は、長軸0.4m, 短軸0.3m, 検出面からの深さ0.3mである。底面は、平らで、側面は、やや急に立ち上がる。覆土下層のしまりが非常に強い。
- 011号土坑 (3C-イ003) (第55図) 3C-73グリッドに位置する。012号土坑と切り合っており、断面図から判断するところの方が新しい。平面形は、N-35°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.3m, 短軸0.8m, 検出面からの深さ0.1mである。底面は、平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色土である。
- 012号土坑 (3C-イ004) (第55図) 3C-73グリッドに位置する。011号土坑と切り合っており、断面図から判断するところの方が古い。東側は攪乱によって削られている。平面形は、N-60°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸推定0.9m, 短軸0.7m, 検出面からの深さ0.1mである。底面は、東側がやや深い。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黒褐色土である。
- 013号土坑 (3C-イ005) (第55図) 3C-61グリッドに位置する。平面形は、N-80°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.7m, 短軸0.5m, 検出面からの深さ0.1mである。底面は、ほぼ平らであり、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黄褐色土を主体とし、上層がやや暗い。
- 014号土坑 (3C-イ006) (第55図) 3C-61グリッドに位置する。平面形は、ほぼ東西に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.5m, 短軸0.3m, 検出面からの深さ0.1mである。底面は、平らで、側面は、やや



第55图 土坑(1)

0 1m

緩やかに立ち上がる。覆土は、黄褐色土を主体とし、上層がやや暗い。

015号土坑(3Dイ001)(第56図) 3D-80グリッドに位置する。平面形は、N-45°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、ローム粒子が含まれ、最下層はロームを主体とする。

016号土坑(3Eイ003)(第56図) 3E-70グリッドに位置する。平面形は、N-25°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.7m、短軸0.3m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、平らで、短軸側面は、急に立ち上がる。覆土は、ローム粒子が含まれる暗褐色土である。

017号土坑(3Eイ004)(第56図) 3E-61グリッドに位置する。平面形は、N-75°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.6m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.4mである。底面は、ピット状に中心部が深い。側面は、下部が急で、上部は開きながら立ち上がる。

018号土坑(4Cイ005)(第56図) 4C-81グリッドに位置する。北側は、攪乱によって削られている。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形と推定できる。規模は、長軸は現存で1.3m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、緩やかに立ち上がる。遺物が第1層中から破片ではあるが出土している。覆土は、暗褐色が主体で、最下層はしまりが無い。

019号土坑(4Eイ004)(第56図) 4E-35グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.5m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色土を主体とする。

020号土坑(4Eイ005)(第56図) 4E-35グリッドに位置する。平面形は、N-70°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.0m、短軸0.3m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、西側が一段深くなり、側面も急に立ち上がる。

021号土坑(4Eイ006)(第56図) 4E-45グリッドに位置する。平面形は、N-70°-Wに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸0.9m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、東側がやや深くなり、側面は、比較的急に立ち上がる。覆土は、黄褐色を主体とし、上層がやや暗い。

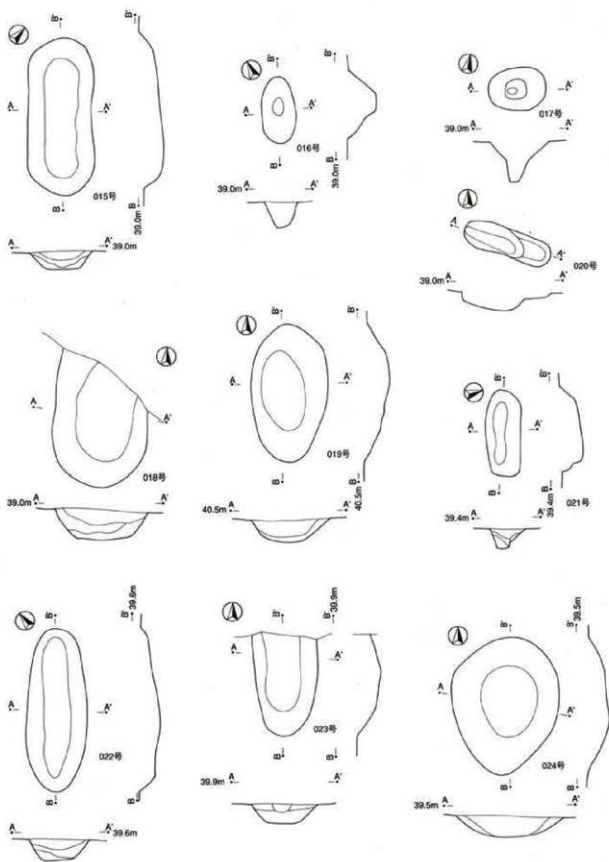
022号土坑(4Fイ002)(第56図) 4F-43グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸0.6m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや凹凸があり、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、暗褐色を主体とし、中層にローム粒子を多く含む。

023号土坑(4Fイ003)(第56図) 4F-09グリッドに位置する。北側は攪乱により削られている。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ細長い楕円形と推定できる。規模は、長軸1.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、中心がやや深く、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黄褐色を主体とし、上層が暗い。

024号土坑(6Bイ003)(第56図) 6B-81グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.4m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、丸みを持つ。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ローム粒子が含まれる暗黄褐色土である。

025号土坑(6Bイ013)(第57図) 7B-71グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Eに軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸2.0m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、2か所でやや深い部分があり、側面は緩やかに立ち上がる。覆土は、しまりの弱い暗黄褐色土を主体とする。

026号土坑(6Dイ015)(第57図) 6D-51グリッドに位置する。009号堅穴(6Dイ004)を切る。平面形



第56图 土坑(2)

0 1m

は、ほぼ東西に軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とする。

027号土坑(6Dイ021)(第57図) 6D-49グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや凹凸があり、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

028号土坑(6Dイ022)(第57図) 6D-48グリッドに位置する。北側は攪乱により削られている。平面形は、N-25°-Wに軸を持つびつな楕円形である。規模は、長軸現存1.6m、短軸1.6m、検出面からの深さ0.2mである。底面東側に2つのビットを持つ。ビットの規模は西から径20cm、深さ32cm、径16cm、深さ18cmである。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土最下層に炭化物粒子が少量含まれる。

029号土坑(6Dイ025)(第57図) 6D-70グリッドに位置する。平面形は、N-50°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.5m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや丸みを持ち、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、全体的にロームが多く含まれる。

030号土坑(6Dイ027)(第57図) 6D-60グリッドに位置する。平面形は、N-65°-Eに軸を持つびつな楕円形である。規模は、推定長軸1.2m、短軸0.4m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、やや急に立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とする。

031号土坑(6Dイ028)(第58図) 6D-70グリッドに位置する。平面形は、N-65°-Wに軸を持つ楕円形と考えられる。規模は、現存長軸2.0m、短軸1.5m、検出面からの深さ0.1mである。掘り込みが浅く、西側壁は検出することができなかった。底面の東側にビットを有し、規模は径45cm、深さ36cmである。側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

032号土坑(7Bイ043)(第58図) 6B-04グリッドに位置する。平面形は、いびつな円形である。規模は、径1.5m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、炭化物粒子が少量含まれる。

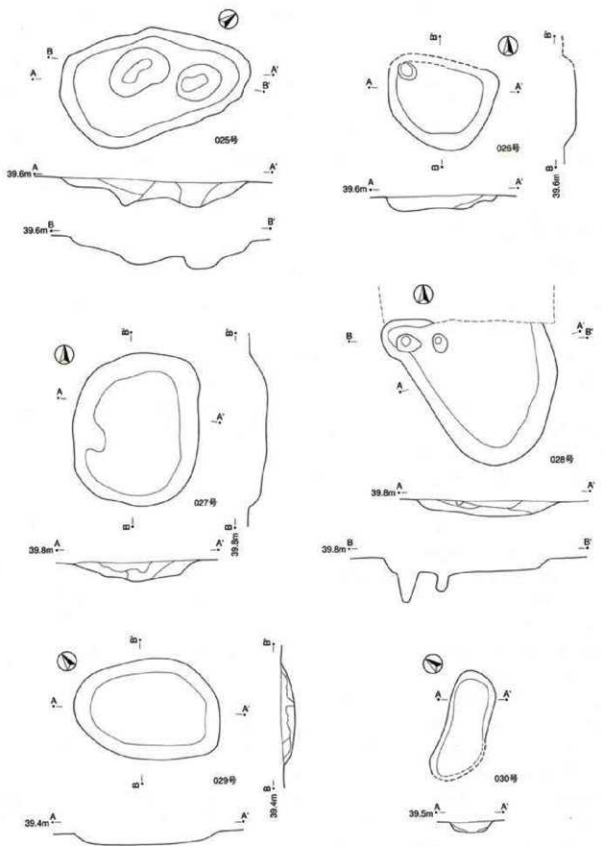
033号土坑(7Dイ008)(第58図) 7D-21グリッドに位置する。平面形は、N-65°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土上層から遺物が出土している。覆土には、全体的にロームブロックが含まれる。

034号土坑(7Dイ017)(第58図) 7D-82グリッドに位置する。平面形は、ほぼ南北に軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.8m、短軸1.2m、検出面からの深さ0.4mである。底面は、凹凸が見られ、側面は、やや急に立ち上がる。覆土は、上層にローム粒子、下層にロームブロックが含まれる。

035号土坑(7Dイ005)(第58図) 7D-01グリッドに位置する。平面形は、N-80°-Wに軸を持つややいびつな楕円形である。規模は、長軸1.9m、短軸1.6m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、ほぼ平らで、側面は緩やかに立ち上がる。覆土は、全体的にロームが多く含まれる。

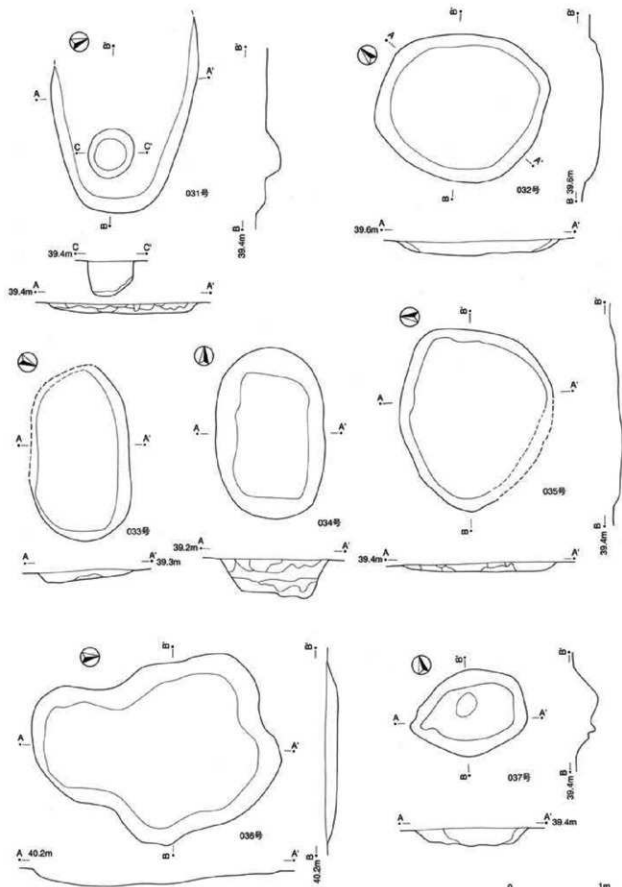
036号土坑(7Fイ003)(第58図) 7F-08グリッドに位置する。平面形は、不整形である。規模は、最も長い部分で、2.6m、短い部分で1.9m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、やや凹凸が見られ、側面は、緩やかに立ち上がる。南端部の覆土上層から遺物が出土している。覆土は、暗黄褐色土を主体とする。

037号土坑(7Eイ001)(第58図) 7E-29グリッドに位置する。平面形は、N-80°-Wに軸を持つびつ



第57圖 土坑(3)

0 1m



第58图 土坑(4)

な楕円形である。規模は、長軸1.2m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、凹凸が大きく、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

038号土坑(7D-イ014)(第59図) 7D-73グリッドに位置する。平面形は、ほぼ円形である。規模は、径1.9m、検出面からの深さ0.2mである。底面は、ほぼ平らで、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、全体的にロームが多く含まれる。

039号土坑(7F-イ004)(第59図) 7F-79グリッドに位置する。平面形は、不整形である。規模は、最も長い部分で1.9m、短い部分で1.7m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、中心部に深い部分があり、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土は、黒褐色土を主体とし、下層にロームが多く含まれる。

040号土坑(7H-イ002)(第59図) 7H-88グリッドに位置する。中央部に攪乱を受けている。平面形は、N-80°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.6m、短軸0.9m、検出面からの深さ0.1mである。底面は攪乱により不明、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、炭化物粒子が含まれる。

041号土坑(8C-イ007)(第59図) 8C-27グリッドに位置する。平面形は、N-35°-Eに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸0.7m、短軸0.5m、検出面からの深さ0.1mである。底面は、いびつで、側面は、やや緩やかに立ち上がる。南端部に遺物が出土している。覆土上層に焼土が含まれる。

042号土坑(10H-イ001)(第59図) 10H-04グリッドに位置する。平面形は、N-55°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸2.2m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、やや丸みを持ち、側面は、緩やかに立ち上がる。覆土には、ローム粒子・ブロックが含まれる。

043号土坑(8F-イ002)(第59図) 8F-74グリッドに位置する。平面形は、N-20°-Eに軸を持つ細長い楕円形である。規模は、長軸3.9m、短軸1.7m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、東側に向かって深くなり、側面は、急に立ち上がる。覆土は、灰褐色の粘土である。

044号土坑(9F-イ002)(第59図) 9F-24グリッドに位置する。平面形は、N-55°-Wに軸を持つ楕円形である。規模は、長軸1.5m、短軸0.8m、検出面からの深さ0.3mである。底面は、丸みを持ち、側面は、やや緩やかに立ち上がる。覆土は、ロームを主体とする。

第2節 遺構出土遺物

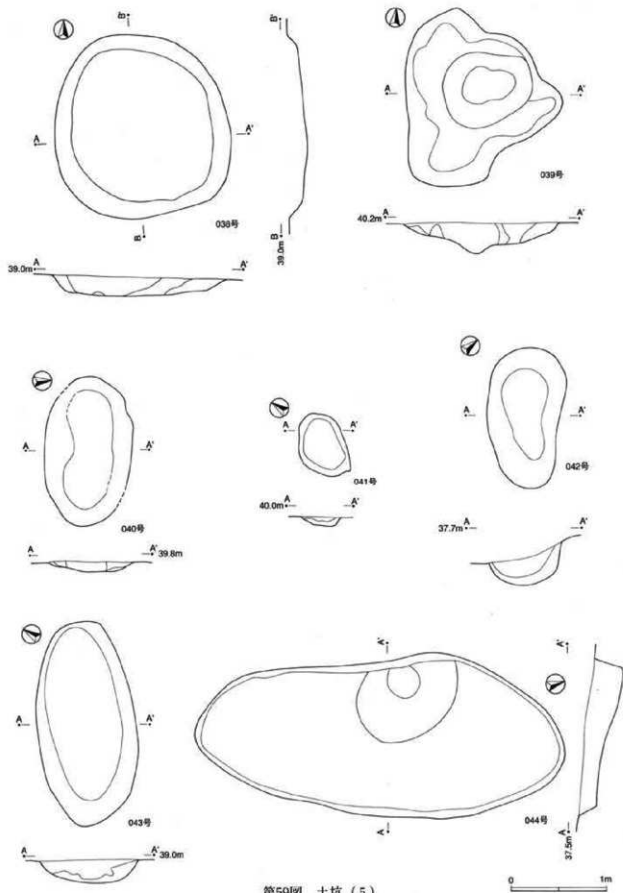
遺構から出土した遺物は殆どが小片であり、積極的に遺構の時期を特定することはできないものが多い。しかし、周辺グリッドから出土した遺物を考慮しても第1節で記載を行った殆どの遺構が早期に属するとして良いと思われる。

1 竪穴住居跡・竪穴状遺構

001号竪穴(4C-イ002) 時期：早期沈線文系(第7図1, 図版15) 1は三戸・田戸下層の時代の土器片で尖底部分の破片である。

002号竪穴(4C-イ004) 時期：早期条痕文系(第7図1~3, 図版15) 1は口縁部下部の屈曲部分の破片である。鶴ヶ島台式土器の時期であろうか。2・3は茅山式土器の胴部破片である。縦方向の条痕文が特徴的である。

003号竪穴(5C-イ010) 時期：早期(第7図1・2, 図版15) 1は茅山式土器, 2は黒曜石製の縦長割片である。石鏃の素材であろう。全長2.3cm, 幅1.25cm, 厚み0.6cm, 重量1.2gである。



第59图 土坑(5)

006号竪穴(6Dイ007)時期:早期沈線文系(第8図1~5, 図版15) 1は胴部破片で縦方向に沈線が見られる。2は胴部上半の破片で横方向に太沈線が見られる。胎土に繊維が混ざる。田戸上層に比定される。3は胴部小破片で刺突文と貝殻緑線で施文されている。4は胴部小破片で縦・斜め縦方向に条痕文が見られる。5は口縁部に近い胴部破片で横方向に擦痕が見られる。胎土には繊維が含まれる。田戸上層に比定される。

007号竪穴(6Dイ010)時期:早期沈線文系(第9図1~3, 図版15) 1は口縁部破片で横方向と右斜め方向の格子状の条線文が施文されている。三戸式に比定される。2・3は胴部破片で2のように横方向の条痕文, 3のように縦方向を基調とした条痕文が見られるものがある。

008号竪穴(6Dイ013)時期:早期沈線文系(第10図1~3, 図版15) 1は胴部破片で横方向と斜め左方向の格子状の条線文が施文されている。三戸式に比定される。2は胴部破片で斜条線で施文されている。3は胴部破片で格子目の条痕文で施文されている。

009号竪穴(6Dイ014)時期:早期沈線文系(第11図1~14, 図版15) 1は胴部上半の破片で横方向に条線と格子状の条線を組み合わせて施文している。直下に斜行細沈線を配置している。2は胴部破片で斜格子目文と条線文で施文している。3~7は胴部破片で斜条線文で施文されている。これらは三戸式に比定される土器片と思われる。8は胴部破片で太沈線による施文が行われている。田戸下層に比定される。9~13は胴部下半の破片で斜め縦方向の条痕文が特徴的なものである。田戸下層に比定される。14は胴部破片で前期末に比定される土器片である。斜縄文が施文されている。前期末に比定される土器片で遺構には伴わない。

010号竪穴(6Dイ016)時期:早期沈線文系(第12図1~13, 図版15) 1は口縁部破片で横方向に条線と格子状の条線を組み合わせて施文している。2は口縁下部の破片で格子状の条線が施文されている。3は口縁下部の破片で条線に連続爪形文が伴うものである。4は口縁部破片で一部に条痕文が見られる。5~11は口縁部・胴部破片で条痕文が見られるものである。12・13は底部破片で特徴的な尖底という器形で無文である。これらは三戸・田戸下層の時期に比定されるものである。

012号竪穴(6Dイ019)時期:早期沈線文系(第13図1~8, 図版15) 1は口縁部破片で縦方向に並行する太沈線の見られるものである。2は口縁部下部の破片で横方向の細沈線で施文されているものである。3は口縁部下部の破片で1と同様に並行する太沈線で施文されている。4は口縁部破片で横方向で区画された中に斜め方向に細沈線を充填している。5~8は条痕文で施文されている。5は胎土に細粒砂を含む。6~8は胎土に繊維を含む。田戸下層の時期に比定される。

016号竪穴(6Eイ001)時期:早期沈線文系(第15図1~8, 図版15) 1・2は口縁部破片でいずれも斜め縦方向に細沈線で施文されたものである。3は口縁部下部の破片で斜め横方向に貝殻緑線で施文されているものである。4は胴部上半の破片で3と同様に斜め横方向に細沈線で区画された中に貝殻緑線で施文されたものである。5は胴部の小破片で胎土に礫の小粒が入っている。斜め縦方向の条痕文が施文されている。これらは田戸下層の時期に比定されるものである。6は胴部下半の破片で器表裏面両方に縦方向の条痕文が見られる。早期茅山式土器の破片と思われ遺構に伴うものとは思われない。7は焼けた安山岩製の石皿である。遺存状況は半割した状態である。使用された面には作業による蜂の巣状のくぼみが2か所みられる。全長13.3cm, 幅14.8cm, 厚み5.5cm, 重量1450gである。8は焼けた凝灰岩製の磨石である。扁平楕円盤を使用して縁辺部に沿って打撃痕, 扁平な表裏面には擦痕がそれぞれ見られる。全長

6.0cm, 幅8.7cm, 厚み4.3cm, 重量269.3gである。

018号壺穴(7B-イ003)時期:早期沈線文系(第15図1, 図版16)1は口縁部破片で細沈線とその直下に棒状工具で刺突する施文が行われている。田戸下層あたりに比定される。

019号壺穴(7C-イ016)時期:早期沈線文系(第16図1・2, 図版16)1・2ともに胴部破片で斜め縦方向の太沈線で施文されている。田戸下層に比定されるものである。

020号壺穴(7C-イ017)時期:前期黒沢期(第17図1~19, 図版16)1~19は全て縄文時代前期黒沢式土器である。胎土には全て繊維が含まれている。1・8は口縁部~胴部にかけての大形の破片で斜縄文で施文されている。他は胴部上半~下半部の破片で比較的密な状態で施文されている。

021号壺穴(7C-イ026)時期:早期沈線文系(第16図1, 図版16)1は尖底部分の大形破片で文様はケズリ調整で無文である。田戸下層に比定されるものと思われる。

022号壺穴(7D-イ001)時期:早期沈線文系(第18図1~6, 図版16)1は口縁部破片で口唇に縦方向の太い沈線文, 以下に細沈線を充填している。2は口縁部破片で口唇に刺突文, 口唇部は無文である。3は口縁部破片である。胎土に小粒塵が入り削痕文が見られる。4は口縁部破片である。胎土に繊維が含まれる。無文である。子母口式土器かもしれない。5は胴部上半の破片である。3と同様に削痕文が見られる。6は尖底土器の底部破片である。4を除いて早期三戸・田戸下層あたりに比定される。

023号壺穴(7D-イ002)時期:早期沈線文系(第18図1~5, 図版16)1は口縁部破片で口唇に刺突文, 以下横方向の沈線と格子状の沈線を配置している。2は口縁下部の破片で横方向の太沈線と斜め縦方向の沈線を配置して格子状の文様を構成している。3~5は胴部破片で縦方向の細沈線を施文している。三戸・田戸下層の時期あたりに比定される。

024号壺穴(7D-イ003)時期:早期沈線文系(第19図1~5, 図版16)1は口縁部下部の破片で縦方向の細沈線, 以下横方向の細沈線を充填している。2は胴部破片で横方向の細沈線, 斜め方向と縦方向の細沈線で格子状の文様・貝殻腹縁文で構成されている。3は波状口縁部の破片で口縁に沿って横方向の貝殻腹縁文で施文されている。4は胴部小破片で斜め方向に貝殻腹縁文で施文されている。5は胴部小破片で細かい爪形文と条痕文が施文されている。三戸・田戸下層の時期あたりに比定される。

025号壺穴(7D-イ006)時期:早期沈線文系(第19図1・2, 図版16)1は口縁部下部の小破片で横方向の細沈線が施文されている。2は胴部破片で条痕文が施文されている。田戸下層あたりに比定される。

026号壺穴(7D-イ007)時期:早期沈線文系(第20図1~4, 図版16)1~4は胴部破片で斜め方向に条痕文が施文されている。田戸上層あたりに比定される。

027号壺穴(7D-イ010)時期:早期沈線文系(第20図1, 図版16)1は口縁部破片で縦方向に条痕文が施文されている。田戸上層あたりに比定される。

028号壺穴(7D-イ011)時期:早期沈線文系(第21図1, 図版16)1は胴部破片である。無文である。

029号壺穴(7D-イ012)時期:早期沈線文系(第21図1~5, 図版16)1~3・5は口縁部下部の破片で条痕文が施文されている。4は口縁部破片で口唇が無文で口縁部以下に条痕文が施文されている。

031号壺穴(7D-イ015)時期:早期沈線文系(第22図1・2, 図版16)1は胴部の破片で条痕文が施文されている。2は黒曜石製の石鏃である。形状は短い二等辺三角形で基部はやや凹気味である。調整は細かい剥離で丁寧に行われている。全長1.6cm, 幅1.1cm, 厚み0.3cm, 重量0.5gである。

032号壺穴(7D-イ016)時期:早期沈線文系(第22図1~9, 図版16)1は口縁部破片である。口端は

内削ぎ状で口縁部にかけては横方向の沈線と間に連続の爪形文を配置している。2は胴部小破片で斜格子目沈線が見られる。3・4は口縁部下部の破片で条線と直下に太沈線を配置している。5は胴部破片で沈線と貝殻緑文が施文されている。6・7は胴部下部の破片で縦方向の条痕文が見られる。8はややゆるい実底土器の底部破片である。これらは田戸下層のあたりの時期に比定される。9は胴部下部の破片である。斜縄文が施文されている。

033号竪穴 (7G-イ003) 時期: 早期沈線文系 (第23図1・2, 図版16) 1は胴部上半破片である。上部を沈線と貝殻緑文で、中程を斜格子目沈線でさらに下部には短刻線による施文が見られる。2は胴部下半の破片で太沈線による施文が見られる。1のやや下部の破片である可能性が高い。

034号竪穴 (8C-イ003) 時期: 早期沈線文系 (第23図1~6, 図版16) 1は口縁部破片である。口端はやや角頭気味で口縁部に並行沈線と間に短刻線で充填する。やや下部には格子目沈線が施文されている。2は口縁部破片で格子目状の条線で施文されている。3は口縁部小破片で斜め縦方向の沈線で施文されている。4・5は胴部上部の破片で3と同様に斜め縦方向の沈線で施文されている。6は安山岩製の磨石である。扁平楕円形の縁辺部には打撃痕が残されている。表表面の平らな部分の中央部は打撃によるくぼみがある。さらにその周りは砥石状に磨かれている。全長11.0cm, 幅7.9cm, 厚み4.3cm, 重量619gである。土器片は三戸・田戸下層のあたりに比定されるものである。

035号竪穴 (8C-イ005) 時期: 早期沈線文系 (第24図1~23, 図版17) 1は口縁部破片である。口端はやや角頭気味で口縁部から帯状格子目文を鋸歯状に施文している。2・3は口縁部下部の破片で1と同じ個体と思われる。4~6・8は口縁部破片で口縁に平行沈線を施文している。7・9~17は胴部の破片で帯状格子目文を鋸歯状に施文し、文様帯の上下に平行沈線で施文している。1と同一個体である可能性がある。18は胴部破片で沈線及び細沈線で施文されている。19~21は胴部破片で横方向あるいは縦方向の太沈線で施文されている。22は胴部小破片で浅い横方向の条線で施文されている。23は胎土に小粒を含んでいる。斜め方向に削痕のようなものが認められる。これらは三戸式土器のあたりに比定されるものと思われる。

036号竪穴 (8D-イ001) 時期: 早期沈線文系 (第25図1~8, 図版17) 1は口縁部破片である。口端はやや角頭気味で口縁部から縦方向に太沈線で施文されている。2は口縁部下部の破片で線状の沈線と条線文を組み合わせる施文している。3・4は胴部小破片で線状の沈線で施文されている。5~8は口縁部から胴部下にかけての破片である。縦方向と斜め方向の条痕を組み合わせる施文している。

037号竪穴 (8D-イ002) 時期: 早期沈線文系 (第25図1~4, 図版17) 1は口縁部破片である。口縁から横方向に太沈線で施文されている。2は口縁部下部の破片で横方向の太沈線を主体として一部刺突文を充填している区画がありそうである。3は胴部下部の破片で縦方向の太沈線が施文されている。4は胴部下部の破片で縦方向の条痕文で施文されている。

040号竪穴 (8D-イ006) 時期: 早期沈線文系 (第26図5, 図版17) 1は安山岩B製の石鎌である。先端と左脚部の一部が欠損している。両面とも大きめの剥離でやや大雑把に仕上げられている。残全長1.1cm, 幅0.9cm, 厚み0.3cm, 重量0.2gである。

041号竪穴 (8D-イ007) 時期: 早期沈線文系 (第26図1~4, 図版17) 1は胴部下部の破片である。格子目沈線が施文されている。2・3は胴部の破片で斜め縦方向の太沈線が施文されている。4は緑泥片岩製の局部磨製剥片である。縁辺の一部が研磨されている。残全長3.0cm, 幅2.7cm, 厚み0.5cm, 重量

7.8gである。

2 炉穴 (第54図1~38, 図版18)

1・2は002号炉穴から検出されたものである。ともに口縁部下部の破片で内外面ともに横方向主体の条痕文が施文されている。茅山式に比定される。3は007号炉穴から検出されたものである。胴部破片で外面に斜め縦方向の条痕文が施文されている。胎土には繊維も含まれる。子母口式が野鳥式あたりに比定される。4は011・012号炉穴から検出されたものである。胴部下部の破片で表裏面ともに縦方向の条痕文が施文されている。胎土には繊維も含まれる。茅山式に比定される。5は019号炉穴から検出されたものである。やや鈍角な底部破片で条痕文が施文されている。胎土には若干繊維が含まれる。田戸上層あたりに比定される。6は025・026号炉穴から検出されたものである。口縁部下部の破片で斜め縦方向に削痕が見られる。胎土には若干繊維が含まれる。田戸上層あたりに比定される。7~11は029号炉穴から検出されたものである。7は口縁部破片, 8は口縁部下部の破片でいずれも横方向の太沈線と刺突による施文が行われている。9・10は口縁部下部の破片で横方向の沈線と刺突による施文が行われている。11は口縁部破片で横方向の連続刺突文が施されている。胎土には若干の繊維が含まれる。田戸上層あたりに比定される。12は026号炉穴から検出されたものである。口縁部の大形破片で外面に浅い条痕文が施文されている。胎土には若干の繊維が含まれる。子母口式が田戸上層あたりに比定される。13・14は030号炉穴から検出されたものである。13は口縁部破片で削痕が残されている。14は口縁部下部の破片で太沈線による施文が見られる。三戸・田戸下層あたりに比定される。15は049号炉穴から検出されたものである。口縁部破片で口唇に刻目文が見られる。胎土には繊維が含まれる。子母口式あたりに比定される。16は036号炉穴から検出されたものである。口縁部破片で口縁にやや大きめの刺突と下部に横方向の沈線で施文されている。田戸下層あたりに比定される。17は049号炉穴から検出されたものである。口縁下部~胴部にかけての大形破片である。刻目を持つ隆起線と浅い条痕文が施文されている。胎土には繊維が含まれる。子母口式あたりに比定される。18は051号炉穴から検出されたものである。口縁部小破片で連続刺突文による施文が見られる。胎土には若干の繊維が含まれる。子母口式が野鳥式あたりに比定される。19は054号炉穴から検出されたものである。胴部上半の小破片で斜め方向の沈線が施文されている。子母口式あたりに比定される。20は063号炉穴から検出されたものである。口縁下部の破片で横方向の太沈線の上方に平行して刺突文, 下方に貝殻腹縁文が施文されている。21・22は064号炉穴から検出されたものである。21は口縁部破片で口唇に刻目, 口縁部に連続刺突文が2条見られる。胎土には繊維が含まれる。子母口式あたりに比定される。22は胴部破片で太沈線と刺突による施文が行われている。田戸下層あたりに比定される。23は076号炉穴から検出されたものである。口縁部破片で内外面ともに横方向の条痕文が施文されている。胎土には繊維が含まれる。茅山上層あたりに比定される。24~27は083号炉穴から検出されたものである。24~26は口縁部破片で口唇は縞条帯圧痕文で施文されている。口縁部は縦方向の貝殻腹縁文が施文されている。胎土には繊維が含まれる。子母口式あたりに比定される。27は口縁部破片で内外面に擦痕文が見られる。胎土には繊維が含まれる。子母口式あたりに比定される。28は092~098号炉穴から検出されたものである。口縁部破片で97と同様に内外面に擦痕文が見られる。胎土には繊維が含まれる。子母口式あたりに比定される。29~31は094号炉穴から検出されたものである。29は口縁部破片で口端が角頭気味で口縁部に縦方向の条痕もしくは条線が見られる。三戸式に比定されるものである。30・31は口縁下部で胎土に

小粒の礫を含み削痕文が見られる。三戸式に比定されるものである。32は124・125号炉穴で検出されたものである。胴部破片で削痕文と思われる。胎土には小粒の礫を含む。三戸式に比定されるものである。33は128・129号炉穴から検出されたものである。胴上部の破片で刺突文と沈線文で施文されている。胎土には繊維が含まれる。縄ヶ島台式に比定される。31は131号炉穴から検出されたものである。口縁部破片で口唇から口縁部にかけて貝殻腹縁文で施文されている。胎土には繊維が含まれる。子母口式あたりに比定される。35～38は炉穴から検出された石器類である。35・36は037号炉穴から検出されてものである。35は黒曜石製の石鎌である。形状は二等辺三角形に近く基部は凹基のものである。調整は両面ともに細かい剥離で丁寧に行われている。全長1.7cm, 幅1.6cm, 厚み0.4cm, 重量0.9gである。36は凝灰岩製の尖頭器状石器である。片面のみ周辺部より中央に向かって調整を行っている。全長1.8cm, 幅1.12cm, 厚み0.2cm, 重量0.3gである。37は019号炉穴から検出されたチャート製の石鎌である。形状は二等辺三角形に近く基部は凹基になる。調整は両面ともに細かい剥離で丁寧に行われている。先端部の一部が欠損している。全長1.9cm, 幅1.4cm, 厚み0.3cm, 重量0.7gである。38は061号炉穴から検出された安山岩A製の石鎌である。片脚が大きく欠損している。元々二等辺三角形に近い形状で基部は凹基である。両面とも細かい剥離で丁寧な調整が行われている。残全長2.5cm, 幅1.6cm, 厚み0.3cm, 重量0.8gである。

3 土坑 (第44図1～12, 図版17)・陥穴 (第44図13～49, 図版17)

1は026号土坑から検出されたものである。胴部破片で斜格子目条線で施文されている。三戸式に比定される。2は029号土坑から検出されたものである。胴部小破片で格子目条線で施文されている。三戸式に比定される。3・4は030号土坑から検出されたものである。3は胴部小破片で沈線と連続刺突文で施文されている。田戸下層に比定される。4は胴下部に破片で縦方向の条線が施文されている。三戸式に比定される。5は032号土坑から検出されてものである。口縁部破片で外面は無文で胎土に繊維を含む。茅山上層あたりに比定される。6は033号土坑から検出されたものである。胴部の破片で斜条線が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。7は036号土坑から検出されたものである。横方向の沈線が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。8・9は035号土坑から検出されたものである。8は口縁部破片で口唇は内削ぎ状になっている。沈線と連続刺突文により施文されている。9は胴部破片で横沈線で施文されている。いずれも三戸・田戸下層に比定される。10は041号土坑から検出されたものである。胎土には小粒の礫を含む。削痕文で施文されている。三戸・田戸下層に比定される。11は033号土坑から検出された黒曜石製の石鎌である。片脚が大きく欠損しているが元々短めの二等辺三角形に近い形状で基部は凹基である。両面ともにやや粗く周辺部より調整して仕上げている。残全長1.7cm, 幅0.4cm, 厚み0.5cm, 重量1.0gである。12は025号土坑から検出された安山岩製の磨石である。やや扁平な楕円礫が分割されており周辺部と先端部に打撃痕, 平坦な両面に磨き痕が残されている。残全長5.2cm, 幅6.6cm, 厚み3.5cm, 重量160gである。13は017号陥穴から検出されたものである。胴部上半の小破片で横方向の細沈線の一部が見られる。三戸・田戸下層に比定される。14・15は025号陥穴から検出されたものである。14は口縁下部の破片で内外面に横方向の条痕文が施文されている。茅山式に比定される。15は口縁部破片で口唇に押圧沈線, 口縁部に条痕文が見られる。茅山式に比定される。16・17は040号陥穴から検出されたものである。16は口縁下部の破片で斜め方向の条線と格子目細沈線で構成されている。17は口縁下部の破片で格子目細沈線で構成されている。いずれも三戸式に比定される。18は042号陥穴から検出されたも

のである。胴部破片で縦方向・横方向の細沈線で作られている。三戸・田戸下層に比定される。19は047号陥穴から検出されたものである。胴部破片で横方向の細沈線と貝殻腹縁文で作られている。三戸・田戸下層に比定される。20は049号陥穴から検出されたものである。胴部破片で横方向の細沈線と貝殻腹縁文で施文されている。田戸下層に比定される。21は052号陥穴から検出されたものである。胴部小破片で斜め方向に貝殻腹縁文が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。22・23は055号陥穴から検出されたものである。22は胴部破片で格子目沈線が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。23は口縁部破片で横方向の細沈線と貝殻腹縁文が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。24は057号陥穴から検出されたものである。胴部破片で横方向と格子目沈線が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。25は056号陥穴から検出されたものである。胴部上半の破片で横方向の太沈線が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。26・27は056号陥穴から検出されたものである。胴部破片でいずれも斜め方向の条痕文が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。28は083号陥穴から検出されたものである。縦方向・横方向の細沈線が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。29は072号陥穴から検出されたものである。無文で胎土に粒が入り削痕が見られるものもある。三戸・田戸下層に比定される。30～34は077号陥穴から検出されたものである。30は底部に近い胴部破片で横方向の平行沈線が施文されている。田戸下層に比定される。31は胴部小破片で格子目文が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。32は胴部破片で条線による施文が見られる。三戸・田戸下層に比定される。33は胴部小破片で太沈線による施文が見られる。田戸下層に比定される。34は胴部小破片で斜め方向の細沈線が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。35・36は081号陥穴から検出されたものである。35は胴部破片で横方向の太沈線と斜め方向の沈線が施文されている。36は斜方向の沈線が施文されている。いずれも三戸・田戸下層に比定される。37・38は082号陥穴から検出されたものである。37は胴部破片で横方向に貝殻腹縁文で施文されている。38は胴部破片で条痕文が施文されている。いずれも三戸・田戸下層に比定される。39は093号陥穴から検出されたものである。口縁部破片で横方向に沈線文と刺突文で施文されている。三戸・田戸下層に比定される。40は094号陥穴から検出されたものである。口縁部破片で縦方向に沈線文で施文されている。三戸・田戸下層に比定される。41・42は094号陥穴から検出されたものである。41・42は胴部破片で無文である。胎土に小粒を含み擦痕が見られるものもある。三戸・田戸下層に比定される。43・44は胴部破片で横方向の太沈線が施文されている。45・46は098号陥穴から検出されたものである。45は胴部小破片で沈線文と刺突文で施文されている。三戸・田戸下層に比定される。46は胴部破片で条線文が施文されている。三戸・田戸下層に比定される。47は107号陥穴から検出されたものである。条痕文で施文されている。三戸・田戸下層に比定される。48は116号陥穴から検出されたものである。胴部上半の破片で沈線が鋸歯状に施文している。三戸・田戸下層に比定される。49は047号陥穴から検出された黒曜石製の細部調整のある剥片である。搔器かもしれない。全長1.3cm、幅2.8cm、厚み0.5cm、重量1.8gである。

第3節 包含層の調査

1 出土状況

今回の調査では、縄文時代早期の包含層として48,000m²の調査を行った。別地区1・2（東側）、別地区3・4（南側）、北側を67C地区として別個にあつている。内訳は以下に記載するが、約6割は条痕文系土器で占められ、残りは早期の摺糸文、押型文、沈線文、前期黒浜、浮島等が検出されている。

これらを大別すると以下のとおりに分類することができた。

第I群土器 草創期爪型文土器

総出土量は15点とわずかである。北側の67C地区として調査された15Iグリッド範囲より集中して検出された。

第II群土器 早期前半の摺糸文系土器

総出土量は605点で8Gグリッドと7Dグリッド周辺でやや多く検出された。

第III群土器 早期前半の押型文土器

総出土量は301点で7Dグリッドと8Dグリッドで多く検出された。

第IV群土器 早期中葉の沈線文系土器

総出土量は28,193点で6Cグリッド～8Fグリッドまでの広い範囲で非常に多く出土した。

第V群土器 早期後半の条痕文系土器

総出土量は12,400点で4Bグリッドと4Cグリッドで多く出土した。

第VI群土器 前期の土器

総出土量は5,167点で7Bグリッドと6Eグリッドで多く出土した。前半の黒浜式と後半の浮島式の土器片が多く見られる。

第VII群土器 中期の土器

総出土量は925点で7Cグリッドで阿玉台式の土器片が多少見られた。

第VIII群土器 後期の土器

総出土量は1,348点で11Fグリッドで多く出土した。

第IX群土器 晩期の土器

総出土量は29点とわずかである。

その他の土器 無文で胎土に繊維を含むもの5,312点と含まないもの7,768点と底部の無文のもの143点に分類された。

2 包含層出土の土器

(1) 第I群土器 (爪型文土器) (第115図1～14, 図版57下)

15I-75グリッドを中心に、15I-84・85グリッドでも若干出土した。1～8は爪型文土器で同一個体であろう。1～4は口縁部破片でそれ以外は口縁下部の破片である。9～13は無文薄手土器片である。いずれも口縁部小破片である。14は平底底部の破片である。これらは別地区（東側）より検出された。

(2) 第II群土器 (摺糸文系土器) (第60・61下図1～83, 図版18上・19下)

1は表裏摺糸文の深鉢形土器である。8G-95グリッドで一括して出土した。直径34.4cmで、底部は欠

けている。胎土に白色礫粒が多く見られる。大きさの割に薄手である。若干頭がすはまるが直立する胴部で、口縁端がやや外反する。R 捻糸文が口縁横位、胴部縦位に、口唇・内面上端に施文されている。2～30は縄文施文の口縁部である。

第1類 縄文施文

a種 8C グリッドで出土の斜縄文系土器

2はやや外反し、器厚が薄くなって、尖頭状の口端になる。端部には押圧縄文が2条施文され、以下は斜縄文施文になる。3～8は2と同じ個体である。原体はLRだが、施文方向は縦・横一定していない。内面には凹凸が見られる。9・10は細かいLR斜縄文を持つ。内面には凹凸が見られる。

11は節の幅が広く、詰まったLR斜縄文を持つ。内面には凹凸が見られる。

b種 井草Ⅰ式（口唇に2段施文が見られるもの）

12は頸部LR斜縄文のもので胎土に礫小粒を含む。6Eグリッドから出土している。13も同じ個体であろう。14～19は頸部に条横走縄文の見られるものである。

c種 井草Ⅱ式（口唇に1段施文が見られるもの）

20は口唇にLR斜縄文を持つ。胎土は礫小粒混じりで内面にはやや凹凸が見られる。21は口縁にLR条横走縄文を有する。口唇にはRL斜縄文を持つ。胎土は礫小粒混じりで内面には凹凸が見られる。

22は口唇RL斜縄文施文で、頸部上端は無文になる。23は無節Rの条縦走縄文を持つ。口端はあまり肥厚していない。

d種 夏鳥式

30は10Gグリッドから出土している。口径4.5cmの小形品である。口端で若干外反し、内削ぎ気味となっている。上端が無文で以下にRL斜縄文が施されている。口唇及び内面は磨かれている。

e種 稲荷台式

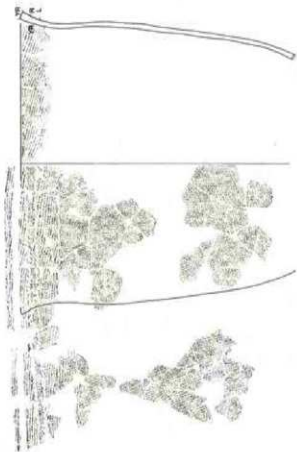
24～29は7Bグリッドから出土している。原体は節が不明瞭で口唇円頭で上部で肥厚している。口唇から内面にかけて磨きが入る。

f種 縄文施文胴部

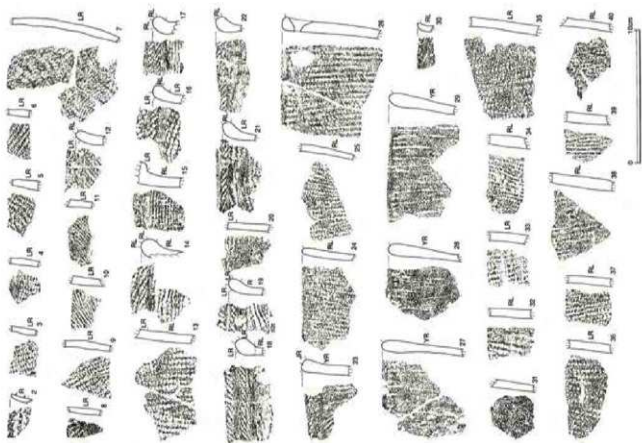
31～40 縄文施文の胴部である。31は施文が不明瞭なものである。32から40は条縦走施文のものである。32は節が大きいものである。35・36はLR縄文のもので、同一個体になるものであろう。41～48は底部付近の破片である。44では回転摩擦痕が見られる。46は斜縄文である。45・47は下部に施文されない。49は底部片である。丸底で、わずかに縄文が見られる。

第2類 捻糸文施文

50は7C～54グリッドから出土している。口縁部破片で口唇円頭でやや外反する。横位R細捻糸文が施文されている。51は7C～55グリッドから出土している。竹管の刺突列を2列に配し、横位の細捻糸文が施文されている。土器の径は比較的小さいと思われる。52～55は7D～41グリッド付近から出土している。胎土に白色礫小粒・片岩礫小粒を含む。口唇円頭で薄手となる。横位のR捻糸文で施文されている。下位では縦施文になると見られる。56・57は7D～42グリッド付近から出土している。胎土に礫小粒が混ざる。56は口唇角頭状になる。口唇と内面は磨かれている。捻糸文が横位施文される。57は上部が横位で、下位が縦位施文に分かれるか所で、鋸歯状になるかもしれない。58は7C～65グリッドから出土している。捻糸文が斜行施文されている。59は7C～54グリッドから出土している。横位施文されており、底部に近



第99图



德系文系土器 (1)

德系文系土器 (2)

い部分である。60は小形で文様は縦施文の燃糸文のように見えるが、小さい部分しか残っていないのでやや不明瞭である。胎土には細かい雲母粒が含まれている。61は6D-55グリッドから出土している。横方向に施文されている。胎土に白色礫小粒を含む。62は7I-26グリッドから出土している。横ないし斜め方向の施文が見られる。条の間が比較的開いている。内面にはナデ調整が見られる。63は7D-91グリッドから出土している。条間が広く斜め方向に施文されている。64-66は11Fグリッドから出土している。Rの斜格子目燃糸文が見られる。胎土に礫小粒が含まれている。押型文に伴うものかもしれない。67-70・72は7B-12グリッドを中心に出土している。口縁が若干肥厚する。口唇はなでられて円頭になる。口縁部は内面が細かく剥けて、やや荒れている。71は12F-21グリッドから出土している。73-75は7Dグリッドから出土している。73は燃りが太い。外面に向かって肥厚し、角頭気味である。74は施文が浅く、円頭である。75は円頭で外面に向かって肥厚する。内面にはケズリ調整がされている。夏島式であろう。76は10H-03グリッドから出土している。口唇が磨かれ円頭になる。口縁が若干肥厚する。条間が広い。縦長の焼成後の補修孔が見られる。稲荷台式と思われる。77は4F-66グリッドから出土している。条間隔が広く、施文が断続的である。稲荷台式であろう。78-80は7D-91グリッド付近から出土している。78は細かく密に施文されている。上部には焼成後の補修孔が見られる。79には鋸歯状施文が行われている。80は太い縦位の施文が行われている。81は7B-47グリッドから出土している。縦施文が行われている。82は6D-64グリッドから出土している。縦施文が行われている。縦口縁であろう。83は5F-54グリッドから出土している。無文である。

(3) 第Ⅲ群 押型文土器 (第61上・62図1-108, 図版19上・20下)

第1類 格子目文

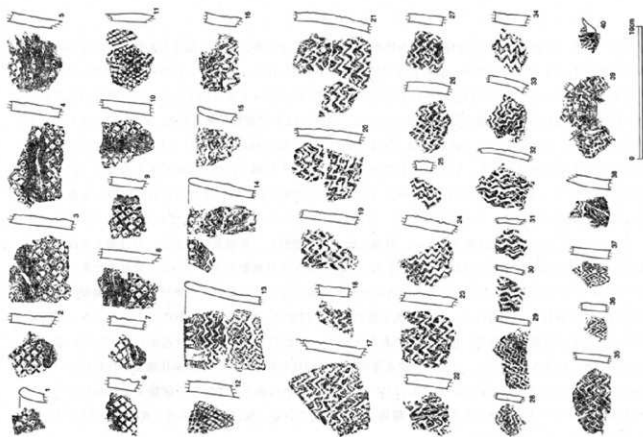
1-10は8C-48グリッド周辺から出土している。1の口縁は円頭で、少し外反する。文様は無文帯を介して帯状施文するものである。大半が横施文だが、10は縦施文である。内面は平滑にナデ、磨かれている。胎土に長石粒や片岩礫小粒を含んでいる。また繊維の混入が認められるものもある。11・12は7D-02・7C-29グリッドから出土している。細かい格子目文を持つものである。12は底部近くのもので楕円文が平行して施文される。

第2類 山形文

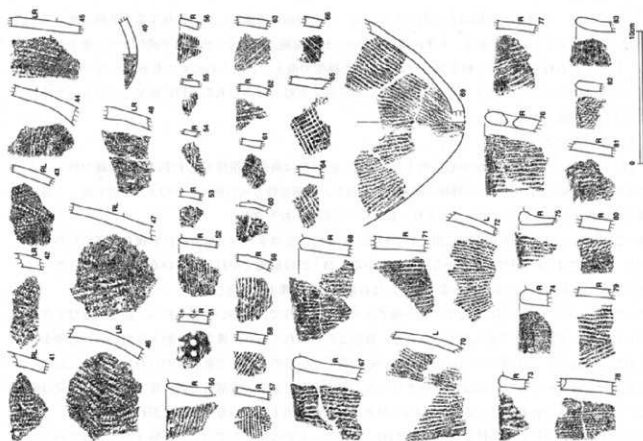
13・14は8C-18グリッドを中心に出土している。口縁部は角頭で頸部が若干すぼみ、口縁が外反する。15は内削ぎ気味の口唇となる。外縁に縦刻み目を持ち、上端部横方向の施文、その下位に縦方向、下端に横方向の施文が見られる。胎土に石英粒・長石粒・片岩礫小粒を含む。

16-23は8C-29グリッドを中心に出土している。胎土には雲母を含み、横方向に密接な施文が行われている。24-27は7D-10グリッドから出土している。24・25は縦施文が行われているものである。26・27は横施文が行われているものである。胎土には石英粒・片岩礫小粒を含む。

28・29は7Cグリッドから出土している。薄手・小形の土器片で、細かい文様を持つ。胎土に雲母を含む。30・31は8D-22グリッドから出土している。縦施文が行われており、薄手で、胎土に細かい片岩礫小粒を含む。32は7C-55グリッドから出土している。薄手、小形の土器片で縦施文が行われており、胎土に細かい片岩礫小粒を含む。33は7D-60グリッドから出土している。底部近くの破片で上位横、下位は縦ないし斜め施文が行われている。35は6D-74グリッドから出土している。横施文が行われている。これらは胎土に細かい片岩礫小粒を含む。34は7D-30グリッドから出土している。縦施文が行われている。



押型文系土器 (1)



捺糸文系土器 (3)

36・37は7D-20グリッドから出土している。条の細い横施文されたものである。38は8D-01グリッドから出土している。横施文が行われていて下位に沈線状のものが見られる。これらは礫小粒を含まない。39は7D-42グリッドから出土している。底部破片で、頂部は平坦になっている。縦施文が行われており、胎土に細かい礫小粒を含む。40は小形土器の底部破片である。頂部が突出気味である。文様は縦施文されている。

第3類 楕円文

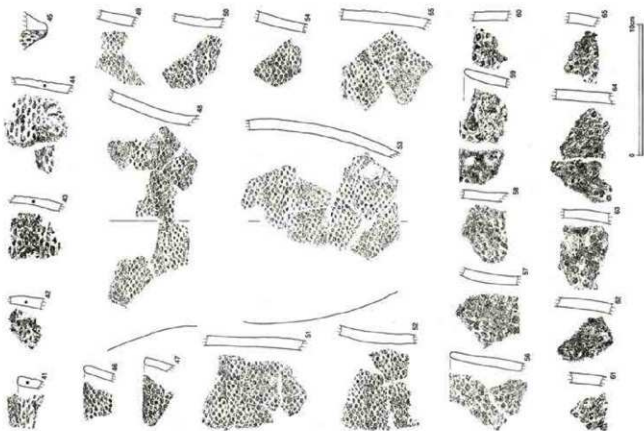
41-44は6E-96グリッドから出土している。胎土に礫小粒を含む。横長楕円文を横位施文している。所々に施文しきれないか所が見られる。41は角頭口唇になるものである。45は8Fグリッドで出土した底部破片で、頂部が突出する。文様は縦施文と見られる。胎土に雲母粒を含む。46-55は7D-20グリッドから出土している。口径21cm位になる。口唇角頭をなす。頸部がすぼみ外反する器形をとる。56-58は口唇が円頭となる。文様が比較的浅いものである。57・58は斜め楕円文をなすものである。胎土に礫小粒を含む。59-65は7D-00グリッドを中心に出土している。浅い横施文を持つものであるが、無文部が目立つ。59は口唇円頭で、外反するものである。胎土に比較的大きな片岩礫小粒を含む。66は7D-30グリッドから出土している。口唇円頭で、薄手である。胎土に礫を若干含む。67-69は7C-29グリッドから出土している。胎土に片岩礫小粒を含む。横位施文が行われている。70-72は7D-39グリッドから出土している。内削ぎ気味の口唇で外傾気味の口縁になる。細かい横施文が行われている。内面は磨かれている。胎土に白色礫小粒を含む。73・74は8C-18・39グリッドから出土している。細かい横長楕円文が横位施文されている。胎土は微細砂粒を含む。接合部で割れており、沈線文系土器の作りである。内面にはミガキが入る。75は8D-41グリッドから出土している。口唇円頭で外反する。内面にはミガキが入る。76-81は8D-20グリッド付近から出土している。胎土に礫小粒の他雲母粒を含む。繊維も含まれるように見える個体もある。76は角頭の口縁部破片で、外傾する。横長の楕円文を横位施文している。82-84は8D-10・41グリッドから出土している。82は円頭口唇で、やや外反する口縁になる。大きい粒の横位施文である。胎土に礫小粒・繊維を含む。83は口唇が角頭になり、横位施文されているものである。胎土に比較的大きな片岩小粒・長石礫小粒を含む。85-92は8D-21グリッドの周辺部分から出土している。90では接合面に刻みが入っている。92は底部破片で縦施文されているものである。93は10G-71グリッドで口唇が角頭気味でやや外反している。口縁部は横施文が行われ、頸部は無文である。胎土には礫小粒・繊維が含まれる。94-98は10F-49グリッドを中心に出土している。口唇は角頭気味で傾斜した楕円文を特徴とする。器形はやや外反しており、胎土に礫小粒を含む。99-108は10F-84グリッドを中心に出土している。口縁は横方向、胴部は縦方向に帯状に施文が行われている。帯間に無文となる部位が見られる。胎土に礫小粒を含む。

(4) 第IV群 沈線文系土器

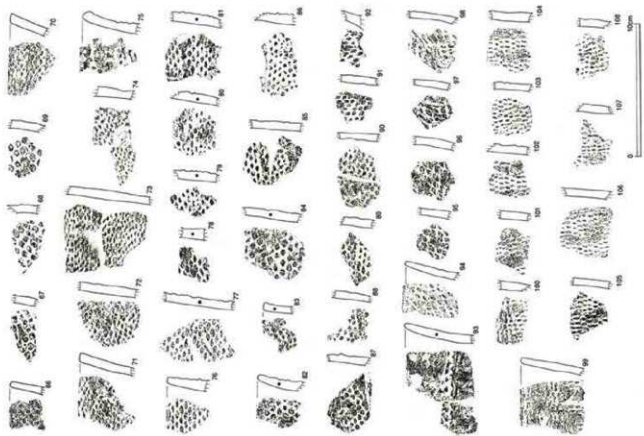
第1類 凹線文・削痕文(第63図1-48)

時期的に熱系文系土器から沈線文系土器にかかる時期のものと思われる。1-48は全て口縁部の破片である。4B-98グリッドでは1点、10Gグリッドで1点、7Bグリッドではほぼ別個体と思われるものが7点出土している。8C-15グリッドを中心にもっとも多量に出土している。全て胎土には礫小粒が多量に含まれ、いずれも礫小粒の移動跡と思われる調整に伴う削痕が残されている。

1は口唇が円頭でやや外斜する器形である。胎土に礫小粒が混ざり表面側に縦方向の削痕が見られる。



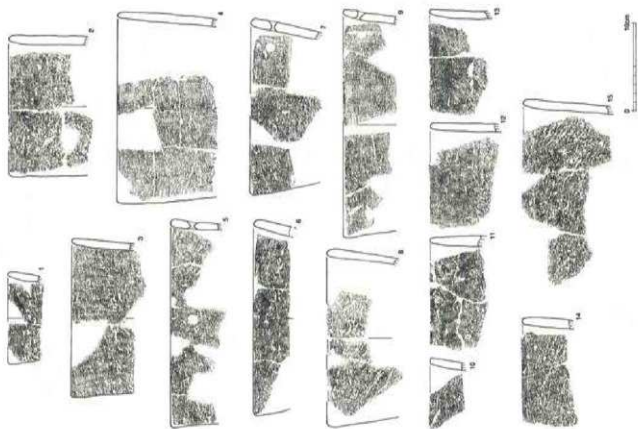
押型文系土器 (2)



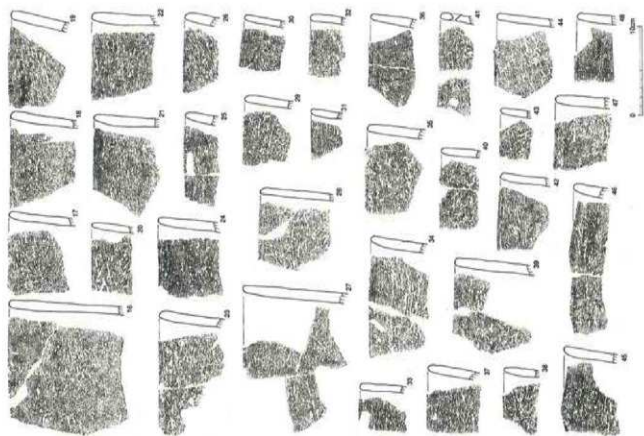
押型文系土器 (3)

2は口唇が円頭で胴部は比較的厚みがあり、直立した口縁部がやや外に傾斜する器形である。胎土に細かい塵小粒が多く混ざり縦方向に強く削痕が見られる。3は口唇が円頭でやや外斜する器形である。胎土に塵小粒が混ざり表面側に縦方向の削痕が見られる。4は口唇が円頭で全体に口縁部がやや内側にすぼむ器形である。胎土に塵小粒が混ざり胴部表面あたりでは縦方向に削痕が顕著に見られる。5は口唇がやや丸みがあり外反気味である。口縁には焼成後の補修孔が残されている。斜め方向の削痕が見られる。6はやや口唇が角頭気味で口縁が外斜する器形である。斜め方向の削痕が見られる。7は口唇が円頭気味で口縁が外斜する器形である。横方向と斜め方向の削痕が見られる。8は口唇が円頭でやや肥厚し口縁が外斜する。斜め方向の削痕が見られる。9は口唇がやや角頭気味で口縁が外斜する器形である。横方向の凹線が顕著に見られる。口縁部に焼成後の補修孔が残されている。10は口唇が角頭で口縁部がやや外斜する器形である。斜め縦方向の削痕が見られる。11は口唇が円頭でやや薄く胴部にかけてほぼ直立する器形である。縦方向の削痕が見られる。12は口唇が角頭気味でやや外反気味に立ち上がる。縦や斜め方向の削痕が見られる。13は口唇はやや円頭ですぼみ加減で口縁部はやや外反気味である。口唇外面に沿って凹線状の弱い施文が見られる。口縁部は縦方向に弱い削痕が残されている。14は口唇がやや円頭気味で胴部からは直立する器形である。斜め横方向と縦方向の削痕が残されている。15は口唇がやや角頭気味で口縁部が肥厚しやや外反気味の器形である。口縁部は斜め方向に削痕が残されている。16は口唇がやや円頭気味で口縁部が全体に肥厚し胴部からやや外斜している。口縁部・胴部とも横方向の削痕の後縦方向にやや強い削痕が残されている。17は口唇が円頭で口縁部がやや外斜する。口縁部は斜め横方向に削痕が残されている。18は口唇がやや角頭気味で肥厚しやや外反する器形である。口縁部は斜め横方向に削痕が残されている。19は口唇が角頭気味でやや外反する。口縁部は斜め横方向に削痕が残されている。

20は口唇が円頭でやや口縁部が外反する器形である。口縁部は横方向に削痕が残されている。21は口唇が円頭気味でやや肥厚し胴部からはほぼ直立する器形である。口縁部は横方向に強い削痕が残されている。22は口唇がやや角頭気味で胴部からはほぼ直立する器形である。口縁部は斜め方向の削痕の後横方向に強く削痕が残されている。23は口唇が円頭で口縁部がやや外反する器形である。口縁部は斜め横方向に削痕が残されている。24は口唇が角頭で口縁部がやや外斜する器形である。口縁部は縦方向にやや弱い削痕が残されている。25は口唇が円頭気味で口縁部がやや外斜する器形である。口縁部横方向にやや強い削痕が残されている。26は口唇が角頭気味で口縁部がやや外反する器形である。口縁部は斜め横方向に弱い削痕が残されている。27は口唇が角頭気味で口縁部がやや肥厚しながら外斜する器形である。口縁部～胴部にかけて横方向の比較的弱い削痕が残されている。28は口唇が角頭で若干外削気味で口縁部が外斜している器形である。口縁部は上方に横方向と下方に斜め方向の削痕が残されている。29は口唇が円頭で口縁部がやや外斜する器形である。口縁部は斜め方向の削痕が残されている。30は口唇がやや角頭気味で口縁部が外斜する器形である。口縁部は斜め方向の削痕が残されている。31は口唇が円頭で口縁部がやや外反気味の器形である。口縁部は横方向の削痕が残されている。32は口唇が円頭で口縁部がやや内曲気味である。口縁部は斜め方向の削痕が残されている。33は口唇が円頭で口縁部はややゆがみながら外反する器形である。口縁部は横方向にやや強めの削痕が残されている。34は口唇がやや円頭気味で口縁部は外反する器形である。口縁部は横方向にやや強めの削痕が残されている。35は口唇がやや角頭気味で口縁部は外斜する器形である。口縁部は横斜め方向に弱い削痕が残されている。36は口唇が円頭で口縁部が外斜する器形である。口縁部は横方向の削痕が残されている。37は口唇が円頭で口縁部がやや外斜する器形である。口縁



凹鑄文·削肌文 (1)



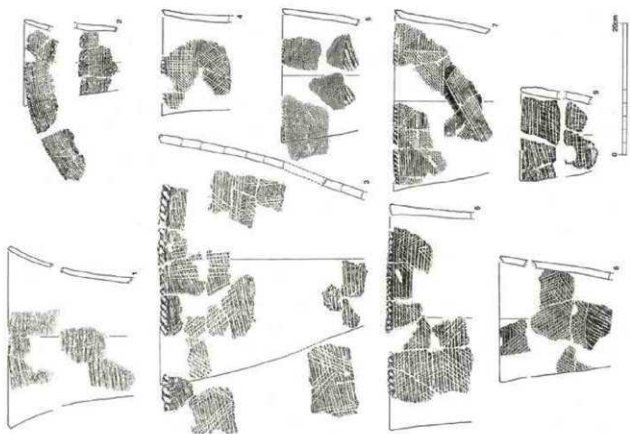
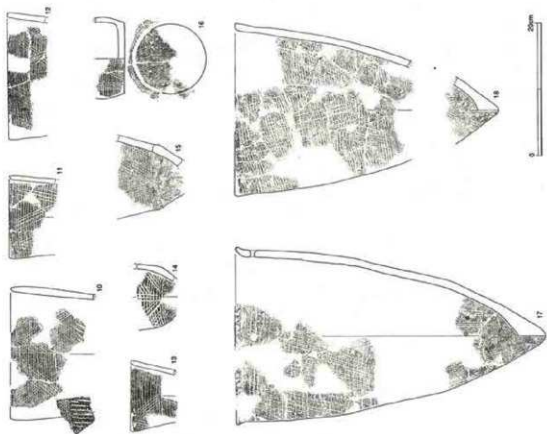
凹鑄文·削肌文 (2)

部は斜め横方向の削痕が残されている。38は口唇が円頭で細く口縁部が外斜気味の器形である。口縁部は弱い斜め方向の削痕が残されている。39は口唇がやや角頭気味で口縁部が外斜している器形である。口縁部は斜め横方向の削痕が残されている。40は口唇が角頭気味でやや細くなる。口縁部はほぼ直立に近い。口縁部は横方向に調整された後で斜め方向に削痕を残すように行われている。41は口唇が角頭気味で口縁部がやや外斜する器形である。口縁部はほぼ縦方向に削痕が残されている。また焼成後に穿孔された補修孔がある。42は口唇が角頭気味で口縁部がやや肥厚し外反気味の器形である。口縁部は弱い横方向の削痕が残されている。43は口唇が円頭で口縁部がやや外斜する器形の小型土器の口縁部である。口縁部は斜め方向の削痕が残されている。44は口唇が円頭で口縁部がやや外斜する器形である。口縁部は斜め方向の弱い削痕が残されている。45は口唇がやや円頭気味で口縁部がやや肥厚し外斜する器形である。口縁部は横方向を主体とした弱い削痕が残されている。46は口唇が円頭で口縁部がやや外斜する器形である。口縁部は弱い斜め横方向に削痕が残されている。47は口唇が円頭で口縁部がやや外斜する器形である。口縁部は弱い横方向の削痕が残されている。48は口唇が円頭気味で口縁部はやや外斜する器形である。口縁部は弱い横方向の削痕が残されている。

第2類 三戸式土器

a種 横条線を主体として施文したもの(第64・65下図1~58, 図版20・21下)

1~18は大形破片で比較的全体の解かりやすい個体である。19~50は口縁部を主体とした破片である。1は口縁部~胴部にかけての大形破片である。口縁は角頭で口縁部で大きく外反する器形である。横条線で施文されている。2はやや小形の土器の口縁部~胴下部にかけての破片である。口唇は円頭気味にやや尖り口縁部はやや外反する器形である。横条線に縦方向と斜め方向の条線を組み合わせ鋸歯状の文様をち密に構成している。3は口縁部~胴下部にかけての大形破片である。口唇はやや円頭気味で外斜している器形である。口唇には斜位に刻目文を配し胴部にかけて横条線に鋸歯状に斜め方向の条線を組み合わせている。4~7については口唇に斜位の刻目文を配置している。4は小形の土器の破片でやや外反する器形と思われる。口唇がやや外側に尖る。口縁部に近い上段部分では横条線と縦方向と斜め方向の条線を組み合わせ鋸歯状の文様を密に構成し、下段では斜め方向の条線を組み合わせ格子目文を構成している。5はやや小形の土器の口縁部破片である。口唇はやや外側に尖る。口縁部に近い部分では横方向の条線に斜め方向の条線を組み合わせ鋸歯状の文様を構成している。胴部付近では斜め方向の沈線が施されている。6は口縁部を中心に残存している破片である。口唇は角頭でやや肥厚している。胴部より口縁部はほぼ直立した器形である。横条線に斜め方向の条線を組み合わせあまり密度のない鋸歯状の模様を構成している。7は口唇は内削ぎで尖る。やや外反する器形である。口縁部上段は横条線と斜め条線を組み合わせ密度の濃い鋸歯状の文様、下段は斜め条線を組み合わせ密度の濃い格子目状の文様を構成している。8は口縁部から胴部にかけての破片である。口唇は内削ぎで尖る。やや外斜する器形である。ほぼ横条線と斜め条線を組み合わせ鋸歯状に文様構成されている。9は小形の土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇は角頭気味で外側を削って立ち上げており全体ではやや外斜する器形である。文様は横条線と縦条線をやや密度を濃く組み合わせ構成されている。10は口縁部~胴部にかけての破片である。口唇はやや円頭気味で尖る。口縁部付近はやや肥厚し幾分外斜する器形である。口縁部上方では横条線と斜め方向の条線をやや密に組み合わせ鋸歯状の文様を構成している。下方で縦斜め方向の沈線文を配置している。11は小形の土器の口縁部~胴部にかけての破片である。口唇は内削ぎをやや斜めに削り尖り幾分外斜する器形であ



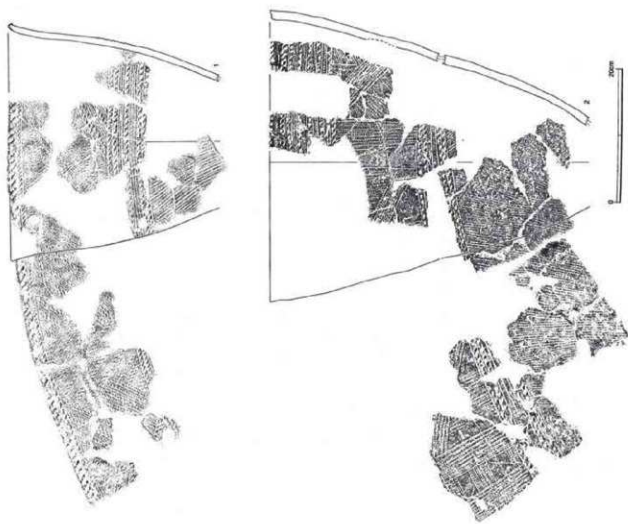
第64図

る。横条線とやや不規則不連続な縦斜め方向の条線を組み合わせて文様を構成している。12は口縁部破片で口唇は角頭で口縁部はやや外斜する器形である。横条線と右斜め方向の条線を主体でやや密度のない文様構成で不規則に左斜め条線も見られる。13は小形土器の口縁部~胴部にかけての破片である。口唇は角頭気味で口縁部はやや外斜する。横条線の見られる部分と縦方向と斜め方向の条線が組み合わさって入れられている部分がある。14は底部に近い部分の破片でやや尖底に向かう部分であろう。横条線と放射状に配置された条線が組み合わされている。15は底部~尖底部分にかけての破片で尖底部分は調整されて無文である。胴部に続く部分は横条線と斜め方向の条線を組み合わせ幾分鋸歯状になるように文様が構成されている。16は小形の浅鉢で平底になる土器の破片である。この時期の土器では尖底になるものが一般的であるため非常に珍しい例と思われる。口縁部はないがやや内曲してから立ち上がるかもしれない。胴部に横条線と縦方向の4本を単位とした条線が組み合わさって文様を構成している。外側底面にも同様の単位の条線が見られる。17は口縁部~底部まで復元できる個体である。底部は尖底で胴部に向かってやや緩やかに、胴部から口縁部に向かってはかなり急激に立ち上がり口唇部でやや外反する。口唇には斜位に刻目文を配置している。口縁部~胴部にかけては横条線と縦方向の条線を組み合わせた文様構成である。底部尖底部分は上方が縦方向の条線、下方が無文である。18は口唇が角頭気味で口縁部が外反しない点を除くとほぼ似たような文様構成が見られる。19は口縁部破片で口唇が内削ぎされている。口唇外側に刻目文を配置し横条線と4本単位の右斜め条線と左斜め条線を交互に配置している。20は口縁部破片で口唇は円頭気味である。文様は横条線と左右縦方向の条線を組み合わせて構成される。21は口縁部大形破片で口唇は内削ぎされている。口縁部はやや外斜気味である。口唇外側に刻目文を配置し口縁部上方に横条線と斜め条線で鋸歯状に文様を配置する。下方に縦条線と斜め条線で施文している。22は21と似た文様構成をとる。23は口唇部のない口縁部破片で横条線と斜め条線を組み合わせ鋸歯状もしくは三角になる文様帯を構成する。24は口縁部破片で口唇は内削ぎされている。口縁部はやや外斜気味である。口唇外側に刻目文を配置し、口縁部に横条線と斜め条線で鋸歯状に文様を配置している。25は口唇部のない口縁部破片である。横条線と上方に右斜め方向の条線、下方に左斜め方向の条線を配置している。26は口唇部のない口縁部破片で口縁部上方に横条線と斜め条線で三角形の文様帯を配置し、下方に右斜め縦方向の沈線を施文している。27は口縁部破片で口唇が内削ぎされている。やや外斜する器形と思われる。口唇外側に刻目文を配置し、口縁部に横条線と斜め縦方向の条線を組み合わせ三角形もしくは鋸歯状の文様帯を配置している。28は口縁部破片で口唇が内削ぎされている。口縁部はほぼ直立する。口唇外側に刻目文を配置し、口縁部に横条線と左右斜め方向の条線を組み合わせ文様を構成している。29は口縁部破片で口唇が内削ぎされている。口縁部はやや外反する。口唇外側に刻目文を配置し、口縁部には横条線と縦条線と斜め方向の条線を組み合わせ文様を構成している。30は口縁部破片で口唇がやや内削ぎされている。口縁部はやや外斜した器形である。口縁部は横条線と左斜め方向と右斜め方向の条線により密に格子目状に施文されている。31は口縁下部の破片である。横条線と縦方向、斜め方向の条線で格子目状に施文されている。32は口縁下部の破片で上方が横条線と斜め方向の条線とで格子目状に施文され、下方が縦方向と斜め方向の4本を単位とする条線で施文されている。33は口縁部の破片で口唇がやや内削ぎされている。口縁部はやや外斜した器形である。口唇部に沿って刺突による三角形の列点文、その下方に横条線と左斜めと右斜め方向の条線が施文されている。34は口縁部破片で口唇がやや角頭気味で外斜する器形である。口唇部に沿って弱い斜位の刻目文、口縁部は横条線とやや斜め縦方向の条線で格子目状に施文されている。35は口縁部破片で口唇が

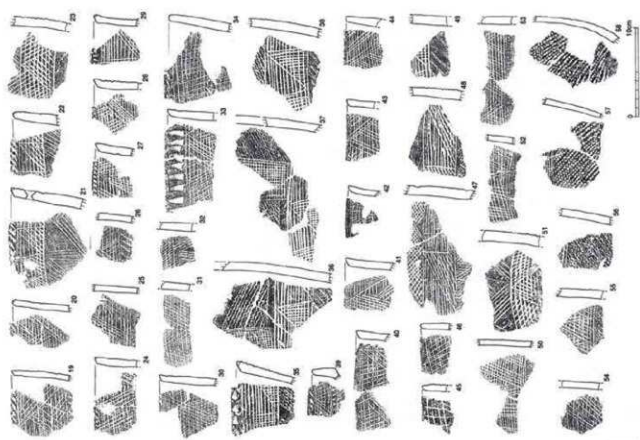
やや内削ぎされている。口縁部は外斜した器形である。口縁部上方は横条線と縦方向・斜め方向で区画された鋸歯状の文様が施文され、下方には斜め方向に貝殻腹縁文が施文されている。36～38は胴部の大形破片で上方に斜め方向の貝殻腹縁文と縦横の条線で施文された文様、下方に横条線と縦方向・斜め方向で区画された鋸歯状の文様が施文されている。39は口縁部破片である。口唇に刺突による刻み、口縁部は横条線と左右斜め方向の条線で施文されている。40は口縁部破片である。口唇は内削ぎされている。口縁部は横条線と左右斜め方向の条線で施文されている。比較的条の間隔が広い。41は口縁部破片である。口唇は内削ぎされている。口縁部は横条線と右斜め縦方向と左斜め方向の条線で鋸歯状に施文されている。42は小形土器の口縁部破片で口唇は円頭である。口縁部は横条線と縦条線で施文されている。43は口縁部破片である。口唇はやや内削ぎ気味でやや外斜する器形である。口縁部は横条線と3本を単位とした左右斜め方向の条線で鋸歯状に施文されている。44は口縁部破片である。口唇は角頭気味でやや細くなる。口縁部は43と似た文様構成となる。45は口縁部破片である。口唇は内削ぎ気味でやや尖る。口縁部はやや条の間隔が広い横条線と縦方向の条線を組み合わせている。46は口縁部破片で口唇は円頭である。口縁部は横条線と左右の条線で施文されている。47は胴部の大形破片である。上段に縦方向の条線、中段に横条線と縦方向の条線と斜め方向の条線で区画された鋸歯状の文様を施文、下段に斜め方向の貝殻腹縁文で施文されている。48は口縁部に近い胴部破片である。その上段は無文で中段に横条線と縦方向の条線と斜め方向の条線で区画された鋸歯状の文様を施文、さらに下段には左右斜め方向に条線が施文されている。49は口縁部に近い胴部破片である。その上方に横条線と縦方向の条線と斜め方向の条線で区画された鋸歯状の文様を施文、下方には右斜め方向に沈線が施文されている。50は比較的薄手の胴部破片である。横条線と5本を単位とした斜め縦方向の条線で施文されている。51は胴部破片で上下とも輪楕み部分で破損している。その上方は斜め方向の条線で三角形もしくは鋸歯状に施文されている。下方は横条線と斜め方向の条線で区画された中にさらに条線で充填している。52～55は胴部破片で横条線と斜め縦方向の条線とを組み合わせて施文されたものである。56～58は底部に近い胴部の破片である。56・57は上方に横条線で施文されている。その下方は斜め方向に貝殻腹縁文で充填されている。58は底部に近い部分は沈線で後は斜め方向の貝殻腹縁文で充填されている。58は57の下位部分に相当する。

b種 爪形・格子目を主体として施文したもの（第65上～67図1～86、図版21上・22・23下）

1～5は爪形文を主体として施文されているものである。1は口縁部～胴部下部にかけての大形破片である。口縁部はやや外斜気味である。口唇外側に刻目文を配置し口縁部上方に斜め条線で条線の間に爪形文を充填しながら鋸歯状に文様を配置する。下方に条線の間に爪形文を充填しながら横条線を多段に配置し胴部以下は斜め条線で施文している。2は口縁部～胴部下部にかけての大形破片である。口唇は角頭状になる。口唇外側に刻目文を配置し口縁部上方に横条線で条線の間に爪形文を充填しながら文様を配置する。胴部上半部は縦方向と斜め方向の条線の間に爪形文を充填しながら鋸歯状に文様を配置する。胴部下半は条線の間に爪形文を充填しながら横条線を多段に配置し、以下は斜め条線で施文している。3は口縁部～胴部にかけての破片が接合したものである。口唇は外反気味である。口縁部上方から胴部上にかけて爪形文を充填しながら横方向の条線を多段に配置し、胴部以下は同様の文様を左斜め方向に配置している。4は口縁部の破片である。口唇は内削ぎ気味である。口縁部上方から胴部上にかけて爪形文を充填しながら横方向の条線を多段に配置し、以下は右斜め方向の条線文を充填している。5は口縁部～胴部にかけての大形破片である。口唇外側に刻目文を配置し口唇部上方に横方向の多段の条線を主体に縦方向と斜め方



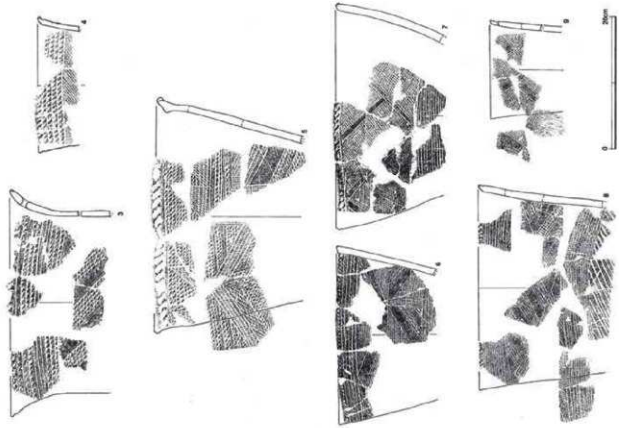
三戸（爪形・格子目）（1）



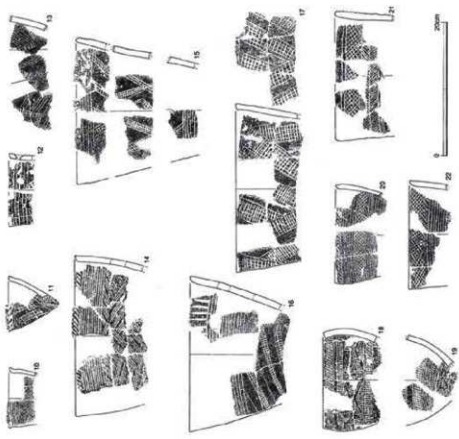
三戸条織文（3）

向の条線を配置し格子状もしくは鋸歯状に文様を構成する。上部では条線の間に爪形文を充填している。

6～22は格子目沈線文が主体となる。6は口縁部～胴部下半の大形破片である。口唇は角頭である。口唇外側に細かい刻目文を配置し、口縁部～胴部にかけて横方向の多段の条線で施文後、胴部以下は縦方向に条線を施文し格子目文としている。7は口縁部～胴部下にかけての接合破片である。口唇は角頭気味で口唇外側に斜位に刻目文を配置している。口縁部～胴部にかけて斜め方向の多段の条線で格子状に施文し、胴部以下は横方向の細沈線で施文している。8は口縁部～胴部にかけての接合破片で構成されるものである。器形は外に広がりながら斜めに立ち上がる。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位に刻目文を配し口縁部は横方向に多段の条線を充填している。以下は斜め方向の条線で格子状に文様を施文し、胴部以下にさらに横方向の多段の条線とその下段に右斜め方向の沈線を充填している。9は口縁部～胴部にかけての小形土器の接合破片である。口唇は内削ぎされていると思われる。口縁部～胴部にかけての文様は斜め方向の条線で格子目状の施文が行われ、胴部以下は無文帯になる。10は小形土器の口縁部～胴部の破片である。口唇は内削ぎされている。口縁部は横方向の多段の条線で施文されている。以下は斜め方向の条線により格子目状の文様帯を構成する。11は小形土器である。口唇に斜位の刻目文を施文し口縁部以下には斜め方向の条線により格子目状の文様を充填している。12は小形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇に斜位の刻目文を施文し、口縁部は横方向の多段の細沈線で充填し、以下は斜め方向の条線のようなものが施文されている。13は胴部破片である。斜め方向の条線と一部格子目状に文様を充填している。14は口縁部～胴部の接合破片である。口唇に斜位の刻目文を施文し、口縁部は横方向の多段の細沈線で充填し、以下は斜め方向の条線で格子目状の文様を充填している。15は口縁部～胴部の接合破片である。口唇に斜位の細かい刻目文を施文している。口縁部は横方向の細沈線で施文後、以下斜め縦方向の条線を基本にしてやや間隔をあけて格子目状の文様を施文している。さらに胴部以下は横方向の細沈線が施文されている。16は口縁部～胴部以下にかけてのものである。口唇はやや内削ぎ状になる。口唇～口縁部にかけて縦方向の押し引き沈線を充填、以下横方向の多段の条線が配置されている。胴部以下は横斜め方向の条線を基本にして間隔をあけて格子目状の文様を施文している。17は口縁部～胴部上半の接合破片である。口唇は角頭気味である。口縁部から胴部にかけて斜め縦方向の多段の条線を基本にやや間隔を空けながら格子目状の文様を充填している。18は小形土器の口縁部～胴部以下の接合破片である。口唇は角頭でやや内側に屈曲する器形である。口縁部は横方向の条線を基本にやや斜め方向に条線を引き格子目状の文様帯を配置し、少し間隔をあけ横方向の条線と縦方向の条線による格子目状の文様帯を配置する。以下は斜め方向の条線と縦方向の条線を組み合わせて格子目状の文様を充填している。さらに胴部以下には口縁部と同様の縦横方向の条線を組み合わせた格子目状の文様帯を配置している。19は胴部から底部にかけての接合破片で18の個体の下部にあたるかもしれない。胴部以下は横方向と縦方向の条線を組み合わせて格子目状の文様帯を構成している。以下に貝殻腹縁による施文が行われている。20は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇外側に斜位の細かい刻目文を配置している。口縁部は上位に多段の横方向の条線、中位に斜め方向の条線で充填された格子目状の文様帯、下位に上位と同じ横方向の条線を充填している。21は口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇はやや角頭気味である。口縁部は上位に横方向の2段の細沈線、中位に斜め方向の条線で充填された格子目状の文様帯、下位には右縦斜め方向の条線を充填した区画、左縦斜め方向の条線を充填した区画が2段あり、さらに下位に横方向の細沈線が配置されている。22は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇は内削ぎされている。口縁部は上位に斜め方向の条



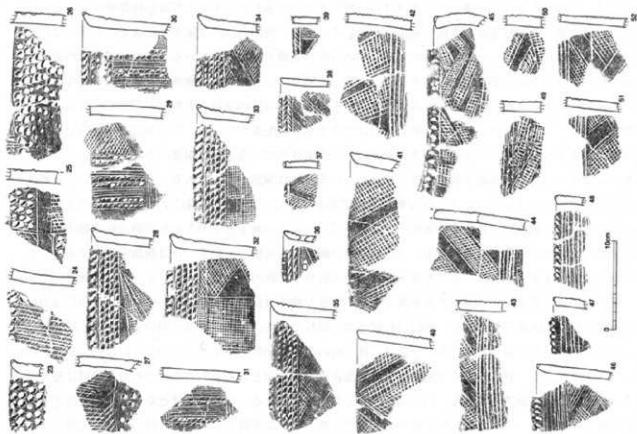
三戸 (瓜形・格子目) (2)



三戸 (瓜形・格子目) (3)

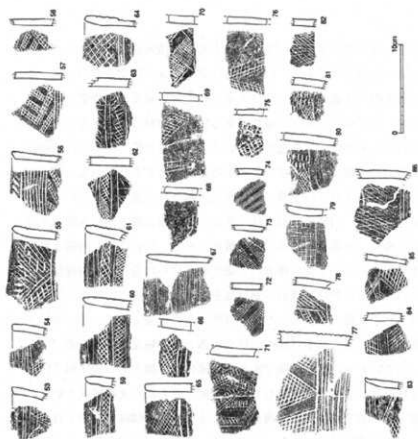
線で充填された格子目状の文様帯、下位は胴部にかけて横方向の細沈線が充填されている。23～86は格子目文と爪形文のどちらかが施文されている口縁～底部にかけての破片である。23は口縁部の破片でやや太めの爪形文が施文されている。24は口縁～胴部の破片である。上位に爪形文が一部みられる。下位には左斜め方向の条線を地文に右縦方向の条線を施文しやや弱めの格子目文を構成している。25は胴部破片で四角形に区画された文様帯に交互に爪形文と右横斜め方向の条線と縦方向の条線で構成された格子目文を充填している。26は胴部破片で上位の一部に条線が見られるもののほぼ爪形文が充填されている。27は胴部破片で上位に左斜め方向の条線と右斜め縦方向の条線による格子目状の文様を充填している。下位には爪形文が充填されている。28は口縁部の大形破片である。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の多段の細沈線とその間に爪形文を充填している。下位は斜め方向と横斜め方向と縦斜め方向の条線を組み合わせ三角形の格子目状の文様帯を構成している。29は口縁部下部の破片である。上位は縦方向の条線とその間に爪形文を充填した文様帯と斜め条線による格子目文を充填された文様帯に分かれる。下位は横方向に多段の条線が見られる。30・31は口縁部破片で同一個体と思われるものである。口唇は内削ぎされている。口唇外側には斜位の刻目文を配置している。上位に横方向の多段の条線とその間に爪形文を充填している。下位は縦方向の条線が充填されている。32は口縁部の大形破片である。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の多段の細沈線とその間に爪形文を充填している。下位は左側が縦方向と横方向の条線で格子目状の文様、右側が斜め方向の条線を組み合わせ三角形の格子目状の文様帯を構成している。33は口縁部の大形破片である。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の多段の細沈線とその間に爪形文を充填している。下位は縦方向と横方向の条線で格子目状の文様を構成する。34は口縁部の大形破片である。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の多段の細沈線とその間に爪形文を充填している。下位は斜め方向の条線を組み合わせ三角形の格子目状の文様帯を構成している。35は口縁部の大形破片である。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の多段の細沈線とその間に爪形文を充填している。下位は斜め方向の条線を組み合わせた格子目文を充填している。36は小形の土器の口縁部破片である。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の2段の細沈線とその間に爪形文を充填している。下位は三角形に区画された文様帯に縦方向と横方向の条線を格子目状に充填している。37は小形の土器の胴部上半の破片である。上位に横方向の細沈線を配置し、下位に三角形に区画された文様帯に縦方向と横方向の条線を格子目状に充填している。38は小形の土器の口縁部破片である。口唇は内削ぎされている。口唇外側に斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の2段の細沈線とその間にそれぞれ逆方向の爪形文を充填している。下位は右斜方向の条線もしくは条痕による施文が行われている。39は口縁下部の小破片である。上位に横方向の細沈線とその間に爪形文を充填している。下位は縦方向と斜め方向の条線を鋸歯状になるように充填している。40は口縁部の破片である。口唇は角頭である。口縁部から斜め縦方向と横方向の条線で施文された格子目状の文様を鋸歯状の無文帯で区画している。41は口縁部破片である。口唇は内削ぎ気味である。口縁部から斜め縦方向と横方向の条線で施文された格子目状の文様を平行四辺形状の無文帯で区画している。42は口縁部下部～胴部にかけての破片である。上位は左斜め縦方向と横方向の条線で施文された格子目状の文様、下位は横方向の多段の細沈線が施文されている。43・44は胴部破片である。上位は右斜め方向と左斜め縦方向の条線で施文された

格子目状の文様、下位は横方向の多段の細沈線が施文されている。44は上端は積層み痕と思われる。45は口縁部の接合破片である。口唇は角頭でやや内曲気味である。口唇外側に刺突による施文が行われている。口縁部は斜め横方向の条線を主体として縦方向の条線で格子目状に充填された斜め横長の文様帯を施文している。その下位には横方向の沈線が覗く。46~48は口縁部の破片である。46は口唇は内削ぎされている。47・48は角頭気味である。それぞれ口唇外側に刺突による施文が見られる。口縁部は横方向の多段の細沈線が充填されている。46では下位に斜め方向の条線で格子目状に三角形の区画が施文されている。49~52はこれらの土器片の胴部にあたる破片で文様も格子目状に条線で三角形に区画されて施文されているものが多い。53・54は小形の土器の口縁部破片である。口唇は角頭気味である。口縁部に横方向の条線が多段に施文されている。下位に斜め縦方向に条線が一部覗く。55は口縁部破片である。口唇はやや内削ぎ気味である。口縁部は斜め縦方向の条線を充填している。下位に横方向の細沈線が見られる。56は口縁部破片である。口唇はやや内削ぎ気味である。口唇外側に斜位に浅めの刻目文を配置している。口縁部上位は横方向に多段の条線を配置し、下位に斜め方向の条線を主体とした格子目状の文様を施文している。57は文様構成上から56の下部に相当し斜め方向の条線による格子目状の文様を主体として施文されている。58も同様であろう。59は口縁部破片である。口唇はやや内削ぎ気味である。口縁付近に横方向の細沈線で区画して3段目以降に斜め方向の条線による格子目状の文様を充填している。60・61も似た文様構成を持つ。62はこれらの少し下位に当たる部分で縦方向の刺沈線による区画を持つようである。63はやや格子目の部分の文様帯が崩れているようである。64は口縁部破片である。口縁部上位は斜め方向のやや間隔のある細沈線による格子目文を充填している。下位は横方向の細沈線が不等間隔で充填されている。65は口縁部破片である。口縁部上位は斜め方向の条線による格子目文を充填している。下位は横方向の細沈線で区画されている。66は口唇部分が欠落しているほぼ同一個体と思われるものである。67は口縁部破片である。口縁部上位には横方向の細沈線が多段に充填されている。下位に斜め方向の条線が一部覗く。68・69は口縁部に近い胴部破片である。一部横方向の条線と斜め方向の条線が施文されている。70は口縁下部の破片である。斜め方向の条線で密な状況の格子目状の文様を充填している。71は口縁部に近い胴部の破片である。5~6本の平行する条線にはほぼ直交するように条線を刻み格子目状の文様を不規則に配置している。72は胴部の小破片で71で見られる文様を左斜め方向に間隔をあけて配置している。73は胴部の小破片で72とは逆向きに文様を配置しさらに上位に横方向の沈線文が充填されている。74は胴部の小破片で72より条線の本数が減り細い文様帯が間隔を狭めて多く描かれている。75は胴部小破片である。どちらかというとき細沈線で太めの格子目文を施している。76は胴部破片である。[ハ]の字状に条線による格子目状の文様帯を描いている。77は胴部の大形破片である。上位は逆「ハ」の字の無文帯を挟みやや斜め方向の細沈線による格子目文を充填する文様構成をとる。下位は多段の細沈線を充填している。78は胴部小破片である。右側は斜め方向の条線、左側は一部に直交する条線を入れ格子目状の文様を入れている。79は胴部破片である。横方向の細沈線を施文後直交する条線でやや不明瞭な格子目状の文様を充填している。下位には斜め方向の格子目文の区画が見られる。80は口縁部下部の破片である。上位は右側に刺突文、左側に斜条線による格子目状の文様を施文している。下位には横方向の条線が主体で充填されている。81は同一個体と思われる一部の文様帯が一致するようである。82は胴部破片で縦方向と斜め方向の条線がやや不規則に施文されている。83は口縁部破片である。口唇はやや細く角頭気味になる。口唇外面付近を横方向の平行する細沈線で施文している。下位は斜め横方向の細沈線で区画した中に条線による格子目状の文様を充填してい



第67图

三戸 (瓜形・格子目) (4)



三戸 (瓜形・格子目) (5)

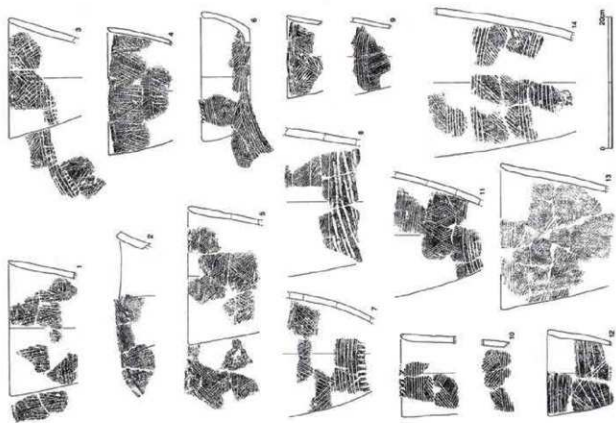
る。84は口縁部下部の破片で中程の無文帯を挟んで上位に右傾斜した条線、下位に左傾斜した条線と横方向の条線で施文された格子目状の文様を充填している。85は胴部上半の破片である。上位は左傾斜の3～4本の単位の条線で一部を施文、下位は右傾斜の条線と直交する条線で施文されて格子目状の文様を充填している。86は胴部上半の破片である。上位は右縦斜め方向の条線と縦方向の条線を組み合わせた格子目状の文様を施文している。下位には3本の平行する横方向の細沈線が見られる。

第3類 田戸下層 (一部三戸式も含む)

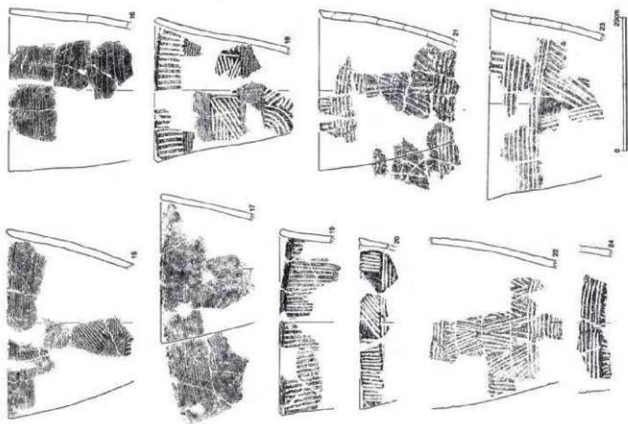
a種 沈線文を主体として施文したもの (第68～73図1～324, 図版23上～28下)

1は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇は細くやや尖り気味である。口縁部上位は斜め縦方向の5～6本を単位とする条線で不規則に充填している。下位は横方向の条線が施文されている。2は口縁部破片である。口唇は肥厚し角頭で外反気味である。口唇外面に沿って斜位に条線で施文している。口縁部は縦斜め方向にやや不規則な条線で施文されている。3は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇はやや角頭気味である。口縁部上位は斜め方向の条線で三角形を描くように文様を構成している。下位は平行する横方向の細沈線で区画し胴部以下は斜め縦方向の不規則な条線を充填している。4は口縁部～胴部にかけて遺存しているものである。口唇はやや内削ぎ気味で尖る。口縁部は縦方向の条線とやや斜め縦方向の条線をやや不規則に組み合わせて鋸歯状もしくは三角形のような文様を充填している。途中で横方向の細沈線が引かれているが下位も似たような条線で施文されている。5は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇はやや尖り気味である。口縁部は5～6本を単位とする斜め方向細沈線を組み合わせ三角形に文様を充填している。中間に同じ原体による横方向の細沈線で区画しさらに下位に似たような三角形に文様を充填する構成をとっている。6はこの時期には珍しい器形の浅鉢平底になる土器である。口唇はやや肥厚し角頭気味である。口唇外面に斜位に刻目文を配置している。口縁部と底部に横方向に5～6本を単位とする細沈線で区画し、その内側に斜め方向にやや不規則気味な細沈線を充填している。7は胴部～底部上半にかけての破片である。胴部は上位に左右斜め方向の細沈線を交互に配置し下位に7本の横方向の沈線を充填している。底部は縦方向の太沈線が充填されると思われる。8は胴部の大形破片である。上位は右斜め方向の条線と左斜め方向の条線を2段に充填しいわゆる矢羽根状の文様構成をとる。下位には斜め横方向の押し引きの太沈線による施文が行われている。9は口縁部破片と胴部下部の破片で同一個体と思われるものである。口唇は外反しやや細く尖る。口縁部と胴部に横方向に細沈線で区画しその間に斜め方向の細沈線で三角形に文様を充填している。さらに胴部以下は斜め方向の細沈線の間隔を不規則に空けながら施文している。10は口縁部破片と胴部破片で同一個体と思われるものである。口唇はやや内削ぎ気味である。口唇外面に斜位に刻目文を配置している。口縁部と胴部に横方向に細沈線で区画しその間に斜め方向の細沈線で三角形に文様を充填している。11は胴部～底部上半にかけての破片である。胴部と底部上半に横方向に細沈線で区画しその間に斜め方向の細沈線で三角形に文様を充填している。12は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇は角頭気味である。口縁部上位は2本を単位とする横方向の細沈線を3段充填している。以下はそれをやや斜位に用いてやや不規則に粗く充填する文様構成である。13は口縁部～胴部下部にかけて遺存したものである。口唇は内削ぎ気味である。口縁部上位は横方向の4～5本の単位とする細沈線もしくは条線が施文されている。以下はそれをやや斜位に用いて三角形あるいは平行に間隔を空けながらやや不規則に粗く充填する文様構成である。14は口縁部下部～底部上半にかけての大形破片である。右斜め方向の4～5本を単位とする細沈線の間隔をややあけて充填し、その下に横方向の4～5

本の単位の細沈線を3段に配置し、それらを相互にもう一度繰り返す文様構成をとっている。15は口縁部～胴部にかけての破片である。口縁部は上位で横方向に条線を施文し下位に向かっては斜め方向に用いて左右不規則な施文で充填している。16は口縁部～胴部下部にかけての大形破片である。口唇は角頭である。口縁部上位ではやや密な感じで横方向に細沈線で施文し、胴部以下はやや粗く横方向に細沈線で施文している。17は口縁部～胴部上半にかけての大形破片である。口唇はやや円頭気味である。口縁部上位より密に横方向の細沈線を胴部まで充填している。18は口縁部～底部上半にかけて遺存しているものである。口唇はやや円頭気味で外反する。口縁部は上位で太沈線を縦方向に充填している。その下に横方向に細沈線を多段に充填し胴部は太沈線を斜位、横方向に用いて三角形に近い文様帯を描いている。以下に横方向の細沈線を多段に充填後、底部に再び太沈線でやや弧状の文様帯を描いている。19は口縁部の大形破片である。口唇は角頭でやや外反する。口縁部は上位で太沈線を縦方向に充填している。その下に横方向に細沈線を多段に充填していると思われる。20は口縁部の大形破片である。口唇はやや内削ぎ気味である。口縁部は上位で太沈線を縦方向もしくはやや斜めに用いて施文している。以下太沈線で横方向に多段に充填している。21は口縁部～底部上半まで遺存しているものである。口唇は内削ぎ気味でやや尖る。口縁部は上位で太沈線を縦方向に充填している。その下に横方向に太沈線を多段に充填している。胴部は縦もしくはやや斜め縦方向の太沈線で施文し、底部は再び横方向に太沈線を多段に充填している。22・24は口縁部下部～底部上半まで遺存している。24は22の底部の一部であろう。口縁部下部では横方向に太沈線を多段に充填している。胴部は縦もしくはやや斜め縦方向の太沈線で施文し、底部は再び横方向に太沈線を多段に充填している。23は口縁部～胴部下部にかけての大形破片である。口唇はやや内削ぎ気味である。口縁部は上位で太沈線を縦方向に施文している。以下太沈線で横方向に多段に充填している。胴部は縦もしくはやや斜め縦方向の太沈線で施文している。25は胴部破片である。沈線を上下で横方向に用いて区画してその中に沈線を斜め方向に用いて三角形に充填して文様を構成している。26は口縁部～胴部にかけての破片である。やや左右の斜め縦方向の沈線を交互に用いて粗く施文している。27は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇は角頭気味である。口縁部は縦方向の沈線で充填後横方向の沈線とその下に縦方向の沈線で区画しその内側に条線を用いて矢羽根状に文様を充填している。28～30は斜め縦方向の沈線を用いて粗く施文している。28は口縁部破片と胴部破片で同一個体と思われるものである。29・30は口縁部破片である。31は口縁部～底部上半の破片である。口唇は内削ぎ気味でやや屈曲気味に外反する。口縁部は横方向の太沈線で4段に施文される。胴部は左斜め方向に太沈線で充填されている。底部は再び横方向の太沈線が多段に施文されている。32は底部の先底部分を除き可能な大形破片である。口唇外面には斜位の刻目文を配置し口縁部～底部にかけては左右斜め縦方向の太沈線を充填する文様構成をとる。33は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇はやや尖る。口縁部は太沈線を左斜め方向に充填している。34は胴部～底部上半の大形破片である。横方向の細沈線を全体に施文後胴部に右斜め方向に一部沈線を充填している。35は胴部の大形破片である。胴部の上方では左斜め方向からの太沈線、下方では右斜め方向からの太沈線で施文されている。36は口縁部～底部まで復元できる個体である。口唇はやや外反気味で尖底部分はやや丸みを持つ。口縁部～胴部にかけて太沈線が右斜め方向にやや間隔をあげながら施文されている。胴部～底部にかけてはほぼ縦方向に太沈線が間隔をあげながら施文されている。37は胴部下部～底部にかけての接合破片である。ほぼ直線的にすぼまり尖底部分がやや丸くなる。底部にはやや狭い間隔で太沈線が尖底部の先端を除き右斜め縦方向に施文されている。38は口縁部・胴部・底部がそれぞれ接合したもので直接



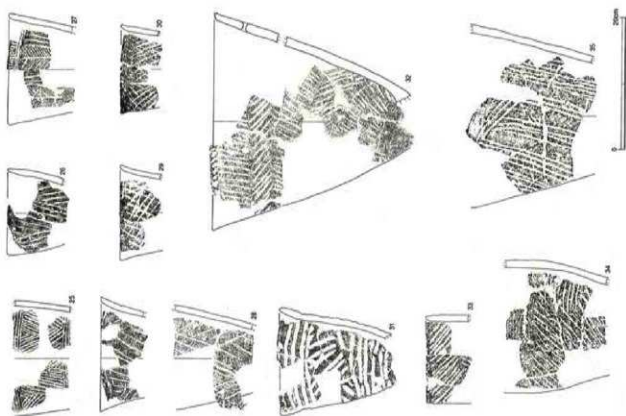
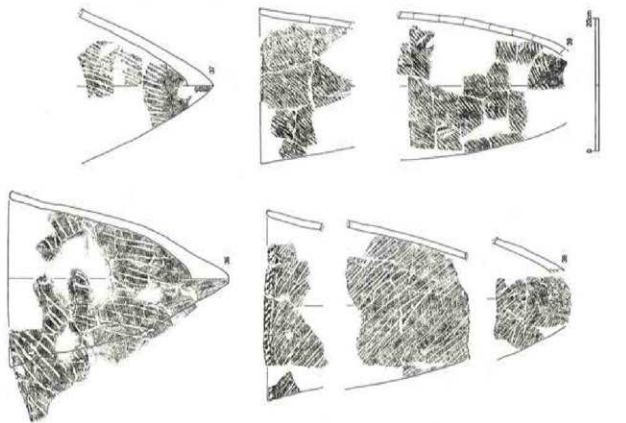
比纹文系土器 (1)



比纹文系土器 (2)

沈縱文系土器 (4)

沈縱文系土器 (3)



第69图

接合はしないが同一個体と思われるものである。口縁部の口唇外面は斜位の刻目文を配置している。口縁部～底部にかけては左斜め方向の沈線を密な状態で施文している。尖底部分は無文となる。39は口縁部～底部にかけての接合したもので尖底部分は欠落している。口唇は角頭で外面に弱い刻目文を配置している。口縁部～底部にかけては右斜め方向の短い単位の沈線を密な状態で施文している。欠落している尖底部分には施文されていないと思われる。40は口縁部下部～底部までの破片が接合したものである。縦方向にやや密な状態で太沈線が施文されている。41・42はどちらも口縁部の大形の破片である。口唇部に近い上位から横方向に太沈線をやや密に施文している。41では胴部あたりで斜め方向の太沈線が幾分施文されているのが認められる。43は口縁部～底部まで接合しほぼ全体が復元できる資料である。底部は尖底で胴部にかけてやや膨らむ。胴部～口唇部はやや外反する。口縁部は波状口縁である。2本を単位とする太沈線で最上段では口縁部に沿って波状に施文している。2段目以降はわずらながら横長の変形部分を交互に配置するようにして胴部まで施文している。胴部以下は無文である。44は胴部と底部の接合した破片である。押し引きの太沈線と周辺部分に細沈線を平行もしくは斜め方向で交差させて施文している。45は口縁部破片である。押し引きによる半截竹管文を口縁部に施文し以下左斜め方向にわずらしながら施文している。46は胴部の破片である。横方向の2本の平行太沈線を間隔をあけて施文しその間に平行する細沈線を充填している。

47～50・55～59は口縁部破片で太沈線を使用して施文されているものである。47・48は口唇外面に斜位の刻目文を配置している。口縁部はやや右斜めした縦方向の密な太沈線で施文されている。47では下位に左斜めした縦方向の密な太沈線が施文されていたと思われる。49・50は口縁部上位で縦方向に間隔をあけながら太沈線を施文後下位を横沈線で施文している。55～58は太沈線を縦右斜め方向に施文し以下太沈線を横方向に密に施文している。55・57ではさらに下位に斜め方向の施文が行われている。59は太沈線で口縁部から縦方向に施文されている。51～54は口縁部破片で沈線を使用して施文されているものである。51・52は口縁部にやや密な状態で縦方向に沈線が施文されているものである。53・54は口縁部に密な状態で縦方向に沈線が施文されて下位に横方向に密な沈線が施文されている。

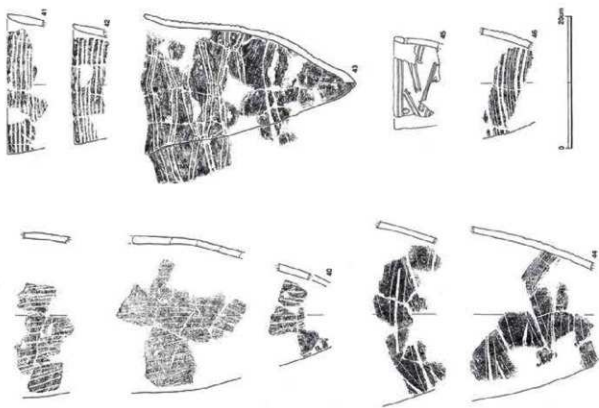
60～64は口縁部破片で条線もしくは細沈線を主体で施文されているものである。60は波状口縁になるもので口唇外面に細かい細線による刻目文が施文されている。口縁部は上位に密な縦方向の条線、下位に横方向の細沈線で施文されている。61は上位に縦方向の細沈線、下位に横方向の細沈線で施文されているものである。62～64は口唇が角頭で外面に斜位の刻目文が施されている。口縁部には密な縦方向の細沈線が施されている。65・66は口縁部破片で沈線を使用して施文されているものである。口唇はどちらも角頭気味である。口縁部から縦方向に比較的密な状態で沈線を施文している。67は口縁部破片である。口縁部より縦方向に密に条線文で施文されている。68は口縁部破片である。口唇は角頭である。口縁部から縦方向の太沈線でやや密に施文されている。69は口縁部破片である。口唇は細くなり大きく外反する。口縁部左側はほぼ縦方向に太沈線で施文されている。右側はやや狭く沈線で縦方向に施文されている。70は口縁部小破片である。口唇に近い部分は無文でやや下位の部分より間隔をあけて縦方向に細沈線を施文している。71は口縁部破片である。口縁部に2本の横方向の細沈線を施文後、下位に縦方向のやや間隔のあいた太沈線を施文している。72は小形土器の口縁部の破片である。口縁部に縦方向の短い単位の押し引き沈線と思われる施文が行われている。73は小形土器の口縁部である。口縁部下部から縦斜め方向に条線文が施されている。74は小形土器の口縁部下部の破片である。左右斜め縦方向の細沈線による施文が行われている。

75・76は口縁部の大形破片である。75は口唇がやや波状口縁になると思われるもので口唇外面に細かい細線による刻目文が施文されている。口縁部は上位に密な縦方向の条線、下位に横方向の細沈線で施文されている。77は口縁部破片である。口縁部から縦方向に条線がやや不規則に施文されている。78は口縁部破片である。口縁部上位には文様はなく中位以下にやや放射状に細沈線が施文されている。79～82までは細沈線を主体として施文している。79は口縁部破片で口唇が角頭気味で外面に斜位の細かい刻目文が見られる。口縁部には縦斜方向に細沈線で鋸歯状に施文されている。80は口縁部破片で口唇が角頭気味で外面に横方向の細沈線が見られる。口縁部には縦斜め方向に細沈線で鋸歯状に施文されている。81・82は口唇部の欠落した口縁部破片である。いずれも口縁部に細沈線で鋸歯状に施文されている。82は下位に横方向に平行する太沈線が見られる。83～87は太沈線を主体として施文されている。83は口縁部破片で口唇が角頭気味で外面に斜め方向の細沈線が充填されている。口縁部は太沈線が鋸歯状に施文されている。84・85は胴部上半の破片である。縦方向の太沈線で鋸歯状に施文されている。下位は横方向の太沈線で区画されている。86は胴部上半の破片である。84の上半分と同じ文様構成になると思われる。87は口縁部破片である。口縁部に沿って上位に横方向の3段の太沈線、それ以下に斜め方向の太沈線を施文している。その後縦方向にやや粗い沈線を施文している。

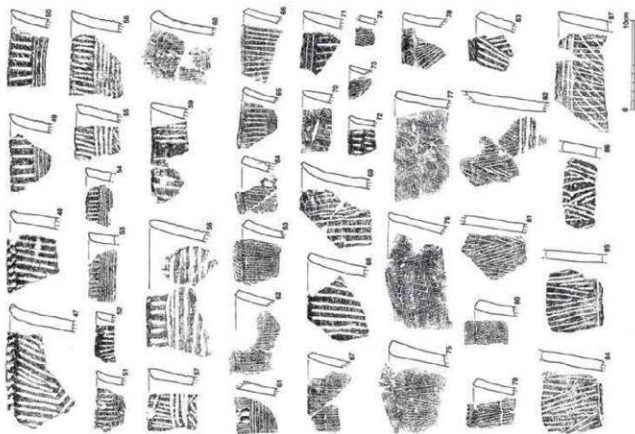
88～92は細沈線もしくは条線を主体として施文している。88は口唇部が欠落した口縁部大形破片である。斜め方向のやや間隔のある細沈線で三角形もしくは格子目状に施文されている。89は口縁部下部の大形破片である。上位は斜め方向の細沈線で三角形に施文されている。下位は4本以上の横方向の細沈線が施文されている。90は小形土器の口縁部破片である。口唇は円頭気味でやや外反する。口縁部に沿って横方向の細沈線が施文されている。下位は斜め方向の細沈線が充填されている。91は口縁部破片である。斜め方向の細沈線が三角形に充填されている。92は口縁部のやや厚みのある破片である。右は間隔のあけた斜め方向の細沈線、左は縦方向の細沈線が充填されている。93～99は太沈線を主体に施文されている。93は胴部の大形破片である。縦方向の太沈線を施文後に右側に斜め右縦方向の密な太沈線が充填されている。94は胴部の大形破片である。右斜め方向と左斜め方向の2本の平行な太沈線で区画されて中に縦方向の短い単位の太沈線を密な状態で充填している。95は小形土器の口縁部破片である。左斜め方向に太沈線で区画された上位に密に右縦斜め方向の太沈線を充填し、下位に縦やや左斜め方向の太沈線を充填している。96は胴部破片である。縦方向の太沈線で区画された間にそれよりやや細い沈線を左斜め方向に密な状態で連続的に充填している。97は胴部の大形破片である。左斜め方向の太沈線と右斜め縦方向の太沈線を充填し一部鋸歯状に施文している。98・99は条線を主体に施文している。どちらも口縁部破片で口唇は角頭気味である。縦右斜め方向の条線と縦方向の条線をやや密に充填している。100は口縁部下部の破片である。細沈線を縦方向に矢羽根状に充填している。101～103は沈線を主体に施文されている。101・102は口唇部の欠落した口縁部破片、103は口縁部～胴部にかけての破片である。これらは縦方向の矢羽根状の沈線で施文されている。104は胴部の大形破片である。上位は横方向の細沈線で施文後、斜め横方向の細沈線が一部施文され格子目状になる。中位～下位にかけては左斜め方向と右斜め方向の細沈線の組み合わせを2段連続に横方向に充填している。105は小形土器の口縁部の破片である。横方向の細沈線とその間に左斜め方向・右斜め方向の細沈線を充填している。106は胴部小破片と思われる。斜め左方向に三角形になるように細沈線を充填している。

107～118は細沈線を主体に施文されている。107は口縁部破片である。口唇は角頭気味である。上位か

沈城文系土器 (5)



沈城文系土器 (6)



ら右斜め方向、左斜め方向に細沈線を充填している。108は口縁部下部の破片である。斜め左方向に三角形になるように細沈線を充填している。109は胴部破片である。上位から右斜め方向、左斜め方向、右斜め方向の細沈線を密に充填している。110は胴部破片である。上位に横方向の細沈線がありその下に左斜め方向、右斜め方向の細沈線が施文されている。さらに下位に左斜め方向の細沈線が充填されている。111は胴部破片である。上位から右斜め方向、左斜め方向、右斜め方向の細沈線が施文されている。112は胴部小破片である。上位から右斜め方向、左斜め方向の細沈線が施文されている。113は胴部破片である。中程に横方向の細沈線を夾んで上位に右斜め方向、下位に左斜め方向の細沈線が施文されている。114・115は口縁部破片である。やや間隔をあけて「く」の字に細沈線で施文を配置している。116は口縁部破片で上下に横方向の細沈線を施文し、その中を密に右斜め方向の細沈線を充填している。117は口縁部破片である。上位～下位に横方向の細沈線を施文し、その中を密に右斜め方向の細沈線を充填している。中位～下位の細沈線の間には左斜め方向の細沈線が施文されている。118は口唇部が欠落した口縁部破片である。上位～下位に横方向の細沈線を施文し、その中を密に右斜め方向の細沈線を充填している。中位～下位の細沈線の間には左右斜め方向の細沈線が施文されており格子目状となる。

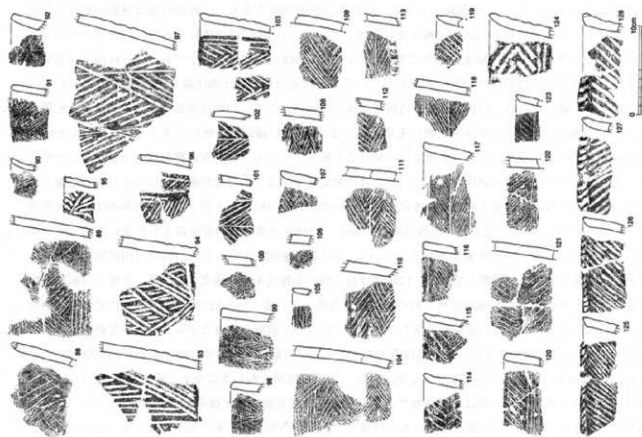
119は口縁部破片である。口唇は細く尖り気味である。左右斜め方向の細沈線が施文されており一部が格子目状となる。120は口縁部破片である。口唇は角頭気味である。口縁部上位では右斜め方向の細沈線をやや間隔をあけながら施文している。下位で横方向の細沈線を4本並行して施文している。121は胴部の大形破片である。右斜め方向の細沈線とその下位に左斜め方向の細沈線で施文されている。さらにその下位に横方向の細沈線が認められる。122は胴部破片である。左斜め方向の細沈線をやや間隔をあけて施文している。その下位に2本の横方向の細沈線が見られる。123は口縁部破片である。口唇はやや内削ぎ気味で尖頭になる。右斜め方向の細沈線がやや間隔をあけながら施文されている。その下位に2本の横方向の細沈線が見られる。124は口縁部破片である。口唇はやや内削ぎ気味で外反する。上位は太沈線横方向に逆「く」の字状に施文している。その下位には2本の横方向の並行する太沈線が見られる。125・126は口縁部破片である。口唇がやや内削ぎ気味である。口唇部外面に斜位に沈線による刻目文を配置している。口縁部は右斜め方向のやや密な沈線を施文している。127は口縁部破片である。口唇はやや外反気味である。口唇部外面に斜位に太沈線による刻目文を配置している。口縁部もほぼ連続的に左斜め方向にやや密な太沈線により施文されている。128は口縁部破片である。口唇は肥厚し円頭気味である。口唇部外面に斜位に太沈線による刻目文を配置している。口縁部も連続的に右斜め方向の太沈線により施文されている。

129～145は口縁部に太沈線もしくは沈線による斜め方向の施文が行われているものである。129は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部は右縦斜め方向に太沈線でやや間隔をあけて施文されている。130は口縁部の大形破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部は右斜め方向に太沈線でやや密に施文されている。131は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部はやや細めの太沈線で右斜め方向に施文されている。132は口縁部の大形破片である。口縁部はやや細めの太沈線で右斜め方向に施文されている。133は口縁部破片である。口縁部は右斜め方向のやや不規則な太沈線で施文されている。134は口縁部破片である。口縁部は右斜め縦方向の太沈線で施文されている。135は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや尖頭気味である。口縁部は太沈線で右斜め方向に施文されている。136は口縁部破片である。口唇部は肥厚して円頭気味である。口縁部は右斜め縦方向の太沈線で施文されている。

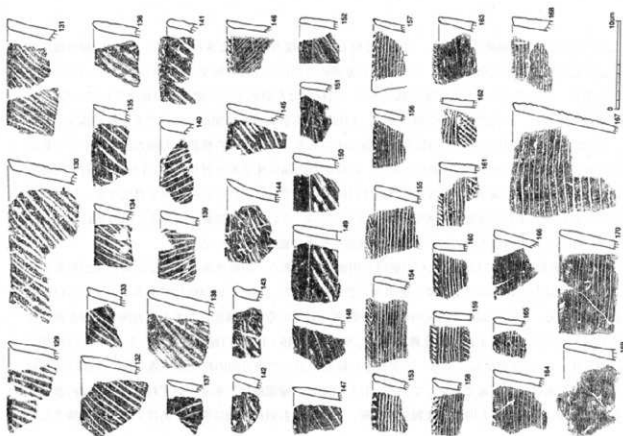
137は小形土器の口縁部破片である。口縁部は粗く左斜め縦方向に施文されている。138は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部は右縦斜め方向に太沈線で施文されている。139・140は口縁部破片である。口唇部はいずれも円頭気味である。口縁部は左斜め方向に沈線文が施文されている。141は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は右斜め方向に間隔のあけた太沈線が施文されている。142は口縁部小破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は右横斜め方向の沈線でやや不規則に施文されている。143は口縁部小破片である。口唇部は円頭気味でやや外反する。口縁部は右横斜め方向の沈線でやや不規則に施文されている。144は口縁部破片である。口唇部は尖頭で外反する。口縁部は右横斜め方向に短い単位の沈線がやや密に施文されている。145は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は右横斜め方向に短い単位の沈線がやや密に施文されている。

146は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚し円頭気味である。口唇外面には斜位に刻目文が配置されている。口縁部は左斜め方向に条線文が充填されている。147・148は口縁部破片である。いずれも口唇部は尖頭気味である。口唇外面には斜位の刻目文が配置されている。口縁部は2本の横方向の条線を施文後、下位に右斜め方向に間隔をあけて細沈線で施文している。149・150は口縁部破片である。149は口唇部でやや円頭気味、150は角頭気味である。いずれも口縁部に沿って横方向の細沈線で施文後、下位には右斜め方向に間隔をあけて太沈線で施文している。151・152は口縁部破片である。いずれも口唇部は円頭気味である。口縁部に沿って横方向の細沈線で施文後、下位には右斜め方向に間隔をあけて細沈線で施文している。

153～180は横方向の細沈線もしくは条線による施文が主体のものである。153は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口唇部外面は刺突による刻目文を配置している。口縁部は横方向に細沈線を密に充填している。154は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面は斜位の刻目文を配置している。口縁部は横方向に細沈線を密に充填している。155は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横方向に細沈線を密に充填している。156は口縁部の小破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面は斜位の刻目文を配置している。口縁部は横方向に細沈線を密に充填している。157は口縁部の小破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で尖頭状になる。口唇部外面は斜位の刻目文を配置している。口縁部は横方向の細沈線を密に充填している。158は口縁部の小破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で尖頭状になる。口唇部外面は斜位の刻目文を配置している。口縁部は横方向の条線を密に充填している。159～161は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面は斜位の刻目文を配置している。口縁部は横方向の細沈線をやや密に充填している。159・161ではその下位に縦方向の沈線が充填されている。162は口唇部の欠落した口縁部破片である。口縁部は横方向の細沈線をやや密に充填している。その下位に右斜め縦方向に沈線文を施文している。163は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部の内側に刻目文を配置している。口縁部は横方向の条線文を粗く施文している。下位には縦方向の条線も残る。164～166は口縁部に横方向の細沈線を充填している。167は口縁部の大形破片である。口縁部の上位はやや密に横方向の沈線を充填している。下位はやや間隔をあけながら横方向に沈線を充填している。168は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横方向の細沈線を密に充填している。169は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向の条線をやや密に充填している。170は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横方向の細沈線を密に充填している。171は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向の細沈線を密に充填している。下位は斜め方



沈饒文系土器 (7)



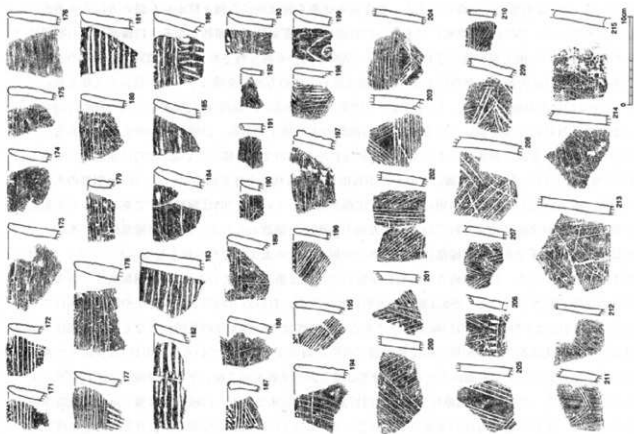
沈饒文系土器 (8)

向の細沈線が覗く。172は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向の細沈線を密に充填している。下位は縦方向の細沈線が一部見られる。173～176は横方向の条線で主に施文されている。173は口縁部破片である。口唇部は角頭気味でやや外反する。口縁部は横方向の条線を密に充填している。174は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向の条線をやや粗く施文している。175は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向と左斜め方向の条線をやや粗く施文している。176は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向の条線をやや密に施文している。177は口縁部破片である。口唇部は円頭気味でやや外反する。口縁部は上位で横方向の細沈線を充填し下位で右縦斜め方向の太沈線をやや密に充填している。178は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横方向の細沈線で密に施文している。右斜め横方向の細沈線も一部見られる。179は口縁部の小破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横方向の細沈線が施文されている。180は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向の細沈線で施文されている。下位には右斜め方向の細沈線をやや粗く施文している。181～183は口縁部破片でいずれも横方向の太沈線が口縁部にやや密に充填されている。184は口縁部破片である。口唇部は尖頭状でやや外反する。口縁部には横方向の沈線が粗く施文されている。185は口縁部破片である。口唇部は角頭気味でやや外反する。口縁部には横方向の沈線が粗く施文されている。186は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部上位には横方向の太沈線を粗く施文している。下位には縦方向の短い太沈線をやや間隔をあけて施文している。187は小形の土器の口縁部の破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面には斜位の沈線による刻目文を配置している。口縁部は4本の横方向の細沈線と一部交差する右横斜め方向の細沈線を充填している。188は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部外面は斜位の刻目文が配置されている。口縁部には横方向に2本の細沈線を施文している。189は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には2本の細沈線を単位とする横方向と縦方向の細沈線を施文している。斜め方向の条線も若干残されている。190～192は小形土器の口縁部破片である。190は口唇部がやや尖頭状である。191は口唇部が欠落している。192は口唇部がやや円頭気味である。口縁部はいずれも横方向の条線と斜め方向の条線が組み合わせられて施文されている。193は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味で外反する。口唇部外面は刺突文を施文している。口縁部は横方向の条線をやや粗く施文している。下位には縦方向の条線も残されている。194は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は縦方向もしくは右斜め縦方向の細沈線をやや粗く施文している。195・196は口縁部破片である。195は口唇部は内閉気味で尖る。196は口唇部は円頭気味である。口縁部はいずれも左斜め方向の細沈線を密に充填している。197は口縁部破片である。口唇部外面は階段状になる。口縁部は横方向の細沈線を粗く施文しているが、縦方向に列点状の刺突文を施文している。198は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面は斜位の刻目文を施文している。口縁部には縦方向の条線と細沈線を施文している。199は口縁部破片である。口唇部は円頭気味でやや外反する。口縁部は太沈線で渦巻き状の文様を描いている。縦方向の条線も認められる。

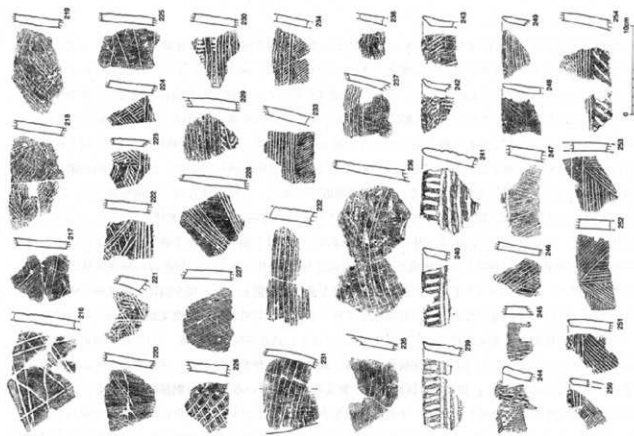
200～238は胴部破片である。200は胴部破片である。やや間隔のある右斜め方向の細沈線と左斜め方向の細沈線を充填している。201は胴部破片である。中央に縦方向の細沈線が3本見られる。左側は左縦方向の細沈線がやや粗く施文されている。右側は右斜め方向の細沈線がやや粗く施文されている。202は胴部破片である。中央に縦方向の6本の細沈線が見られる。左側は左斜め方向の細沈線がやや密に施文されている。右側には左斜め方向の細沈線がやや密に施文されている。203は胴部破片である。上位は左側に

右斜め方向の細沈線、右側に左斜め方向の細沈線がやや密に施文されている。下位は横方向の細沈線が密に施文され中程に三角形の無文帯が残る。204は胴部破片である。203とは逆に上位に横方向の細沈線が密に施文され中程に逆三角形に無文帯が残る。205は胴部破片である。中程の無文帯を残し左右に右斜め縦方向に沈線文をやや密に施文している。左下方に左斜め方向の細沈線が一部見られる。206は胴部破片である。上位に左右斜め方向の条線が施文されている。中程に横方向に刺突文が見られる。下位には横方向の細沈線を施文している。207は胴部破片である。左右斜め方向の条線を充填し鋸歯状の文様を描いている。208は胴部の大形破片である。左斜め方向のやや間隔のあいた沈線を施文し、右側には右斜め方向のやや粗い太沈線が施文されている。下位には横方向の沈線が一部見られる。209は胴部破片である。上下に斜め方向の沈線を施文し鋸歯状の文様を描いている。210は小形の土器の胴部破片である。上位は横方向の細沈線を、下位には斜め方向の細沈線で鋸歯状の文様を描いている。211は胴部破片である。斜め横方向の細沈線で「V」字状に施文されている。212は胴部破片である。横方向の細沈線を施文後にやや粗い右斜め方向の細沈線を施文している。213は胴部の大形破片である。左縦斜め方向の細沈線と右斜め方向の細沈線を組み合わせた文様構成で施文している。214は胴部破片である。上位は右横斜め方向の細沈線を施文している。下位ではやや右縦斜め方向に細沈線を施文している。215は胴部破片である。右斜め方向に2本を単位とした細沈線がやや粗く施文されている。216は胴部破片である。太沈線で多方位に文様を描いている。217は胴部破片である。5～6本を単位とする多方位の並行細沈線が施文されている。218・219は胴部破片である。いずれも左右斜め方向の細沈線を施文し、四角形に近い区画で充填しながら文様を描いている。220は胴部破片である。左側が縦・縦右斜め方向の細沈線で施文されている。右側が右横斜め方向の細沈線で施文されている。221は胴部破片である。2本を単位とする沈線で縦・横方向と右斜め方向の沈線を組み合わせて不規則な図形を描いている。222は胴部破片である。上位は左横斜め方向の沈線を施文後に右斜め方向の沈線を組み合わせ平行四辺形状に文様を充填している。下位は横方向の沈線を施文し充填している。223・224は胴部破片で上位は沈線で区画された中を密に斜め方向の沈線を充填している。下位は横方向の沈線を施文し充填している。225は胴部破片である。右斜め方向の沈線を粗く施文している。226は胴部破片である。左右斜め方向の沈線で格子目状の文様を描いている。227は胴部破片である。左右縦斜め方向の細沈線により格子目状の文様を描いている。228は胴部破片である。斜め方向に4本を単位とした沈線を2段に充填したものをやや横方向にずらしながら施文している。右隣に縦方向の沈線の一部が見える。229は胴部破片である。上位では横方向の細沈線をやや密に施文している。下位ではやや広がった沈線の間に斜位に短い単位の沈線を充填している。230は胴部破片である。基本的に横方向の密な沈線を充填している。上位のやや間隔の広がった部分を中心に縦方向の短く密な沈線を充填している。231・232は胴部破片である。いずれも横方向のやや粗い沈線を施文している。233は胴部破片である。上位では横方向の沈線が密に施文されている。下位では左縦斜め方向にやや弱い細沈線を密に施文している。234は胴部破片である。2本を単位とする横方向の沈線を3段配置しその間に左斜め方向の細沈線を密に充填している。下位では左斜め方向の細沈線を密に充填している。235は胴部下部の破片である。やや間隔のある横方向の細沈線が施文されている。236は胴部破片である。やや間隔のある横方向の沈線を主体に施文している。237・238は胴部下部の破片である。上位に横方向の細沈線を施文後、下位は縦方向の条線あるいは横方向に弱い細沈線が見られる。

239～241は口縁部破片で太沈線で主に施文されたものである。口唇部は239では角頭気味、240では内側



沈辽文系土器 (9)



沈辽文系土器 (10)

ぎでやや尖頭状になる。241は円頭である。口縁部はいずれも縦方向の短い太沈線を施文後、下位に横方向のやや間隔のあいた太沈線を充填する配置である。242・243は口縁部破片である。口唇部はいずれも内側をつまんでやや外よりに尖頭状にしている。口縁部はやや短めの沈線で縦方向に不規則な文様を充填している。244は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇外側には斜位の刻目文を配置している。口縁部には縦方向の条線と中程に縦方向の列点文が施文されている。245は胴部破片である。244と同様に縦方向の条線と中程に縦方向の列点文が施文されている。246は胴部破片である。左斜め方向の細沈線と左斜め条線を交互に配置し充填している。247は胴部破片である。上位に横方向の沈線を施文後、以下に左側に左縦斜め方向に細沈線を充填している。右側に右縦斜め方向に細沈線を充填している。248は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味である。口縁部の上位は右斜め方向の条線を充填、下位は左斜め方向の条線を充填し矢羽根状の文様構成となる。249は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で尖頭状となる。口縁部には横方向の2本を単位とする細沈線を多段に配置してその間を斜位に細沈線で充填している。250・251は口縁部破片である。口唇部は尖頭状である。口唇外側には刺突文が見られる。口縁部に沿って横方向の細沈線が施文されている。以下は250では左右斜め方向の細沈線、251では右斜め方向の細沈線が施文されている。252・253は胴部破片である。細沈線で三角形に近い形に区画された中に細沈線を充填している。253では上位に細沈線で区画された無文帯を挟んでいる。254は胴部破片である。上位に右斜め方向の細沈線を密に充填している。中程は沈線を多段に配置している。下位には右斜め方向の太沈線をやや間隔をあけて施文している。255は胴部破片である。沈線を横方向に間隔をあけて配置し、その間に短い単位の右横斜め方向の沈線を粗く施文している。256は胴部破片である。中程に横方向の沈線で区画してその上位に左斜め方向のやや粗い細沈線を施文している。その下位には右斜め方向の沈線を粗く施文している。257は胴部上半の破片である。縦方向の沈線を施文後に右側上位から左斜め方向の条線が一部施文されている。258は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で尖頭状となる。口縁部には右縦斜め方向の間隔のあいた細沈線が施文されている。一部縦方向の条線も残されている。259は口縁部の大形破片である。口唇部は円頭でやや外反する。口縁部は左右の斜め方向の条線により格子目状の文様を描いている。260は口縁部の破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部は259同様に左右の斜め方向の条線により格子目状の文様を描いている。261は口縁部の大形破片である。口唇部はやや尖頭状である。口縁部から左右斜め方向の細沈線によりやや不規則な格子目状の文様を描いている。262は胴部破片である。261と同様に左右斜め方向の細沈線によりやや不規則な格子目状の文様を描いている。263は胴部の大形破片である。縦方向と左斜め方向の短い単位の太沈線を施文している。264は胴部破片である。やや不規則な左横斜め方向の沈線で施文されている。縦方向の条線も一部認められる。265は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部は右斜め方向の短い単位の太沈線でやや粗く施文されている。266は胴部上半の破片である。右縦斜め方向の短い単位の太沈線で施文されている。267は胴部破片である。円弧状に太沈線で施文している。268は胴部の大形破片である。右斜め方向の太沈線でやや間隔をあけて施文している。269は小形の土器の口縁部破片である。口唇部はやや外よりの尖頭状になる。口縁部は2本を単位とした細沈線を2段に配置し細沈線の間に斜位の刺突文を充填している。270は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや尖頭状となる。口縁部は横方向の条線を施文後に下位に条線による円弧状の文様を充填している。271は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部には横方向の細沈線を施文している。一部には斜め方向の条線が残されている。272は口縁部破片である。口唇部は角頭気味であ

る。口縁部は横方向の細沈線を密に充填している。273は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は上位にやや無文帯があり、その下に横方向の細沈線を密に充填している。274は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で尖頭状となる。口縁部は横方向の細沈線がやや粗く施文されている。275は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横方向のやや密な条線を施文している。276は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部上位は無文帯があり、下位に密な横方向の条線が充填されている。277は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部には横方向の細沈線がやや粗く残されている。278・279は胴部破片である。上位では横方向の細沈線で施文し、下位ではやや右斜め方向の間隔のあいた細沈線で施文されている。最下部では上位と同様に横方向の細沈線が充填されていると思われる。281は胴部破片である。上位では左横斜め方向の細沈線と右横斜め方向の細沈線を組み合わせて施文している。下位は横方向の細沈線を充填している。282は小形土器の口縁部破片である。口唇部外面はやや尖頭状である。口唇部外面は刺突文が残されている。口縁部に沿って横方向の細沈線を2段に施文しその下は無文である。283は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は中程に横方向の3本の細沈線を施文している。284は大形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部に沿って横方向の細沈線を多段に配置している。以下は無文帯である。下位部分に斜め方向に細沈線が一部認められる。285は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横・斜め方向に粗く施文されている。286は胴部上半の破片である。左右横斜め方向の細沈線で施文されている。中程に無文帯がある。287は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状である。口縁部に沿って横方向の細沈線を施文している。無文帯を挟んで左斜め方向にやや粗く細沈線を充填している。288は胴部破片である。横方向に2本を単位とする沈線を施文している。ややあけて斜め右方向に沈線の一部が認められる。289は胴部破片である。右斜め方向に3本を単位とする沈線を施文している。290は胴部破片である。横方向の2本を単位とする細沈線を施文している。291は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は波状口縁で口縁部に沿って2本の横方向の沈線を施文している。292は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部に沿って3本の沈線を施文している。293は小形土器の口縁部破片である。右斜め縦方向に条線が施文されている。

294～298は太沈線で区画された中に斜位の沈線を密に充填しているものである。294は口縁部破片でやや波状口縁になると思われるものである。口唇部はやや角頭気味である。口縁部には横方向の2本を単位とする太沈線が2段施文されている。左端に縦方向の半月状の刺突文が見られる。中程の太沈線の間には右斜め方向の細沈線を充填している。下位の太沈線の下には左斜め方向の細沈線を充填している。295～297は同一の土器片もしくは類似の文様構成を持つ土器の一群と思われる。298・299はこれらの土器の下位に相当するものと思われ無文帯になる部分であろう。300は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部は横方向の沈線と左斜め方向の沈線とで区画されその中を細かい刺突文で充填している。301は口唇部が欠落した口縁部の破片である。横方向の沈線と左斜め方向の沈線とで区画されその中を円弧文で充填している。302は円弧文が施文されている部分であろう。

303～314は同一の土器の破片もしくは類似の文様構成を持つ土器の一群と思われる。303は口縁部～胴部上半にかけての大形破片である。口唇部内外面に刻目文を配置している。上位では2本を単位とする沈線を横方向と右斜め方向に区画しさらに下位に押し引きによる半月状の刺突文を充填している。以下に沈

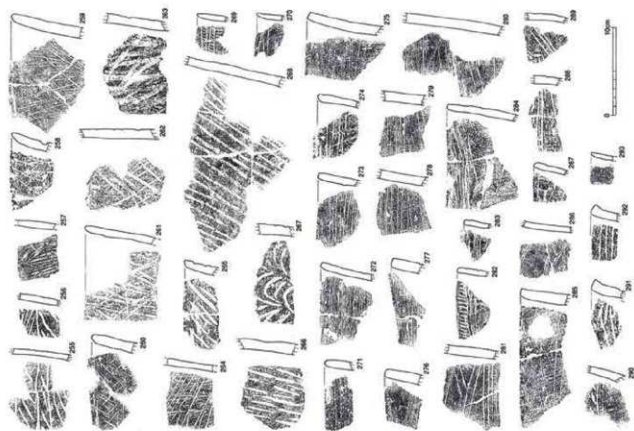
線で横方向に区画し、さらに内側に貝殻腹縁線を充填している。304は303の上半部分と思われる。307は303の下半部分の貝殻腹縁線部分と思われる。305は口縁部の大形破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部上位は横方向の3本の沈線を施文している。中程には縦方向の短い単位の太沈線をやや粗く充填している。下位では横方向の細沈線が認められる。306は口唇部の欠落した口縁部破片である。上位で右斜め方向の太沈線をやや粗く施文し、以下に横方向の太沈線を2段施文している。308は口唇部の欠落した口縁部破片である。上位を横方向の太沈線で区画し、下位は区画内に左斜め方向の細沈線を密に充填している。309は胴部上半の破片である。上位では横方向の細沈線を多段に配置し中程のやや間隔をあけた区画の中に縦方向の短い単位の細沈線を密に充填している。下位には横方向の太沈線を2本施文している。310・311は口縁部破片である。幾分波状口縁になるものと思われる。2本を単位とする横方向の太沈線を組み合わせ波状部の間隔のあいた部分に右斜め方向の細沈線をやや間隔をあけて配置している。312は口唇部が欠落した口縁部破片で太沈線に上下から夾まれた区画内に右斜め方向の細沈線をやや間隔をあけて配置している。313は口縁部下半の破片である。右斜め方向の細沈線をやや間隔をあけて配置している。下位には縦方向の太沈線の一部と左側端に弧状の太沈線の一部が見られる。314は胴部破片である。右斜め方向の細沈線の下位に太沈線を弧状に施文しその中に格子目状の細沈線が充填されている。

315は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部直下に横方向の太沈線を2本施文している。以下は縦方向のやや間隔をあけた太沈線とその間に左斜め方向の細沈線を充填している。316は口唇部が欠落した口縁部破片である。2本の太沈線を弧状に施文しその間に横方向の刺突文を1列充填している。317は波状口縁部破片である。上位で弧状の沈線と斜位の刻目文を間に充填している。中程に横方向の多段の沈線を密に充填している。その下を右斜め方向の沈線で区画し短い単位の太沈線を間隔をあけて配置している。318～321は太沈線で区画された中に斜め方向の細沈線を充填するパターンの変種構成を持つものである。

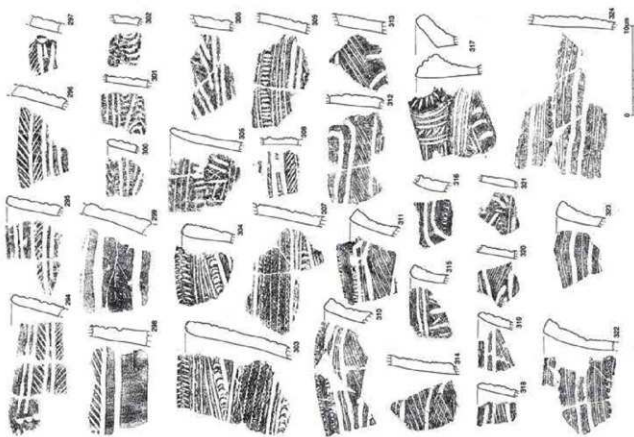
322～324は横方向の太沈線と細沈線が組み合わさったものである。322は口縁部破片である。口唇部は角頭気味でやや肥厚し外反している。上位から横方向の細沈線、太沈線、細沈線と施文されている。以下太沈線2本、細沈線2本と並び刺突文が入る。323は少し波状口縁気味の破片である。横方向の細沈線、太沈線と交互に並んで施文されている。324は胴部の大形破片である。横方向の太沈線、2本の細沈線の下に横方向の刺突文による円弧文を充填している。以下2本の細沈線、2本の太沈線、2本の細沈線と並ぶ。横方向の施文が主体である。

b 種 刺突文を主体として施文したもの（第74～76図1～172、図版28上～30）

1は口縁部～胴部にかけて遺存しているものである。口唇部はやや尖頭状で外反する。口縁部には押し引きによる不連続な横方向の細沈線を間隔をあけて配置している。その間に横方向の円弧文を2列配置している。また胴部にも横方向の押し引きによる不連続な横方向の細沈線を充填している。2は口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇部はやや尖頭状で外反する。口縁部上半は横方向に3段に半月状に連続刺突文が並ぶ。口縁部下半は左右縦斜め方向の細沈線がやや不連続に施文され充填されている。胴部は再び横方向に3段～4段に半月状に連続刺突文が並ぶ。3は口縁部～胴部上半にかけて遺存しているものである。口唇部はやや細身になり角頭気味で外反する。口唇部外面には刻目文が見られる。口縁部下半にはやや斜め横方向に3段の刺突文と並行する沈線文が施文されている。4は口縁部～胴部上半にかけての接合破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部上面に刻目文を配置している。口縁部上半には横方向に

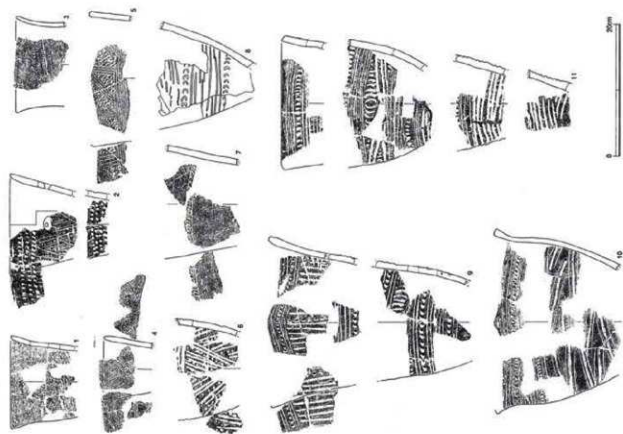


北綫文系土器 (11)

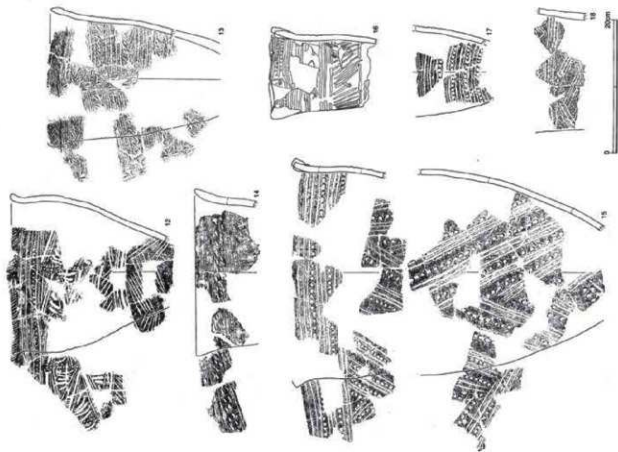


北綫文系土器 (12)

2本を単位とする細沈線を2段施文している。口縁部下半には同じ原体を使用して三角形の区画を描いている。一部にはその内側に細かい刺突による列点文を充填している。胴部にも細沈線を2段施文しその下方に同様な区画帯を描いている可能性が高い。5は口縁部の接合破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部上半では3~4本の単位の細沈線を使って鋸歯状の区画帯を描きその内側に刺突による列点文を充填している。口縁部下半では横方向の細沈線を多段に施文している。6は胴部の大形破片である。胴部上半は横方向の太沈線で2段に施文し、胴部下半に向かって左縦斜め方向に太沈線を施文後、右縦斜め方向に太沈線を施文している。太沈線と並行して間に刺突による列点文を充填している。7は胴部破片である。胴部上半には細沈線による三角形のような幾何学模様を描かれている可能性がある。その下に横方向の2本の細沈線とその間に斜位に刺突文が施されている。8は胴部~底部上半にかけての大形破片である。胴部上半には不連続な細沈線を施文後に半莖竹管による横方向の刺突文を施文している。胴部下半には多段の不連続な細沈線を施文後に半莖竹管による横方向の刺突文を施文している。底部上半は無文である。9は口縁部~底部上半にかけての接合破片である。口唇部はやや波状口縁になるものと思われる。胴部は一部欠落している。口唇部はやや肥厚し角頭気味で外反する。口縁部上半は2本を単位とした細沈線を2段に配置してその間に半月状の刺突文を施文している。その下には縦方向の太沈線を充填している。口縁部下半には横方向の沈線を多段に施文しその下に横方向の刺突文が施文されている。胴部上半には2本を単位とした横方向の沈線と区画された中に弧状の太沈線による施文と半月状の刺突文を施文している。底部上面にも同じパターンの文様が見られる。10は口縁部~胴部下半の接合破片である。口縁部は波状口縁になる。口唇部は角頭気味で外反する。口縁部には横方向の細沈線を多段に配置して一部に並行して刺突文を充填している。胴部以下は斜め方向に押し引きによる沈線を幾何学的に施文している。11は口縁部~胴部までの破片と胴部下半~底部の一部までの同一個体と思われるものである。口唇部は角頭気味でやや外反する。口縁部上半は3本の細沈線を施文している。その下に横方向の刺突文が施文されさらに細沈線を多段に施文している。胴部上半は一部横方向の刺突文が残されておりその下には多段の細沈線が施文されている。胴部下半にかけては弧状の太沈線で横方向に矮小化していく文様と太沈線で区画されている。さらに下にかけては横方向の多段の細沈線と中程に横方向に並行する刺突文が残されている。底部には横方向のやや密な太沈線をが施文している。12は口縁部~底部にかけての接合したものである。口唇部はやや円頭気味で外反する。口唇部外面は斜位の刻目文を配置している。口縁部上半には横方向の3段の沈線を施文し、間に並行して刺突による列点文が充填されている。口縁部下半から胴部にかけては左斜め方向と横方向の沈線、細沈線を組み合わせて文様を構成している。中程に縦方向の刺突による列点文が入れている。底部以下にも胴部と逆斜め方向の沈線を主体に施文されている。13は口縁部~底部上半にかけての接合破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部上半は弱い格子目状の条線が施文されている。以下に2本の横方向の沈線が施文されている。口縁部下半から胴部にかけては横「フ」の字状の刺突文と4本の沈線が交互に配置された文様構成である。14は口縁部~胴部上半にかけての接合破片である。口唇部は尖頭状でやや外反する。口縁部上半は2本を単位とする細沈線を2段施文後に横方向の右斜めの刺突による2段の列点文を施文している。口縁部下半には2本を単位とする細沈線を2段施文している。以下は無文である。15は大形土器の口縁部~底部上半にかけての接合破片である。口唇部は角頭気味でやや外反する。口縁部上半は横方向の3本の沈線を施文後にその下に並行して刺突文が施文されている。そのパターンを下にもう一度繰り返す。口縁部下部~底部にかけては右斜め方向の沈線と並行する刺突文が



刺突文(1)



刺突文(2)

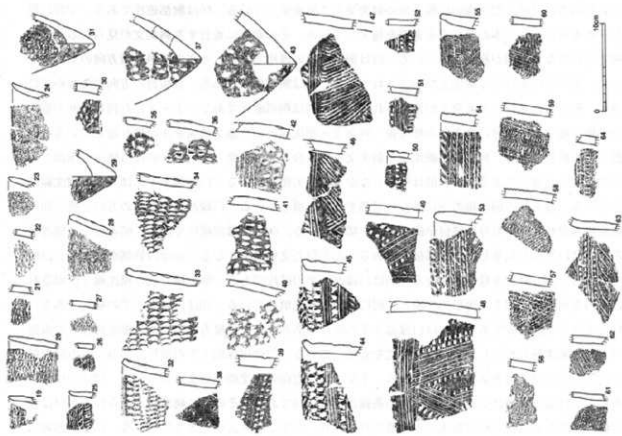
施文されている。胴部途中から一部左斜め方向の沈線と並行する刺突文を重ねる様に施文している。16は口縁部～胴部下半の大形破片である。波状口縁になるものと思われる。口唇部はやや角頭気味で外反する。口縁部上半は沈線文とその内側に並行して刺突文を充填している。口縁部下半～胴部にかけては横方向のやや不連続な沈線文が施文されている。胴部下半は左斜め方向の沈線をやや粗く充填している。17は胴部～底部上半の破片である。胴部上半は横方向と横やや斜め方向の沈線を充填して文様を構成している。胴部下半以下は横方向の沈線と所々に並行して刺突文を施文して文様を構成している。18は胴部破片である。胴部上半は横方向の細沈線を3本施文し、中に並行して刺突文が施文されている。胴部下半にかけては左斜め方向と右斜め方向の3本を単位とする沈線で施文している。上半の一部にも似た文様があったと思われる。

19・20は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には列点状の刺突文が見られる。20の口縁部下部には横方向の沈線も残されている。21・22は口縁部下部の小破片である。いずれも横方向の列点状の刺突文が見られる。21の下部には横方向の細沈線が2本見られる。23は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部上部には横方向の2本の条線が施文されている。その下方に左斜め方向の条線と円弧状の刺突文が一部見られる。24は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや尖頭状になる。口縁部には全面にやや不規則に円弧状の刺突文が並ぶ。25は口縁部破片である。口縁部に横方向の2本の条線を施文し、その間に斜位の刺突文が残されている。26は口唇部の欠落した口縁部小破片である。25と同一個体と思われる。27は口縁部下半の破片である。やや不規則な横方向の刺突文が残されている。28は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部の中央部に縦方向の刺突文が、左側には横方向の刺突文が残されている。29・31は尖底になる底部もしくは底部破片である。縦方向の列点状の刺突文が残されている。30は胴部下部の破片である。左斜め方向に刺突文が残されている。

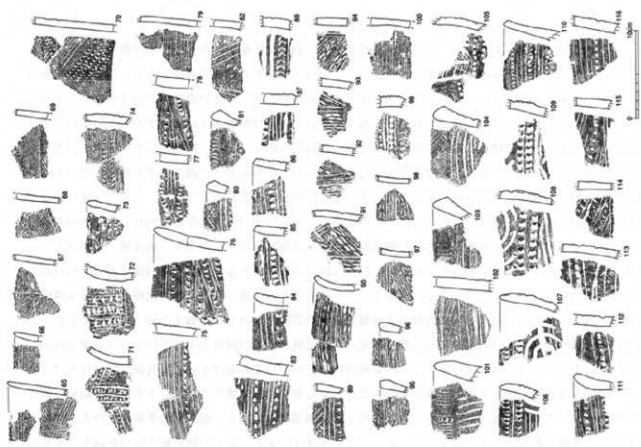
32～37・40～43はやや太めの片側が円弧状になる刺突文を主体に施文しているものである。32は口縁部破片である。口唇部は角頭気味で外反する。口縁部には横方向に密に片側が円弧状になる刺突文が施文されている。33は口唇部が若干欠落した口縁部破片である。32と同様に横方向に密に片側が円弧状になる刺突文が施文されている。34～36は口唇部が欠落した口縁部破片である。32と同様に横方向に密に片側が円弧状になる刺突文が施文されている。37は尖底になる底部破片である。横方向にやや粗い片側が円弧状になる刺突文が施文されている。40は胴部下半の破片と思われる。やや斜め方向に密に片側が円弧状になる刺突文が施文されている。41は胴部下半の破片と思われる。横方向に密に片側が円弧状になる刺突文が施文されている。42は胴部破片である。上半部は横方向の4本の細沈線を施文後にその下に横方向に密に片側が円弧状になる刺突文が施文されている。43は尖底の底部破片である。横方向の片側が円弧状になる刺突文が施文されている。

38は胴部破片である。細沈線が一部見られる。中程にまばらに不規則な列点状の刺突文が残されている。39は胴部破片である。やや斜め横方向に2列ずつの方形の刺突文が間隔を空けて2段見られる。44は口縁部破片である。口唇部は内側に傾斜している。口唇部外側は斜位に刻目文が施されている。口縁部上位は横方向に2段の刺突文が施されている。その下に3本の沈線文と1段の刺突文が並行しさらに3本の沈線が並行するものと思われる。45は口縁部破片で44と似た文様構成をとるものと思われる。45ではさらに下に斜位に刺突文を施文し沈線文が並行する。46は胴部破片である。上半には刺突文が一部見られその下に横方向の3本細沈線が施されている。下半には右斜め方向の細沈線が充填されている。一部左側に左斜

め方向の細沈線が施文されている。47は胴部破片である。刺突文と横方向の3本の細沈線は同じであるが下半には右斜め方向の細沈線が密に施文されている。48は大形土器の胴部の破片である。胴部上半に横方向の細沈線を5~6本施文している。その下に左・右斜め方向に同じ原体で細沈線を施文し外側・内側に沿って弧状の刺突文もしくは方形の刺突文を施文している。49は胴部下半の破片で48の土器片の下半部分とはほぼ同じような文様構成である。50は小形土器の口縁部の破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部に横方向に2段の方形の刺突文を施文している。51は小形土器の口縁部下半の破片と思われる。横方向の方形の刺突文を施文しさらに下に3本の横方向の細沈線を施文している。その下に縦方向にやや間隔をあけた細沈線を施文している。50の土器片のやや下位に相当する部分と思われる。52は小形土器の口縁部下半の破片と思われる。横方向の細沈線を4本施文後にその下に刺突文、細沈線、刺突文という構成になる。50の土器片の一部かもしれない。53は口縁部の破片である。口唇部は円頭である。口唇部外面には斜位の刻目文を施文している。口縁部上半から横方向の細沈線・刺突文・細沈線という施文構成を3回繰り返して下半では左斜め方向に同様な文様構成をやや間隔をあけながら施文されていると思われる。54は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面から口縁部上半にかけての文様構成は53とほぼ同じである。55は口縁部破片である。口唇部は内側をややつまみあげる感じで角頭気味に仕上げている。口縁部上半は横方向の3本の条線とそこに並行する刺突文を充填している。下半では左斜め方向にやや間隔をあけて条線を施文している。56は小形土器の胴部破片である。縦方向の条線と並行する刺突文と横方向の条線を組み合わせて施文している。57は胴部破片である。左・右斜め縦方向の条線をやや密に施文し、一部それらと並行する刺突文を充填している。58は胴部上半の破片である。57よりは上位に相当する部分と思われ刺突文が多く充填されている。59は胴部破片である。2本を単位として条線と横方向と縦やや右斜め方向で囲んだ区画内に縦方向の刺突文を2列充填している。60は胴部破片である。中程に縦やや右斜め方向に5~6本の並行する条線を施文している。その両側に並行する刺突文が見られる。下半には横方向に重なる条線が施文されている。61は胴部上半の破片である。2本の左斜め横方向の条線が一部見られ、その下に並行して刺突文が施文されている。62は胴部破片である。右横斜め方向の条線が密に充填され、その下に並行して刺突文が施文されている。63は胴部破片である。上・下に右斜め方向の細沈線をやや粗く施文し、中程に横方向の細沈線・刺突文・細沈線という施文構成を3回繰り返している。64は胴部上半の破片である。横方向の細沈線と刺突文を組み合わせて施文している。65は口縁部~胴部上半にかけて接合した破片である。口唇部は外斜しながらやや尖頭状になる。口縁部上半には3本の細沈線を施文している。最上部の細沈線の中に並行して刺突文を充填している。口縁部下半は斜め方向と横方向の細沈線を組み合わせ三角形等の幾何学的な文様を描いている。66は口縁部破片である。65と似た文様構成となる。67は口唇部が欠落した口縁部破片である。65と似た文様構成となる。68は口唇部が欠落した口縁部破片である。65と似た文様構成となる。69は口縁部下半の破片である。縦・横方向の細沈線で区画された中に斜め方向の細沈線を三角形に充填し、間に刺突文を充填している。70は口縁部下半の破片である。69と似たような文様構成である。71は口縁部下半の破片である。中央に縦方向の3本の細沈線とその両側に斜め方向の細沈線を配置し、中には刺突文を充填している。72は口縁部下半の破片である。縦方向の細沈線を充填しその中に刺突文を充填している。下位では横方向の細沈線が施文されている。73は口縁部破片である。口唇部は尖頭状である。横方向の条線が充填されており、その中に刺突文が見られる。74は胴部の接合破片である。横方向の細沈線が充填されており、上半で刺突文が充填されている。75は胴部破片



刺突文 (3)

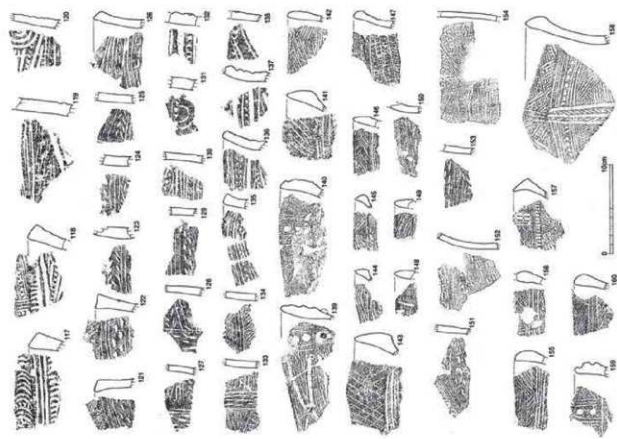
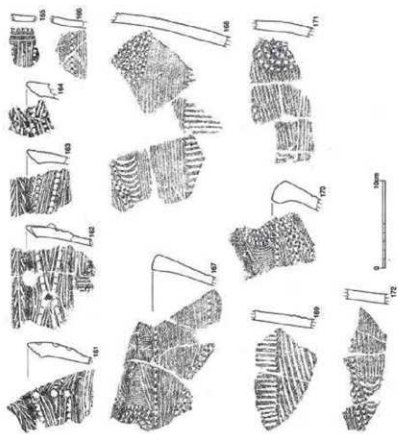


刺突文 (4)

である。横方向の沈線が充填されている。下位に沈線と並行して爪形の刺突文が見られる。76は口縁部破片である。口唇部は尖頭状でやや外反気味である。口唇部外面付近は横方向に細沈線を狭い間隔で充填し、口縁部上半では横方向の沈線を広くあけた部分に爪形の刺突文を充填している。口縁部下半では右斜め方向の沈線を広くあけた部分に爪形の刺突文を充填している。77は胴部破片である。横方向の細沈線と一部その細沈線と並行して刺突文が充填されている。78は胴部破片である。横方向の細沈線と右斜め方向の細沈線が施文されている。一部その細沈線と並行して刺突文が充填されている。79は胴部破片である。横方向の条線が密な状態で施文されている。間に細かい刺突文が見られる。80は口縁部の小破片である。口唇部は肥厚し内側にやや尖頭状である。口唇部外面に斜位に刺突文が施されている。口縁部上半に2本の横方向の沈線を施文後に下位にやや斜め方向の沈線が施されているようである。81は口縁部の小破片である。口唇部外面に爪形の刺突文が施されている。口縁部には横方向のやや密な細沈線が施文されている。82は胴部破片である。縦斜め方向のやや幅広い細沈線と並行する半月状の刺突文が施文されている。83は胴部破片である。横方向の沈線が充填されている。3本あけて並行する刺突文が施文されている。84は口縁部破片である。口唇部は角頭気味でやや外反する。口縁部は横方向の3本の沈線が施文されておりその下に刺突文が一部見られる。85・86は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部には横方向の沈線と間に並行して半月状の刺突文が見られる。87は胴部破片である。横方向の半月状の刺突文とその下にやや密な横方向の細沈線を充填している。88は胴部破片である。2本の横方向の太沈線の下に爪形の刺突文を施文している。その下にさらに沈線のような文様が残されている。89は口唇部の欠落した口縁部破片である。上位に左斜め方向の細沈線を施し中程は横方向の細沈線を3本施している。下位には横方向の刺突文が施文されている。90は口縁部破片である。口唇部は角頭気味で外反する。口縁部上半は3本の横方向の細沈線の下に2列の破線状の刺突文が施文されている。下半も似た文様構成である。91~94は口縁部下半の破片である。縦方向と斜め方向の沈線と破線状の刺突文を組み合わせで充填している。95~98は口縁部破片もしくは口唇部の欠落した口縁部破片である。横方向あるいは斜め方向の細沈線と横位の「ハ」の字状の刺突文を組み合わせた文様構成である。99は口唇部の欠落した口縁部破片である。上位に横方向の沈線と間に刺突文を組み合わせている。下位は縦方向の沈線と刺突文を組み合わせている。100は口縁部下半の破片である。横方向の刺突文を施文しその下に横方向のやや密な細沈線を充填している。101は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり口端は円頭気味である。上半は縦方向の細沈線と一部に並行して刺突文を施文している。下半ではやや縦斜め方向に間隔をあけて太沈線を施文している。102は口縁部下半の破片である。上半に横方向の太沈線を施文しその下に左斜め方向の間隔を開けた細沈線を施文している。下半には2本の横方向の細沈線、刺突文を夾んで細沈線、太沈線が2回繰り返す文様構成である。103は口縁部破片である。口唇部は肥厚し口端でやや円頭気味になる。口唇部外面は縦方向の細沈線が施文されている。口縁部は刺突文と並行して横方向の3本の細沈線が施文されている。104は口縁部破片である。口唇部は肥厚し口端でやや円頭気味になる。口唇外面と口縁部上半で横「ハ」の字状の刻み目状の刺突文が見られる。以下は横方向の沈線が4本施文されている。105は口縁部の破片である。波状口縁部の一部と思われる。縦方向の太沈線に区画された中に斜め方向の細沈線を充填している。左側の一部と下半に横方向の角押状の刺突文が施文されている。106は口縁部の破片である。口唇部はやや内斜して尖頭状になる。横方向の爪形の刺突文、細沈線、刺突文と繰り返して下半で横方向の沈線を充填している。右端に縦斜め方向に太沈線が施文されている。107~109は口縁部破片でほぼ同一個体と思われるもの

である。円弧状の太沈線とやや変形の角押状の刺突文で施文されている。110は口縁部破片である。口唇部はやや外斜し角頭気味である。口縁部は横方向の2～3本の細沈線と刺突文を繰り返す文様構成である。111は口縁部破片である。口唇部が円頭気味である。文様は110と似た構成である。112・113は口縁部下半の破片である。やや斜め右横方向の細沈線と並行する刺突文が施文されている。114・115は口縁部下半の破片である。やや斜め左横方向の細沈線と並行する刺突文が施文されている。116は口縁部下半の破片である。横方向の細沈線と並行する刺突文が施文されている。117は口縁部破片である。口唇部は肥厚している。口唇部外面には円弧状の刺突文と一部にその間に細かい刺突文を充填している。口縁部には横方向の3本の沈線を施文し、その下に円弧状の刺突文を施文している。118は口縁部破片である。口唇部は肥厚している。口唇部外面は縦・横方向の細沈線と細かい刺突文によって施文されている。口縁部には横方向の刺突文と2本の並行する太沈線が施文されている。以下に左斜め横方向の沈線とその間に刺突文を充填して文様を構成する。119は口縁部下半の破片である。横方向の4本の細沈線と太沈線で区画された間に斜位に不連続な刺突文を充填している。120は胴部上半の破片である。右上側に太沈線で円弧状に施文されている。左側は左斜め横方向の太沈線とその間に刺突文が充填されている。下位では横方向の太沈線が施文されている。121・122は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚する。口唇外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部上半には横方向の細沈線が4本施文されている。その下に横方向で2列にやや上下ずらすように刺突された列点文で施文されている。123～125は口縁部下半の破片である。いずれも横方向の細沈線と横位の「ハ」の字状の刺突文で施文されているものである。126は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚し外反気味である。口縁部上半から3本の細沈線と2列の破線状の刺突文を2回繰り返す文様構成である。127・128は胴部上半の破片である。左側に縦方向の細沈線と破線状の刺突文が施文されている。右側に左斜め横方向・横方向の細沈線と斜めもしくは横「ハ」の字状の刺突文が施文されている。129は口縁部下半の破片である。横方向の細沈線と右斜め方向の細沈線に夾まれた部分に横方向で2列にやや上下ずらすように刺突された列点文で施文されている。130は口縁部下半の破片である。上位はやや斜め左横方向の沈線で施文され、その中に並行して破線状の刺突文を施文している。中程から下位は横方向の沈線を充填しその間の一部に並行して破線状の刺突文を施文している。131は口縁部下半の破片である。横方向の細沈線と並行する刺突文が施文されている。その下に太沈線で半円状の円弧文が施文されている。132は口縁部下半の破片である。横方向の太沈線・沈線の間にやや角押し気味の刺突文が施文されている。133は胴部上半の破片である。中央の縦方向の細沈線で区画された中に縦方向の破線状の刺突文を充填している。右側を横方向の細沈線と破線状の刺突文、左側を斜め方向の細沈線と斜め方向の破線状の刺突文で充填している。134は胴部上半の破片である。中央を横方向の4本の細沈線で施文し上下を左斜め方向の細沈線で施文している。一部横方向の刺突文が施文されている。135は波状口縁部の破片である。波状口縁部に沿って沈線と間に並行して刺突文が施文されている。

136は口縁部破片である。口唇部は円頭気味で外反する。横方向の細沈線と細沈線で区画された中に2列の破線状の刺突文が施文されている。下位の細沈線の間にも破線状の刺突文が施されている。137は口唇部が欠落した口縁部破片である。横方向の細沈線・太沈線の間に刺突文が施文されている。下位ではやや斜位に沈線・太沈線が施文されている。138は口縁部下半の破片である。横方向に爪形の刺突文を施文している。一部重なるように右斜め方向に沈線文が施文されている。139は口縁部破片である。隆帯上に角押し状の刺突文を施文し、中あるいはその周囲を細沈線で施文している。140は口縁部破片である。口



刺突文 (6)

刺突文 (5)

唇部はやや尖頭気味になる。口縁部は縦方向もしくは斜め方向の細沈線で施文されている。下位には横方向の刺突文が施文されている。141は口縁部破片である。口唇部は尖頭状である。口縁部は右斜め方向の沈線文が施文されている。下位に横方向の沈線と間に刺突文が見られる。142は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口唇部上面に刺突文が施文されている。口縁部は左右斜め方向の細沈線が密に充填されている。下位には横方向の細沈線が充填されている。143は口縁部破片である。口唇部は尖頭気味である。口縁部は左右斜め方向の細沈線で格子目文を施文している。下位では横方向の沈線及びその間に刺突文を充填している。144はやや波状口縁気味の口縁部の小破片である。波状口縁部に沿った細沈線と横方向の細沈線で施文されている。一部の細沈線の間に刺突文が施文されている。145は口縁部小破片である。口唇部は尖頭状である。口縁部上位は細沈線を充填して逆三角形に施文している。下位には横方向に刺突文が施されている。146は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部上位は左右斜め方向の細沈線による格子目文が施文されている。下位には横方向の沈線と並行する刺突文が見られる。147は口縁部破片である。口唇部は尖頭状でやや外反気味である。口唇部外面には部分的に斜位の細沈線が施文されている。口縁部には横方向の細沈線が4～5本施文されており、その間に刺突文が充填されている。148・149は口縁部の小破片である。口唇部は尖頭状になる。斜め横方向に細かい刺突文が充填されている。150は唇部の小破片である。横方向の細沈線とその間に破線状の刺突文が施文されている。151は口唇部が欠落した口縁部破片である。口縁部に沿って3本の細沈線と破線状の刺突文が施文されている。152は唇部破片である。横方向の破線状の刺突文と細沈線あるいは右斜め横方向の破線状の刺突文と細沈線とで文様が構成されている。153は唇部小破片である。横方向の破線状の刺突文と細沈線とで文様が構成されている。154は唇部破片である。放射状に施文された細沈線とそれらの区画内に充填された破線状の刺突文で構成される。下位で横方向の破線状の刺突文が充填されている。155・156は口縁部破片である。左右斜め方向の細沈線を充填し三角形に区画している。下位では横方向に細沈線を充填し間に刺突文を施している。157は口縁部破片である。口唇部は折れ曲がり内曲する。口端で尖頭状になる。口縁部外面では斜め方向の細沈線を充填している。中程に縦方向の2列の刺突文で区切られている。その下に横方向の刺突文を配置して以下細沈線を幾何学的に充填し文様を構成している。158は口縁部の大形破片である。口唇部は肥厚し外反する。口端は尖頭状となる。口唇部外面は斜め方向の細沈線を格子目状に交差させたり刺突文を充填して密に文様を配置している。中央に縦方向に3本の沈線と並行させ中に破線状の刺突文を施文している。左右に横方向の3本の沈線・刺突文・3本の沈線と同じように文様を並べている。以下は左側はやや円弧状の細沈線を充填し、右側は斜め方向の沈線と刺突文を直線的に配置し幾何学文様を構成している。159は口縁部破片である。中央部分に2個やや大きめの円筒状の刺突文が見られる。その周辺を縦方向の3本の細沈線と横方向の沈線で区画している。160は口縁部破片である。口唇部は肥厚する。口唇部外面は斜め方向の条線がやや不規則に施文されている。口縁部は横方向の3本の沈線と左斜め方向のやや密な細沈線で施文されている。その左側に沿って刺突文が見られる。161～164は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部内側には沈線と矢羽根状の刻目の刺突文が見られる。口唇部外縁部に沿って角押状の刺突文が並ぶ。中程に縦方向に間隔をあけて刺突による円弧文がありその周辺部を横方向と斜め横方向の沈線と刺突文が充填されている。

162では中央部分に突起が見られる。165は口縁部下半の破片である。縦横方向の沈線とそれらに並行する刺突文が見られる。166は口縁部下半の破片である。横方向の細沈線と並行する角押状の刺突文が見ら

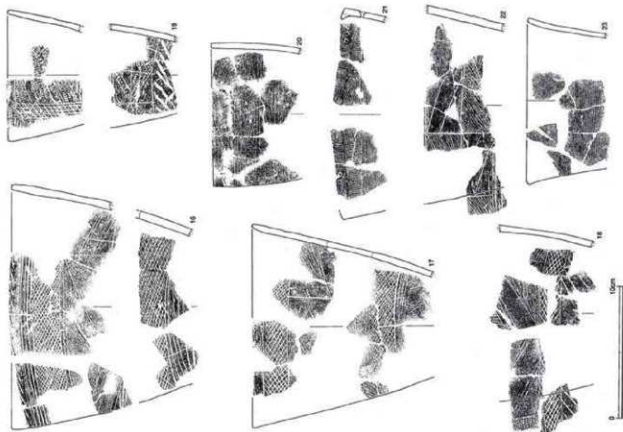
れる。167は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚し角頭気味である。外縁部に沿って横方向の刺突文が見られる。口縁部は右側は横方向の沈線を充填している。左側は三角形の刺突文を幾何学状に充填している。168は胴部の接合破片である。上位は左側を右側に向かって大きくなる円弧文と斜め方向に接する2列の刺突文を施文している。右側は三角形の刺突文を充填している。中程は横方向の細沈線もしくは沈線で充填し、下位では縦方向の太沈線を充填している。169は口縁部下半の破片である。上位は縦方向の太沈線を充填している。下位では右横斜め方向の太沈線を充填している。その間に刺突文が見られる。170は口縁部破片である。口唇部は大きく肥厚している。口唇部内面は斜位に糸線文が見られる。口唇部外面には刺突文とやや弧状の細沈線を組み合わせて施文している。口縁部には刺突文が細沈線で区画され充填されている。

171は胴部破片である。横方向の細沈線を充填した中に同心円状に刺突文を施文している。172は胴部破片である。横方向の細沈線を充填した左側に弧状に右側に向かって大きくなる円弧文と斜め方向に接する2列の刺突文を施文している。

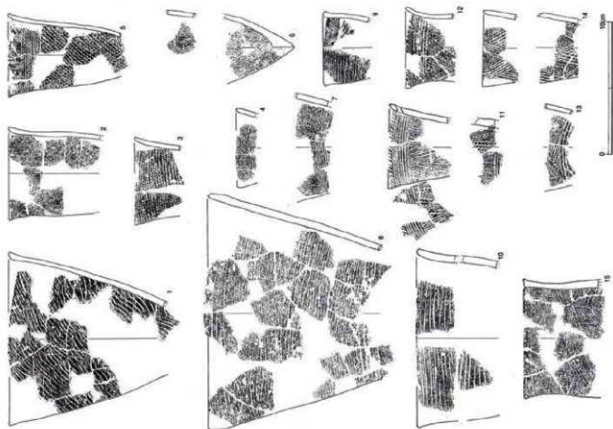
c種 貝殻腹縁文を主体として施文したもの（第77～80下図1～192、図版31～33）

1は口縁部～底部上半にかけて接合した破片である。口唇部はやや肥厚し外反気味である。口縁部～胴部にかけては斜め右横方向に下向きの貝殻腹縁文が施文されている。胴部～底部にかけては逆に上向きの施文が行われている。2は口縁部～胴部下半にかけて接合した破片である。口唇部はやや円頭で外反気味である。全体にやや直立気味の器形になる。口縁部～胴部上半にかけては左斜め方向の貝殻腹縁文が充填されている。胴部以下は縦方向の貝殻腹縁文が充填されている。3は口縁部～胴部上半の破片である。口唇部は尖頭状でやや外反する。残存部位では横方向の貝殻腹縁文が充填されている。4は口縁部破片である。口唇部は若干丸みのある尖頭になる。横方向の貝殻腹縁文が充填されている。5は口縁部～底部上半にかけての接合した破片である。口唇部は円頭気味でやや外反する。口縁部上半はほぼ無文で下半に横方向の貝殻腹縁文を充填している。胴部以下は右斜め方向に貝殻腹縁文を充填している。6は胴部の一部と底部が同一個体と思われる破片である。底部は尖底となる。胴部には上位に横方向の貝殻腹縁文、下位に縦方向の貝殻腹縁文が充填されている。底部は胴部に続き縦方向の貝殻腹縁文が充填されている。7は胴部の接合破片である。上位の縦方向に貝殻腹縁文を充填している。下位には横方向の細沈線が充填されている。8は口縁部～胴部下半にかけての接合破片である。口唇部はやや尖頭状になる。横方向の細沈線と細沈線を充填した間に横方向の貝殻腹縁文を充填している。9は口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇部は角頭気味でやや外反する。横方向の細沈線とその間に貝殻腹縁文を充填している。10は口縁部～胴部上半にかけての接合破片である。口唇部はやや細くなる角頭で外反気味である。横方向の沈線とその間に貝殻腹縁文を充填している。11は口縁部～胴部上半・底部の一部が接合し同一個体と思われるものである。口唇部は尖頭状でやや外反気味である。口唇部外面には斜位の刻目文を施文している。口縁部上半は横方向の細沈線を充填している。口縁部下半～底部上半は縦方向・縦斜め方向の細沈線と貝殻腹縁文を組み合わせた文様を充填している。12は口縁部～胴部上半にかけて接合した破片である。口唇部は尖頭状で大きく外反する。口唇部外面は刻目文が施文されている。口唇部上半には横方向の貝殻腹縁文が充填されている。口縁部下半～胴部にかけては左右斜め方向の細沈線が充填されている。13は胴部破片である。下位に沈線を3段施文し区画された上に左右斜め横方向に貝殻腹縁文を充填して文様を構成している。14は口縁部下半の接合破片である。斜行沈線を三角形に充填している。区画内に貝殻腹縁文を充填し

ている。15は口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇部はやや肥厚し角頭気味である。口唇部外面には刺突文が見られる。口縁部には斜め方向の細沈線と縦方向の貝殻腹縁文を組み合わせる密に幾何学的な文様を施文している。16は口縁部～胴部下半にかけての接合破片である。口唇部はやや細くなる角頭である。口唇外面はやや粗く斜位に沈線を施文している。口縁部には横方向の4段の沈線を施文し直下に左右斜め方向の沈線で格子目文を施文している。2本の横方向の沈線で区画した下位には斜め方向の沈線で幾何学的な区画を作り出しその中に横方向と斜め方向の貝殻腹縁文を充填している。胴部には再び格子目文を配置し底部にかけては横方向の沈線を施文しているものと思われる。17は口縁部～底部の一部にかけて同一個体と思われる接合破片である。口唇部はやや尖頭状になるものである。文様構成は若干沈線の本数とか口唇部の斜位の沈線がないことと底部付近に斜め縦方向の文様が見られるなどの違いがあるものの口縁部～胴部付近の文様構成は似ている。18は胴部付近の破片が接合したものである。上位は沈線で区画された幾何学的な文様の中を貝殻腹縁文で充填している。直下に左右斜め方向の沈線で格子目文を施文している。胴部下は右斜め方向のやや粗い沈線が施文されている。19は口縁部～底部上半にかけての接合された破片である。胴部の一部分は連続して接合していない。口唇部は円頭状になる。口縁部は一部縦方向と右斜め方向の沈線で細かく区切られた格子目状の文様が入るが、概ね右斜め横方向に沈線で区画された幾何学的な文様の中を貝殻腹縁文と一部刺突文が充填されている。胴部下は沈線で四角形に区画された内側に斜行沈線と刺突文を組み合わせた文様を施文している。底部付近は斜め右方向に太沈線を施文している。20は口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部は横方向の細沈線を充填している。以下大きく三角形になるように沈線と貝殻腹縁文を充填し、さらに横方向の細沈線を施文している。再び大きく三角形になるように沈線と貝殻腹縁文を充填し、さらに横方向の細沈線を多段に施文している。21は口縁部の接合破片である。口唇部内側が大きく張り出しているのが特徴的である。口唇部外面は縦方向と斜め方向の貝殻腹縁文を細かく施文している。所々に円形の刺突文が見られる。口縁部上半にはやはり縦方向と斜め方向の貝殻腹縁文を細かく施文している。口縁部下半には横方向の細沈線が充填されている。22は胴部の接合した破片である。沈線で三角形や幾何学的に区画された内側に貝殻腹縁文を充填している。23は口縁部～胴部にかけて接合した破片である。口唇部は角頭でやや外反気味である。口縁部付近は横方向の条線を充填している。下半にかけて斜め方向の条線と貝殻腹縁文を組み合わせる幾何学的な文様を施文している。胴部は再び横方向の条線を充填している。24は大形土器の口縁部～底部上半にかけての同一個体で破片が接合したものである。幾分波状口縁気味になるものと思われる。口唇部はやや肥厚し角頭気味である。口唇部外面はやや斜位の刻目文がある。口縁部上位はやや斜め横方向の貝殻腹縁文が充填されている。下半は横方向の細沈線が密に充填されている。胴部は斜め方向の細沈線で施文された幾何学的な区画の内側に貝殻腹縁文で充填している。胴部下で再び横方向の細沈線をやや密に充填し底部にかけて横方向の太沈線を密に充填している。25・26は口縁部～胴部にかけて接合した破片である。口唇部は円頭気味である。25は口唇部外面に縦方向の刻目文が見られる。口縁部以下はどちらも沈線で区画された幾何学的な区画の内側に貝殻腹縁文を充填している。26では胴部以下に左斜め方向の貝殻腹縁文が充填されている。27は24よりやや幅のある大きな波状口縁になるものである。文様構成は24の文様構成に似ている。28は小形土器の口縁部～胴部上半の接合破片である。口唇部はやや尖頭気味になる。左斜め方向の貝殻腹縁文が密に充填されている。29は口縁部の小破片である。口唇部は角頭である。口唇部に横方向の刺突文が見られる。口縁部は左斜め方向の貝殻腹縁文が密に充填されている。



鳳綠文 (2)



鳳綠文 (1)

31～34は太めの貝殻腹縁文で施文されているものである。31は口縁部破片である。口唇部はやや外に屈曲気味である。口唇部内側に斜位に太沈線で施文している。口縁部上位は横方向に貝殻腹縁文を充填後に斜め方向に貝殻腹縁文を充填している。32は胴部破片である。左斜め方向の貝殻腹縁文を施文後に下位に右斜め方向の貝殻腹縁文を施文している。33は胴部の大形破片である。上位は横方向に貝殻腹縁文を充填後に斜め方向に貝殻腹縁文を充填し三角形等幾何学的な文様を施文している。34は胴部下半～底部にかけての破片である。右斜め縦方向の貝殻腹縁文を充填しながら施文している。

35・36は斜め縦方向の貝殻腹縁文が主体で施文されている。35・36は口縁部破片である。いずれも口唇部は角頭気味である。右斜め縦方向の貝殻腹縁文で施文後に左斜め縦方向の貝殻腹縁文を施文している。

37～41は斜め方向の貝殻腹縁文を密に施文したものである。37は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で尖頭状になる。口縁部には左斜め方向の貝殻腹縁文が密に充填されている。下位で一部逆方向のものが認められる。38は口縁部下半～胴部にかけての破片である。右斜め・左斜め・右斜め方向と3段に貝殻腹縁文で密に施文されている。胴部以下は無文のようである。39は胴部下半の破片である。38と似た文様構成である。40は口縁部破片である。口唇部外面に斜位の刺突文が見られる。右から左方向にずらしながら左斜め・右斜め・左斜め方向の貝殻腹縁文を密に施文している。41は胴部破片である。左斜め方向の貝殻腹縁文を密に施文している。

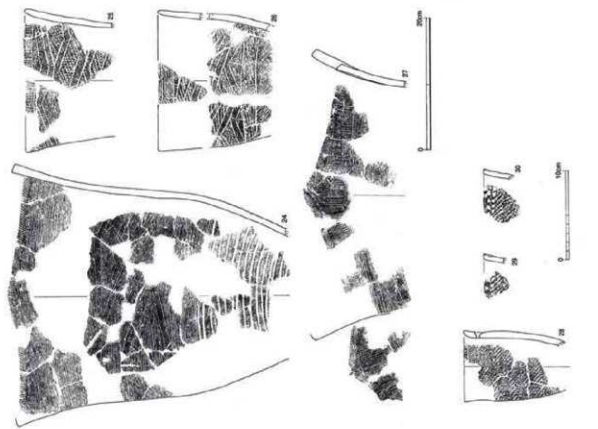
42は胴部破片である。横方向に貝殻腹縁文が施文されている。下位には縦方向の沈線文が認められる。

43・44は口縁部小破片である。いずれも口唇部外面には斜位の刺突文が施文されている。口縁部は2段の横方向の大きな刺突文が見られる。下位には横方向の貝殻腹縁文を地文にして斜め横方向の沈線で格子目状の施文が見られる。45は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。横方向に細沈線が施文されており、上下の区画内に斜め方向の弱い貝殻腹縁文を充填しているのが認められる。46は口縁部下半の破片と思われる。左側部分で右斜め方向・右側で左斜め方向の貝殻腹縁文が認められる。47は胴部破片である。上位は横方向の4本の沈線文が施文されており以下は右斜め・左斜め方向の貝殻腹縁文が密に施文されている。48・49は左右斜め方向に施文し三角形等の幾何学的な文様になるように貝殻腹縁文で充填されている。下位に沈線文が充填されている。50は胴部破片である。右側は粗く右斜め方向の貝殻腹縁文が施文されている。左は左斜め縦方向にやや密に貝殻腹縁文が施文されている。

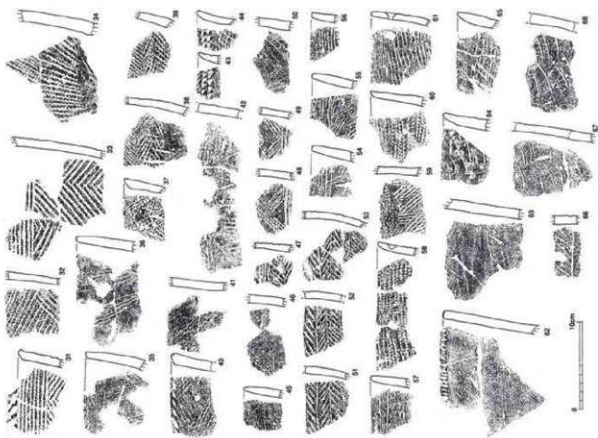
51～53は口縁部～胴部にかけての破片で横方向の細沈線で区画帯に左右斜め方向の貝殻腹縁文を交互に施文しているものである。

54・55は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口縁部には横方向の貝殻腹縁文をやや間隔をあけて施文している。下位では左斜め方向の貝殻腹縁文を密に充填している。56は口縁部上半の破片である。口唇部はやや角頭気味になる。施文は54の上の部分と同じものであろう。

57は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部中央に横方向の沈線文が見られる。上位の範囲には右斜め方向の貝殻腹縁文が、下位には横方向の貝殻腹縁文が密に施文されている。58は口縁部の横方向に接合した破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には横方向の貝殻腹縁文が密に充填されている。59は口縁部下半の破片である。上位は横方向の貝殻腹縁文を密に施文している。下位には縦・斜め方向に貝殻条痕文が施文されている。60は口縁部破片である。口唇部はやや外側に尖頭状になる。口唇部外面には横方向の細沈線が見られる。口縁部には横方向の貝殻腹縁文が密に施文されている。61は口縁部破片である。口唇部はやや細くなる角頭である。横方向の貝殻腹縁文を密に施文している。62は口縁部



殷綠文 (3)



殷綠文 (4)

の大形破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部外側には刻目文が施文されている。口縁部上位には斜め方向に粗い貝殻腹縁文が認められる。下位には横方向の貝殻腹縁文がやや粗く多段に施文されている。63は胴部上半の大形破片である。全体に横方向の貝殻腹縁文がやや粗く多段に施文されている。64は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で尖頭状になる。口縁部には右斜めに弧状に間隔をあけながら施文されている。65は口縁部破片である。口唇部はやや外向きで尖頭状になる。口縁部には横方向の貝殻腹縁文がやや密に施文されている。66は口縁部下半の小破片である。横方向の沈線文の上には右斜め方向の貝殻腹縁文、下には左斜め方向の貝殻腹縁文が施文されている。67・68は胴部の大形破片である。いずれも右斜め方向の貝殻腹縁文をやや間隔をあけながら施文している。69は口縁部～底部上半にかけての接合破片である。口唇部はやや肥厚しながら外反する。口唇部外面にはやや斜位に刻目文を施文している。口縁部～底部にかけて連続的に弧状の貝殻腹縁文による施文が見られる。70は胴部小破片である。左側に網目状の沈線か刺突文による施文があり、右側には69と同じ弧状の貝殻腹縁文による施文が見られる。71は胴部小破片である。斜め横方向の貝殻腹縁文が密に施文されている。72は胴部小破片である。斜め方向と縦方向の貝殻腹縁文を重複させて施文している。73は胴部小破片である。横方向に単位の短い貝殻腹縁文を連続的に施文している。74は口縁部小破片である。口唇部やや外側に向かって円頭気味である。横方向の貝殻腹縁文をやや不規則に施文している。75は胴部破片である。左斜め方向のやや間隔をあけた貝殻腹縁文が施文されている。76は胴部破片である。上位では斜め方向の貝殻腹縁文で施文されている。下位では横方向の貝殻腹縁文が施文されている。77は胴部の大形破片である。横方向と斜め方向の細沈線で区画されて内側に貝殻腹縁文を縦方向に充填している。78は胴部小破片である。縦方向の貝殻腹縁文がやや粗く施文されている。79は胴部下半の小破片である。縦方向の貝殻腹縁文がやや粗く施文されている。80は胴部小破片である。横方向に2本の貝殻腹縁文を施文してその下に縦方向の貝殻腹縁文を施文している。上には斜め方向の貝殻腹縁文が軽く施文されている。81は胴部小破片である。横方向の2本の沈線を引きその下には縦方向の押し引きによる太沈線が施文されている。間には右斜め方向の貝殻腹縁文をやや密に充填している。上には横方向の貝殻腹縁文が見られる。82は口縁部下半の破片である。やや斜め横方向の沈線を多段に施文しその間に並行して貝殻腹縁文を充填している。83は胴部上半の破片である。右斜め横方向の沈線を多段に施文しその間に並行して貝殻腹縁文を充填している。84は胴部の大形破片である。左斜め縦方向を主体とした貝殻腹縁文をやや密に施文している。85は胴部の大形破片である。縦方向と右斜め方向の貝殻腹縁文をやや不規則に施文している。86は口縁部の破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。横方向の細沈線を施文後に横方向の貝殻腹縁文を密に充填している。87は胴部上半の破片である。横方向と左斜め方向の貝殻腹縁文を重複させるように施文している。88は胴部破片である。左斜め方向の貝殻腹縁文をやや密に施文している。89は胴部小破片である。縦方向のやや間隔をあけた貝殻腹縁文を施文している。右下の斜め方向の貝殻腹縁文の一部が覗く。90は口縁部小破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面に沿って貝殻腹縁文が施文されている。口縁部は縦方向の条線を密に施文している。91は口縁部小破片である。口唇部はやや円頭気味である。縦方向の条線を密に施文した後下横方向に貝殻腹縁文を充填している。92は口縁部下半の破片である。その上位には細沈線を多段に施文し、下位には2本の左斜め横方向の細沈線を施文しその中を斜位の短細沈線を充填している。さらに地文として貝殻腹縁文を充填している。93は胴部小破片である。92と似た文様構成である。94は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。横方向の細沈線を多段に施文している。その上下の間には

斜め方向の貝殻腹縁線が施文されている。95は胴部の大形破片である。その上下に横方向の細沈線を多段に充填してその間に左斜め方向に貝殻腹縁線を充填している。

96・97は口縁部破片である。いずれも口唇部は角頭である。口唇部外面には斜位の密な細沈線が施文されている。口縁部には右斜め方向に貝殻腹縁線を充填し下位には横方向の細沈線を多段に施文している。

98は胴部の破片である。右横斜め方向に施文された2本の細沈線の上下に斜め方向に貝殻腹縁線を充填している。99は口縁部破片である。口唇部はやや内側傾斜気味に尖頭状になる。口縁部には4本の横方向の細沈線が施文されている。その下の細沈線で区画された内側に斜め方向の貝殻腹縁線を充填している。

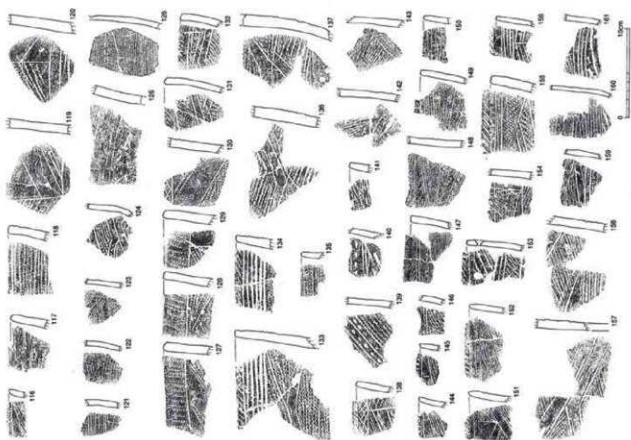
100は口縁部破片である。口唇部は内側にやや膨らみのある角頭である。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部は横方向と左斜め方向の細沈線を多段に施文しその内側に斜め方向の貝殻腹縁線が充填されている。101は胴部の大形破片である。100と同様に横方向と左斜め方向の細沈線を多段に施文しその内側に斜め方向の貝殻腹縁線が充填されている。下位では横方向の太沈線を多段に施文している。102は胴部下半の破片である。100と似た文様構成である。

103～106は口縁部・胴部上半の小破片である。103の口唇部は円頭気味である。口唇部外面には円形の刺突文が見られる。いずれも口縁部～胴部上半には横方向と右斜め方向の細沈線で区画された文様帯があり、その中に斜め方向の貝殻腹縁線が充填されている。

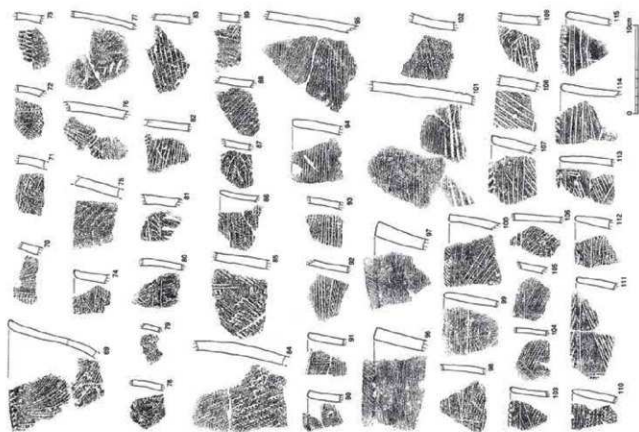
107は口縁部破片である。口唇部は内側がやや丸みがあり全体には角頭気味になる。口唇部外面は斜位に太沈線で施文している。口縁部上位は横方向の沈線で施文されている。下位は右斜め方向の貝殻腹縁線で比較的粗く施文している。108は胴部破片である。右斜め方向の沈線と間に並行して貝殻腹縁線が施文されている。109は胴部破片である。沈線で区画された内側を沈線・貝殻腹縁線で充填している。110は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部上位に横方向の細沈線を多段に施文している。その下位には横方向の貝殻腹縁線を密に充填している。111は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部上端に斜位の沈線による刻目文が見られる。横方向の沈線と右斜め横方向の沈線で区画された内側に貝殻腹縁線を充填している。112は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口縁部上位には横方向の2本の沈線とその間に右斜め方向の貝殻腹縁線を密に充填している。下位には縦方向の貝殻腹縁線による連続波状文が施文されている。113は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口唇部には細沈線により三角形等の幾何学的な区画を施文し、その内側に左斜め方向に貝殻腹縁線を密に充填している。114は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口唇部外面には斜位の刺突文が見られる。口縁部には横方向の4本の沈線が施文されている。その下に沈線で区画された文様帯があり、その内側に貝殻腹縁線が密に充填されている。115は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口唇部外面には刺突文が見られる。口縁部には横方向の4本の沈線が施文されている。その下には斜め方向に貝殻腹縁線がやや粗く施文されている。116は口縁部の小破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部に沿って横方向に細沈線で区画しその下に右斜め方向に貝殻腹縁線を施文している。117は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部に沿って横方向に3本の細沈線を施文し、その下に貝殻腹縁線を充填している。118は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味になる。口縁部には横方向の貝殻腹縁線が密に充填されている。119・120は胴部の大形破片である。縦横方向と斜め方向の沈線で区画された中に斜め方向の貝殻腹縁線を施文している。121は胴部の小破片である。ほぼ横方向の細沈線が施文されている。その上位で縦方向の条線が若干見られる。その下位に斜め方向の貝殻腹縁線が一部見られる。122は小形土器の胴部の小破片である。その上

位は斜め方向のやや不規則な貝殻腹縁文で施文されている。その下位は横方向の細沈線が多段に充填されている。123は小形土器の胴部の小破片である。斜め方向の細沈線で区画された中に斜め方向の貝殻腹縁文が充填されている。124は小形土器の胴部の破片である。斜め方向の沈線で区画された中に斜め方向の貝殻腹縁文が充填されている。125は胴部の破片である。横方向と斜め横方向の沈線を重複させながら施文している。一部縦方向に貝殻腹縁文が施文されている。126は胴部破片である。横方向の細沈線と斜め横方向の細沈線を組み合わせた三角形等の幾何学的な文様帯の内側に縦方向の貝殻腹縁文を充填している。その上下は細沈線を充填している。2か所に横方向の破線状の刺突文がある。127～129は口縁部上位に縦方向の貝殻腹縁文が施文されている。いずれもその下を横方向の沈線で区画し斜め方向の沈線で三角形等の幾何学的な文様帯を施文後に内側に斜め方向の貝殻腹縁文を充填している。130は口縁部下半の破片である。その上位に沈線で格子目文を施文している。中程では横方向の沈線を施文後に斜め方向の貝殻腹縁文を施文している。その下位は斜め方向の沈線で区画した下方に横方向の貝殻腹縁文を充填している。131は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口唇部外面に斜位の沈線による刻目文が見られる。口縁部には横方向・斜め方向の沈線による幾何学的な区画と右縦斜め方向の貝殻腹縁文による施文が行われている。132は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口唇部外面に斜位の細沈線による刻目文が見られる。口縁部には横方向・斜め方向の沈線による区画とその中に右斜め方向の貝殻腹縁文による施文が見られる。133は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部外面に斜位の刻目文が見られる。口縁部上位に横方向の太沈線を密に施文している。その下には沈線で斜め方向とやや多角形状に区画した内側に横方向の貝殻腹縁文を施文している。134は口縁部破片である。133の口縁部上半と同じような太沈線で施文されている。135は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。横方向の細沈線で区画されて中に横方向に貝殻腹縁文を施文している。136は大形土器の胴部破片である。左右斜め方向の沈線で区画されて内側に斜め方向に沿って貝殻腹縁文を充填している。137は大形土器の胴部の破片である。左右斜め方向の沈線で区画されて内側に横方向に貝殻腹縁文を充填している。138は口縁部の破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面には斜位の刻目文が見られる。口縁部上半には左右斜め方向の沈線で格子目文を施文している。それ以下には縦横方向と左右斜め方向の沈線で区画された中に沈線に沿って貝殻腹縁文を粗く施文している。139は胴部上半の破片である。右斜め方向の沈線で区画しその中に沈線に沿って破線状の刺突文と貝殻腹縁文を密に施文している。140は口縁部の破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部外面には貝殻腹縁文が見られる。口縁部に沿って破線状の刺突文が横方向に1列施文されている。その下に横方向の沈線と斜め方向の太沈線が施文されている。141は小形土器の口縁部の破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部には貝殻腹縁文を横方向に充填し、その下に横方向の細沈線と破線状の刺突文が施文されている。142は胴部破片である。斜め方向の沈線で区画された中に縦方向に貝殻腹縁文を充填している。143は胴部破片である。左右斜め方向の沈線で区画された四角形の中に左斜め方向に沿って貝殻腹縁文を充填している。

144～146は小形土器の口縁部破片である。いずれも口唇部は角頭気味である。144の口唇部外側には2段に破線状の刺突文を施文している。145の口唇部外側には刺突文が施文されている。146は口縁部に沿って横方向の沈線と右斜め方向の沈線で区画して下には斜め方向の沈線に沿って貝殻腹縁文を充填している。147は口縁部の破片である。口唇部は角頭である。口唇部外面には細かい刻目文が施文されている。口縁部には左斜め方向の貝殻腹縁文を施文し、その下に横方向の2本の沈線で区画している。さらにその下に



龍錄文 (6)



龍錄文 (5)

は横方向に密に貝殻腹縁文を充填している。148は口縁部上半の破片である。その上位に横方向の3本の細沈線が施文されている。またその下に右斜め方向と横方向の細沈線で区画された内側に斜め方向に貝殻腹縁文を密に充填している。149は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部上位は横方向の細沈線を多段に充填し、それ以下には細沈線で横方向に区画しながら内側に貝殻腹縁文を横方向に充填している。150は小形土器の口縁部の破片である。口唇部はやや細くなり円頭気味である。横方向に細沈線と貝殻腹縁文が交互に施文されている。その下位ではやや斜め方向になるものもある。151は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部内側にやや斜位に刻目文が見られる。口縁部には横方向に2本の細沈線を施文し、その間に横方向の貝殻腹縁文を施文している。以下には縦方向と左右斜め方向の細沈線で区画された三角形等の幾何学文様の中に斜め横方向の貝殻腹縁文を充填している。152は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部に沿って横方向に2本の細沈線が施文されている。その下には右斜め方向に細沈線と貝殻腹縁文を交互に施文している。153は口縁部の破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面に沿って斜位の刻目文が残されている。口縁部上位には横方向の沈線で区画した文様帯の内側に右斜め方向の沈線をやや粗く施文している。その下位では横方向の3本の沈線の下に右斜め方向の貝殻腹縁文を充填している。さらにその下側に沈線文が施文されている。焼成後の補修孔も見られる。154は口唇部の欠落した口縁部上半の破片である。横方向の2本の間隔をあけた沈線の中に横方向の貝殻腹縁文を密に充填している。さらに沈線の下に左斜め方向の貝殻腹縁文を密に充填している。155は口縁部の破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部上面には斜位の沈線と貝殻腹縁文を交互に施文している。口縁部には横方向の沈線と斜め方向の沈線を組み合わせて区画された文様帯の中を右縦斜め方向の貝殻腹縁文を密に充填している。156は小形土器の口縁部の破片である。口唇部は角頭である。口唇部上面に貝殻腹縁文を密に充填している。口縁部上半には横方向の沈線を5本施文している。それ以下には縦方向と斜め横方向の沈線を矢羽根状に施文し、下端の一部には斜め方向の貝殻腹縁文を密に充填している。

157は大形土器の胴部破片である。左斜め方向の沈線と横方向の沈線を組みあわせた区画の中に斜め方向の貝殻腹縁文を密に充填している。158は大形土器の胴部下半の破片である。左斜め方向の沈線で区画された中に斜め方向の貝殻腹縁文を密に充填している。その下方には横方向に多段に施文された沈線が見られる。159は胴部破片である。斜め横方向の沈線で区画された中に横方向の貝殻腹縁文を密に充填している。その下方では横方向に多段に施文された沈線が見られる。160は小形で薄手の土器の胴部～底部上半にかけての破片である。ほぼ横方向に細沈線が施文されているが、中程に縦方向の貝殻腹縁文が施文されている。その下方で斜め横方向の沈線が見られる。161は胴部下半の破片である。横方向の3本の沈線が施文されている。上位には斜め方向の貝殻腹縁文が見られる。その下位には斜め横方向の太沈線が施文されている。162は小形土器の口縁部下半の破片である。上位に横方向の細沈線3本を施文し、その下位に斜め左横方向の細沈線を3本配置している。さらにその下位の左側に縦方向の細沈線を施文してその左側に横方向の貝殻腹縁文を充填している。163は胴部破片である。右斜め方向の沈線と横方向の沈線で区画した中に右斜め方向の貝殻腹縁文を充填している。その左上と下方は無文帯がある。164は小形土器の口縁部の破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部上面は斜位の刻目文が施文されている。口縁部には右斜め方向の貝殻腹縁文が密に充填されている。横方向の細沈線を夾んで下方には左斜め方向の貝殻腹縁文が施文されている。165は口縁部下半～胴部にかけての破片である。その上位に左斜め方向の貝殻腹

緑文が密に充填されている。横方向の細沈線を夾んで右斜め方向の貝殻腹縁文が密に充填されている。その下方には細沈線を夾んで右斜め方向の太沈線が施文されている。166は口縁部破片である。口唇部は細くなる。口唇外面にやや粗い刺突文が見られる。口縁部には横方向に細沈線が3本施文されている。その下位には右斜め方向に粗く貝殻腹縁文が施文されている。167は口縁部下半の破片である。横方向の細沈線をやや間隔をあけて施文している。その中に横方向の貝殻腹縁文を2段ずつに施文している。168は胴部破片である。中央に3本の沈線を施文してその上位に右斜め縦方向の貝殻腹縁文を充填している。その下位には左斜め方向に貝殻腹縁文を充填している。169は胴部破片である。横方向の沈線を間隔をあけて施文している。それらの間に左斜め方向の貝殻腹縁文をそれぞれに充填している。170は大形土器の胴部破片である。横方向の沈線を間隔をあけて施文している。それらの間に右斜め・左斜め・右斜め・左斜め方向と4段に貝殻腹縁文を充填している。もっとも下位では沈線の下に左斜め方向の沈線を充填している。171は小形土器の口縁部の破片である。口唇部は内側が丸く外側が角張る。口唇外面に刻目文がある。口縁部には横方向に3本の細沈線を施文し、上段に右斜め・下段に左斜め方向の細沈線を施文し、矢羽根状の文様を構成する。その下位には横方向の貝殻腹縁文を充填している。

172は一部波状口縁の残った破片である。口唇部外面に沿って刺突文が見られる。口縁部は条線による格子目文が充填されている。その下位には横方向の条線で区画された文様帯がありその下に横方向の貝殻腹縁文が残されている。173はほぼ同じ文様構成と思われる破片である。

174は大形土器の口縁部の破片である。口縁部はやや波状口縁になるものと思われる。口唇部はやや円頭気味である。口唇部外面は斜位の密な刻目文が施文されている。口縁部上半は縦方向の密な条線、下半には横方向の密な条線で施文されている。口縁部に沿って貝殻腹縁文が残されている。

175は大形土器の口縁部の破片である。口縁部はやや波状口縁になるものと思われる。口唇部はやや外反し角頭気味になる。口縁部上半は横方向の貝殻腹縁文が密に充填されている。下半は横方向の細沈線が密に施文されている。176は大形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部中程に焼成後の補修孔が残されている。文様構成は175と似ている。

177は大形土器の胴部破片である。斜め方向の細沈線で細かく区画された文様帯の中に斜め方向に貝殻腹縁文を充填している。178は大形土器の胴部破片である。斜め方向に細沈線で区画された文様帯の上下に斜め方向に貝殻腹縁文を充填している。179は胴部破片である。斜め方向と横方向の細沈線で比較的小かく区画された文様帯の中の一部に横方向の貝殻腹縁文を粗く施文している。180は口縁部下半の破片である。右斜め横方向に貝殻腹縁文を充填している。その下方に横方向の細沈線が多段に施文されている。181は大形土器の胴部破片である。その左上には右斜め方向に細沈線を充填している。中程に無文帯があり右下にも右斜め方向に細沈線を充填している。全体にやや薄く地文のように貝殻腹縁文が施文されている。

182・183は口縁部破片である。いずれも口唇部は円頭である。口縁部には横方向の細沈線が多段に施文されている。その間に貝殻腹縁文が施文されている部分が認められる。

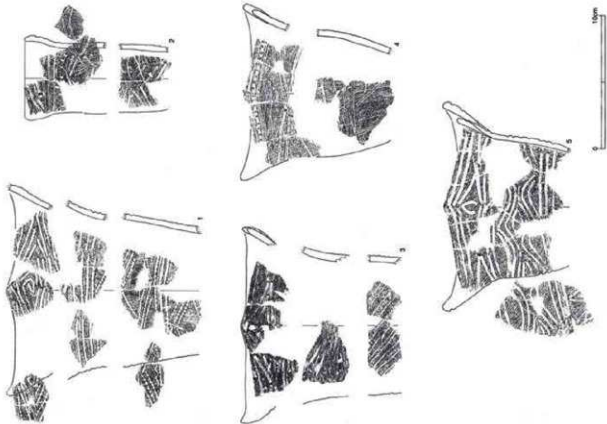
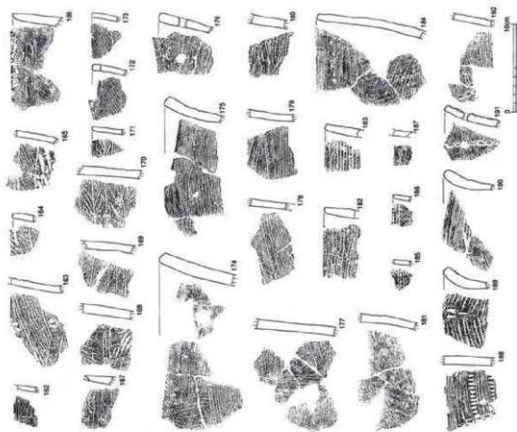
184は大形土器の口縁部～胴部下半の破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部には無文帯がありその下に横方向の細沈線が多段に充填されている。さらにその下半では左斜め方向の細沈線で区画された文様帯の中程に何か所かの斜め方向の貝殻腹縁文を充填した区画が認められる。185は小形の土器の胴部破片である。横方向の2本の沈線とその中と上下には貝殻腹縁文が認められる。186は小形土器の口

縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には右斜め方向の沈線とその間に貝殻腹縁文の施文が見られる。187は口縁部下半の破片である。横方向に2本の細沈線が施文されておりその間に貝殻腹縁文が認められる。188は口縁部下半の破片である。横方向の細かい細沈線を主体に区画され横方向の破綻状の刺突文や短剣の沈線様の刺突文を充填している。所々に横方向の貝殻腹縁文も施文されている。189は口縁部の破片である。口唇部は外反してやや角頭気味である。口縁部は縦方向の刺突文の左右に細沈線と貝殻腹縁文を矢羽根状に配置した文様構成である。190は口縁部の破片である。口唇部は外反して円頭になる。口縁部には横方向の細沈線を4本施文し、その下に並行して貝殻腹縁文を施文している。その下半には斜め方向の条線文が施文されている。191は口縁部破片である。波状口縁になる。口唇部はやや外反し角頭気味である。縦方向に刺突文が見られる。横方向の細沈線をやや細かく施文し区画している。区画された文様帯の間に横方向の貝殻腹縁文を粗く施文している部分も見られる。口縁部中程に焼成後の補修孔が残されている。192は胴部破片である。上位は横方向・斜め横方向の細沈線を組み合わせ区画している。その中に貝殻腹縁文を充填している。さらにその下位は横方向の細沈線を密に充填している。

第3類 田戸上層 (第80上～82下図1～78, 図版33上・35下)

1は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部下半にかけての破片で同一個体と思われる。波状口縁になるものである。口縁部は蕨手状の押し引き沈線を菱形状に押し引き沈線と刺突文で取り囲むような文様構成になる。口縁部下半では横方向の押し引きの沈線を充填している。胴部では横方向と斜め方向の押し引き沈線を組み合わせ菱形もしくは三角形等の文様を描きその中に一部波状の沈線を施文している。2はやや細長い形の深鉢形土器の口縁部～胴部下半にかけての破片で同一個体と思われるものである。口縁部では押し引き沈線で斜め方向に施文した下位に3本の横方向の押し引き沈線による施文が見られる。その下半では横方向の半篋竹管による刺突文を施文し、その下は押し引き沈線により菱形様の不規則な区画とその中に条線を充填するような文様構成である。3は大形の深鉢形土器の口縁部・胴部の破片で同一個体と思われるものである。やや波状口縁になるものである。口縁部では押し引き沈線で鋸歯状に施文している。口縁部下半では横方向に押し引き沈線を充填している。胴部では左斜め方向に押し引き沈線を比較的粗く充填している。4は大形の深鉢形土器の口縁部・胴部の破片で同一個体と思われるものである。波状口縁になるもので口唇部は外反気味で角頭である。口唇部外面に沿って沈線を2本施文しその間に刺突による角押し文を充填している。口縁部以下には縦方向の条線を地文にして2本の押し引き沈線を斜め方向に施文して幾何学的文様を構成している。胴部下半では横方向に2本の押し引き沈線を施文している。5は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての同一個体と思われる接合破片である。波状口縁になるもので口唇部は外反気味でやや角頭である。斜位の細沈線を地文にして2本の押し引き沈線により菱形や鋸歯状の幾何学的な区画を構成している。6は口縁部～胴部にかけての接合破片である。波状口縁になるもので口唇部は外反し外削ぎ気味である。口唇部外側に沿って刻目文を配置している。口縁部には沈線で鋸歯状に区画された中に蕨手様の区画帯を描いたり下位では沈線の間に貝殻腹縁線による波状の沈線を充填している。胴部は沈線の中に斜位に細沈線を充填している。7は小形の深鉢形土器である。尖底部位の一部が欠損している。口唇部は外反しやや円頭気味である。胴部を除いて刺突文で施文している。特に口縁部は横方向と斜め方向の刺突文を組み合わせやや鋸歯状の区画を描いている。8は大形の深鉢形土器でほぼ全容の解かるものである。口唇部外面に沿って刺突文を施文している。口縁上部には横方向の細沈線で区画した中に貝殻腹縁文を充填している。口縁下部は細沈線で三角形に区画した文様帯の中に細沈線もしくは貝殻腹

服縁文(7)



田戸上層(1)

緑文を充填している。胴部には横方向の細沈線で区画された文様帯の中に波状の細沈線を並行させている。胴部下位～底部にかけては無文である。底部は丸底になる。

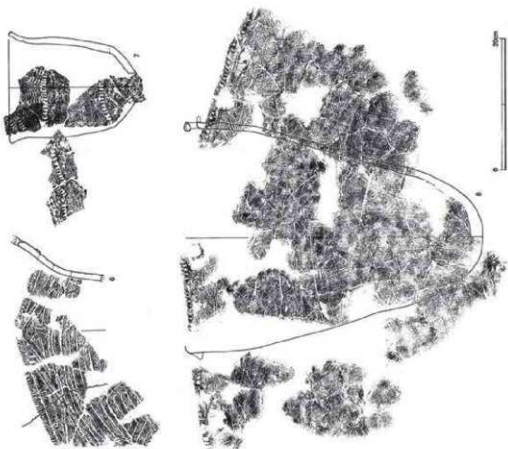
9は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面に沿って角押し状の刺突文で施文しその下に沈線で三角形の文様帯を配置している。さらに横方向の角押し状の刺突文を施文している。口縁部下半は横方向の破線状の沈線・刺突文を沈線の間に並行させている。10は口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや肥厚し角頭気味である。9とほぼ同じ文様構成である。11～14は胴部の破片である。地文に縦方向の条線・細沈線がみられる。横方向の沈線と沈線の間に押し引き沈線と破線状の沈線を並行させている。その下位に斜め方向の細沈線が見られる。

15は胴部破片である。全体は縦方向の条線が地文とされている。その上位に横方向の沈線が見られる。16は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。横方向の細沈線を地文として横方向の沈線と並行する刺突文で構成されている。17は口縁部下半の破片である。縦方向の条線を地文にしている。横方向と円弧状の沈線が施文されている。18は口縁部下半～胴部上半の破片である。縦方向の条線を地文にしている。横方向と斜め横方向の太沈線で文様帯を区画施文している。『く』の字状の刺突文を文様帯の区画の内側に配置している。19は胴部破片である。縦方向の条線を地文にしている。横方向の沈線を4本施文している。20は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。横方向の太沈線が2本施文されておりその周辺に『く』の字状の刺突文を施文している。21・22は口縁部破片である。同一個体と思われる。口唇部は角頭気味である。上下に横方向の太沈線を施文しその間に押し引き沈線を2本施文している。23は口縁部下半～胴部にかけての破片である。全体に縦方向の条線で施文し地文としている。口縁部下半では2本の沈線でやや円弧状に区画しそれに沿って『く』の字状の刺突文を配置している。胴部は横方向の沈線をやや不整形に施文している。

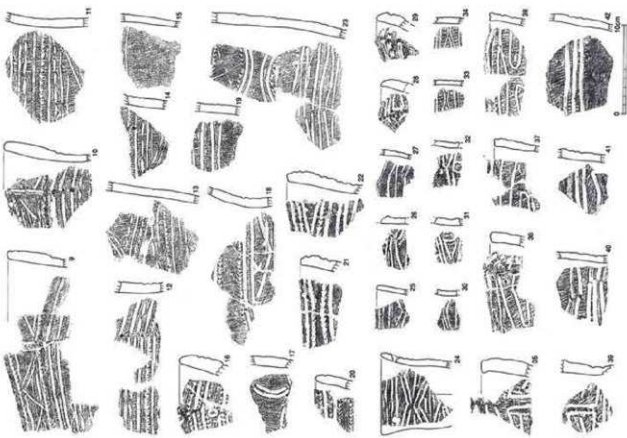
24は小形の土器の口縁部～胴部にかけての破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口縁部に焼成後の補修孔がある。斜め方向の条線を地文にしている。口縁部上位では横方向の沈線を3本施文している。その下から胴部にかけて斜め横方向の2列の沈線で菱形に区画された文様帯の中に横方向の沈線を充填する文様構成である。25は小形の土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部上位では横方向の沈線を3本施文している。その下から斜め横方向の2列の沈線で菱形に区画された文様帯の中に横方向の沈線を充填する文様構成をとるものと思われる。26は口縁部下半の破片である。24と似た文様構成と思われる。27は口縁部下半の破片である。横方向の沈線をやや不規則に施文している。28は小形の土器の口縁部の破片である。口唇部は内向きで尖頭状になる。口縁部には沈線を多段に施文したり四角形に区画したりしている。29は小形の土器の口縁部破片である。口唇部はやや内向きで円頭気味である。口縁部に沿って横向きの押し引き沈線と並行して刺突文を施文している。30は小形土器の胴部破片である。縦方向の条線を地文にして横方向とやや『へ』の字状の沈線で囲むように区画している。31は小形土器の胴部破片である。縦方向の条線を地文にして、中程に三角形と円形を組み合わせた文様を施文し外側を沈線で囲んでいる。32は小形土器の胴部破片である。縦方向の条線を地文にして中程に『へ』の字状の沈線、右上は斜め方向の沈線を充填している。下位には円形と沈線を組み合わせた文様を施文している。33・34は小形土器の口縁部下半の破片である。縦方向の条線を地文にして横方向とやや弧状の沈線を組み合わせた文様帯を施文している。

35は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味で口唇部上面には刺突文が見られる。縦方向の条線を地

田戸上層 (2)



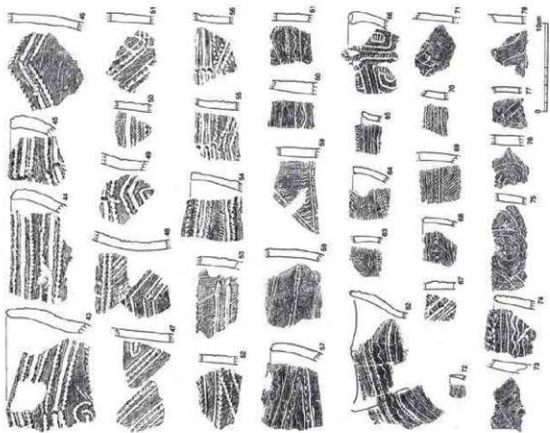
田戸上層 (3)



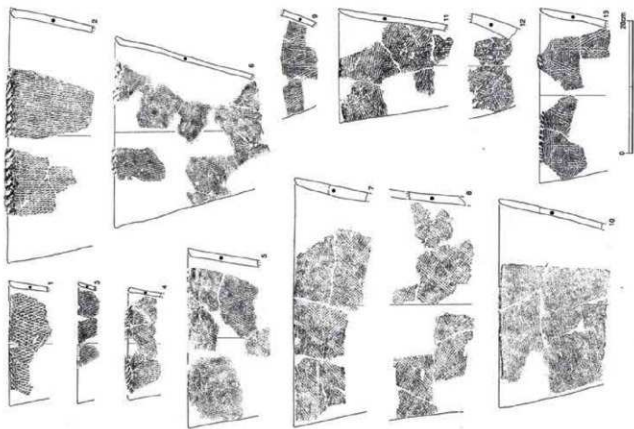
文にしている。縦方向と横方向の沈線を組み合わせて文様帯を区画している。36は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。縦方向の条線を地文にしている。横方向の沈線を主体にして文様帯を区画している。37・38は口縁部破片である。いずれも口唇部は角頭気味である。縦方向の条線を地文にしている。横方向と長楕円状の文様帯を区画している。39は胴部破片である。斜め方向の条線を地文にしている。[E]の字と逆「E」の字状の文様帯を中程に施文し、その下位には沈線を2段に施文している。40・41は胴部上半の破片である。いずれも縦方向の条線を地文にしている。横方向の太沈線多段に施文している。42は胴部破片である。やや斜め縦方向の条線を地文にしている。中程に3段の太沈線を施文している。

43は大形土器の口縁部破片である。やや波状口縁と思われる。口唇部は円頭である。口縁部上位では横方向の刺突文と刺突文の間に太沈線を挟む文様構成である。その下位には横方向の条線を地文にして渦巻き文様が配置されている。44・45は口縁部の破片で43の口縁部上位と同じような文様構成である。46は大形土器の胴部の破片である。斜め方向に太沈線と刺突文が並行している。47は大形土器の胴部破片である。左斜め方向に沈線・刺突文・沈線という組み合わせで施文されている。右側に横方向の長楕円状の沈線が覗く。48は大形土器の胴部破片である。上位の2段の横方向の連続刺突文が施文されている。その下に左斜め方向の細沈線が充填されている。中程から下は「へ」の字状の沈線を3段に並べ下2本の間に刺突文が施文されている。49は胴部上半の破片である。横方向の条線を地文にしている。その上位に横方向の太沈線と連続刺突文を2列に施文している。さらにその下位では円形状に沈線を3重に施文している。50は胴部の小破片である。横方向に太沈線を施文しその上下に斜位の刻目文を施文している。さらにその下位に刺突文も見られる。51は胴部破片と思われる。斜め方向に沈線・刺突文・沈線と並行させて施文し、その下方では曲がるような文様構成である。52は胴部破片である。横方向の刺突文と2本の並行する沈線、さらに横方向の刺突文と施文されている。その下位には斜め方向の2本の刺突文が施文されている。53は胴部破片である。斜め縦方向の細沈線を地文にしている。その中程に横方向の太沈線が2本施文されている。54は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口唇部上面より横方向の連続刺突文・2本の沈線・連続刺突文と充填されている。少し間を開けてその下位に同じ文様構成で施文されている。55は口縁部下半の破片である。その上位で横方向の沈線を多段に施文している。さらにその下位に刺突文をやや曲げながら1～2列配置しその下に沿って沈線を施文している。56は口縁部下半の破片である。上位は横方向の沈線を3段施文している。下位は斜め方向の太沈線とそれに沿って刺突文がその内側に巡らされている。57は口縁部破片である。口唇部外面に沿って波状の細沈線が施文されている。その下は横方向の細沈線と斜め横方向の細沈線で文様を施文し中に破線状の刺突文を配置している。

58は胴部破片である。横方向の2本の細沈線をやや間隔をあけて配置している。59は胴部破片である。並行する2本の斜め方向と横方向の細沈線で区画されてその内側に縦方向の貝殻腹線文を充填している。60は胴部上半の破片である。横方向の細沈線・沈線で施文されている。やや曲線的に描かれている部分が見られる。61は口縁部下半の破片である。その上位では斜め方向と横方向の細沈線で区画された文様帯の内側に沿って刻目文を施文している。さらにその下位では横方向の波状の細沈線と細沈線が施文されている。62は小形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口縁部はやや波状口縁になる。口唇部は円頭気味である。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部上位に横方向の2本の平行沈線を2段施文し、波状の細沈線を挟んでさらに下位に2本の平行沈線さらに沈線という構成である。63は口縁部下半



出戸上層 (4)



条旗文系土器 (1)

の破片である。2本の曲線の細沈線で区画された文様帯の中を斜位の貝殻腹縁文で充填している。64は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部上面は斜位の刻目文を施文している。口縁部上位は横方向の細沈線を密に充填している。押し引き状の細沈線で中程に細かく刺突文が見られる。その下位に斜位の細沈線が充填されている。65は小形土器の口縁部破片である。横方向の細沈線と貝殻腹縁文が施文されている。66はやや大形の口縁部破片である。刺突による区画帯に短沈線を充填している。67は口縁部下半の破片である。斜め方向の沈線による区画内に短沈線を充填している。68は口縁部小破片である。横方向の条線が施文されている。69・70は小形土器の胴部上半である。斜め方向の細沈線を地文にして横方向の細沈線で区画している。71は胴部上半の破片である。沈線と条線で鋸歯状の施文の一部が見られる。72は小形土器の口縁部破片である。円弧状の細沈線で施文されている。73は口縁部下半の破片である。細沈線で大まかに施文されている。右側は円形の一部と思われる。74は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部外面には刺突文が並ぶ。口縁部上位は横方向の沈線が2本並ぶ。波状沈線を2本施文後にさらに沈線が施文されている。75・76は胴部破片である。その中程に渦巻き状の細沈線で施文された文様がある。76は75の一部と思われる文様構成である。77は胴部破片である。斜め方向の細沈線を施文し間に梯子状に細沈線で刻みを入れる。78は胴部破片である。斜め方向にやや曲線で細沈線を施文している。

第4類 田戸上層～子母口式相当

a種 条痕文（第82上～87下図1～217、図版35上～38）

1は口縁部の大形破片である。口唇部は内削ぎ状になる。口縁部外面には縁辺に沿って刺突文が施されている。口縁部には格子目になるように左右斜め方向からの条痕文が施文されている。2は口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で角頭になる。口唇部外面には斜位に刺突文が施文されている。口縁部～胴部にかけては斜め方向の条痕文を施した後に縦方向の条痕文を強く施文している。3は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部上位から左右斜め方向からの条痕文が施文されている。4は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口唇部上面には刺突文が並ぶ。口縁部には縦方向と右斜め方向からの条痕文が施文されている。5は口縁部の大形破片である。口唇部はやや内側に傾斜気味で外側が尖る。口縁部には左右斜め方向からの条痕文が施文されている。6は口縁部～胴部下半にかけての接合破片である。口唇部はやや外に屈曲気味である。口唇部外面には刺突文が施文されている。左右斜め方向の条痕文で施文されている。7は口縁部の大形破片である。口唇部はやや内側に丸く外側に尖り気味となる。口縁部には左右斜め方向の条痕文がやや粗密な部分が見られ全体としては菱形の文様になる。8は7の土器片の胴部付近になるものと思われる。9は胴部破片である。縦方向と左斜め方向の条痕文が施文されている。10は口縁部～胴部にかけて大きく残っているものである。口唇部はやや角頭気味である。口縁部～胴部にかけて右斜め横方向の条痕と左斜め方向の条痕を主体に施文している。11は口縁部～胴部にかけて大きく残っているものである。やや細身の深鉢形土器になると思われる。口唇部は内側が斜めに細くなりやや外側に尖頭状になる。口縁部上位では斜め横方向の条痕文を主体に施文している。胴部付近では縦斜め方向の条線も見られる。12は胴部～底部上半にかけての破片である。左右斜め方向の条痕文が主体で施文されている。その下位では横方向の条痕文も施文されている。13は口縁部の大形破片である。口唇部は内側が斜めに細くなりやや外側に尖頭状になる。口唇部外面には斜位の刺突文が施されている。縦・横方向の条痕文を主体にして斜め方向の条痕文を加えて施文している。14は口縁部破片で

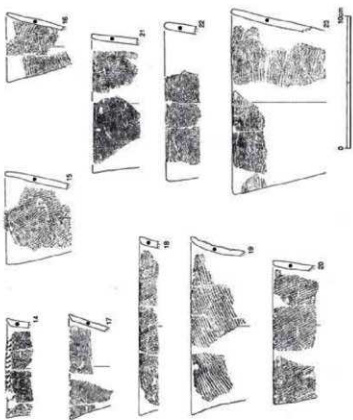
ある。口唇部は内削ぎ気味である。口唇部外側に刺突文が施文されている。口縁部には右斜め縦方向に条痕文が施文されている。15は小形土器の口縁部～胴部にかけての破片である。口唇部は円頭気味である。左斜め縦方向を主体に条痕文が施文されている。16は小形土器の口縁部～底部上半までの破片である。口唇部はやや細くなる円頭である。口縁部付近は横方向の条痕文、胴部～底部は縦方向が主体の条痕文が施文されている。17は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部では右斜め縦方向の条痕文を主体に施文されている。18は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味である。左斜め縦方向の条痕文を主体に密に施文されている。19は口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口縁部には右斜め横方向を主体として条痕文が密に施文されている。20は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には左斜め縦方向の条痕文を主体として密に施文されている。21は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には縦方向の条痕文がやや粗く施文されている。22は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部上位ではやや横方向の条痕文が主体で下位では斜め方向の条痕文が密に施文されている。23は大形土器の口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇部は円頭気味である。横方向の条痕文がやや密に施文されている。

24は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で外側がやや尖る。口唇部上面に細かく刺突文が入れられている。左斜め方向の条痕文は密に、右斜め方向の条痕文はやや粗く施文しているため一部格子状になる。25は大形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口唇部外面に大きく刺突文が見られる。縦方向の条痕文を主体にしてやや左斜め方向の条痕文を施文している。26は口縁部破片である。口唇部は角頭気味でやや外側に尖る。口唇部外面には刺突文が入れられている。左斜め方向の条痕文は密に右斜め方向の条痕文はやや粗く施文されている。27は口縁部の大形破片である。口唇部は外傾斜気味に円頭になる。口唇部外面に沿って所々に刺突文が見られる。やや粗く縦方向の条痕文が施文されており、所々に右斜め方向の条痕文が加わっている。28は口縁部破片である。口唇部はやや外反し外側に肥厚している。口唇部外面に沿って斜位に刺突文が見られる。左斜め方向の条痕文を施文後に右斜め方向の条痕文を施文している。29は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で外側がやや尖る。口唇部外面に沿ってやや斜位に刺突文が見られる。左右斜め方向の条痕文を格子目になるように施文している。30は大形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で外側にやや尖る。口縁部外面に沿って細かい刺突文が見られる。右斜め縦方向の条痕文をやや密に、左斜め縦方向の条痕文をやや粗く施文し所々格子目文になるようにしている。31は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外側に潰れ気味に肥厚する角頭である。口唇部外面には細かく刺突文が見られる。左右斜め方向の条痕文を格子目になるように施文している。32は口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口唇部外面にはやや細かい刺突文が見られる。縦方向の条痕文を主体にしてやや右斜め方向の条痕文も施文されている。

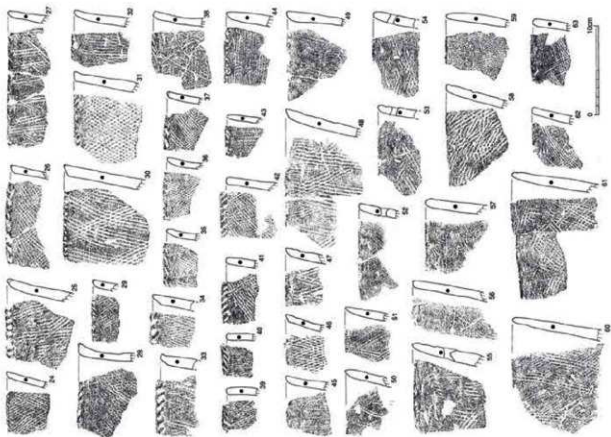
33・34は口縁部破片である。いずれも口唇部は内削ぎ気味で細くなり端部は角頭状になる。口唇部外面は太沈線により斜位に刻目されている。右斜め縦方向の条痕文を主体に施文されている。やや左斜め縦方向の条痕文も見られる。

35は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口唇部外面には沈線により斜位に刻目されている。全体には右斜め縦方向の条痕文を施文後に左斜め横方向の条痕文が施文されている。36は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口唇部外面には沈線により斜位に刻目されている。37は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面には

沈線により斜位に刻目されている。左斜め方向の条痕文を施文後に左斜め方向の条痕文が施文されている。38は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。右斜め方向の条痕文が粗く施文されている。39は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面には刻目文が施文されている。縦方向の条痕文が施文後に左斜め方向の条痕文が施文されている。40は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面には沈線により斜位に刻目されている。右斜め方向に条痕文が施文後に縦方向の条痕文が施文されている。41は小形土器の口縁部破片である。口唇部は沈線により斜位に刻目されている。左斜め方向に条痕文が施文後に右斜め方向にやや強く条痕文で施文されている。42は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部上面には沈線により斜位に刻目されている。左斜め縦方向に条痕文が施文後に右斜め方向に条痕文が施文されている。43は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部外面には細沈線により斜位に刻目されている。横方向の条痕文が弱く、縦方向の条痕文が比較的強く施文されている。44は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で外側が尖る。口唇部外面に沿って刺突文が施文されている。横方向の条痕文が主体に施文されている。一部縦方向にも条痕文が施文されている。45は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや外側に尖る。口縁部には縦方向の条痕文が施文されている。左斜め方向の条痕文も一部見られる。46は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや外側に尖る。口縁部には縦方向の条痕文と左斜め方向の条痕文で格子目状に施文されている。47は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや外側に尖る。口縁部には縦方向の条痕文と左斜め方向の条痕文で格子目状に施文されている。48は大形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部は縦方向の条痕文と斜め左方向の条痕文を組み合わせ「N」字状に施文している。49は口縁部破片である。口唇部は内側がやや丸く外側が尖り気味である。口縁部上半は横方向の条痕文がやや弱く施文されている。縦方向にはやや不規則な条痕文が見られる。50は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。右斜め縦方向の条痕文がいくらか見られる。51は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には縦方向の条痕文と斜め左方向の条痕文を組み合わせ「N」字状に施文している。52は口縁部破片である。口唇部は円頭気味になる。口縁部に焼成後の補修孔が見られる。左右斜め縦方向の条痕文により格子目状の文様を施文している。53は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部中程に焼成後の補修孔が見られる。口縁部下半より左右斜め方向の条痕文で粗く施文されている。54は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部中程に焼成後の補修孔が見られる。口縁部中程より左右斜め方向の条痕文で粗く施文されている。55は口縁部のやや大形破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部中程に焼成後の補修孔が見られる。口縁部中程から縦方向の条痕文がやや粗く施文されている。左下半では左斜め方向の条痕文も見られる。56は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部下半で左右斜め方向の条痕文が粗く施文されている。57は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部には右斜め方向の条痕文が所々に施文されている。58は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部には左右斜め方向の施文の他にやや左斜め縦方向の条痕文も施文されている。59は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部下半に左右斜め縦方向からの条痕文が施文されている。60は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり尖頭状である。口縁部には縦方向と左斜め方向の条痕文がやや密に施文されている。61はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり尖頭状である。口縁部には左右斜め方向からの条痕文が施文されているが、場所によりやや不規則に施文されている。62は小形土器の口縁部破片である。口唇部は



条纹文系土器 (2)



条纹文系土器 (3)

やや円頭気味である。口縁部には左右斜め方向からの条痕文が施文されている。63は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部中程から左右斜め方向からの条痕文がやや不規則に施文されている。64は口縁部破片である。口唇部はやや外反し細くなる。口唇部外面はややナデ仕上げで、口縁部には左右斜め縦方向の条痕文がやや粗く施文されている。65は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭状になる。口縁部上位より左斜め方向の条痕文が主体で施文されている。一部逆方向からの条痕文も見られる。66は口縁部破片である。口唇部は外反気味で外側に尖頭状になる。口縁部には縦横方向にやや不連続な条痕文が施文されている。67は口縁部破片である。口唇部はやや厚みがあり角頭気味である。口縁部には縦方向の条痕文が主体で施文されている。横方向の条痕文も若干施文されている。68は口縁部破片である。口唇部はやや厚みがあり角頭気味である。口縁部には縦方向の条痕文が主体で施文されている。下位には横方向の条痕文も見られる。69は口縁部破片である。口唇部は内削ぎでやや外反している。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の条痕文が密に施文されている。70は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部には縦方向の条痕文が密に施文されている。71は口縁部破片である。口唇部はやや外側に向かって尖頭状になる。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部には左斜め縦方向にやや密に条痕文が施文されている。72は口縁部破片である。口縁部はやや外側に向かって尖頭状になる。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部には左斜め縦方向に密に条痕文が施文されている。73・74は口縁部破片である。いずれも口唇部はやや屈曲気味に肥厚している。口唇部外面には沈線と斜位に刻目されている。口縁部は縦方向の条痕文が若干見られる。75はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外側に屈曲気味である。口唇部外面には太沈線により斜位に刺突文が施文されている。口縁部には右斜め方向の条痕文が施文されている。76は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部には縦方向の条痕文が密に施文されている。77は口縁部破片である。口唇部はやや外側に屈曲気味である。口唇部外面には沈線により斜位に刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の条痕文が密に施文されている。78は口縁部破片である。口縁部はやや外反気味で口端部は角頭状になる。口唇部外面には沈線により斜位に刺突文が施文されている。口縁部には左斜め方向の条痕文が密に施文されている。79は口縁部破片である。口唇部はやや外よりになり尖頭状になる。口唇部外面にはやや斜位に刺突文が施文されている。口縁部には左斜め方向にやや粗く施文されている。80は口縁部破片である。口唇部は外よりでやや角頭状である。口縁部には2か所の焼成後の補修孔が見られる。口縁部には右斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。81は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや外側に尖る。口唇部上面に斜位に沈線と刻目文が施されている。口縁部にはやや左斜め縦方向の条痕文が施文されている。82は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で尖頭状になる。口唇部外面には細かい刺突文が見られる。縦方向の条痕文がやや粗く施文されている。83は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭気味になる。口縁部中程以下に左斜め縦方向のやや歪んだ粗い条痕文が施文されている。84は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり外側に張り出している。口唇部外側には刺突文が見られる。口縁部には粗めの縦方向と左斜め方向の条痕文が施文されている。85は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で外側に向かって尖頭状になる。口唇部外面には刺突文が見られる。口縁部上位より左斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。86は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で外側に向かって尖頭状になる。口唇部外面には刺突文が見られる。口縁部上位より右斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。87は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部外面には斜位の刻目文が施文され

ている。口縁部上位からまばらに縦方向の条痕文が施文されている。88はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面には半円状の刺突文が施文されている。口縁部上位より左斜め縦方向の条痕文が施文されている。89は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部には右斜め縦方向からの密な条痕文が施文されている。90は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口縁部には縦方向の条痕文が密に施文されている。91は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には左斜め方向からの条痕文が密に施文されている。92は口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。左斜め横方向にやや弧状に粗く条痕文が施文されている。93は口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口縁部には粗く左斜め方向の条痕文が施文されている。94は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し外側に偏った角頭状になる。口縁部には左斜め～左斜め縦方向にかけての施文された条痕文が見られる。95は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外側に偏って尖頭状になる。口縁部には左右斜め縦方向の条痕文でやや鋸歯状に施文されている。96は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口縁部中程には右斜め方向に条痕文が粗く施文されている。97は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外傾斜した円頭である。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が施文されている。98は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で外側に偏った円頭である。口縁部には左斜め方向の条痕文が希薄に施文されている。99は口縁部破片である。口唇部はやや外側に偏って尖頭状になる。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が施文されている。100は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭気味になる。左斜め縦方向の条痕文がやや不規則に施文されている。101は口縁部破片である。口唇部がやや肥厚気味で角頭である。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が施文されている。102は口縁部破片である。口唇部は肥厚し円頭気味である。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が強く施文されている。

103は大形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には左斜め～左斜め縦方向の条痕文がやや不規則に施文されている。104は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には縦方向と左斜め方向の条痕文が施文されている。105は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭気味である。口縁部には左斜め方向の条痕文が強く施文されている。106は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部にはやや粗く縦方向の条痕文が施文されている。107は小形土器の口縁部～胴部上半の破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には縦方向に密に条痕文が施文されている。108は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部にはやや右斜め縦方向の条痕文が粗く施文されている。109は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が強く施文されている。110は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚し円頭気味になる。口縁部には左斜め方向の条痕文が施文されている。111は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には縦方向の条痕文が強く施文されている。112は口縁部破片である。口唇部は角頭気味になる。口縁部には左右斜め方向の条痕文がやや強く施文されている。113は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭気味になる。口縁部には左斜め方向の条痕文が中程に残されている。

114は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口縁部には左斜め縦方向の条痕文がやや施文されている。115は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭状になる。口縁部には縦方向の条痕文が若干施文されている。116は口縁部破片である。口唇部はやや内向きに尖頭状にな

る。口縁部には左斜め方向の条痕文が施文されている。

117は小形土器の口縁部～胴部上半の破片である。口唇部は内向きで尖頭状になる。口縁部上半はやや左斜め方向に、下半～胴部上半にかけては縦方向に条痕文が施文されている。118は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には右斜め方向の条痕文が施文されている。119は小形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部は細く尖頭状になる。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が不連続に施文されている。

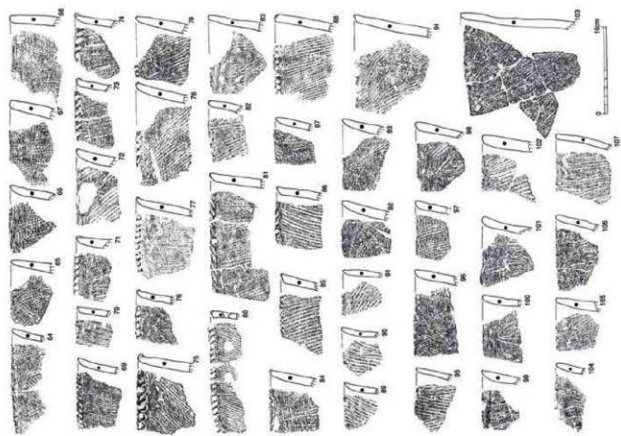
120は口縁部破片である。口唇部はやや外に偏って円頭状になる。口唇部外面には列点状に刺突文が見られる。口縁部にはやや左横方向の条痕文が強く施文されている。121は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部外面には斜位の沈線による刻目文が施文されている。口縁部には横方向と左斜め・縦方向の条痕文が施文されている。

122は大形土器の口縁部～胴部上半の破片である。口唇部はやや外に屈曲させて細くなる。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部中程に横方向の条痕文、胴部にかけては縦方向のやや弱い条痕文が施文されている。123は口縁部破片である。口唇部は外に折れ曲がり細く角頭になる。口縁部にはやや不連続に横方向の条痕文が施文されている。124は口縁部破片である。口唇部はやや屈曲気味に外側にとびだす。口唇部外面には斜位に刺突文が施文されている。口縁部には右斜め横方向の条痕文が密に施文されている。125は口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部中程から右斜め横方向に不連続な条痕文が施文されている。126は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面は刺突文が施文されている。口縁部には横方向とやや左斜め横方向の条痕文が密に施文されている。127は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には左斜め横方向の条痕文が粗く見られる。128は口縁部破片である。口唇部はやや外に偏って尖頭状になる。口縁部には横方向の不連続な条痕文とやや左斜め方向の条痕文で施文されている。

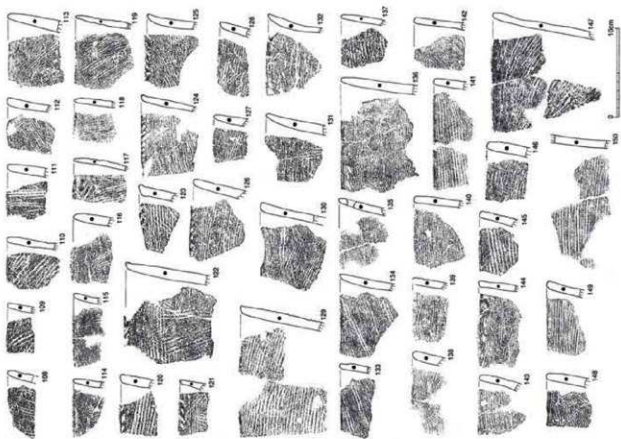
129は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外に偏って円頭気味である。口唇部には横方向に条痕文が密に施文されている。130は口縁部破片でやや波状口縁となるものである。口唇部はやや肥厚気味で円頭である。口縁部には左右斜め横方向の条痕文がやや不連続に施文されている。131は口縁部破片で波状口縁になる。口唇部はやや外反し細くなる。口縁部には横方向の条痕文がやや弱く施文されている。

132は口縁部破片である。口唇部は大きく外反し尖頭状になる。口縁部には横方向の条痕文が弱く施文されている。133は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり円頭状になる。口縁部には右斜め方向に間隔をあけて条痕文が施文されている。134は口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口縁部には右斜め方向に間隔をあけて条痕文が施文されている。135は口縁部破片である。焼成後の補修孔も見られる。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には右斜め横方向の条痕文が施文されている。

136は大形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には横方向に不連続で短い条痕文が密に施文されている。137は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には横方向の条痕文が不連続に施文されている。138は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口縁部には横方向と左斜め横方向の条痕文が施文されている。139は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向に弧状に施文された条痕文が見られる。140は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部には横方向に条痕文が密に施文されている。141は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向の条痕文が密に施文されている。その右下で右斜め方向の条痕文が一部見られる。



条纹文采土器 (4)



条纹文采土器 (5)

142は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内側がとびだす円頭状になる。口縁部には横方向にやや粗い条痕文が施文されている。

143は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には横方向にやや密な条痕文が施文されている。144は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には横方向の短い条痕文が粗く施文されている。145は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある角頭状になる。横方向の条痕文が強く施文されている。146は口縁部破片である。口唇部はやや細くなりながら円頭状になる。横方向にやや不連続な条痕文が施文されている。147は大形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや肥厚しながら円頭気味になる。口縁部には横から斜め方向にやや弧状に条痕文が施文されている。148は口縁部破片である。口唇部はやや細くなりながら円頭になる。口縁部には横方向と斜め方向の短い条痕文が粗く施文されている。149は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭気味である。口縁部には横方向の条痕文が強く施文されている。

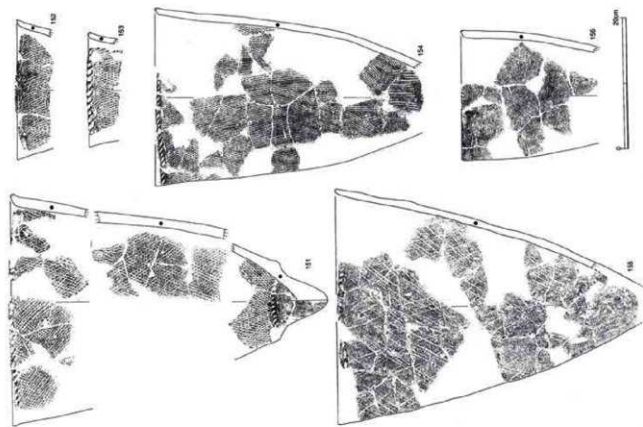
150は胴部破片である。横方向の強い条痕文が施文されている。151は深鉢形土器の口縁部～底部の尖底部分まで様子のよく解かるものである。口唇部は屈曲し尖頭状になる。口唇部外面は斜位の沈線による刻目文が施文されている。口縁部～底部にかけては左右斜め方向の連続的な条痕文を格子目状に施文している。底部は乳頭状に尖りその部分の上部に刺突文が施文されている他は無文である。152は口縁部の大形破片である。口唇部は内削ぎで外側が尖る。口縁部には右斜め縦方向の条痕文が主体で右斜め縦方向の条痕文がやや間隔をあけて施文されている。153は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭である。口唇部外面は刺突文が施文されている。口縁部には左右斜め縦方向の条痕文が連続的に施文されて格子目状になる。

154は大形の深鉢形土器の口縁部～底部の上半にかけて接合したものである。口唇部は内削ぎで外側が尖る。口唇部外側は斜位の刻目文が施文されている。口縁部～胴部にかけては縦方向の連続的な条痕文が施文されている。胴部～底部にかけては右斜め縦方向の条痕文がやや粗く施文されているのが解かる。155は大形の深鉢形土器の口縁部～底部まで接合したもので尖底部分のみない。口唇部はどちらかといえば丸みのある尖頭になる。口唇部外面にはやや斜位の刺突文が施文されている。口縁部～底部にかけてやや粗くはっきりとした左右斜め方向の条痕文が施文されている。156は口縁部～胴部にかけて接合されたものである。口唇部は内削ぎ気味の角頭である。口唇部外面には斜位の刻目文が見られる。口縁部～胴部には左斜め縦方向にやや密に細めの条痕文が施文されている。

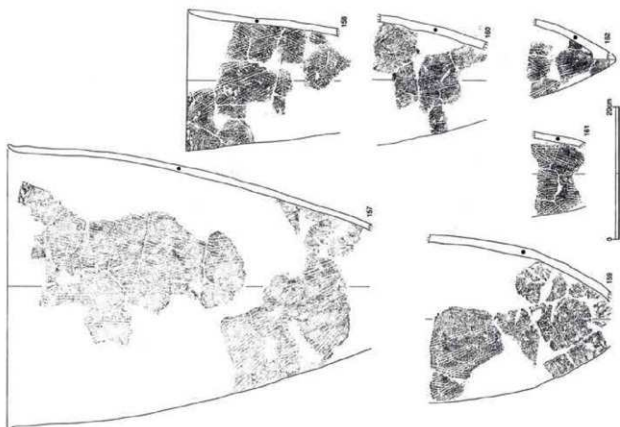
157は大形の深鉢形土器の口縁部～底部の上半にかけて接合したものである。口唇部はややつまむ様にして外反し尖頭状になる。口唇部外面は斜位の刺突文が施文されている。口縁部～胴部までは右斜め縦方向を主体とした条痕文で施文されている。胴部～底部にかけては左斜め方向の条痕文が施文されている。

158は口縁部～胴部下半にかけて接合したものである。口唇部はやや外側に偏って尖頭状になる。口縁部～胴部にかけては左右斜め縦方向の条痕文をやや粗く施文している。159は大形土器の胴部～底部にかけて接合したものである。底部はやや丸みのある形状である。左斜め縦方向の条痕文が主体で施文されている。一部右斜め縦方向の条痕文があるため格子目状になるところも見られる。

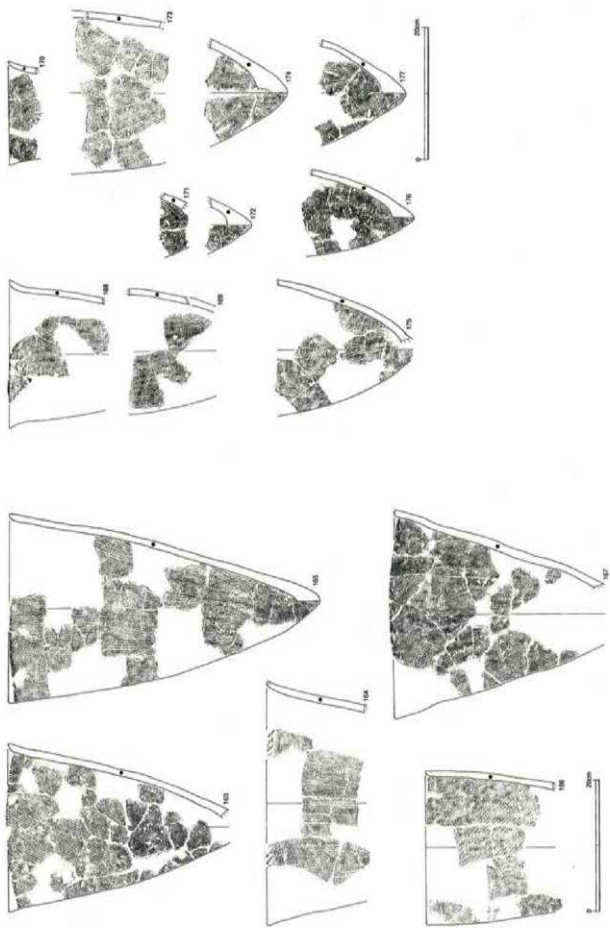
160は胴部の接合破片である。左右斜め縦方向の条痕文が粗く施文されている。161は胴部の破片である。左右斜め縦方向の条痕文がやや密に施文されている。162は底部の尖底部分である。先端部は比較的緩やかで丸みがある。先端部に近い部分は無文であるが底部は縦方向の条痕文がやや密に施文されている。



夔夔文系土器 (6)



夔夔文系土器 (7)



第88图

163はやや大形の深鉢形土器の口縁部～尖底部を除く底部にかけてのものである。口唇部は内削ぎで外側が尖る。口縁部外面には刺突文が施文されている。口縁部～胴部下半にかけては右斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。底部はどちらかというと無文に近い。

164は大形土器の口縁部の接合破片である。口唇部はやや外反気味で細くなる。口唇部外面には斜位の沈線による刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の条痕文が密に施文されている。165は大形の深鉢形土器の全体をほぼ復元できるものである。口唇部はやや外側に偏った尖頭状になるものである。底部は比較的丸みのある尖底部になる。尖底部分が無文となる以外は縦方向の条痕文を主体にして施文されている。特に胴部付近は密な状態での施文が見られる。166は口縁部～胴部にかけて接合したものである。口唇部はやや内斜し口端は外側に偏って尖る。口縁部には左斜め方向の条痕文を連続的に密な状態で施文している。167は大形の深鉢形土器の尖底部分を除き接合したものである。口唇部はやや円頭状になる。口縁部付近では左斜め方向、横方向に近い部分の条痕文で施文されているものが胴部付近では縦方向の条痕文を主体として施文されている。

168は口縁部～胴部にかけて接合したものである。口唇部は外反し外側に偏って尖り気味になる。口唇部付近ではやや左斜め縦方向に条痕文が施文されている。胴部付近では縦方向に条痕文が施文されている。

169は胴部の接合破片である。縦方向の条痕文が主体に施文されている。170はやや小形の深鉢形土器の口縁部の接合破片である。口唇部は外反し尖頭状になる。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。

171は底部の尖底部の上半部である。上位に縦方向の条痕文が見られる。下位は無文である。172は底部の尖底部の先端部分である。先端部は無文である。一部縦方向の条痕文が施文されている。

173は大形土器の胴部の接合したものである。左斜め縦方向～縦方向の条痕文が主体で施文されている。174は大形土器の底部の尖底部分である。やや先端部が緩やかな尖りかたのものである。先端部分に近い部分まで左斜め方向と縦方向の条痕文が施文されている。175は大形土器の胴部～底部までの接合破片で尖底部分の先端のみ欠落している。縦方向のやや粗い条痕文が施文されている。176は底部の尖底部分である。先端部分が比較的細長くなるものである。縦方向の条痕文が若干見られるものである。177は底部の尖底部分である。やや先端から底部にかけて広がり気味のものである。縦方向の条痕文が先端部まで施文されている。

178は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや外側に偏って尖頭状になる。口唇部外側は細かい刺突文が施文されている。口縁部には変形の無文帯を描く様に左斜め方向と右斜め方向の条痕文が間隔をあけて施文されている。179は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反しやや円頭状になる。口唇部外面に沿って斜位の刻目文が施文されている。口縁部には縦方向と右斜め縦方向の条痕文が施文されている。180は大形土器の口縁部破片である。口唇部は外側に偏って尖頭状になる。口唇部外面には斜位に沈線で刻目されている。口縁部は右斜め方向と左斜め方向の条痕文で格子目状に施文されている。中程には焼成後の補修孔が残されている。181は大形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し角頭気味である。口唇部外側は斜位に太沈線による刻目文が見られる。口縁部は右斜め方向と左斜め方向の条痕文でやや不規則な格子目に施文されている。182は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面は斜位の細かい刻目文が施文されている。口縁部には左右斜め方向の条痕文で一部格子目状に施文されている。183は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部外面は斜位の刻目文

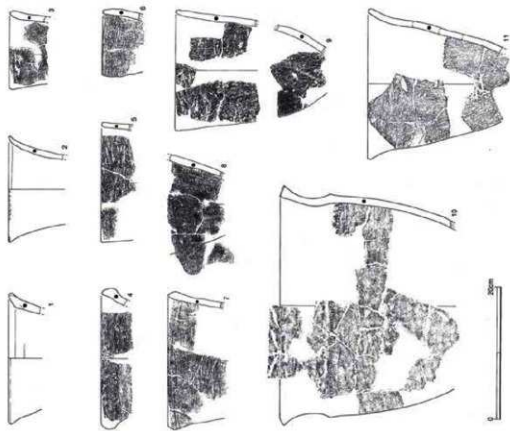
が施文されている。口縁部には無文帯を挟んで左右斜め方向の条痕文で施文されている。

184・185はいずれも小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭でやや膨らむ。口唇部外面に沿って大きめの刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の条痕文を施文後に左斜め縦方向の条痕文が強く施文されている。

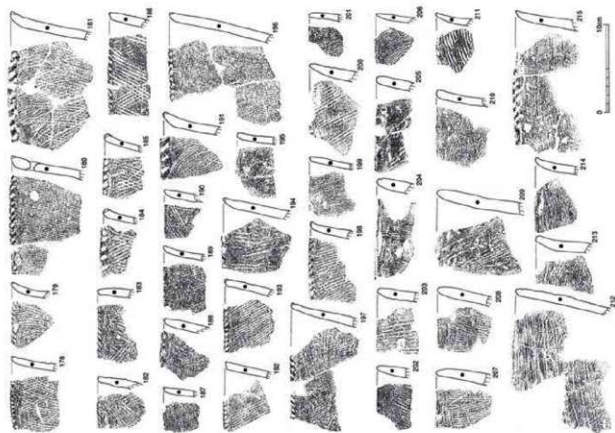
186は口縁部破片である。口唇部はやや外側に偏って尖頭状になる。口唇部外面に沿って斜位に刺突文が施文されている。口縁部にはやや間隔をあげながら左右斜め方向の条痕文が施文されている。187は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外側に偏って尖頭状になる。口縁部には右斜め方向に条痕文を施文後に左斜め方向に条痕文が施文されている。188は口縁部破片である。口唇部はやや外側に偏って尖頭状になる。口唇部外側は横方向のナデで調整されている。口縁部はやや粗い縦方向の条痕文が施文されている。189は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し細くなりながら円頭状になる。口縁部は無文帯を挟んで左右斜め方向の条痕文で施文されている。190は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外側に偏って尖頭状になる。口縁部には右斜め方向に粗く施文されている。191は大形土器の口縁部小破片である。口唇部は内削ぎでやや外反気味である。口唇部上面～外面にかけて太沈線による斜位の刻目文が施文されている。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。

192・193は口縁部破片である。いずれも口唇部はやや外側に偏った角頭状になる。口唇部外側に沿って刺突文が施文されている。口縁部は左斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。

194は口縁部破片である。口唇部はやや外反しながら細くなり尖頭状になる。口唇部外面に沿ってやや大きめの刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の条痕文とそれに重ねるように施文された左斜め縦方向の条痕文が施文されている。195は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には弱い左斜め方向の条痕文が施文されている。196は大形土器の口縁部破片である。口唇部は外側に偏った尖頭状になる。口唇部外面に沿って刺突文が密に施文されている。口縁部には左斜め方向の条痕文が施文された後に右斜め方向に条痕文が施文されている。197は口縁部破片である。口唇部はやや細くなりながら円頭状になる。口唇部外面に沿って斜位に刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文された後左斜め縦方向の条痕文が施文されている。198は口縁部破片である。口唇部はやや外に屈曲し尖頭状になる。口唇部外面に沿って斜位に刻目文が施文されている。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。199は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外側にやや偏った尖頭状になる。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。200は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が粗く施文されている。201は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には左斜め縦方向の条痕文が施文されている。202は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部は上位で横方向のやや粗い条痕文が施文されている。それ以下に縦方向の条痕文が密に施文されている。203は口縁部破片である。口唇部は肥厚し端部は角頭状になる。口縁部には縦方向の条痕文が施文されている。204は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部外面に沿って横方向の細沈線が施文されている。口縁部には縦方向の条痕文がやや密に施文されている。205は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には左斜め方向の粗い条痕文が施文されている。206は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状である。口縁部には左斜め方向の条痕文がやや不連続に施文されている。207は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には横方向の条痕文が施文された後に縦方向の条痕文が強く施文されている。208は口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある尖頭状



黑文(1) (条状文系)

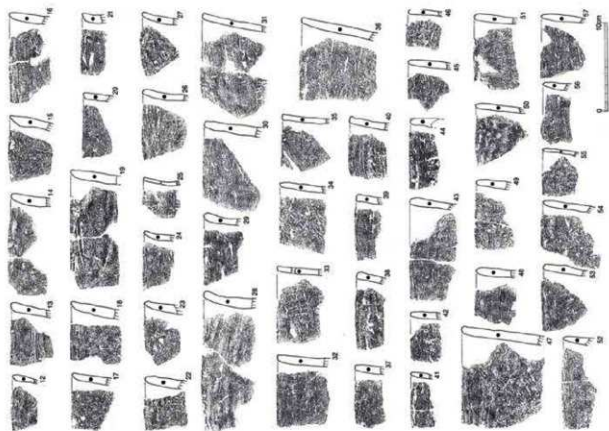


条状文系土器(10)

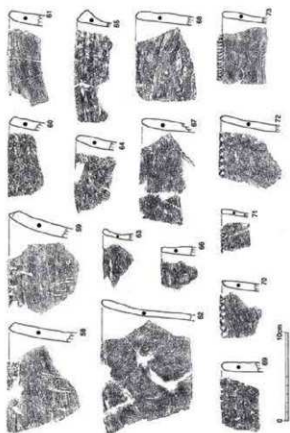
となる。口縁部には右斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。209は大形土器の口縁部小破片である。口唇部はやや丸みのある尖頭状になる。口縁部には左斜め方向のやや粗い条痕文が施文されている。210は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で角頭状になる。口縁部には左斜め横方向の粗い条痕文が施文されている。211は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し細く尖頭状になる。口縁部は右斜め横方向のため不連続な条痕文が施文されている。212は大形土器の口縁部～胴部上半の接合破片である。口唇部はやや丸みのある尖頭状になる。口縁部には横方向の条痕文を密に施文している。胴部付近ではやや右斜め横方向の条痕文がかなり施文されている。213は口縁部破片である。口唇部はやや屈曲気味に外反し角頭になる。口縁部には横方向・左斜め横方向の条痕文が密に施文されている。214は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反しやや細くなる。口縁部には右斜め横方向の条痕文がやや密に施文されている。215は大形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で外側に偏って失る。口唇部外面は斜位に沈線による刻目文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文がやや不規則に施文されている。

b種 無文 (第87上～89図1～129, 図版39・40下)

1は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味である。口縁部は無文である。2は口縁部～胴部にかけての破片である。口唇部は外反する。口唇部外面には斜位に刺突文が見られる。口縁部～胴部にかけては無文である。3は口縁部破片である。口唇部は肥厚しやや尖頭状である。調整痕と思われる削痕が斜め方向に認められる。4は口縁部破片である。口唇部は外反し内傾斜気味に尖頭状になる。口縁部は無文になる。5は口縁部破片である。口唇部は円頭である。口縁部には調整痕と思われる斜め方向の削痕がかすかに認められる。6は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内曲気味で口端が角頭である。横方向にかすかに削痕が見られる。7は口縁部～胴部上半の破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。無文である。8は胴部の大形破片である。縦方向の調整痕以外は認められない。9は深鉢形土器の口縁部～底部にかけての接合した破片で同一個体と思われるものである。口唇部はやや尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。10は大形土器の口縁部～胴部下半にかけての接合破片である。口唇部は大きく外反し口縁部下半に張り出す部分のある器形である。張り出し部分の直下に刻目文が見られる以外は無文である。11は深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけての接合破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。縦方向の調整痕以外は無文である。12は口縁部破片である。口唇部は両側よりつまみあげる様に成形しており尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。13は口縁部破片である。口唇部は円頭気味になる。縦方向の調整痕が見られる。14は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味でやや円頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。15は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ状になり尖頭となる。縦方向の調整痕が見られる。16は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。無文である。17は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。18は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。19は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味でやや尖頭状になる。横方向・斜め方向の調整痕が見られる。20は口縁部破片である。口唇部はやや内傾し角頭気味である。縦方向に弱い調整痕が残る。21は口縁部破片である。口唇部は縦方向に弱い調整痕が見られる。22は口縁部破片である。口唇部はやや内傾し角頭気味である。縦方向に弱い調整痕が残る。23は口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。斜め方向に弱い調整痕が見られる。24は口縁部破片である。口唇部は外反し円頭になる。縦方向に弱い調整痕が残されている。25は小形で薄手の土器の口縁部の破片である。口唇部は外反し円頭気味である。縦方向にやや強めの調整痕が見られる。26は土器

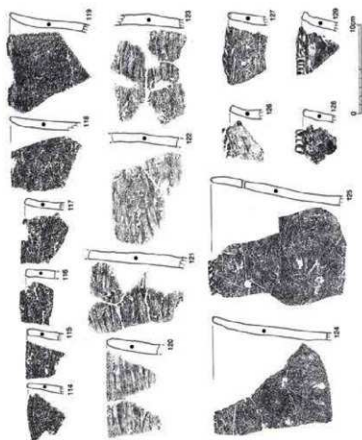


無文(2) (条紋文系)

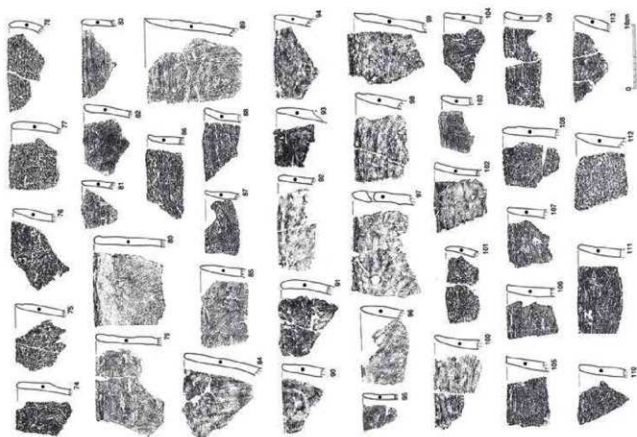


無文(3) (条紋文系)

の口縁部の破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。口縁部上位は横方向・下位は縦方向の調整痕が残されている。27は口縁部破片である。口唇部は外反し円頭気味である。無文である。28は口縁部破片である。横方向にやや大きな破片である。口唇部はやや外反し円頭である。無文である。29は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭状である。無文である。30は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。無文である。31は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭気味である。横方向に調整痕が見られる。32は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。33は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。焼成後の補修孔が見られる。縦方向に調整痕が見られる。34は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状である。斜め方向の調整痕が見られる。35は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。無文である。36は大形土器の口縁部破片である。37は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。無文である。38は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。縦方向に調整痕が見られる。39は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。無文である。40は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。無文である。41は小形土器の口縁部の破片である。口唇部は円頭気味である。無文である。42は小形土器の口縁部の破片である。口唇部は円頭である。無文である。43は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味である。斜め方向の調整痕が見られる。44は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。45は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。縦方向の調整痕が見られる。46は口縁部破片である。口唇部はやや円頭である。横方向の調整痕が見られる。47は大形土器の口縁部の破片である。口唇部はやや円頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。48は口縁部破片である。口唇部は尖頭状である。無文である。49は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。横方向の調整痕が見られる。50は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。51は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。縦方向の調整痕が見られる。52は口縁部破片である。口唇部はやや内向きに尖頭状になる。横方向の調整痕が見られる。53は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。54は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。55は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。縦方向の調整痕が見られる。56は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。無文である。57は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。58は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外面側を切断したような角頭である。斜め方向の調整痕が残されている。59は大形土器の口縁部破片である。口唇部は外反しやや尖頭状になる。縦方向の調整痕が見られる。60は口縁部破片である。口唇部はやや外面側を切断したような角頭である。縦方向の調整痕が見られる。61は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口唇部外面に沿って細沈線が施文されている。62は口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。縦方向に調整痕が見られる。63は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。斜め方向に調整痕が見られる。64は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。縦方向に調整痕が見られる。65は口縁部破片である。口唇部は外側に大きく張り出し尖頭状になる。縦方向に調整痕が見られる。66は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。縦方向に調整痕が見られる。67は口縁部破片である。口唇部は円頭である。縦方向に調整痕が見られる。68は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。縦方向に調整痕が見られる。69は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。斜め方向に調整痕が見られる。70は小形土器の口縁部破片である。口唇部内外面に沿って刺突文が施文されている以外は無文である。71は小形土器の口縁部破



無文(5) (条痕文系)



無文(4) (条痕文系)

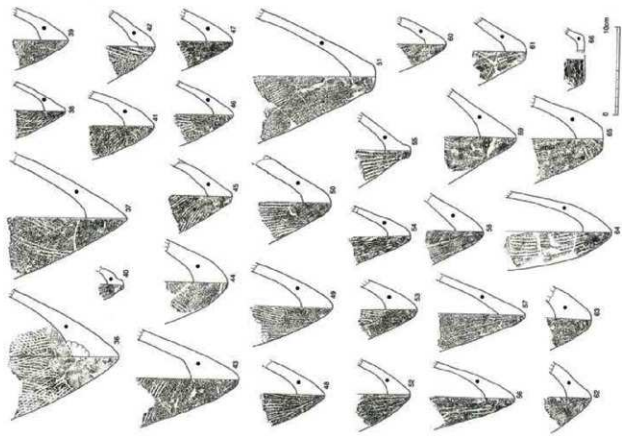
片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面には刺突文が施文されている。72は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇部外面に沿って刺突文が施文されている以外は無文である。73は口縁部破片である。口唇部上面に刻目文が施文されている以外は無文である。74は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。縦方向の調整痕が見られる。75は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。76は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。77は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。78は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。縦方向に調整痕が見られる。79は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。胎土には繊維が含まれる。斜め方向の調整痕が見られる。80は口縁部破片である。口唇部は円頭気味になる。胎土には繊維が含まれる。斜め方向の調整痕が見られる。81は小形の土器の口縁部の破片である。やや波状口縁になる。口唇部は円頭気味である。胎土には繊維が含まれる。横方向の調整痕が見られる。82は口縁部の破片である。口唇部はやや円頭状になる。斜め方向の調整痕が見られる。83は口縁部の破片である。口唇部はやや尖頭状になる。胎土には繊維が含まれる。横方向の調整痕が見られる。84は口縁部の破片である。口唇部はやや円頭気味になる。無文である。85は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。胎土には繊維が含まれる。斜め方向の調整痕が見られる。86・87は小形土器の口縁部破片である。口唇部はつまみ加減で若干細く外反する。横方向の調整痕が見られる。88は口縁部破片である。口唇部は外反し円頭気味である。胎土には繊維が含まれる。無文である。89は口縁部一胴部上半にかけての大形破片である。口唇部は尖頭状になる。胎土には繊維が含まれる。縦方向の調整痕が見られる。90は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。無文である。91は口縁部破片である。口唇部はやや内曲気味で円頭になる。斜め方向の調整痕が見られる。92は口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。93は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。縦方向の調整痕が見られる。94は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり円頭気味である。横方向の調整痕が見られる。95は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。胎土には繊維が含まれる。斜め方向の調整痕が見られる。96は口縁部破片である。口唇部は緩やかな尖頭状になる。無文である。97は口縁部破片である。口唇部は緩やかな尖頭状になる。焼成後の補修孔も見られる。無文である。98は口縁部破片である。口唇部はややつまみ上げて仕上げたように細くなる。無文である。99は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味になる。斜め方向の調整痕が見られる。100は口縁部破片である。口唇部は外反し尖頭状になる。無文である。101は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内曲気味で細くなる。斜め方向の調整痕が見られる。102は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭気味である。横方向の調整痕が見られる。103は口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。胎土に繊維が含まれる。無文である。104は口縁部破片である。口唇部は円頭である。縦方向の調整痕が見られる。105は口縁部破片である。口唇部は角頭である。無文である。106は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。縦方向の調整痕が見られる。107は口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。横方向の調整痕が見られる。108は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭気味である。若干の縦方向の調整痕が見られる。109は口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭である。横方向の調整痕が見られる。110は口縁部破片である。口唇部は外反気味で円頭である。斜め方向の調整痕が見られる。111は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭である。横方向の調整痕が見られる。112は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で細くなる。横方向の調整痕が見られる。113は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。縦方向の調整痕が

見られる。114は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。無文である。115は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。無文である。116は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。無文である。117は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。斜め方向の調整痕が見られる。118は口縁部破片である。口唇部はやや内側に膨らむようになる。斜め方向に調整痕が見られる。119は口縁部の大形の破片である。口唇部がやや外反し細くなる。縦方向の調整痕が見られる。120は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。胎土には繊維が含まれる。横方向に調整痕が見られる。121は胴部破片である。胎土には繊維が含まれる。横方向の調整痕が顕著に見られる。122は胴部破片である。胎土には繊維が含まれる。横方向の調整痕が顕著に見られる。123は胴部破片である。胎土には繊維が含まれる。横方向の調整痕が顕著に見られる。125は口縁部～胴部上半にかけての大形破片である。口唇部は外反し円頭気味である。口唇上面に刻目文が見られる。口縁部には縦方向を主体とした調整痕が見られる。124は口縁部～胴部上半にかけての大形破片である。口唇部はやや緩やかな尖頭状になる。口唇部上面には斜位の刺突文が見られる。口縁部には斜め方向の調整痕が見られる。口縁部には焼成後の補修孔もある。126は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。口唇部上面に斜位の沈線が施文されている。口縁部には縦方向の調整痕が見られる。127は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭で斜め方向の沈線が施文されている。口縁部には斜め方向の調整痕が見られる。128は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭気味である。口唇外面に沿って刺突文が施文されている。口縁部は無文である。129は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部は無文である。

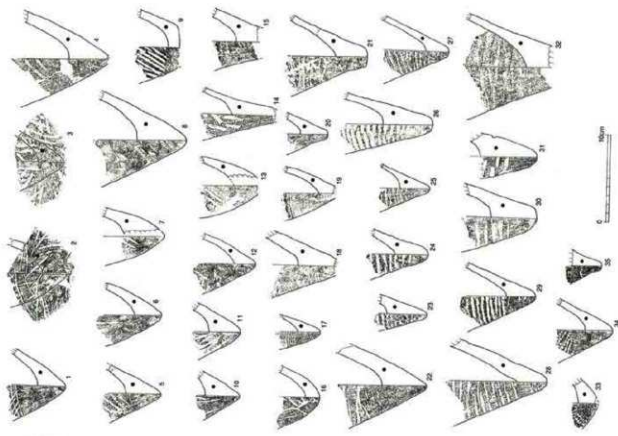
第5類 底部・破片 (第90～92下図1～174)

沈線文系の時期の底部である。1～66は有文で尖底(9・66を除く)のものである。1～35は沈線文等を主体とした施文が施されている。1は尖底の底部破片である。底部上半に横方向の2本の沈線と斜め左方向の4本の沈線が交差している。2は尖底の底部破片である。やや膨らみのある器形である。横方向の沈線が複数見られる。3は尖底の底部破片である。左・右斜め方向の沈線がやや交差しながら施文されている。4は尖底の底部破片である。右斜め方向の太沈線が並行して2本施文されている。5は尖底の底部破片である。細身でやや縁辺が直線的になるものである。上半に右斜め方向に3本の沈線が施文されている。6は尖底の底部破片である。やや膨らみのある器形である。左斜め方向の細沈線が4本残されている。7は尖底の底部破片である。細身でやや膨らみのある器形である。右斜め方向の2本の並行する沈線が残されている。8は尖底の底部破片である。上半に横方向の細沈線が残されている。9は平底の底部破片である。右斜め方向に密に太沈線を充填している。10は尖底の底部破片である。縦方向にやや間隔のある沈線を施文している。11は尖底の底部破片である。縦方向の沈線の一部が認められる。12は尖底の底部破片である。縁辺部は直線的である。その上位に縦方向の沈線が残されている。13は尖底の底部破片で先端部が欠損している。その上位で右斜め方向の沈線が2～3本並行して残されている。14は尖底の底部破片である。細長直線的な器形である。短い単位の右斜め方向の沈線が4本残されている。15は尖底の底部破片で先端部が欠損している。横方向の細沈線が見られる。16はやや丸底気味の底部破片である。縦方向のやや粗い沈線が残されている。17は尖底の底部破片である。上位に横方向に4本の細沈線が見られる。18は尖底の底部破片で先端部の一部が欠損している。横方向の沈線が多段に配置されている。19は尖底の底部破片で先端部が欠損している。上部に横方向の3本の細沈線が密に施文されている。20は乳頭状の尖底

底部(2) (条状文系)



底部(1) (条状文系)



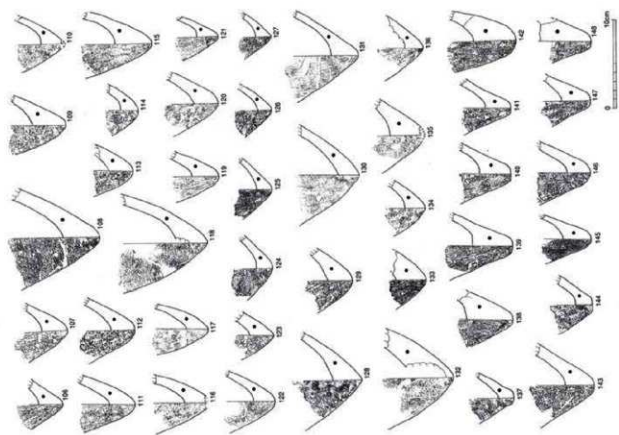
第90回

の底部破片である。やや間隔のあいた横方向の細沈線が3本施文されている。21はやや先端部が平たくなった尖底の底部破片である。横方向の沈線文が比較的密に6本施文されている。22は先端部が細い尖底の底部破片である。その上位に横方向の太沈線が2本見られる。23は先端部が幾分影らみを持つ尖底の底部破片である。先端部に近い部分まで横方向に貝殻腹縁文が充填されている。24は先端部が影らみを持つ尖底の底部破片である。先端部に近い部分まで横方向の太沈線を密に施文している。25は先端部が幾分影らみを持つ尖底の底部破片である。残存部分の中程までやや密に横方向の沈線文が施文されている。26は先端部が影らみを持ち底の部分がやや平らになる尖底の底部破片である。先端部に近い部分まで横方向の太沈線を密に施文している。27は尖底の底部破片である。二等辺三角形のように直線的な器形である。残存部分の2/3位までやや斜め横方向の沈線が施文されている。28は先端部が幾分影らみを持つ尖底の底部破片である。先端部に近い部分まで横方向の太沈線をやや密に施文している。29は先端部が細い尖底の底部破片である。先端部に近い部分まで横方向の太沈線をやや密に施文している。30は先端部が平たくなった尖底の底部破片である。横方向の沈線文が残存部分の2/3位まで比較的密に施文されている。31は先端部がやや平たくなった尖底の底部破片である。横方向の太沈線文が残存部分の1/2位まで比較的粗く施文されている。32は大形土器の先端部が欠損した底部破片である。横方向の沈線がやや粗く3~4本施文されている。33は尖底の先端部分の破片である。貝殻腹縁文か細沈線の施文が見られる。34は尖底の底部破片である。残存部分の上半分に横方向の貝殻腹縁文が見られる。35は尖底の先端部分の破片である。沈線の一部のような文様が見える。

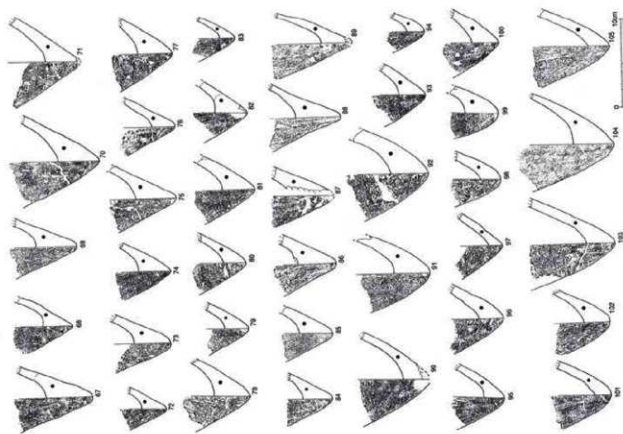
36~66は条痕文等が主体で施文されている。36は大形土器の尖底の底部破片である。先端部を除き左右斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。37は大形土器の尖底の底部破片である。36と比べてやや直線的な縁辺部になる。右斜め縦方向の条痕文が主体にやや粗く施文されている。38は尖底の底部破片でやや先端部が細く突き出る。左斜め縦方向に密に条痕文を施文後に右斜め縦方向に粗く条痕文を施文している。39は尖底の底部破片である。その上位に横方向の条痕文が施文されている。40は小形土器の尖底の先端部の破片である。やや乳頭状になった先端部のみ残存している。若干の縦方向の条痕文が残されている。41は尖底の底部破片である。先端部に向かって緩やかに丸みを持たせた形状になる。底部上半に左斜め方向の条痕文が残されている。42は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり広がりもある形状である。残存部分の先端まで右斜め縦方向の条痕文が施文されている。43は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり細長い形状である。その上位に左斜め横方向に条痕文が残されている。44は尖底の底部破片である。丸みが強い形状である。左斜め方向に条線文様の施文が見られる。45は尖底の底部破片である。先端部が小さく平たくなる形状である。残存部分の上位から中程にかけて左斜め方向の条痕文がやや密に施文されている。46は尖底の底部破片である。先端部が細く縁辺部のやや影らむ形状である。その上位に縦方向の条痕文が残されている。47は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや直線的に立ち上がる形状である。その上位に縦方向の条痕文が残されている。48は尖底の底部破片である。先端部は細く丸みのある縁辺部を持つ形状である。先端部まで縦方向の条線が密に施文されている。49は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は比較的直線的に立ち上がる形状である。先端部まで縦方向に密に条痕文が施文されている。50は尖底の底部破片である。先端部はやや大きく丸みのある形状で比較的斜めに広がる形状である。中程まで縦方向の条痕文が密に施文されている。51は大形土器の尖底の底部である。先端部はやや小さく平たくなり縁辺部はやや直線的に立ち上がる形状である。その上位~中程

にかけて左斜め縦方向の条痕文が残されている。52は尖底の底部破片である。先端部からやや短く横に広がる形状である。縦方向にやや希薄な条痕文が残されている。53は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で細長く立ち上がるような形状になるものと思われる。上位に縦方向の条痕文が一部残されている。54は尖底の底部破片である。先端部は丸く細長く立ち上がるような形状になるものと思われる。上位に縦方向の条痕文が一部残されている。55は尖底の底部破片である。先端部は乳頭状になりやや横に広がりを持つ形状である。縦方向の条痕文がやや密に施文されている。56は尖底の底部破片である。細長く立ち上がる形状のものである。上位にやや希薄な条痕文が施文されている。57は尖底の底部破片である。先端部はやや細く細長く立ち上がる形状になるものと思われる。縦方向に条痕文が施文されている。58は尖底の底部破片である。先端部がやや尖り気味で縁辺が直線的になる。左斜め縦方向の条痕文が施文されている。59は尖底の底部破片である。やや縁辺が横に広がり気味である。右斜め縦方向の条痕文が施文されている。60は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや直線的になる。左縦斜め方向に条痕文が施文されている。61は尖底の底部破片である。先端部が小さく平たくなる形状で縁辺が直線的になる。左斜め横方向の条痕文が見られる。62は尖底の底部破片である。横に比較的広がる形状である。左斜め縦方向に条痕文が見られる。63は尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり横に広がる形状である。厚みも比較的ある。左斜め方向に条痕文が見られる。64は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり比較的細長く立ち上がる形状のものである。縦方向の条痕文が全体に施文されている。65はやや平底気味の尖底の底部破片である。縦方向の条痕文が残されている。66は平底の底部の破片である。横方向の条痕文が残されている。

67～174は条線文もしくは調整痕しか見られないものである。どちらかというとな無文に近いものである。67は尖底の底部破片である。先端部は小さく平らになり縁辺部は直線的に立ち上がる形状である。縦方向の条痕文が上位で見られる。68は尖底の底部破片である。先端部が細く尖り縁辺部は直線的である。縦方向に条痕文が認められる。69は尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり縁辺部が直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。70は大形の土器の尖底の底部破片である。先端部から縁辺部にかけてやや丸みのある形状である。やや左斜め方向の条痕文が見られる。71は尖底の底部破片である。先端部はほんの一部欠損している。やや縁辺が横に広がり気味である。調整痕以外は無文である。72は小形土器の尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり縁辺部が直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。73は尖底の底部破片である。先端部が丸みがあり縁辺部が直線的になる。調整痕しか見られない。無文である。74は尖底の底部破片である。先端部が細く尖り縁辺部はやや丸みがある。左斜め方向の条線文が認められる。75は尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり縁辺部が直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。76は尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり縁辺部が直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。77は尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり縁辺部がやや広がり気味で直線的である。調整痕しか見られない。無文である。78は尖底の底部破片である。先端部が細く尖り縁辺部はやや丸みがある。右斜め縦方向の条線文がある。79は尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり縁辺部が直線的になる。左斜め方向の条線文が一部認められる。80は尖底の底部破片である。先端部がやや丸みがあり縁辺部が直線的になる。調整痕しか見られない。無文である。81は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部はやや丸みがある。左斜め方向の条線文が見られる。82は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部は直線的である。調整痕しか見られ



底部(4) (条状文系)



底部(3) (条状文系)

ない。無文である。83は小形土器の尖底の底部破片である先端部はやや尖り気味で縁辺部は直線的である。左斜め方向の条線文が残されている。84は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は直線的である。左斜め方向の条線文が残されている。85は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。左斜め方向の条線文が残されている。86は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。87は尖底の底部破片である。先端部が欠損している。無文である。88は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は直線的である。縦方向の条線文が残されている。89は尖底の底部破片である。先端部は一部欠損している。縁辺部はどちらかといえば直線的である。調整痕しか見られない。無文である。90は尖底の底部破片である。先端部は一部欠損している。縁辺部はやや横に広がり気味で丸みがある。左斜め横方向に条線文が残されている。91は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部もやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。92は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部もやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。93は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。94は小形土器の尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。95は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。96は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。97は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。98は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。99は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや直線的である。調整痕しか見られない。無文である。100は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部はやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。101は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。102は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。103は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。104は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部は丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。105は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。106は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。107は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。108は大形土器の尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。109は尖底の底部破片である。先端部はやや丸みがあり縁辺部もやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。110は尖底の底部破片である。先端部は一部欠損しているがやや尖り気味で縁辺部は丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。111は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部もやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。112は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。113は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。114は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや横に広がりをみせる。調整痕しか見られない。無文である。115は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや丸みを持ちながら細長く立ち上がる。調整痕しか見

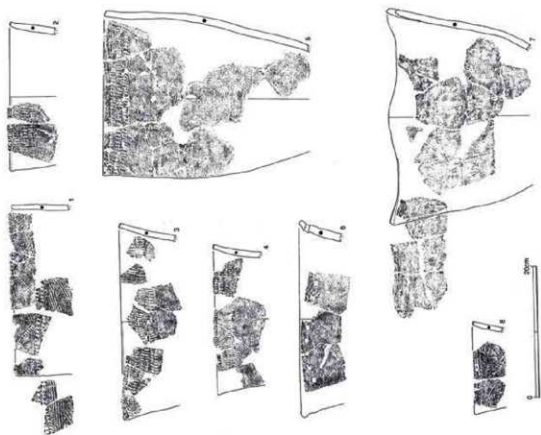
られない。無文である。116は尖底の底部破片である。先端部は一部欠損している。縁辺部はやや丸みを持ちながら細長く立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。117は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部もやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。118は大形土器の底部の破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部は丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。119は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。120は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は広がり気味で直線的である。調整痕しか見られない。無文である。121は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。122は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや直線的である。調整痕しか見られない。無文である。123は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部はやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。124は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部は大きく広がる。調整痕しか見られない。無文である。125は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部は大きく広がる。調整痕しか見られない。無文である。126は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部はやや丸く広がる。調整痕しか見られない。無文である。127は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部はやや丸く広がる。調整痕しか見られない。無文である。128は大形土器の尖底の底部破片である。先端部は尖り気味である。縁辺部は広がり気味で直線的になる。調整痕しか見られない。無文である。129は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部は直線的になる。その上位に左斜め縦方向の条痕が見られる。130は大形土器の尖底の底部破片である。先端部はやや尖り縁辺部はやや丸くなる。調整痕しか見られない。無文である。131は大形土器の尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部は直線的になる。調整痕しか見られない。無文である。132は大形土器の尖底の底部破片である。先端部は細く丸みがあり縁辺部は丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。133は尖底の底部破片である。先端部は丸みがあり縁辺部はやや直線的である。その上位に左斜め縦方向の条痕文等が見られる。134は尖底の底部破片である。先端部はやや尖り気味で縁辺部はやや丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。135は尖底の底部破片である。先端部は一部欠損しているものの縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。136は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。137は尖底の底部破片である。先端部はやや乳頭状に突き出て縁辺部は直線的である。調整痕しか見られない。無文である。138は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は若干丸みがある。調整痕しか見られない。無文である。139は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は直線的になる。調整痕しか見られない。無文である。140は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は直線的になる。調整痕しか見られない。無文である。141は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は直線的になる。調整痕しか見られない。無文である。142は尖底の底部破片である。先端部は大きく丸くなりあまり広がらないで縁辺部が立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。143は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部はやや広がり気味に直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。144は尖底の底部破片である。先端部は小さく平らで縁辺部は広がり気味になる。調整痕しか見られない。無文である。145は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部はやや直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。146は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部はやや広がり気味で直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。147は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は

直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。148は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。149は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は幾分外反気味に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。150は尖底の底部破片である。先端部はやや大きく平らで縁辺部はやや外反気味に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。151は尖底の底部破片である。先端部はやや大きく丸く縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。152は尖底の底部破片である。先端部はやや細く丸くなり細長く直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。153は尖底の底部破片である。先端部は丸くなり細長く直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。154は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。155は尖底の底部破片である。先端部は平らで縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。156は尖底の底部破片である。先端部はやや小さく平らで縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。157は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。158は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。159は尖底の底部破片である。先端部は丸く縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。160は尖底の底部破片である。先端部はやや平らで縁辺部は細長く立ち上がる。底面部分に不明な圧痕が残されている。調整痕しか見られない。無文である。161は尖底の底部破片である。先端部はやや平らで縁辺部はやや外反気味に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。162は尖底の底部破片である。先端部は小さく平らでやや外反気味に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。163は大形土器の尖底の底部破片である。先端部は小さく平らで縁辺部は直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。164は大形土器の尖底の底部破片である。先端部は丸くやや細長く直線的に立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。

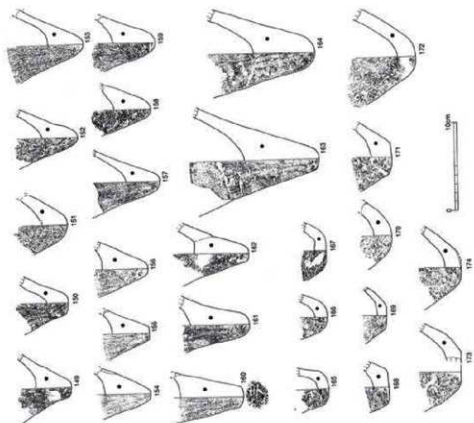
165～174は該期には珍しい平底もしくは丸底の形状の底部破片である。165はやや丸底で立ち上がりは急である。調整痕しか見られない。無文である。166は丸底で立ち上がりは急である。調整痕しか見られない。無文である。167は平底で立ち上がりはやや緩やかである。調整痕しか見られない。無文である。168は平底でやや厚みがある。立ち上がりはやや緩やかである。調整痕しか見られない。無文である。169は平底で立ち上がりはやや緩やかである。調整痕しか見られない。無文である。170はやや丸底気味の平底である。立ち上がりも緩やかである。厚みがある。調整痕しか見られない。無文である。171は平底で厚みがある。立ち上がりはやや緩やかである。調整痕しか見られない。無文である。172はやや丸底気味の平底である。立ち上がりはやや急である。調整痕しか見られない。無文である。173は平底と思われるがかなり欠損している。立ち上がりはやや緩やかに立ち上がると思われる。調整痕しか見られない。無文である。174は丸底気味の平底である。立ち上がりは緩やかに立ち上がる。調整痕しか見られない。無文である。

第6類 子母口式土器（第92上～94下図1～150、図版40上・41）

1は口縁部の接合破片である。口唇部は円頭である。口唇部外面には円形の刺突文が施文されている。口縁部上半には押し引き沈線により梯子状に鋸歯文が施文されている。中程には横方向に2段に列点状の刺突文を施文している。その下半では横方向・斜め方向の条痕文が施文されている。2は口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭気味である。口唇部外面は刻目文が見られる。口縁部上位には縦方向の繪状



子母口式土器 (1)



底部 (5) (条痕文系)

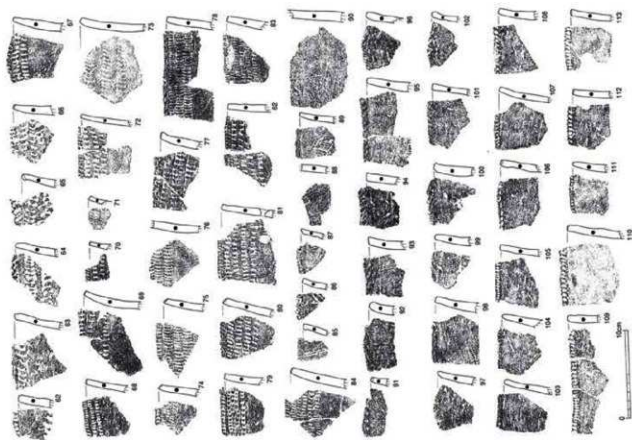
体圧痕文が充填されている。その下位では無文になる。3は口縁部の接合破片である。口唇部は外反しやや円頭気味である。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部上位には縦方向の絡状体圧痕文が充填されている。その下位では無文になる。4は口縁部の接合破片である。口唇部は外反気味で角頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部上位には縦方向の絡状体圧痕文が、その下位には縦横に条線を格子目状に施文している。5は口縁部～底部付近まで残存しているものである。深鉢形土器である。口唇部はやや外反気味で円頭になる。口縁部上位には縦方向の絡状体圧痕文が、その下位は無文である。6は口縁部の接合破片である。口唇部は外反し角頭になる。口縁部に沿って小孔が廻る。全体は無文である。7は口縁部～胴部にかけて残存しているものである。小波状口縁になる。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。無文である。8は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。横～斜め横方向の条線文が施文されている。

9は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部上面に刻目文が施文されている。口縁部には縦方向に絡状体圧痕文が施文されている。10は口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口唇部上面に刺突文が施文されている。口縁部には上位に絡状体圧痕文が見られ下位は無文になる。11は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭気味である。口唇部上面に刺突文が見られる。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されている。その下位は無文になると思われる。12は小形土器の口縁部破片で非常に薄手のものである。口唇部は円頭になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。13は口縁部破片である。口唇部はやや外側に傾斜した角頭気味になる。口唇部上面～口縁部にかけて絡状体圧痕文が施文されている。

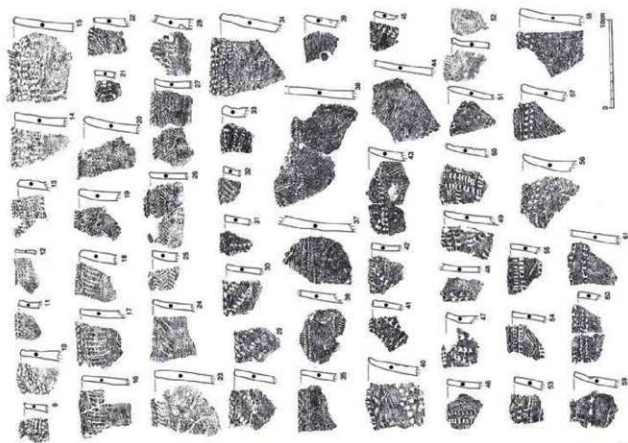
14・15はやや大形土器の口縁部破片である。いずれも口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口唇部上面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、その下位は無文となる。

16・17は口縁部破片である。いずれも口唇部は角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、その下位は無文となる。

18は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部上面には刻目文が見られる。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文となる。19は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面に刻目文が施文されている。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文となる。20はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭になる。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文となる。21は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文となる。22は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部上位には斜位に絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文である。23はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部上面には刺突文が見られる。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文である。24は口縁部破片である。やや小波状口縁になるとと思われる。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部上位は条線文が施文されており、下位は横方向の条線文が施文されている。25は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。26は小形土器の口縁部破片である。やや小波状口縁になるとと思われる。口唇部はやや角頭状になる。口縁部上位は絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文である。27は小形土器の



子母口式土器 (3)



子母口式土器 (2)

口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には斜位の刻目文が施文されている。口唇部上位は絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文になるとと思われる。28は胴部破片である。上位に絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文になる。

29は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。器表の内外面に斜め方向の刺突文が施文されている。30は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部上面に破線状の刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向の刺突文が施文されている。31は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部には縦方向の刺突文が施文されている。32は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部～口縁部にかけて斜位に絡状体圧痕文が施文されている。33は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚し円頭状になる。口縁部には斜位に絡状体圧痕文が施文されている。34は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には破線状の刺突文が2列に並ぶ。口縁部上位は絡状体圧痕文が施文されており、下位では無文になる。35は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭状である。口唇部上面には絡状体圧痕文が施文されている。口縁部は無文である。

36は胴部破片である。横方向に列点状の刺突文で施文している。37・38は胴部の大形破片である。いずれも横方向に3段の列点状の刺突文で施文している。その下位は無文である。

39は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向の沈線文が施文されている。左側に円弧状の突起が見られる。40は口縁部破片である。やや小波状口縁となる。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部上位は無文になる。その下位では円形の刺突文がやや不規則に施文されている。41は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部には斜め方向の角押し状の刺突による連続的な施文が見られる。42は小形土器の口縁部破片である。口唇部上面に刺突文が見られないこと以外に41に似通った土器である。43はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し細くなる円頭である。口縁部には横方向に角押し状の刺突による連続的な施文が見られる。44は胴部破片である。その上位に絡状体圧痕文が見られる。殆ど無文になる。45は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部は斜め方向の絡状体圧痕文が施文されている。46は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部には縦方向に角押し状の刺突による連続的な施文が見られる。47は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口唇部上面は角押し状の刺突文が施文されている。口縁部には縦方向に角押し状の刺突文が施文されている。48は口縁部下半の破片である。縦方向の角押し状の刺突文が施文されている。49は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭状になる。口唇部上面には角押し状の刺突文が施文されている。口縁部上位には横方向に2列の刺突文で下位には斜め方向の刺突文で施文されている。50は口縁部下半の破片である。縦方向と横方向の角押し状の刺突文を組み合わせで施文している。51は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。上位は無文で下位に斜め方向の破線状の刺突文が見られる。52は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口唇部上面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部は無文になる。表面には条線が残されている。53は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部上面には刺突文が施文されている。口縁部は横方向に角押し状の刺突文が施文されている。

54・55は小形土器の口縁部破片である。いずれも口縁部は角頭状になる。口縁部上位には横方向に2段

の角押し状の刺突文が施文されている。下位には押し引き沈線による鋸歯文が施文されている。一部その下に横方向の角押し状の刺突文が施文されている。56～58はやや大形土器の口縁部破片である。いずれも口唇部は角頭状である。56はやや外反気味である。口縁部には横方向に2段の角押し状の刺突文が施文されている。

59は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。中程に横方向に角押し状の刺突文が施文されている以外は無文である。60は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面に角押し状の刺突文が施文されている。口縁部には横方向に角押し状の2段の刺突文が施文されている。61は口縁部下半の破片である。横方向にやや間隔をあけた2段の角押し状の刺突文が見られる。

62は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部下位には刺突文の一部が見られる。63は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には横方向の角押し状の刺突文が施文されている。その下位にかけては無文となる。64は口縁部破片である。口唇部はやや細くなる円頭状である。口唇部上面には斜位の刺突文が施文されている。口縁部には縦方向に絡状体圧痕文が施文されている。65は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部上面には斜位の刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。66は口縁部破片である。口唇部はやや外りに細くなり角頭状である。口唇部上面には角押し状の刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。67は口縁部破片である。口唇部は細くなり角頭状である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部上位には縦方向に絡状体圧痕文が施文されている。68はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面～口縁部上位にかけて絡状体圧痕文で施文されている。以下は無文になる。69はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口唇部上面～口縁部中程にかけて絡状体圧痕文で施文されている。以下は無文になる。70は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面にはやや斜位の刻目文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。71は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口縁部には横方向の絡状体圧痕文が見られる。72は薄手の土器の口縁部～胴部にかけての破片と思われる。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されており、下位にかけては無文になる。73はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部中程から下位にかけて絡状体圧痕文が施文されている。

74は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反気味で角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部上位にはやや斜め方向の絡状体圧痕文が施文されている。下位にかけては無文になる。75は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反気味で角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。

76は胴部破片である。上半には縦方向の絡状体圧痕文が施文されており、下位は無文になる。77は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。78は口縁部破片である。口唇部は角頭になる。口縁部上半には縦方向に密な絡状体圧痕文が施文されている。下位は無文である。79は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭である。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部中程にかけては縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。

80は口縁部破片である。口唇部はやや外斜し角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。81は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。口縁部下部に焼成後の補修孔が残されている。82は口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部にはやや粗い縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。83は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面～口縁部にかけて絡状体圧痕文が施文されている。84はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で丸みのある角頭である。口唇部上面～口縁部中程にかけては縦方向の絡状体圧痕文が施文されており、以下は無文になる。85は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭気味である。口縁部には斜め方向の絡状体圧痕文が施文されている。86は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状である。口縁部には一部斜め方向に沈線文が見られる。87は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には斜め方向の条線が施文されている。88は小形土器の胴部破片である。斜め方向の条線が施文されている。89は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部には斜め方向の絡状体圧痕文が施文されている。90は大形土器の胴部破片である。斜め横方向に絡状体圧痕文が見られる。

91は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には斜め方向の絡状体圧痕文が施文されている。92は口縁部破片である。口唇部は外反し円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文である。93は口縁部破片である。口唇部は外反しやや角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部はやや斜め縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。94は口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には条線が見られる。95は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には横～斜め方向の条線文が施文されている。96は口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には斜め方向の絡状体圧痕文が施文されている。

97は口縁部破片である。小波状口縁のものと思われる。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。98は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は無文と思われる。99は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文と思われる。100は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面は圧痕文が施文されている。口縁部は無文になるとと思われる。101は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文である。102は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が見られる。103はやや薄手の土器の口縁部破片である。口唇部は円頭になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には斜め方向の条線のような文線が見られる。104はやや薄手の土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭気味になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は斜め方向の条線文が見られる。105はやや薄手の土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は斜め方向の条線文が見られる。106は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部下位の一部に圧痕文があるが上位は無文である。107は薄手の

土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部下位の一部に圧痕文があるが上位は無文である。

108は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文になる。109は薄手の土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文になる。110は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文になる。111は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文になる。

112・113はいずれも口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文になる。

114は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は横方向の条線が見られる。115は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部の一部には縦方向の細沈線が施文されている。116は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反気味で円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。117は口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には斜め～横方向の条痕文が施文されている。118はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部には斜め方向の条線が施文されている。119は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部には横方向に絡状体圧痕文が見られる。

120は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部は無文である。121は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。122は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面～口縁部にかけて絡状体圧痕文で施文されている。

123・124は口縁部破片である。同一個体の破片と思われる。口唇部はやや丸みのある尖頭状になる。口唇部上面には斜位の沈線での刻目文が施文されている。口縁部には横～斜め方向に条痕文が施文されている。

125は口縁部の大形破片である。口唇部は細くなり外反気味で円頭状になる。口唇部上面には細沈線による刻目文が施文されている。口縁部は無文である。126は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部は無文になる。127は口縁部破片である。口唇部は外反気味で円頭状になる。口縁部には横方向の細沈線が施文されている。128は大形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口縁部には斜め方向の条線が施文されている。129は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は無文になる。130は口縁部破片である。口唇部は外反気味でやや円頭状になる。口唇部上面～口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されている。131は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面～口縁部上位には絡状体圧痕文が施文されている。132は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭状になる。口唇部上面～口縁部にかけては絡状体圧痕文が施文されている。133は口縁部破片である。口唇部は外反気味で尖頭状になる。縦方向の条線が見られる。134はやや大形土器の口縁部破片である。口

唇部は外反し角頭状になる。口縁部は横方向の条線が見られる。

135はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が見られる。口縁部は無文である。136は口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は斜め方向の条線が施文されている。137は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で細くなり角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。138は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文である。139は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部は条線が見られる。140は口縁部の大形破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が見られる。口縁部は無文になると思われる。141は薄手の土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文である。142は口縁部破片である。口唇部は肥厚気味で角頭状になる。全体に条線が見られる。143は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文である。144は口縁部破片である。口唇部は外反気味で尖頭状になる。口縁部に焼成後の補修孔が見られる。全体は無文である。145は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反気味で尖頭状になる。口縁部は無文である。146は小形土器の口縁部破片である。口唇部は細くなりやや尖頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部は無文である。147は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭になる。口縁部は無文である。148は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり円頭状である。口縁部は無文である。149は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭になる。口縁部は無文である。150は胴部のやや大形破片である。斜め方向の条線が施文されている。

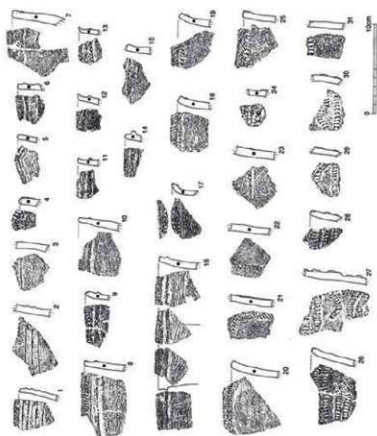
(5) 第V群 条痕文系土器

第1類 野島式土器

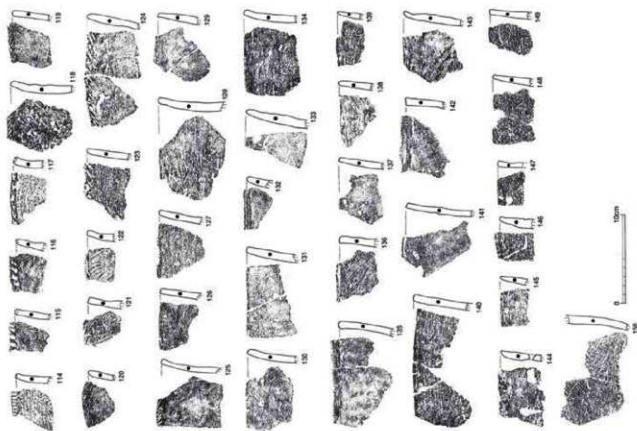
a種 微隆起線文を主体とするもの(第94図1~31, 図版41上)

1~3は口縁部破片もしくは付近の破片である。胎土に繊維を含むものである。いずれも横方向に微隆起線文がある。3はやや下位にあたるもので条線も見られる。

4は小形土器の口縁部破片である。小波状口縁になるものである。口唇部に刻目文が施文されている。口縁部は無文である。5は小形土器の口縁部破片である。小波状口縁になるものである。口唇部は円頭状になる。口唇部外面~口縁部にかけて沈線文で区画されている。6は口縁部破片である。口唇部は角頭状である。口縁部は横方向に微隆起線文がある。7はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある角頭状になる。口縁部は縦方向の条線が施文されている。8は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭状である。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部には横方向の微隆起線文が見られる。下位には条線が施文されている。9は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部には横方向の微隆起線文が見られる。10は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には横方向に沈線文が施文されている。口縁部には微隆起線文が施文されており、以下は無文である。11・12は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外側に肥厚し角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には横方向の微隆起線文が見られる。13は小形土器の口縁部破片である。口唇部は屈曲し細くなる。口縁部には横方向に微隆起線文が見られる。14は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部に沿って隆帯が見られる。



野島式土器 (条痕文) 1



子母口式土器 (4)

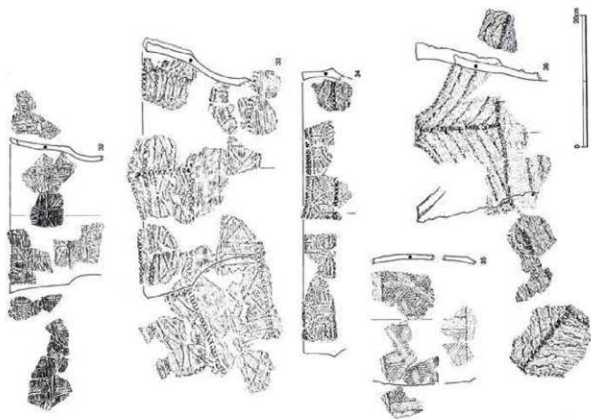
15は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文が見られる。16は口縁部破片で接合しないが横方向に同一になる模様構成を持つ破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部上位に横方向に隆起線文を持ちその下に横～斜め方向の条痕文が施文されている。17は小形土器の口縁部破片である。口唇部は大きく外反し尖頭状になる。口唇部内側に圧痕文が施文されている。口縁部には条痕文が見られる。18は口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口唇部上面に刻目文が施文されている。口縁部上部には横方向に微隆起線文が施文されている。19は口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口唇部上面に刻目文が施文されている。口縁部上部には横方向に微隆起線文が施文されている。20は口縁部破片である。口唇部は外反しやや丸みのある角頭状になる。21は口縁部下半の破片である。逆「L」字状に微隆起線文を施文し、それに沿って刻目文が施文されている。22は胴部破片である。縦方向に微隆起線と刺突文が平行して施文されている。23は胴部破片である。横方向に微隆起線文が施文されている。24は小形土器の胴部破片である。下方に微隆起線文が一部見られる。上位には刺突文が施文されている。25は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口唇部外面は刺突文が施文されている。口縁部は無文になる。26は口縁部破片である。小波状口縁になる。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面に沿って刺突文が施文されている。口縁部には横方向の刺突文と沈線文を組み合わせている。27は口縁部下半の破片である。上位には横方向の沈線と刺突文を組み合わせ、下位では弧状の沈線と囲むように刺突文を配置している。28は口縁部破片である。小波状口縁になる。口唇部は角頭状になる。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部には横方向に沈線と刺突文を組み合わせて施文されている。

29・30はいずれも小形土器の口縁部下半の破片である。上位は弧状に沈線と刺突文で施文されている。下位は横方向に沈線と刺突文で施文されている。31は胴部の小破片である。その上位には横方向の刺突文が施文されている。それ以外は無文である。

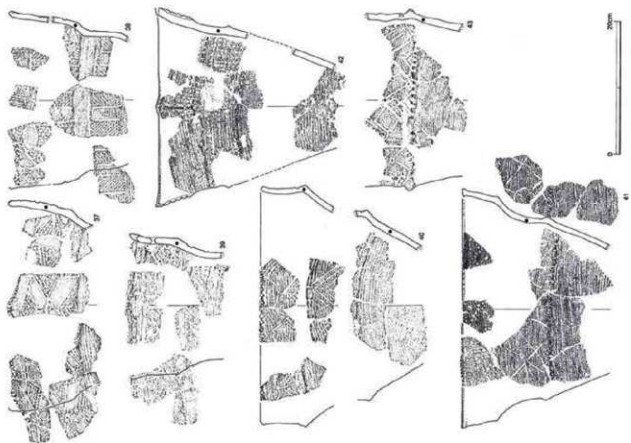
第2類 彌ヶ島台式土器(第95～99下図32～281, 図版42～44)

32は深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての接合破片である。やや小波状口縁気味になるもので胴部は「く」の字に屈曲する段がある。口唇部はやや肥厚し角頭状になる。口縁部には円形刺突文を中心に沈線で区画した内側に斜方向の沈線を充填して幾何学文を施文している。33は深鉢形土器の口縁部～胴部にかけて接合復元されたものである。波状口縁になるもので胴部の上下に「く」の字に屈曲する段がある。口唇部外面と口縁部・胴部の縦横に円形の刺突文による隆帯で区画された内側に沈線と刺突文で幾何学的な文様が充填されている。34は大形土器の口縁部の接合破片である。口唇部は肥厚し角頭状になる。口縁部下部が「く」の字に屈曲する。口唇部外面に沿って刻目文が施文されている。口縁部には円形刺突文と円弧状や斜沈線で区画された内側に条痕文を充填している。下部は横方向の刺突文を伴う隆帯で区画されている。胴部に近い下部では円形刺突文が施文されている。35は胴部の接合破片である。斜沈線で区画されて中に沈線を充填して幾何学文を施文している。36は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけて接合されたものである。波状口縁で口唇部は分厚くなる。円形刺突文と微隆起線によって三角形に区画されている。37は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての接合破片である。口縁部下部で「く」の字に屈曲する。口縁部は小波状口縁になるもので口唇部は円頭状である。口唇部外面と胴部上位に沿って円形の刺突文が施文されている。口縁部には斜沈線で区画された幾何学的な文様の中に条痕文を充填している。胴部以下は横方向の条痕文が施文されている。

38は深鉢形の土器で口縁部～胴部下半にかけての破片である。口唇部はやや角頭状になる。胴部上位で



磯ヶ島台式土器 (条状文) (1)



磯ヶ島台式土器 (条状文) (2)

内側に大きく屈曲する。口唇部外面に沿って円形の刺突文が施文されている。口縁部では斜め方向の沈線と縦方向の沈線で区画された中に条痕文を充填している。胴部上半は縦方向の沈線で区画された中に斜行の条痕文が施文されている。胴部下半では横方向の沈線文が多段に施文されている。

39は深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇部は小波状口縁になる。口縁部下部で外側に「く」の字に屈曲する。口唇部は尖頭状になる。口唇部外側には押し引き沈線による施文が見られる。口縁部～胴部にかけては横方向の条痕文を地文にして沈線で細かく幾何学的な区画を描いている。所々に円形の刺突文を施している。

40は口縁部～胴部上半と胴部下半～底部にかけての接合した深鉢形土器の破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部下半と胴部下半で2か所「く」の字に屈曲する。口唇部上面に沿って円形の刺突文が施文されている。口縁部～胴部にかけては横方向の条痕文を地文にして斜行沈線で幾何学的に文様を施文している。胴部～底部にかけては横方向の条痕文が施文されている。

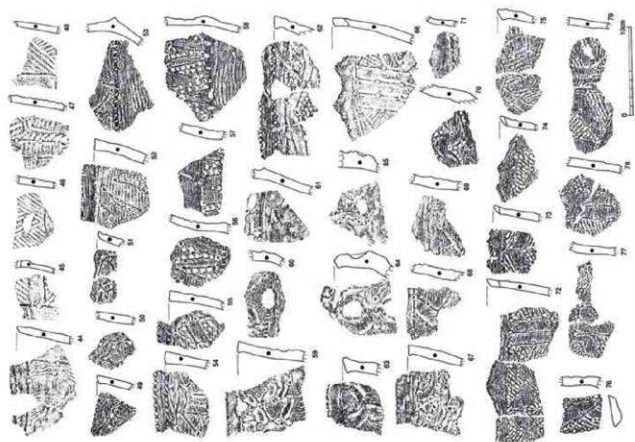
41は口縁部～底部にかけての接合した深鉢形土器の破片である。口唇部はやや肥厚し角頭状になる。口縁部下半と胴部下半で2か所「く」の字に屈曲する。口唇部上面に沿って円形の刺突文が施文されている。口縁部～胴部にかけては横方向の条痕文を地文にして斜行沈線で粗い格子目状の区画を描いている。胴部～底部にかけては横方向の条痕文が施文されている。

42は口縁部～底部にかけて接合した深鉢形土器の破片である。やや小波状口縁になる。口唇部はやや肥厚し角頭状になる。胴部で「く」の字に屈曲する。口唇部上面に沿って円形の刺突文が施文されている。口縁部～胴部にかけては横方向の条痕文を地文にして縦方向の沈線で粗い格子目状の区画を描いている。胴部～底部にかけては横方向の条痕文が施文されている。

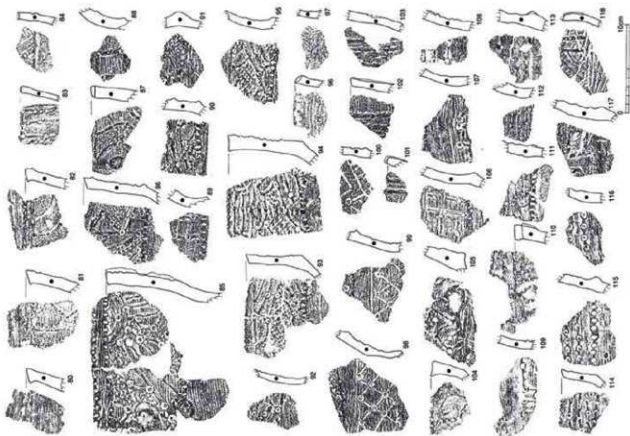
43は口縁部下半～胴部にかけての大形破片である。胴部で外に向かって「く」の字に屈曲する。口縁部～胴部にかけては横方向の条痕文を地文にして斜行沈線で粗い格子目状の区画を描いている。胴部～底部にかけては横方向の条痕文が施文されている。胴部中程は横方向に隆起線と刺突文で施文されている。

44は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で尖頭状になる。横方向の条痕文を地文にして口縁部上部に横方向の微隆起線が施文されており下部には縦方向に波状沈線と条痕文が施文されている。45は口縁部下半の破片である。微隆起線と円形刺突文で縦横に区画しその中に無文帯を夹んで上下に斜行沈線を充填している。46は胴部破片である。左右の斜行沈線により幾何学文様を描きだしている。47は胴部破片である。縦方向の沈線で区画されたその中に刺突文を密に充填している。48は胴部破片である。左右の斜行沈線により幾何学文様を描いている。左側は無文帯がある。49は口縁部破片である。やや小波状口縁気味である。口唇部はやや内削し角頭気味である。口縁部には円形の刺突文と条痕文が見られる。50は口縁部破片である。51は口縁部破片である。口唇部はやや薄くなり外傾斜気味である。口縁部に沿って沈線と条痕文が見られる。

52は大形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面～口縁部には横方向の条痕文が施文されている。口縁部上位に円形の刺突文が施文されている。53は口縁部下半の破片である。中程で「く」の字状に屈曲する。隆起線と刺突文で横位に区画し、上は両側を条痕文と沈線で施文し、中に三角形に無文帯を配置している。下には横方向の条痕文が充填されている。54は口縁部破片である。口唇部は肥厚気味で角頭状になる。口唇部内外上面に沿って刺突文が施文されている。口縁部には縦方向の沈線がやや粗く施文されている。55は口縁部破片である。口唇部は角頭状である。口唇部内外上面に沿って刺突



瀬ノ島台式土器（条状文）(3)



瀬ノ島台式土器（条状文）(4)

文が施文されている。口縁部には斜位の沈線と円形の刺突文を組み合わせて施文されている。56は胴部破片である。横方向の条痕文を地文にして縦方向の刺突文がやや粗く施文されている。57は胴部破片である。上位は横方向の条痕文が施文されている。その中程に間隔をあけて円形の刺突文を配置している。さらのその下位には横方向の条痕文を地文にして縦方向の刺突文で区画されている。

58は胴部の大形破片である。その中程でやや『く』の字に区画されている。さらにその中程に横位に微隆起線文を施し、やや間をあけて刺突文を配置している。下位には横方向の条痕文が施文されている。上位には横方向の条痕文を地文にして斜位の沈線と円形の刺突文を組み合わせたものが施文されている。

59は大形土器の口縁部破片である。口唇部は肥厚気味で角頭状になる。口唇部上面は指頭によるナデが見られる。口縁部は縦方向の条痕文を地文にして斜め横方向の沈線による楕円形の文様が施文されている。60は胴部の小破片である。縦方向とやや弧状に描かれた沈線で施文されている。61は胴部上半の破片と思われる。その上位には横方向の条痕文が地文として施文されている。またその中程には横方向の沈線があり、さらにその下方に斜位の条痕文が地文として施文されている。そしてその中に刺突文が配置されている。

62は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚し角頭状になる。口唇部上面には横方向の条痕文と圧痕文が施文されている。口縁部にかけても横方向の条痕文と圧痕文も交互に配置し、その下方では円形の刺突文を起点にして波状の沈線で区画している。

63は口縁部破片である。口唇部は肥厚し角頭状になる。口唇部上面には内側に沿って沈線が廻る。口縁部には円弧状の沈線が施文されており、下位では縦方向の条痕文が施文されている。64は口縁部破片である。口唇部はやや内曲気味で角頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部中程に大きく円形にくぼみ部を作りその周辺に円弧状に沈線を配置している。外側に放射状の条痕文が施文されている。65は口縁部下半の破片である。その中程に円形のくぼみ部を作りその周辺には絡状体圧痕文が施文されている。66は口縁部の大形破片である。やや小波状口縁になる。口唇部上面に沿って刺突文が見られる。口縁部上位に横方向の沈線で施文し、それに直行するような複数の刺突文が施文された沈線で区画されている。さらにその中を条痕文で施文されている。あるいは無文の部分もある。67は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。68は口縁部下半の破片である。横方向の沈線と斜め方向の沈線で区画されている。69は胴部上半の破片である。横方向の沈線と斜め方向の沈線で区画されている。70は口縁部下半の破片である。円形の刺突文と押し引き沈線が施文されている。71は口縁部下半の破片である。横方向の沈線が施文されている。

72は口縁部の大形破片である。口唇部は波状口縁である。口縁部には鋸歯状に絡状体圧痕文を施文し無文帯を間に挟む。縦方向に円形の刺突文も見られる。73は口縁部下半の破片である。72と同じような文様構成になる。74は口縁部の小破片である。小波状口縁である。口唇部外面に沿って圧痕文が見られる。口縁部には絡状体圧痕文が見られる。

75は口縁部破片である。口唇部はやや内削気味で角頭状になる。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。76は口縁部下半の破片である。斜め方向に沈線と刺突文による区画があり左側に斜位に絡状体圧痕文が施文されている。右側は無文である。77は胴部破片である。所々に円形の刺突文が施文されている。斜位に絡状体圧痕文が施文されている。78は胴部破片である。絡状体圧痕文が施文されている。79は胴部の接合破片である。沈線で幾何学文様に区画された中に絡状体圧痕文と無文帯を配置している。

80は口縁部破片である。口唇部は外傾斜気味で角頭状になる。口唇上面には圧痕文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。81は口縁部破片である。口唇部は外側が尖り気味で角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には幾何学的に沈線と刺突文を施文している。82は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部に沿って横方向に隆起線と刺突文が施文されている。その下位には斜め方向に絡状体圧痕文が施文されている。83は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部は縦方向に絡状体圧痕文が施文されている。84は小形土器の胴部破片である。中央に横方向の隆起線がある。その上下に斜位の絡状体圧痕文が施文されている。

85は大形土器の口縁部～胴部にかけての接合破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面の内外面には円形の刺突文が施文されている。口縁部は横方向の条痕文を地文にして放射状に円形の刺突文と沈線を配置するように文様を構成している。86はやや大形土器の口縁部破片で下部で「く」の字状に屈曲する。口唇部はやや外傾斜気味で角頭状になる。口縁部には斜位に絡状体圧痕文が施文されている。87は口縁部破片でやや厚みがある。口唇部は小波状口縁気味になる。口唇部はやや丸みがある角頭状になる。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。88は胴部破片である。やや外反気味になる。絡状体圧痕文が施文されている。89は胴部小破片である。縦方向に絡状体圧痕文が見られる。その下位に横方向の刺突文が施文されている。90は胴部上半の破片である。条痕文と刺突文による施文が見られる。91は胴部小破片である。その上位には絡状体圧痕文が施文されている。その下位には横方向の条痕文が施文されている。92は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部上位は刺突文と沈線による施文が行われている。その下位は横方向の条痕文が施文されている。93は口縁部の大形破片である。口縁部下位で「く」の字に屈曲する。口唇部は外側が高くなる角頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には円形の刺突文と絡状体圧痕文が施文されている。その下位には横方向の条痕文が施文されている。

94は大形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。下位で「く」の字に屈曲する。口唇部は角頭状になる。口唇部外面に細かい刺突文が施文されている。口唇部上位には沈線文による方形状に区画が見られる。地文に絡状体圧痕文が施文されている。95は口縁部下半の破片である。その上下に横方向の刺突文がありその中には絡状体圧痕文が施文されている。96は口縁部の小破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部上位に圧痕文が施文されている。その下位には横方向の条痕文が施文されている。97は小形土器の口縁部下半の破片である。絡状体圧痕文が施文されている。

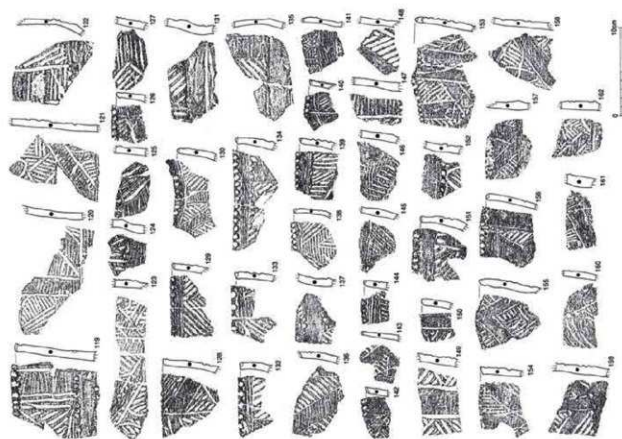
98・99は口縁部下半～胴部にかけての大形破片である。大きく外反している。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線で菱形に施文し、角に円形の刺突文が施文されている。100は口縁部下半の破片である。鋸歯状の沈線文が見られ、角に円形の刺突文が施文されている。101は口縁部の小破片である。小さく波状口縁になる。口唇部は円頭状になる。口縁部は縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。102は口縁部小破片である。右側に横方向の条痕文、左側に縦方向の絡状体圧痕文が見られる。103は胴部破片である。縦方向の絡状体圧痕文が施文されている。104は口縁部破片である。口唇部の内側がやや肥厚し尖り気味である。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。105は口縁部下半の破片である。口縁部には横方向の条痕文を地文にして絡状体圧痕文が施文されている。106は大形土器の口縁部下半の破片である。下半部分で「く」の字状に屈曲する。横方向の条痕文を地文にして縦方向に絡状体圧痕文が施文されてい

る。107は口縁部下半～胴部上半の破片である。大きく外反している。上位は横方向の条痕文が、下位には条痕文と円形の刺突文が施文されている。108は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。やや大きく外反している。横方向に刺突文が施文されている。

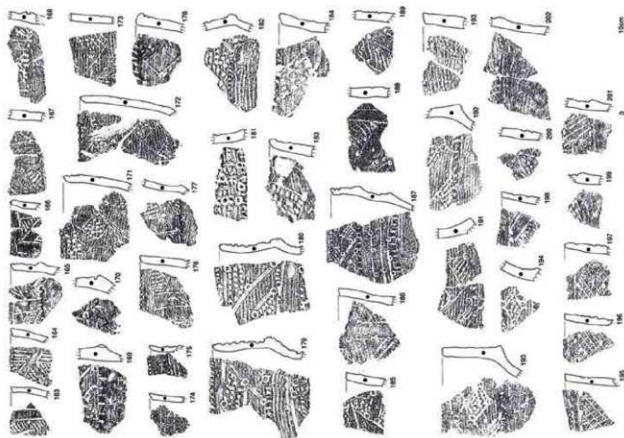
109は口縁部下半の破片である。やや外反している。横方向の条痕文を地文にして縦方向に沈線文を施文している。110は口縁部破片で把手が付く。把手部分には上面に丘状文が施文されている。口縁部には絡状体丘状文が施文されている。111は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして中程に横方向の隆起線と刺突文が施文されている。112は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして所々に刺突文が施文されている。113は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。口縁部下半に横方向に隆帯が見られる。その上位には波状の沈線が見られる。114は口縁部破片である。口唇部はやや外側に尖り気味である。口縁部下半で内側に『く』の字状に屈曲する。口縁部には横方向の条痕文を地文にして横方向に刺突文を配置している。115は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。胴部上半はやや肥厚する。横方向の条痕文を地文にして横方向に3段の円形の刺突文が見られる。116は胴部破片である。横方向の条痕文を地文にして横方向に円形の刺突文が施文されている。117は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。胴部上半でやや『く』の字に屈曲する。横方向に条痕文が見られる。118は胴部破片である。斜め～横方向の条痕文が施文されている。

119は口縁部の大形破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向細沈線を地文にして縦・斜め方向の沈線を施文し幾何学的な文様を構成している。さらに下位では横方向に刺突文が施文されている。120は胴部破片である。沈線で区画しその中に沈線を充填し幾何学文様を施文している。121は胴部大形破片である。120と似た文様構成である。122は胴部破片である。横方向の条痕文を地文に縦・斜め方向の沈線が施文されている。123は胴部の横長の破片である。縦方向の沈線と斜め方向の沈線を充填して幾何学文様を構成している。124は胴部破片である。横方向の条痕文を地文にしてその上位で縦に不規則な太沈線が施文されている。125は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線が施文されている。126は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部外面に刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向の条痕文が施文されている。127は胴部破片である。横方向と斜め方向の沈線が充填されている。128は口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある角頭である。縦方向の沈線で区画し、斜め方向の沈線を充填した部分と無文帯を交互に配置している。129は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には細かい刺突文が施文されている。さらに無文帯を挟んで下半には左右斜め方向の沈線を充填している。130は口縁部破片である。やや大きめの波状口縁である。口唇部は円頭状になる。口縁部上面には円頭状の刺突文が施文されている。口縁部には細沈線により幾何学的な文様が充填されている。131は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。口縁部下半はやや膨らみ気味に屈曲している。上位には斜め縦方向の太沈線が施文されている。下位には横方向の沈線文が施文されている。

132は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口唇部外面には円形の刺突文が施文されている。横方向の条痕文を地文にして斜め方向に太沈線による施文が見られる。133は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部外面には円形の刺突文が施文されている。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線による施文が見られる。134は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部外面には円形の刺突文が施文されている。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線による施文が見られる。



縄ノ島台式土器（条痕文）(5)



縄ノ島台式土器（条痕文）(6)

135は胴部のやや大形の破片である。横方向の条痕文を地文にして一部斜め方向に沈線文が施文されている。136は胴部破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線文を充填して幾何学的な文様を構成している。137は胴部破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線が一部施文されている。138は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部外面には円形の刺突文が施文されている。口縁部には沈線より幾何学文が施文されている。139は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文を地文にして縦・斜め方向の沈線が充填されている。140は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部下位には斜め方向の条痕文が施文されている。

141は小形土器の胴部破片である。横方向の条痕文を地文にして上位に絡状体圧痕文が施文されている。142は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向の条痕文が施文されている。143は小形土器の胴部破片である。斜め方向の貝殻腹縁文が充填されている。144は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向の貝殻腹縁文が施文されている。145は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の条痕文が施文されている。146は胴部破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向に沈線が施文されている。147は胴部破片である。横方向に条痕文が施文されている。縦方向の沈線で区画されている。148は胴部小破片である。斜め方向の太沈線が施文されている。

149は胴部破片である。縦方向に2本の太沈線で区画しその左右の区画内には斜め方向の太沈線を幾何学的に充填している。さらにその中央には横方向の条痕文が施文されている。150は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には縦方向の沈線が施文されている。151は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部中程に横方向の刺突文が施文されており、以下に斜め方向の条痕文が施文されている。152は口縁部下半の破片である。その中程に横方向の刺突文が施文されており、さらにその下位に斜め方向に沈線で区画された文様帯の中に条痕文が充填されている。153は口縁部のやや大形の破片である。口縁部はやや液状口縁になる。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には沈線による幾何学文様と無文帯が見られる。154は口縁部破片である。口唇部は外側がやや尖り気味である。口唇部外面には細かい刺突文が施文されている。口縁部は横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線で区画しさらに縦方向の沈線を充填し幾何学文様を構成している。

155は口縁部破片である。口唇部は尖頭状である。口縁部は斜め方向の沈線で区画しその文様帯の中を斜め方向の沈線を充填し幾何学文様を構成している。156は口縁部破片である。口唇部は円頭状である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向の沈線と斜め方向の沈線・縦方向の沈線で文様帯を区画している。その中程には斜め方向の沈線を充填して幾何学文様を構成している。157は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして沈線で幾何学的な施文が行われている。158は胴部破片である。斜め方向の沈線で区画し、さらにその文様帯に充填して幾何学的文様を構成している。159は胴部破片である。斜め方向の沈線が所々密に充填されている。160は胴部破片である。斜め方向に条痕文が施文されている。161は胴部小破片である。斜め方向と縦方向の沈線で区画しさらにその中を一部縦方向の沈線で充填している。162は胴部小破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線で文様帯

を区画しさらに充填が行われ幾何学文様を構成している。

163は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状である。口唇部から縦方向の沈線で区画し左側は右斜め方向の沈線を充填している。右側は無文帯である。164は口縁部破片である。口唇部はやや広がり気味の角頭状になる。口縁部には縦方向と斜め方向の条痕文が施文されている。165は口縁部破片である。口唇部はやや外傾斜気味で角頭状になる。口縁部は縦方向と斜め方向の沈線で施文されている。166は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部上面には細かい刺突文が施文されている。167は胴部破片である。斜め方向の絡状体圧痕文が施文されている。168は胴部破片である。その上位には縦方向の沈線文、さらにその下位に横方向の条痕文が施文されている。169は胴部破片である。中程に横方向の隆帯がありその上面には刺突文が並ぶ。さらにその上下に横方向の条痕文が施文されている。170は口縁部下半の破片である。口縁部下半に横方向の隆起線とその上面に刺突文が施文されている。さらにその上下には横方向の条痕文が施文されている。171は口縁部の大形破片である。口唇部はやや外に向かって尖頭状になる。横方向に条痕文を地文にしてその中程に斜め方向の条線と刺突文が施文されている。172は口縁部～胴部上半にかけての破片である。171と似た文様構成になる。173は口縁部下半の破片である。これも171と似た文様構成になる。174は小形土器の口縁部破片である。口縁部はやや外側に尖る。口縁部には横方向の沈線と刺突文による施文が見られる。175は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口唇部上面に刺突文が施文されている。口縁部には横方向の沈線と刺突文による施文が見られる。176は口縁部の破片である。口唇部は外よりに傾斜している。口唇部外面に細かい刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文を地文にして縦方向に条痕文を施文し幾何学文を描いている。177は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。胴部上部で「く」の字状に屈曲し外反している。その部分の上下には横斜め方向に条痕文が施文されている。所々に縦方向の沈線文も施文されている。178は口縁部破片である。口唇部は肥厚気味である。口唇部外面は隆帯気味で刺突文が見られる。口縁部は横方向の条痕文が施文されている。179は大形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや外よりに尖頭状になる。口縁部下半で「く」の字状に屈曲する。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部～胴部にかけて横方向の条痕文を地文にして横方向に隆帯と刺突文で区画し、斜め方向の沈線と円形の刺突文を施文している。180は口縁部～胴部上半にかけての破片で179と似た文様構成である。181は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして円形の刺突文が施文されている。182は口縁部下半の破片である。「く」の字に屈曲した部分である。折れ部分が膨らみ隆帯となりその上面に三日月状の刺突文が施文されている。さらにその上下ともに横方向の条痕文が施文されており、その上位には刺突文が充填されている。183は口縁部破片である。口唇部はやや丸みがある。口縁部には斜め横方向の条痕文が施文されている。184は口縁部破片である。口唇部はやや厚みがある。口唇部外面には圧痕文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。

185は口縁部破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部上面に沿って刺突文が施文されている。口縁部には地文として絡状体圧痕文が施文されている。斜め方向の沈線と円形の刺突文も施文されている。186は口縁部破片である。小波状口縁になる。口唇部はやや内斜気味で角頭状になる。口唇部外面に沿って刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向の条痕文が施文されている。186は口縁部破片である。波状口縁になる。口唇部は角頭状である。口縁部には斜め方向の条痕文が施文されている。187は口縁部の大形破片である。2か所がやや「く」の字状に屈曲する。口唇部は内斜気味で角頭状である。その上位

は絡状体圧痕文、中程は横方向の沈線と刺突文、さらにその下位は斜め横方向の条痕文が施文されている。188は胴部破片である。縦方向に沈線で区画しその中に絡状体圧痕文を施文している。189は胴部破片である。横方向の条痕文が地文として施文されており、所々を縦方向の沈線で区画している。

190は大形土器の口縁部～胴部上半の破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部下半で「く」の字状に屈曲する。屈曲部分は横方向に隆帯がありその上面には刺突文が施文されている。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は横方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線で格子目文を施文している。胴部は横方向の条痕文が施文されている。191は大形土器の口縁部下半の破片である。190と似た文様構成である。192は口縁部下半～胴部上半の破片である。190と似た文様構成である。

193は口縁部破片である。口唇部はやや外側が高めの角頭である。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。194は口縁部下半の破片で全体に外反気味である。絡状体圧痕文が施文されており下部は横方向に沈線で区画されている。195は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部上位は横方向に沈線で区画されている。その下は格子目状の条線が施文されている。196は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。195と同じ文様構成になる。197は口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある尖頭状となる。口縁部上位は横方向に沈線で区画されている。その下は格子目状の条線が施文されている。198は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部には横・斜め方向の沈線で区画された中に刺突文を充填している。199は口縁部下半の破片である。上位は刺突文で、下位には横方向の条痕文が施文されている。200は口縁部下半の破片である。斜め方向の条痕文を地文にして斜め方向の沈線と刺突文を施文している。201は口縁部下半の破片である。その上位には斜め方向の条線を格子目状に施文し、下位には横方向の隆帯が施文されている。202は胴部の大形破片である。その上位には斜め方向の条線で格子目状に施文、中程には横方向の隆帯と刺突文が施文されている。その下位には横方向の条痕文が施文されている。

203は大形土器の口縁部の破片で把手部分である。把手部分の周辺は円形に押し引き沈線と絡状体圧痕文が施文されている。土器の内側部分の把手部分にも刺突文による施文部分が見られる。204は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で角頭状になる。口唇部上面には絡状体圧痕文による施文が見られる。口縁部は斜め方向の条痕文と刺突文による格子目状の施文が見られる。その下部には横方向の隆帯と刺突文による区画がある。

205は口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや肥厚気味で角頭状になる。口唇部上面に刺突文が施文されている。口唇部外面に沿っても刺突文が施文されている。口縁部には横方向に条痕文が施文され、以下には斜め方向と縦方向の条痕文と横方向の刺突文が施文されている。さらに中に条痕文を充填するように施文している。

206は口縁部の大形破片である。口唇部はやや外側が高い角頭である。横方向の条痕文を地文にして縦方向に絡状体圧痕文が施文されている。207は口縁部下半の破片である。斜め方向の条痕文と刺突文が施文されている。208は口縁部破片である。口唇部はやや外側が上がる角頭状になる。口唇部上面に沿って2条の沈線が施文されている。口縁部上位には横方向に刺突文が施文されている。中程がヒレ状に上がり弧状の沈線と刺突文による施文が行われている。209は口縁部下半の破片である。その上位は条痕文を地文にして縦・斜め方向に沈線が施文されている。下位には絡状体圧痕文が施文されている。210は口縁部破片である。やや小波状口縁気味になる。口唇部はやや肥厚気味に角頭になる。口唇部外面には細かい刺

突文が施文されている。口縁部は沈線文と刺突文で区画し施文されている。

211は口縁部下半の破片である。斜め方向に刺突文を充填している。212は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で角頭状になる。口唇部内外面に沿って刺突文が施文されている。口唇部直下に横方向の刺突文が施文されている。以下は横方向の条痕文を地文にして横方向と斜め方向に円形刺突文と沈線を組み合わせた施文が行われている。213は大形土器の胴部の大形破片である。その上位に「く」の字状の屈曲部分があり上面に沿って刺突文が施文されている。以下は横方向の条痕文が充填されている。

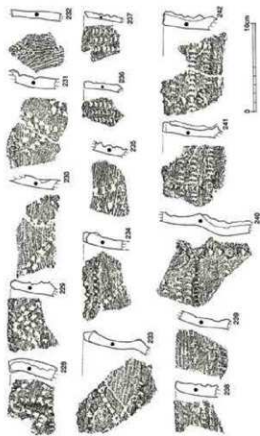
214は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。中央部分が「く」の字状に屈曲している。上位はやや横方向の条痕文が主体で密に施文されている。下位は縦方向と斜め方向の条痕文が粗く施文されている。215は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭状になる。口縁部には斜め横方向に沈線と刺突文を組み合わせた施文が行われている。216は口縁部下半の破片である。上位は横方向の条痕文を地文にして施文されている。中程に横方向にヒレ状の隆帯があり下方には縦方向の条痕文が施文されている。

217は小形土器の口縁部下半の破片である。左斜め方向の条痕文を地文にして右縦斜め方向の沈線を間隔をあけて施文している。218は小形土器の胴部である。比較的粗く沈線で格子目文が施文されている。219は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。中程でやや「く」の字状に屈曲する。上位には沈線で粗めの格子目文が施文されている。屈曲部はやや隆帯気味で刺突文が見られる。220は口縁部破片である。口唇部は内削ぎで尖頭状になる。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。221は口縁部破片である。口唇部の内削ぎで欠落している。口縁部には斜め方向の沈線で幾何学文が描かれている。222は口縁部破片である。口唇部は角頭になる。口縁部には横方向の条痕文を地文にして沈線で格子目文が描かれている。

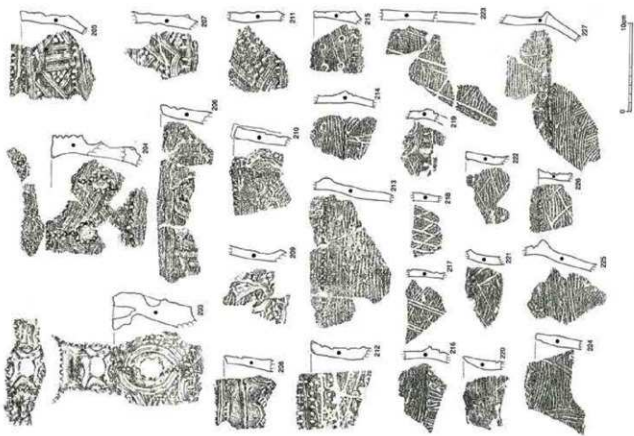
223は大形土器の胴部の接合破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向に間隔をあけた沈線が施文されている。224は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部上面には圧痕文が施文されている。口縁部には横方向に条痕文を施文後に縦方向にやや粗く条痕文を施している。225は大形土器の口縁部下半～胴部にかけての破片である。口縁部下半は「く」の字状に大きく屈曲している。横方向の条痕文を施文後にやや斜め方向からの条痕文を施文している。226は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外に膨らみ気味の角頭状になる。口唇部上面に粗めの刺突文が見られる。口縁部には横方向の条痕文を地文として格子目状に沈線が施文されている。227は大形土器の口縁部下半～胴部上半にかけての接合破片である。中程が「く」の字状に屈曲する。全体には横方向の条痕文が主体で施文されているが、下位ではやや斜め方向の条痕文も見られる。

228は口縁部破片である。口唇部は角頭である。縦方向に隆帯がありそれに沿って圧痕文が見られる。斜め方向にも施文されている。229は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部内外面に沿って刺突文が施文されている。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。230は胴部破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向に圧痕文が施文されている。231は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして斜め方向に圧痕文が施文されている。

232は胴部破片である。縦方向の条痕文を地文にして上位に円形の刺突文が施文されている。233は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや大きく膨らみ円頭状になる。口縁部下端で「く」の字状に屈曲する。上下に横方向の隆帯があり上面に刺突文が施文されている。横方向の条痕文を地文にして斜めに刺突文が施文されている。234は口縁部の破片である。やや小波状口縁気味である。口唇部上面には刺突文が



鶴ヶ高台式土器 (条状文) (8)



鶴ヶ高台式土器 (条状文) (7)

施文されている。口唇部直下には隆帯があり上面に刺突文が施文されている。横方向の条痕文が施文されている。235は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして点状に刺突文が施文されている。236は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部には刺突文が充填されている。237は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎで尖頭状になる。口縁部には密に刺突文が充填されている。238は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部には絡状体圧痕文が施文されており、下位に横方向の角押し状の刺突文が見られる。239は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にして刺突文が粗く施文されている。240は大形土器の胴部の破片である。中央部分に「く」の字状に屈曲した部分がありその部分に沿って横方向に隆帯があり上面に刺突文を伴う。それらと直交する隆帯にも上面に沿って刺突文が施文されている。上半部には刺突文が施文されている。241は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部には縦方向の隆帯があり区画内には刺突文が充填されている。242は口縁部破片である。口唇部は肥厚し角頭状になる。縦方向に隆帯がある。横方向の刺突文が充填されている。

243は口縁部破片である。大きい波状口縁である。下位に突帯があり周囲に条痕文が施文されている。244は口縁部の大形破片である。細かい波状口縁になる。口唇部は円頭状になる。口縁部中央に横方向の隆帯がある。その上下には横方向の条痕文が施文されている。245は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部内側の一部は欠落している。口縁部には絡状体圧痕文が施文されている。246は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部中程に突帯がありその下には横方向の条痕文が施文されている。267は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭状になる。横方向に隆帯があり並行して沈線が見られる。248は口縁部の小破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部上面には刻目文がある。口縁部には隆帯の一部が認められる。249は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部にやや斜め方向の隆帯がある。250は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状である。口縁部には縦方向の条痕文が施文されている。251は小形土器の口縁部破片である。やや波状口縁気味である。口唇部はやや細くなりながら角頭状になる。口唇部には刻目文がある。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。252は口縁部破片である。やや厚みのある口唇部で上面に刺突文が施文されている。口縁部に横方向の隆帯があり上面に刺突文が見られる。横方向の条痕文が施文されている。253は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや波状口縁気味である。下位に横方向の隆帯の一部が見られる。254は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口唇部外面には刺突文がありそれと並行して横方向の隆帯にも刺突文が伴う。255は小形土器の口縁部である。口唇部は尖頭状になる。口唇部上面に刺突文が見られる。口唇部直下には並行して隆帯がある。その下には横方向の条痕文が施文されている。256は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部直下には横方向に隆帯がある。その下には横方向の条痕文が施文されている。

257は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり円頭状である。口唇部外面と口唇部直下に横方向にある隆帯上面に斜位の刻目文が施文されている。以下には斜め方向の条痕文が施文されている。

258は大形土器の口縁部破片である。口唇部は内側が細く尖頭状になる。口唇部直下に横方向の隆帯があり、その下には縦方向の条痕文が施文されている。259は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。直下に横方向の隆帯があり横方向の条痕文が充填されている。隆帯の下位部分にも横方向の隆帯が充填されている。260は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。波状口縁になる。口唇部から縦方向の隆帯が中央部分にあり刺突文も見られる。261は口唇部が厚みのある口縁部破片である。口唇部上面より口縁

部の縦方向に刺突文が施文されている。

262は口縁部の大形破片である。やや波状口縁気味である。口唇部肥厚気味でやや丸みがある。口唇部上面には細かい貝殻紋が施文されている。口縁部は条痕文を地文にして上位に貝殻紋が施文されている。

263は大形土器の胴部破片である。上位には横方向の条痕文が、下位には斜め方向の条痕文が施文されている。264は口縁部の大形破片である。口唇部は外反気味で角頭状になる。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文で施文された文様帯の中に縦方向に2列の刺突文が区画する様に施文されている。265は口縁部破片である。口唇部はやや外側に尖る。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文された後にやや斜め縦方向に2列の刺突文で区画する様に施文されている。

266は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。その後やや斜め縦方向に2列の刺突文が区画する様に施文されている。267は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向の条痕文が施文されている。その後やや斜め縦方向に2列の刺突文で区画する様に施文されている。268は口縁部の小破片である。口唇部は大きく「く」の字状に屈曲している。口唇部上面に沿って沈線が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。

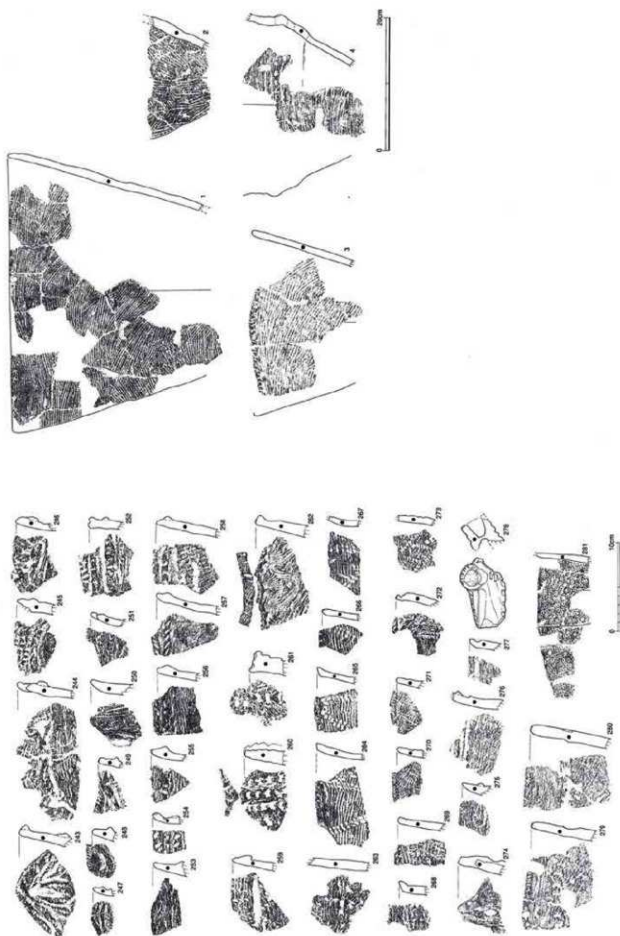
269は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部外面に刻目文が施文されている。口縁部には斜め方向の条痕文が施文されている。270は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部にはやや斜め方向の条痕文が施文されている。271は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部にはやや斜め縦方向の条痕文が施文されている。272は小形土器の口縁部破片である。口唇部直下に横方向の沈線文が施文されている。条痕文が縦横に施文されている。273は口縁部下半の破片である。横方向の条痕文が施文された後、やや斜め縦方向に刺突文で区画する様に施文されている。274は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。波状口縁である。口縁部には縦方向の条痕文が施文されている。275は口縁部の小破片である。口唇部はやや細くなり外反気味である。口縁部は横方向の条痕文を地文に一部隆帯のようなものが見られる。276は口縁部下半の破片である。その上位には横方向の2本の沈線が施文されており、さらにその下位には横方向の条痕文が施文されている。277は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部直下に横方向の沈線が施文されている。

278は口縁部破片で把手部分である。円筒形の把手で口唇部には刻目文が施文されている。口縁部には刺突による文様が見られる。279は大形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面に沿って刻目文が施文されている。口縁部には横方向～斜め方向の条痕文が施文されている。280は大形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面に沿って刻目文が施文されている。口縁部には横方向～斜め方向の条痕文が施文されている。281は口縁部の大形破片である。口唇部はやや細くなる。口縁部には円形の刺突文が充填されている。

第3類 茅山式土器

a種 条痕文(第99上・100下図1～40, 図版44上・45下)

1は深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけての接合破片である。胎土には繊維が含まれる。斜めに立ち



茅山式土器 (条状文) (1)

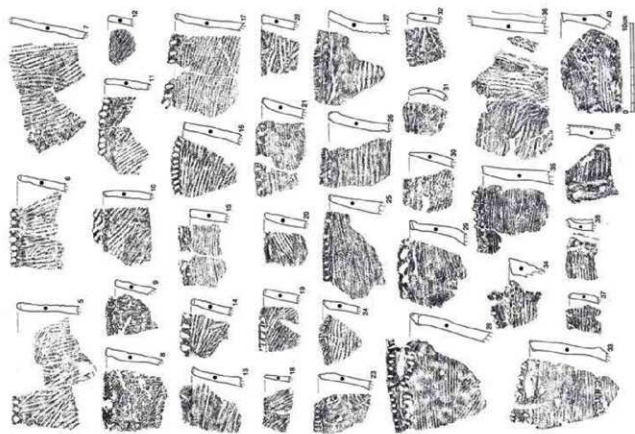
瀬ヶ島台式土器 (条状文) (9)

上がる器形で口唇部はやや尖頭状になる。口縁部に近い部分ではやや横方向に条痕文が施文されている。胴部以下は左右斜め方向の条痕文が施文されている。2は胴部破片である。胎土には繊維が含まれる。斜めに立ち上がる器形である。左右斜め方向と縦方向の条痕文が施文されている。3は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部は円頭状でやや肥厚気味である。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部には上位で横方向の条痕文が施文されており、下位に向かって徐々に斜め方向に条痕文が施文されている。4は大形の深鉢形土器の口縁部下半～胴部下半にかけての破片である。胴部の上半でやや「く」の字状に屈曲している器形である。胎土には繊維が含まれる。横方向の条痕文が密に施文されている。

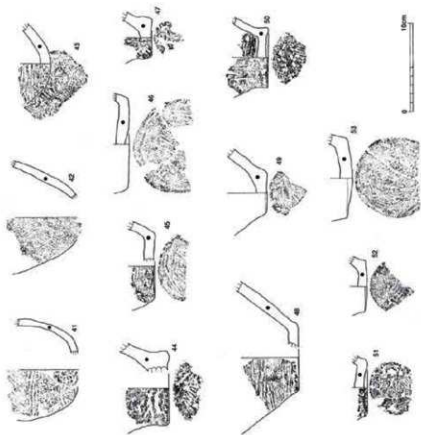
5・6は直立気味の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。いずれも口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には縦方向を主体とした条痕文が施文されている。7は胴部の大形破片である。胎土には繊維が含まれる。縦方向の密な条痕文が施文されている。8は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には縦方向に条線文が施文されている。9は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや丸みがある。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部には縦方向の条線文が施文されている。10は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には斜位の刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向の条痕文が密に施文されている。

11は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向の条痕文が密に施文されている。12は小形土器の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや角頭状になる。口縁部には斜め方向の条線文が施文されている。13は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。横方向に条痕文が施文されている。14は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部は棒状工具による刺突文が施文されている。口縁部には横方向と斜め方向の条痕文が施文されている。15は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部は角頭状になる。口縁部には横方向の条線文が施文されている。16は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部は角頭状である。棒状工具による刺突文が施文されている。口縁部にはやや無文帯があり斜め方向の条痕文が施文されている。17はやや大形土器の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや円頭状になる。口唇部上面には棒状工具による刺突文が施文されている。口縁部には上位に横方向の条痕文が施文されている。その下位には斜め横方向の条痕文が施文されている。

18は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭気味である。口縁部には斜め縦方向の条痕文が施文されている。19は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部外面には角押し状の刺突文が施文されている。口縁部には左斜め方向の条痕文が施文されている。20は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや緩やかな尖頭である。口唇部直下に横方向の刺突文が施文されている。口縁部には右斜め方向の条痕文が施文されている。21は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや細くなり角頭となる。口縁部上面にはやや粗い刺突文が施文されている。口縁部には横方向に細めの条痕文が施文されている。22は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや肥厚し角頭状である。口縁部には横方向の条痕文がやや粗く施文されている。23は口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部は尖頭状になる。口唇部上面に刻目文が施文されている。口縁部には横方向の条



茅山式土器 (条痕文) (2)



茅山式土器 (条痕文) (3) · 底部

痕文が施文されている。

24は口縁部破片である。やや波状口縁になる。口唇部はやや外側に尖頭状になる。口唇部上面に刻目文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。25はやや大形土器の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや細くなり角頭状である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部は横やや斜め方向の条痕文が施文されている。26は大形土器の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや外反気味で肥厚する。口唇部内外面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。27は大形土器の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部は外反気味で角頭状になる。口縁部上半は無文で下半には横方向の条痕文が施文されている。

28は大形土器の口縁部破片である。やや小波状口縁気味である。胎土には繊維が含まれる。口唇部上面と直下に横方向の刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。やや下方では斜め方向の条痕文が施文されている。29は口縁部破片である。口唇部は幾分影らみのある角頭状である。口唇部上面には大きい刺突文が連続施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。30は小形土器の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部は細くなり尖頭状である。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。31は小形土器の口縁部の破片である。全体に丸みのある器形である。口唇部は円頭状になる。口縁部には斜め方向の条痕文が見られる。32はやや小形の土器の口縁部破片である。厚みがあり口唇部は円頭状になる。横方向に粗い条痕文が施文されている。

33は大形土器の口縁部破片である。やや小波状口縁気味である。胎土には繊維が含まれる。口唇部内外上面に横方向の刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。34は大形土器の口唇部付近の破片である。33とほぼ似た文様構成である。やや厚みがある。35は大形土器の口縁部破片である。胎土には繊維が含まれる。口唇部はやや細くなりながら角頭状になる。口唇部内外面には細かい刺突文が並ぶ。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。36は胴部の大形破片である。縦方向に隆帯がありその付近は縦方向の条痕文が見られる。それ以外は縦方向の条痕文が施文されている。37は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には斜位の刻目文が見られる。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。38は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向の条痕文を地文にしている。縦方向の隆帯で区画されている。39は口縁部下半の破片である。胎土には繊維が含まれる。横方向の条痕文を地文にしている。縦方向の隆帯で区画されている。40は口縁部破片である。やや下端付近で内側に屈曲する。胎土に繊維が含まれる。口唇部は角頭状になる。口縁部には横方向の条痕文が施文されている。刺突文も一部見られる。

b種 条痕文・底部 (第100図上41～53)

41はやや丸みのある器形の浅鉢形土器の胴部～底部にかけての破片である。胎土には繊維が含まれる。縦方向の条線が施文されている。42は41よりやや直線的に立ち上がる丸底に近い形状の底部破片である。胎土には繊維が含まれる。縦方向の条線が施文されている。43は丸底の底部底面部の破片である。胎土には繊維が含まれる。底部には横方向の条痕文が施文されている。44は厚手の平底の底部底面の破片である。胎土には繊維が含まれる。底部と底面には条痕文が見られる。45は平底の底部底面の破片である。胎土には繊維が含まれる。底部と底面には条痕文が見られる。46はやや大きく広がった底部底面の破片である。胎土には繊維が含まれる。底面には条痕文が施文されている。47は小形土器の底部底面の破片である。胎土には繊維が含まれる。底部には条痕文が施文されている。48は大形でやや揃い鉢状に広がる平底の底部

底面破片である。胎土には繊維が含まれる。底部には横方向の条痕文が施文されている。49は厚みのある平底の底部底面の破片である。胎土には繊維が含まれる。底部にはほぼ無文で底面には圧痕文が見られる。50はややや上げ底状になった平底の底部底面破片である。胎土には繊維が含まれる。底部には縦方向の条痕文と底面には圧痕文が施文されている。51はややや上げ底状の底部底面破片である。胎土には繊維が含まれる。底面に条痕文が一部見られる。52は平底の底部底面破片である。胎土には繊維が含まれる。底面には圧痕文が認められる。53は大形土器の平底の底部底面破片である。胎土には繊維が含まれる。底面には条痕文が見られる。

(6) 第Ⅵ群 前期の土器

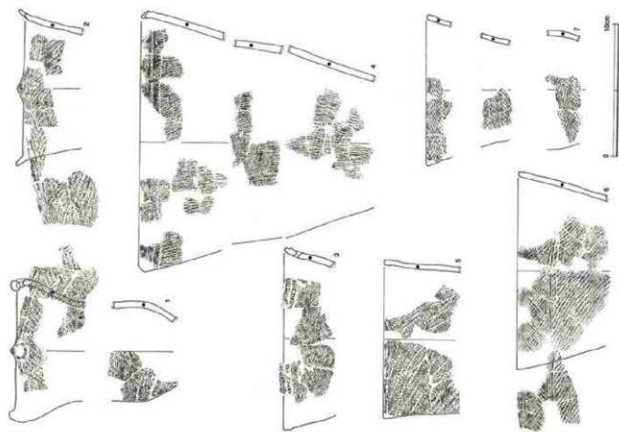
第1類 黒浜式土器 (第101・102図1～118, 図版45上・46図)

多量の繊維を含み、内面のミガキ調整が特徴的である。1は口縁部から底部にかけての破片が接合したものである。波状口縁で口唇外面に円形の把手がある。口唇断面は角頭気味である。口唇部に沿って細沈線を施している。口縁部～底部にかけては羽状縄文を地文にしている。2は口縁部～胴部上半部にかけての大形破片である。波状口縁で口唇断面はやや円頭気味で口唇部で大きく外反する器形である。口縁部に押し引きによる3条の細沈線が周囲している。羽状縄文を地文にしている。3は口縁部から胴部上半部にかけての大形破片である。口唇断面は円頭状になる。口縁部は羽状縄文を地文にしている。横方向の刺突文と押し引き細沈線による施文が見られる。4は大形の深鉢形土器の口縁部～底部上半までの接合した破片である。胴部がやや丸みがあり口縁部にかけて広がる器形である。口唇断面はやや内向き気味で尖る。全体に単節の縄文を地文にしている。口縁部付近に横方向の2列の押し引き細沈線が見られる。

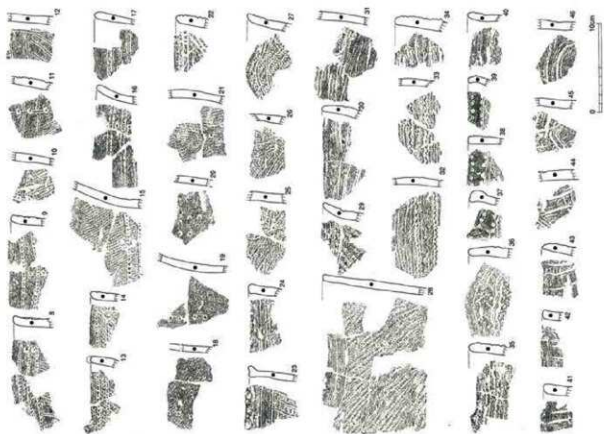
5は口縁部の真っ直ぐに立ち上がる形状の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや円頭状になる。横位の縄文を地文にしている。口唇部付近に横方向の細沈線がある。6はやや斜めに広がる器形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての接合破片である。口唇断面は角頭状になる。口縁部は横方向の複数の細沈線で上下区画された文様帯の中に三角形等の幾何学文様を細沈線で充填している。その下は横位の縄文が施文されている。7は比較的小形の深鉢形土器の破片で接合しないが同一の個体と思われるものである。いずれも羽状縄文が施文されている。

8・9は口縁部破片である。いずれも口唇部はやや円頭状になる。口縁部には横方向の3列の細かい平行細沈線と刺突文を組み合わせた文様とその下に縦方向の平行細沈線が施文されている。また間に円形刺突文が見られる。10～12はいずれも胴部小破片である。横方向の細かい平行細沈線と刺突文を組み合わせた文様のものと平行細沈線のもののいずれかが見られる。その下に縦方向の平行細沈線が施文されている。また間に円形刺突文が見られる。13は口縁部破片である。一部突帯がある。口唇部はやや円頭状になる。口縁部は羽状縄文を地文にして横方向に2列の平行沈線と刺突文を組み合わせた文様が施文されている。14は突帯がない以外は13の文様構成とはほぼ同じである。

15は比較的大形の深鉢形土器の胴部破片である。横位の縄文を地文にしてその下方に横方向の2段の刺突文が施文されている。16は口縁部の破片である。口唇部は円頭状で外反する。2段の横方向の平行沈線と間に円形の刺突が見られる。17は口縁部破片である。口唇部は円頭状である。口縁部には2段の横方向の平行沈線が施文されている。18は胴部破片である。横位の縄文が施文されている。一部円形の刺突文が見られる。19は胴部破片である。18と似た文様構成である。20は地文の縄文が薄く不明瞭であるが円形の刺突文が多く見られる。21は胴部破片である。斜位の縄文が地文として施文されている。22は口縁部破片



黑氏式土器 (1)



黑氏式土器 (2)

である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部は一部であるが平行沈線と刺突文を組み合わせて幾何学文様を描いている。23は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味となる。口唇部上面には刺突文が施文されている。横方向と斜め縦方向の細沈線で区画されている。下半では地文に縄文を用いてある。24は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部は横方向と斜め縦方向の細沈線で区画されている。下半では地文に縄文を用いてある。

25は胴部破片である。縄文を地文にして斜め方向の平行沈線で区画されている。26も似たような文様構成である。27は口縁部破片でやや波状口縁になるものである。口唇部はやや外側に縄文を地文にして口縁部に沿って2段の平行沈線が見られる。

28は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての破片である。口唇部断面はやや角頭状になる。口唇部の直下に2段に横方向の平行沈線がある。口縁部には縄文が施文されている。29は口縁部破片である。口唇部は外反しやや尖頭気味である。縄文を地文にして口唇部付近に横方向に多段の平行沈線が施文されている。30は口縁部破片である。口唇部はやや細くなる円頭である。不連続な横方向の平行沈線が多段に施文されている。一部地文に縄文が見られる。31は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。不連続な横方向の平行沈線が多段に施文されている。一部地文に縄文が見られる。

32は口縁部下半の破片である。横方向の多段の沈線と貝殻腹縁文で施文されている。さらに無文帯を夾んで繰り返し施文されている。33は胴部破片である。32と似た文様構成である。34は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部は横方向の多段の沈線が施文されている。地文には縄文が施文されている。35は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。地文に縄文が施文されている。36は口縁部破片である。やや波状口縁になるものと思われる。横方向に多段の沈線が施文されている。地文には縄文が施文されている。

37は口縁部破片である。やや波状口縁気味である。口唇部はやや肥厚気味である。口縁部に2段に円形の刺突文が並ぶ。その下に沈線文が一部見られる。38は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部に2段に円形の刺突文が並ぶ。その下には横方向の2本に沈線がありさらにその下側に斜め方向の条線が充填されている。39は小形土器の口縁部破片である。口唇部がやや内側に屈曲する。口唇部は円頭状になる。口縁部には2段に円形の刺突文が並ぶ。その下には横方向の2本に沈線がありさらにその下側に斜め方向の条線が充填されている。40は口縁部破片である。口唇部は円頭状である。口縁部横方向に2段ヒレ状になりその下に横方向の細沈線が施文されている。41はやや厚みのある口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には縦方向の沈線文が2本施文されている。42は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には縦方向に3本以上沈線文が施文されている。43は口縁部破片である。口唇部は内よりにやや尖頭状になる。口縁部には縦方向に3本以上の沈線文が施文されている。

44～46は口縁部下半の破片である。縦・斜め方向や弧状の沈線と細沈線で区画されている。47は胴部大形破片である。縄文を地文にして下位に櫛目状の波状の細沈線文が施文されている。48は口縁部の大形破片である。口唇部は角頭状である。口唇部外面に沿って2条の細沈線が施文されている。口縁部には羽状縄文が施文されている。49は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状である。口唇部付近はナデ仕上げである。口縁部は羽状縄文が施文されている。50は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で細くなり角頭状になる。口縁部は羽状縄文が施文されている。

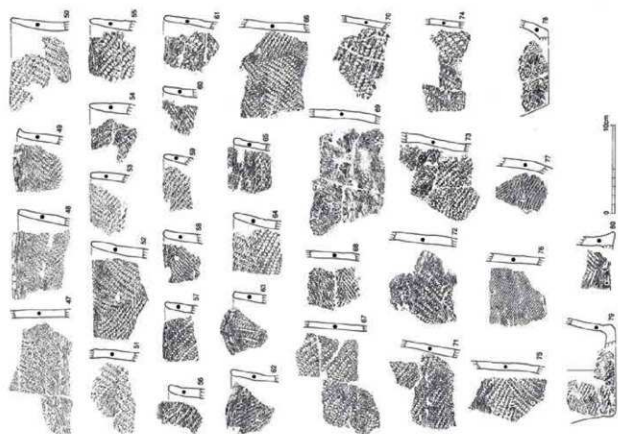
51は口縁部下半の破片である。横位の羽状縄文が施文されている。52は口縁部の比較的大きめの破片で

ある。口唇部はやや細くなり角頭気味である。口縁部には縦方向に羽状縄文が施文されている。53は口縁部の小破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部は横方向の羽状縄文が施文されている。54は口縁部破片である。口唇部は細くなり尖頭状に近い。口縁部は羽状縄文と思われるが一部であるため詳細は不明である。55は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり角頭状である。口縁部には羽状縄文の一部と思われるものが施文されている。56は口縁部の小破片である。口唇部はやや屈曲気味に外反し角頭状となる。口縁部には縄文が施文されている。57は口縁部の小破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には縄文が施文されている。58は口縁部の小破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には羽状縄文の一部と思われるものが施文されている。59は口縁部の小破片である。口唇部はやや細くなり尖頭状になる。口縁部には羽状縄文の一部と思われるものが施文されている。60は口縁部の小破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部にはやや粗い縄文が施文されている。61は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には羽状縄文の一部と思われるものが施文されている。62は口縁部破片である。小波状口縁になる。口唇部は円頭状になる。口縁部には羽状縄文の一部と思われるものが施文されている。63は口縁部破片である。小波状口縁になる。口唇部はやや角頭状になる。口縁部には羽状縄文の一部と思われるものが施文されている。64は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には横方向に羽状縄文が施文されている。65は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には羽状縄文の一部と思われるものが施文されている。66は胴部の大形破片である。羽状縄文が施文されている。67は胴部の大形破片である。羽状縄文が施文されている。68は胴部破片である。羽状縄文の一部が施文されている。69は胴部～底部上半の大形破片である。その上位に羽状縄文の一部が見られるもの下位はほぼ無文である。70は胴部下半の破片である。羽状縄文の一部が施文されている。

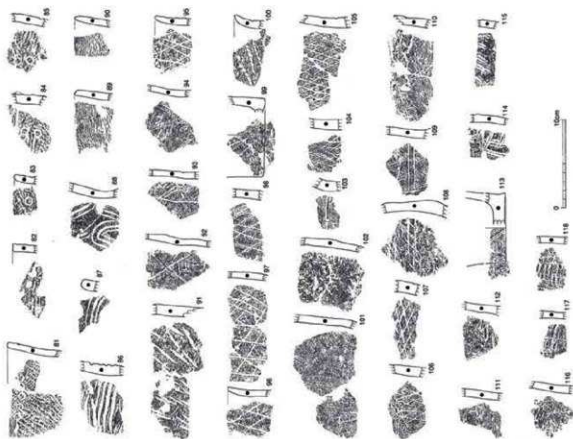
71は胴部の大形破片である。横方向の羽状縄文の一部が施文されている。72は胴部破片である。中程以下に横方向の羽状縄文の一部が施文されている。73は胴部破片である。その上位は無文で下位には羽状縄文が施文されている。74は胴部下半の破片である。羽状縄文の一部が施文されている。75は胴部破片である。横方向の羽状縄文が施文されている。76は胴部下半の破片である。無節縄文が施文されている。77は胴部下半の破片である。斜め方向の単節縄文が施文されている。78は底部底面の破片である。平底の一部である。一部縄文の施文が見られる。79は大形深鉢形土器の底部底面破片である。平底である。底部には横方向の羽状縄文の一部が施文されている。80は底部底面破片である。底部に縦方向の羽状縄文が見られる。81は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横位に縄文が施文されている。82は口縁部破片である。波状口縁になる。口唇部は角頭状である。横方向に多段の沈線が施文されている。83は口縁部の小破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には縄文が施文されている。円形の刺突文が施文されている。84・85はいずれも口縁部下半の破片である。口縁部には縄文が施文されている。円形の刺突文が施文されている。

86は口縁部下半の破片である。口縁部には横方向に多段の沈線が施文されている。その下位には斜め方向の条痕文が施文されている。87は口縁部の小破片である。口唇部は角頭状である。口縁部には横方向に多段の沈線が施文されている。88は胴部破片である。縦斜めあるいは曲線的に沈線が施文されている。

89は口縁部破片である。口唇部はやや内側が尖る。口縁部には横方向に樽目状の条線が施文されている。90は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり口端部は丸みがある。口縁部には横方向に樽目状の条線が施文されている。91は大形土器の胴部破片である。不連続な斜め方向の太沈線が施文されている。92はや



黑泥式土器 (3)



黑泥式土器 (4)

や小形の土器の胴部破片である。斜め方向の格子状になる条線がだまかに施文されている。93は小形土器の胴部破片である。縦横の条線と斜め方向の条線が施文されている。94は小形土器の胴部破片である。縦横の条線と斜め方向の条線が施文されている。小形土器の胴部破片である。縦横の条線と斜め方向の条線が施文されている。95は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口縁部にはやや粗く格子目状に沈線が施文されている。96は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反気味でやや尖頭状になる。口縁部にはやや粗く格子目状に沈線が施文されている。97は胴部上半の破片である。縦方向と斜め横方向の沈線で格子目状に施文されている。98は胴部の小破片である。斜め方向の沈線で格子目状に施文されている。99は底部底面の破片である。底部底面ともに斜め方向の条線で格子目状に施文されている。

100は口縁部の小破片である。口唇部は外反しやや尖頭状になる。斜め横方向に圧痕文が施文されている。101は胴部の比較的大きめの破片である。殻表圧痕文が施文されている。102は胴部破片である。やや粗い羽状縄文が施文されている。103は胴部の小破片である。横方向の平行沈線と上下に条線のようなものが見られる。104は胴部の小破片である。やや縦斜め方向の条線で格子目状に施文されている。105は胴部破片である。やや縦斜め方向の条線で格子目状に施文されている。106は胴部の小破片である。やや不規則に斜め方向の条線を充填している。107は胴部小破片である。横斜め方向の条線で格子目状に施文されている。108は胴部上半の破片である。横方向の条線と斜め方向の条線を組み合わせで施文されている。109は胴部上半の破片である。横方向の2本の平行する細沈線が施文されている。地文には斜め縦方向に貝殻腹縁文が施文されている。110は口縁部下半の破片である。その上位には横方向に隆帯がある。下方には横方向の条痕文が施文されている。

111は口縁部下半の破片である。その上位には無文で下位には横方向に多段の条線が施文されている。112は口縁部下半の破片である。斜め方向と横方向に細沈線が施文されている。113はやや厚みのある平底の底部底面の破片である。斜め方向に条線文が施文されている。114は胴部の小破片である。2本を単位とした斜め方向の沈線で格子目状に施文されている。115は胴部下半の破片である。2本を単位とした斜め方向の条線が施文されている。116は胴部下半の破片である。斜め横方向の条線文が施文されている。117は小形土器の胴部破片である。横方向に細沈線が施文されている。118は小形土器の胴部破片である。横方向に細沈線が施文されている。縦方向には条線が施文されている。

第2類 諸磯式土器 (第103図1~70, 図版50上・51下)

縄文時代前期後半に比定される土器群である。黒浜式土器に続く土器群で胎土に繊維は含まれない。1は口縁部~胴部上半にかけての大形破片である。胎土には小粒砂が含まれる。口唇部は大きく外反し口端は角頭状になる。胴部にかけては膨らみを持つ。口縁部は横方向の平行沈線を多段に配置し内側に刺突文を充填している。無文帯を夹んで下位に横方向の平行沈線と斜め方向の平行沈線で幾何学文様を施文し中に貝殻腹縁文を充填している。2・3は胴部小破片である。斜め方向の平行沈線で内側に刺突文を持つ。4は胴部の大形破片である。胴部上半で大きく膨らむ器形である。斜め方向に貝殻腹縁文が充填されている。5は小形土器の胴部小破片である。横方向に平行沈線と内側に刺突文を持つ。上下に細沈線で幾何学文様を配置している。6は胴部の小破片で中に刺突文を施文した横方向の平行沈線を3段に配置しその中に貝殻腹縁文を充填している。7は胴部破片である。その下位に沈線を多段に配置している。さらにその上位は斜め方向に縄文が施文されている。

8は比較的厚みのある胴部の小破片である。横斜め方向を主体とした竹管文による幾何学文様が充填されている。9は厚みのある胴部の小破片である。横方向の竹管による沈線文と斜め方向の沈線文が充填されている。10は厚みのある胴部の小破片である。斜め方向の竹管による沈線文と弧状の沈線文が充填されている。11は厚みのある胴部の小破片である。横方向の竹管による沈線文と斜め方向の沈線文が充填されている。12は厚みのある胴部の大形破片である。横方向の竹管による沈線文と上下に斜め方向の条線が充填されている。13は胴部の大形破片である。弧状と直線を組み合わせた沈線で区画された中に貝殻腹縁による押印文を充填している。14・15は胴部の破片であるが文様の構成はほぼ同じである。

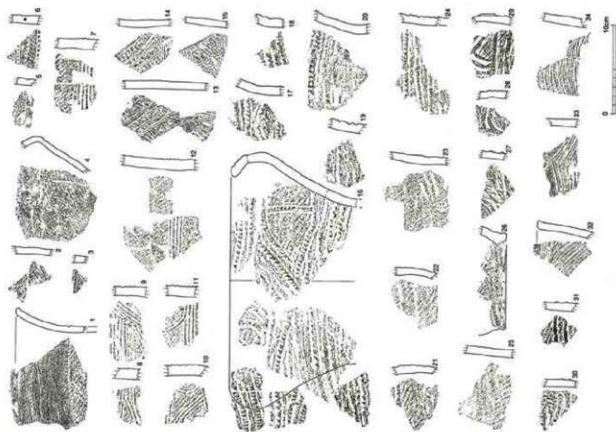
16は大形土器で口縁部～胴部にかけて接合したものである。口縁部が最大に膨らみ口唇部にかけて内曲し口端は平坦気味になる。口縁部上端と胴部には横方向のキャタピラ状の刺突文が充填されている。口縁部下半にはキャタピラ状の刺突文で区画された中に貝殻腹縁による押印文が充填されている。17～20はいずれも胴部の破片であるが16と似た文様構成をとるものである。21・22は口縁部下半の破片であるいずれも貝殻腹縁による押印文が充填されている。23は胴部破片である。斜め方向に貝殻腹縁による押印文が充填されている。24は胴部上半の破片である。横方向の竹管による沈線文が多段に充填されている。

25は胴部下半の破片である。斜め方向の竹管による刺突文と貝殻腹縁による圧痕文が施文されている。26は平底の底部底面の破片である。縄文が施文されている。27は胴部の小破片である。横方向に浮線文と縄文が施文されている。28は口縁部下半の破片である。弧状に浮線文が施文されておりその間に縄文が充填されている。29は口縁部下半の破片である。横方向と斜め方向の浮線文で区画された文様帯の中に縄文が充填されている。30は口縁部下半の破片である。横方向の浮線文と縄文が施文されている。31は胴部の小破片である。横方向の浮線文と縄文が施文されている。

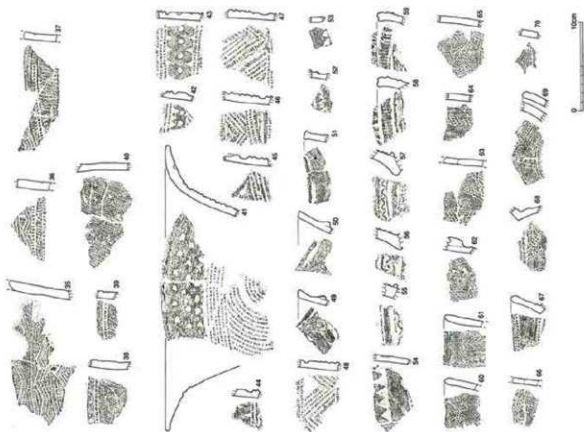
32は口縁部破片である。口唇部はやや丸みがある角頭である。口縁部上半は横方向の細沈線が、下半では斜め方向の細沈線が充填されている。33は口縁部下半の破片である。左右斜め横方向の細沈線が充填されている。34は胴部の破片である。横方向の細沈線が充填されている。35は口縁部下半の比較的大形の破片である。竹管による細沈線文で横方向と斜め方向の直線で三角形に区画された文様帯の内側に貝殻による施文が行われている。36は口縁部下半の小破片である。35の三角形に区画された一部分である。

37は36の下位にあたる胴部の破片である。横方向のキャタピラ状の押し引きの刺突文が充填されている。その下に貝殻腹縁による圧痕文が施文されている。38は口縁部下半の破片である。胎土に小礫粒を含む。その上位に横方向のキャタピラ状の刺突文が充填されている。さらにその下位には斜め方向に条線が施文されている。39は口縁部下半の小破片で38と似た文様構成をとる。40は胴部の大形破片である。そこには斜め方向の条線が密に施文されている。

41は口縁部の大形破片である。口唇部は大きく外反し口端は円頭状になる。胎土には小礫粒が含まれる。口縁部には横方向に沿って円形の刺突文が見られる。その中位には横方向の細かい押し引きの刺突文が見られる。さらにその下には円弧状に押し引きの細かい刺突文が見られる。42は口縁部下半の破片である。胎土に細かい礫粒を含む。中央横方向に円形の刺突文が施文されている。上下の横方向には細かい押し引きの刺突文が見られる。43は口縁部下半のやや大形の破片である。中央部分に横方向に方形の刺突文が見られる。その上下に無文帯を挟み横方向の細かい押し引きの刺突文が見られる。44は口縁部下半の小破片である。胎土に細かい礫粒を含む。その上位には円弧状、下位には横方向の押し引きの刺突文の一部が見られる。45は胴部の小破片である。胎土には細かい礫粒が含まれる。横方向と斜め方向の押し引きの刺突



諸國式土器 (1)



諸國式土器 (2)

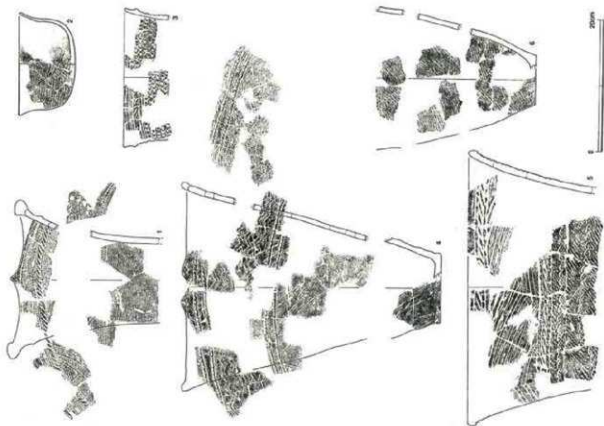
文の一部が見られる。46は胴部破片である。胎土には細かい礫粒が含まれる。その上位は斜め方向の押し引きの刺突文で幾何学文様が充填されている。下位では横方向に押し引きの刺突文が施文されている。47は胴部上半の破片である。胎土には細かい礫粒が含まれる。そこには斜め方向の押し引きの刺突文で幾何学文様を充填している。その下部に一部横方向の刺突文も見られる。48は胴部上半の破片である。胎土には細かい刺突文も見られる。斜め方向の押し引きの刺突文で幾何学文様を充填している。その上下に一部横方向の刺突文も見られる。

49は口縁部の破片で波状口縁になる。口唇部は肥厚気味で角頭状になる。その下位には隆帯の一部が見られる。50は口縁部の破片で波状口縁になる。49と同様に下位で隆帯の一部が見られる。51は口縁部の小破片である。幾分波状口縁気味になる。口唇部は肥厚気味でやや角頭状になる。52は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向に鋸歯状の浮線文が施文されている。53は口縁部下半の小破片である。そこ下位には鋸歯状の刺突文が見られる。54は口縁部下半の破片である。53と同じ鋸歯状の刺突文が横方向に見られる。その下には無文帯がある。55は口縁部下半の小破片である。胎土には細かい礫粒が含まれる。やや厚みのある破片で横方向の沈線と並行して浮線文が施文されている。56は口縁部下半の小破片である。胎土には細かい礫粒が含まれる。横方向に2段の浮線文が施文されている。57は口縁部下半の小破片である。胎土には細かい礫粒が含まれる。上に横方向に沈線があり並行して浮線文が施文されている。58は口縁部破片である。口唇部は角頭状である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口唇部外面に沿って2段に沈線があり、その間に縦方向に刻目文が並ぶ。59は58と似た文様構成である。

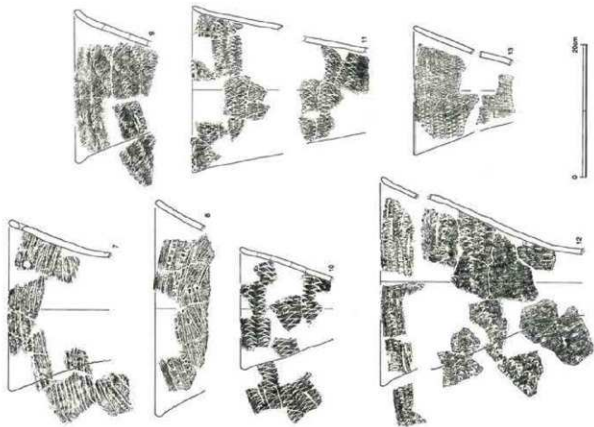
60は口縁部破片である。口唇部はやや尖り気味の円頭である。口縁部には斜め方向の条線で格子状の文様が施文されている。61は口縁部破片である。口唇部はやや尖り気味で円頭状になる。口縁部は横・斜め方向の条線で格子目状に施文されている。62は口縁部下半の破片である。中程に隆帯がある。周辺部には条線で格子目状に施文されている。63は胴部破片である。全体にやや不規則に条線で格子目状に施文されている。64は胴部上半の小破片である。縦・横方向に条線で格子目状に施文されている。65は胴部下半の破片である。縦・横方向と斜め方向に条線で格子目状に施文されている。66は口縁部下半の破片である。縦・横方向の条線で格子目状に施文されている。67は口縁部の小破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。口唇部外面に沿ってキャタピラ状の押し引きの刺突文が2段で施文されている。縦方向にも似た文様が施文され全体では無文帯を囲むと思われる。68は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。『く』の字状の屈曲が見られる。横方向と斜め方向のキャタピラ状の押し引きの刺突文で区画されており内側は無文になる。69は波状口縁になる口縁部の一部である。波状口縁部に沿った形と縦方向のキャタピラ状の押し引きの刺突文で無文帯を区画している。70は口縁部下半の小破片である。縦方向の条線が充填されている。

第3類 浮島式土器 (第104～107図1～217, 図版46上～49下)

諸磯系土器に並行する土器群で貝殻文を多用する前期後半の土器群である。1はやや大形の深鉢形土器の口縁部～胴部下半にかけて接合したものである。口唇部には把手がある。口縁部には横方向に細沈線と貝殻腹縁文が充填されている。口縁部下半～胴部上半にかけてはそれらを組み合わせで幾何学的な区画が施文されている。胴部は貝殻腹縁文が全体に充填されている。2は浅鉢でやや丸底気味の接合されたものである。薄手の小形の土器で口唇部はやや外に広がる。胴部～底部にかけては横位に貝殻腹縁文が施文されている。3は大形土器の口縁部の破片である。口唇部はやや細く円頭状になる。口縁部上位には横方向



浮島式土器 (1)



浮島式土器 (2)

の多段の沈線と隆帯で構成されている。中位以下は刺突文が充填されている。4は大形の深鉢形土器である。底部は平底で口縁部はやや斜めに立ち上がる。口縁部は平滑で一部突起状に立ち上がる。口縁部に近い口縁部上位では横方向に刺突しながらの沈線を2段に配置している。口縁部中位では波状に多段の沈線を充填している。口縁部下位では再び横方向に刺突しながらの沈線を2段に配置している。さらに胴部～底部にかけては斜め方向のやや粗い細沈線が施文されている。5は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけて接合したものである。胴部～口縁部に向かってやや外反気味に広がる。口唇部ではやや尖り気味に円頭状になる。口縁部上位では横方向の2本の沈線で区画された間に斜め方向に沈線が充填されている。さらにその下を左右斜め方向の沈線が交互に充填されている。口縁部下半で再び横方向の2本の沈線で区画された間に斜め方向に沈線が充填されている。胴部には貝殻腹縁文を地文にして横方向に弧状の貝殻文が施文されている。6はやや大形の深鉢形土器の口縁部下半～底部までの接合したものである。平底の土器である。口縁部下半に横方向の竹管による平行沈線があり、あとは全面に斜め方向に貝殻腹縁文が施文されている。

7はやや大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての接合したものである。口唇部は外反し口端はやや角頭気味である。口縁部上半では横方向に沈線文と刺突文が交互に配置されている。口縁部下半～胴部にかけては横方向の沈線が多段に施文されている。胴部以下はやや斜め方向の沈線が施文されている。8は大形の深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は大きく外側に広がる器形である。やや丸みがあり細くなる口唇部である。口縁部上半では横方向の平行沈線の中に刺突文を充填する梯子状の文様を2段に配置している。口縁部下半は斜め方向の平行沈線が左右に配置されている。

9は深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての接合破片である。口唇部は外反しやや尖頭状になる。全体に横方向と斜め方向の波状腹縁文が施文されている。10はやや小形の深鉢形土器の接合破片である。口唇部は広がり気味に斜めに立ち上がる。横方向に波状口縁文が施文されている。11は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半・胴部下半～底部上半にかけて接合したものである。口唇部はやや外反気味に広がり尖頭状になる。口縁部上半は縦方向の条線が施文されている。口縁部下半以下は横方向に波状腹縁文が施文されている。12は大形の深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけて接合したものである。口唇部は大きく広がりやや尖頭状になる。口縁部～胴部上半にかけてはやや密に横方向の波状腹縁文が施文されている。胴部下半以下は無文である。13はやや小形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけて接合したものである。口唇部は外に大きく広がり角頭状になる。口縁部には横方向の波状腹縁文が施文されている。胴部以下は縦方向の条線文が充填されている。

14は大形の深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけて接合したものである。胴部でやや丸く影らみ口唇部で大きく広がり外反する器形である。口唇部は平坦である。口縁部上半には縦方向の密な条線が充填されている。口縁部中位では横方向の細沈線が多段に施文されてその中に細かい刺突が見られる部分と見られない部分を上下に2回ずつ配置している。底部付近では縦方向の条線が見られる。

15は大形の深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけて接合したものである。口唇部はやや広がり角頭状である。口唇部外面には棒状工具による刺突文が施文されている。口縁部以下には斜め方向が主体の条線が見られる。

16は大形の深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけて接合された破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には棒状工具による刺突文が施文されている。全体に波状に櫛目文状の条線が施文されている。

所々に同じ原体で縦方向の条線が施文されている。

17はやや大形の深鉢形土器の口縁部の大形破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部は3段に鱗状に横方向の隆帯が見られる。口縁部下半には縦方向に条線の一部が残されている。18は深鉢形土器の底部付近の接合破片である。縦方向の条線が施文されている。

19は口縁部下半の破片である。横方向には多段に沈線が施文されている。それを地文にして縦方向の条線文が施文されている。20は口縁部の破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には2本を基本とした平行沈線が多段に施文されている。21は口縁部下半の破片である。その上位には2本を基本とした横方向の平行沈線が2段施文されている。その下は同じ原体でやや波状気味に描き、さらに斜め方向の条線を加えて施文されている。22は胴部破片である。横方向の平行沈線で施文後にその下に縦方向の2本を基本とした条線が施文されている。23は22とほぼ同じ文様構成である。24は底部底面の破片である。縦方向にやや粗い条線が施文されている。25は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。その上位は2本を基本とした横方向の平行沈線が2段施文されている。その下は同じ原体でやや波状気味に描き、さらに斜め方向の条線を加えて施文されている。26は口縁部下半の破片である。25より波状の表現が上下に広がる。27は口縁部下半～胴部上半の破片である。26と似た文様構成である。27は口縁部下半の破片である。2本を基本とした横方向の平行沈線が2段施文されている。その下は同じ原体でやや波状気味に描き、さらに斜め方向の条線を加えて施文されている。28は口縁部下半の破片である。27の上半部分になるものと思われる。29は胴部～底部にかけての破片である。縦方向の条線文が粗く施文されている。30は胴部の小破片である。縦方向の条線文が粗く施文されている。

31は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部上位に横方向に平行沈線が施文されている。その下に3本を単位とした条線が斜め横方向に施文されている。さらに直交するように斜め方向と縦方向に条線が施文されている。32は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には棒状工具による刺突文が施文されている。その直下に3本の横方向の細沈線が施文され区画されている。その下は3本を単位とする斜め方向の条線と縦方向の条線が施文されている。33は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面に横方向の平行沈線が施文されている。口縁部には斜め方向の3本を単位とする条線と縦方向のやや密な条線が施文されている。34は胴部上半の破片である。全体に縦方向の条線が密に施文されている。35は胴部上半の小破片である。3本を単位とする斜め方向の条線と直交する2本を単位とする斜め方向の条線が施文されている。

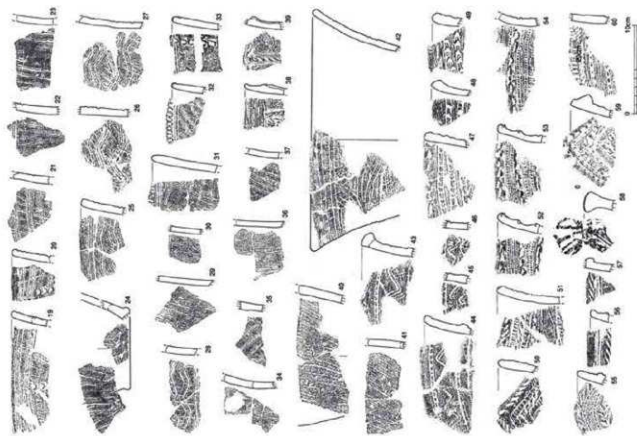
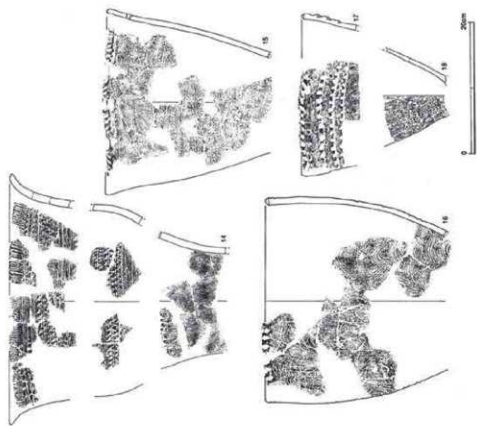
36は胴部破片である。縦方向の条線が粗く施文されている。37は口縁部下半の破片である。2本を単位とする斜め方向の条線が施文されている。

38は小形土器の口縁部破片である。口唇部は細くなり端部はやや円頭状である。口縁部上半は横方向の細沈線が施文されている。その下半には縦・横の隆帯で区画された文様帯の中に斜め縦方向の条線が充填されている。39は口縁部下半の破片である。その上位に横方向の隆帯がある。その下に縦・横方向に細沈線で区画された文様帯がありその内側に弧状に沈線が施文されている。

40は大形土器の胴部破片である。全体にやや斜め縦方向に貝殻腹線文と細沈線文が施文されている。41はやや大形土器の胴部破片である。全体に斜め方向に条線文が密に施文されている。

42は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半の破片である。口唇部にかけて大きく外反している。口唇部

浮島式土器 (3)



浮島式土器 (4)

は円頭状になる。口縁部は横方向に多段の細沈線が施文されている。口縁部下半では横方向にやや波状気味の細沈線が見られる。さらに斜め方向の条線が粗く施文されている。

43は口縁部破片である。やや波状口縁になる。口唇部は大きく肥厚する。口縁部上位には横方向に押し引きによる刺突文が施文されている。その下には平行の波状沈線と斜め方向の条線が施文されている。

44は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口縁部上位には横方向に押し引きによる刺突文が施文されている。その下には平行の波状沈線が施文されている。さらにその下に横方向に押し引きによる刺突文が施文されている。45・46は口縁部下部の小破片である。横方向に押し引きによる刺突文が施文されている。その下に波状の平行沈線が施文されている。

47はやや大形の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部には多段に横方向の押し引きによる刺突文が施文されている。48・49も47と似た文様構成である。

50は口縁部破片である。波状口縁になる。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面に沿って斜位の刻目文が施文されている。波状口縁に沿って押し引きの刺突文が多段に充填されている。51はやや大形の深鉢形土器の口縁部破片である。50と似た文様構成である。52・53はそれぞれ口縁部破片である。口唇部はやや外反気味に広がる。口唇部外面と口縁部中央、口縁部下端それぞれ横方向に隆帯がありそれに沿って刺突されている。その上下の区画内には横方向に押し引きによる細かい刺突文が充填されている。54は口縁部下半の破片である。文様構成は52と似ている。

55は口縁部破片である。波状口縁になる。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面に斜位の刺突文が施文されている。口縁部は波状口縁に沿って横方向に押し引きによる細かい刺突文が充填されている。56は口縁部破片である。口唇部はやや丸みのある角頭である。口唇部直下に横方向の沈線と隆帯がありその下に斜めの細沈線が充填されている。57は口縁部下半の破片である。横方向の隆帯と上面に斜位の刻目文が施文されている。直下に横方向の沈線が施文されている。58は口縁部の把手部分である。把手の上面は大きく肥厚して刻目状に刺突されている。把手に沿って細沈線が施文されている。59は口縁部破片である。大きく波状口縁になる。波状口縁に沿って刺突文があり、その下に押し引きの細かい刺突文が充填されている。60は口縁部下半の破片である。上位に縦方向の短刻目文で施文後、横方向の細沈線を多段に充填しその中を2～3段置きに刺突文が施文されている。

61は大形土器の口縁部破片である。口唇部は折り返し気味に肥厚している。口唇部外面に沿って破線状に刺突されている。口縁部は押し引きの刺突文を施文後に横方向に列点状の刺突文、さらに下位には横方向の細沈線が多段に充填されている。62は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味である。口唇部外面に沿って破線状に刺突されている。口縁部は横方向に2本の沈線、列点状に刺突文、押し引き刺突文と配置されて以下横方向に細かい条線を充填している。横方向の列点状の刺突文を1列夾みさらに細かい条線を充填している。

63は大形土器の口縁部下半の破片である。全体に横方向に竹管による細沈線が多段に充填されている。その中央に列点状の刺突文が施文されている。64は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向に波状腹縁文が施文されている。65は小形土器の口縁部下半の破片である。その上位には横方向の2段の刺突文が、下位には波状腹縁文が施文されている。

66は大形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。大形の波状口縁である。口唇部はやや肥厚気味で外反する。口唇部外面には斜位に刺突による短沈線が施文されている。口縁部は波状に沿って沈線と

刺突文を交互に配置し充填している。胴部は横方向に細かく細沈線と刺突文が施文されている。67と68は66の胴部の一部と思われる。69・70は66と同じ土器と思われる胴部下半部にかかる破片で押し引き沈線の下に条線が多段に充填されている。

71は大形土器の胴部破片である。横方向に細かい条線が多段に施文されている。所々に横方向の刺突文が施文されている。72は胴部上半の破片である。横方向に波状腹縁文が施文されている。上位に一部横方向の条線が施文されている。73は口縁部下半の破片である。上位には横方向の押し引きの刺突文が施文されている。下位には横方向に波状腹縁文が施文されている。

74はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には横方向に刺突しながらの沈線が施文されている。75は口縁部下半の破片である。74よりやや下位の部分と思われる。横方向に刺突しながらの沈線を2段施文後、斜め横方向の条線を充填し幾何学的な文様を描いている。76は75よりやや下位の部分で胴部上半の破片である。やや斜め方向の条線を波状に充填しその下に横方向の沈線と破線状の文様が施文されている。

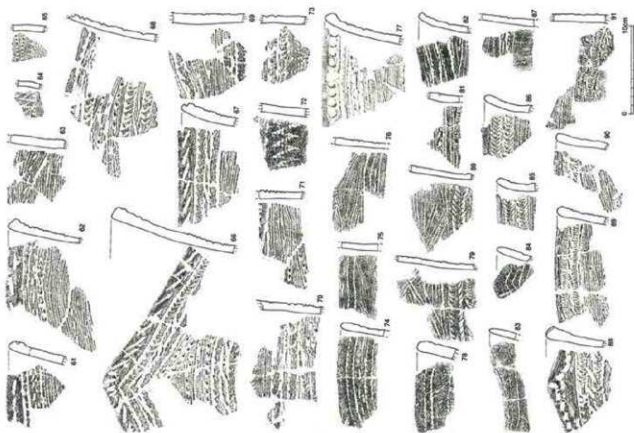
77は大形土器の口縁部の破片である。口唇部はやや肥厚気味で外反する。口唇部外面には大きく刺突文が施文されている。口縁部上半には横方向に沈線と刺突文が並行する。下半部では斜め方向と横方向の沈線で区画された内側に条線を充填させている。

78は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状である。口縁部には横方向の刺突しながらの2本の沈線を施文後、その下に斜め縦方向の条線が充填されている。79は大形でやや薄手の深鉢形土器の口縁部下半～胴部にかけての破片である。その上位は斜め方向の沈線で区画された内側に横方向の沈線を充填している。さらに下位では斜位の刻目状の刺突文が多段に施文されている。80は胴部付近の破片である。79と似た文様構成である。

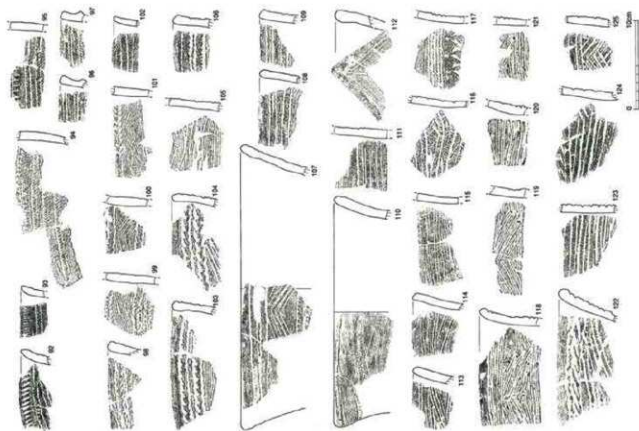
81は胴部上半の破片である。横方向の細かい押し引きの刺突文が多段に施文されている。その上位には列点状の刺突文も見られる。82はやや大形の波状口縁気味の口縁部破片である。横方向の細かい押し引きの刺突文と沈線が並行して多段に施文されている。83は口縁部の破片である。やや横長の破片で幾分波状口縁気味である。斜め方向の密な条線を地文にして横方向に2列の沈線が施文されている。84は波状口縁部の小破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には波状口縁に沿って細沈線が多段に施文されている。85はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状で外反する。口縁部には貝殻腹縁による刺突文が見られる。その下位には細沈線が多段に施文されている。86はやや口唇部が尖頭状になる以外はほぼ似た文様構成である。87は82の胴部に近い部分の破片で、竹管による横方向の刺突文が見られる。

88は波状口縁になる大形土器の口縁部破片である。口唇部は肥厚している。口唇部外面には方形の刺突文が施文されている。口縁部中程には横方向の竹管文と沈線文が交互に充填されている。89は口縁部の大形破片である。口唇部は肥厚し円頭状になる。口縁部には2段に竹管による円弧状の刺突文が施文されている。さらにその下は斜め方向と横方向の条線を密に充填して幾何学的に文様を配置している。90は口縁部～胴部上半にかけての破片である。89の文様と似た構成である。91は胴部破片である。89などの下位にあたる部分で斜め方向と横方向の条線を密に充填して幾何学的に文様を配置している。さらに2段に竹管による円弧状の刺突文が施文されている。

92は口縁部の小破片である。口唇部はやや尖頭状で外反気味である。口唇部外面にはやや斜位の刻目文が密に施文されている。以下口縁部には地文に縦方向の条線を施文後、横方向に沈線が多段に施文されて



浮島式土器 (5)



浮島式土器 (6)

いる。93はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部は幾分外反気味で尖頭状になる。口唇部外面には縦方向の刻目文が施文されている。口縁部には細かく横方向に2段の刺突文が施文されている。94は胴部付近の破片である。斜め方向の細かい条線を地文にして横方向に多段の沈線が施文されている。95は胴部の小破片である。上位に貝殻の押圧文が横方向に残されている。斜め方向の条線を密に施文後横方向に多段の沈線文が施文されている。96は小形土器の口縁部破片である。横方向に貝殻腹縁文を2列施文している。間隔をややあけもう1度2列施文している。さらに下位には横方向に隆帯がある。97は96と似た文様構成である。98は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。横方向の沈線文を2段に配置してその間に斜位の刻目文が充填されている。99は口縁部下半の破片である。上下に横方向の押し引き沈線と刺突文による施文が行われている。その間に斜め方向に細沈線が充填されている。下位部分では横方向の押し引きの刺突文が施文されている。

100は口縁部下半の破片である。横方向の2段の押し引き沈線を上下に配置し、その間に波状に細沈線を充填している。101は口縁部下半の破片である。横方向の左右異方向に刺突文を施文後に波状に細沈線が充填されている。102は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部には横方向の押し引きによる沈線が3本施文されている。103は口縁部の破片である。口唇部は円頭状になる。横方向の押し引き沈線を4本施文後に横方向の細沈線が充填されている。

104は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。横方向の左右異方向に刺突文を施文後に斜め方向の細沈線が充填されている。105は口唇部下半のやや大形の破片である。その上位にはやや弧状に細沈線が充填されている。さらに下位では横方向に細沈線が充填されている。106は口縁部の小破片である。口唇部はやや丸みのある尖頭状になる。口縁部には横方向の2本を基本とした押し引きの刺突文が3段に施文されている。

107は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭気味である。口縁部には多段の沈線文を上下に配置し、斜め方向の細沈線を充填し幾何学文様を描いている。108は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部は横方向に刺突気味の沈線が多段に施文されている。109は口縁部破片である。口唇部はやや尖り気味で円頭状になる。口縁部は横方向に刺突気味の沈線が多段に施文されている。110は大形土器の口縁部破片である。口唇部は尖り気味になる。口縁部はやや下方で斜め方向の細沈線が施文されている。111は口縁部下半の破片である。横方向の細沈線が多段に充填されている。112は波状口縁部の破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。波状口縁に沿って細沈線が施文されている。113は口縁部の小破片である。口唇部は外反気味でやや円頭状になる。口縁部には横方向の細沈線と斜め方向の細沈線を組み合わせて幾何学的文様を描いている。114は口縁部破片である。口唇部は外反気味でやや角頭状になる。口縁部には2本の平行細沈線を単位として横方向と斜め方向に施文が行われている。

115は口縁部下半の破片である。横方向の細沈線を主体として多段に施文されている。116は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。条線を地文にしてその上位は横方向の沈線が、さらに下位ではやや斜め方向に曲線的な沈線が施文されている。

117は口縁部下半～胴部上半にかけての大形破片である。口縁部下半部では斜め横方向の細沈線が充填されている。それ以下には横方向に沈線を5段施文している。さらに胴部には横方向に波状腹縁文の一部が見られる。118は口縁部の大形破片である。口唇部は外反し尖頭状である。口唇部外面は無文で口縁部の上下に横方向の細沈線を多段に配置し、中程に斜め方向の細沈線と横方向の細沈線を充填し、幾何学的

文様が施文されている。119は口縁部下半の破片である。斜め方向の細沈線と横方向の細沈線を充填し、幾何学的文様が施文されている。120は口縁部下半の破片である。その上位には横方向の細沈線が施文されている。さらに以下には沈線が横方向にやや曲がり気味に施文されている。121は胴部上半の破片である。横方向の沈線が多段に充填されている。その上位には斜め方向の細沈線も一部残されている。

122は大形の深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し円頭状になる。口唇部直下に横方向のキヤタピラ状の刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向に沈線文が、さらにその下には斜め横方向の沈線文が施文されている。123は口縁部下半の破片である。横方向の沈線文が密に施文されている。124は口縁部下半の破片である。斜めやや横方向の沈線文が密に施文されている。125は口縁部下半の破片である。上位に横方向の沈線が3段に施文されている。その下に左右斜め方向の沈線文が施文されており、一部格子目状になる。

126は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎで尖頭状になる。口縁部上位は無文で下位に波状腹縁文が一部見られる。127は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部上位は無文で下位に波状腹縁文の一部が見られる。128はやや大形の深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部はほぼ無文で一部に条線文らしきものが見られる。129はやや小形の土器の口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味で尖頭状になる。口縁部上位は無文で下位にはやや大きな波状腹縁文が施文されている。130はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反気味でやや尖頭状になる。口唇部付近は無文でそれ以下にやや大きな波状腹縁文が施文されている。131は口縁部下半の破片である。やや大きな波状腹縁文が施文されている。

132は小形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し円頭状になる。口縁部にはやや小形の貝による波状腹縁文が施文されている。133は小形土器の口縁部下半の破片である。口縁部には横方向のやや小形の貝による波状腹縁文が施文されている。134はやや小形土器の口縁部下半の破片である。口縁部下半では無文帯を夹んで上下に小形の貝による波状腹縁文が施文されている。135はやや小形土器の口縁部下半の破片である。横方向に小形の貝による波状腹縁文が2段に施文されている。

136はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや細くなりどちらかという尖頭状になる。口唇部外面はやや斜位の刻目文が密に施文されている。口縁部には無文帯を夹んで波状腹縁文が見られる。137はやや大形土器の胴部破片である。やや粗く横方向に波状腹縁文が施文されている。138は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し円頭状になる。口唇部外面にはやや斜位の刻目文が施文されている。口縁部には比較的大きめの波状腹縁文が施文されている。139は胴部上半の破片である。横方向に大きめの貝殻波状腹縁文が施文されている。140は胴部上半の破片である。横方向に大きめの貝殻波状腹縁文が2段施文されている。141は胴部上半の破片である。横方向に大きめの貝による波状腹縁文が施文されている。

142は口縁部破片である。口唇部は外反しやや尖頭状になる。口唇部外面には縦方向の刻目文が密に施文されている。口縁部には横方向のやや細密な波状腹縁文が多段に施文されている。143は口縁部下半の破片である。横方向に2段に波状腹縁文が施文されている。144は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で尖頭状になる。口唇部～口縁部上半は無文である。口唇部下半には貝殻腹縁文が施文されている。145は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部には横方向に細かい波状腹縁文が施文されている。

146はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。口唇部外面に竹管による刻目文が施文されている。口縁部には横方向に刺突文が多段に施文されている。147は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向に多段に竹管による刺突文が施文されている。

148は口縁部の小破片である。口唇部はやや細くなり尖頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は無文である。149は小形土器の口縁部の小破片である。口唇部はやや薄くなり円頭状である。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は無文でその下位に横方向の隆帯がある。150は胴部上半の大形の破片である。その下位に間隔をあけた竹管による横方向の2列の刺突文が2段施文されている。

151は胴部上半の破片である。竹管による横方向の2列の刺突文が2段施文されている。その上位にわずか刺突文が施文されている。152は胴部の大形破片である。竹管による横方向の2列の刺突文が2段施文されている。その下位に刺突文の一部が残されている。153は口縁部の破片である。口唇部はやや厚みがあり円頭状になる。口縁部には横方向に小さな貝による波状腹縁文が間隔をあけて2段に施文されている。

154は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には横方向に小さな貝による腹縁文が施文されている。155は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には横方向に刺突文が施文されている。156は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向に3段の竹管による刺突文が施文されている。157は口縁部下半の破片である。全体に横方向に竹管による刺突文が多段に充填されている。158は口縁部の大形の破片である。口唇部はやや肥厚気味で角頭状になる。口縁部には全体に横方向に竹管による刺突文が多段に充填されている。

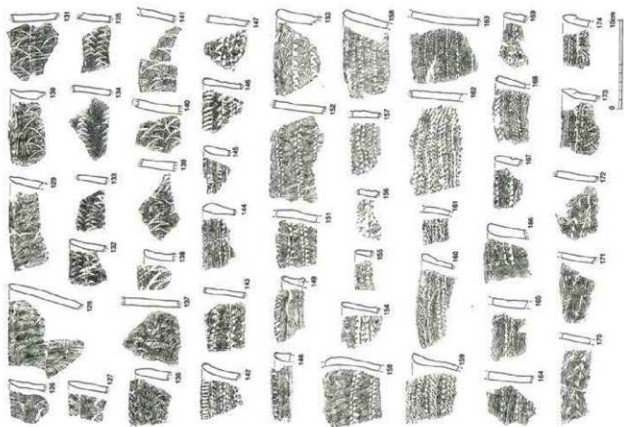
159は小形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部は外反気味で肥厚する。角頭状になる。口縁部～胴部上半には横方向に3～4列毎に異方向の貝殻腹縁文が充填されている。160は小形土器の口縁部破片である。159と同様に横方向の貝殻腹縁文が充填されている。161は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向の貝殻腹縁文が充填されている。162は胴部の大形破片である。横方向の貝殻腹縁文が充填されている。

163は大形の深鉢形土器の胴部破片である。間隔をあけて多段に横方向に貝殻腹縁文が施文されている。164は胴部上半の破片である。間隔をあけて多段に横方向に刺突文が施文されている。165は胴部上半の破片である。中央部分には横方向に2列に刺突文が施文されている。166は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。さらに中程に横方向に2列の刺突文が一部見られる。167は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部外面と口縁部中程に横方向の刺突文が施文されている。

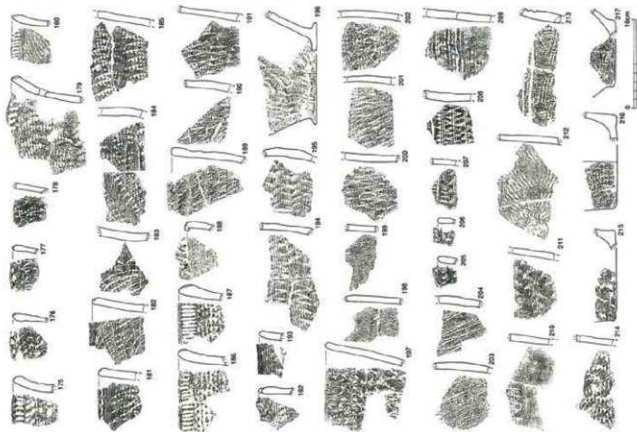
168は小形土器の口縁部破片である。口唇部上面には斜位の刻目文が密に施文されている。口縁部には貝殻腹縁文による上下で異方向の施文が見られる。169は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。全体にやや粗い横方向の刺突文が施文されている。

170はやや小形土器の胴部上半の破片である。やや斜め横方向の貝殻腹縁文による施文が見られる。171・172はともにやや小形土器の胴部上半の破片である。170と似た施文である。

173はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部は外側に折るように成形し尖頭状になる。口唇部外面～口縁部上半にかけて横方向に貝殻腹縁文を充填している。さらに下半には斜め方向の貝殻腹縁文が施文されている。174は173とほぼ同じ文様構成である。



浮島式土器 (7)



浮島式土器 (8)

175は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口唇部外面には貝殻腹縁文を押し出した刺突文が施文されている。口縁部は横方向に貝殻の波状腹縁文をやや引き気味に施文したものである。

176は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内側に肥厚気味である。口唇部上面には刺突文がやや粗く施文されている。口縁部には横方向に貝殻の波状腹縁文が施文されている。177は小形土器の口縁部破片である。176とはほぼ同じような文様構成である。

178は口縁部下半の破片である。横方向にやや大きめの貝殻の波状腹縁文が施文されている。179は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけてのものである。口唇部は外反し尖頭状になる。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部は横方向に貝殻の波状腹縁文をやや引き気味に施文したものである。180はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で尖頭状になる。口唇部外面には縦方向に刻目文が密に施文されている。口縁部には斜め方向に貝殻腹縁文がやや粗く施文されている。

181は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には横方向に棒状工具による刺突文が施文されている。口縁部には大形の貝による波状腹縁文が施文されている。182は口縁部破片である。181と似た文様構成である。183は胴部上半の破片である。大形の貝による波状腹縁文が施文されている。184は口縁部下半の破片である。横方向に大形の貝による波状腹縁文が施文されている。185は胴部破片である。横方向に大形の貝による2段の波状腹縁文が施文されている。

186は大形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭状になる。口唇部外面には縦方向の貝殻による押し引き沈線が施文されている。口縁部には横方向の貝殻腹縁文が押圧施文されている。187は186よりやや口唇部が肥厚気味である。その他は似た文様構成である。

188は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内側に折れ曲げられている。口唇部上面に刻目文が施文されている。口縁部には横方向の条線が密に施文されている。189は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口縁部には横方向の波状腹縁文が施文されている。190は胴部下半の破片である。横方向の波状腹縁文が施文されている。191は胴部下半の破片である。横方向の波状腹縁文が施文されている。

192は小形土器の口縁部破片である。やや波状口縁気味である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向に貝殻腹縁文が押し引き状に施文されている。193は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には横方向に貝殻による波状腹縁文が施文されている。194は胴部破片である。横方向にやや押し引き気味の貝殻による波状腹縁文が施文されている。195は胴部破片である。横方向にやや押し引き気味の貝殻による波状腹縁文が施文されている。196は大形の深鉢形土器の底部である。平底で底面に張り出し部分が見られる。底面付近まで貝殻による波状腹縁文が施文されている。

197はやや大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての接合破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向の貝殻による波状腹縁文が施文されている。198は胴部破片である。横方向にやや小さい貝殻による波状腹縁文が施文されている。199は胴部上半の小破片である。横方向にやや小さい貝殻による波状腹縁文が施文されている。

200は胴部破片である。横方向に大形の貝殻による波状腹縁文が施文されている。201は胴部破片である。やや斜め横方向に大形の貝殻による波状腹縁文が施文されている。202は胴部破片である。横方向にやや引き気味に貝殻による波状腹縁文が施文されている。

203・204はいずれも胴部破片である。斜め方向に貝殻腹縁文が施文されている。

205・206はいずれも小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向に刺突文が施文されている。

207は口縁部下の破片である。横方向にやや引き気味の貝殻による波状腹縁文が施文されている。208はやや大形土器の胴部破片である。横方向にやや引き気味の貝殻による波状腹縁文が多段に施文されている。209はやや大形土器の胴部破片である。横方向にやや引き気味に貝殻による波状腹縁文が細かく多段に施文されている。

210は胴部の破片である。その上位には横方向の貝殻による波状腹縁文が施文されている。さらに下位は無文である。211は胴部下の破片である。全体にやや横斜め方向に貝殻による波状腹縁文が施文されている。212は胴部～底部の一部にかけての破片である。全体に貝殻腹縁文を使って放射状に施文されている。

213はやや大形土器の口縁部下の破片である。横方向に押し引き状に貝殻腹縁文が施文されている。その上半部分を2本の沈線で区画している。214は胴部下の破片である。横方向の貝殻による波状腹縁文と斜め方向の条線で施文されている。215は底部底面の破片である。平底でほぼ直立する。その残存部分は無文である。216は底部底面の破片である。平底でほぼ直立する。ほぼ底面まで貝殻による波状腹縁文が施文されている。217は底部底面の破片である。平底で斜めに立ち上がるため浅鉢形土器になるものと思われる。底部付近まで若干の貝殻腹縁文が見られる。

第4類 興津式土器 (第108・109下図1～126, 図版49上・50)

浮島系の土器の系統を引くもので貝殻腹縁文や沈線文を多用する前期後半の土器群である。1は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部外面には半截竹管による沈線文が密に施文されている。口縁部には横方向の貝殻による刺突文が施文されている。2は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり円頭状になる。口唇部外面には半截竹管による沈線文が密に施文されている。口縁部には横方向の貝殻による刺突文が施文されている。3は口縁部破片である。口唇部付近はやや膨らみ少し外反気味になる。口唇部外面には半截竹管による沈線文が密に施文されている。口縁部には横方向の貝殻による刺突文が施文されている。4は口縁部下の破片である。横方向の貝殻による刺突文が充填されている。

5は口縁部下の破片である。横方向の2本の細沈線で区画された文様帯の下位に縦方向の条線が施文されている。6は口縁部下の破片である。横方向の2本の細沈線で区画された文様帯の下位に縦方向に密な条線が施文されている。7は胴部の小破片である。縦方向の条線と斜め方向の条線が一部重ねられるように施文されている。8は胴部上半の小破片である。2本を単位とする縦方向の条線がやや間隔をあけながら施文されている。9は口縁部の小破片である。口唇部はやや丸みのある尖頭状である。口唇部外面には半截竹管による沈線文が密に施文されている。口縁部には横方向の貝殻による沈線文が密に施文されている。10は口縁部下の小破片である。横方向の横方向の貝殻による沈線文が密に施文されている。11は口縁部下の破片である。横方向の貝殻による沈線文が密に施文されている。

12は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部は外反気味で尖頭状になる。口唇部外面にはやや斜め縦方向に半截竹管による沈線文が密に施文されている。口縁部には横方向の条線が施文されておりその下位ではやや弧状に描かれているのが特徴的である。13は口縁部下の破片である。横方向の条線が密に施文されている。14は胴部上半の小破片である。斜め横方向の条線と縦方向の条線を

組み合わせて施文されている。15は胴部上半の小破片である。縦方向に弧状の条線、さらに横方向の弧状の条線と縦の条線を組み合わせて施文されている。16は胴部破片である。全体に斜め方向の条線と縦方向の条線を組み合わせて施文されている。

17・18はいずれも口縁部破片である。口唇部はやや外よりに尖頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口唇部外面には半葦竹管による密な縦方向の沈線が施文されている。口縁部以下はやや斜め縦方向の条線が施文されている。19は口縁部下半の破片である。縦方向を主体とした条線が密に施文されている。20は口縁部上半の破片である。口唇部外面には半葦竹管による密な縦方向の沈線が施文されている。21は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には半葦竹管による密な縦方向の沈線が施文されている。口縁部以下は縦方向に条線がまばらに見られる。23は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部外面には縦方向に半葦竹管による沈線が施文されている。24・25はいずれも胴部破片である。縦方向に細かい条線が施文されている。26は胴部破片である。縦方向と斜め縦方向の条線がやや密に施文されている。

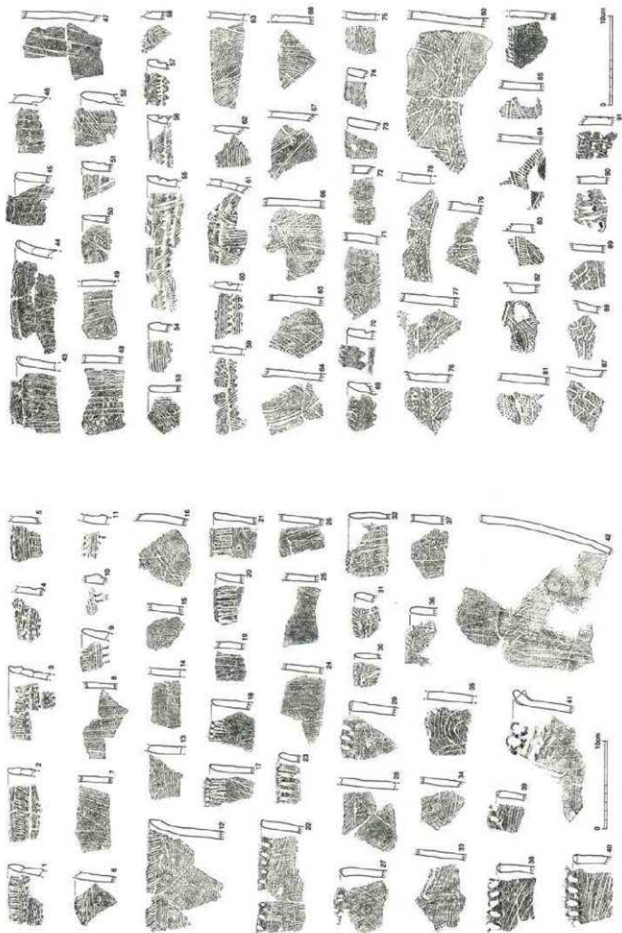
22は口縁部の大形破片である。口唇部はやや角頭気味である。口唇部上面に棒状工具による刺突文が施文されている。さらに口縁部には横方向と斜め縦方向の条線が施文されている。27は口縁部破片である。口唇部は直立気味に立ち上がる。やや尖頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部には斜め方向の条線が粗く施文されている。28は口縁部下半の破片である。斜め方向の条線が粗く施文されている。

29は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口唇部上面には棒状工具による刺突文が施文されている。斜め方向と横方向の条線が粗く施文されている。30は小形土器の口縁部破片である。口唇部はどちらかというと円頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部には斜め方向の条線が施文されている。31は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部には斜め縦方向の条線が施文されている。32は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部には刻目文が細かく施文されている。口縁部には縦方向の条線が密に施文されている。

33は胴部破片である。縦方向に弱い条線がある。横斜め方向には比較的強い条線が密に施文されている。34は胴部小破片である。下方に横方向の条線が密に施文されている。35は胴部上半の破片である。全体に縦・横方向の条線と中程に円弧状の条線が施文されている。36は口縁部の小破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部外面には斜位の細沈線がやや粗く並ぶ。口縁部には斜め方向に粗く条線が施文されている。37は胴部上半の小破片である。縦・横方向の条線が施文されている。

38は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には斜め横方向の条線が密に施文されている。39は口縁部の小破片である。口唇部は円頭状である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条線が施文されている。40は口縁部破片である。口唇部は円頭状である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条線が施文されている。

41は大形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向の条線が密に施文されている。42は大形の深鉢形土器の胴部である。中程に横方向の貝殻による波状腹線が施文されている。全体には縦・横方向の条線が施文されている。43は口



第108图

Yayoi式土器 (1)

Yayoi式土器 (2)

縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部外面は無文でそれ以下には縦方向に密な条線文が施文されている。44は口縁部の大形破片である。口唇部はやや外反気味で円頭状になる。口唇部は無文でそれ以下には縦方向にやや密な条線文が施文されている。

45は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向の条線を施文後に縦方向に強く条線文が施文されている。46は口縁部下半の破片である。全体に縦方向にやや間隔をあげた条線文が施文されている。47は胴部の大形破片である。全体に斜め縦方向にやや間隔をあげた条線文が施文されている。48は胴部下半の破片である。全体に縦方向にやや密に条線文が施文されている。49はやや小形土器の胴部上半の破片である。全体に縦方向にやや強めの条線文が施文されている。50は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。全体に左右斜め方向の条線文が粗く施文されている。51はやや厚みのある口縁部破片である。口唇部は外側が尖り気味である。口唇部外面には横方向に半裁竹管による沈線が施文されている。口縁部には斜め方向に沈線文が施文されている。52は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には縦方向と斜め方向の条線文が密に施文されている。

53はやや波状口縁になる口縁部破片である。全体に縦方向と斜め方向の条線文が密に施文されている。54は口縁部上半の小破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向の条線文が密に施文されている。55は口縁部の横方向に残存した接合破片である。口唇部はやや外側に尖頭状になる。口縁部は横方向の2本の沈線と斜め方向に櫛目状の条線文を主体に施文されている。56は口縁部の小破片である。口唇部はやや外側に尖頭状になる。口縁部には横方向に小さい貝の波状腹縁文が一部施文されている。斜め縦方向に櫛目状の条線文が施文されている。57は口縁部の小破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。口縁部には横方向に小さい貝の波状腹縁文が一部施文されている。斜め縦方向に櫛目状の条線文が施文されている。

58は口縁部下半の小破片である。口縁部には横方向に小さい貝の波状腹縁文が一部施文されている。斜め方向・縦方向の条線がやや粗く施文されている。59は口縁部下半の破片である。斜め方向の条線を左右相互に配置して鋸歯状に施文されている。60は口縁部下半の破片である。口縁部には横方向に小さい貝の波状腹縁文が2段施文されている。全体には横方向の条線が密に施文されている。61は口縁部下半の破片である。縦方向と斜め縦方向の櫛目状の条線文が施文されている。62は口縁部下半の破片である。横方向でやや曲線的な櫛目状の条線文が施文されている。63は口縁部下半の破片である。斜め方向・横方向・縦方向の櫛目状の条線文が施文されている。64～68は胴部破片で62・63と同じ文様構成のものである。

69は口縁部の小破片である。口唇部はやや丸みのある尖頭状である。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は無文である。70は口縁部の小破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には刻目文が施文されている。口縁部は無文である。71は胴部破片である。横方向と縦方向に流水文様の条線が施文されている。72は胴部の小破片である。71と同様な文様が施文されている。73は口縁部の小破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向の櫛目状の波状条線が施文されている。74は73とほぼ同じ文様である。75は胴部上半の破片である。横方向の櫛目状の波状条線が施文されている。

76は胴部破片である。横方向と斜め方向に沈線で区画された文様帯の中に貝殻による刺突文が施文されている。77は胴部破片である。横方向と斜め方向に沈線で区画された中は無文帯で左側と上側に貝殻による刺突文が施文されている。78は胴部上半の破片である。斜め横方向と横方向の沈線で区画された内側に貝殻による刺突文が施文されている。79は胴部上半の破片である。縦方向と斜め縦方向の沈線で区画され

た内側に貝殻による刺突文が施文されている。80は大形土器の胴部の大形破片である。横方向と斜め方向に弧状に区画された沈線の区画内に貝殻による刺突文が施文されている。

81は横・斜め方向の沈線で幾何学的に区画された文様帯の内側に貝殻腹縁文が縦方向に密に充填されている。82は胴部の小破片である。斜め方向に弧状と直線の沈線で区画された文様帯の内側に斜め縦方向に貝殻腹縁文が密に充填されている。83・84は胴部の小破片である。横方向と斜め方向に直線と弧状の沈線で区画された文様帯の内側に貝殻腹縁文が密に充填されている。85は胴部の小破片である。横方向と斜め方向の直線の沈線で区画された文様帯の内側に貝殻腹縁文が密に充填されている。

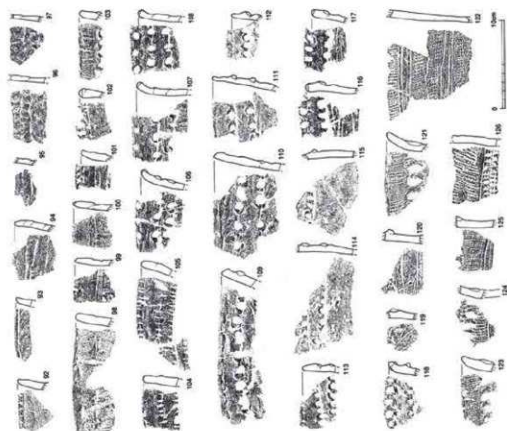
86はやや波状口縁気味の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部外面には斜位に貝殻腹縁文が充填されている。口縁部は無文である。

87は小形土器の胴部上半の破片である。波状に沈線文が横斜め方向に2本施文されている。88は胴部下半の破片である。波状に沈線文が横斜め方向に2本施文されている。下には押し引き沈線文が施文されている。89は小形土器の胴部下半の破片である。波状に2本の沈線文が斜め方向に施文されている。下には沈線が1本施文されている。

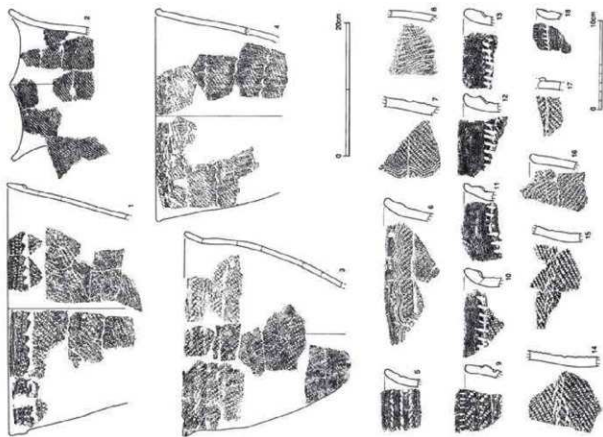
90は胴部小破片である。その中程に貝殻による波状腹縁文が施文されている。91は胴部小破片である。全体に貝殻による刺突文が施文されている。92は口縁部破片である。口唇部はやや細くなり尖頭状になる。口唇部外面に沿って刺突文が施文されている。93は口縁部上半の小破片である。口唇部はやや外よりに尖る。口縁部には斜め方向の貝殻腹縁文が粗く施文されている。94は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には3段の輪積み痕が残されている。無文である。95は口縁部下半の破片である。2段の輪積み痕の他は無文である。96は口縁部下半の破片である。2段の輪積み痕が残されている他は無文である。97は口縁部下半の破片である。2段の輪積み痕の他は無文である。

98は大形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部中程に横方向の沈線が施文されている以外は無文である。99はやや小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部外面には刺突文が施文されている。口縁部中央には横方向に多段の条線文が施文されている。100は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部中程に輪積み痕がある以外は無文である。101は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭状になる。口唇部外面には角押し状の刺突文が施文されている。口縁部中程に輪積み痕が残されている以外は無文である。102は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部上面には棒状工具による刺突文が施文されている。輪積み痕以外は無文である。103は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には縦方向にすだれ状の条線文が施文されている。104は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には中程に横方向の刺突文を伴う隆帯がある。105は口縁部破片で104と似た文様構成である。さらに口縁部下方には横方向に刺突文を伴う隆帯がある。

106は口縁部破片である。口唇部は外反しやや尖頭状になる。口唇部に沿って指頭による刺突文が施文されている。口縁部は輪積み痕に沿って指頭による刺突文が施文されている。107・108はいずれも口縁部破片で似た文様構成である。109はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部は内側がやや尖頭状である。口唇部外面に沿って隆起線状になる。口縁部中程の輪積み痕に沿って指頭による刺突文が施文されている。110はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部は内側が尖り気味である。輪積み痕に沿って2段に指頭による刺突文が施文されている。111は非常に薄い口縁部～胴部上半の破片である。口唇部は細くなるが



興津式土器 (3)



前期末~中期初頭 (1)

円頭状である。口縁部は輪積み痕に沿って2段に指頭による刺突文が施文されている。112は口縁部の小破片である。111の上半部分と似た文様構成である。

113は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。輪積み痕に沿って2段に指頭による刺突文が施文されている。114は薄い深鉢形土器の胴部破片である。胴部には輪積み痕に沿って2段に指頭による刺突文が施文されている。115は薄い深鉢形土器の胴部破片である。胴部には輪積み痕に沿って指頭による刺突文が施文されている。

116・117はいずれも口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には指頭による刺突文が施文されている。口縁部には輪積み痕に沿って指頭による刺突文が施文されている。さらにその下には横方向にやや粗い条線が施文されている。118は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には指頭による刺突文が施文されている。口縁部には輪積み痕に沿って指頭による刺突文が施文されている。

119は口縁部下半の小破片である。斜め方向の沈線と貝殻腹縁文が施文されている。120は口縁部下半の破片である。横方向の沈線と貝殻腹縁文が施文されている。121は口縁部破片である。口唇部は大きく外反し円頭状になる。口縁部には縦方向に貝殻腹縁文による施文が見られる。さらにその下方には横方向に指頭による刺突文が施文されている。122は大形の深鉢形土器の胴部破片である。全体に横方向の貝殻腹縁文を地文に充填しており、2本を単位とする沈線を横方向に2段ずつ上下に2回繰り返し区画している。

123は口縁部の小破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口縁部には縦方向に貝殻腹縁文を充填している。口縁部下方には横方向に指頭による刺突文が施文されている。124・125はいずれも口唇部下半の小破片である。口縁部下方は横方向の押し引き沈線で区画され、上方に縦方向の貝殻腹縁文を充填し地文としている。その中に横方向に指頭による刺突文が施文されている。126は胴部上半の破片である。その上位は縦方向に貝殻腹縁文を充填している。さらに沈線で区画した下方には小さな貝殻による貝殻波状腹縁文が充填されている。

第5類 前期末～中期初頭の土器群（第109上・110図1～82、図版51上・52）

1は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての接合したものである。口縁部は折り返し口縁である。口唇部は円頭状になる。口唇部付近は横方向に連続刺突文が施文されている。口縁部中段より下にはRL縄文が施文されている。2は小形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけて接合したものである。波状口縁でやや外反する。口唇部は円頭気味である。口唇部は押圧施文それ以外は縦方向に縄文を施文している。

3は大形の深鉢形土器の口縁部～底部上半まで接合したものである。口縁部で大きく外反し胴部にかけてやや膨らみ底部が細くすまはり底面は平底になる器形である。4は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけて接合したものである。口唇部はやや外反気味で丸くなる。縦方向にRL縄文が施文されている。

5は口縁部破片である。口唇部は外反しやや円頭状になる。口縁部には横方向に3段押圧縄文が施文されている。6は口縁部破片である。口縁部は折り返し口縁である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口縁部上位には横方向に波状に櫛目状の文様を描いている。口縁部には地文でLR縄文が施文されている。7は胴部の大形破片である。縦方向に波状に櫛目状の文様を描いている。地文として横方向のLR縄文が施文されている。8は胴部破片である。RL縄文を地文として施文されている。

9は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口唇部外面には刻目文が施文されている。口縁部にはLR縄文が施文されている。

10は口縁部破片である。口縁部は折り返し口縁である。口唇部は外反しやや尖頭状になる。口縁部の折

り返し部分に間隔があいた刺突文がある。さらに以下はLR縄文が施文されている。11は口縁部破片である。口縁部は折り返し口縁である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口縁部の折り返し部分に間隔があいた刺突文がある。12・13についても口縁部破片で似た文様構成である。

14・15はいずれも大形の深鉢形土器の胴部破片である。胴部中程に縦線リ文がある。LR縄文が地文に施文されている。16は口縁部破片である。RL縄文が地文に施文されている。17は口縁部下半の破片である。横方向に隆帯があり押圧施文が見られる。以下にLR縄文が施文されている。

18は小形土器の口縁部破片である。口唇部外面に刻目文が施文されている。口縁部以下は無文である。

19は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての接合したものである。口縁部は折り返し口縁である。口唇部はやや外反しやや厚みがあり円頭状になる。口縁部には横位のLR縄文が施文されている。

20は大形の深鉢形土器の胴部破片である。LR縄文が施文されている。21は大形の深鉢形土器の胴部破片である。全体にLR縄文が施文されている。22は口縁部下半の破片である。全体にLR縄文が施文されている。23は胴部破片である。胴部上位では横位のLR縄文が施文されている。下位では縦位のLR縄文が施文されている。

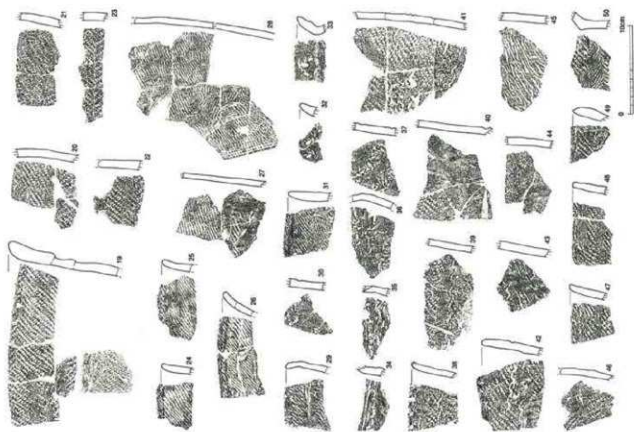
24は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味ですぼまり角頭状になる。口縁部はL縄文が施文されている。25は口縁部破片である。口唇部は外反気味で角頭状になる。口縁部はL縄文が施文されている。26は口縁部破片である。口唇部は外反し角頭状である。口縁部にはL縄文が施文されている。27は胴部の大形破片である。全体にL縄文が施文されている。28は大形の深鉢形土器の胴部～底部にかけて接合したものである。全体にL縄文が施文されているが、底部では条線が施文されている。

29は口縁部破片である。口唇部はやや内曲気味で尖頭状になる。口縁部はL縄文が施文されている。30は口縁部下半の破片である。口縁部上位ではL縄文が施文されている。31は口縁部破片である。口唇部はやや尖頭状になる。全体に縦方向のR縄文が施文されている。32は口唇部に近い部分の小破片である。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には刺突文が施文されている。33は口縁部破片である。口唇部は外反し尖頭状になる。全体に無文である。

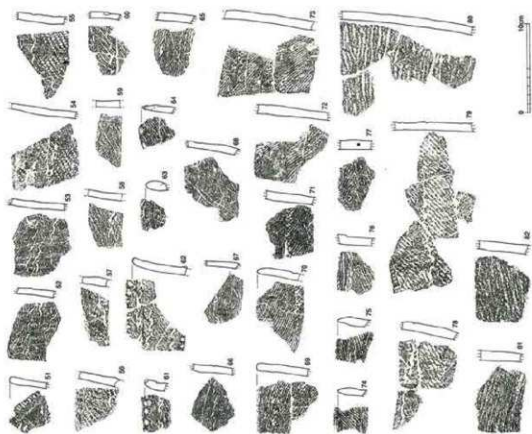
34・35は口縁部下半の破片である。全体に縦線リ文が見られる。36は浅鉢形土器と思われる土器の胴部破片である。そこには縦線リ文が一部見られる。37は胴部的小破片である。そこには斜め方向に縦線リ文が見られる。

38は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で円頭状になる。口唇部上面には刺突文が見られる。口縁部は横位のLR縄文が地文として施文されている。さらに中程に縦線リ文が見られる。39は深鉢形土器の胴部破片である。胴部には横位のLR縄文が地文として施文されている。さらに中程に縦線リ文が施文されている。40は胴部の大形破片である。一部にLR縄文が施文されている。41は大形の深鉢形土器の胴部～底部上半にかけて接合したものである。横位のLR縄文が施文されており、所々に横方向の縦線リ文が見られる。42は大形の深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には縦位のRL縄文が施文されている。所々に縦線リ文が見られる。43は胴部破片である。全体に斜め方向の縄文が施文されている。44は胴部破片である。全体にR縄文が施文されている。45は胴部破片である。やや粗いRL縄文が施文されている。46は胴部～底部上半にかけての破片である。全体に横位のRL縄文が施文されている。

47は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口縁部は縦位のRL縄文で施文されて



前期末~中期初頭 (2)



前期末~中期初頭 (3)

いる。48は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部は横位のLR縄文が施文されている。49は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部は横位のLR縄文が施文されている。50は口縁部下半の破片である。全体に横位のLR縄文が施文されている。さらに下位では縦位のLR縄文が施文されている。

51は波状口縁の口縁部破片である。口唇部外面に沿って刺突文が施文されている。口縁部には縄文が一部見られる。52・53はいずれも胴部破片である。全体に縦方向に単節縄文が地文に施文されている。さらに綾織り文が斜め方向に施文されている。54は大形の深鉢形土器の胴部破片である。全体に縦位のRL縄文が施文されている。55は胴部の破片である。全体に横位のLR縄文が施文されている。さらに横位に綾織り文が施文されている。56は口縁部下半の破片である。全体にLR縄文が施文されている。57は胴部上半の破片である。全体にLR縄文が施文されている。58は胴部上半の破片である。全体にL縄文が施文されている。さらに横位に綾織り文が施文されている。59は胴部上半の破片である。全体にL縄文が施文されている。さらに一部横位に綾織り文が施文されている。

60は小形土器の胴部破片である。全体に横位のL縄文が施文されている。61は口縁部の小破片である。口唇部は尖頭状になる。口唇部外面に沿って刺突文が施文されている。全体に横位の綾織り文が施文されている。62は口縁部の大形破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部にはL縄文を地文に施文し横位の綾織り文が2段施文されている。63は口縁部小破片である。口唇部は肥厚気味で尖頭状になる。口唇部上面には押圧施文が見られる。口縁部下半には縄文が施文されている。64は口縁部破片である。口唇部は折り返し口縁で尖頭状になる。口縁部には横方向のL縄文が施文されている。65は胴部破片である。全体に横方向にのみ状の工具で刺突文が施文されている。

66は胴部上半の破片である。全体は無文である。横方向に一条の綾織り文が施文されている。67は小形土器の胴部上半の破片である。全体には無文と思われるが一部押圧文が見られる。68は胴部の大形破片である。斜め方向に条縄文が粗く施文されている。69は大形深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には縦方向のL縄文がやや緩く施文されている。70はやや大形の深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には縦方向のL縄文がやや緩く施文されている。71はやや大形土器の口唇部下半の破片である。全体に横方向にR縄文が施文されている。72・73はいずれも大形の深鉢形土器の胴部の破片である。全体に横方向のR縄文が施文されている。

74は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部は横方向にL縄文が施文されている。75は小形土器の口縁部小破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部は縦方向にR縄文が施文されている。76は小形土器の口縁部下半の破片である。そこに横方向の隆帯の下に綾織り文を施文し、その下方にR縄文が施文されている。

77は胴部の小破片である。全体に縦方向にL縄文が施文されている。さらに中央横方向に綾織り文が施文されている。78は大形の深鉢形土器の胴部破片である。縦方向のR縄文が充填されている。79は大形の深鉢形土器の胴部大形破片である。全体に縦方向のR縄文が充填されている。

80～82は大形の深鉢形土器の胴部の破片である。全体に縦方向の回転施文による帯縄文が見られる。

(7) 第Ⅶ群 中期の土器 (第111図1～59, 図版53)

2～42までは縄文時代中期前半の阿玉台式土器に比定される土器群である。胎土に雲母が大量に含まれ

るのが特徴的である。1・43～59は縄文時代中期後半の加曾利E式の土器に比定される土器群である。

1は大形の深鉢形土器の口縁部下半～胴部下半までの接合したものである。口縁部下半部に横方向の沈線が2本施文されている。それらと重なる様に波状に沈線が施文されている。さらに縦方向に連続り文を間隔を開けて配置している。全体に縦方向のLR縄文を地文にしている。2は深鉢形土器の底部底面の破片である。全体に縦方向にやや密な連続り文が並ぶ。底部は平底でやや末広がり気味である。3は大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけてのものである。口唇部は外反し円頭状である。やや小波状口縁である。口唇部外面には縦方向の刻目文が施文されている。口縁部上位には横方向の2本の沈線が施文されている。それ以下は無文帯である。

4・5はいずれも深鉢形土器の平底破片である。全体に無文である。胎土には雲母が含まれるのが特徴である。6は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部外面には縦方向の刻目文が施文されている。口縁部には横方向の沈線と刺突文が施文されている。7・8はいずれもやや小形の深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内側に弧状になり断面は尖頭気味である。口唇部外面に沿ってキャタピラ状に施文されその内側を2本の沈線を廻らしながら区画している。区画内は無文である。口縁部下半は沈線で区画されている。9はやや小形の深鉢形土器の口縁部下半の破片である。そこに横方向の多段の沈線と鋸歯状に施文された1本の沈線を施文後、縦方向の3本の沈線が施文され区画されている。

10は小形土器の胴部上半の破片である。全体に横方向の4本の沈線が施文されている。さらに下位では縦方向に沈線を施文され区画されている。11～13はやや小形の深鉢形土器の胴部破片である。全体に縦・横方向の沈線とその内側に細かい刺突文が並ぶ。14は胴部の大形破片である。全体に縦方向に沈線とその内側に細かい刺突文が施文されている。表面はよく磨かれている。15は大形の深鉢形土器の胴部の大形破片である。全体に縦・横方向の多段の沈線とその内側に細かい刺突文が施文されている。内側は無文である。

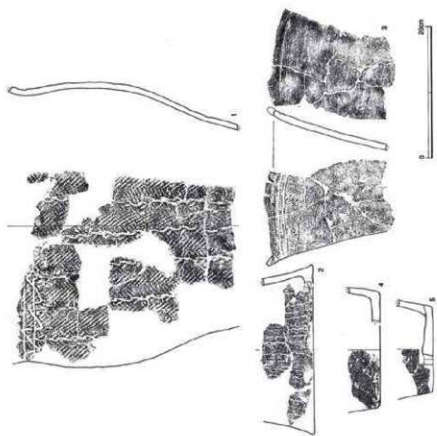
16は口縁部の把手部分の破片である。表面の上面には細かい刺突文が施文されている。裏面側にも細かい刺突文が施文されている。17は口縁部破片である。やや内側に向けた口唇部で尖頭状になる。口唇部と口縁上面に沿って細かい刺突文が施文されている。18は口縁部下半の破片である。全体に横方向に2列の細かい刺突文が施文されている。

19・20は小形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内側に向けた口唇部で尖頭状になる。口唇部上面に沿って細かい刺突文が並ぶ。21は口縁部の小破片である。口唇部はやや細くなり角頭状である。口縁部の内側に横方向に沈線が見られる。口唇部外面に細かい刺突文が施文されている。22は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。口縁部に沿って2段のキャタピラ文が施文されている。

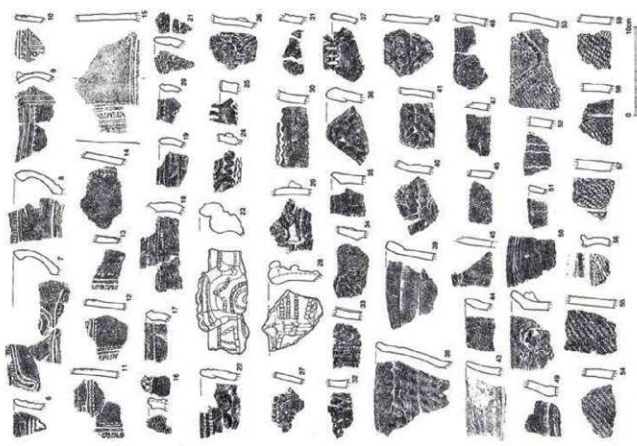
23は深鉢形土器の口縁部の把手部分である。把手部分の周辺を中心にキャタピラ文が施文されている。24は口縁部下半の小破片である。その上位にキャタピラ文の一部が見られる。さらに横方向の刺突により波状に隆帯を作り出している。25は口縁部破片である。やや厚みのある口唇部で角頭状になる。口唇部上面には縦位の沈線文が並ぶ。口縁部には縄文が一部施文されている。

26は小形土器の胴部破片である。その中程に瘤状に隆帯がありさらに右側に沿ってキャタピラ文が施文されている。27は小形土器の胴部破片である。その上位に横方向に刺突文が施文されている。28は深鉢形土器の口縁部の把手部分である。その中央の把手部分より横方向にキャタピラ文が左右に施文されている。

29は口縁部下半の破片である。中央部分に瘤状に隆帯がありその周辺にキャタピラ文が施文され区画さ



中期 (1)



中期 (2)

れている。30は胴部上半の破片である。その上位に横方向に波状の沈線文が施文されている。31は胴部の小破片である。全体に縦方向に2本の沈線が見られる。32は小形土器の胴部破片である。全体に縦方向に2本の沈線が見られる。

33は胴部の小破片である。全体に縦方向に細く隆帯がありそれに沿ってキャタピラ文が施文されている。34は口縁部下半の破片である。全体に左側に細く隆帯が廻る。内外面とも無文である。35は口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で尖頭状になる。下端に細かい刺突文が施文されている。36は波状口縁になった口縁部破片である。口唇部は肥厚している。口縁部の外面はナデ仕上げと思われる。

37は小形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には棒状工具による刺突文が縦方向に施文されている。口縁部は無文である。38はやや大形の深鉢形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部は鱗状にナデ仕上げで行われている。39は口縁部破片である。折り返し口縁で肥厚し角頭状になる。口縁部はナデ仕上げで無文である。

40～42は頸部にかかる破片である。横方向に鱗状にナデ仕上げで無文である。

43・44はいずれも口縁部破片である。口唇部はやや外反し尖頭状になる。口縁部には横方向にL縄文が施文されている。45は口縁部下半の破片である。横方向にR縄文が施文されている。46は口縁部下半の破片である。全体に横方向にR縄文が施文されている。47は胴部上半の破片である。全体に横方向にR縄文が施文されている。48は胴部上半の破片である。全体にナデによる調整が見られる。

49は頸部の破片である。横方向に区画のための沈線が見られる。50は口縁部破片である。口縁部～口唇部にかけて「く」の字に屈曲している。口唇部は円頭状になる。中央部分に瘤状に突起がある。内側には口縁部に沿って沈線が見られる。51は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状である。口縁部には斜め方向に条線が見られる。52は小形土器の胴部破片である。全体に縦方向に3本の沈線が見られる。

53は胴部の大形破片である。地文に縦方向のRL縄文が施文されている。大きく波状に隆帯で区画されている。54は胴部上半の破片である。全体に縦方向にRL縄文が施文されている。55は胴部破片である。全体に縦方向にRL縄文が施文されている。56は小形土器の口縁部下半の破片である。全体に隆帯と沈線で区画されている。地文は縦方向にRL縄文が施文されている。57は胴部破片である。横方向にLR縄文が施文されている。58は小形土器の胴部破片である。全体に縦方向の沈線で区画されている。さらに左側は縦方向にR縄文が施文されている。右側は無文である。59は胴部小破片である。全体に横方向のLR縄文が施文されている。

(8) 第Ⅷ群 後期の土器 (第112～114図1～122, 図版54～56)

1は口縁部の把手にあたる部分である。中央部分は穿孔されている。内外面ともにミガキで調整されている。2は胴部破片である。全体に縦方向の2本の沈線で区画された内側に磨り消し縄文が施文されている。さらに左側の区画は無文に調整されている。3は縦方向の沈線で区画された左側に磨り消しR縄文が充填されている。右側は無文にミガキで調整されている。4は胴部上半の小破片である。「L」字状の沈線と刺突文が見られる。全体がミガキで調整されている。5は胴部小破片である。全体に縦方向に2本の沈線が施文されている。全体がミガキで調整されている。6は口縁部の大形破片である。口唇部は尖頭状になるものと思われる。口唇部外面は磨り消しとミガキで調整されている。それ以下は地文に横方向に磨り消しLR縄文が施文されている。さらに縦・横方向に沈線と波状沈線文で区画されている。7は口縁

部破片である。口唇部外面に沿って横方向に沈線と隆帯で区画された下位に横方向に磨り消しLR縄文が施文されている。8は口唇部の波状口縁部分の上部を削り落としたような形状の破片である。全体に沈線を縦方向に密に区画して磨いている。9は波状口縁部の破片である。口唇部は肥厚気味で尖頭状になる。口縁部には松葉状に条線が充填されている。

10はやや大形の深鉢形土器の胴部～底部の破片である。縦方向に3本の沈線とその左右に波状の沈線が施文されている。11は大形土器の口縁部下半の破片である。地文に磨り消しRL縄文が施文されている。縦・横2本ずつの区画で施文されている。12は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部は縦方向に磨り消しLR縄文が施文されている。

13は小形の深鉢形土器の口縁部～胴部下半にかけて接合したものである。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部には焼成後の補修孔が見られる。全体に横方向の磨り消しRL縄文が施文されている。

14はやや小形の深鉢形土器の口縁部～胴部下半にかけての接合破片である。口縁部に向かってやや広がる形状である。口唇部はやや細くなり角頭状になる。全体に磨り消しLR縄文が施文されている。

15は胴部～底部底面にかけて残存しているものである。胴部中央部分までは縦方向の櫛目状細沈線を中心に施文されている。その上位に横方向に交差する曲線上の細沈線が若干見られる。胴部中央部には横方向の4本を単位とする細沈線と細沈線の間に2本を単位とする交差する曲線様の細沈線が施文されている。底面には不連続な刺突文が見られる。

16は浅鉢形土器の口縁部破片である。口縁部は「く」の字に外反しその後やや内傾斜する。口唇部はやや円頭状になる。口唇部付近に1本、口縁部下半には3本の横方向の区画のための沈線がある。17は16の上半部だけの破片である。

18は浅鉢形土器の口縁部小破片である。口唇部はやや内傾斜し尖頭状になる。口縁部には突帯がありその周りを円弧状に沈線で区画し、さらに横方向に沈線で区画しその内側には磨り消し縄文を充填している。19は小形の浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部には突帯がありその周りを円弧状に沈線で区画し、その下方には沈線と磨り消し縄文が充填されている。

20はやや大形の深鉢形土器の口縁部破片である。口縁部はやや斜めに真っ直ぐ立ち上がる。口唇部はやや尖頭状になる。口縁部は横方向に条線が密に施文されている。21はやや小形の深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけて接合したものである。口縁部はやや広がり気味に真っ直ぐ立ち上がる器形である。口縁部は横方向の条線が密に施文されている。胴部以下には縦方向の条線が密に施文されている。

22は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部上面に沈線がある。口縁部には横方向に沈線と上その側に沿って列点状に刺突文が施文されている。さらに区画内には磨り消し縄文が地文に施文されている。23は小形の深鉢形土器の胴部破片である。全体に横方向に2本の隆帯がありその中に刺突文が施文されている。さらに下半に横方向の沈線があり、その下の区画内に磨り消し縄文が充填されている。24は胴部破片である。全体に横方向に2本の沈線が施文されており、その間に磨り消し縄文が充填されている。25は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内側にやや尖頭状になる。口縁部には磨り消し縄文が施文されている。その下端には横方向の隆帯があり上面に刺突文が見られる。

26は大形土器の破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には縦方向に磨り消しR縄文が充填されている。27は小形の浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。その内面には口唇部直下に2本の沈線が見られる。外面には縦方向の磨り消しR縄文が施文されている。28は浅鉢形土器の口縁部

と思われる破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部内面には口唇部に沿って沈線文が見られる。口縁部外面には縦方向の磨り消し RL 縄文が施文されている。

29は小形の土器で波状口縁になるものである。その内側に2連の渦巻き文の隆帯がある。それらの外面には刻目文が施文されている。30はやや小形の深鉢形土器の口縁部～底部までの破片がやや不連続な状態で復元されている。口縁部に向かってやや外反気味に広がる器形である。口唇部は円頭状になる。口唇部内面に沿って沈線が見られる。さらに外面には全体に縦方向に磨り消し R 縄文が充填されている。

31はやや大形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけて接合したものである。口唇部は大きく外反する。口唇部内側に沿って細い隆帯が見られる。縦方向に磨り消し R 縄文が施文されている。32はやや小形の深鉢形土器になるものである。口唇部内面に沿って沈線が施文されている。口縁部～胴部にかけては磨り消し斜行縄文が施文されている。胴部以下は無文になる。

33は鉢形土器の口唇部のやや欠落したものである。丸底に近い平底である。底部から口縁部にかけて丸く鉢状を呈する。底面には縄文が施文されている。口縁部付近は無文である。胴部以下には横方向の沈線で区画された間に磨り消し縄文が充填されている。34は掘り鉢形になる浅鉢形土器の全体が解るものである。底面には縄文が施文されている。口縁部は横方向の沈線と沈線の間に磨り消し縄文が充填されている。その間に無文帯を挟みもう一度磨り消し縄文が充填されている。底部は無文帯になる。

35は掘り鉢形になる浅鉢形土器の胴部以下が残存しているものである。胴部に2本の横方向の沈線がありその間に磨り消し縄文が充填されている。底部は無文である。

36は浅鉢形土器の口縁部～底部上半にかけての破片である。内曲した口縁部は無文で胴部～底部上半にかけては横方向に多段に沈線で区画しその中には磨り消し縄文が充填されている。

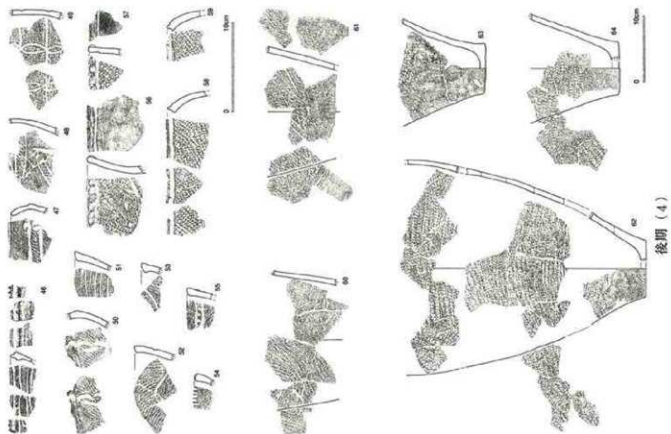
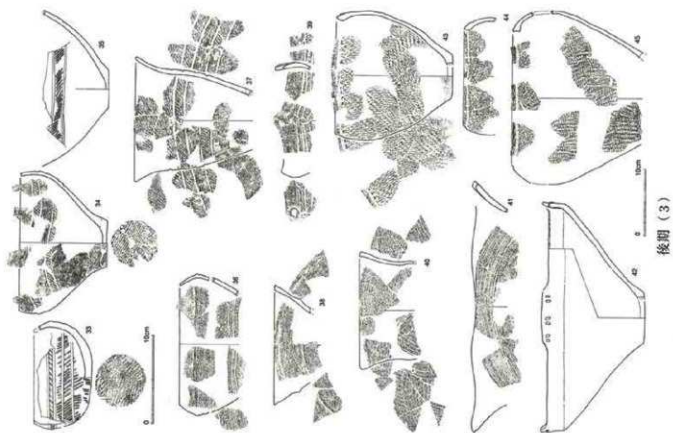
37は深鉢形土器の口縁部～底部上半にかけて接合したものである。胴部でやや膨らみ口唇部で大きく外反する器形である。口縁部には横方向に磨り消し LR 縄文が施文されている。胴部は4本の横方向の沈線で区画され上下には同じく磨り消し LR 縄文が施文されている。中央部分は無文帯である。底部についても無文となる。

38は深鉢形土器の口縁部の大形破片である。口唇部が大きく外に広がる。口縁部中程に横方向に隆帯がある。口縁部下半には斜め方向の条線が充填されている。39は波状口縁になる口縁部破片である。波状部分に円形の沈線と「S」字状の隆帯を設け横方向に沈線で区画された内側に磨り消し縄文が充填されている。40は口縁部～胴部にかけて接合したものである。頸部が「く」の字状に外反している。口唇部は角頭状になる。全面条線により幾何学的文様を描いている。

41は大形土器の口縁部破片である。口唇部は大きく外反し角頭状になる。口縁部には横方向に密な条線が施文されている。口縁部下半以下は無文になる。42は浅鉢形土器である。掘り鉢状になる。口縁部下半で逆「く」の字に屈曲しほぼ直立する。口唇部が一部張り出し気味でそこに列点状の刺突文が見られる。胴部以下は無文で磨かれている。

43は鉢形土器で口唇部がやや内曲する。口唇部直下に横方向の沈線で区画し、それ以下には横方向に磨り消し RL 縄文が施文されている。44は鉢形土器の口縁部破片である。口唇部直下は沈線で区画されている。45は鉢形土器の口縁部～底部上半にかけてのもので口唇部は43より強く内曲している。口唇部直下に横方向の沈線で区画し、それ以下には横方向に磨り消し RL 縄文が施文されている。

46は小形土器の口縁部である。口唇部内側に沿って隆帯を設けている。口縁部外側には横方向に沈線で



第113図

多段に区画し、その中に磨り消し縄文が充填されている。47は浅鉢形土器の口縁部である。口唇部は内傾斜気味で円頭状になる。口縁部上半は無文でその中位以下に横方向の沈線を2本施文し区画している。さらにその中には磨り消し縄文が充填されている。

48は浅鉢形土器の胴部破片である。全体に横方向と斜め方向の沈線で区画された内側に磨り消し縄文が施文されている。49は浅鉢形土器の胴部破片である。全体に横方向の沈線で区画された内側に磨り消し縄文が施文されている。さらに中央縦方向に「8」の字状に沈線が施文されている。50は口縁部破片である。波状口縁と思われるが口唇部分は欠損している。全体に磨り消し縄文で施文されている。51は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚している。口縁部は横方向の細沈線が密に充填されている。52は波状口縁になる口縁部破片である。中央部分に波状に沈線が施文され、その上位に磨り消し縄文が施文され下位は無文になる。53は波状口縁部の一部である。口唇部に沿って沈線で区画されている。その右側に磨り消し縄文が施文されている。54は小形土器の口縁部小破片である。口唇部は肥厚気味で円頭状になる。口唇部には刻目文が施文されている。口縁部には磨り消し縄文が施文されている。55は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部中程に横方向に2本の沈線と刺突文を組み合わせた梯子状の施文が見られる。さらにその下に磨り消し縄文が施文されている。56・57は深鉢形土器の口縁部である。口唇部外面に沿って角押し状の刺突文がありその直下に沈線で区画された文様帯の中に磨り消し縄文が充填されている。

58・59は浅鉢形土器の口縁部である。口唇部外面には横方向の沈線が施文されている。口縁部には縦方向にRL縄文が施文されている。

60は大形深鉢形土器の胴部である。斜め方向の沈線と磨り消し縄文が施文されている。61は胴部下半～底部上半にかけての破片である。胴部下半には磨り消し縄文が施文されている。底部は無文になる。

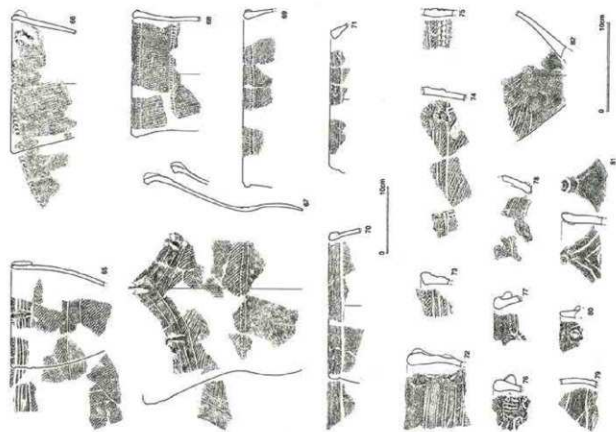
62は大形の深鉢形土器の口縁部下半～底部底面までの接合したものである。底部は比較的小さく胴部が膨らむ器形である。底部上半まで磨り消し縄文が施文されている。それ以下は無文である。63は深鉢形土器の胴部下半～底部の接合破片である。胴部下半には斜め方向の条線と磨り消し縄文が施文されている。底部は無文である。64は深鉢形土器の胴部下半～底部の接合破片である。胴部下半には磨り消し縄文が施文されている。底部は無文である。

65は口縁部～底部上半にかけてのものである。口唇部外面に沿って刻目文が施文されている。口縁部上半には横方向に5段の沈線が施文されている。その間を1か所縦方向の隆帯で区画している。口縁部下半～底部にかけては2本の横方向の沈線で区画された無文帯を間に挟んで上下に磨り消し縄文が施文されている。

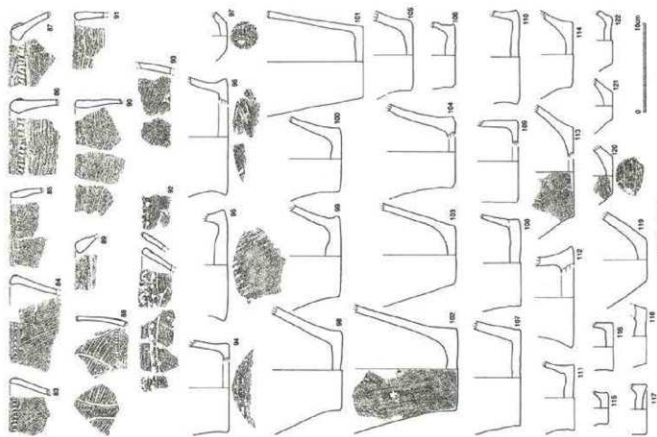
66はやや小形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけてのものである。口唇部外面に沿って刺突文が施文されている。口縁部の1か所縦方向に突帯が見られる。口縁部から胴部にかけて縦方向に密に条線が施文されている。

67は深鉢形土器の口縁部～底部上半までの接合破片である。波状口縁になる。口縁部に沿って沈線で3段に区画し磨り消し縄文・無文・磨り消し縄文と交互に配置している。口縁部下半から胴部にかけて斜め方向の条線を充填し、胴部中央では横方向の刺突文と沈線で区画している。胴部下半以下は斜め方向の条線を磨り消し気味に残している。

68は小形の深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての破片である。口唇部はやや肥厚気味でやや角頭状にな



後期 (5)



後期 (6)

る。口唇部直下と胴部上半に横方向に爪形の刺突文と沈線による区画があり、その間と胴部に縦方向に条線が充填されている。

69は大形土器の口縁部の接合した破片である。口唇部は肥厚している。口唇部直下に横方向の沈線と沈線の間に爪形の刺突文が見られる。以下の口縁部には縦方向と斜め方向の条線で鋸歯状に区画された中に横方向の条線が充填されている。70は大形の浅鉢形土器の口縁部破片である。折り込み口縁である。口縁部には縦斜め方向の条線がやや粗く施文されている。71はやや大形の浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は内傾斜し角頭状になる。口縁部には斜め方向の条線が密に施文されている。

72はやや大形土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。その右側に凹凸のある縦方向の隆帯がある。さらに横方向に沈線で多段に区画しその中に磨り消し縄文を充填したり無文帯を設けたりしている。73は小形の浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚している。口縁部は横方向の細沈線を2本夾んで上下に磨り消し縄文が充填されている。さらに中央部分は無文帯になる。74は浅鉢形土器の口縁部下半の破片である。突帯と3本の沈線に夾まれた内側には磨り消し縄文が施文されている。それ以下には斜め方向に条線が充填されている。

75は胴部の小破片である。横方向の細沈線を3本施文後、それ以下に磨り消し縄文、刺突文が充填されている。76は小形の浅鉢形土器の口縁部破片と思われる。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。突帯があり周辺に刻目文が施文されている。77は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚し円頭状になる。口縁部に突帯がある。さらに沈線で囲んだ区画内には磨り消し縄文が施文されている。

78は浅鉢形土器の頸部にあたる破片である。全体に横方向の沈線と刻目状の刺突文で施文されている。79は胴部破片である。全体に横方向の沈線で囲まれた無文帯を夾んで上下に磨り消し縄文が充填されている。

80は小形土器の口縁部の小破片である。口唇部は円頭状になる。さらに中程に突帯がある。他は無文である。81は波状口縁になる口縁部破片である。その裏面は先端に横方向の沈線で区画されあとは磨かれている。表面は波状口縁に沿って2重の沈線で施文されている。さらに地文に磨り消し縄文が一部見られる。

82は浅鉢形土器の胴部～底部にかけてのものである。胴部には斜め方向の細沈線が主体で施文されている。底部はミガキがあり無文である。

83は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。口唇部に沿って爪形の刺突文が施文されている。口縁部は斜め縦方向の条痕文が施文されている。84は口縁部の大形破片である。大きく肥厚している。口唇部に沿って爪形の刺突文が施文されている。口縁部は斜め縦方向の条痕文が施文されている。85は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部上部の横方向に細かい爪形の刺突文が施文されている。

86は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は肥厚し円頭状になる。口縁部上部に横方向の隆帯を設けその上面に沿って刺突文が施文されている。以下には横・斜め方向に条痕文が充填されている。87は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は内曲している。口唇部外面に沿って隆帯を設けその上面に沿って刺突文が施文されている。88はやや小形の浅鉢形土器の胴部破片である。全体に曲線的な沈線で区画された無文帯を夾んで左右に斜め方向のやや粗い条痕文が施文されている。89は小形の浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は内傾斜し角頭状になる。口唇部外面に斜め方向の条線が密に充填されている。それ以下には横方向の沈線が施文されている。

90は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は肥厚気味で円頭状になる。口縁部には斜め横方向に弧状に条痕文が粗く施文されている。91は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。口縁部には斜め横方向に弧状に条痕文が粗く施文されている。

92は小形の浅鉢形土器の口縁部破片である。内側口唇部付近に沿って円形の刺突文が見られる。やや波状口縁気味の飛び出し部分には半円状の刺突が見られる。口唇部直下に沿って横方向の2列の沈線が施文されている。さらにその間に円形の刺突文が並行する。沈線より下位は無文になる。93は小形の浅鉢形土器の胴部破片である。全体に細かく方向を変えた条線文が密に施文されている。

94~122は底部底面の破片である。94~97・120には底面に網代痕もしくは庄痕文に類したものが見られる。102は大形の深鉢形土器の底部に近い破片であるが器面を磨いて仕上げていることがよく解る。無文である。

(9) 別地区1・2 (東側) 縄文土器 (第115図15~60, 図版57下)

15~24は縄文時代早期熱糸文系の土器群である。15は井草I式(口唇に2段施文が見られるもの)で頸部に条横走縄文の見られるものである。16・17は原体の節が不明瞭で口唇円頭になり上部が肥厚しているものである。縄文時代早期稲荷台式の土器群と思われる。口唇から内面にかけて磨きが入る。18~20・22は口縁部下半の破片で16・17とはほぼ同じ時期の土器と思われる。

21は縦ないし斜め方向の施文が見られる。条の間が比較的開いている。内面にはナデ調整が見られる。

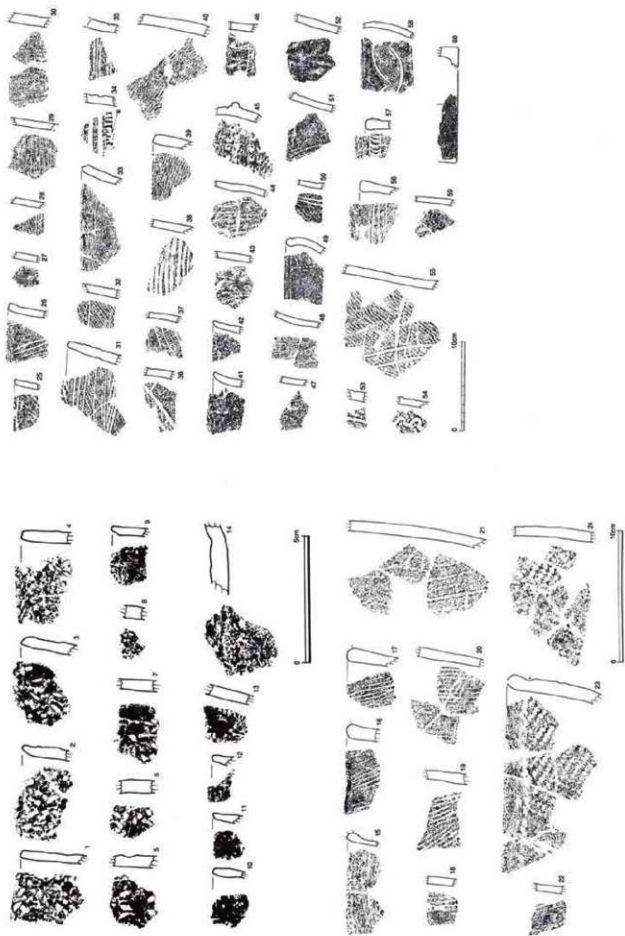
23・24は縄文施文のものである。23は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部は無文で頸部に押圧施文が見られる。以下口縁部には横 RL 縄文が施文されている。24は胴部破片で縦 LR 縄文が施文されている。

25~38は縄文時代早期沈線文系土器群である。そのうち25~33は三戸式土器群と思われる。25は口縁部の小破片で口唇部に沿って沈線が施文され斜め方向に条線が充填されている。26は口縁部破片である。口唇部は外反気味で角頭状になる。縦方向に沈線と貝殻腹縁文が交互に施文されている。27は小形の土器の口縁部下半の破片である。縦もしくは斜め方向の条線が密に施文されている。28は小形土器の胴部上半破片である。横方向の条線と貝殻腹縁文が交互に施文されている。29は胴部上半の破片である。上半は無文で下半に横方向の条線が密に施文されている。30は胴部破片である。横方向の条線が密に施文されている。31はやや大形の土器の口縁部破片である。口唇部はやや内割気味で角頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。さらに横方向の沈線文で区画された文様帯の間に斜め方向の沈線を充填する形で施文されている。さらに間に無文帯を挟む。32は小形の土器の口縁部下半の破片である。横方向の沈線を夾んで上下に斜め方向の条線が比較的密に施文されている。33は口縁部破片である。口唇部は外反しやや尖頭状になる。口縁部には横方向もしくは斜め方向にやや密に条線が施文されている。

34~40は田戸下層の時期のものと思われる。34は胴部上半の破片である。横方向に太沈線が2本施文されておりその下に横方向の爪形の刺突文が充填されている。35は胴部上半の破片である。その上位に横方向の3本の沈線を施文し、無文帯を挟んで横方向の刺突文と沈線が施文されている。36は胴部上半の小破片である。斜め方向の太沈線で区画された内側に横方向の条線が充填されている。37は小形の土器の胴部破片である。全体に斜め方向の条痕文が粗く施文されている。38は胴部破片である。全体に横方向に太沈線が密に施文されている。39は口縁部破片である。口唇部はやや角頭状になる。全体に斜め方向の条線が

别地区(1) (东侧)

别地区(2) (西侧)



密に施文されている。40は胴部下半の破片である。全体に斜め方向の条痕文がやや粗く施文されている。

41～46は縄文時代前期後半の浮島系の土器群と思われるものである。41・42は小形土器の口縁部破片である。いずれも口唇部上面に刺突文が施文されている。口縁部には貝殻腹縁の押圧文が見られる。43は小形土器の胴部破片である。全体に縦方向の貝殻腹縁による縦方向の条線文が施文されている。44は胴部破片である。全体に横方向の貝殻腹縁による横方向の条線文が施文されている。45は口縁部下半の破片である。その中程に横方向に隆帯を設け上下横方向に竹管による刺突文が施文されている。46は胴部小破片である。全体に横方向の沈線でごう画し、上下に波状腹縁文が施文されている。

47～60は縄文時代後期の土器群である。47は小形の深鉢形土器の胴部破片である。全体に横方向の2本の細沈線でごう画されている。その中を縦方向に条線が充填されている。48は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。47と似た文様構成である。49は浅鉢形土器の口縁部破片である。口唇部はやや内曲し円頭状になる。口唇部外面に沿って沈線を通らし、さらに直交して縦方向に細沈線を施文し区画している。全体には磨いてあり無文である。50は小形深鉢形土器の胴部破片である。そこには縦方向に2本の沈線と両側に磨り消しLR縄文が施文されている。51は口縁部下半～胴部上半にかけての破片である。左端に斜め方向の沈線による施文が見られる。全体によく磨かれていて無文である。52は胴部破片である。全体によく磨かれていて無文である。53は胴部の小破片である。縦方向に沈線とその周辺に磨り消し縄文が施文されている。54は胴部破片である。縦方向に「S」字状に蛇行する曲線を沈線で施文し、その周りに磨り消し縄文が施文されている。55は大形の深鉢形土器の胴部付近である。全体に縦方向の磨り消しLR縄文が施文されている。さらに左側斜め方向に2本の平行沈線が施文されている。56は口縁部破片である。口唇部は肥厚しやや角頭状になる。口唇部付近は無文で横方向の2本の沈線でごう画された無文帯を挟んでおり、上下には横方向の磨り消しRL縄文が施文されている。57は口縁部の小破片である。口唇部はやや肥厚し円頭状になる。口縁部上位に横方向の爪形状の刺突文を伴う隆帯が見られる。58は深鉢形土器の胴部破片である。連続する弧状の磨り消し縄文が特徴的である。59は胴部の小破片である。斜行沈線が施文されている。60は底部の大形破片である。器面は磨かれて調整されている。

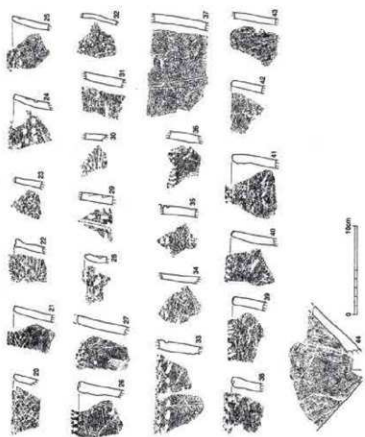
(10) 別地区3・4 (南側) (第116図1～44, 図版57上)

調査区の南東側にあたる。早期の沈線文系の土器群、特に田戸下層並行の土器が多く出土している。1～19は早期沈線文系の土器群である。1は小形土器の口縁部破片である。口縁部には横方向の押し引きの刺突文が施文されている。2は口縁部下半の破片である。横方向の2本の平行沈線と刺突文を交互に配置している。3は大形の深鉢形土器の口縁部破片である。やや波状口縁になる。全体に横及び斜め横方向の細沈線を多段に施文して幾何学的文様を描いている。さらに区画された内側に「ハ」の字状に刺突文が充填されている。4は大形の深鉢形土器の胴部破片である。全体に縦方向と斜め横方向の角押し状の刺突文でごう画された中をそれぞれ細沈線を充填し施文されている。

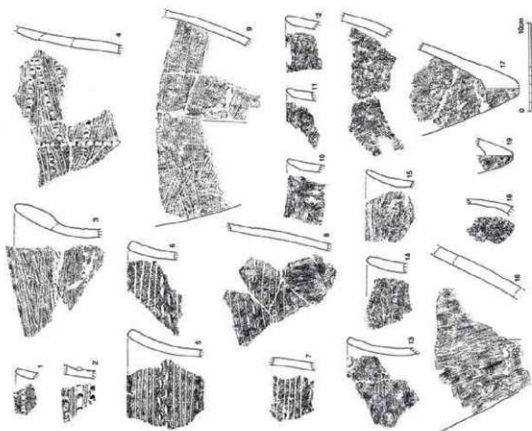
5～8は同一個体に近いと思われる土器片である。5・6は口縁部破片で横方向の細沈線を4本、互い違いの列点状の刺突文を繰り返して施文している。7は胴部破片で細沈線4本を2度くりかえしているのかもしれない。8は胴部～底部にかかる部分で沈線の下は無文となるのが解る。

9は大形の深鉢形土器の胴部である。全体に横方向及び斜め方向の細沈線をやや密に施文し幾何学的文様を描いている。三戸式土器に含まれるのかもしれない。

別地区(4) (南側)



別地区(3) (南側)



10~12は口縁部破片である。無文である。10は内削ぎ気味の口唇部である。13は口縁部~胴部上半にかけての破片である。口唇部は外反し角頭状になる。口縁部は無文である。14は口縁部破片である。波状口縁の一部と思われる。口唇部は円頭状である。無文である。15は口縁部破片である。口唇部は外反し尖頭状である。口唇部付近には横方向に条線文が施文されている。

16は大形深鉢形土器の底部破片である。縦方向の条線が施文されている。17・19は尖底土器の底部である。いずれも無文である。18は底部付近の破片である。無文である。

20~44は早期条痕文系の土器群である。子母口式に並行する土器が多く見られる。20は口縁部破片である。口唇部はやや円頭状になる。全体に斜め方向の条痕文が施文されている。21は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で角頭状になる。口唇部上面は押圧施文、口唇部外面には貝殻文が施文されている。22は口縁部破片である。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向に条痕文が密に施文されている。23は口縁部下半の破片である。全体に斜め方向の条線文が施文されている。24は口縁部破片である。口唇部はやや外反し角頭状になる。口縁部には横方向に角押し状の刺突文が施文されている。25は口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。口縁部には横方向に刺突文が施文されている。26は口縁部破片である。口唇部はやや肥厚気味で円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部外面は無文である。

27は口縁部下半の破片である。その上位には横方向の刺突文が見られる。さらに下位には条線が一部見られる。28は小形の土器の口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部には横方向の刺突文が施文されている。

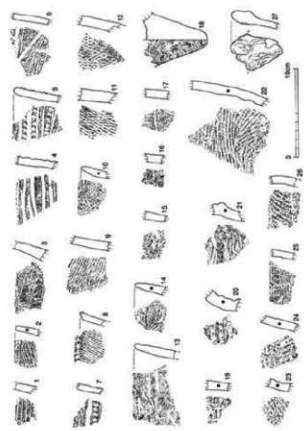
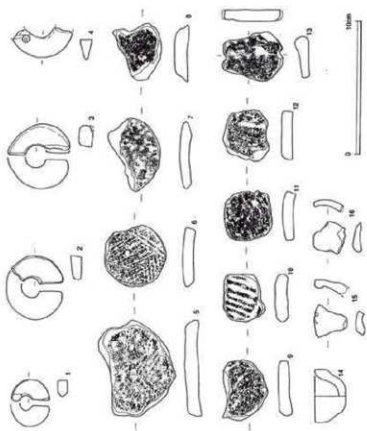
29は胴部の小破片である。全体に縦方向に2本の沈線があり両側に刺突文が見られる。30は小形土器の胴部破片である。横方向に沈線が施文されている。31は胴部破片である。全体に横方向の条線が密に施文されている。32は小形土器の胴部破片である。その上半には円形の刺突文が見られる。

33は大形土器の口縁部下半の破片である。その上位には横方向に2列の列点状の刺突文が施文されている。34は口縁部下半の破片である。全体に斜め方向の条痕文が施文されている。35は口縁部下半の破片である。その上位に横方向の角押し状の刺突文がある。さらに以下には条線が施文されている。36は胴部上半の小破片である。全体に爪形状の刺突文が施文されている。

37は大形土器の胴部破片である。全体に縦方向の条線がやや粗く施文されている。38は口縁部破片である。口唇部は肥厚気味で円頭状になる。口唇部上面には刺突文が施文されている。口縁部には横方向に条線が施文されている。39は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口唇部上面には縦方向に刺突文が施文されている。口縁部には斜め方向の条線文が粗く施文されている。40は口縁部破片である。口唇部はやや外反気味で細くなる。口唇部上面に角押し状の刺突文が施文されている。41は口縁部破片である。口唇部はやや内削ぎ気味になる。口唇部上面には半月状の刺突文が施文されている。42は口縁部の小破片である。口唇部はやや円頭状になる。口縁部には横方向の条線が残されている。43は小形土器の胴部破片である。全体に縦方向の条線が認められる。44は大形土器の底部付近の破片である。全体に調整のための条線が認められる。

(11) 別地区 (67C 地点) (第117下図1~27, 図版58下)

調査区の北側部分にあたる。縄文時代早期沈線文系土器群を主体とする時期の土器が多く出土している。



包含層出土の土製品等

別地区 (67C地区)

第117図

1～12は三戸・田戸下層の時期のものと思われる。1は口縁部下半の小破片である。横方向の細沈線がやや密に施文されている。2は小形土器の口縁部破片である。口唇部は角頭状になる。全体に横方向の細沈線と斜め方向の細沈線と貝殻腹縁文とで施文されている。3は胴部上半の破片である。全体に斜め方向の細沈線を組み合わせて施文されている。4は胴部下半の破片である。全体に横方向の太沈線が比較的密に施文されている。5は口縁部破片である。口唇部は円頭状になる。口縁部上位では横方向の太沈線を多段の施文し、その間に半円状の刺突文を充填している。さらに下位ではやや沈線が斜め方向に施文されている。

6は胴部破片である。全体に斜め方向の太沈線で区画された左右の区画内に横・やや斜め横方向の細沈線を比較的密に充填させている。7は小形土器の口縁部下半の破片である。横方向の太沈線で区画された上側に斜め方向の細沈線、下側に横方向の刺突文が見られる。8は小形土器の口縁部破片である。口唇部は内削ぎ気味で尖頭状になる。口唇部上面に刺突文が見られる。口縁部には縦方向の条痕文が施文されている。

9は胴部破片である。全体に横方向の条痕文が施文されている。10は小形土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には左右斜め方向の細沈線が施文され格子目状になる。11は厚みのある胴部破片である。全体に左右斜め方向の細沈線が施文され格子目状になる。12は11と似た土器の底部付近の破片である。全体に左右斜め方向の細沈線が施文され格子目状になる。

13～22は縄文時代早期条痕文系土器群を主体とする時期の土器である。13は口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。口縁部には斜め方向に条痕文が施文されている。14は小形の土器の口縁部破片である。口唇部は尖頭状になる。胎土には繊維が含まれる。口縁部には斜め縦方向の条痕文が施文されている。15は小形の土器の口縁部下半の破片である。全体に縦方向の条痕文が見られる。

16は小形の土器の口縁部下半の破片である。全体に横方向の沈線が多段に施文されている。17は小形の土器の口縁部下半の破片である。全体に横方向の沈線で区画されている。その上下に縦方向の貝殻施文が見られる。18・19は底部の尖底部分である。調整のみで無文である。

20～24は前期の黒浜式土器である。20・21は口縁部、22・23は口縁部下半にあたる破片である。胎土には多く繊維が含まれる。羽状縄文が施文されている。

25・26は前期後半諸磯式土器の時期の土器と思われる。25は口縁部下半の破片である。全体に横方向の貝殻による条痕文が特徴的である。26は口縁部下半の破片である。全体に貝殻腹縁文が充填されている。

27は中期前半阿玉台あたりの土器と思われる。口縁部の把手部分である。波状口縁部の先端部に作り出されている。

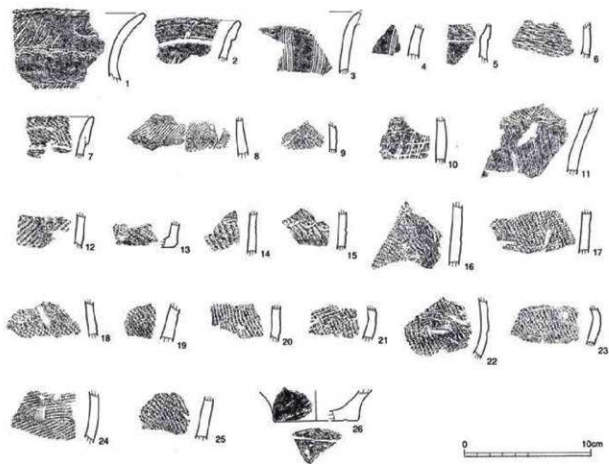
3 包含層出土の土製品等

(1) 扶杖耳飾り (第117上図1～4, 図版18下)

1～4ともに半欠である。4は焼成後の補修孔が見られる。いずれも土器片を再利用されたもので両面とも研磨されているもので縄文時代のものという程度で時期は特定出来ない。

(2) 土器片錘 (第117上図5～13, 図版18下)

5～13はいずれも土器片を再利用されて作られた土錘である。円形や隅丸方向に近い形状に加工されたものが多い。上下に刻み目を作り出しているのが特徴的である。



包含層出土の弥生時代土器

(3) 手捏ね土器 (第117上図14~16, 図版18下)

14~16はいずれも浅鉢形土器を模倣した手捏ね土器もしくは土製品である。14は完形品で口唇部は尖頭状に作られている。施文等は全く見られない。15・16はいずれも一部であるため土製品であること以外不明である。

4 包含層出土の弥生時代土器 (第118図1~26, 図版58下)

1~26は縄文時代の包含層の調査区から整理中抽出された弥生時代の土器片である。遺構等も見られないためここにまとめて掲載することにした。

1は広口の壺形土器の口縁部~頸部にかけての破片である。口唇部外面には斜位の刻目文が施文されている。口縁部にはし縄文が施文されている。さらに横方向に波状沈線が2列施文され区画されている。2は壺形土器の口縁部破片である。口縁部は折り返し口縁である。口縁部下位に縦方向に条痕文が施文されている。3は深鉢形土器の口縁部破片である。口唇部は外反し尖頭状になる。全体に縦方向に2列の櫛目状の文様が施文されている。4は口縁部下半の小破片である。縦方向に2列の櫛目状の文様が施文されている。5は小形の壺形土器の口縁部破片である。口唇部付近は欠損している。口縁部上位は縄文が施文されている。下半は無文で磨かれている。6は胴部破片である。全体に縄文が施文されている。7は口縁部破片である。全体に縄文と刺突文で施文されている。8は長頸壺の頸部と思われる破片である。全体に細かい縄文が施文されている。9は口縁部下半の小破片である。全体に細かい縄文が施文されている。10は胴部上半の破片である。全体に横方向の条痕文を施文後に縦方向に条痕文が施文されている。

11は胴部下半の破片である。その上位部分には左右斜め方向に格子目状の文様が施文されている。下位には斜め縦方向の条痕文が密に施文されている。12は胴部小破片である。全体に細かい縄文が施文されている。13は底部底面の小破片である。全体に細かい縄文が施文されている。14・15は小形の土器の胴部破片である。全体に横方向の押圧施文が見られる。縄文を地文にしている。

16は深鉢形土器の胴部破片である。全体に細かい縄文が施文されている。17は深鉢形土器の胴部破片である。全体に細かい縄文が施文されている。18は壺形土器の胴部上半の破片である。全体に細かい縄文が施文されている。19は底部上半の小破片である。全体に細かい縄文が施文されている。20は胴部小破片である。全体に細かい縄文が施文されている。21は胴部下半の小破片である。全体に細かい縄文が施文されている。さらに途中から横方向に施文されている。22は胴部~底部上半にかけての破片である。全体に細かい縄文が施文されている。23は胴部下半の小破片である。全体に細かい縄文が施文されている。

24は胴部下半の破片である。全体にやや斜め方向に細かい縄文が施文されている。25は胴部下半の破片である。全体に細かい縄文が施文されている。26は底部下半~底面にかけての破片である。底面に圧痕の一部が残されている。

第6表 縄文出土点数表

大グループ	3	グループ		種別	備考	点											合計	比率
		大分類	形式名			Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I			
早期	無文字 押型文	新紋文	粘土小石							1						0	0%	
				三戸・田字	縄文線	14		9	9							32	3%	
					太沈線	12	1	11	16							41	3%	
	式縄文		新紋文		8					11						19	2%	
			新紋文		1					1					2	0%		
			新紋文							2					2	0%		
			田上				3								3	0%		
			小計	底部(欠残)		1									1	0%		
			小計		0	0	27	4	20	39	0	0	0	0	100	8%		
	象嵌文		子母口												0	0%		
			首飾-帯の跡			539	23			1					563	47%		
			芋山				201	15	2	3					221	27%		
			小計	表-裏逆のみ		0	0	840	38	2	4	0	0	0	894	74%		
			小計				2								2	0%		
前期	前期前半		黒浜											0	0%			
			浮島			2			8					10	1%			
	前期後半		十三青塚											0	0%			
			小計		0	0	4	0	8	0	0	0	0	12	1%			
前中-中期	中期		阿玉台						1					1	0%			
			小計						3	9				12	1%			
			小計		0	0	0	0	3	9	0	0	0	12	1%			
後・晩期	晩期					3	2			13				18	2%			
			小計		0	0	3	2	0	13	0	0	0	18	2%			
			小計				61	3	7	21				92	8%			
その他 (無文など)	無文		縄線含まない			31	4	2	20					67	6%			
			縄線含む			0	0	92	7	9	51	0	0	159	13%			
			前期以降	底部											0	0%		
			小計		0	0	976	51	43	117	0	0	0	1,187				

第7表 縄文出土点数表

大グループ	4	グループ		種別	備考	点											合計	比率
		大分類	形式名			Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I			
早期	無文字 押型文	新紋文	粘土小石													2	0%	
																	0	0%
								3	3	5								11
	式縄文	三戸・田字		縄文線			30	2	10	4						46	3%	
				太沈線			111	40	7	5						163	3%	
				新紋文				5	8	18						31	0%	
				新紋文			25	26	4							55	0%	
				新紋文			1									1	0%	
				田上												0	0%	
	象嵌文		小計	底部(欠残)					3	1			1			5	0%	
			小計		0	0	167	76	30	27	1	0	0	0	277	4%		
			子母口				3								3	0%		
			首飾-帯の跡			935	497	10			1				1,443	25%		
			小計	芋山		100	3	2	1						109	5%		
前期	前期前半		芋山			2,324	1,049	51							3,424	53%		
			小計	表-裏逆のみ		0	0	3,365	1,549	62	1	1	0	0	4,979	77%		
			黒浜			7	1	8							16	0%		
			浮島							1	3				4	0%		
			十三青塚			73	124	6	8	9					200	4%		
	前期後半		小計		0	0	80	135	14	9	12	0	0	0	250	4%		
			小計				1	1	1						3	0%		
		中期													0	0%		
				小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	
				小計				17	42	26	1					86	1%	
後・晩期	晩期					1								1	0%			
			小計		0	0	16	42	26	1	0	0	0	87	1%			
			小計				84	40	148	16					288	4%		
その他 (無文など)	無文		縄線含まない			372	150	7	42	1				572	9%			
			縄線含む			0	0	456	190	135	58	1	0	0	840	13%		
			前期以降	底部											0	0%		
			小計		0	0	4,000	1,966	301	96	15	0	0	0	6,474			

第8表 縄文出土点数表

大グループ	5	グループ		点											合計	比率				
		大分類	形式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H			I			
早期	陶器文	押型文	船土小石					11								12	1%			
																	0	0%		
																		9	0%	
	土器文	三戸・田下	縄文線				15	20	22	53	14						164	7%		
							2	9	148	29	2							200	8%	
							3	5	2	19	1								30	1%
							2	45	23	72	3								30	1%
							1	4		13									18	1%
																			0	0%
																			14	1%
	糸織文	小計			0	0	23	85	202	238	23	0	0	0	0	0	456	19%		
																		5	0%	
																			186	8%
																			249	11%
																			435	19%
前期	前期前半	小計		0	0	467	265	55	3	5	0	0	0	0	895	38%				
																	27	2%		
	前期後半	小計																		
	前末～中初	小計																		
	中期	小計																		
	後・晩期	小計																		
その他 (無文など)	無文	小計																		
合計					0	0	735	742	491	450	55	0	0	0	2,353					

第9表 縄文出土点数表

大グループ	6	グループ		点											合計	比率						
		大分類	形式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H			I					
早期	陶器文	押型文	船土小石			1	13	3	4							21	0%					
						1	2	5	13									21	0%			
						1		2	45										48	1%		
	土器文	三戸・田下	縄文線				24	231	712	292	93	2	2				1,356	16%				
							1	119	487	395	154	1							1,159	14%		
							4	4	351	617	95	2								1,029	13%	
							6	142	995	1,172	381	3									1,029	13%
																					104	1%
																					0	0%
																					60	1%
	糸織文	小計			0	0	41	529	2,588	2,578	725	8	2	0	0	4,825	58%					
																				94	1%	
																					64	1%
																					48	1%
																						185
前期	前期前半	小計		0	0	251	69	18	47	6	0	0	0	0	391	5%						
	前期後半	小計																				
	前末～中初	小計																				
	中期	小計																				
	後・晩期	小計																				
その他 (無文など)	無文	小計																				
合計					0	0	916	926	3,300	3,745	1,117	14	13	0	8,385							

第12表 縄文出土点数表

大グリップ	9 グループ		特徴	備考	点										合計	比率				
	大分類	形式名			Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I						
早期	陶器文	押型文															0	0%		
					副文	粘土小石					3								3	0%
	式様文					三戸・田下	縄文線			13	79	133	5					230	14%	
							土流線			3	59	20	3						85	5%
							線線文				52	30							82	5%
							条線文				111	40	1				1		182	9%
							刺突文				5								5	0%
							回上												0	0%
	条線文					小計	成塚(尖底)			3	25	17						45	3%	
							小計	0	0	0	0	19	332	240	9	0	1		530	33%
							子母口				2	31							33	2%
							野島一帯の胎				59	122							181	11%
							芋山				9								9	1%
							於 養老院のみ				2								2	0%
	前期	前期前半				小計			0	0	0	0	61	164	0	0	0	0	225	14%
						黒浜				15	75	10	1					101	6%	
前期後半						踏機									1		1	0%		
						浮島				8	146	17	3					174	11%	
	十三首籠													0	0%					
	小計	0	0	0	0	23	221	37	4	1	0			276	17%					
前末～中期										1	1	1			29		32	2%		
						小計	0	0	0	0	2	4	0	0	0	2		8	0%	
後・晩期					後期										9	39	1	1	50	3%
					晩期													0	0%	
					小計	0	0	0	0	0	9	39	1	0	1		50	3%		
その他 (無文など)	無文					縄線含まない					63	128	201	5		3		410	26%	
						縄線含む					3	45	6	5				59	4%	
						小計	0	0	0	0	66	183	207	10	0	3		469	29%	
						前期以降	成塚					1	5	2				8	0%	
合計					0	0	0	0	175	915	519	26	30	7		1,401				

第13表 縄文出土点数表

大グリップ	10 グループ		特徴	備考	点										合計	比率				
	大分類	形式名			Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I						
早期	陶器文	押型文															1	0%		
					副文	粘土小石												25	4	1
	式様文					三戸・田下	縄文線			11	248	262	126					647	21%	
							土流線				73	228	37						338	11%
							線線文				40	77	1						118	5%
							条線文				330	1,545	296				2		1,563	9%
							刺突文				12								12	0%
							回上												0	0%
	条線文					小計	成塚(尖底)			3	40	86	16					165	5%	
							小計	0	0	0	0	14	403	2,196	475	0	2		1,478	40%
							子母口				14	21							35	1%
							野島一帯の胎				75								75	2%
							芋山				1	45							46	1%
							於 養老院のみ				1	22	10						33	1%
	前期	前期前半				小計			0	0	0	1	90	88	10	0	0		189	6%
						黒浜				27	45	7	16					135	4%	
前期後半						踏機									1		1	0%		
						浮島				10	224	15	56					305	10%	
	十三首籠													0	0%					
	小計	0	0	0	0	37	309	23	72	0	0			441	14%					
前末～中期						阿玉台				1	35	7	87					130	4%	
						小計	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0		8	0%	
後・晩期					後期										3	197	20	1	221	7%
					晩期													0	0%	
					小計	0	0	0	0	0	3	197	20	0	1		221	7%		
その他 (無文など)	無文					縄線含まない					25	209	73	28				385	13%	
						縄線含む					27	107	16					182	6%	
						小計	0	0	0	0	25	386	180	96	0	0		567	18%	
						前期以降	成塚					1			11				12	0%
合計					0	0	0	0	78	1,507	2,726	775	1	3		3,078				

第14表 縄文土点数表

大グループ	1.1 グループ				点											合計	比率
	大分類	形式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I			
早期	無文 押型文										10				0	0%	
		簡素文	粘土小石													10	1%
	沈線文	三戸・田下	縄文線							207	125	8				340	24%
			太沈線								58	28				86	6%
			縞線文								7			1		8	0%
			条線文								458	91				549	39%
			網文													0	0%
			田上													0	0%
	条線文	小計	底層(完成)							3	21	4				31	2%
			子母口		0	0	0	0	0	210	667	121	1	0	0	463	33%
			野島一帯が露出											9		9	1%
			芋山													0	0%
			長 義島前のみ													0	0%
			小計		0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	9	1%
	前期	前期前半	黒浜								105	71	1			227	16%
踏機														0	0%		
浮島														1	3%		
前期後半	十三番堤	小計		0	0	0	0	0	159	72	15	8	3	257	18%		
		小計								13	8				21	2%	
前中～中期	中期	小計													0	0%	
		小計		0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0%	
後・晩期	後期	小計										354	97		451	32%	
		晩期													0	0%	
その他 (無文など)	無文	小計		0	0	0	0	0	0	354	97	0	0	0	451	32%	
		縄線含まない								28	111	12	8		159	11%	
		縄線含む									6	4			10	1%	
		小計		0	0	0	0	0	0	28	117	16	8	0	169	12%	
合計	前期以降	底層		0	0	0	0	0	412	1,234	270	17	3	1,390			

第15表 縄文土点数表

大グループ	1.2 グループ				点											合計	比率
	大分類	形式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I			
早期	無文 押型文										1				1	4%	
		簡素文	粘土小石													0	0%
	沈線文	三戸・田下	縄文線											1		1	4%
			太沈線													0	0%
			縞線文													0	0%
			条線文													0	0%
			網文													0	0%
			田上													0	0%
	条線文	小計	底層(完成)													0	0%
			子母口		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4%
			野島一帯が露出													0	0%
			芋山													0	0%
			長 義島前のみ													0	0%
			小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	前期	前期前半	黒浜													0	0%
踏機															0	0%	
浮島												18			18	72%	
前期後半	十三番堤	小計		0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	18	72%	
		小計													0	0%	
前中～中期	中期	小計													0	0%	
		小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
後・晩期	後期	小計								4					4	16%	
		晩期													0	0%	
その他 (無文など)	無文	小計		0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	16%	
		縄線含まない													0	0%	
		縄線含む										1			1	4%	
		小計		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4%	
合計	前期以降	底層		0	0	0	0	0	4	19	1	1	0	25			

第16表 縄文出土点数表

大グループ	1.3 グループ				点											合計	比率	
	大分類	形式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I				
早期	無糸文 押型文														0	0%		
		副板文		動土小石												0	0%	
			三戸・田下	織成線										1	1	2	4%	
	沈線文			太沈線												1	2%	
				数線文										2	2	4%		
				糸状文												2	0%	
				網文												0	0%	
				田上												0	0%	
	糸状文			底部(穴底)												0	0%	
				小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	7	15%
				子母口											18	18	39%	
				羽島一帯(陸台)												0	0%	
				芋山												0	0%	
				穴・溝(糸状のみ)												0	0%	
前期	前期前半				0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	18	39%		
				黒浜										1	1	2%		
	前期後半			津城											0	0%		
				浮島									11		11	24%		
		十三番館												0	0%			
		小計		0	0	0	0	0	0	0	0	11	1	12	26%			
前末～中期														0	0%			
中期														0	0%			
			小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%		
後・晩期	後期												3	3	6	13%		
	晩期														0	0%		
				0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	6	13%		
その他 (無文など)	無文			縄線含まない											0	0%		
				縄線含む											3	3	7%	
				小計		0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	7%	
		前期以降	底部											0	0	0%		
合計				0	0	0	0	0	0	0	0	14	29	1	46			

第17表 縄文出土点数表

大グループ	1.4 グループ				点											合計	比率	
	大分類	形式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I				
早期	無糸文 押型文														0	0%		
		副板文		動土小石												0	0%	
			三戸・田下	織成線											2	3	5	14%
	沈線文			太沈線												3	9%	
				数線文												0	0%	
				糸状文												5	0	0%
				網文												0	0%	
				田上												0	0%	
	糸状文			底部(穴底)												1	1	3%
				小計		0	0	0	0	0	0	0	0	11	3	9	26%	
				子母口												0	0%	
				羽島一帯(陸台)												0	0%	
				芋山												0	0%	
				穴・溝(糸状のみ)												14	14	40%
前期	前期前半				0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	14	40%		
				黒浜											0	0%		
	前期後半			津城											0	0%		
				浮島											0	0%		
		十三番館												0	0%			
		小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%		
前末～中期														0	0%			
中期														0	0%			
			小計		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4%		
後・晩期	後期												7	3	10	29%		
	晩期														0	0%		
				0	0	0	0	0	0	0	0	7	3	10	29%			
その他 (無文など)	無文			縄線含まない											0	0%		
				縄線含む											0	0%		
				小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	
		前期以降	底部											0	0	0%		
合計				0	0	0	0	0	0	0	0	34	6	35				

第18表 縄文土点数表

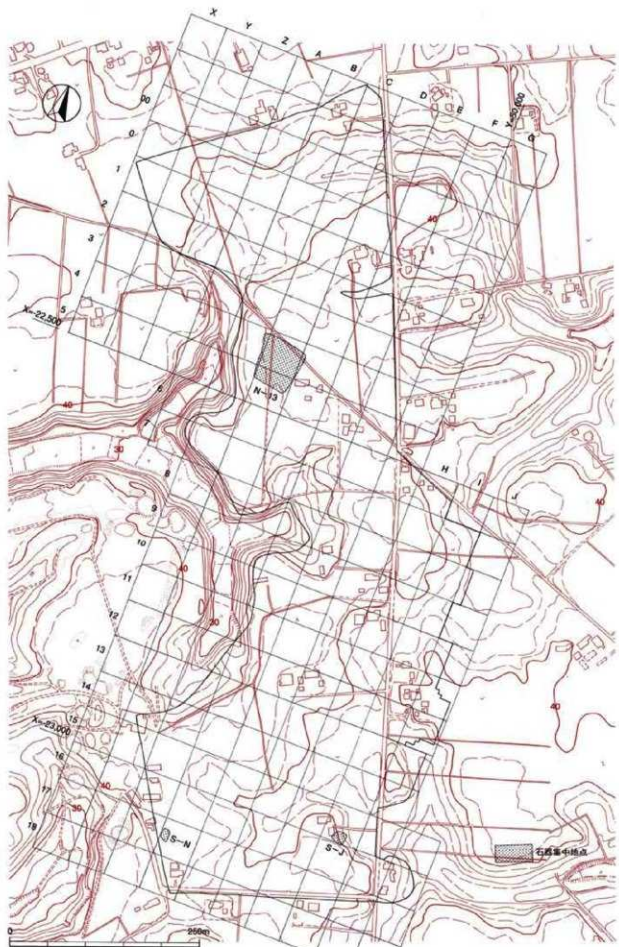
大グループ	1.5 グループ				点 数											合 計	比 率							
	時期	大分類	型式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I									
早期	無文	縄文	胎土小石										8	6		14	9%							
																		0	0%					
																			0	0%				
	沈積文		三戸・田下	縄沈積									5	1	18	14	38	24%						
																	2	2	4	3%				
																			5	5	3%			
																		2	3	2	5	0%		
																					0	0%		
																					0	0%		
																					0	0%		
	条痕文		子母口	野島一帯が露出															0	0%				
																					0	0%		
																						0	0%	
																							0	0%
																							0	0%
																								0
	前期	前期前半		露出															0	0%				
																					0	0%		
																						0	0%	
																						9	4%	
																							0	0%
中期	前期後半		十三音鏡															0	0%					
																						0	0%	
後・晩期	後期		阿玉台																1	1%				
																						1	1%	
																							0	0%
その他 (無文など)	無文		縄縄含まない																0	0%				
																						4	4%	
																							2	2%
																							0	0%
合計						0	0	0	0	0	0	13	54	58	34	157								

第19表 縄文土点数表

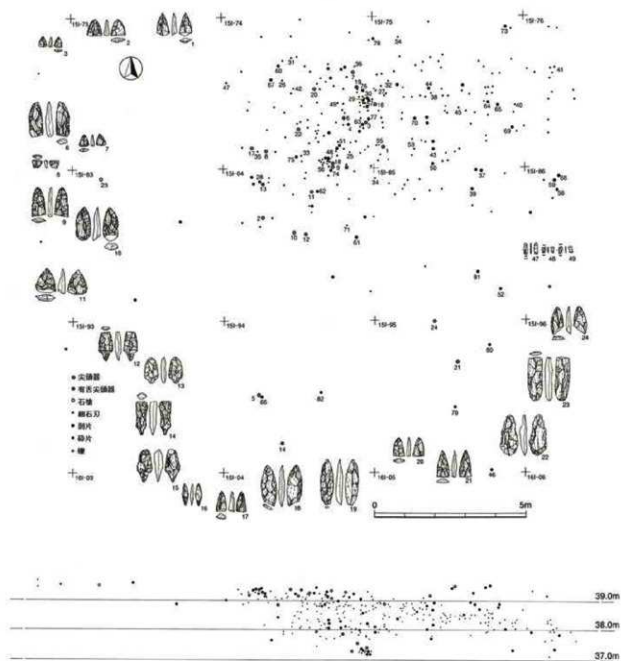
大グループ	1.6 グループ				点 数											合 計	比 率										
	時期	大分類	型式名	特徴	備考	Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I												
早期	無文	縄文	胎土小石															0	0%								
																					0	0%					
																							0	0%			
	沈積文		三戸・田下	縄沈積																0	0%						
																							0	0%			
																								0	0%		
																									0	0%	
																									0	0%	
																									0	0%	
																									0	0%	
	条痕文		子母口	野島一帯が露出																	0	0%					
																								0	0%		
																									0	0%	
																									0	0%	
																										0	0%
																										0	0%
	前期	前期前半		露出																	0	0%					
																							0	0%			
																								0	0%		
																								0	0%		
																									0	0%	
中期	前期後半		十三音鏡																0	0%							
																							0	0%			
後・晩期	後期		阿玉台																	0	0%						
																							0	0%			
																								0	0%		
その他 (無文など)	無文		縄縄含まない																	0	0%						
																							7	7%			
																								2	2%		
																								0	0%		
合計						0	0	0	0	0	0	0	8	0	4	12											

第20表 縄文出土点数表

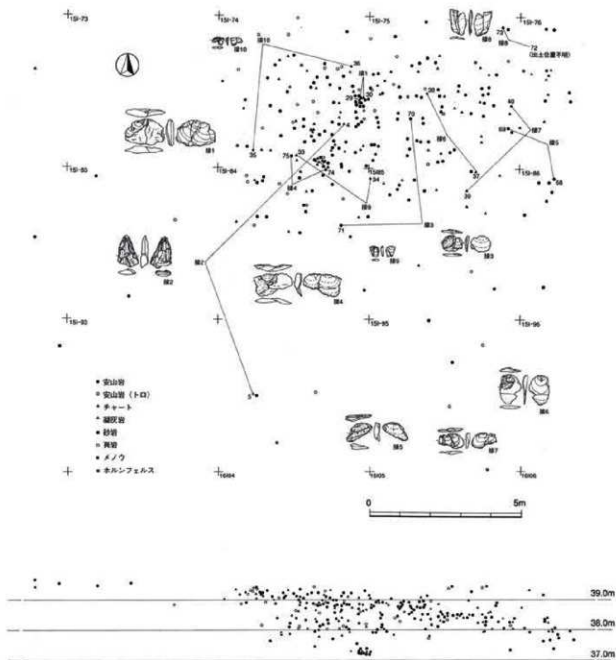
天グリッド	1丁グループ	大分類	形式名	特徴	備考	点											合計	比率	
						Z	A	B	C	D	E	F	G	H	I				
早期	熟土文	押型文	熟土小石														0	0%	
																		0	0%
																			0
	沈積文		三戸・御下	織成織						34				2			36	14%	
				土沈織						3							3	1%	
				織織文						2							2	1%	
				条織文													2	0%	
				新巻文													0	0%	
				田上													0	0%	
				成部(尖底)													0	0%	
	条織文		小計		0	0	0	0	0	39	0	0	2	0	63	17%			
				子母口						14						14	5%		
				野島-藤が島台												0	0%		
				芋山												0	0%		
				長 巻織のみ												0	0%		
	前期	前期前半	黒浜	小計	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	14	5%			
				織織									4			4	2%		
前期後半		浮島	織織												0	0%			
			十三番巻												0	0%			
			小計	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	2%				
前末-中初													0	0%					
中期	阿玉白												1	1	0%				
		小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0%				
後・晩期	後尾											1		1	0%				
		小計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0%					
その他 (無文など)	無文	織織含まない							62						62	24%			
			織織含む					1	139						139	51%			
		小計	0	0	0	0	1	192	0	0	0	0	0	193	75%				
		前期以降	成部												0	0%			
合計			0	0	0	0	1	245	0	4	3	1	256						



第119図 縄文時代石器集中地点全体図



第120图 S - J 地点器種別出土狀況



第121図 S-J地点石材別出土状況

5 縄文時代草創期のS-J地点(第120図~126図1~82, 図版59, 第21・22表)

出土状況 調査区の南東側, 15I-74~15I-75グリッドを中心とする5m×10mの密な範囲とその南側5m程のやや粗い範囲に分布域が見られる。尖頭器等の製品類は広い範囲に分布し碎片や接合資料は北側の密な部分に分布する傾向が認められる。

器種構成 尖頭器類25点, 細石刃3点, 剥片62点, 碎片210点, 礫1点, 礫片1点で構成される。

石材構成 安山岩 A151点, 安山岩 B35点, 凝灰岩21点, チャート53点, 砂岩10点, 頁岩8点, メノウ5点, ホルンフェルス3点, 緑色凝灰岩1点, 硬砂岩1点, 不明石材14点で構成される。他に黒曜石やメノウ製の石鏃が4点出土したが時期が異なるため除外した。安山岩 A が主体をしめる集中地点ということが解る。

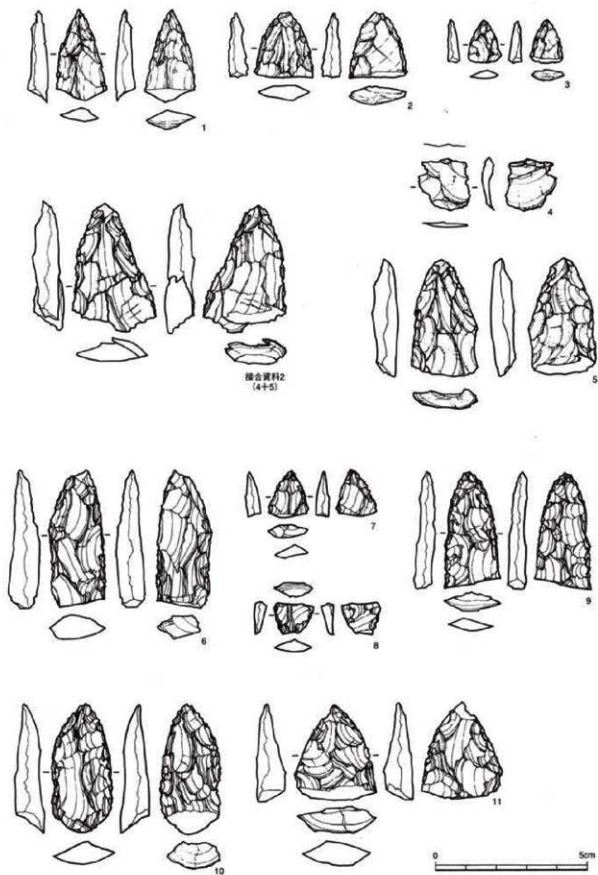
遺物 1は安山岩 A 製の尖頭器である。先端部から中程まで残存しており, 基部は大きく欠損している。細長い柳葉形に近い形状で薄手に仕上げている。先端部の調整は表裏ともに比較的細かい調整で仕上げている。胴部は表裏とも比較的大きな調整で仕上げている。2は安山岩 A 製の尖頭器である。先端部に近い部分のみ残存している。縁辺部に細かい調整を施すことで全体の形状を整えている。縁辺部はやや丸みを持ち, 比較的薄手に仕上げている。

3はホルンフェルス製の尖頭器の先端部分である。表裏とも丁寧な調整が行われている。4と5は接合資料2で風化面がやや薄緑色の凝灰岩製の尖頭器と小剥片が接合したものである。5の尖頭器は4の小剥片との間に隙間のある部分が見られるため4を剥いだ後調整の途中で折れてしまった可能性も考えられる。大きく面的調整を行って石器を製作しているのがよく解る資料である。5の尖頭器は先端部~胴部にかけて残されている。調整そのものは表裏とも比較的丁寧に面的な調整で形状を整え周辺をやや細かく調整している。

6は凝灰岩製の有舌尖頭器の先端部~胴部にかけて残存したものである。外観が白っぽい凝灰岩で焼成を受けたものと思われる。調整そのものは左縁辺部がやや厚みを残すものの大きい面的調整の後周辺部を細かく調整し形状を整えていることが解る。先端部の先端と装着部分の基部側が欠損している。7は凝灰岩製の尖頭器の先端部の破片である。残存部分の調整は表裏ともに丁寧に施されている。やや焼成しているものと思われる。8はチャート製の尖頭器の基部破片と思われるものである。石材はやや青味がかかった灰色で不透明なガラス質の強いものである。表裏とも周辺部を主体に細かい丁寧な調整が施されている。9はチャート製の尖頭器である。先端部~胴部にかけて残存している。灰色で不透明なガラス質の強い石材で黒色の縞模様が見られるものである。先端部は比較的丸みを持ち表裏とも面的調整で大きく剥離した後に周辺部を細かい調整で形状を整えている。

10はチャート製の尖頭器の先端部~胴部にかけて残存したものである。先端部は比較的丸みを持ち, 表裏とも面的調整で大きく剥離した後に周辺部を細かい調整で形状を整えている。11はチャート製の尖頭器である。先端部~胴部にかけて残存している。薄い灰色で網目状の黒い模様が入っているものである。表裏面とも面的調整で大きく剥離した後に周辺部分を細かい調整を入れて形状を整えている。

12は安山岩 A 製の有舌尖頭器である。先端部が欠損している。表面側にはやや旧剥離面を残すものの調整は周辺部分から比較的大きく剥がされている。特に基部調整は細かく丁寧にに行われている。13は砂岩製の有舌尖頭器である。完形品と思われるが, 全体に風化が著しく摩滅している。表裏面とも周辺部より比較的大きめの面的剥離を行った後に細かい剥離で調整し形状を整えている。



第122图 S-J地点出土石器(1)

14はホルンフェルス製の有舌尖頭器である。先端部が欠損している。基部は比較的薄く仕上げているものの胴部から先端部にかけては細長い形状の窪には厚みがありやや棒状になる。表裏面ともやや細かい剥離で縁辺部を整えている。15は砂岩製の有舌尖頭器（未製品）である。先端部の表面側に旧剥離面を瘤状に残しており左側縁部側より除去しようとした痕跡もうかがわれる。その他の部位は表裏面とも縁辺部側より大きな剥離で調整後細かい剥離を施し形状を整えている。特に基部調整は入念に施されている。製作半ばで放棄されたものと思われる。

16は石材不明（粘板岩？）の小形の尖頭器状の石器である。小形の縦長の剥片を逆位に用いている。基部調整は表裏面とも細かい小剥離で丁寧に仕上げている。先端部は縁辺部に沿って微細な剥離を施すことで柳葉形に仕上げている。石錐様の石器かもしれない。17は安山岩 A 製の尖頭器である。基部側が大きく欠損している。表裏面とも縁辺部側より大きめの面的調整を行った後に先端の縁辺部に細かい調整を施し形状を整えている。製作途中で折れた可能性もある。

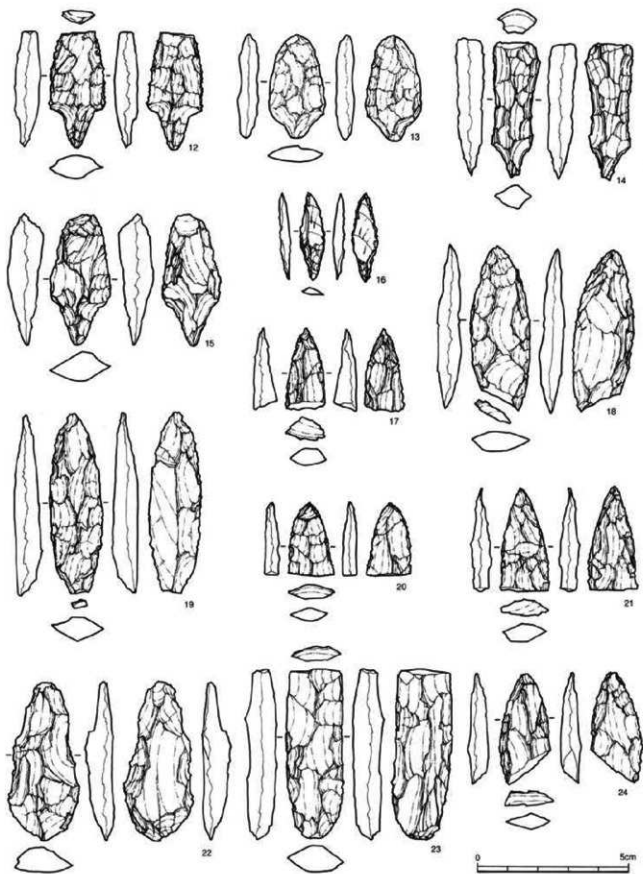
18は安山岩 A 製の尖頭器である。基部の末端部がやや欠損している。表裏面とも調整は縁辺部より大きめの剥離で行った後に縁辺部をさらに細かい剥離で行い形状を整えている。裏側面にやや階段状の剥離面が残されて比較的厚みがあるものである。

19は安山岩 A 製の尖頭器である。基部の末端部と先端部の片側の一部が欠損している。表面の調整は全体に縁辺部から大きめの剥離で比較的粗く調整されている。裏面は先端部側と片側縁辺部にやや細かい調整を施し形状を整えている。20は安山岩 A 製の尖頭器である。基部側が大きく欠損している。表面は縁辺部から大きめの剥離で調整後細かい剥離で調整され形状を整えている。裏面はかなり粗く大きく調整されている。

21は安山岩 A 製の尖頭器である。20同様に基部側が大きく欠損している。表面は先端部側と右片側縁部にやや細かい調整を施し、裏面は縁辺部から大きめの剥離で調整後細かい剥離を施し形状を整えている。22は安山岩 A 製の尖頭器である。先端部は鋭さに欠けており未製品の可能性もある。表面は大きめの粗い階段状剥離気味の剥離で調整されている。中程に瘤状に厚みを残す。裏面は周辺部を中心に細かい剥離で調整されている。中央部分には大きく旧剥離面が残されている。

23は安山岩 A 製の石槍で先端部が欠損している。表面基部はやや細かく丸みを持たせ仕上げている。他の縁辺部は比較的大きめの剥離で調整されている。24は安山岩 A 製の尖頭器で基部が欠損している。表裏面とも周辺部分を中心に比較的細かい剥離で調整されている。使用時に折れたものと思われる。

25～30のチャートは濃緑青色で不透明な石材で同一母岩と思われる。25はチャート製の破片である。右縁辺部に沿って微細剥離痕が認められる。尖頭器製作に伴う破片かもしれない。26はチャート製の破片である。背面は上方向から1面、右方向から1面の剥離面が見られる。右縁辺部に沿って微細剥離痕が認められる。尖頭器製作に伴う破片かもしれない。27はチャート製の破片である。背面には左横方向からの剥離面が残されている。左右側縁部には微細剥離痕が認められる。尖頭器製作に伴う破片かもしれない。28はチャート製の小剥片である。背面はやや右斜め上方向からの剥離面が見られる。尖頭器製作に伴う破片かもしれない。29と30は接合資料1でチャートの剥片同士が接合したものである。元々は横広の剥片で背面には上方向からの剥離面1面と大きく剥離面が残されている。主剥離面には剥片剥離以外に上下方向に加撃痕が認められそのことがこの剥片を折断した直接的な原因となっている。先端の左端部にはやや不連続な剥離痕が見られる。使用痕かもしれない。



第123图 S-J地点出土石器(2)

31~36は同一母岩のチャート製の破片である。やや灰白色はい不透明な石材である。いずれも尖頭器製作に伴う破片かもしれない。33と34は接合資料9で破片同士で接合している。35と36は接合資料10で破片同士で接合している。

37と38は接合資料6で赤色チャート製の元々は1枚の剥片で焼けた状態で検出されている。また背面上には大きく礫面を残している。

39と40は接合資料7で赤色チャート製の破片と小剥片が接合している。背面の右側縁部にはやや礫面が残されている。

41は赤色チャート製の破片である。右側縁部は丸みの残る縁部で円礫を使用して剥片が剥離されたことが解かる。42は凝灰岩製の破片である。背面はほぼ礫面で覆われており、やや被熱して黒ずんだ外観を呈している。43は凝灰岩製の剥片である。やや横長の剥片で左先端部側に丸みのある礫面を残す。44は凝灰岩製のやや縦長の剥片である。被熱してやや薄い褐色を呈している。左側縁の一部と右先端部付近の一部に礫面を少し残す。

45は凝灰岩製の破片である。背面には上方向からの2~3面の剥離面を残している。46はメノウ製の破片である。正三角形に近い形状で右先端部側に小剥離痕が残されている。

47~49は細石刃と思われる資料である。資料的に少量なので細石刃核が検出されていないため剥片剥離に伴う副産物である破片類の可能性も否定できない。47はチャート製の細石刃と思われるもので先端部が欠損している。48はチャート製の細石刃と思われるもので先端部のみ残存している。47と同一の石材と思われる。49はチャート製の細石刃と思われるもので先端部のみ残存している。

50は緑色凝灰岩製の剥片である。背面には多方向からの剥離面が残されている。51はチャート製の剥片である。背面には上方向からの剥離面が6面以上残されている。縁部は全体に鋭いが微細剥離痕等は認められない。52は安山岩 A 製の剥片である。背面側の左側縁部に沿って調整痕と思われる剥離が残されている。右側は剥離された時に折断されたものと思われる。

53~55は安山岩 A 製の破片である。扇形や鱗状になるもので尖頭器等の製作に伴うものと思われる。

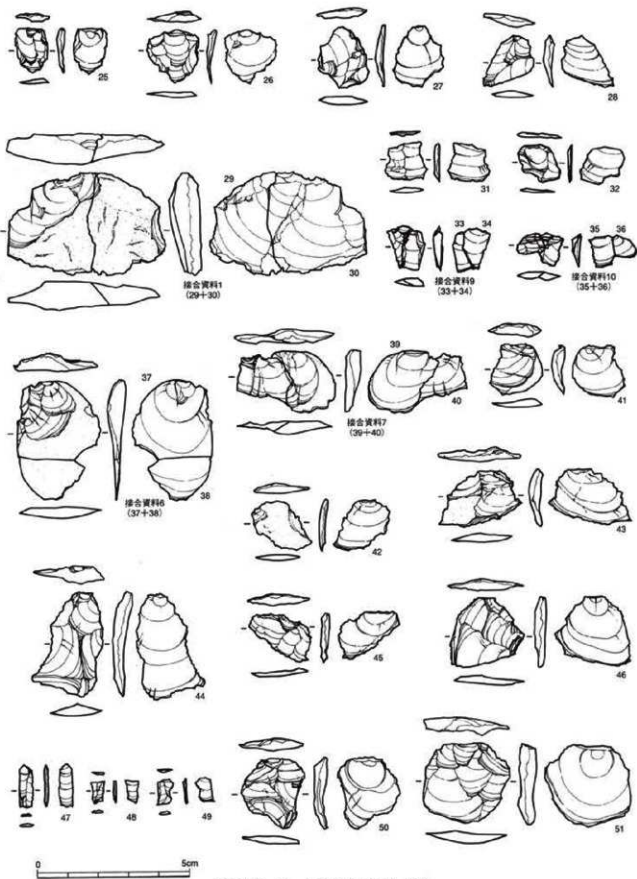
56は安山岩 A 製の小剥片である。背面には上方向からの剥離面が残されており、尖頭器等の製作に伴うものと思われる。57は安山岩 A 製の小剥片である。やや厚みのある剥片で背面には上方向からの2~3面の剥離面が残されている。58は安山岩 A 製の剥片である。横長の薄い剥片で大形の石器（例えば尖頭器等）の製作に伴う剥片と思われる。

59は安山岩 A 製の剥片である。背面には上方向からの剥離面が残されている。尖頭器等の製作に伴う剥片と思われる。60は安山岩 A 製の剥片である。背面には左右方向と上方向からの剥離面が残されている。尖頭器等の製作に伴う剥片と思われる。

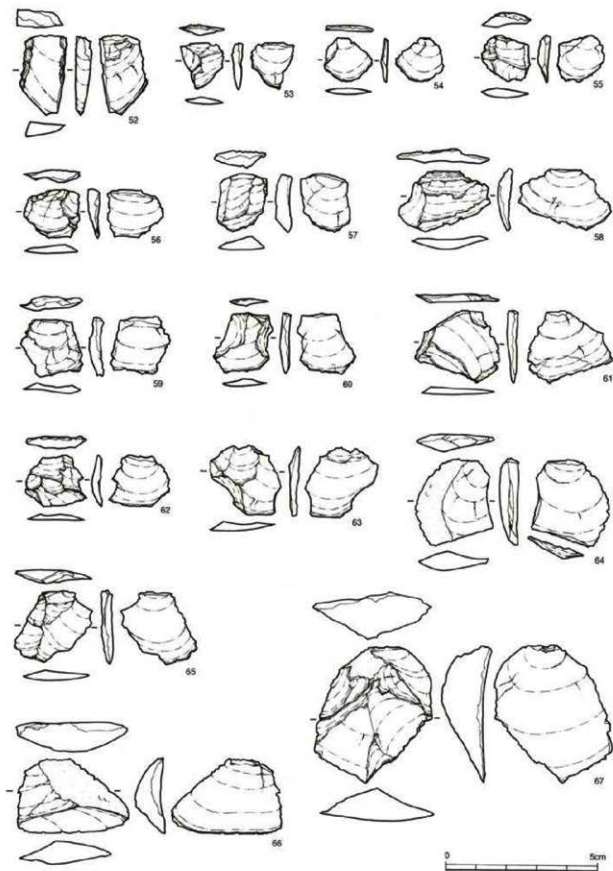
61は安山岩 A 製の剥片である。背面は左下方からの剥離面が残されている。やや節理面に沿って割れた感のある剥片である。62は安山岩 A 製の小形の剥片である。背面には上方向からと左横方向からの剥離面が残されている。尖頭器等の製作に伴う剥片と思われる。

63は安山岩 A 製の剥片である。背面には上方向から3面と左横方向から1面の剥離面が残されている。尖頭器等の製作に伴う剥片と思われる。

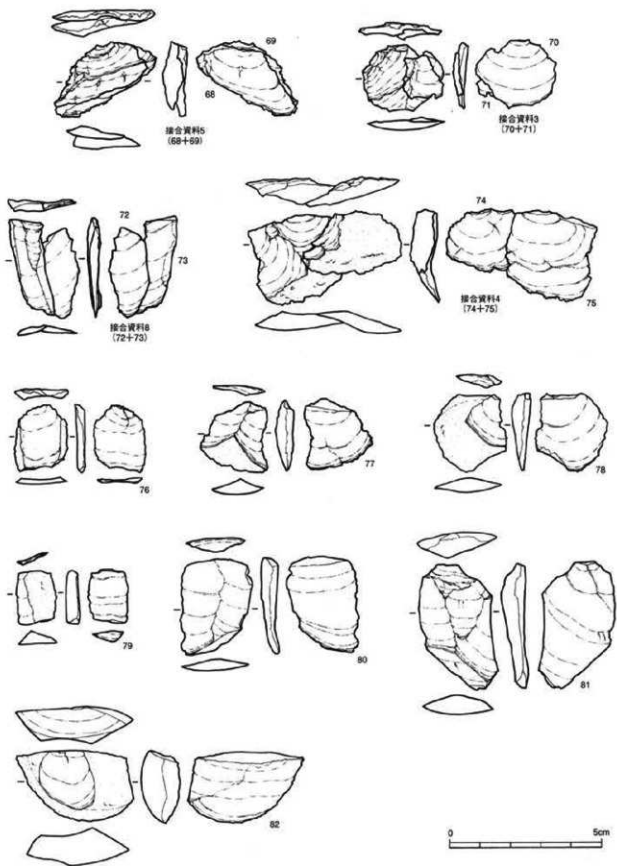
64は安山岩 A 製の剥片である。背面には左側縁に沿って大きく礫面が残されている。また上方向からの剥離面1面も残されている。先端部は大きく折断している。65は安山岩 A 製の剥片である。背面には



第124圖 S-J地点出土石器(3)



第125图 S-J地点出土石器(4)



第126圖 S-J地点出土石器(5)

上方向からの2～3面の剥離面が残されている。尖頭器等の製作に伴う剥片と思われる。

66は安山岩 A 製の剥片である。比較的分厚く背面には上方向からと左横方向からの剥離面が残されている。また大きく礫面が残されている。67は安山岩 A 製のやや大形の剥片である。背面には明らかに左右の縁辺部より尖頭器等に加工しようと大きく剥離していた様子がうかがわれる。尖頭器の未製品ともいうべき資料である。一部礫面を残す。主剥離面側には全く調整がおよんではいない。

68と69は安山岩 A 製の剥片同士が接合したもので接合資料 5 である。両者ともに左側がやや長い比較的小さい横長の剥片である。

70と71は安山岩 A 製の剥片と破片が接合したもので接合資料 3 である。鱗状で両者とも薄いもので尖頭器等の製作に伴うものと思われる。72と73は安山岩 A 製の縦長の剥片同士が接合したもので接合資料 8 である。どちらも縦長で薄い剥片で背面上には上方向からの剥離面が残されている。74と75は安山岩 A 製の剥片同士が接合したもので接合資料 4 である。礫面が大きく残るため円礫を使用したことと剥片剥離の初期段階での剥片であることが解かる資料である。

76は安山岩 B 製の剥片である。いわゆるトロトロ石で風化が著しい。やや縦長の剥片で背面は上方向からの剥離面が残されている。

77は安山岩 B 製の剥片である。やや扇形に先端部が広がる剥片で背面には上方向からの剥離面 2 面と先端部側に大きく礫面が残されている。剥片剥離の初期段階で剥離された剥片である。78は安山岩 B 製の剥片である。丸みのある五角形に近い形状の剥片である。背面は上方向からの剥離面と大きく残された礫面で構成されている。剥片剥離の初期段階で剥離された剥片である。

79は安山岩 B 製の剥片である。背面には上方向からの剥離面 2 面が残されており、刃器状剥片としてもよさそうな形状である。胴部から先端部にかけては折断されている。

80は安山岩 B 製の縦長の剥片で先端部が左に偏って細くなる。縁辺部は摩滅しているため詳細は不明であるが使用した可能性がある。背面にはおそらく上方向からの剥離面が 2 面残されている。

81は安山岩 B 製の縦長の剥片である。胴部でやや膨らみ先端部で細くなる形状である。背面には上方向から 4 面の剥離面が残されている。

82は安山岩 B 製の剥片である。背面中央部に小さな剥離面を残すものの周辺部分に大きく礫面を残す丸みがあり厚みのある剥片である。円礫から比較的早い段階で剥がされた剥片である。

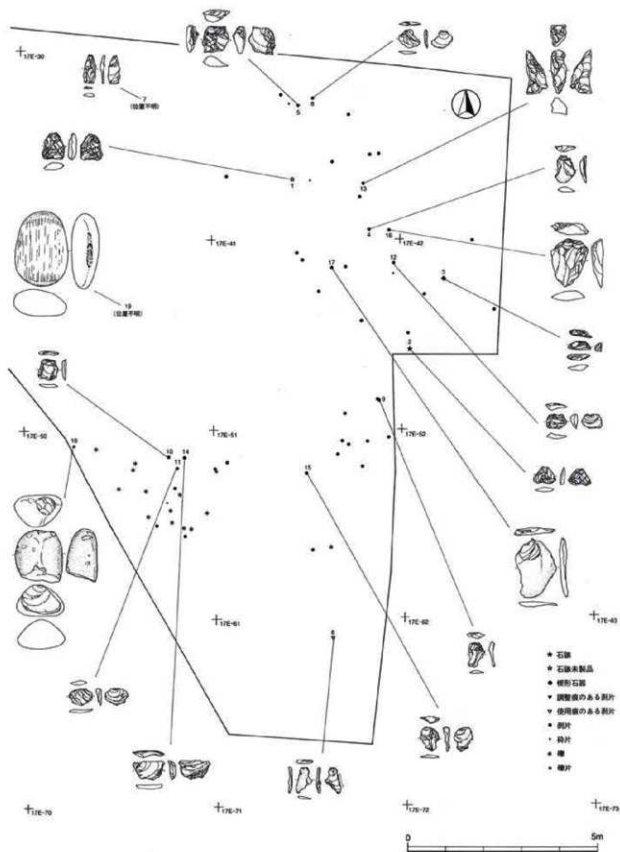
6 縄文時代早期の S-N 地点 (第127図～129図 1～19, 図版59上, 第23・24表)

出土状況 調査区の南側, 17E-31・41グリッドを中心とする範囲と17E-50・51グリッドを中心とする範囲 2 か所にやや密な分布域が見られる。

器種構成 楔形石器 1 点, 石鏃等 2 点, 調整剥片 2 点, 剥片 42 点, 破片 4 点, 磨石 1 点, 敲石 1 点, 礫 15 点, 礫片 2 点で構成される。

石材構成 チャート 43 点, 安山岩 A 7 点, 砂岩 4 点, 凝灰岩 7 点, 石英 1 点, 流紋岩 5 点, 花崗岩 1 点, 不明石材 2 点で構成される。

遺物 1 は灰白色で不透明でざらついた感のあるチャート製の石鏃の未製品である。素材である剥片の両面を比較的大雑把に調整し, 特に基部付近はやや細かい調整を行いながら形状を整え始めた段階で廃棄したような感じである。



第127図 S-N地点器種別出土状況

2はやや不透明な青灰褐色のチャート製の石礫である。薄い小剥片を使用して臀部と基部の調整を細かく調整した段階で終了している。完成させられたかどうかは定かではなくその意味では未完成品とも言うべき資料である。3は2と似た色調のチャートの楔形石器で片面側に礫面を残すものである。また折れてしまっているため加工痕が認められるものの全体の形状は解らない。石礫か石礫のような石器を製作しようとしていたのかもしれない。

4は安山岩 A 製の調整剥片 (R・F) である。やや縦長の不整な剥片で背面は中央部分から先端部にかけて大きく礫面が残る。右縁辺部に沿って細かい調整痕のようなものが残されており石礫等に調整しようとした可能性も考えられる。5は濃青色で不透明なガラス質の強いチャート製の調整剥片 (R・F) である。背面側の左縁辺部に沿った部分の厚みがあり、その部分の表裏に連続的に粗い調整を施して石礫もしくは搔器等の石器を製作しようとしたのではないと思われる。素材の厚みを調整しきれないため廃棄されたものであろう。

6はチャート製の剥片である。背面はほぼ礫面で覆われていて先端部にかけては斜めに広がる形状である。先端部と左縁辺部に調整痕とおぼしき小剥離痕が認められる。

7は珩質頁岩製の縦長の剥片である。先端部は折断している。背面は右側に少し節理面が見られる。上方からの剥離面が2～3面認められる。

8は安山岩 A 製の小剥片である。背面には上下方向からの剥離面が1面ずつ残されている。9はチャート製のやや縦長で先端が細くなった剥片である。背面は左右横方向からの剥離面が大きく残されている。微細剥離痕等は認められない。10はやや青味がかった灰色のチャート製の小剥片である。打面側はやや調整された感があり、縁辺部から先端部は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。11は凝灰岩製の剥片である。打撃面に礫面が残されている。小円礫を使用して剥離されている。背面には右上方向より剥離された剥離面が1面残されている。

12は乳白色に黒の縞状の模様が入るチャート製の剥片である。打面側はやや分厚く先端部に打撃時の微細剥離痕が細かく残されている。13は黒味がかった灰色の珩質頁岩製の剥片で背面には大きく剥片剥離や調整のための小剥離痕が残されている。石核から調整のため大きく剥がされた剥片と思われる。

14は黒味がかった灰色の珩質頁岩製の横広の剥片である。先端部には剥離時に生じた剥離痕が求められる。打面側は折れ面である。15は凝灰岩製の剥片である。11と同母岩になる。背面には右側から2面と上から2面の剥離面が残されている。打面は原礫面で覆われている。

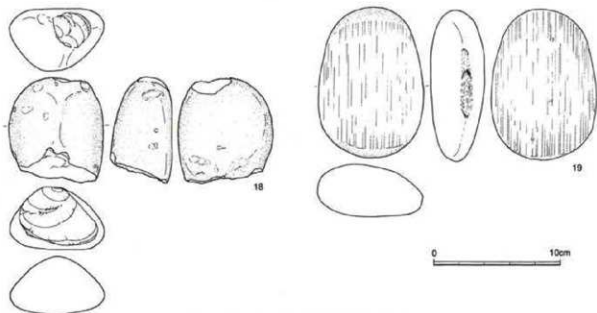
16は安山岩 A 製のやや縦長の剥片で先端部は細く尖る。打面側はやや分厚く調整されているようである。背面は左右方向からの2～3面の剥離面が残されている。右側縁部に小剥離痕が残されている。17は安山岩 A 製の縦長剥片である。背面には剥片剥離時に剥がされた剥離面が1面残されている以外は大きく礫面が残されている。微細剥離痕等は認められない。

18は礫石である。砂岩の楕円礫を使用しており上下に打撃痕を大きく残し打割も見られる。平坦面にも所々に打痕が残されている。若干の被熱による赤化も見られる。

19は磨石である。流紋岩の扁平楕円礫を使用している。出土地点は不明であるがこのブロックに所属するものと思われる。



第128图 S-N地点出土石器(1)



第129図 S-N地点出土石器(2)

7 縄文時代早期のN-13地点(第130図~140図1~190, 図版60・61下, 第25~29表)

出土状況 調査区の北側, 4C~5C大グリッドにかけて大きく分布域が見られる。

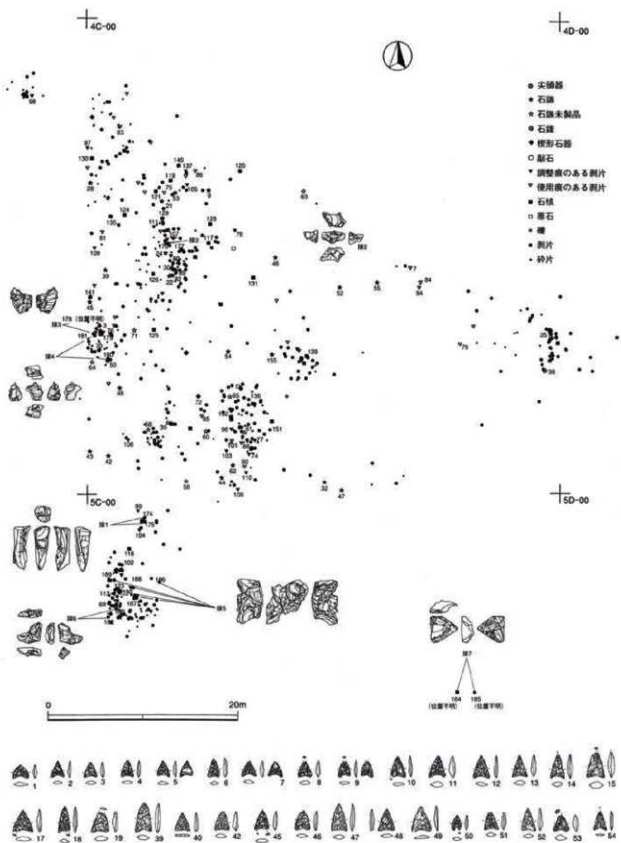
器種構成 主な石器は石鏃68点, 石核31点, 楔形石器3点, 使用痕・加工痕のある剥片39点, 剥片47点, 碎片は多数で構成される。

石材構成 主な石材は黒曜石170点, チャート12点, その他の石材14点で黒曜石が主体を占めるブロックである。ブロックの周辺には細かく石材が散布している。

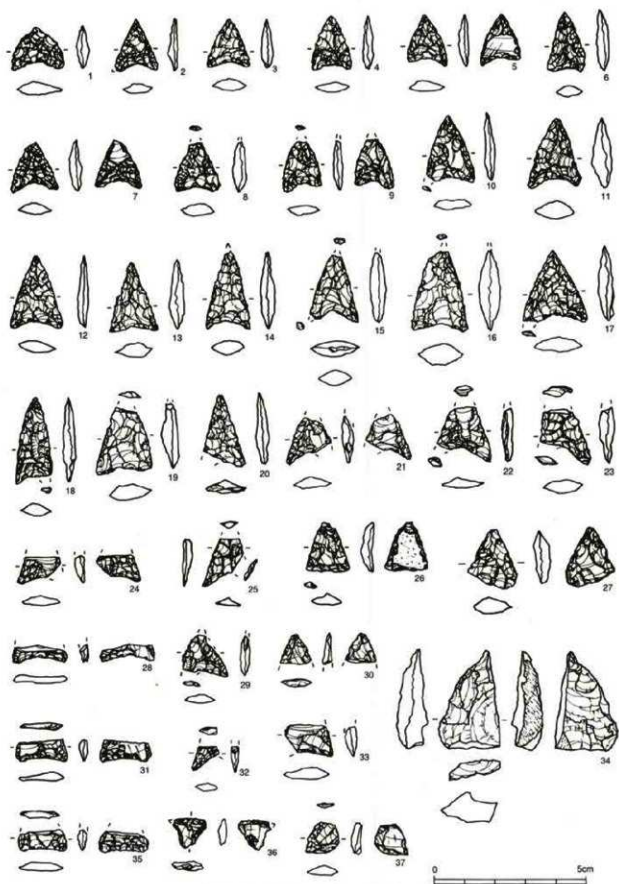
遺物 1はやや透明度のある黒曜石製の石鏃である。全長より横幅のあり側縁部が弧状になる。両面ともに調整を細かく行い丁寧に仕上げている。基部は凹基である。2は透明度の乏しい黒曜石製の石鏃である。やや横幅より全長の長い三角形で両側縁部も直線的である。両面ともに細かい調整で丁寧に仕上げている。基部は凹基でやや浅い。

3は黒味の強いあまり透明度のない黒曜石製の石鏃である。やや横幅より全長の長い三角形である。両側縁部はやや弧状になる。両面とも比較的細かい調整で丁寧に仕上げている。基部は凹基でやや浅い。4は黒味のやや強いあまり透明度のない黒曜石製の石鏃である。横幅より全長の長い二等辺三角形である。両側縁部はやや弧状になる。両面ともに縁部から中央部に向かって比較的丁寧に仕上げている。基部は凹基で弧状気味で浅い。

5は黒味が弱く透明度のある黒曜石製の石鏃である。やや横幅より全長の長い三角形に近い形状になる。先端部はやや尖り気味で側縁部は弧状になる。左脚の方が短く非対称である。表面の調整は縁部から中央部に向かって細かく丁寧に仕上げている。裏面については先端部は細かく丁寧に調整しているが, 他の部分は周辺のみ調整しているだけである。基部はやや凹基気味である。6は黒味が強く透明度のない黒曜石製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状ではあるが右脚部がやや変形気味に仕上がっている。両側縁



第130図 N-13地点器種別出土状況



第131圖 N-13地点出土石器(1)

部は直線的に仕上がってはいるがやや歪む。両面とも細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部はやや凹基気味である。

7は黒味があまりなく透明度の強い黒曜石製の石織である。正三角形に近い形状であるが先端部はやや折断気味に仕上がっているようである。左縁部はやや弧状で右縁部は直線的に仕上がっている。表面の先端部のみ周辺加工で仕上げているものその他は細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部は凹基気味である。

8は黒味が強く凝灰岩質の小粒が混ざる透明度のない黒曜石製の石織である。先端部は少し欠損しているものの横幅よりやや全長の長い三角形に近い形状になる。側縁部左側はやや弧状気味ではあるが右側は直線的である。両面とも細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部はやや凹基気味である。

9は黒味があまりなく透明度の強い黒曜石製の石織である。先端部は少し欠損している。両側縁部はともに弧状になる。右脚部は左脚部と比べてやや短く作られている。両面の調整とも基部付近は細かく丁寧にやられており、先端部にかけてはやや粗く大きく調整されているようである。基部はやや凹基気味である。

10は黒味があまりなく透明度の強い黒曜石製の石織である。左脚部が欠損しているものの元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両側縁部は直線的ではあるもののやや弧状に膨らみ気味である。表面側にはやや旧剥離面を残すものその他の部分と裏面については細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部は凹基気味である。

11は黒味の強い灰色の半透明のチャート製の石織である。二等辺三角形に近い形状で両側縁部は一部膨らみ気味である。厚みのある剥片を素材として使用したためか表面基部側が大きく膨らむ。両面ともやや大きめの剥離で調整されているがその割にはうまく仕上がっている。基部は凹基である。

12は珪質頁岩製の石織である。二等辺三角形に近い形状になる。両側縁は肩の部分がやや膨らみ気味で丸みがある。両面ともに細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部は凹基である。

13は黒色頁岩製の石織である。二等辺三角形に近い形状になる。両側縁は直線的で中央に意図的かどうか不明であるが肩を作り出しているようにも思われる。両面とも細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部は凹基である。14は半透明で灰色がかかったチャート製の石織である。先端部が少し欠損しているが二等辺三角形に近い形状になる。両側縁はやや凹凸が見られる。両面ともに細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部は凹基である。

15は凝灰岩製の石織である。先端部と片脚の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状となるものである。両面ともやや大きめの剥離で調整されている割に整った形状に仕上げられている。基部はかなり凹基になっている。

16は灰色がかかった半透明なチャート製の石織で先端部が一部欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両側縁部はやや右中央部分が張り出すように作られている。両面ともに大きめの剥離で調整されている割に整った形状に仕上げられている。基部はかなり凹基になっている。17は透明度の強い黒曜石製の石織である。片脚の一部が欠損している。元々はやや全長が長めの正三角形に近い形状になるものである。両面ともに比較的細かい剥離で丁寧に調整されている。

18は黒味が強い半透明な黒曜石製の石織である。片脚の一部が欠損している。元々は細身の二等辺三角形に近い形状となるものである。両面とも縁部に沿って比較的大きめの調整で丁寧に仕上げられている。基

部はやや凹基気味に仕上げている。

19はややざらつき感の強い安山岩製の石鏝である。先端部が欠損している。元々はやや幅広の二等辺三角形に近い形状になると思われるものである。表面はやや馬の背状に高くなるようでこちらの面を主に調整して仕上げている。裏面調整は旧剥離面を大きく残しており周辺部分の調整のみで仕上げている。

20は灰色がかった半透明なチャート製の石鏝で片脚が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも比較的細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部は凹基と思われる。

21は黒味があり不透明で光沢がない特徴のある黒曜石製の石鏝である。先端部と片脚部が欠損している。元々は正三角形に近い形状になる。基部はかなり凹基になると思われる。両面とも片脚部分の調整を行い、折れたもう一方に調整を行う途中で折れて廃棄されたような感があり、旧剥離面が大きく残されているようである。

22は黒味の強い不透明な黒曜石製の石鏝である。先端部と片脚の一部が欠損している。元々は正三角形に近い形状になる。基部はかなり凹基になると思われる。両面とも縁辺部に沿ってやや大きめの剥離で丁寧に調整されている。

23は黒味がある不透明なチャート製の石鏝である。先端部と片脚を大きく欠損している。元々は細身の二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも比較的細かい調整で丁寧に仕上げられている。基部は深く抉られた凹基である。

24は黒曜石製の石鏝片である。片脚と基部のみ残存している。片脚部と調整を細かく行っている段階で破損し廃棄した可能性が高い。25は黒味が強くやや透明度のあるチャート製の石鏝である。先端部と片脚部が大きく欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。基部は大きく抉られた凹基になると思われるが調整している段階で折れて廃棄された可能性もある。

26はやや透明度のある黒曜石製の石鏝である。形状はやや全長の方が幅より長い三角形である。表面は縁辺部に沿って細かい剥離で調整されている。裏面は周辺部のみの調整で大きく旧剥離面（風化面？）を残している。基部は殆ど平坦である。あるいは製作途中のものかもしれない。

27はやや透明度のある黒曜石製の石鏝である。片脚が欠損している。形状はやや全長の方が幅より長い三角形になると思われる。両面とも縁辺部を中心に比較的細かい剥離で調整されているが、脚部が折れたことで廃棄されたものと思われる。基部はやや凹基気味である。

28は黒曜石製の石鏝片である。基部のみの破片でやや凹基になる。調整は途中のようにも思われ製作途中で破損して廃棄されてものかもしれない。

29は透明度のある黒曜石製の石鏝である。先端部の一部と片脚を大きく欠損している。脚部を非常に丁寧に調整している段階で破損したものと思われ、その他はあまり調整が入っていない。

30は透明度のある黒曜石製の石鏝片である。先端部のみ残存している。先端部両面とも周辺部に細かく調整を行っている段階で破損したものと思われる。31はやや透明度がある黒曜石製の石鏝片である。基部のみの破片でやや凹基になる。基部の両面に周辺から細かい調整を入れた段階で破損しているため中程まで調整が及んでいない。

32は黒曜石製やや透明度のある黒曜石製の石鏝片である。片脚のみ残存している。両面とも細かい調整が施されている。使用されて破損したものか製作途中で廃棄されたものかは定かではない。

33は黒味が強いあまり透明度のない黒曜石製の石鏝片である。両面の右脚部分の調整を行っている途中

で左脚部分と先端部側が大きく欠損したものと思われる。34は青灰色で楕模様の入ったチャート製の石燄未製品である。両面の周辺部分を大きく調整している段階で真ん中から節理面に沿って折れたものと思われる。

35はあまり透明度のない黒曜石製の石燄片である。基部のみ残存しているもので両面ともこの部分は細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基気味である。使用されて破損したものが製作途中で廃棄されたものかは定かではない。

36は黒曜石製の調整痕のある剥片である。あまりにも小さいためどのような意図で製作された石器かは解らない。37は黒曜石製の調整痕のある剥片である。あまりにも小さいためどのような意図で製作された石器かは解らない。

38は透明度のない黒曜石製の石燄未製品である。片脚を加工している段階で破損したのかもしれない。先端部から胴部にかけては両面とも細かい調整を施している。

39は淡灰色の珪質頁岩製の石燄である。形状は長めの二等辺三角形で両側縁部の先端に近い部分の肩が張り出すように作り出している。両面ともに比較的大きく剥離しながら形状を整えていることが解る。基部は凹基である。

40はやや透明度のある黒曜石製の石燄である。脚部が欠損している。脚部を作り出している時に破損して廃棄されたのかもしれない。元々は二等辺三角形に近い形状になるもので両側縁部はほぼ直線的である。両面とも細かく調整されている。

41はあまり透明度のない黒曜石製の石燄未製品であろう。先端部のみ作り出した時点で素材の基部が薄いため製作出来ないと判断され中止されたのではないと思われる。

42は暗褐色のややガラス質の珪質頁岩製の石燄である。やや全長が短めの二等辺三角形に近い形状で両側縁部はどちらかという直線的である。表面は細かく丁寧に調整されている。裏面は周辺部分のみ調整され中程は旧剥離面をそのまま残している。基部はやや凹基である。

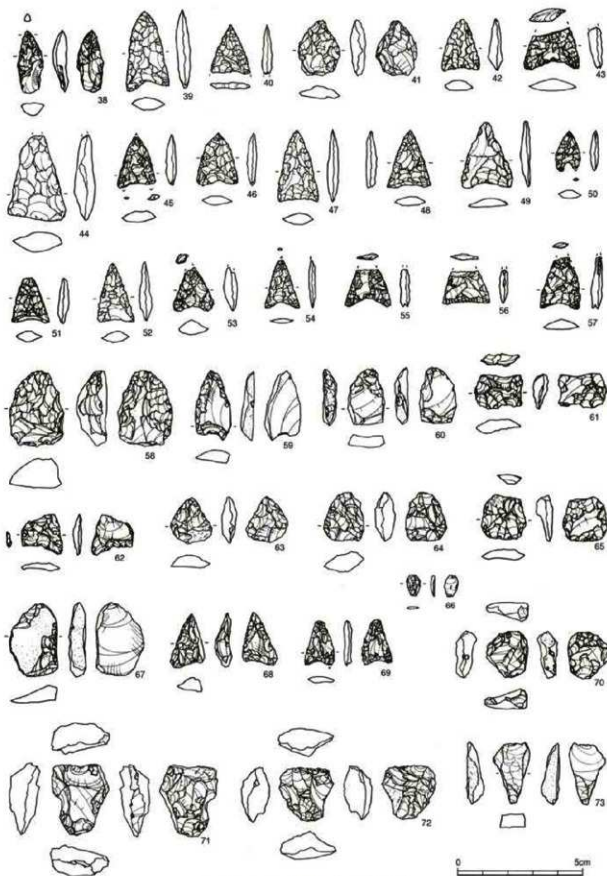
43は小粒の夾雑物が入る黒曜石製の石燄である。先端部が欠損している。基部はかなりの抉りの入った凹基である。残存部分の調整は細かく丁寧にされている。

44はいわゆるトロトロ石と呼ばれる安山岩製の石燄である。二等辺三角形に近い不整形な形状に仕上がっておりあるいは未製品かもしれない。両面とも調整そのものはやや大きめの剥離で行われている。

45は透明度のある黒曜石製の石燄である。先端部と脚部の一部が欠損している。やや全長の短めの二等辺三角形に近い形状で先端部に近い部分にやや張り出し部分を作り出している。そこ以外は両側縁部は直線的である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基気味である。

46は灰色に黒色の楕模様の入ったチャート製の石燄である。全長が短めの二等辺三角形に近い形状で先端部に近い部分にしっかりと張り出し部分を作り出している。そこ以外の両側縁部は直線的である。両面ともに比較的細かい剥離で調整されている。基部は凹基気味である。

47は安山岩製の石燄である。二等辺三角形に近い形状で、両側縁部は全体に緩やかに弧状になる。両面とも非常に細かい剥離で調整が行われている。基部は全体に弧状にくぼむ程度である。48は黒味が強く透明度のない黒曜石製の石燄である。脚部が折れた後にさらに基部調整を行うことで再生した可能性が高い石燄である。二等辺三角形に近い形状で両側縁部ともに直線的に仕上げている。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや凹基気味である。



第132图 N-13地点出土石器(2)

49は安山岩製の石織である。やや幅のある二等辺三角形に近い形状で両側縁部とも直線的に仕上がっている。両面とも調整は周辺部と基部の挟り部分を重点的に行っており中央部分についてはかなり旧剥離面を残している。

50は辻貫貫岩製の石織である。両側縁部は丸みを持つ。調整は非常に細かい剥離で行われている。基部はかなり凹基となる。かなり小振りのものである。51は透明度のある黒曜石の石織である。先端部は一部欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両側縁部はほぼ直線的に仕上げている。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや凹基気味である。

52は安山岩 A 製の石織である。二等辺三角形に近い形状で両側縁部は直線的に仕上がっている。両面とも基部を除いて細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はあまり調整を行っていないため平基に近い。53は黒味が強く透明度のない黒曜石製の石織である。先端部は一部欠損している。元々正三角形に近い形状で両側縁部は直線的に仕上がっている。やや厚みは残すものの比較的細かい剥離で調整されている。基部は凹基である。

54は灰色で不透明なチャート製の石織である。先端部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状で両側縁部は直線的に仕上がっている。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は比較的挟りの入った凹基である。

55はやや透明度のある黒曜石製の石織である。先端部が折断している。やや丸みのある両側縁部で基部は大きく挟りの入った凹基である。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。56は灰色で不透明なチャート製の石織で先端部が欠損している。両面ともに周辺部分を細かい剥離で調整することで仕上げている。基部は平基である。

57は透明度のある黒曜石製の石織である。先端部と側縁部の一部が欠損している。両側縁はやや丸みがある。両面ともにやや細かい剥離で調整されている。基部は挟りをやや入れた凹基である。58は黒く不透明なチャート製の石織未製品である。あるいは搔器かもしれない。非常に厚みのある剥片を周辺部分から大きめの粗い調整で丸みのある三角形に近い形状までに仕上げている。裏面中程まで調整は及んでいない。

59はやや磨りガラス状に半透明な黒曜石製の石織未製品である。表面の基部及び縁部に沿って調整して製作を中止したものと思われる。元々の素材が二等辺三角形に近い形状をしている。60は茶色がかった灰色のチャート製の石織未製品である。厚みのややある剥片を素材として表表面の先端部周辺部分より細かい調整を入れた段階で右側縁の一部が節理面に沿って折れてしまったようである。

61はやや透明度のある黒曜石製の未製品である。脚部を周辺部分から調整していく段階で中程で折れてしまったようである。夾雑物が折断の原因であることが解る。

62は透明度のある黒曜石製の石織である。左側基部が若干欠損している。表表面とも基部調整をやや行って後周辺部分を調整し形状を正三角形に近く仕上げている。基部はやや凹基気味である。63はやや透明度のある黒曜石製の石織未製品である。表表面の先端部から脚部にかけては細かい剥離で調整されている。表面の基部右側には大きく窪みが、裏面には旧剥離面が残されており基部調整を行う前の段階で製作が中止されたものと思われる。

64は不透明な黒曜石製の石織未製品である。厚みの比較のあるもので表面は中程まで細かい剥離で調整されている。表面はほぼ周辺の調整で終了している。基部調整等を行う前の段階で製作を中止したものと思われる。65はやや透明度のある黒曜石製の石織未製品である。表裏とも周辺部分を調整している途中で

折断したと思われる。

66は黒曜石製の石鏃片と思われるものである。あるいは製作途中でじけた破片とも思われるものである。67はやや不透明な黒曜石製の石鏃未製品と思われるものである。素材となる縦長剥片の表面の左先端部と右基部側のみの調整で終えている。右側がやや厚く残るのが途中で止めた原因であろうか。

68は不透明な黒曜石製の石鏃である。右縁辺部側はおそらく製作途中で破損してしまったものと思われる。形状は二等辺三角形に近く基部もやや凹基でそれ以外の調整は両面ともに細かい剥離で丁寧に行われている。69は不透明な黒曜石製の石鏃である。薄く小さな剥片を素材にしているためやや左右が不正で表裏両面とも調整は周辺部に限定されている。二等辺三角形に近い形状で基部は凹基である。

70はやや透明度のある黒曜石製の楔型石器である。左右側縁部に一部原礫面が残されている。左縁辺部に沿って見られる調整は搔器のようでもある。

71は透明度のない黒曜石製の楔型石器もしくは石核であろう。厚みがかなりあるため石鏃未製品とはしなかったが何らかの石器を製作しようと考えていたのかもしれない。表面側には大きく原礫面が残されている。72は透明度のない黒曜石製の楔型石器もしくは石鏃未製品であろうか。左側縁部に沿って細かい調整が見られる。

73はチャート製の剥片である。先端部に打撃痕が残されている。左側縁が節理面、右側縁が原礫面である。大きな剥片が折れたものと思われる。74は不透明な黒曜石製の破片である。左縁辺部に調整痕が残されている。石器製作途中で剥離したものと思われる。

75はやや透明感のある黒曜石製の小剥片である。裏面の右側縁辺部に沿って連続的な小剥離痕が認められる。76は透明感のある黒曜石製の小剥片である。先端部に近い部分の折断剥片で裏面の先端部付近に連続した小剥離痕が認められる。

77はやや不透明な黒曜石製の小剥片である。裏面の右側縁辺部に沿って細かい調整痕が認められる。78はやや透明感のある黒曜石製の縦長の小剥片である。背面に礫面が一部残されている。両側縁部にはやや不連続な小剥離痕が残されている。

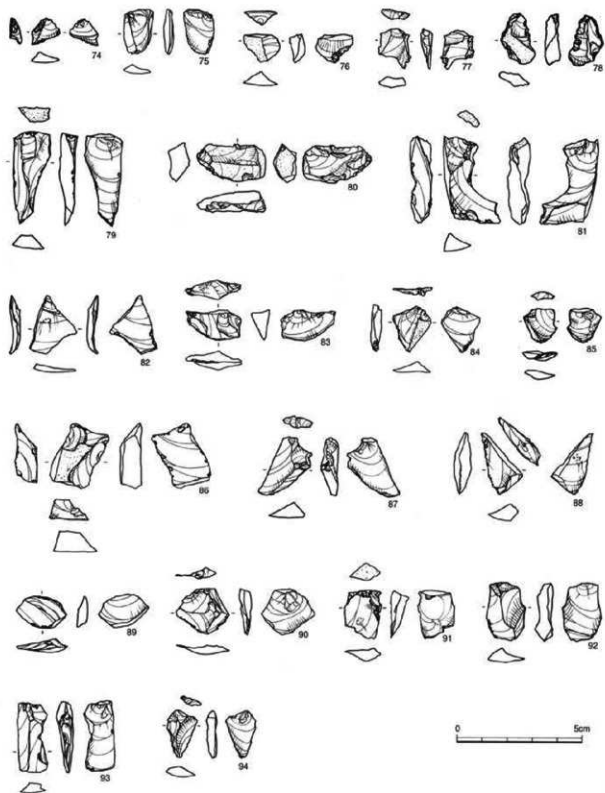
79は透明度の強い黒曜石製の刃器状の縦長剥片で両側縁部に沿って使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。80は不透明な黒曜石製の横長の剥片である。やや厚みのある剥片で右側縁部には原礫面が残されている。先端部の縁辺部に沿って不連続な小剥離痕が残されている。

81はやや不透明な黒曜石製の縦長の剥片で先端部が「L」字状に広がる。打面部に一部先端部の縁辺部に沿ってやや不規則な小剥離痕が認められる。82は透明感のある黒曜石製の小剥片である。両側縁部は折断されており、裏面右先端付近には微細剥離痕が残されている。83はやや不透明な黒曜石製の横長の小剥片である。先端部の縁辺部に沿って連続的な小剥離痕が認められる。

84は透明感のない黒曜石製の小剥片である。背面右側に大きく礫面を残している。先端部に微細剥離痕が認められる。85はやや不透明な黒曜石製の破片である。先端部に微細剥離痕が残されている。

86は比較的透明度の強い黒曜石製の剥片である。厚みのある剥片で背面には大きく礫面が残されている。裏面の側縁部には微細剥離痕が多く認められる。

87は透明度のある黒曜石製の剥片である。打撃面の右側縁付近に右側からの剥離痕と先端部付近に微細剥離痕が残されている。88は不透明な黒曜石製の剥片である。打撃面側が折れ左側縁辺部に沿って連続的な微細剥離痕が残されている。



第133图 N-13地点出土石器(3)

89は透明度のある黒曜石製の小剥片である。打撃面と先端部に僅かに微細剥離痕が認められる。90は透明度のない黒曜石製の小剥片である。菱形に近い形状で右側縁先端付近に微細剥離痕が認められる。91はあまり透明度のない黒曜石の小剥片である。打撃面には原礫面が残されている。右先端側縁部付近には連続的な微細剥離痕が認められる。

92はやや透明度のある黒曜石製のやや縦長の小剥片である。左側縁部から先端部にかけて連続的な微細剥離痕が残されている。93は不透明な黒曜石の刃器状剥片である。背面の右縁辺部は大きな不規則な調整痕が残されている。

94はやや不透明な黒曜石製の小剥片である。逆二等辺三角形に近い形状で右側縁部に沿って微細剥離痕が認められる。95は頁岩製の削器である。やや縦長の剥片を素材にして右側縁部に沿って裏面から背面側に向かってやや大きい剥離で調整されている。打撃面には原礫面が大きく残されている。

96は透明感のない黒曜石製の縦長剥片で先端部が大きく広がる。先端部には打撃痕、両側縁部には微細剥離痕が認められる。97は乳白色のメノウ製のやや不整で厚みのある小剥片である。先端部と縁辺部に微細剥離痕が認められる。

98はやや磨りガラス状の黒曜石製の調整痕の認められる剥片である。左縁辺部から先端部にかけての調整はどちらかといえば石鏃製作を意図したものではないかと思われるが、反対側が折れたため断念したのではないかと考えられる。99は黒味が強く小粒の見られる黒曜石製の縦長剥片である。打撃面は折れ面、先端部には微細剥離痕が残されている。

100は黒味が強く小粒の見られる黒曜石製の搔器と思われるものである。横長の剥片を素材にして左側縁部にやや大きな剥離で調整し刃部を作り出している。101は黒味の強い不透明な黒曜石製の縦長剥片で厚みがあるものである。背面上には大きく原礫面が残されている。裏面の縁辺部に沿って微細剥離痕が残されている。

102は黒味が強く小粒の見られる黒曜石製の不整な小剥片で比較的厚みがあるものである。打撃面から右側縁部にかけて微細剥離痕が連続的に残されている。

103はやや透明度がある黒曜石製の刃器状剥片で背面の先端部に一部原礫面が残されている。裏面の右側縁部にはやや不連続な小剥離痕が認められる。104はやや不透明な黒曜石製の小剥片である。打撃面にやや石鏃の基部調整のようにノッチ状の調整が入ることから石鏃製作を意図したのかもしれない。

105はやや気泡状の濁りある黒曜石製の小剥片で縁辺部に微細剥離痕が顕著に認められるものである。原礫面も一部あることから礫表に近い部分であろう。106はオリーブ色の珪質頁岩製の小剥片である。打撃面は原礫面で覆われている。右縁辺部から先端部にかけて微細剥離痕が認められる。使用痕かもしれない。

107は透明度の強い黒曜石製の縦長の剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。左縁辺部は薄く不連続な小剥離痕が認められる。右縁辺部は折面を形成している。108は黒味が強く細かい粒が少量入った黒曜石製の石鏃の未製品である。片側の縁辺部に沿って調整が進められた段階で製作中止した可能性が高い。素材がやや折れた様に変形しているため止めたとも考えられる。

109は不透明な黒曜石製の小剥片で左右の縁辺部に微細剥離痕が認められる。110は黒味の強い不透明な黒曜石の破片である。左縁辺部に細かい連続的な剥離痕が認められる。

111はチャート製の破片である。節理面が大きく残されている。右側縁辺部に細かい調整が認められる。



第134图 N-13地点出土石器(4)

112は透明感のある黒曜石製の剥片である。左縁辺部は折れている。右縁辺部には細かい連続的な剥離痕が認められる。

113は半透明で小粒が少量入る黒曜石製の小剥片である。打撃面から左縁辺部に微細剥離痕が残されている。114は半透明な黒曜石製の横長の小剥片である。打撃面付近に小剥離痕が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。115は黒味が強く小粒の入った黒曜石製の石核である。先端部がやや狭くなった柱状を呈するもので小さな剥片を異なる方向から剥離しているのが解る。下端部には使用痕とも考えられる微細剥離痕が残されている。二次的に利用した可能性もある。

116は黒味が強く小粒の入った黒曜石製の石核である。先端部がやや狭くなった柱状を呈するもので小さな剥片を異なる方向から剥離しているのが解かる。117はやや透明感のある石核調整剥片である。先端部に礫面が残されており、表面に近い部分であると思われる。

118は黒味が強く小粒の入った黒曜石製の石核である。正面からみると逆三角形に近い形状である。裏面では下方向からの剥離面が残されている。119は黒味が強く不透明な黒曜石製の石核である。正面から見ると逆台形に近い形状で左側面はほぼ原礫面で覆われているため原石表面に近い部位にあたる。異方向から小剥片を剥離したことが解る。

120は黒味が強く不透明な黒曜石製の石核である。逆台形に近い形状で表表面には上方向からの剥離面が1面ずつ残されている。左縁辺に沿って原礫面が大きく残されている。

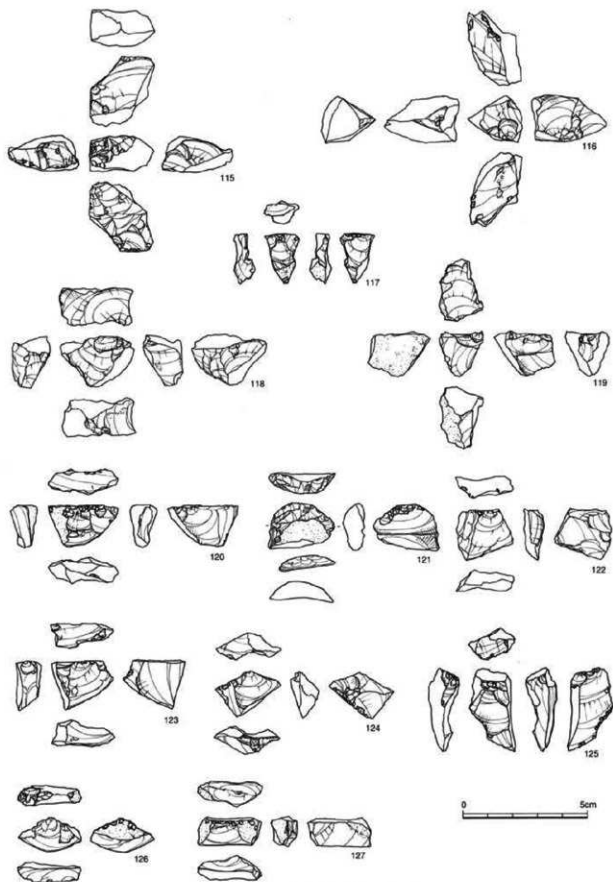
121はやや半透明な黒曜石の剥片を再利用した石核である。表面中央部分には原礫面が大きく残されている。側縁部には調整痕が連続的にみられる。裏面の剥片剥離を行った際に細かい剥離痕が残されている。122は黒味が強く小粒が含まれる黒曜石製の両極石器（剥片）である。打面部は剥離面が上方向から横方向にやや流れている。表面先端部の縁辺に沿って微細剥離痕が残されている。123は黒味が強く小粒が含まれる黒曜石製の両極石器（剥片）である。背面側の打撃面側と両側縁部にかけて小剥離痕が連続的に認められる。

124はやや不透明な黒曜石製の両極石器（剥片）である。表面の打撃面側と先端部側縁辺部に沿って細かい調整痕が認められる。125は黒味が強く小粒が含まれる黒曜石製の縦長の剥片である。先端部付近の左縁辺部に沿ってやや弧状に微細剥離痕が並ぶ。使用痕ではないかと思われる。

126は黒味の強い黒曜石製の小剥片である。背面側の打面部に沿って細かい調整痕が認められる。127は灰色の模様の入った黒曜石製の剥片で背面上に原礫面を残す小剥片である。打面部の縁辺部に沿って小剥離痕が認められる。

128は黒味の強い黒曜石製の石核である。表表面とも右横方向（元々は上方向）から剥離した後背面側上方向より打面転移して剥離しようとした形跡がうかがわれるが実際にはその直前で廃棄されたものと思われる。129は半透明な黒曜石製の石核である。左側上方向から小剥片を剥いだ剥離面が残されている。右縁辺部には微細剥離痕が残されている。130は透明度がある黒曜石製の石核である。元々縦長の剥片を素材として背面には上方向から2面、裏面は右側縁部から2面の小剥片を剥いだ剥離面が残されている。その際の細かい打面調整も見られる。

131は比較的黒味も強い黒曜石製の石核である。裏面はほぼ原礫面で覆われているため小さな角礫が素材であることが解る。比較的大きな横長の剥片を剥がした後逆方向から剥がそうと試みた形跡がうかがわれる。132は黒味の強い黒曜石製の石核である。原礫面が残されている厚みの比較的大きな剥片を素材にし



第135图 N-13地点出土石器(5)

て左縁辺部から剥離した後上方向から剥離しようとした形跡がうかがわれる。

133はやや透明度のある黒曜石製の石核である。小角礫の原礫面に近い部分の小剥片を素材にしており、背面に上方向から小剥片を剥離した剥離面を残している。

134は黒味の強い黒曜石製の石核である。133と同様に小角礫の原礫面に近い部分の小剥片を素材にしており、背面に上方向から小剥片を剥離した剥離面を2面残している。

135は黒味が強く磨りガラス状になった黒曜石製の石核である。小角礫から剥がされた表面に近い部分の剥片を素材にして上方向・右斜め方向・左斜め方向からの3面の剥離面が残されている。136は黒味の強い黒曜石製の石核である。背面に上方向からの剥離面が残されている。裏面には打撃による小剥離痕が上下に認められる。137は黒味の強い黒曜石製の調整痕のある剥片である。背面側に周辺調整が連続的に行われており、石礫未製品の可能性もある。やや周辺部が厚く加工が困難で製作を断念したとも考えられる。

138は黒味の強い黒曜石製の石核である。背面には上方向からの剥離面が残されている。左側縁部には微細剥離痕が認められる。139はやや灰色で安山岩質の黒曜石製の石核である。背面に上方向からの剥離面2面が残されている。裏面には大きく原礫面が残されている。140は黒味の強い黒曜石製の石核である。背面側に上下・左右方向からの打撃による剥離面が残されている。裏面は大きく原礫面が残されている。

141は黒味の強い黒曜石製の石核である。背面側に上下方向からの打撃による小剥離面が2～3面残されている。裏面は原礫面で覆われている。142は透明度のある黒曜石製の調整痕のある剥片である。背面側の先端部の縁辺部に沿って比較的規則的な小剥離痕が見られる。

143はやや透明度のある黒曜石製の縦長剥片である。左側縁部には大きく原礫面が残る。右側縁部には微細剥離痕が認められる。144は黒味の強い黒曜石製の剥片である。厚みがあり左右には大きく剥離された面が残されている。さらに先端部側に調整痕が見られる。さらに分割して使用しようとしたのかもしれない。

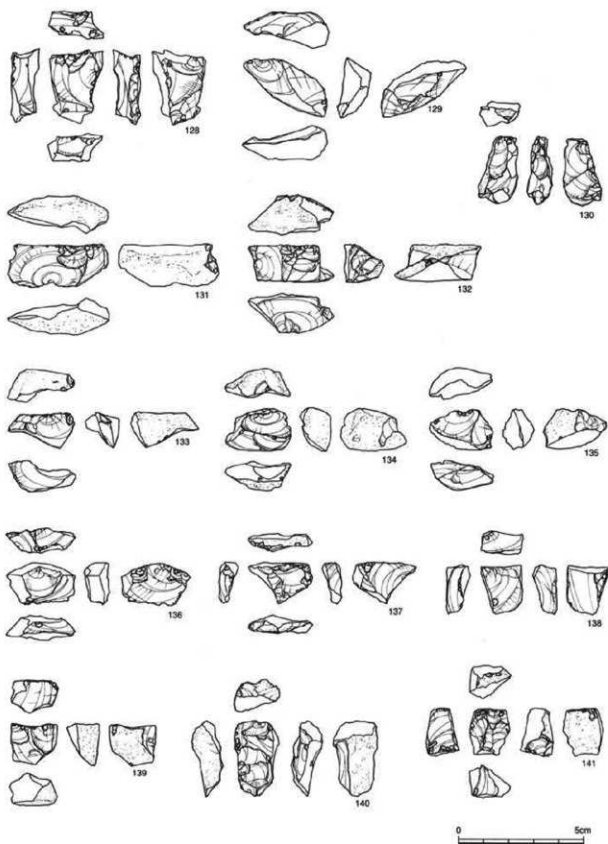
145は半透明な黒曜石製の縦長剥片である。背面中央には大きく原礫面が残る。右側縁部には微細剥離痕が認められる。146は半透明で小粒の入った黒曜石製の縦長剥片で縁辺部の右肩部分に大きく原礫面が残されている。裏面の先端付近の右縁辺部に沿って微細剥離痕が残されている。

147は半透明の黒曜石製の剥片で左右の縁辺部が折断されている。残った先端部の縁辺の微細剥離痕が残されている。折断して使用されたものかもしれない。

148は不透明のやや安山岩質の黒曜石製の小剥片である。打撃による微細剥離痕が上下両端に見られる。149は筒状の模様様の黒曜石製の剥片である。先端部付近の右側縁辺部に微細剥離痕が認められる。150は筒状の模様様の黒曜石製の剥片である。左縁辺部に沿って微細剥離痕が認められる。先端部の一部は欠損している。

151は透明度のない黒曜石製の横長の剥片である。背面には2～3面の右斜め方向からの剥離面がある。右縁辺部は原礫面が大きく残されている。152はやや不透明な黒曜石製の剥片で右側先端部は折断しているものである。左縁辺部に微細剥離痕が認められる。

153は透明度のある黒曜石製の剥片である。左右縁辺部は折断されている。先端部は鋭いが微細剥離痕等は認められない。154は黒味の強い黒曜石製の縦長の剥片である。先端部はやや膨らみ打撃による小剥離痕が認められる。縁辺部は比較的鋭いが微細剥離痕等は見られない。155は黒味の強い黒曜石製の剥片で



第136图 N-13地点出土石器(6)

ある。先端部は剥離に伴って折断したと思われる。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。156はやや透明度があり小粒の入った黒曜石製の剥片である。縁辺部等は鋭いが微細剥離痕等は見られない。

157は透明度の強い黒曜石製の石鏃未製品と思われる。片脚の基部調整を施している段階でもう一方の脚部が折れてしまって廃棄したのではないかとと思われる。

158は縮模様の黒曜石製の剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。159は茶褐色～灰色がかつたチャート製の刃器状剥片である。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。打面部付近の右側面に大きい剥離痕が見られる。他に調整痕らしきものは見られないが、縁辺部は鋭利で十分石器として機能しているものと思われる。160はやや透明度のある黒曜石製の剥片で夾雑物のため不規則な形に剥離したものである。背面には大きく原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。161は黄灰色の珪質頁岩製の小剥片である。左縁辺部に調整痕が認められる。

162はやや黒味の強い黒曜石製の横長の剥片である。上下方向に打撃痕と思われる小剥離痕が見られる。163は透明度のある黒曜石製の小剥片である。やや薄く背面右縁辺部に小剥離痕が残されている。164は黒味の強く小粒の入る黒曜石製の縦長の剥片である。やや剥離が斜め横方向に抜けたようになっており不規則な剥離面が残されている。縁辺部等に微細剥離痕は認められない。

165は黒味が強く小粒の入る黒曜石製の剥片である。全体に比較的薄い。左側縁辺部は折断しているものの他に調整痕と思われる微細剥離痕等は認められない。166は黒味が強く小粒が多く入る黒曜石製のやや縦長で分厚い剥片である。先端部と打面部は折断している。その他に調整痕と思われる微細剥離痕等は認められない。

167は黒味が強く小粒の入る黒曜石製の横長の剥片である。先端部と打面部は折断している。先端部は抉入したような感もあることから調整された可能性も考えられる。

168は黒味の強い黒曜石製の剥片である。厚みのある剥片で背面上に調整痕もしくは小剥離痕のような剥離が残されている。169は黒味が強く小粒の少量入る黒曜石製の小剥片である。厚みのある剥片で打面部に近い右側縁部に調整痕らしき小剥離痕が認められる。

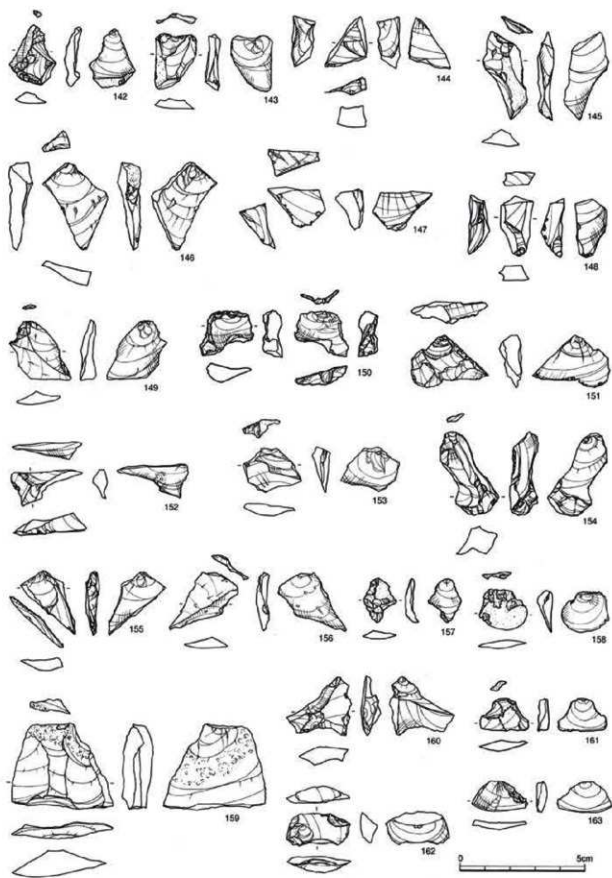
170は黒味の強い黒曜石製の小剥片である。先端部・右側縁辺部等が折断している。部分的に調整痕らしきものも認められることからあるいは石鏃製作途中で廃棄したものかもしれない。171は透明度のある黒曜石製の小剥片で先端部と打面部が折断されている。石鏃製作を意図して折り取られたものかもしれない。

172はやや透明度のある黒曜石製の小剥片である。打面部付近の左縁辺部に調整痕が認められる。173は黒味がやや強い黒曜石製の小剥片である。打面部は折れており先端部に打撃時に生じたと思われる微細剥離痕が残されている。

174と175は黒味が強く小粒の入った黒曜石製の接合資料1である。174は石核で元々縦長剥片を素材としているが、横方向の不規則な剥離を行っているためあまり大きな剥離面が存在していない。175はその中では比較的大きくまとまって剥がされた剥片であろう。それでも石鏃の素材としてもやや小振りなものである。

176と177は黒味が強い黒曜石製の接合資料2である。打面部に大きく原礫面が残されていることから剥片剥離の初期段階に生じた石核調整の砕片同士で接合したものと思われる。

178と179は黒味が強い黒曜石製の接合資料3である。178は横に長い剥片で比較的薄い。179は178が剥



第137图 N-13地点出土石器(7)

がされた後もさらに小さい剥片を剥ぎ取ったと思われる石核である。剥離面をみた限りでは掻器のような小剥離面である。

180と181はやや透明度のある黒曜石製の接合資料4である。打面部に大きく原礫面が残されていることから剥片剥離の初期段階に生じた石核調整の碎片同士で接合したものと思われる。

182と183は黒味が強く凝灰岩質の網目模様が入った黒曜石製の接合資料6で元々1つの剥片が剥がされた際に割れたものと思われる。

184と185はチャート製の接合資料7である。184は横広の剥片でやや厚めである。185より後からもしくは同時に剥がされた可能性が高い。185は背面側に節理面もしくは原礫面が大きく残っており初期段階で剥がされた剥片である。先端部側も原礫面である可能性も高いため元々小さな石核素材であったと思われる。

186～190は黒味が強く凝灰岩質の網目模様が入った黒曜石製の接合資料5である。表面がやや被熱気味である。186は厚みがあり右側縁部に一部原礫面が残されている剥片である。下から3番目に位置し中では最も大きい剥片である。187は上から2番目の位置にありこれらの資料の中では核部に相当する。188は最も上に位置し187の核部より反対側より剥離されている。右縁辺部には調整痕かもしれない小剥離面が残されている。189は190と186の間の下方に挟まるような位置で剥がされている小剥片で調整痕等は見られない。190は1番下に位置し厚みのある剥片で背面の状況から剥がされてから小剥片を剥ぎ取っている可能性もある。

8 グリッド一括の石器 (第141図～第165図, 1～510, 図版61上～66)

1～17は有舌尖頭器である。时期的には縄文時代草創期に属するものと思われる。1～4はやや細身で本体部分が舌部と比べてより長い形状のものである。1は安山岩B製の(いわゆるトロトロ石と呼ばれるもの)の有舌尖頭器で先端部と舌部が欠損している。両面とも細かく丁寧に調整が施されていると思われるが表面の風化が著しく定かではない。

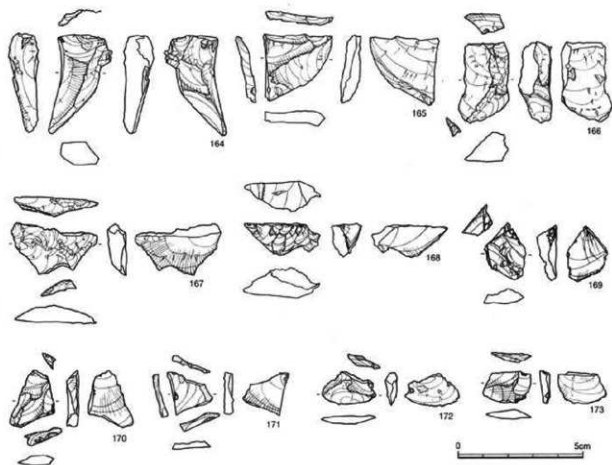
2は安山岩A製の(いわゆる黒色安山岩)の有舌尖頭器で先端部と舌部の一部が欠損している。両面とも細かく丁寧に調整した後さらに縁部を鋸歯縁状にしているものと思われる。

3は安山岩A製の有舌尖頭器である。舌部の一部が欠損している。両面とも細かく丁寧に調整して仕上げている。4は凝灰岩製の有舌尖頭器である。舌部の一部が欠損している。両面とも細かく丁寧に調整した後特に先端部にかけては細かく仕上げている。

5～7は本体部分がやや丸みがあり舌部の比率が高いものである。5は安山岩A製の有舌尖頭器である。縁部の一部にガジリが見られるもののほぼ完形品に近い。両面とも細かく丁寧に調整した後特に基部調整は入念に行われている。6は安山岩A製の有舌尖頭器である。舌部の一部が欠損している。両面とも細かく丁寧に調整した後さらに縁部を鋸歯縁状にしているものと思われる。7は安山岩B製の有舌尖頭器である。舌部の一部が欠損している。両面とも細かく丁寧に調整が施されていると思われるが一部表面が風化しており不明な部分も見られる。

8～17は小形の有舌尖頭器である。8はチャート製の有舌尖頭器である。完形品で両面とも非常に細かい剥離で調整されて基部の返しの挟りもやや直線気味である。

9はチャート製の有舌尖頭器である。縁部は直線的に仕上がっている。舌部そのものは短い。基部の



第138図 N-13地点出土石器(8)

返しの扱いはやや弧状になる。両面ともに非常に細かい剥離で調整されている。10はチャート製の有舌尖頭器である。完形品で両面とも周辺部を主体にして非常に丁寧に仕上げている。基部は特に入念に仕上げている。

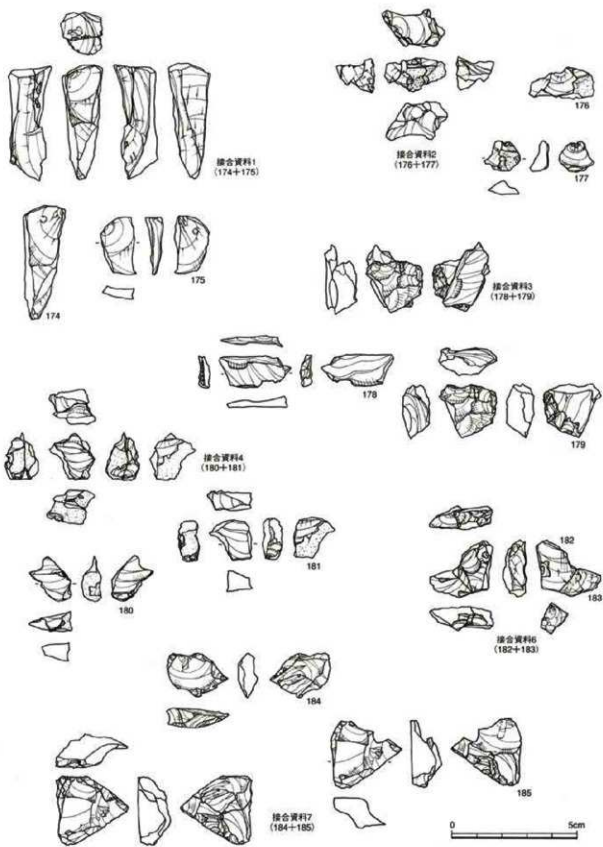
11はチャート製の有舌尖頭器で先端部の一部が欠損している。両面とも調整は細かい剥離で丁寧に仕上げている。舌部は短い。12はチャート製の有舌尖頭器で舌部と縁辺部の一部が欠損している。両面とも調整は細かい剥離で丁寧に仕上げている。

13はチャート製の有舌尖頭器で舌部が大きく欠損している。両面ともやや大きな剥離で上げている。14はやや茶色がかったチャート製の有舌尖頭器で先端部の一部と舌部が欠損している。両面とも調整は細かい剥離で丁寧に仕上げている。

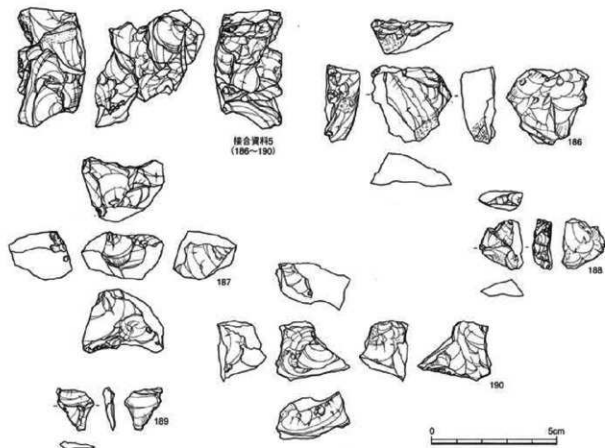
15はチャート製の有舌尖頭器で先端部の一部と舌部が欠損している。両面とも調整は細かい剥離で丁寧に仕上げている。縁辺部はやや鋸歯縁状に仕上がっているようである。

16は黒曜石製の有舌尖頭器で先端部の一部と舌部が欠損している。両面とも調整は細かい剥離で丁寧に仕上げている。17はメノウ製の有舌尖頭器で先端部の一部が欠損している。本体部分と舌部の比率が1:1に近い形状である。舌部の扱ひも比較的浅い。

18~31は尖頭器・石鏃未製品等である。尖頭器・尖頭器未製品としたものは草創期に属する石器と思わ



第139図 N-13地点出土石器(9)



第140図 N-13地点出土石器(10)

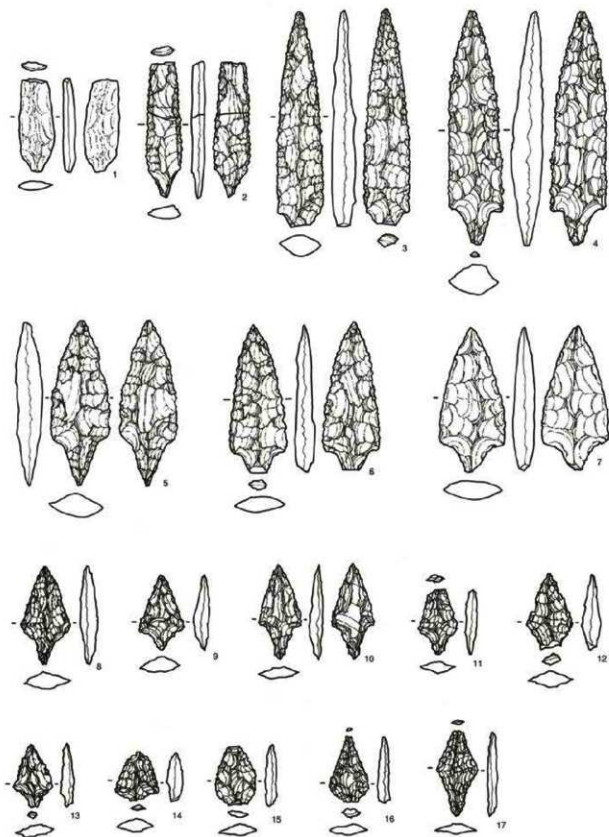
れる。石鏃未製品としたものは早期に属すと考えられる。18は安山岩A製の尖頭器である。全体に丸みがあり基部に近い部分が大きく広がる形状である。両面とも周辺部だけでなく中程まで調整されている。小形の有舌尖頭器の素材となりうる。

19は安山岩A製の尖頭器未製品である。表裏面ともに周辺部分に細かい剥離で調整を行い形状を整えている。裏面には大きく丸みがある原礫面が残されている。20は黒みの強い黒曜石製の石鏃未製品である。先端部の片側と基部の片面の一部を調整した段階で中央部分から縦方向に折断したものである。21は黒みの強い黒曜石製の石鏃未製品である。先端部の半面と片脚部が欠損している。使用中に破損したのではなく製作途中で破損し廃棄したものであると思われる。残存部分での調整は細かい剥離で丁寧に行われている。

22はチャート製の石鏃未製品である。基部を調整中に大きく破損したものであると思われる。残存部分の調整はやや大きめの剥離で行われている。23はチャート製の石鏃未製品である。基部調整をあまり行っておらず表面に旧剥離面を大きく残していることから未製品として取り扱った。その他はやや大きめの剥離で調整されている。

24はチャート製の石鏃未製品である。ほぼ完成品といっても過言ではないが基部調整が雑でやや厚みを残している。その他の部分は比較的細かい剥離で調整されている。

25はチャート製の有舌尖頭器の未製品であろう。表面左縁辺部は殆ど調整されておらず表面の基部は大きく剥離されて粗く仕上げているのみである。26はチャート製の石鏃未製品である。両面とも大きめの剥



第141図 グリッド一括石器類(1)

離で粗く調整を行って形状を整えている段階である。先端部はまだ完成していない。基部調整も細かく行っていない。

27は黒味の強い黒曜石製の石鏃未製品である。左基部～側縁部にかけて細かい剥離で調整していく段階で先端部側が折れてしまって廃棄した可能性が高い。28はチャート製の有舌尖頭器の未製品であろう。先端部から基部にかけて両面ともに非常に丁寧に調整され形状を整えている。舌部に当たる部分に原礫面が残り調整ができなかったのかもしれない。29はやや透明度のある黒曜石製の石鏃未製品である。表裏ともに基部周辺部分より調整し先端部を整えていく段階で折断してしまったものと思われる。

30はチャート製の石鏃未製品である。両面ともやや大雑把に周辺部分より調整している途中の段階のものである。31は安山岩 A 製の石鏃未製品である。左縁部から基部にかけて調整途中右側側縁部を破損して廃棄されたものと思われる。

32～321は石鏃（一部未製品も含む）である。殆ど早期の時期に所属するものと思われる。32はチャート製の石鏃である。形状は正三角形に近く基部はやや凹基気味である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。33はチャート製の石鏃である。形状は正三角形に近く基部はやや凹基気味である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。

34はチャート製の石鏃である。形状は正三角形に近く基部は平基に近い。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。35はチャート製の石鏃である。形状は正三角形に近く基部は平基に近い。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。

36はチャート製の石鏃である。左脚端部が欠損している。形状は二等辺三角形に近く基部はほぼ平基である。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。

37はチャート製の石鏃である。形状はやや二等辺三角形に近く基部は平基に近い。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されているが基部付近に旧剥離面を一部残している。

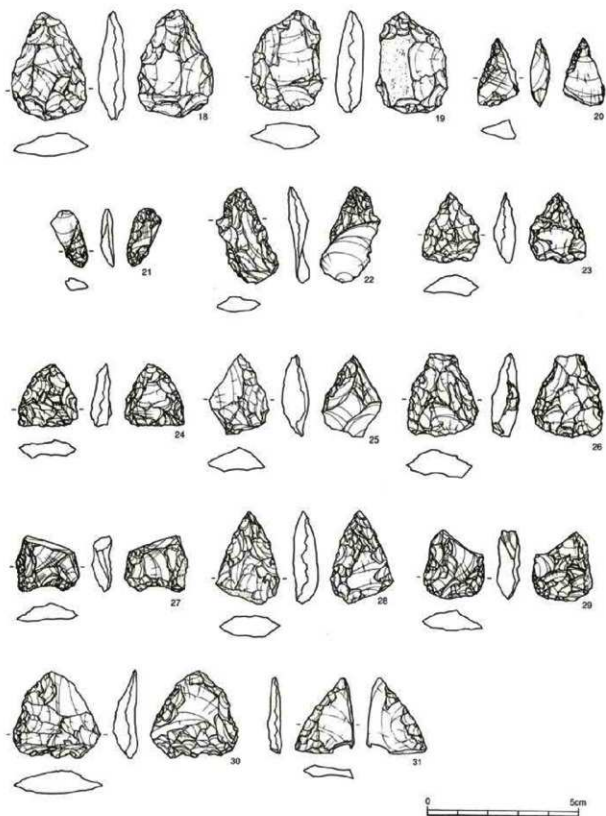
38はチャート製の石鏃である。形状はやや右脚部が長めの不整な三角形で基部はやや凹基気味である。両面とも細かい剥離で調整されている。39はチャート製の石鏃である。形状は二等辺三角形に近く基部は平基に近い。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。40はチャート製の石鏃である。先端部の一部が欠損しているが形状はやや短めの二等辺三角形に近く基部は平基に近い。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。

41は赤色チャート製の石鏃である。やや縁部が弧状に膨らむ二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。42はチャート製の石鏃である。形状は二等辺三角形に近く基部は平基に近い。表面側の基部付近に一部旧剥離面を残すものの比較的細かい剥離で調整されている。

43はチャート製の石鏃である。形状はどちらかというと正三角形に近く基部は平基に近い。表面の中央部分には旧剥離面、裏面の中央部分には原礫面の一部が残されているものの周辺部分の細かい剥離で比較的丁寧に仕上がっている。44はチャート製の石鏃である。形状は二等辺三角形に近く基部はやや右脚部が長い凹基になる。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。

45はチャート製の石鏃である。先端部が欠損しているが元々形状は正三角形に近く基部はほぼ平基になるものと思われる。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。

46はやや楕円様に見えるチャート製の石鏃で右脚の一部が欠損している。元々の形状はどちらかとい



第142図 グリッド一括石器類(2)

うと二等辺三角形に近く基部は平基になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されているがやや中央部分に厚みを残す。

47はチャート製の石鏝である。形状は二等辺三角形に近く基部は平基である。基部付近の調整は細かい剥離で丁寧に行われている。他はやや大きめの剥離で調整されている。

48はチャート製の石鏝で先端部が欠損している。形状は元々二等辺三角形に近く基部は平基になるものと思われる。調整は両面とも細かい剥離で行われている。

49はチャート製の石鏝である。先端部と左縁部の一部が欠損している。元々は二等辺三角形に近く基部は平基である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。

50はチャート製の石鏝である。先端部の形状がやや外側に開き釣り鐘状になる。基部はほぼ平基である。両面とも細かい剥離で調整が行われている。51はチャート製の石鏝である。右側縁部の一部が欠損しているものの元々はやや右側の長い二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基気味である。両面とも細かい剥離で調整が行われている。

52はチャート製の石鏝である。やや右側の長い二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基気味である。両面とも細かい剥離で調整が行われている。53はチャート製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基である。両面ともに基部を除き細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや大きめの調整が見られる。

54はやや楕円模様の見られるチャート製の石鏝である。正三角形に近い形状で基部は凹基である。両面とも基部を除いて細かい剥離で調整が行われている。基部はやや大きく粗い調整が行われている。55はチャート製の石鏝である。先端部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基である。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。

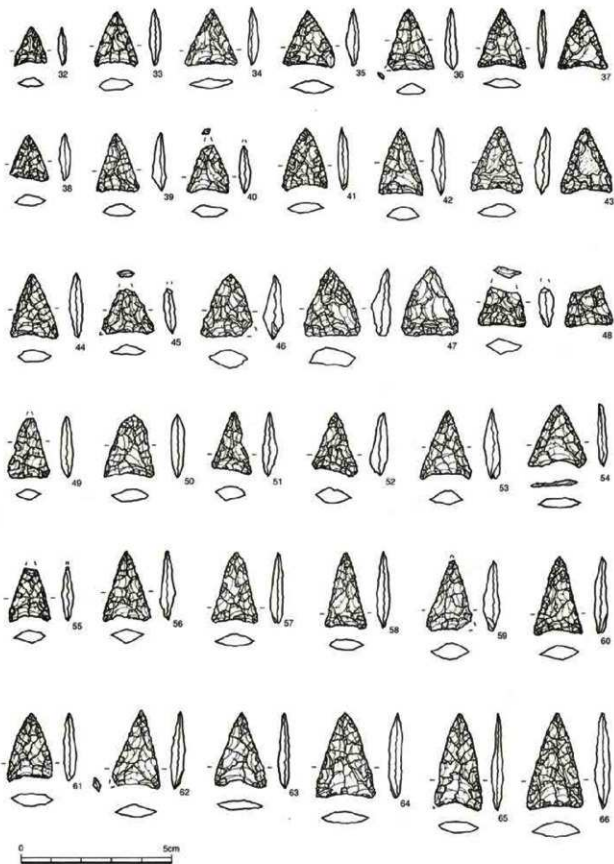
56はやや楕円模様のあるチャート製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基である。両面とも基部を除き細かい剥離で丁寧に調整されている。基部についてはやや粗く調整されている。57は楕円模様のあるチャート製の石鏝である。先端が若干緩やかな二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整が行われている。

58はチャート製の石鏝である。細長い二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整が行われている。59はチャート製の石鏝である。先端部の一部と右脚部が欠損しているが元々は二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基気味である。両面とも比較的細かい剥離で丁寧に調整が行われている。

60はチャート製の石鏝である。やや細長い二等辺三角形に近い形状で基部はやや凹基である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整が行われている。61はチャート製の石鏝である。やや横幅のある二等辺三角形に近い形状で縁部は丸みがある。基部はやや凹基気味である。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。

62はチャート製の石鏝である。左脚部の一部が欠損している。細長い二等辺三角形に近い形状で両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部は平基に近い。

63はチャート製の石鏝である。やや細長い二等辺三角形に近い形状で両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部はやや凹基である。64は灰色のチャート製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状でやや先端部が緩やかになる。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部は平基に近い。



第143図 グリッド一括石器類(3)

65はやや縞模様が入ったチャート製の石織である。細長い二等辺三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部はやや凹基気味である。

66はチャート製の石織である。やや細長い二等辺三角形に近い形状で縁辺部は緩やかに丸みがある。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部は平基に近い。

67はチャート製の石織である。やや短めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部は緩やかに丸みを帯びる。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部は凹基である。

68はチャート製の石織である。やや短めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部は大きく丸みを帯びる。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部はどちらかという和平基気味である。69は灰色のチャート製の石織である。やや短めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部は緩やかに丸みを帯びる。表面中央部に旧剥離面が一部残る。両面とも全体に大きめの剥離でやや雑な印象のある調整が行われている。基部はどちらかという和平基である。

70はチャート製の石織である。短めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部は大きく丸みを帯びる。両面とも細かい剥離で調整が行われている。基部はやや凹基気味である。

71は乳白色の中に灰色の縞模様が入ったチャート製の石織である。短めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部はやや丸みを帯びる。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部は凹基である。

72は淡灰色のチャート製の石織である。やや左右が不整な大きめの調整で粗く仕上がっている。基部はどちらかという和平基に近い。先端部の形状から考えると未製品の可能性もある。73はチャート製の石織である。先端部の一部が欠損している。元々やや長めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部はやや凹凸気味である。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。基部は凹基である。

74はチャート製の石織である。先端部と右脚部の一部が欠損している。元々長めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部は直線的である。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。基部はやや凹基気味である。

75はチャート製の石織である。左脚部の一部が欠損している。元々長めの二等辺三角形に近い形状で縁辺部は直線的である。先端部はやや鋭利に作り出している。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。基部はやや凹基である。

76はチャート製の石織である。先端部が欠損している。元々短めの二等辺三角形に近い形状である。両面ともに旧剥離面を大きく残しながら周辺部分を細かい剥離で調整し上げている。基部は凹基である。

77はチャート製の石織である。先端部が欠損している。元々正三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。基部は凹基である。

78はチャート製の石織である。先端部が大きく欠損している。元々は短めの二等辺三角形に近い形状である。表面側に原礫面、裏面に旧剥離面を大きく残しながら周辺部分に細かい剥離で調整し形状を整えている。基部は凹基である。

79はチャート製の石織である。先端部が大きく欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。裏面は基部調整以外はあまりしっかりと行っていない。基部は凹基である。80はチャート製の石織である。両脚部の両端が欠損している。元々長めの二等辺三角形に近い形状である。表面の基部付近に大きく旧剥離面が残されている他は比較的細かい剥離で丁寧な調整が行われている。

81はチャート製の石織である。細身の二等辺三角形に近い形状で縁辺部の中央部がややくぼむ。両面と

もに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部はやや凹基である。

82はチャート製の石礫である。先端部の一部が欠損しているかあるいは製作途中で折れてしまったものかもしれない。元々二等辺三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部はやや凹基である。83はチャート製の部分磨製石礫である。先端中央部から基部中央部分にかけて細長く斜め横方向に摩擦痕が見られる。細長い二等辺三角形に近い形状でやや肩の張り出しが見られる。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部はやや凹基気味である。

84はチャート製の石礫である。左脚部が大きく欠損しているが元々正三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で調整されており製作途中で脚部が欠損したとも考えられる。85はチャート製の局部磨製石礫である。右脚部が大きく欠損しているが元々正三角形に近い形状である。裏の中央部分の旧剥離面付近が大きく磨かれているようである。それ以外の部分は細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基になるものと思われる。

86はチャート製の石礫である。右脚部の一部が欠損しているものの短めの二等辺三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部は凹基である。87はチャート製の石礫である。正三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。基部は凹基である。

88はチャート製の石礫である。二等辺三角形に近い形状で縁辺部はいずれも直線的に仕上がっている。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部はやや凹基である。89はチャート製の局部磨製石礫である。二等辺三角形に近い形状で縁辺部は比較的直線的に仕上がっている。表面の中央部分をやや平滑に磨いている。それ以外の部分は細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部は凹基である。

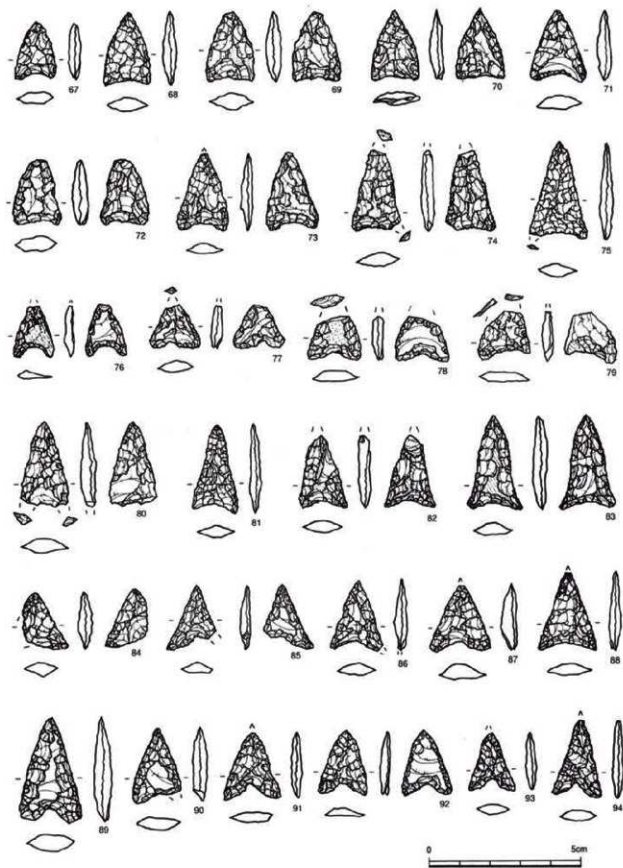
90はチャート製の局部磨製石礫である。右脚部が欠損しているが元々やや短めの二等辺三角形に近い形状である。表面の基部付近に平滑に磨いている部分があり、それ以外の部分は細かい剥離で比較的丁寧に調整が行われている。基部は凹基である。

91はチャート製の石礫である。右縁辺部の一部が欠損しているが元々短い二等辺三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部は大きく抉られた凹基である。92はチャート製の局部磨製石礫である。裏面は周辺部分以外は斜め方向に平滑に磨いている部分があり、それ以外の部分は細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部はやや大きく抉られた凹基である。

93は乳白色のチャート製の石礫である。先端の一部が欠損しているが元々短めの二等辺三角形に近い形状のものである。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。基部はやや抉られた凹基である。94は黒味のあるチャート製の石礫である。先端のほんの一部が欠損しているが元々やや長めの二等辺三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部はやや大きく抉られた凹基である。

95はチャート製の石礫である。正三角形に近い形状の石礫である。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部はやや抉られた凹基である。96はチャート製の石礫である。短めの二等辺三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整が行われている。基部はやや抉られた凹基である。

97はチャート製の石礫である。先端の一部が欠損しているが元々短めの二等辺三角形に近い形状のものである。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部の抉りが浅い凹基である。98はチャート製の石礫である。正三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部の抉りはやや深い凹基である。



第144図 グリッド一括石器類(4)

99はチャート製の石鏝である。正三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で調整が行われている。基部の挟りはやや深い凹基である。100はチャート製の石鏝である。先端部が一部欠損しているものの元々は正三角形に近い形状である。両面ともに比較的細かい剥離で調整が行われている。基部もやや凹基である。

101はチャート製の石鏝である。先端部の一部が欠損しているものの元々正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整が行われている。基部は凹基である。

102はチャート製の石鏝である。先端部が一部欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状である。両面ともに比較的細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。103はやや乳白色に近い珪質頁岩製の石鏝である。正三角形に近い形状で両面ともに比較的細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はかなり挟りの入る凹基である。

104はチャート製の石鏝である。左脚部がやや欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状である。先端部や脚部の端部に近い部分がより細かく丁寧に調整されている。基部は凹基である。105はやや赤みのあるチャート製の石鏝である。先端部はやや欠損している。両面とも細かい剥離で調整されており、縁辺部はさらにより細かく仕上げている。基部は凹基である。

106はチャート製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されており、縁辺部はさらにより細かく仕上げている。基部は凹基である。

107はチャート製の石鏝である。左脚部が大きく欠損しているものの元々二等辺三角形に近い形状である。両面ともに細かい剥離で調整されており、基部はさらにより細かく仕上げている。基部は凹基である。108はチャート製の石鏝である。先端部がほんの少し欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は凹基である。

109はチャート製の石鏝である。右側縁部が若干欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は凹基である。

110はチャート製の石鏝である。先端部から胴部にかけて細長く脚部がやや開く形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は凹基である。111はチャート製の石鏝である。先端部のほんの一部が欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は凹基である。

112はチャート製の石鏝である。先端部のほんの一部と基部の片側がおそらく製作途中で折れてしまったものと思われるが元々は二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。113はチャート製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも比較的細かい剥離で調整されている。基部は凹基である。

114はチャート製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されており、縁辺部はさらにより細かく仕上げている。基部は凹基である。

115はチャート製の石鏝である。先端部側が大きく欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で調整されており、基部はさらにより細かく仕上げている。基部は凹基である。

116はチャート製の石鏝片である。先端部と片側縁部及び脚部を大きく欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも比較的細かい剥離で調整されている。基部は凹基にな

るものと思われる。117はチャート製の石礫である。二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。

118はチャート製の石礫である。左脚部が欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基になると思われる。119はチャート製の石礫である。二等辺三角形に近い形状である。表面は細かい剥離で調整されており、縁辺部はさらに細かく仕上げられている。裏面は周辺部のみの調整で仕上げられている。基部は凹基である。

120はチャート製の石礫である。先端部が欠損しているものの元々二等辺三角形に近い形状である。表面は細かい剥離で調整されており、縁辺部はさらに細かく仕上げられている。裏面はやや周辺部に細かい剥離で調整して仕上げられており中央部分は旧剥離面を残す。基部は凹基である。121は赤色チャート製の石礫である。脚部が製作途中で折れてしまったものと思われ、元々は二等辺三角形に近い形状であった可能性がある。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。

122はチャート製の石礫である。二等辺三角形に近い形状である。表面は細かい剥離で調整されており、縁辺部はさらに細かく仕上げられている。裏面は周辺部のみの調整で仕上げられている。基部は凹基である。123はチャート製の石礫である。先端部が一部欠損しているものの元々二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。

124はチャート製の石礫である。二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。脚端部は平坦になる。

125はチャート製の石礫である。二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。126はチャート製の石礫である。二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。

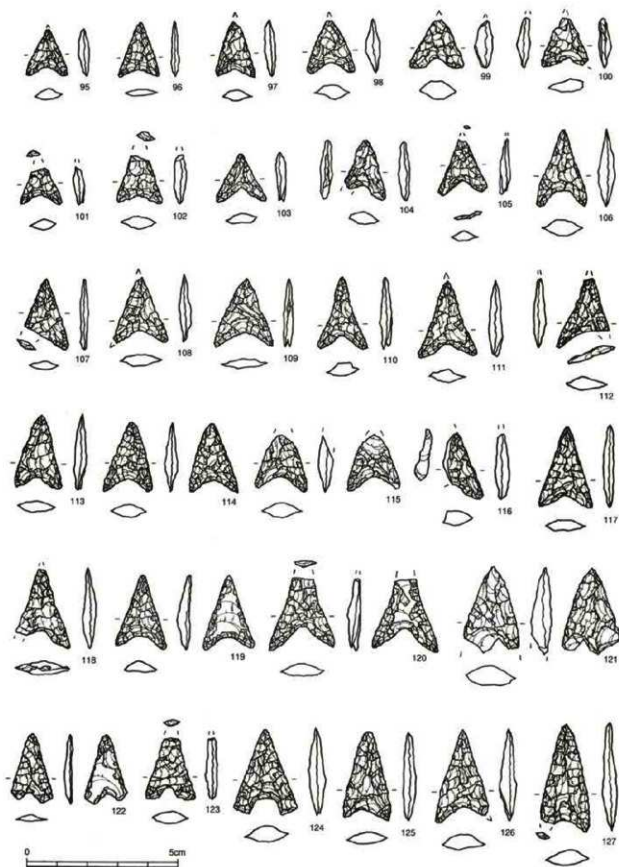
127はチャート製の石礫である。左脚端部が一部欠損しているものの元々二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや凹基になると思われる。128はチャート製の石礫である。先端部がほんの一部欠損するものやや長めの正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。

129はチャート製の石礫である。正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。脚端部は平坦で基部は凹基である。130はチャート製の石礫である。正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。

131はチャート製の石礫である。やや短めの丸みのある二等辺三角形に近い形状である。両面ともどちらかという周辺部分のみ細かい剥離で調整形状を整えている。基部はやや凹基である。132はチャート製の石礫である。やや短めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は凹基である。

133はチャート製の石礫である。正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は丸みのある凹基である。134はチャート製の石礫である。やや丸みの強い正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は丸みのある凹基である。

135はチャート製の石礫である。やや短めの二等辺三角形に近い形状である。両面ともに周辺部を中心に細かい剥離で調整しているため中央部分に若干の旧剥離面を残している。基部は丸みのある凹基である。136はチャート製の石礫である。丸みのある正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調



第145図 グリッド一括石器類 (5)

整されている。基部は丸みのある凹基である。

137は赤白の横模様のあるチャート製の石鏡である。やや短めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅めの凹基である。

138はチャート製の石鏡である。先端部が一部欠損しているものの元々正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く直線的な凹基である。139はチャート製の石鏡である。元々正三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。基部はやや丸みのある凹基である。

140は黒色頁岩製の石鏡である。やや短めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも一部に旧剥離面を残すものの細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅めの丸みのある凹基である。141はチャート製の石鏡である。どちらかという正三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。基部はやや丸みのある凹基である。

142はチャート製の石鏡である。どちらかという正三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。基部は凹基である。143はチャート製の石鏡である。右脚部と先端の一部が欠損している。元々やや短めの二等辺三角形に近い形状になると思われる。表面は細かい剥離で丁寧に調整されている。裏面は周辺部に細かい剥離で調整されて中央部分は旧剥離面を大きく残している。

144はチャート製の石鏡である。縁辺部が丸みのある二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅くやや丸みのある凹基である。

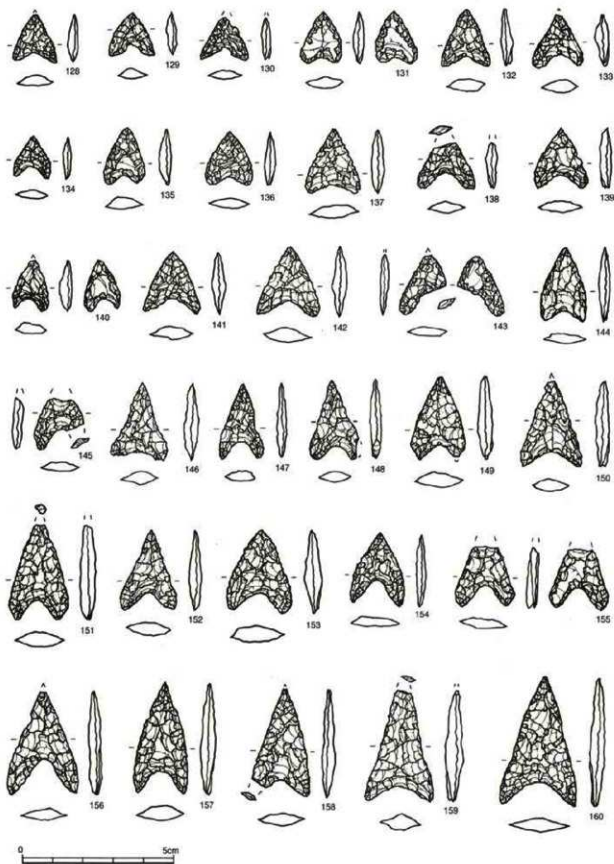
145はチャート製の石鏡である。右脚部と先端部が欠損している。元々やや短めの二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。146はチャート製の石鏡である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅くやや丸みのある凹基である。

147はチャート製の石鏡である。右縁辺部は調整時に欠失したと思われるが二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く丸みのある凹基である。148はチャート製の石鏡である。右脚の脚端部が欠損しているが、元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも縁辺を主体として細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は丸みのある凹基である。

149はチャート製の石鏡である。右脚の脚端部の一部が欠損しているが、元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも縁辺を主体として細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅く直線的な凹基である。150はチャート製の石鏡である。先端部の一部が欠損しているが、元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅く直線的な凹基である。

151はチャート製の石鏡である。先端部の一部が欠損しているが、元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は丸みのある凹基である。152はチャート製の石鏡である。二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はどちらかという直線的になる凹基である。

153はチャート製の石鏡である。縁辺部がやや丸みのある二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はどちらかという丸みのあるやや浅い凹基である。154はチャート製の石鏡である。縁辺部がやや丸みのある二等辺三角形に近い形状になると思われる。両



第146図 グリッド一括石器類(6)

面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は丸みのあるやや深い凹基である。

155はチャート製の石鏃である。先端部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になると思われる。表面は細かい剥離で丁寧に調整されているが、裏面では右脚部に旧剥離面を大きく残している。基部は丸みのあるやや深い凹基である。

156はチャート製の大型の石鏃である。先端部のほんの一部と側縁の一部が欠損している。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は直線状の握りの深い凹基である。157はチャート製の大型の石鏃である。やや縁辺部が丸みを持つ二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く丸みのある凹基である。

158はチャート製の大型の石鏃である。左脚端部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になる。両面とも比較的細かい剥離で特に先端部、脚部を中心に丁寧に仕上げている。基部は直線状のやや浅い凹基である。159はチャート製の大型の石鏃である。先端部の一部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になる。両面ともやや大きめの剥離で周辺部から調整を行い周辺部を細かく仕上げている。基部は浅くやや丸みのある凹基である。

160はチャート製の大型の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で周辺部から調整を行い周辺部を細かく仕上げている。基部はやや浅く丸みのある凹基である。161はチャート製の石鏃片である。先端部の一部が残存している。形状その他は不明である。表面は全体に細かい剥離で調整が行われている。裏面は周辺部分に細かい剥離で調整されているのみである。

162はチャート製の石鏃片である。片脚部が残存している。凹基である以外の形状は不明である。両面とも細かい剥離で丁寧な調整が行われている。163はチャート製の石鏃片である。先端部の一部が残存している。形状はおそらく二等辺三角形に近いと思われる。両面とも全体に細かい剥離で調整が行われている。

164はチャート製の石鏃の片脚部のみ残存しているものである。基部がやや大きく抉られた凹基であること以外は詳細は不明である。残存部の調整そのものは細かい剥離で丁寧に行われている。165はチャート製の石鏃の胴部の一部と右脚部の残存したものと思われる。基部はやや大きく抉られた凹基で元々は二等辺三角形に近い形状をしていたものと思われる。両面とも細かい剥離で調整が行われている。

166はチャート製の小型の石鏃である。やや先端部に近い部分に肩があるやや不整な五角形に近い形状をしている。両面とも細かい剥離で縁辺部に沿って調整されており、中央部分の旧剥離面を大きく残している。基部は平基である。167はチャート製の小型の石鏃である。先端部が細く基部がやや丸みを持つ二等辺三角形に近い形状である。両面とも先端部は細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部側はあまり調整を行っておらず両面とも旧剥離面をやや残している。基部は平基である。

168はチャート製の石鏃である。正三角形に近い形状である。基部は細かい剥離での調整、先端部から胴部にかけてはやや大きめの粗い剥離で調整されている。裏面の基部側若干の旧剥離面が残されている。基部は平基である。169はチャート製の石鏃である。先端部の一部と脚部が欠損している。基部の形状は不明である。両面ともやや大きめの剥離で調整の後周辺部を細かく調整して仕上げている。

170はチャート製の石鏃の胴部の一部である。残存部の調整は両面とも細かい剥離で丁寧に行われている。基部形状等は不明である。171はチャート製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。表面側の中央部分に突起部分が残っており、製作途中で除去しきれなかった可能性が高い。基部と片側縁辺部以外はやや大きめの剥離で形状を整えている。基部は平基であろうか。やや中途半端な感じである。

172はチャート製の石鐵である。先端部と脚部がやや欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状と思われる。両面ともやや大きめの剥離で調整した後、縁部と基部の一部を細かい剥離で調整して仕上げている。基部はやや丸みのある凹基であろう。

173はチャート製の石鐵である。先端部が大きく欠損しているものの元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも比較的細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は丸みのある凹基である。174はチャート製の石鐵である。先端部のほんの一部と左脚部が欠損している。やや側縁部が丸みを持ち全体に細長い印象を与える。両面とも調整はやや大きめの剥離で行われた後、側縁部を鋸歯縁状に細かく調整し仕上げている。基部はやや丸みのある凹基であろう。

175はチャート製の石鐵の先端部から基部にかけて縦方向に半割したものである。元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや凹基になるものと思われる。176は黒曜石製の石鐵片である。先端部のみ残存している。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整している。形状及び基部は不明である。

177は黒曜石製の石鐵片である。先端部のみ残存している。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整している。形状及び基部は不明である。178は黒曜石製の石鐵片である。先端部のみ残存している。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整している。やや中程に旧剥離面を残している。形状及び基部は不明である。

179は黒曜石製の石鐵片である。先端部のみ残存している。両面ともに細かい剥離で丁寧に調整している。形状及び基部は不明である。180は黒曜石製の石鐵である。左脚部を欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整している。基部はほんの少し凹基気味である。

181は黒曜石製の石鐵である。基部が欠損している。表面は周辺部より細かい剥離で丁寧に調整されている。表面は片側縁部のみ細かい剥離が見られほぼ旧剥離面が残されている。182は黒曜石製の石鐵である。基部が欠損している。両面ともに周辺部よりやや大きめの剥離で調整されている。183は黒曜石製の石鐵である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離による調整が行われている。基部は浅く凹基気味に仕上げている。

184は黒曜石製の石鐵である。正三角形に近い形状である。両面とも周辺部に細かい剥離による調整が行われておりやや中程に厚みを残す。基部は浅く凹基に仕上げている。

185は黒曜石製の石鐵である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離による調整が行われている。基部は浅く凹基気味に仕上げている。186は黒曜石製の石鐵である。二等辺三角形に近い形状である。表面の右側にやや旧剥離面を残す。それ以外は両面ともやや細かい剥離で調整している。基部は浅く凹基気味に仕上げている。

187は黒曜石製の石鐵である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや細かい剥離で調整している。基部は浅く丸みのある凹基である。188は黒曜石製の石鐵である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや細かい剥離で調整している。基部は浅く丸みのある凹基である。189は黒曜石製の石鐵である。右脚部の一部が欠損しているものの元々は二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。基部は浅く丸みのある凹基である。

190は黒曜石製の石鐵である。右脚部端が少し欠損しているもののやや両側縁部が凹み気味の二等辺三角形に近い形状である。両面ともにやや大きめの剥離で調整されている。基部は丸みのある浅く凹基である。191は黒曜石製の石鐵である。やや厚みのある二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面

とも比較的大きめの剥離で調整されている。基部は平基に近い。

192は黒曜石製の石鏃である。若干右脚部端が欠損しているものの両縁辺部が弧状に膨らむ二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は丸みのある浅い凹基になる。193は黒曜石製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともに比較的細かい剥離で調整が行われている。基部は丸みのある浅い凹基である。

194は黒曜石製の石鏃である。やや長めの二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。基部はやや凹基気味である。195は黒曜石製の石鏃である。やや長めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は丸みのある凹基である。

196は黒曜石製の石鏃である。長めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基気味である。197は黒曜石製の石鏃である。小形で正三角形に近い形状のものである。表面は全体に細かい剥離で調整、裏面は周辺部を細かい剥離で調整して中央部分に大きく旧剥離面を残している。基部は浅い括りの凹基である。

198は黒曜石製の石鏃である。小形で正三角形に近い形状のものである。表面は全体に細かい剥離で調整、裏面は周辺部を細かい剥離で調整して中央部分に大きく旧剥離面を残している。基部は平基である。199は黒曜石製の石鏃である。側縁部がやや弧状に丸みを帯びた短めの二等辺三角形に近い形状である。表面は全体に細かい剥離で調整、裏面は周辺部を細かい剥離で調整して中央部分に大きく旧剥離面を残している。基部は凹基気味である。

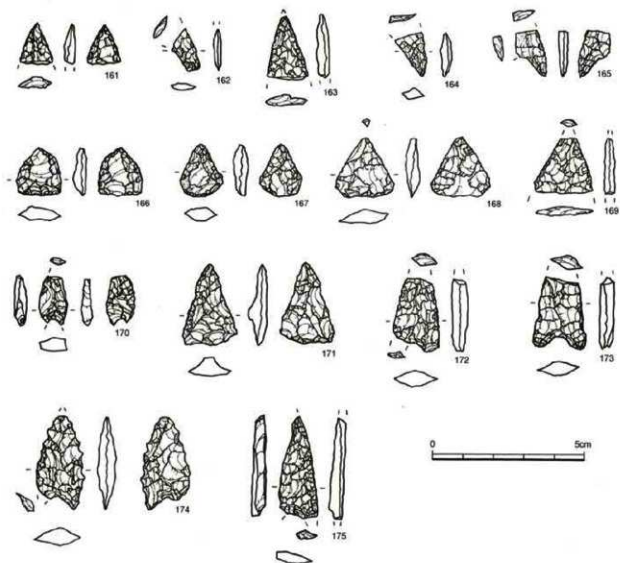
200は黒曜石製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。表面は先端と基部の括り部分を細かい剥離で調整、裏面は周辺部を細かい剥離で調整して中央部分に大きく旧剥離面を残している。基部は凹基気味である。201は黒曜石製の石鏃である。全体に丸みのあるやや片側が丸みのある三角形に近い形状である。両面とも周辺部分に細かい剥離で調整されている。基部は凹基である。

202は黒曜石製の石鏃である。縁辺部が弧状にふくらむ二等辺三角形に近い形状である。表面は全体に細かい剥離で調整、裏面は周辺部を細かい剥離で調整して中央部分に大きく旧剥離面を残している。基部は浅めの凹基である。203は黒曜石製の石鏃である。縁辺部が弧状に膨らむ二等辺三角形に近い形状である。表面は全体に細かい剥離で調整、裏面は周辺部を細かい剥離で調整して部分的に大きく旧剥離面を残している。基部はやや凹基気味である。

204は黒曜石製の石鏃である。縁辺部の基部に近い部分がやや広がる二等辺三角形に近い形状である。両面とも周辺部分に比較的細かい剥離で調整を入れて形状を整えているものの大きく旧剥離面を残している。基部はやや丸みのある浅い凹基である。205は黒曜石製の石鏃である。縁辺部が弧状になる長めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は弧状でやや浅い凹基である。

206は黒曜石製の石鏃である。右脚部端が一部欠損している。先端部もどちらかというところ丸みがあり鋭くはない。両面ともやや細かい剥離で調整している。正三角形に近い形状で基部はやや凹基である。207は黒曜石製の石鏃である。左脚部が欠損しているが元々正三角形に近い形状である。両面とも周辺部の細かい剥離で調整している。基部はやや凹基である。

208は黒曜石製の石鏃である。左脚部が欠損しているが元々は細身の二等辺三角形に近い形状である。209は黒曜石製の石鏃である。先端部の一部と右脚部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面ともに細かい剥離で調整されている。基部は大きく括られた凹基である。



第147図 グリッド一括石器類 (7)

210は黒曜石製の石鏃である。左脚部の端部が欠損している。元々正三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや浅く抉られた凹基である。211は黒曜石製の石鏃である。先端部の一部が欠損している。元々は正三角形に近い形状になる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は殆ど抉りがなく平基に近い。

212は黒曜石製の石鏃である。先端部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は浅く丸い形状の凹基である。213は黒曜石製の石鏃である。左脚部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は浅く凹基気味である。

214は黒曜石製の石鏃である。先端部が一部欠損している。元々やや長めの二等辺三角形に近い形状に

なる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は大きく丸みを持たせ脚部が細くなる凹基である。215は黒曜石製の石鐮である。先端部のはんの一部が欠損している。元々やや縁部が膨らみ加減の二等辺三角形に近い形状になる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。

216は黒曜石製の石鐮である。右脚部の一部が欠損している。元々やや縁部が膨らみ気味の二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧な調整が施されている。基部は深めの凹基である。

217は黒曜石製の石鐮である。右脚部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧な調整が施されている。基部は深めの凹基である。

218は黒曜石製の石鐮である。左脚部が大きく欠損している。元々小さな正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや深めの凹基である。219は黒曜石製の石鐮である。右脚部が大きく欠損している。元々正三角形に近い形状と思われる。両面とも周辺部分を中心に細かい剥離で調整されており中央部分に大きく旧剥離面を残す。基部はおそらく凹基であると思われる。

220は黒曜石製の石鐮である。両脚部が欠損していると思われるため元々の形状は不明である。両面とも細かい剥離で先端部と基部付近の調整を行っており中央部分にやや旧剥離面を残す。基部はやや浅い凹基であると思われる。221は黒曜石製の石鐮である。両脚部が欠損していると思われるため元々の形状は不明である。両面とも細かい剥離で先端部と基部付近の調整を行っており中央部分にやや旧剥離面を残す。基部はやや浅い凹基であると思われる。

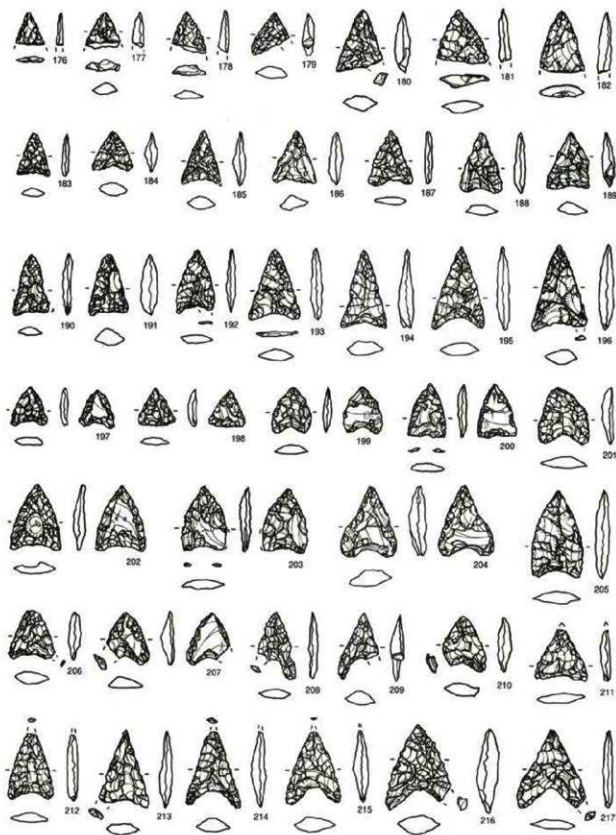
222は黒曜石製の石鐮である。右脚部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状と思われる。両面ともに細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基気味になるとと思われる。223は黒曜石製の石鐮である。右脚部の一部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや凹基気味である。

224は黒曜石製の石鐮である。右脚部の一部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基気味である。225は黒曜石製の石鐮である。左脚部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基気味である。

226は黒曜石製の石鐮である。右脚部が欠損している。元々は短めの二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はほぼ平基になるとと思われる。227は黒曜石製の石鐮である。右脚部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は浅めの凹基になるとと思われる。

228は黒曜石製の石鐮である。左脚部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。基部付近がやや粗いもの他は両面とも細かい剥離で調整されている。基部は浅めの凹基になるとと思われる。229は黒曜石製の石鐮である。先端部の一部と左脚部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。基部付近がやや粗いもの他は両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや浅めの凹基になるとと思われる。

230は黒曜石製の石鐮である。やや細長い二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は平基である。231は黒曜石製の石鐮である。先端部が一部欠損しているものの二等辺三角形に近い形状になるとと思われる。表面は細かい剥離で調整されている。裏面は周辺部分を細かい剥離で調整されて中央部分は裸面が大きく残されている。基部は浅めの凹基である。



第148図 グリッド一括石器類 (8)

232は黒曜石製の石鏃である。先端部から右脚部にかけて大きく欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや浅めの凹基と思われる。233は黒曜石製の石鏃である。やや不定形な縦長の三角形で右脚部のみ作られたような状況を呈している。両面とも細かい剥離とやや大きめの粗い剥離で不定形に調整されている。基部はどちらかという凹基なのかもしれない。

234は黒曜石製の石鏃片である。左脚部と基部に近い部分のみ残存している。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はどちらかという凹基なのかもしれない。

235は黒曜石製の石鏃片である。左脚部と基部に近い部分のみ残存している。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はどちらかという平基なのかもしれない。

236は黒曜石製の石鏃片である。脚部と基部の一部のみ残存している。両面とも細かい剥離で周辺のみ調整され、中央部分の旧剥離面を大きく残している。基部はやや凹基になると思われる。237は黒曜石製の石鏃片である。先端部が欠損している。両面とも細かい剥離で周辺のみ調整され、中央部分の旧剥離面をやや残している。基部はやや凹基になると思われる。

238は黒曜石製の石鏃である。先端部が欠損している。両面とも細かい剥離で周辺のみ調整され、中央部分に旧剥離面を残している。基部は凹基である。239は黒曜石製のどちらかという未製品に近い石鏃である。両面ともやや粗い剥離で周辺を中心に調整され、全体に厚みのある二等辺三角形に近い形状である。基部は平基である。

240は黒曜石製のどちらかという未製品に近い石鏃である。両面ともやや粗い剥離で周辺を中心に調整され、基部を除き全体に厚みのある二等辺三角形に近い形状である。基部は平基である。

241は黒曜石製の石鏃である。先端部が欠損している。両面とも細かい剥離で周辺のみ調整され、裏面中央部分に旧剥離面を残している。基部はほぼ平基である。

242は黒曜石製の石鏃である。先端部が大きく欠損している。両面とも細かい剥離で周辺のみ調整され、裏面中央部分に旧剥離面を残している。基部は浅く凹基気味である。

243は黒曜石製の石鏃である。厚みがある二等辺三角形に近い形状で先端部がほんの一部欠損している。両面ともやや粗い剥離で調整されている。基部はほぼ平基である。

244は黒曜石製の石鏃である。あるいは未製品であるかもしれない。先端部と左脚部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状であると思われる。両面とも先端部と基部を中心に細かい剥離で調整中破損したと思われる。基部は凹基である。245は黒曜石製の石鏃未製品である。左脚部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状であると思われる。両面とも先端部と基部を中心に細かい剥離で調整中破損したと思われる。基部は平基である。

246は黒曜石製の石鏃未製品である。両面とも比較的粗い剥離で調整し二等辺三角形に近い形状にしている。表面中央部分には旧剥離面が大きく残されている。基部は平基である。

247は黒曜石製の石鏃未製品である。両面とも基部と先端部のみ細かい剥離を入れて調整を始めている段階のものである。248は黒曜石製の石鏃未製品である。先端部と脚部とも一部欠損している。両面とも大きめの剥離で調整されている。

249は黒曜石製の石鏃である。左側面から先端部にかけて欠損している。元々正三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも周辺部を特に細かい剥離で調整している。基部はやや凹基気味になる。250

は黒曜石製の石鏃未製品である。先端部と基部が欠損している。両面とも周辺部を細かい剥離で調整している。

251は黒曜石製の石鏃である。先端部と右脚部が欠損している。元々短めの二等辺三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基になると思われる。252は黒曜石製の石鏃である。先端部と右脚部が欠損している。元々正三角形に近い形状になるものと思われる。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。基部はやや凹基となる。

253は黒曜石製の石鏃未製品である。左側半分が欠損している。両面とも周辺部分を細かい剥離で調整している。基部はやや凹基になると思われる。254は黒曜石製の石鏃片である。胴部のみ残存している。両面とも周辺部分を細かい剥離で調整している。基部はやや凹基になると思われる。

255は黒曜石製の石鏃である。左側半分が欠損している。両面とも周辺部分を細かい剥離で調整している。基部はやや凹基になると思われる。256は黒曜石製の石鏃未製品である。基部側で稜面を一部残している。先端部側を細かい剥離で調整している以外は未調整と思われる。

257は黒曜石製の石鏃未製品である。両面とも基部側を比較的小さめの剥離で調整している。先端部側はあまり調整されておらず尖っていない。258は黒曜石製の石鏃未製品である。両面とも基部側を比較的小さめの剥離で調整している。先端部側はあまり調整されておらずしかも途中で折れている。

259は安山岩 A 製の石鏃である。右脚部が欠損している。元々は正三角形に近い形状になると思われる。両面とも細かい剥離で調整されている。基部はやや凹基になるものと思われる。260は珪質頁岩製の石鏃である。正三角形に近い形状をしている。両面とも先端部と基部の内側を細かい剥離で調整し形状を整えている。基部はやや凹基気味に仕上げている。

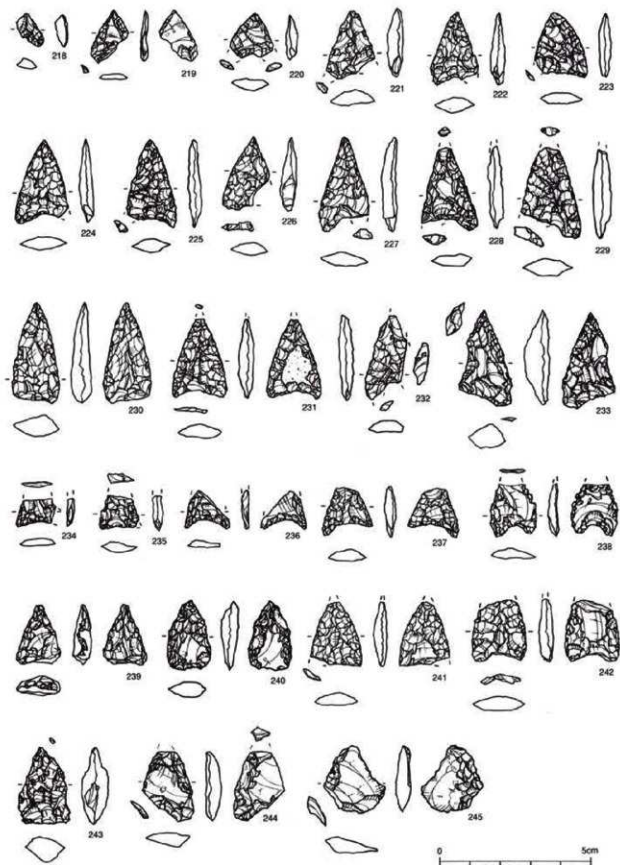
261は安山岩製の石鏃である。正三角形に近い形状をしている。両面ともやや大きめの剥離で調整している。基部はどちらかというとき平基に近い。262はメノウ製の石鏃である。左脚部の端部の一部と右脚部が欠損している。元々短めの二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面ともやや細かい剥離で調整されている。基部はほぼ平基になると思われる。

263は凝灰岩質のメノウ製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はあまり挟りがなくほぼ平基になると思われる。264は緑色凝灰岩製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はあまり挟りがなくやや凹基気味になると思われる。

265はメノウ製の石鏃である。先端部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも比較的細かい剥離で調整されている。基部は浅く弧状に挟られた凹基である。266はチャート製の石鏃である。どちらかと言えば正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は浅くやや凹基である。

267は珪質頁岩製の石鏃である。正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は浅い凹基である。268は安山岩 A 製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅い凹基である。

269は珪質頁岩製の石鏃である。細長い二等辺三角形に近い形状である。両面とも先端部と基部付近を中心に細かい剥離で調整しており旧剥離面を大きく残している。基部は浅い凹基である。270は安山岩 A 製の石鏃である。やや傾斜部が凹み気味の二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整



第149図 グリッド一括石器類 (9)

している。基部は浅く弧状になる凹基である。

271は凝灰岩製の石鏝である。先端部の一部と右脚部が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。272は珪質頁岩製の石鏝である。左脚部の端部が一部欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。

273はチャート製の石鏝である。やや短めの二等辺三角形に近い形状で先端部がやや鈍い。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く直線的に抉られた凹基である。274は凝灰岩製の石鏝である。やや短めの二等辺三角形に近い形状で基部側が狭まる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。

275は安山岩 B 製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状で基部側がやや狭まる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。276は安山岩 B 製の石鏝である。やや長めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。

277は緑色凝灰岩製の石鏝である。縁辺部がやや丸みを持ち鋸歯縁状に作り出された二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。278は安山岩 B 製の石鏝である。先端部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。

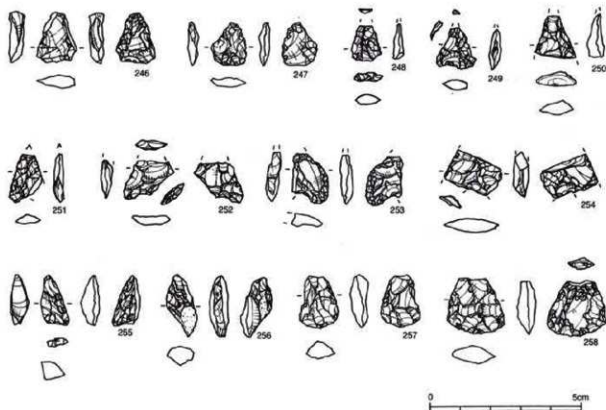
279は珪質頁岩製の石鏝である。先端部の一部が欠損している。元々長めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で非常に丁寧に調整されている。基部は深く抉られた凹基である。280は珪質頁岩製の石鏝である。先端部の一部が欠損している。元々やや縁辺部が膨らみを持つ二等辺三角形に近い形状である。表面側は中程に、裏面側は大きく全体に旧剥離面を残す程度に周辺部を細かい剥離で調整し形状を整えている。基部はやや深めに抉られた凹基である。

281は安山岩 A 製の石鏝である。細長い二等辺三角に近い形状で先端部がやや鈍角、基部がやや広がる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はほんの少しくぼむものの平基に近い。282は凝灰岩製の石鏝である。先端部と両脚部の一部が欠損している。元々は細長い二等辺三角に近く先端部がやや鈍角、基部がやや広がるような形状になるとと思われる。

283は珪質頁岩製の石鏝である。細長い二等辺三角形に近い形状で基部がやや広がる。両面とも中程の剥離はやや大きめで、周辺部を細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はいくらか凹基気味である。284はチャート製の石鏝である。基部は調整途中で折れたのか中断したのかは定かではないが現状は二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや不明瞭であるがどちらかといえば平基に近い。

285は珪質頁岩製の石鏝である。基部と両脚部分が欠損している。元々は二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや不明瞭であるがどちらかといえば凹基に近い。286は珪質頁岩製の石鏝片である。片側の脚部から胴部にかけての一部が残されている。比較的細かい剥離で調整されていることがわかる以外の詳細は不明である。

287は凝灰岩製の石鏝である。先端部が残存している。両面とも先端部から片側縁部のみ細かい剥離で調整されている。基部は欠失しているため不明である。288は安山岩 A 製の石鏝である。正三角形に近い



第150図 グリッド一括石器類 (10)

形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は大きく抉られた凹基である。

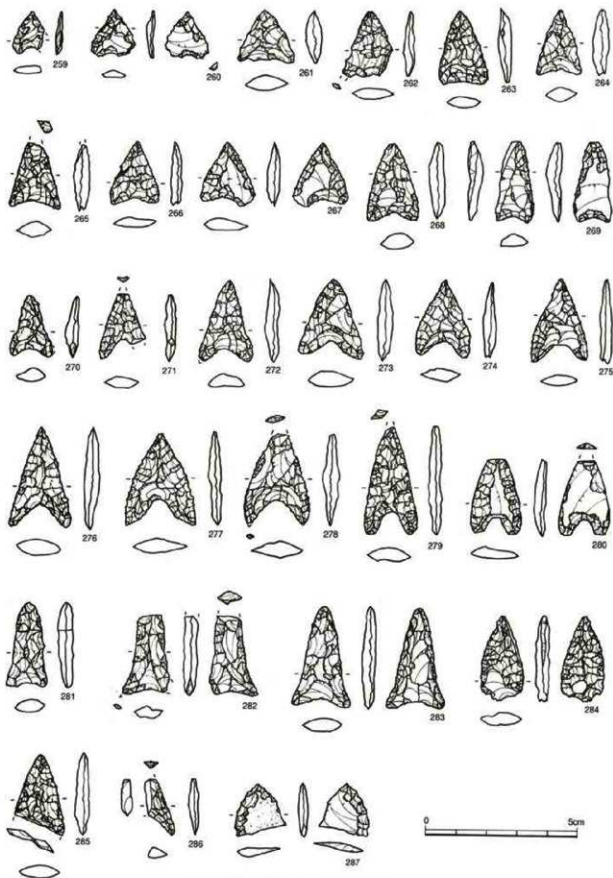
289は安山岩 A 製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で調整されている。基部は深く抉られた凹基である。290は安山岩 A 製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。表面の中程に一部旧剥離面を残すものそれ以外は両面ともに細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅く弓形に抉られた凹基である。

291は安山岩 A 製の石鏃である。縁辺部がやや丸みのある二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅く弓形に抉られた凹基である。292は安山岩 A 製の石鏃である。やや丸みのある縁辺部を持つ短めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅く抉られた凹基である。

293は安山岩 A 製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅く抉られた凹基である。294は安山岩 A 製の石鏃である。細長く鋭い縁辺部を持つ二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅く弓形に抉られた凹基である。

295は安山岩 A 製の石鏃である。細長い二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。

296は安山岩 A 製の石鏃である。先端部の一部が欠損しているものの元々縁辺部がやや丸みのある細長い二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅く抉られ



第151図 グリッド一括石器類 (11)

た凹基である。297は安山岩 A 製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや浅く抉られた凹基である。

298は安山岩 A 製の石鏝である。やや丸みのある二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大小さまざまな剥離で調整されている。基部はやや浅く抉られた凹基である。

299は安山岩 A 製の石鏝である。左縁辺部を一部欠損している。元々やや縁辺部が丸みのある正三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅く弓形に抉られた凹基である。300は安山岩 A 製の石鏝である。先端部がやや細く鋭い二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は非常に浅い凹基である。

301は安山岩 B 製の石鏝である。細長い二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されていると思われるが表面の風化が著しいためどちらかというところ不明瞭である。基部は平基である。302は安山岩 A 製の石鏝である。先端部に近い部分がやや広がる二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。基部はどちらかといえば平基になる。

303は安山岩 A 製の石鏝である。先端部に近い部分がやや広がる長めの二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや細かい剥離で調整されている。基部は浅めの凹基になる。

304は安山岩 A 製の石鏝である。やや長めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも先端部など一部を除きやや大きめの剥離で調整されている。基部は浅めの凹基になる。

305は安山岩 A 製の石鏝である。やや縁辺部が丸みのある正三角形に近い形状である。両面とも比較的細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅めの弓形になる凹基である。

306は安山岩製の石鏝である。二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや細かい剥離で調整されている。基部はやや浅めの凹基になる。307は安山岩 A 製の石鏝である。右脚部が一部欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面とも比較的細かい剥離で調整されている。基部は浅めの凹基であろう。

308は安山岩 B 製の石鏝である。左脚部の一部が欠損している。元々縁辺部が丸みのある二等辺三角形に近い形状である。両面とも縁辺部は細かく、基部付近は大きめの剥離で調整されている。基部はやや浅めの凹基である。310は安山岩 A 製の石鏝である。左脚部の一部が欠損している。元々短めの二等辺三角形に近い形状である。両面とも縁辺部は細かく、基部付近は大きめの剥離で調整されている。基部はやや浅めの凹基である。

311は安山岩 A 製の石鏝である。左脚部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面とも比較的細かい剥離で調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。312は安山岩 A 製の石鏝である。左脚部が欠損している。元々正三角形に近い形状である。両面とも比較的細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は浅く抉られた凹基である。

313は安山岩 A 製の石鏝である。両脚部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状と思われる。両面とも先端部はやや細かい剥離で、基部付近はやや大きめの剥離で比較的丁寧に調整されている。314は安山岩 A 製の石鏝である。先端部の一部と左脚部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部はやや深く抉られた凹基である。

315は安山岩 A 製の石鏝である。先端部と左脚部が欠損している。元々やや縁辺部が丸みのある正三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧な調整が行われている。基部は大きく抉られた凹基であ

る。316は安山岩 A 製の石鏃である。先端部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。基部はやや浅い凹基である。

317は安山岩 A 製の石鏃である。先端部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状になるものと思われる。基部はやや浅い凹基である。318は安山岩 B 製の石鏃である。先端部の一部が欠損している。元々細長い二等辺三角形に近い形状である。両面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。基部は非常に浅い括りの凹基である。

319は安山岩 B 製の石鏃である。脚部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で粗く仕上げている。基部はほぼ平基である。

320は安山岩 B 製の石鏃である。先端部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で粗く仕上げている。基部はほぼ平基である。321は安山岩 B 製の石鏃である。先端部の一部が欠損している。元々二等辺三角形に近い形状である。両面ともやや大きめの剥離で粗く仕上げている。基部はほぼ平基である。322はチャート製の調整痕のある不定形の石器である。両面とも周辺部分に連続的な細かい調整痕が残されている。石鏃の未製品になる可能性が高い。

323はチャート製の調整痕のある不定形の石器である。両面とも周辺部分に連続的な細かい調整痕が残されている。石鏃の製作途中で縦方向に折断した可能性が高い。324は珪質頁岩製の調整痕のある不定形の石器である。両面とも周辺部分に連続的な細かい調整痕が残されている。石鏃の製作途中で縦方向に折断した可能性が高い。

325は黒曜石製の石鏃未製品である。縁辺部に沿って細かい剥離で調整中に廃棄したものである。326は珪質凝灰岩製の石鏃未製品である。大形剥片を周辺部より調整して大きな二等辺三角形に近い形状に仕上げた後、基部を調整しようとした段階で折断したような感じである。

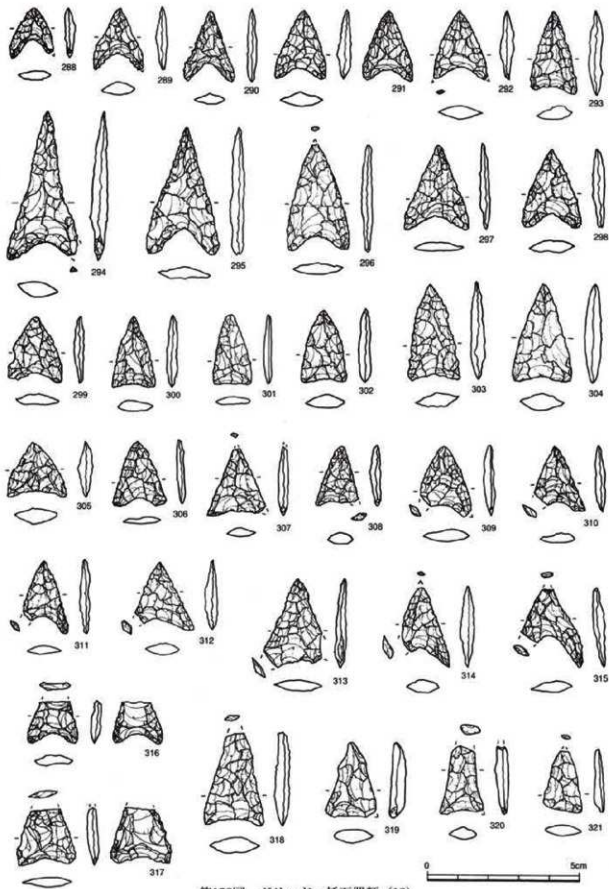
327はチャート製の石鏃未製品である。剥片の表面側は周辺部からやや大きめの剥離で調整し形状を整えている。裏面は先端部から右縁辺部に沿って細かい剥離で調整している。裏面や基部調整についてはあまり行われていない。328はチャート製の石鏃未製品である。厚みのある剥片の先端部から右脚部にかけてやや細かい剥離での調整が行われている。左脚部側は大きく縦方向に欠損している。

329はチャート製の石鏃未製品である。厚みのある剥片の先端部を除く周辺部を比較的粗く調整を行っている。先端部は製作途中で横方向に欠損している。330はチャート製の調整痕のある石器である。石鏃の未製品とも考えられる。厚みのある剥片の片側縁と基部にあたる部分は大きな剥離による調整が表裏面ともに見られる。片側縁側は表面から裏面への折断面が見られる。

331は安山岩 A 製の石鏃未製品と思われるものである。先端部側と右脚部の先端付近をやや大きめの剥離で調整している。左基部付近は調整を進めている段階で折断したものである。332はチャート製の石鏃未製品である。裏面の縁辺部に沿って細かい剥離での調整がみられる。全体の厚みのある剥片で途中で製作を中止したものである。

333は安山岩 A 製の調整痕のある剥片である。やや薄い剥片で片側縁辺部に細かい不連続な剥離が残されている。334は安山岩 A 製のほぼ正三角形に近い形に調整された石鏃未製品である。両面とも比較的大きめの剥離で粗く調整している。途中で製作を中止したものである。

335は珪質頁岩製の尖頭器状に加工された石器である。表面側の右側縁部に沿って大小不規則な剥離で調整されて菱形に仕上げられている。裏面は全く調整されていない。左側面は大きく剥離されている。石



第152図 グリッド一括石器類 (12)

鎌の未製品かもしれない。336は黒曜石製の調整痕の見られる石器である。片側縁辺部に鱗状の小剥離が連続的に残されているため使用されたものとも考えられる小剥片である。

337は安山岩 A 製の石鎌未製品である。表面の左側縁と基部にかけて比較的細かい剥離で調整されている。右側縁部は折断面でやや厚みを残している。そのために製作途中で廃棄されたのかもしれない。338は安山岩 A 製の石鎌未製品である。表面の先端部から縁辺部に沿って調整途中で左脚部が欠損したのと思われる。基部側に一部礫面が残されている。裏面は殆ど調整痕が残されていない。

339は黒曜石製の調整痕のある剥片である。裏面の縁辺部に沿って連続的な小剥離痕が残されており、反対側は折れていることから考えると石鎌製作途中で折れた可能性も考えられる。340は黒曜石製の石鎌である。ほぼ脚部が欠損しているため元々二等辺三角形に近い形状であったと思われるものの基部の形状等は不明である。両面とも細かい剥離で調整されている。安山岩質の夾雑物のため製作途中で折れてしまった可能性も高い。

341は珪質頁岩製の石鎌未製品である。先端部は両面とも細かい剥離で調整されており、基部はやや雑に横方向に剥離して調整を終了しているものと思われる。342は黒曜石製の石鎌片である。おそらく基部の袈り部分を調整中に破損したものと思われる。

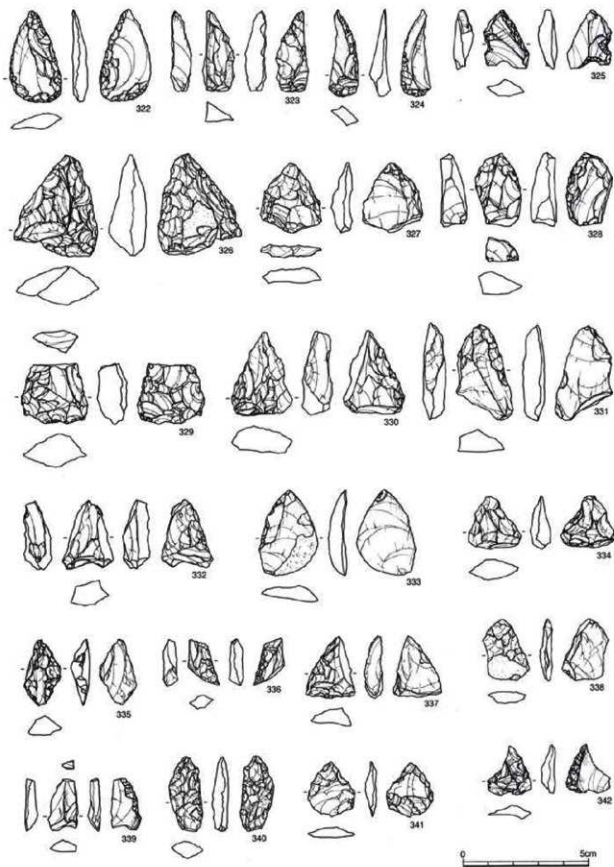
343は珪質頁岩製の楔形石器（剥片）である。素材として扁平な小楕円礫を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。石鎌の素材となる剥片である。裏面と側面に礫面が残されている。344はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。石鎌の素材となる剥片を作出したのと思われる。裏面に大きく礫面が残されている。

345は珪質頁岩製の楔形石器（石核）である。剥片の上下に打撃による細かな剥離痕、さらに表面の片側縁部に沿って小剥離による調整が見られる。石匙か何かの石器に加工しようとしたのかもしれない。346はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。また側面にも細かい打撃痕が残されている。側面に沿って大きく礫面が残されている。

347は珪質頁岩製の楔形石器（石核）である。方形の剥片を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。また側面にも細かい打撃痕が残されている。これ自体を石器とした可能性がある。348はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円礫を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。石鎌の素材となる剥片を作出したのと思われる。裏面に大きく礫面が残されている。

349はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円礫を使用している。先端部の縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。石鎌の素材となる剥片を作出したのと思われる。裏面に大きく礫面が残されている。350はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円礫を使用している。表面の縁辺部に沿って小剥離痕が大きく残されている。裏面は一部打撃による小剥離痕が残されている以外は中程に大きく礫面が残されている。

351はチャート製の楔形石器（石核）である。素材としてやや大きな円礫を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。また左側縁部に一部礫面が残されており、そこからの細かい打撃痕が残されている。352は安山岩 A 製の楔形石器（剥片）である。左側面に沿って礫面が



第153図 グリッド一括石器類 (13)

僅かに残されている。上下に打撃による小剥離痕、左右の縁辺部にも細かい調整痕が残されている。石礫の素材になりうる剥片である。

353はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円礫を使用している。右側縁部は打撃時点で折断されたものと思われる。裏面は一部打撃による小剥離痕が残されている以外は中程に大きく礫面が残されている。354はチャート製の楔形石器（石核）である。さらに周辺部分を細かく調整して石匙のような両面加工の石器に仕上げようとした形跡がうかがえる。

355はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円礫を使用している。先端部の縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。石礫の素材となる剥片を作出したものと思われる。裏面に大きく礫面が残されている。356は黒曜石製の楔形石器（剥片）である。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。

357はチャート製の楔形石器（石核）である。素材として扁平な小楕円を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。裏面は一部打撃による小剥離痕が残されている以外は中程に大きく礫面が残されている。358はチャート製の楔形石器（石核）である。素材としてやや大きな円礫を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って小剥離痕が両面に認められる。また右側縁部に一部礫面が残されており、そこからの細かい打撃痕が残されている。

359はチャート製の楔形石器（石核）である。素材としてやや大きな円礫を使用している。打面と先端部の上下縁辺部に沿って剥離痕が両面に認められる。剥がされた小剥片は石礫等の素材となった可能性がある。また左側縁部に一部節理面が残されており、そこからの細かい打撃痕が残されている。360は安山岩 A 製の削器である。縦長剥片の右側縁辺部に沿って小剥離で調整されて刃部を作り出している。

361は黒曜石製の調整痕のある剥片である。剥片の左側縁部に沿ってやや挟まれるように刃部が形成されている。使用されたためにできた可能性もある。362は黒曜石製の調整痕の見られる剥片である。縦長剥片の左縁辺部に2か所大きく挟まれた剥離痕が残されており使用痕とも考えられる。

363は安山岩 A 製の縦長の搔器である。厚みのある縦長の剥片を素材として両側縁と先端部に比較的大きな剥離で調整し刃部を作り出している。背面上には中程に大きく礫面を残している。364はチャート製の縦長の削器である。左側縁部に沿ってやや細かい剥離で調整し刃部を作り出している。

365と366は珪質頁岩製の削器で接合資料1となる。右縁辺部中央が大きく挟まれたことで折断したものと思われる。周辺部分に比較的細かい剥離で調整して刃部を作り出している。片面側はほぼ原礫面で覆われている比較的薄く剥がされた剥片を素材としている。367は黒曜石製の削器である。厚みのあるやや横長の剥片を素材にして左縁辺部と先端部にやや不規則な小剥離痕が残されている。使用のための剥離痕である可能性は高い。

368は黒曜石製の縦長の削器である。やや厚みのある縦長の剥片の左縁辺部に3か所の大きく挟まれた剥離痕が残されており使用痕とも考えられる。先端部にもやや不連続な使用痕もしくは調整痕のようなものが見られる。369は黒曜石製の横長の剥片で使用痕もしくは調整痕の見られるものである。右側の先端部に近い部分にやや挟まれるように細かい剥離痕が残されている。

370は珪質頁岩製の縦長の削器と思われるものである。やや薄手の縦長剥片を素材にして両側縁部と先端部にかけて細かい剥離で調整している。挟れている部分は使用のためかと思われる。371は黒曜石製の削器である。大形の横長の剥片の打面部を除く縁辺部に沿ってやや連続的に細かい剥離で調整されている。

372は黒曜石製の調整痕と微細剥離痕の見られる大形剥片である。右側縁部には大きく抉られるような剥離痕があり、左側縁部には使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。先端部には大きく折断されている。

373は珪質頁岩製の石匙である。比較的小さく薄い剥片を素材にして基部を細かい剥離で調整し作り出している。刃部は左側縁部に微細剥離痕が認められる。374は珪質凝灰岩製の縦長の石匙である。基部を細かい剥離で抉りを入れて作り出している。刃部は両側縁に沿ってやや鋸歯状になるように作り出している。

375は珪質頁岩製の石匙と思われる石器である。形状は先端部が大きく広がる丸みのある三角形に近い。両面とも比較的大きい剥離で調整して形状を整えている。先端部に近い部分はさらに細かい剥離で丁寧に調整されている。376はチャート製の搔器である。剥片の先端部に近い右側縁部に沿って比較的細かい剥離で刃部調整を行っている。左側縁部には使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。

377は黒曜石製の楔形石器である。上下両端に打撃による微細剥離痕等が認められる。左側縁部は加撃時に折断されている。378は珪質頁岩製の削器と思われるものである。横長の剥片を素材にしており、先端部の縁に沿って細かい剥離でやや鋸歯状に刃部が作り出されている。

379は黒曜石製の使用痕と思われる微細剥離痕が残されている剥片である。剥片の両側縁部を抉るような形状の周辺に微細な剥離痕が認められる。380は安山岩 A 製の削器である。右側縁部に沿って細かい剥離で調整されている。裏面には大きく礫面が残されている剥片である。

381は安山岩 A 製の削器である。やや厚みのある縦長の剥片を使用し左側縁部に沿って片面側にやや不連続な剥離で調整されている。裏面には一部礫面も認められる。382は凝灰岩製の石筥と思われる石器である。やや厚みのある両面加工の尖頭器に近い形状をしている。周辺部は比較的大きな剥離で調整されている。

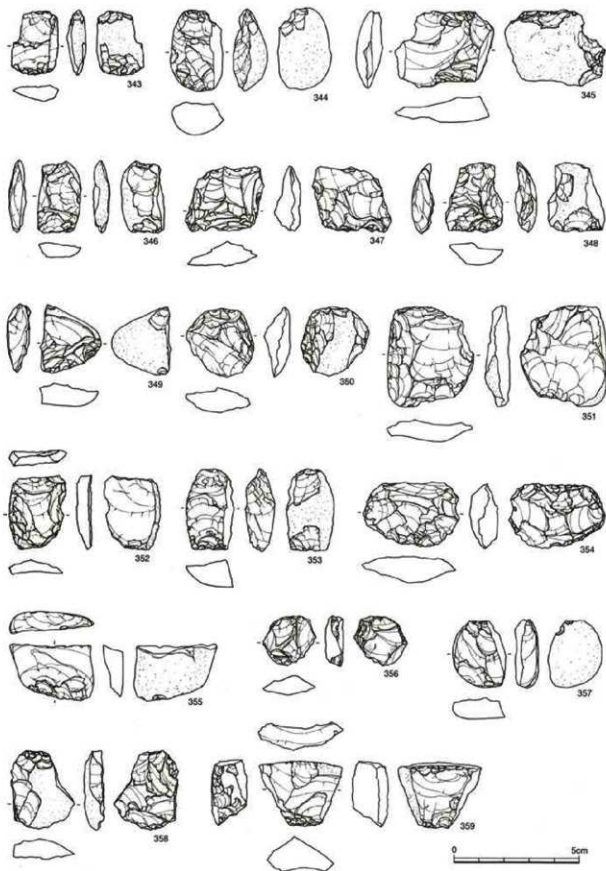
383はチャート製の石筥の未製品と思われる石器である。両面をやや大きめの剥離で調整し一部に礫面を残している。周辺部もやや粗く調整した部分が見られ完全に仕上げているとは言い難い。384は黒曜石製の使用痕と思われる微細剥離痕が残されている縦長の剥片である。裏面の左側縁に沿って微細剥離痕が認められる。

385は黒曜石製の横長の小剥片を横位に用いている。先端部の縁に沿って微細剥離痕が連続的に残されており使用痕ではないかと思われる。386も黒曜石製の横長の小剥片を横位に用いている。先端部の縁に沿って微細剥離痕が連続的に残されており使用痕ではないかと思われる。

384～386は定形的な石器ではないが石錐のような用途に用いたものかもしれない。387は珪質頁岩製の石筥と思われる石器である。頭部は欠損していると思われる。背面の右より中央部分の比較的厚みのある部分は一部使用のためと思われる摩滅痕が認められる。388はチャート製の調整痕のある小剥片である。右側縁部に沿って連続的な細かい剥離で調整が残されている。389は珪質頁岩製の調整痕のある剥片である。左側縁部から先端部にかけてやや細かい剥離で調整している。

390は珪質凝灰岩製の調整痕のある剥片である。左側縁部の一部大きく抉られた部分とその周辺に不連続な微細剥離痕が認められる。使用痕である可能性が高い。先端部側は欠損している。391は黒曜石製の調整痕のある剥片である。先端部に近い右側縁部に鋸歯状に調整痕が見られる。

392はチャート製の調整痕のある剥片である。裏面側左側縁部に沿って細かい剥離で調整されている。先端部は折断されている。393はチャート製の調整痕のある剥片である。左側縁部にやや大きめの剥離で



第154図 グリッド一括石器類 (14)

調整されている。また打面部側と片側面が折断されている。

394は珪質頁岩製の調整痕のある剥片である。横長剥片の打面部の縁辺部に沿って比較的細かい剥離で調整されている。小礫を素材として使用しており一部礫面が残されている。

395は黒色頁岩製の削器である。大きめの礫の表面に近い部分を剥離した横長剥片を素材として使用しており、背面側はほぼ礫面で覆われている。打面に近い左肩部分と先端部にかけての縁辺部に沿って不連続な小剥離痕が認められる。396は黒曜石製の調整痕がある剥片である。両面ともやや大きめの剥離で調整されているがやや形状が棒状である以外は詳細不明である。石鎌を製作しようとしていたのかもしれない。

397は珪質頁岩製の調整痕のある剥片である。上半分は折断されているものの残存部分の縁辺部に細かい剥離での調整が認められる。398はチャート製の剥片である。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。

399は珪質頁岩製の小剥片である。打面部側に使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。400は珪質頁岩製の剥片である。打面部側の縁辺部に沿って使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。

401は珪質頁岩製の縦長の剥片である。縁辺部は比較的鋭いが微細剥離痕は認められない。402はチャート製のやや不整な縦長の剥片である。左側縁部分に使用痕と思われる小剥離痕が残されている。

403は黒曜石製の石鎌片と思われるものである。または加工途中で剥がれた碎片と思われる。404は黒曜石製の碎片である。打撃面に近い右肩部分に小剥離が見られる。石器製作途中の碎片である可能性が高い。

405は黒曜石製の剥片である。一部に小剥離痕が見られる。石鎌等に加工しようと考えたものかもしれない。406はチャート製の石核である。上下方向から複数の縦長の剥片を剥がした剥離面が残されている。

407はチャート製の横長の剥片である。やや厚みのある剥片で縁辺部等にも微細剥離痕等は認められない。408はチャート製の小剥片である。先端部に近い左肩部分の縁辺部に小剥離痕が残されている。

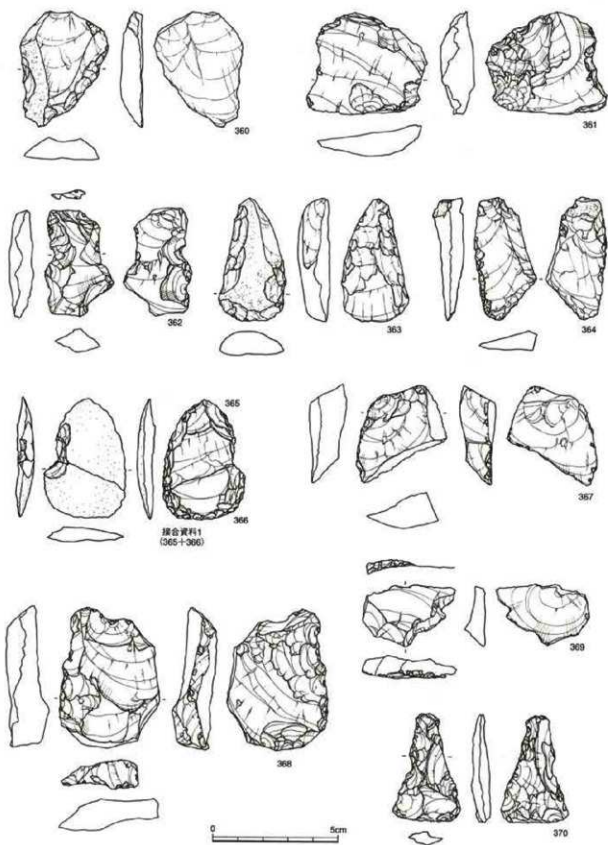
409は珪質頁岩製の剥片である。左縁辺部は破断したように階段状に剥離している。右側縁部は大きく折断されている。何らかの使用が考えられる。410は凝灰岩製の磨製石斧である。扁平楕円礫を素材に両側面を敲打して形状を整えた後、表裏の平面及び刃部を研磨して片刃に仕上げている。

411は砂岩製の磨製石斧である。扁平楕円礫を素材に両側面を敲打し形状を整えた後、表裏面を研磨している。刃部は楔として使用されたと思われる刃部が片刃であったことは認められるが研磨されていたかどうかは不明である。412は砂岩製の磨製石斧である。扁平楕円礫を素材に両側面を敲打し形状を整えた後、表裏面を研磨している。頭の部分は使用時の敲打により打削している。

413は砂岩製の磨製石斧である。やや厚みのある棒状の礫を素材にして両側面を敲打し形状を整えた後、表裏面を研磨している。敲打による装着用の凹みも認められる。片刃に仕上げている。最終的に敲打により胴部と刃部に打撃痕と剥離痕が残されている。414は緑色凝灰岩製の小形の磨製石斧である。扁平楕円礫を素材に片側面を打撃し形状を整えた後、両面を研磨し片刃に仕上げている。楔として使用して折れてしまったと思われる。

415は凝灰岩製の刃部磨製石斧である。扁平楕円礫を素材にして刃部のみ磨いて片刃に仕上げている。楔として使用するのためのものかもしれない。416は凝灰岩製の小形の磨製石斧の未製品である。扁平楕円礫を素材にして刃部を大きく打削して作り出した後、部分的に研磨しているのが認められる。製作途中で中止したと思われるが原因は不明である。

417は砂岩製の磨製石斧である。やや長めで厚みのある楕円礫を素材にして両側面と片面を大きく研磨している。裏面側は細かく敲打して面を整え刃部を研磨して片刃に仕上げている。頭部に大きく打撃痕が



第155図 グリッド—括石器類 (15)

認められることから楔として使用していた可能性もある。

418は粘板岩製の磨製石斧である。どちらかといえば未製品である可能性も高い。扁平な楕円礫を素材にして両面とも頭部の部分を除き周辺部から刃部にかけて打撃しながら形状を整えている。刃部を中心に一部研磨した部分が認められるが完全に仕上がっているとは言い難い。419は緑泥片岩製の磨製石斧である。右側縁部は研磨で平面仕上げしている。左側縁部は両面とも打撃で剥離調整後、研磨して丸く細く仕上げている。刃部は使用しながら研がれており端部が欠損している部分が見られる。

420は緑色凝灰岩製の小形の磨製石斧である。比較的小さな扁平楕円礫を素材にして頭部の一部に自然面を残す以外はほぼ全面を研磨している。刃部は特によく磨き上げており片刃に仕上がっている。421は緑泥片岩製の小形の磨製石斧である。礫片を素材として使用したものと思われる。裏面の一部には剥離面の一部がそのまま残されているものの頭部と両側面は平面に研磨されている。刃部は薄く鋭く研磨されている。楔としての用途が考えられるものであるが使用はされていないようである。

422は緑泥片岩製の磨製石斧である。扁平楕円礫を素材にして製作されており刃部以外の側縁部は平面的に研磨されてやや厚みを持たせて仕上げられている。刃部は片刃に仕上げられている。423は緑泥片岩製の小形の磨製石斧である。礫片を素材として作られた可能性の高いもので方形に近い形状のものである。頭部を除き両面両側縁を周辺部をよりカットするように研磨している。刃部は両面より鋭く研磨されている。楔としての用途が考えられるものであるが使用はされていないようである。

424は緑色凝灰岩製の小形の磨製石斧片である。刃部の近い部分の片側だけが遺存している。片刃石斧で刃部に細かい刃こぼれもみられる。楔として使用したものかもしれない。

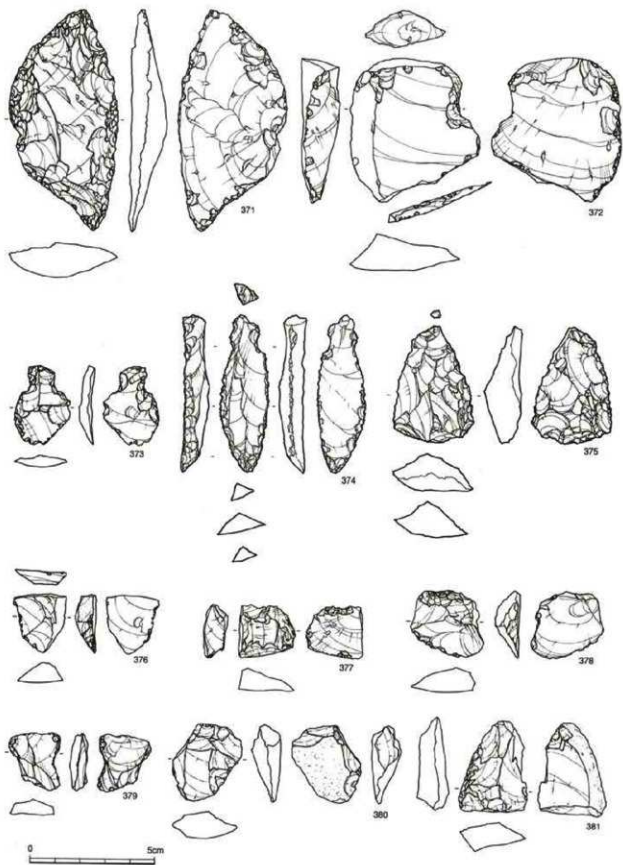
425は緑色凝灰岩製の磨製石斧の頭端部の遺存したものである。側縁部には原礫の一部が残されている。426は粘板岩製の小形の磨製石斧である。側縁部は研磨で平面仕上げしている。刃部は広く丸みのある形状で両面とも研磨されている。楔として使用したものかもしれない。

427は玄武岩製の磨製石斧片である。刃部側のみ遺存している。礫の縁辺部をそのまま残し刃部のみ若干の研磨を行い石斧として使用したものと思われる。428は頁岩製の磨製石斧で元々は細長く扁平で片刃になるものと思われるが、胴部から上は欠損している。刃部は一部欠損している。柄に装着した状態で折断し廃棄されたものであろう。

429は粘板岩製の磨製石斧の頭端部の遺存したものである。側縁部は軽く研磨されている。表裏面ともに研磨されていたと思われるが刃部の形状は不明である。頭部には装着時の打痕のようなものが残されている。430は安山岩質砂岩製の磨製石斧である。右側縁部は平面仕上げというよりも折れてしまった可能性がある。元々幅広いの石斧であったのではないだろうか。左側縁部は軽い研磨で丸縁に仕上がっている。刃部は厚みのある片刃仕上げである。研磨そのものはやや弱い。頭部に打痕があることから楔として機能していた可能性もある。

431はホルンフェルス製の磨製石斧である。細長いやや棒状の礫をあまり変形させないで刃部のみ片刃に調整したものと思われるが、上下方向からの加撃により頭部から胴部中央にかけて大きく剥離している。刃部は多数の剥離痕が残されている。432は砂岩製の磨製石斧である。側面は軽く研磨して平面仕上げした後、細かく打撃して形状を整えている。両面とも丁寧に研磨して仕上げている。刃部は片刃仕上げで特に刃部の片面側は使用のために残されたと思われる光沢が確認できる。

433は安山岩製の磨製石斧の未製品と思われるものである。両側面の一部は原礫のまま残されている



第156図 グリッド一括石器類 (16)

が殆ど打撃により調整が進められている。刃部は剥離調整により片刃状に調整されている。頭部についても厚みを持たせて調整が進められている段階のものである。両面は幾分研磨された状況まで進められている。434はホルンフェルス製の小形の磨製石斧の未製品と思われるものである。周辺部分を細かく剥離して調整して形状を整えている。刃部は片刃に調整するために大きく剥離している。研磨そのものはまだ行われていない。

435は玄武岩製の小形の磨製石斧である。頭部から両側縁部は裏面側からの細かい剥離で調整され形状を整えている。刃部は基本的に片刃状に仕上げられている。使用されたためか剥離痕が多く残されている。両面とも縦方向を主体にかなり研磨されている。

436はホルンフェルス製の磨製石斧片と思われるものである。胴部の一部と思われるもので打撃痕等から判断すると楔として転用された可能性がある。437は安山岩製の磨製石斧片である。胴部付近の大形破片で断面形状は綺麗な長楕円形である。両面及び側面ともよく研磨されている。刃部及び頭部の形状等は不明である。

438は凝灰岩製の打製石斧である。形状は刃部側がやや広がり頭部が狭くなる細長いものである。両面ともやや大きめの剥離で調整されている。刃部は片刃気味に調整されている。全体に薄く仕上げられている。439は流紋岩製の打製石斧である。頭部は欠損している。片側の周辺部分から大きく剥離をしながら全体の形状を整えている。表面の中央部分は礫から剥がされた旧剥離面が大きく残されている。裏面側は刃部も含め全て礫面である。多少は使用された時の摩滅と思われるか所も見られる。

440は頁岩製の打製石斧である。頭部側は大きく原礫面を残し厚みがある。刃部付近は比較的細かい剥離で調整し、周辺部にかけては大きく剥離して形状を整えている。441は玄武岩製の打製石斧である。刃部側がやや広がり気味の丸みのある長めの形状である。全体にやや大きめの剥離で周辺部を調整して形状を整えている。両面とも中央部分に原礫面が大きく残されているのが解る。

442は頁岩製の打製石斧の刃部破片である。厚みのある刃部で表面側は左側に大きく原礫面が見られる。調整は比較的細かい剥離で行われている。使用中に折れたものと思われる。443は凝灰岩製の小形の打製石斧である。扁平小楕円礫を素材にして片側周辺部よりやや細かい剥離で調整され形状を整えている。表面中央部分と裏面全面に原礫面が残されている。この後に研磨することで小形の磨製石斧になりうるものと思われる。

444はホルンフェルス製の打製石斧である。頭部は若干折れている。裏面側から大きく剥離して調整されている。刃部はやや細かい剥離で調整されなおかつ使用されたためか摩滅痕が認められる。445は凝灰岩製の頭部側が折断した打製石斧である。側縁は殆ど原礫面が残されている。裏面は大きく原礫面で覆われている。刃部は比較的細かい剥離で調整されたことが解る。

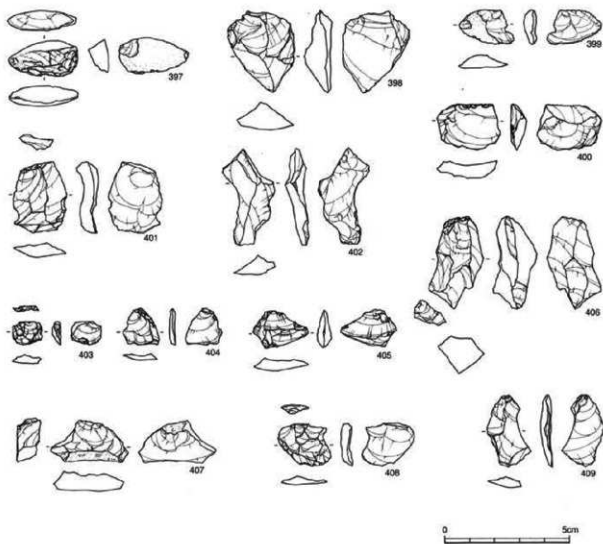
446は黒色頁岩製の打製石斧である。扁平長楕円礫を素材にして刃部のみ片側より細かい剥離で調整している。頭部側に打撃痕等も認められないため楔として使用されたこともないようである。

447～454は石皿類である。447は安山岩製の石皿片である。中央部分の凹部には若干の打撃による潰れ等も認められる。448は花崗岩製の石皿片である。作業面は両面を使用していたものである。中央部分の作業時の敲打痕が若干残されている。

449は花崗岩製の石皿片である。作業面は両面を使用していたものである。二次的使用の例として片側の折れ面が摩滅し、さらに断面に蜂の巣状のくぼみも1か所認められる。450は砂岩製の石皿である。



第157図 グリッド一括石器類 (17)



第158図 グリッド—括石器類 (18)

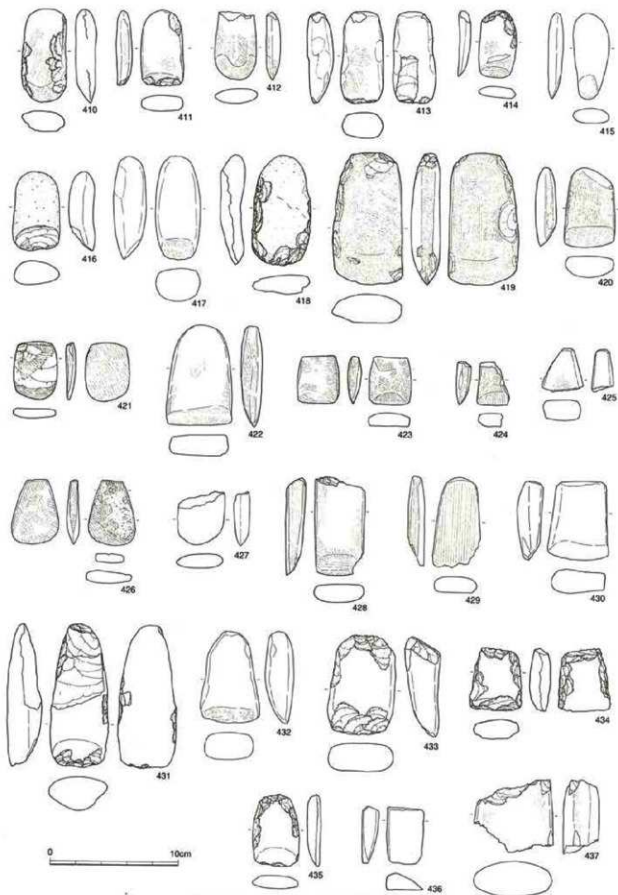
両面とも中央部分に若干の凹みが認められる。それらの周辺部分に打撃痕や摩滅痕が認められる。石皿の周辺部はやや被熱化した部分も見られる。

451は安山岩製の石皿片である。作業面は両面を使用していたものである。452は安山岩製の大型の石皿片である。片面を作業面としているものである。453は花崗岩製の石皿片である。片面を主に使用しておりその作業面の周辺部分に打撃痕や摩滅痕が認められる。

454は安山岩製の石皿である。片面を主に作業面として使用しているものである。摩滅痕が主体である。

455～510は磨石類である。455は緑色凝灰岩製の磨石である。元々磨製石斧の未製品であるかと思われるが、裏面側の丸く研磨された形状から判断すると磨石に転用されたものかもしれない。縁辺部の打撃痕も潰れ気味で使用状況を示している。456は砂岩製の磨石である。長軸方向の両端と片面の平坦面中央部分に打撃痕が認められる。平坦面は作業面のため研磨されている。

457は安山岩製の磨石である。被熱化が著しく破損した部分以外には両面とも研磨痕が認められるものである。458は流紋岩製の磨石である。両面とも研磨痕が認められるものである。特に下端の周辺部付近



第159図 グリッド一括石器類 (19)

は研磨痕が著しい。

459は砂岩製の磨石である。背面側の中央部分に打撃痕が多数認められる。それ以外は両面とも研磨痕が認められる。460は珪質頁岩製の磨石である。やや黒くくすんでおり被熱しているものと思われる。幾分かばんだ部分を使用して押しつけて作業したのかもかもしれない。研磨痕はそれ程認められない。

461は砂岩製の磨石である。片面中程と周辺部分に打撃痕が認められる。両面とも研磨痕は比較的明確に認められる。462は砂岩製の磨石である。扁平楕円形の長軸縁辺部の両端には列点状の強い打撃痕、他の周辺部と平坦部中央部にはやや潰れ気味の弱い打撃痕が見られる。裏面側は丸みのある研磨痕が認められる。

463は凝灰岩製の磨石である。礫の裏面の平坦部分を主な作業面として使用しており顕著な研磨痕が認められる。464は花崗岩製の磨石である。丸い礫の両面及び縁辺部等は使い込まれておりかなり研磨が進んでいる。縁辺部には2～3か所打撃痕も認められる。

465は安山岩製の磨石である。扁平な楕円形の表面中央部分と縁辺部の一部に打撃痕が見られる。全面に弱い研磨痕が残されている。466は砂岩製の磨石である。両面とも研磨痕は比較的明確に認められる。467は凝灰岩製の磨石である。楕円形の長軸の一端に意識的に2方向に研磨されたか所が認められる。他の部分は弱い研磨痕が残されている。

468は安山岩製の磨石である。全体に被熱したものと思われる。両面とも縁辺部を除き比較的研磨痕が認められる。469は砂岩製の磨石である。扁平な楕円形の縁辺部の先端部と周辺の一部に打撃痕が見られる。全面に弱い研磨痕が残されている。

470は安山岩製の磨石である。楕円形の長軸の一端に打撃痕が見られる。全面に弱い研磨痕が残されている。471は砂岩製の磨石である。両面とも研磨痕は比較的明確に認められる。472は凝灰岩製の磨石である。扁平な楕円形の縁辺部の先端部と周辺の一部に打撃痕が見られる。全面に弱い研磨痕が残されている。

473は安山岩製の磨石の半割したものである。楕円形の長軸の一端に打撃痕が見られる。縁辺部に沿って弱い打撃痕も認められる。全面に強い研磨痕が残されている。474は砂岩製の磨石である。半分くらい欠損していると思われる。1か所弱い打撃痕が見られる。それ以外はやや強い研磨痕が全体に認められる。

475は安山岩製の磨石である。扁平楕円形の縁辺部に沿ってやや弱い打撃痕が見られる。全面にやや強い研磨痕が残されている。476は凝灰岩製の磨石である。半分以上欠損している。一部に被熱し赤化した部分が見られる。縁辺部に沿って弱い打撃痕も認められる。全面に強い研磨痕が残されている。

477は安山岩製の磨石片である。縁辺部についても研磨されている。両面ともに強い研磨痕が残されている。478は安山岩製の磨石である。表面の中央部分付近に小規模な打撃痕が見られる。礫の縁辺部についても研磨されている。また両面ともに強い研磨痕が残されている。479は安山岩製の磨石で半割したものである。縁辺部についても研磨されている。両面ともに研磨痕が残されている。

480は凝灰岩製の磨石である。扁平楕円形の先端部に打撃痕が残されている。それ以外は両面ともやや強い研磨痕が残されている。

481は安山岩製の磨石片である。棒状の礫の1/3程度遺存したものである。先端部と周辺部に若干の打撃痕が見られる。両面ともやや強い研磨痕が残されている。482は安山岩製の磨石である。大形の楕円形を使用しており先端部一端に顕著な打撃痕が認められる。両面ともやや強い研磨痕が認められる。

483は玄武岩製の磨石である。扁平な楕円形の平坦面と周辺部に打撃痕が残されている。全体に両面と

も研磨痕が認められる。484は安山岩製の磨石である。やや不整な楕円礫を使用しており長軸の両端に顕著な打撃痕が認められる。全体に両面とも研磨痕が認められる。

485はチャート製の磨石である。全体に両面とも研磨痕が認められる。486は珪質凝灰岩製の磨石である。片側の平坦部分中央部に軽微な打撃痕とその周辺部のやや強めの研磨痕が残されている。反対側も全体に研磨痕が認められる。

487は安山岩製の磨石である。小扁平円礫を素材にしており縁辺部の一部に打撃痕が認められる。両面とも平坦部分は研磨痕が残されている。488は安山岩製の磨石である。扁平円礫を素材にしており縁辺部の一部に軽微な打撃痕が認められる。両面とも平坦部分は顕著な研磨痕が残されている。一部被熱している可能性がある。

489は安山岩製の磨石である。扁平円礫を素材にしており縁辺部の一部に軽微な打撃痕が認められる。両面とも平坦部分は鏡面状の顕著な研磨痕が残されている。一部被熱している可能性がある。490は花崗岩製の磨石である。半割された状態で検出されている。平坦になった片面側は中央部分に打撃痕とその周辺に顕著な研磨痕が認められる。反対側の中央部分には著しい打撃痕が残されている。

491はメノウ製の磨石である。扁平楕円礫を素材にしており縁辺部の一部に顕著な打撃痕が認められる。両面とも軽微な研磨痕が残されている。打割できなかった石核であった可能性もある。492は安山岩製の磨石である。棒状の礫を素材にしており表裏の平坦面の中央部分に打撃痕が残されている。両面とも比較的軽微な研磨痕が残されている。

493は珪質凝灰岩製の磨石である。扁平楕円礫を素材にしており両面とも研磨痕が残されている。また被熱によるタール状の付着物も認められる。494は安山岩製の磨石である。円礫を素材にしており先端部に顕著な打撃痕が残されている。裏面は顕著な研磨痕が残されている。

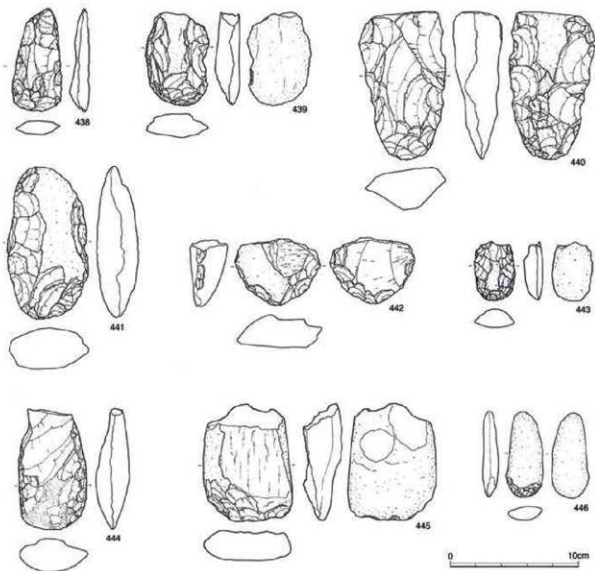
495は安山岩製の磨石である。扁平長楕円礫を素材にしており両面の中央部分と周辺部分にやや細かい打撃痕が残されている。両面全体には軽微な研磨痕が認められる。496は花崗岩製の磨石である。扁平円礫を素材にしており両面の中央部分と周辺部分にやや細かい打撃痕が残されている。両面全体には軽微な研磨痕が認められる。

497は安山岩製の磨石片である。半割されたと思われるものである。周辺部分には細かい打撃痕が残されている。両面はやや研磨されているようである。498は花崗岩製の磨石である。扁平円礫を素材にしており両面の中央部分と周辺部分にやや細かい打撃痕が残されている。両面全体には軽微な研磨痕が認められる。

499は凝灰岩製の磨石である。扁平円礫を素材にしており周辺部分にやや細かい打撃痕が残されている。両面全体にはやや光沢も見られる研磨痕が認められる。被熱のため赤化部分とタール状の付着物が若干認められる。500は砂岩製の磨石である。扁平円礫を素材にしており両面の中央部分と周辺部分に細かい打撃痕が残されている。両面全体には軽微な研磨痕が認められる。

501はメノウ製の磨石である。扁平楕円礫を素材にしており先端部に顕著な打撃痕が認められる。表面の平坦面に細かい打撃痕が残されている。両面ともに軽微な研磨痕が残されている。打割できなかった石核であった可能性もある。502は凝灰岩製の磨石である。扁平礫を素材として使用しており先端部に近い周辺部を打撃後に研磨している。両面ともに軽い研磨痕が残されている。

503は珪質凝灰岩製の磨石である。扁平礫を素材として使用しており周辺部の一部に打撃痕が残されて



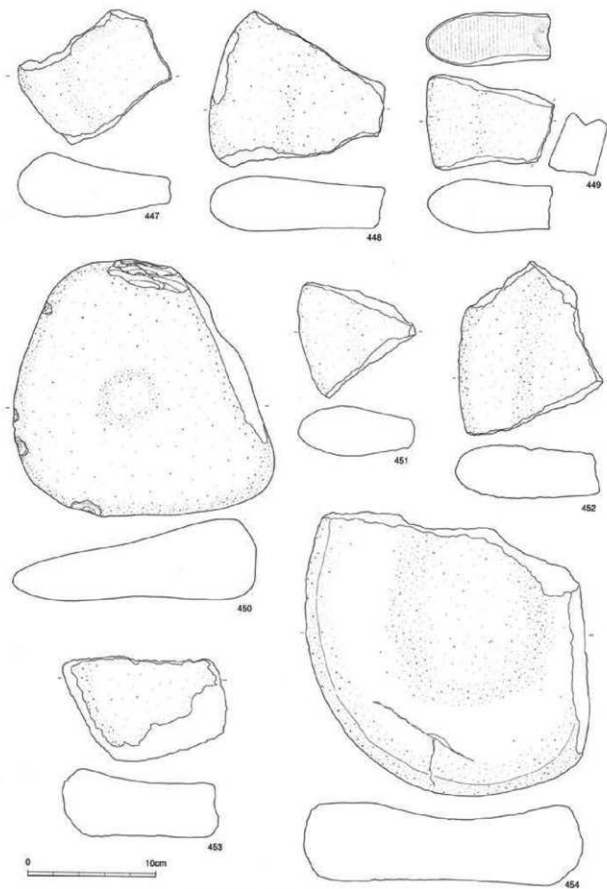
第160図 グリッド一括石器類 (20)

いる。両面ともに軽い研磨痕が残されている。504は安山岩製の磨石である。円礫を素材として使用しており縁辺部に沿って打撃後に一部研磨している。両面ともに軽い研磨痕が残されている。

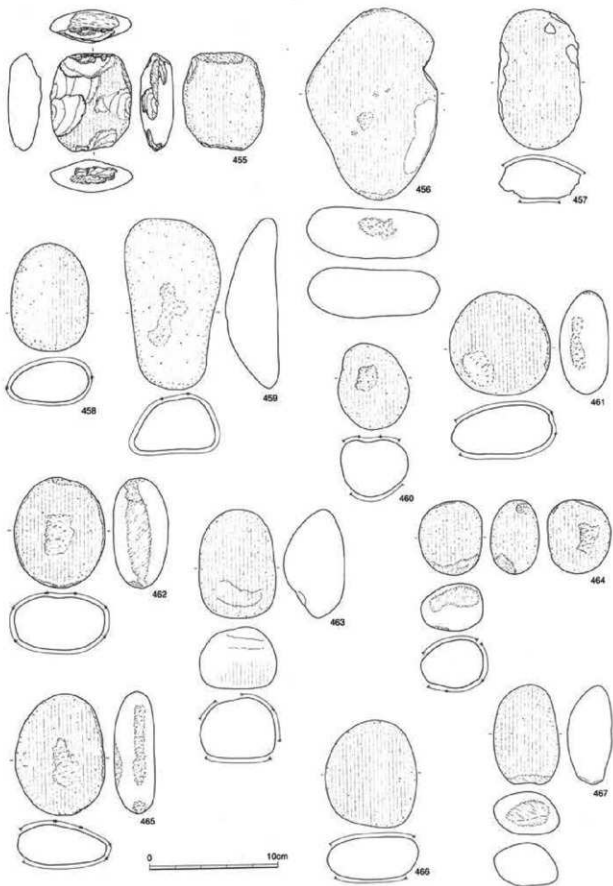
505は雲母片岩製の磨石である。板状の礫を使用しており裏面側は研磨痕が認められる。表面側には打撃痕及び蜂の巣状のくぼみがある。506は砂岩製の磨石である。楕円礫の長軸の一端は破損している。もう一端は細かい打撃痕が残されている。両面とも打撃痕が顕著に認められるものである。

507は凝灰岩製の磨石である。両面ともに軽い研磨痕が残されている。いくらか被熱による赤化と黒変が認められる。508は凝灰岩製の磨石である。長楕円礫を素材としており先端部に近い縁辺部に細かい打撃痕が残されている。両面ともに軽い研磨痕が残されている。いくらか被熱による赤化と黒変が認められる。

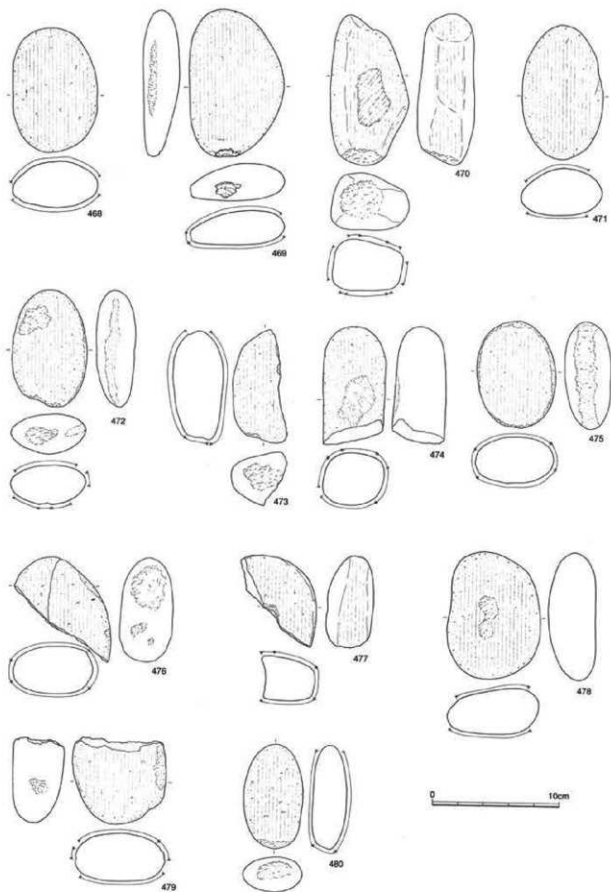
509は安山岩製の磨石片である。扁平楕円礫が半割しておりそれらの上下に剝離痕を残すことから楔として使用した可能性も考えられる。両面ともやや軽い研磨痕が残されている。いくらか被熱による赤化と黒変が認められる。510は頁岩製の磨石である。小扁平楕円礫を素材として使用している。両面ともに軽い研磨痕が残されている。



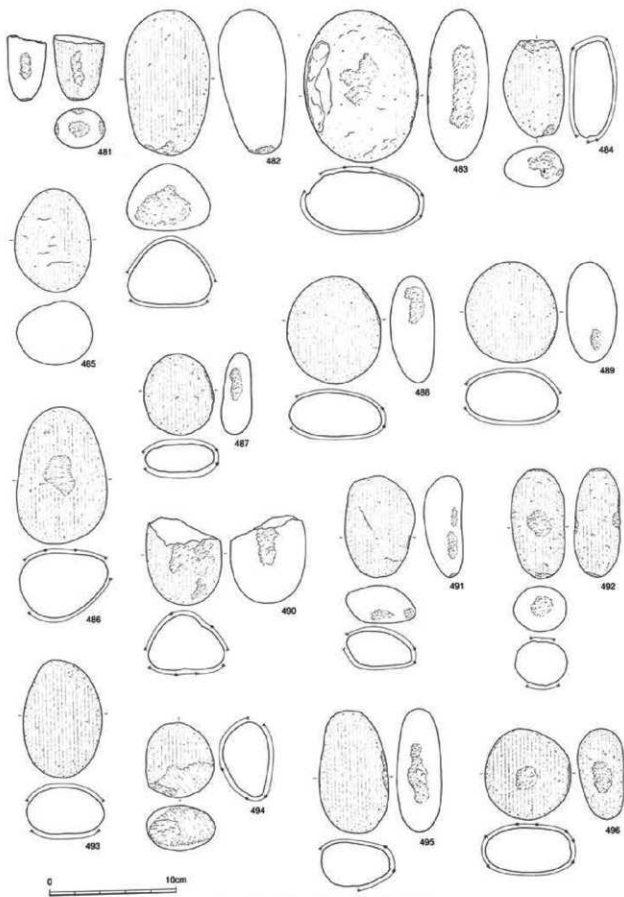
第161図 グリッド一括石器類 (21)



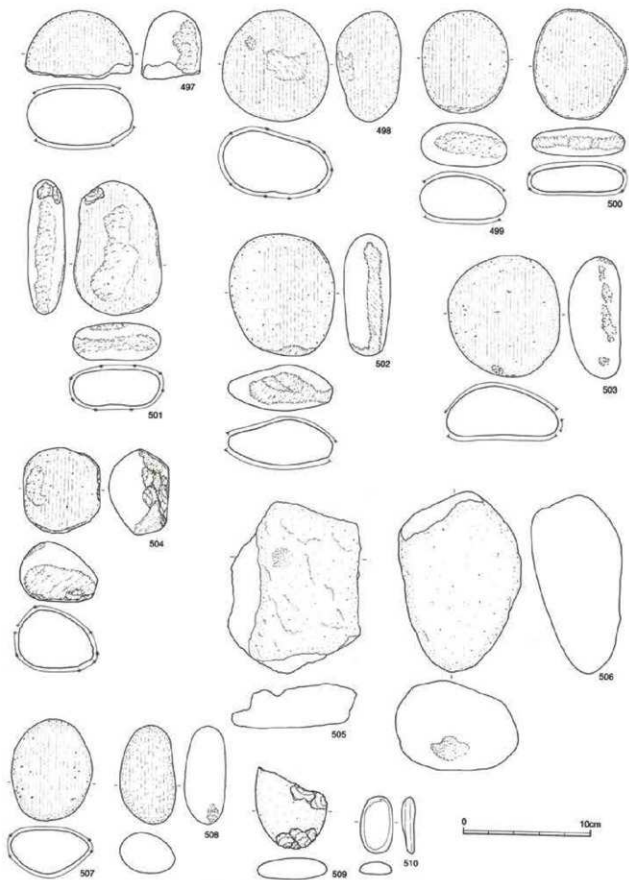
第162図 グリッド一括石器類 (22)



第163図 グリッド一括石器類 (23)



第164図 グリッド一括石器類 (24)



第165図 グリッド一括石器類 (25)

第21圖 S-J地点 出土石器属性表

採回番号	調査区	遺物番号	レベル	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	製作	備考
1	15175	0093	38.914	安山岩	尖頭器	3.00	1.20	0.60	-	2.21	-	半欠
2	15184	0032	39.323	安山岩	尖頭器	2.15	1.90	0.55	-	2.38	-	先端のみ
3	15174	0012	38.351	おんげムス	砕片	1.05	0.80	0.32	-	0.19	-	
4	15174	0035	39.166	凝灰岩	剥片	1.70	1.55	0.35	-	0.68	-	破2
5	15194	0005	39.368	凝灰岩	尖頭器	3.75	2.10	0.90	-	6.58	-	破2
6	15174	0103	37.840	凝灰岩	有舌尖頭器	4.60	1.80	0.90	-	6.67	-	半欠
7	15174	0132	37.335	凝灰岩	尖頭器	1.60	1.30	0.33	-	0.64	-	先端のみ、焼
8	15174	0089	39.064	チャート	砕片	1.05	0.80	0.25	-	0.16	-	
9	15174	0074	39.337	チャート	尖頭器	3.90	1.80	0.60	-	4.34	-	同材1
10	15184	0029	39.315	チャート	尖頭器	4.40	2.00	0.80	-	7.03	-	同材2
11	15184	0018	39.156	チャート	尖頭器	3.30	2.60	1.05	-	7.22	-	同材3
12	15184	0028	39.329	安山岩	有舌尖頭器	3.80	1.90	0.80	-	5.41	-	先端部欠
13	15184	0001	39.208	砂岩	有舌尖頭器	3.50	1.90	0.55	-	3.91	-	
14	15194	0007	38.878	おんげムス	有舌尖頭器	4.50	1.50	0.90	-	6.78	-	先端部欠
15	15174	0072	39.165	砂岩	有舌尖頭器(未製品)	4.30	2.00	1.20	-	8.33	-	先端部欠
16	15175	0088	38.091	不明	尖頭器状(小形)	2.90	0.80	0.30	-	0.73	-	
17	15174	0091	39.206	メノウ	砕片	1.20	0.95	0.25	-	0.24	-	
18	15174	0079	39.098	安山岩	尖頭器	5.40	2.00	0.70	-	8.08	-	先端部欠
19	15174	0109	37.550	安山岩	尖頭器	6.00	1.70	0.85	-	8.69	-	先端部欠
20	15174	0117	37.950	安山岩	尖頭器	2.50	1.50	0.50	-	1.87	-	半欠
21	15195	0007	39.410	安山岩	尖頭器	3.50	1.60	0.60	-	3.37	-	半欠
22	15174	0043	39.150	安山岩	尖頭器	5.30	2.30	0.95	-	9.51	-	未製?
23	15183	0001	39.480	安山岩	石槍	5.70	1.90	1.00	-	12.65	-	半欠
24	15195	0009	39.145	安山岩	尖頭器	3.70	1.70	0.60	-	3.53	-	半欠
25	15174	0056	38.344	チャート	砕片	1.50	1.10	0.20	-	0.30	-	
26	15174	0121	37.940	チャート	砕片	1.80	1.70	0.20	-	0.69	-	同材1
27	15175	0082	38.585	チャート	砕片	2.00	1.65	0.25	-	0.71	-	同材1
28	15184	0014	39.215	チャート	剥片(小形)	1.75	1.45	0.30	-	0.63	-	同材1
31	15174	0123	37.870	チャート	砕片	1.30	1.40	0.20	-	0.34	-	同材3
32	15175	0080	38.832	チャート	砕片	1.30	1.30	0.10	-	0.30	-	同材3
41	15176	0015	37.959	チャート	砕片(外皮残)	1.70	1.70	0.30	-	0.94	-	同材4
42	15174	0021	38.466	凝灰岩	砕片(外皮残)	1.70	1.55	0.25	-	0.68	-	(破2)
43	15175	0049	38.709	凝灰岩	剥片	1.90	2.45	0.35	-	1.29	-	(破2)
44	15175	0108	37.720	頁岩	剥片	3.50	2.10	0.40	-	2.61	-	焼
45	15175	0040	38.398	凝灰岩	砕片	1.60	1.90	0.25	-	0.62	-	(破2)
46	15195	0001	39.451	メノウ	剥片	2.30	2.40	0.30	-	1.76	-	
47	15174	0066	39.045	チャート	礫石(頂)	1.45	0.45	0.10	-	0.07	-	尾欠
48	15174	0081	39.252	チャート	礫石(頂)	0.80	0.40	0.10	-	0.04	-	
49	15174	0075	38.407	チャート	礫石(尾)	0.70	0.75	0.15	-	0.06	-	
50	15175	0057	38.987	緑色凝灰岩	剥片	2.40	1.90	0.45	-	1.61	-	
51	15174	0098	38.300	チャート	剥片	2.70	2.80	0.55	-	3.79	-	
52	15183	0025	38.969	安山岩A	剥片	2.45	1.50	0.50	-	2.65	-	
53	15175	0052	38.980	安山岩A	砕片	1.55	1.40	0.30	-	0.57	-	
54	15175	0078	38.472	安山岩A	砕片(外皮部)	1.50	1.55	0.15	-	0.45	-	
55	15175	0095	38.989	安山岩A	砕片	1.60	1.60	0.30	-	0.88	-	同材5
56	15174	0008	38.346	安山岩A	剥片(小形)	1.60	1.80	0.30	-	0.96	-	
57	15174	0138	37.200	安山岩A	剥片(小形)	1.90	1.60	0.45	-	1.69	-	同材5
58	15196	0003	37.830	安山岩A	剥片	2.90	2.80	0.20	-	1.55	-	
59	15196	0004	37.360	安山岩A	剥片	1.95	1.90	0.25	-	1.24	-	
60	15174	0020	38.436	安山岩A	剥片	2.90	1.80	0.30	-	1.27	-	
61	15184	0023	39.220	安山岩A	剥片	2.40	2.80	0.30	-	1.95	-	
62	15184	0019	39.220	安山岩A	剥片(小形)	1.70	1.90	0.20	-	0.93	-	
63	15174	0136	37.350	安山岩A	剥片	2.30	2.20	0.25	-	1.26	-	
64	15175	0013	38.287	安山岩A	剥片	2.90	2.50	0.55	-	4.24	-	
65	15175	0010	38.812	安山岩A	剥片	2.50	2.15	0.30	-	1.77	-	
66	15194	0004	39.368	安山岩A	剥片(外皮残)	2.50	3.70	0.80	-	6.65	-	
67	15174	0133	37.655	安山岩A	剥片(先端部未製品?)	4.50	3.70	1.35	-	18.48	-	同材5
76	15174	0028	38.573	安山岩B	剥片	2.20	1.70	0.25	-	0.90	-	
77	15174	0031	38.196	安山岩B	剥片	2.35	2.10	0.55	-	2.06	-	
78	15175	0085	37.937	安山岩B	剥片(外皮部)	2.55	2.30	0.55	-	2.66	-	
79	15195	0004	39.392	安山岩B	剥片	1.80	1.30	0.40	-	1.13	-	
80	15195	0008	39.391	安山岩B	剥片	3.20	2.35	0.45	-	3.61	-	
81	15185	0024	39.255	安山岩B	剥片	4.10	2.40	0.80	-	6.54	-	
82	15194	0003	39.450	安山岩B	剥片(外皮部)	2.40	3.60	1.25	-	12.17	-	
29+30	15174	0128	37.320	チャート	剥片(外皮部)	3.40	5.30	1.05	-	16.88	-	接1
74+75	15174	0086	39.234	安山岩B	剥片(外皮残)	2.90	2.90	0.80	-	6.51	-	接4
35+36	15174	0002	38.793	チャート	砕片	0.75	0.95	0.20	-	0.16	-	接10
37+38	15175	0109	37.800	チャート	砕片(外皮部)	3.95	2.70	0.35	-	3.72	-	同材4
39+40	15175	0012	38.030	チャート	砕片	1.35	1.90	0.30	-	0.63	-	同材4
68+69	15175	0106	37.349	安山岩A	剥片	2.05	2.70	0.30	-	1.85	-	接5
70+71	15175	0064	38.646	安山岩A	剥片	2.20	2.60	0.35	-	1.80	-	接3
72+73	15175	0024	38.068	安山岩A	剥片(外皮残)	3.10	1.10	0.35	-	1.15	-	接8
33+35	15174	0087	39.009	チャート	砕片	0.55	1.15	0.15	-	0.06	-	接9

第22表 S-J地点 石器構成表

		尖頭器類	細石刃	潤片	碎片	鏢器	鏢	鏢片	合計	組成比
安山岩A	点数 重量g	12 60.28		29 76.95	110 35.01				151 172.24	50.00% 18.50%
安山岩B	点数 重量g			17 68.59	18 6.41				35 75	11.60% 8.10%
凝灰岩	点数 重量g	3 13.80		3 3.87	15 6.82				21 24.58	7.00% 2.60%
チャート	点数 重量g	4 19.18	3 0.17	7 23.08	39 17.45				53 61.88	17.50% 6.70%
砂岩	点数 重量g	2 12.24		1 1.34	6 1.88			1 42.55	10 58.01	3.30% 6.20%
頁岩	点数 重量g	2 12.24		1 2.61	5 0.62				8 15.47	2.60% 1.70%
メノウ	点数 重量g			1 1.76	4 0.44				5 2.2	1.70% 0.20%
ホルンフェルス	点数 重量g	1 6.78			2 1.12				3 7.9	1.00% 0.90%
緑色凝灰岩	点数 重量g			1 1.61					1 1.61	0.30% 0.20%
硬砂岩	点数 重量g						1 470		1 470	0.30% 50.60%
不明石材	点数 重量g	1 0.73		2 35.07	11 4.5				14 40.3	4.60% 4.30%
合計(点数)	点数	25	3	62	210	0	1	1	302	100%
合計(重量)	重量g	125.34	0.17	216.88	74.25	0	470	42.55	929.19	100%
組成比(点数)	点数	8.30%	1.00%	20.50%	69.50%	0.00%	0.30%	0.30%	100%	
組成比(重量)	重量g	13.50%	0.02%	23.30%	8.00%	0.00%	50.60%	4.60%	100%	

第23表 S-N地点石器属性表

採遺番号	調査区	遺物番号	レベル	出土層位	石	材	器	種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
1	17E31	0033	40.453	-	チャート	石鏢(未製品)			2.72	2.35	0.81	5.91	
2	17E42	0015	40.377		チャート	石鏢			1.74	2.37	0.43	1.64	
3	17E42	0009	40.517		チャート	楔形石器			0.89	2.40	0.67	0.36	加工痕?
4	17E31	0049	40.307		安山岩A	調整済のある潤片			2.86	2.21	0.65	3.20	石縁辺調整痕
5	17E31	0053	40.360		チャート	調整済のある潤片			2.91	2.81	1.29	9.47	潤片?
6	17E61	0002	41.211		チャート	潤片(外皮残)			2.80	1.57	0.36	1.24	
7	17E30	0001	40.275		チャート	潤片			1.92	1.27	0.45	1.32	
8	17E31	0011	40.371		安山岩A	潤片			1.83	2.25	0.33	1.17	
9	17E41	0039	40.250		チャート	潤片			2.57	1.91	0.56	1.54	
10	17E50	0014	40.535		チャート	潤片			2.22	2.15	0.33	1.55	
11	17E50	0013	40.538		凝灰岩	潤片(外皮残)			1.74	2.43	0.47	1.48	
12	17E41	0040	40.355		チャート	潤片			1.56	2.17	0.64	1.84	
13	17E31	0022	40.440		チャート	潤片			4.57	1.56	2.15	14.30	残片?
14	17E50	0015	40.593		チャート	潤片			3.13	2.59	0.59	3.82	
15	17E31	0027	40.464		凝灰岩	潤片(外皮残)			2.65	2.04	0.74	2.12	地
16	17E31	0050	40.295		安山岩	潤片			5.04	2.90	11.70	21.98	良好
17	17E41	0005	40.507		安山岩A	潤片			6.27	4.39	0.76	17.33	
18	17E50	0031	40.733		砂岩	鏢片			8.15	7.63	5.18	385.65	
19	17E40	0003	-	II	凝灰岩	磨石			32.02	2.34	4.22	634.06	

第24表 S-N地点石器構成表

		楔形石器	石鏢等	調整潤片等	潤片	碎片	磨石	鏢	鏢片	合計	組成比
チャート	点数 重量g	1 0.36	2 7.55	1 9.47	34 48.32	3 0.30		2 12.74		43 78.74	61.4% 5.5%
凝灰岩	点数 重量g				3 5.18			1 14.07		4 19.25	10.60% 1.4%
砂岩	点数 重量g							3 21.31	1 385.65	4 406.96	5.7% 28.6%
石英	点数 重量g							1 13.71		1 13.71	1.4% 1.0%
流紋岩	点数 重量g							1 634.06	1 51.58	2 1145.64	2.7% 48.3%
安山岩A	点数 重量g			1 3.20	5 41.83	1 0.64				7 45.67	7.0% 3.2%
花崗岩	点数 重量g							1 8.56		1 8.56	1.4% 0.6%
不明石材	点数 重量g							2 162.37		2 162.37	2.9% 11.4%
合計(点数)	点数	1	2	2	42	4	1	6	2	70	100%
合計(重量)	重量g	0.36	7.55	12.67	95.32	0.94	634.06	16	388.16	1423.35	100%
組成比(点数)	点数	1.4%	2.9%	2.9%	60.0%	5.7%	1.4%	22.9%	2.9%	100%	
組成比(重量)	重量g	0%	1%	1%	7%	0%	45%	20%	27%	100%	

第25表 N-13地点石器属性表(1)

採掘 番号	調査区	遺物番号	レベル	出土層位	石 材	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合	割体	備考
1	4B25	0002a			黒曜石	石鏃	14.1	17.0	4.0	0.66			
2	4B26	0001			黒曜石	石鏃	16.9	14.0	3.8	0.47			
3	4C60	0023	39.062	IIc	黒曜石	石鏃	15.8	13.6	3.7	0.53			
4	4B56	0002a			黒曜石	石鏃	17.3	13.0	3.6	0.56			
5	5C05	0002	—	IIc一括	黒曜石	石鏃	16.7	13.0	3.4	0.56			
6	4B37	0002a			黒曜石	石鏃	19.5	12.4	4.1	0.75			
7	4B99				黒曜石	石鏃	16.4	15.5	4.1	0.60			
8	4C91	0005b	38.890	IIc	黒曜石	石鏃	16.2	14.5	4.6	0.82			
9	4C32	0005	39.225	IIc	黒曜石	石鏃	16.0	12.4	3.3	1.52			
10	4B26	0002a			黒曜石	石鏃	22.1	16.5	3.4	0.90			
11	4B18	0002a	—	—	黒曜石	石鏃	23.5	16.6	6.5	1.55			
12	4B37	0002b			頁岩	石鏃	23.3	16.9	4.2	1.14			
13	4C08	0013			安山岩	石鏃	22.5	15.5	4.8	1.06			
14	4B43	0002			チャート	石鏃	25.3	13.9	4.7	1.26			
15	5C02	0002d	—	IIc一括	流紋岩	石鏃	21.6	15.8	5.3	1.17			
16	4B39	0002b			チャート	石鏃	26.3	18.5	6.9	2.93			
17	5C16	0003c	—	IIc一括	黒曜石	石鏃	24.0	20.9	4.6	1.51			
18	4B64	0002			黒曜石	石鏃	28.0	11.8	4.6	0.99			
19	4B39	0002a			安山岩	石鏃	21.6	18.3	5.5	1.60			
20	5B17	0002			チャート	石鏃	23.5	13.4	4.3	0.89			
21	4C31	0005	39.250	IIc	黒曜石	石鏃	15.1	14.7	3.4	0.50			
22	4C51	0020	39.180	IIc	黒曜石	石鏃	18.2	17.7	3.8	0.86			
23	4B76	0002			チャート	石鏃	18.0	16.1	4.9	1.01			
24	4C41	0009	39.015	IIc	黒曜石	石鏃	8.8	14.6	3.6	0.34			
25	4C69	0020	39.427	IIc	黒曜石	石鏃	19.2	10.6	3.5	0.39			
26	4C07	0007			黒曜石	石鏃	15.9	13.6	4.4	0.70			
27	4B56	0002b			黒曜石	石鏃	19.6	16.2	5.2	1.12			
28	4C30	0015	39.220	IIc	黒曜石	石鏃	5.8	17.7	3.1	0.22			
29	4B06	0002a			黒曜石	石鏃	12.1	16.5	3.2	0.44			
30	4C51	0028	39.218	IIc	黒曜石	石鏃	10.0	9.8	3.3	0.21			
31	4B48	0002b			黒曜石	石鏃	7.1	16.8	3.0	0.31			
32	4C95	0004	39.348	IIc	黒曜石	石鏃	11.0	6.8	2.8	0.14			
33	4B58	0002a			黒曜石	石鏃	10.0	16.5	4.0	0.59			
34	5B37	0002a			チャート	石鏃(未製品)	32.2	19.0	9.8	5.13			
35	4B48	0002a			黒曜石	石鏃	6.9	15.8	3.3	0.33			
36	5B19	0001b			黒曜石	石鏃	9.5	10.5	3.2	0.23			
37	4B27	0002a			黒曜石	石鏃	10.0	10.6	3.3	0.35			
38	4C79	0008	39.358	IIc	黒曜石	石鏃	25.2	10.9	6.0	1.09			

第26表 N-13地点石器属性表(2)

标本 番号	調査区	遺物番号	レベル	出土層位	石 材	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合	個体	備考
39	4C50	0010	39.039	Ⅱc	埴質頁岩	石鏃	32.1	17.5	5.6	2.42			
40	5C05	0003a	—	Ⅱc一括	黒曜石	石鏃	19.8	15.7	4.5	0.88			
41	5C32	0002	—	Ⅱc一括	黒曜石	石鏃(未製品)	22.5	16.8	6.6	1.92			
42	4C90	0005	39.132	Ⅱc	頁岩	石鏃	20.6	15.3	6.1	1.46			
43	4C90	0004	39.006	Ⅱc	黒曜石	石鏃	16.1	21.9	5.5	1.47			
44	4C92	0005	39.096	Ⅱc	安山岩B	石鏃	34.1	23.2	8.6	4.63			
45	4C50	0008	39.238	Ⅱc	黒曜石	石鏃	20.8	15.5	4.4	0.87			
46	4C54	0007	39.185	Ⅱc	チャート	石鏃	21.3	16.6	3.9	1.11			
47	4C95	0005	38.713	Ⅱc	安山岩A	石鏃	29.4	16.5	4.8	1.80			
48	4C70	0015	39.018	Ⅱc	黒曜石	石鏃	23.3	17.8	4.7	1.18			
49	5C47	0003	—	Ⅱ	安山岩A	石鏃	26.5	20.6	4.2	1.70			
50	4C70	0011	39.102	Ⅱc	チャート	石鏃	15.9	9.9	3.5	0.40			
51	4C73	0011	39.332	Ⅱc	黒曜石	石鏃	18.3	15.2	4.6	0.93			
52	4C55	0004	39.327	Ⅱc	安山岩A	石鏃	24.1	14.8	5.0	1.16			
53	4C31	0012	39.260	Ⅱc	黒曜石	石鏃	17.3	16.3	5.9	1.01			
54	4C63	0005	39.191	Ⅱc	チャート	石鏃	19.5	13.9	2.8	0.41			
55	4C56	0004	39.359	Ⅱc	黒曜石	石鏃	14.7	18.2	4.1	0.76			
56	5C56	0002	—	Ⅱc一括	チャート	石鏃	13.4	18.7	3.4	0.73			
57	5C93	0002	—		黒曜石	石鏃	20.5	16.1	4.5	1.16			
58	4C92	0011	38.950	Ⅱc	黒曜石	石鏃	31.3	22.1	12.3	7.96			
59	4C81	0022	39.152	Ⅱc	黒曜石	石鏃(未製品)	28.1	14.5	5.5	1.81			○
60	4C82	0005	39.180	Ⅱc	チャート	石鏃(未製品)	23.0	15.1	6.2	2.44			
61	4C83	0019	39.199	Ⅱc	黒曜石	石鏃(未製品)	14.3	19.6	6.3	1.38			
62	4C93	0016	38.598	Ⅱc	黒曜石	石鏃	16.4	16.9	3.8	0.68			
63	4C34	0004	39.214	Ⅱc	黒曜石	石鏃(未製品)	18.4	16.9	6.2	1.30			
64	4C70	0006	39.076	Ⅱc	黒曜石	石鏃(未製品)	19.7	16.4	8.4	2.17			○
65	4C73	0016	38.603	Ⅱc	黒曜石	石鏃(未製品)	18.0	17.8	6.8	1.55			○
66	5C21	0007	39.226	Ⅱc	黒曜石	破片	9.0	5.8	2.1	0.06			
67	4C82	0012	39.294	Ⅱc	黒曜石	剥片	30.0	19.5	7.1	3.68			
68	4C81	0006	39.132	Ⅱc	黒曜石	石鏃(未製品)	21.9	13.9	6.6	1.40			○
69	5C20	0015	39.235	Ⅱc	黒曜石	石鏃	17.9	12.0	3.2	0.46			
70	4C60	0014	39.067	Ⅱc	黒曜石	楔形石器	19.1	17.0	8.0	2.26			
71	4C61	0004	39.121	Ⅱc	黒曜石	石鏃(未製品)	28.8	23.3	12.4	5.76			
72	4C72	0004	39.152	Ⅱc	黒曜石	楔形石器	21.7	21.6	11.5	3.86			
73	4C75	0002	—	Ⅱc一括	チャート	楔形石器	24.6	14.6	6.7	1.89			
74	4C93	0007	39.166	Ⅱc	黒曜石	調整痕のある剥片	10.9	11.3	5.1	0.25			
75	4C31	0025	38.564	Ⅱc	黒曜石	使用痕のある剥片	18.4	12.2	4.3	0.68			
76	4C60	0022	39.045	Ⅱc	黒曜石	調整痕のある剥片	11.3	14.7	6.3	0.62			

第27表 N-13地点石器属性表(3)

標本 番号	調査区	遺物番号	レベル	出土層位	石 材	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合	割体	備考
77	4C83	0035	39.172	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	15.9	13.2	4.7	0.60			
78	4C43	0005	39.320		黒曜石	調整痕のある剥片	20.0	13.7	6.4	0.93			○
79	4C67	0004	39.345		黒曜石	使用痕のある剥片	37.0	15.4	6.9	2.74			
80	4C41	0008	39.327	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	15.2	27.5	8.7	3.45			
81	4C40	0009	39.050	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	34.9	22.8	9.7	3.94			
82	4C51	0021	39.159	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	23.6	19.1	4.9	0.70			
83	4C20	0022	39.334	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	12.2	22.2	8.1	1.18			
84	4C57	0005	39.410	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	18.4	15.5	4.6	0.78			
85	4C82	0007	39.028	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	13.9	13.4	4.0	0.40			
86	4C32	0014	39.288	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	26.5	24.0	9.1	4.22			
87	5C83	0002a	—	IIb	黒曜石	使用痕のある剥片	23.4	20.8	6.6	1.77			
88	4C83	0013	39.309	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	25.2	17.0	7.4	1.26			
89	4C51	0024	39.025	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	13.3	20.8	5.5	0.94			
90	4C93	0021	38.630	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	18.2	21.0	5.2	1.14			
91	5C36	0002a	—	IIc一括	黒曜石	使用痕のある剥片	19.5	14.9	7.6	1.34			
92	5C02	0002c	—	IIc一括	黒曜石	使用痕のある剥片	23.2	15.6	7.3	1.69			
93	4C73	0004	39.160	IIc	黒曜石	剥片	28.5	12.4	6.8	1.86			
94	4C57	0004	39.373 39.345	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	19.0	12.2	4.3	0.59			
95	5C22	0003	—	IIc一括	安山岩	調整痕のある剥片	37.4	33.9	7.7	8.35			
96	4C83	0048	38.658	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	34.1	18.4	9.9	3.07			
97	4C20	0014	39.297	IIc	石英	調整痕のある剥片	20.8	18.8	10.2	2.63			
98	4B18	0018	39.197	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	23.8	24.1	4.9	1.38			○
99	5C01	0007	39.066	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	28.1	19.8	9.5	2.55			
100	4C93	0019	38.693	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	18.6	30.1	10.9	5.12			
101	4C83	0050	38.639	IIc	黒曜石	使用痕のある剥片	46.3	16.5	15.2	6.22			
102	5C10	0011	39.102	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	20.7	23.2	14.9	3.60			
103	4C92	0004	39.193	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	37.8	21.2	7.3	3.54			
104	5C01	0003a	39.136	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	19.8	21.2	3.9	0.86			
105	4C32	0009	39.240	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	8.8	19.5	12.6	1.29			
106	4C92	0010b	38.560	IIc	チャート	調整痕のある剥片	23.8	16.4	6.6	2.43			
107	4C41	0015	39.119	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	22.6	13.0	6.1	1.56			
108	4C80	0006	39.133	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	18.9	21.0	6.0	1.41			
109	4C40	0006a	39.130	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	18.8	17.4	4.7	0.88			○
110	4C93	0020	38.624	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	13.9	11.4	5.8	0.55			
111	4C41	0037	39.239	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	13.2	13.4	8.2	1.13			○
112	5C47	0002a	—	IIc一括	黒曜石	調整痕のある剥片	24.9	12.1	6.2	0.88			○
113	5C20	0052	39.160	IIc	黒曜石	調整痕のある剥片	19.9	10.7	4.3	0.57			
114	4C81	0016	39.053	IIc	黒曜石	剥片	11.6	23.9	3.9	0.57			

第28表 N-13地点石器属性表(4)

採回 番号	調査区	遺物番号	レベル	出土層位	石 材	器 種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合	個体	備考
115	5C11	0002a	—	Ⅱc一括	黒曜石	石核	25.8	28.7	14.8	8.28			
116	5C10	0003a	39.178	Ⅱc	黒曜石	石核	29.8	30.0	21.7	7.79			
117	4C42	0011	39.265	Ⅱc	黒曜石	石核	20.3	13.4	9.0	1.29			
118	5C02	0002b	—	Ⅱc一括	黒曜石	石核	20.2	30.2	15.6	7.21			
119	4C31	0014	39.209	Ⅱc	黒曜石	石核	18.3	17.5	25.1	5.15			
120	4C33	0006	39.212	Ⅱc	黒曜石	石核	16.9	28.3	11.2	3.65			
121	4C31	0008	39.295	Ⅱc	黒曜石	石核	18.5	26.3	8.9	3.10			
122	5C02	0002a	—	Ⅱc一括	黒曜石	石核	20.4	23.2	8.9	2.83			
123	5C20	0007	39.215	Ⅱc	黒曜石	石核	19.8	24.9	10.2	3.91			
124	4C40	0012	39.138	Ⅱc	黒曜石	石核	18.6	26.0	11.3	2.22			
125	4C61	0011	39.195	Ⅱc	黒曜石	石核	33.3	18.6	13.1	4.29			
126	4C51	0032	39.089	Ⅱc	黒曜石	石核	13.9	25.6	8.9	1.90			
127	5C37	0002a	—	Ⅱc一括	黒曜石	石核	12.0	25.8	10.5	2.46			
128	4C42	0018	39.218		黒曜石	石核	29.7	21.6	11.7	5.58			
129	4C41	0038	39.059	Ⅱc	黒曜石	石核	23.2	34.1	13.8	4.89			
130	4C20	0012	39.214	Ⅱc	黒曜石	石核	27.3	16.2	10.5	2.94			○
131	4C53	0004	39.195	Ⅱc	黒曜石	石核	17.6	40.5	15.1	7.38			
132	4C83	0010	39.171	Ⅱc	黒曜石	石核	15.1	34.3	16.2	6.41			
133	4C41	0033	39.254	Ⅱc	黒曜石	石核	14.3	26.8	13.8	2.72			
134	4C81	0020b	39.173	Ⅱc	黒曜石	石核	17.2	26.2	12.4	4.12			
135	4C40	0011	39.101	Ⅱc	黒曜石	石核	16.4	25.4	9.0	3.45			○
136	4C83	0027	39.313	Ⅱc	黒曜石	石核	17.2	27.7	10.3	3.51			
137	4C32	0013	39.135	Ⅱc	黒曜石	石核	16.9	25.5	7.9	1.75			
138	4C81	0026	38.472		黒曜石	石核	20.2	17.1	10.1	2.86			
139	4C74	0014	39.280	Ⅱc	黒曜石	石核	16.5	18.8	13.1	3.67			○
140	4C31	0015	38.895	Ⅱc	黒曜石	石核	31.0	18.1	13.1	4.92			
141	4C50	0009	38.995	Ⅱc	黒曜石	石核	18.9	16.2	13.2	3.73			
142	4B18	0014	39.156	Ⅱc	黒曜石	剥片	23.2	18.4	6.5	1.19			
143	4C41	0043	38.470	Ⅱc	黒曜石	剥片	22.5	17.0	16.1	1.72			
144	4C60	0044	39.100	Ⅱc	黒曜石	剥片	20.3	16.7	9.6	2.28			
145	4C92	0008	39.040	Ⅱc	黒曜石	剥片	35.1	18.6	6.8	2.27			
146	4C21	0006	39.244		黒曜石	剥片	35.0	26.4	9.6	3.39			
147	4C31	0006	39.319	Ⅱc	黒曜石	剥片	16.5	23.2	11.4	2.17			
148	4C83	0016	39.231	Ⅱc	黒曜石	剥片	23.7	12.7	8.7	2.09			
149	5C20	0043	39.262	Ⅱc	黒曜石	剥片	23.8	24.5	6.6	1.59			
150	4C69	0027	39.136	Ⅱc	黒曜石	剥片	18.0	21.5	7.9	1.65			
151	4C83	0045	39.326	Ⅱc	黒曜石	剥片	21.4	31.2	9.2	3.02			
152	4C81	0017	39.025	Ⅱc	黒曜石	剥片	14.5	29.0	7.6	1.36			

第29表 N-13地点石器属性表(5)

标本番号	調査区	遺物番号	レベル	出土層位	石材	器種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合	個体	備考
153	4C32	0007	39.115	IIc	黒曜石	剥片	18.5	23.6	7.3	1.53			
154	4C74	0015	39.395	IIc	黒曜石	剥片	34.0	24.4	11.8	4.62			
155	4C73	0010	39.175	IIc	黒曜石	剥片	25.6	23.4	5.5	1.70			
156	4B18	0009	39.204	IIc	黒曜石	剥片	22.9	27.1	5.6	1.35			
157	4C30	0008	—	IIc	黒曜石	剥片	17.8	13.1	5.9	0.45			
158	4B19	0002a			黒曜石	剥片	16.3	19.2	6.2	1.15			
159	4C88	0004	39.410	IIc	オパール	剥片	35.1	41.0	12.5	13.76			
160	4C41	0025	39.112	IIc	黒曜石	剥片	23.5	26.1	8.2	2.21			
161	4C82	0009	39.033	IIc	頁岩	剥片	13.0	19.6	4.4	0.69			
162	4C61	0007	39.016	IIc	黒曜石	剥片	14.1	15.4	7.2	1.65			
163	5C48	0002a	—	IIc一括	黒曜石	剥片	12.5	22.7	4.7	0.68			○
164	5C01	0004	39.155	IIc	黒曜石	剥片	39.5	26.2	12.0	6.51			
165	5C11	0002b	—	IIc一括	黒曜石	剥片	26.7	27.7	7.6	4.34			
166	5C10	0003b	39.178	IIc	黒曜石	剥片	31.6	19.7	13.6	6.97			
167	5C01	0009	39.231	IIc	黒曜石	剥片	19.8	34.8	8.1	3.13			
168	4C83	0060	38.845	IIc	黒曜石	剥片	13.1	30.2	12.8	3.07			
169	4C40	0008	39.145	IIc	黒曜石	剥片	22.6	16.4	8.1	1.78			
170	5C35	0002b	—	IIc一括	黒曜石	剥片	22.6	17.9	4.9	1.40			
171	5C48	0002b	—	IIc一括	黒曜石	剥片	16.9	18.2	4.1	0.59			
172	5C21	0026	39.210	IIc	黒曜石	剥片	12.8	21.3	4.9	0.79			
173	5C16	0003a	—	IIc一括	黒曜石	剥片	12.4	18.7	4.4	0.76			
174	5C01	0005	39.176	IIc	黒曜石	石核	46.2	17.1	14.8	7.72	接1		
175	5C01	0011	39.175	IIc	黒曜石	剥片	23.3	14.2	7.3	1.79	接1		
176	4C41	0042b	39.085	IIc	黒曜石	石核	13.8	26.7	15.6	2.02	接2		
177	4C41	0042a	39.085	IIc	黒曜石	剥片	12.4	14.5	7.6	0.64	接2		
178	4C66	0004			黒曜石		12.9	28.7	4.9	1.07	接3		
179	4C60	0021	39.068	IIc	黒曜石	石核	21.5	23.0	11.6	3.98	接3		
180	4C70	0010	39.059	IIc	黒曜石	剥片	18.9	17.5	8.3	1.29	接4		
181	4C60	0006	39.054	IIc	黒曜石	剥片	16.9	17.1	8.6	1.74	接4		
182	5C20	0038	39.269	IIc	黒曜石	剥片	20.8	16.7	8.5	2.61	接6		
183	5C20	0032	39.220	IIc	黒曜石	剥片	11.0	17.1	10.8	1.08	接6		
184	5C47	0002b	—	IIc一括	黒曜石	石核	18.2	25.3	8.2	2.10	接7		
185	5C48	0002e	—	IIc一括	黒曜石	剥片	27.4	28.4	12.5	4.28	接7		
186	5C11	0003	39.210	IIc	黒曜石	剥片	30.6	32.6	14.4	10.41	接5		
187	5C21	0003a	39.260	IIc	黒曜石	石核	19.4	32.8	25.5	12.02	接5		
188	5C10	0023	39.154	IIc	黒曜石	調整根のある剥片	20.3	17.5	8.1	2.34	接5		
189	5C10	0020	39.248	IIc	黒曜石	剥片	17.2	15.2	4.9	0.55	接5		
190	5C20	0005	39.248	IIc	黒曜石	剥片	24.5	29.8	19.3	8.04	接5		

第3章 奈良・平安時代

第1節

遺構 (第169・170図, 図版67・68下)

当該期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの遺構は検出していない。しかし、8世紀から9世紀、および10世紀以降の土師器・須恵器等の遺物が溝(021号・024号)の覆土中から出土している。遺物の出土状況から溝状遺構2条は古代の遺構と考えられる。ただし、近世以降、埋没していた溝を再び掘り返して道路や溝として再利用している。この状況は全範囲に渡っているわけではないが、途中から所属時期に大きな変化が生じている。なお、整理段階で溝の表記を変更した。たとえば調査時点では溝1と表記したものを、整理段階で001号溝としている。付帯する数字自体に変更はない。

021号溝 (第169・170図, 図版67・68下)

南は17I大グリッドから北は5E大グリッドまではほぼ一直線に延びる溝で、総延長670mを測る。上端幅は8G-30グリッドで2.6m、深さは0.5m、底面は緩やかな丸底、16J-21グリッドでは上端幅2.75m、深さ0.3m、下端幅2.1mで、底面は広く平坦である。002号溝と交差する地点以南では覆土断面からは硬化面は確認できない。8F-19, 8G-20・30・40, 16J-11・21グリッドでは、覆土中層中から集中して土師器、須恵器が出土している。いずれも数片から十数片の破片となって出土しているが、復元すると完形になるものが多いことを考えると、何らかの理由で廃棄されたものと考えられる。当該期の道路遺構と考えられる。

023号溝 (024号溝の一部) (第169・170図, 図版67・68下)

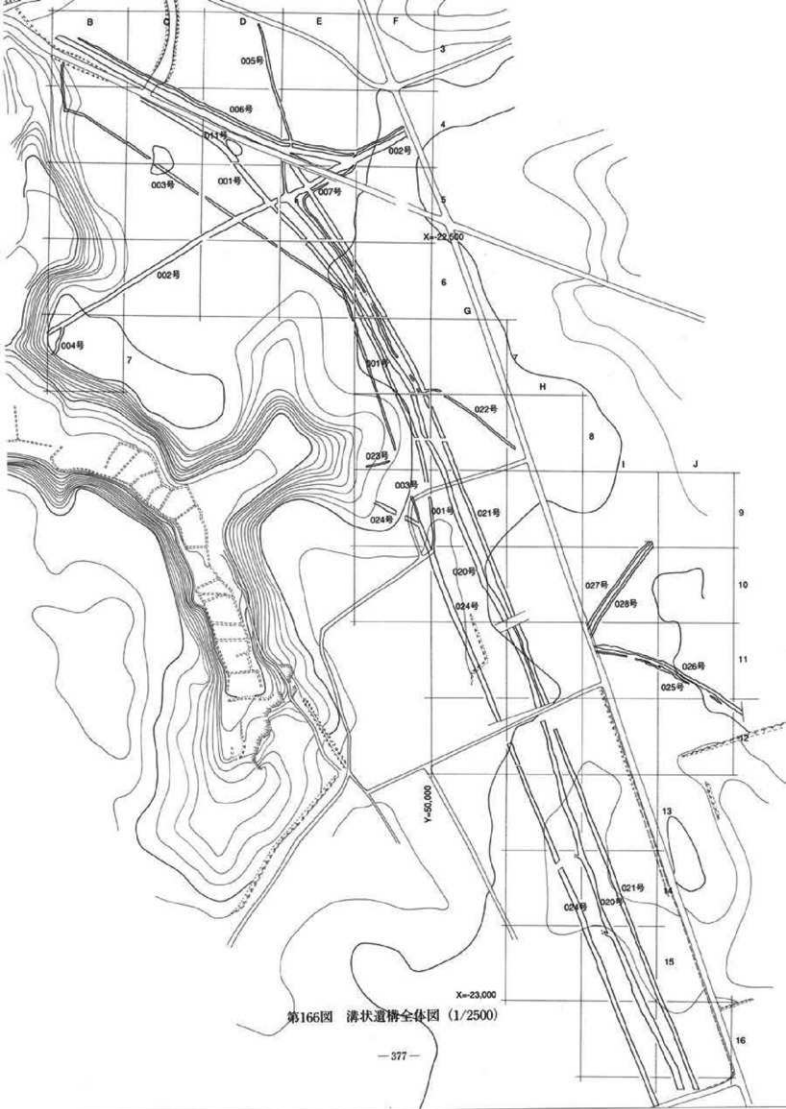
023号溝は南は17I大グリッドから北北東方向に9F大グリッド内まで、長さ420m、幅が3.5m、深さ0.8m前後で一直線に延びる。この間断面や平面形態が微妙に変化する。10G-00グリッドあたりで001号溝が分岐する。その後9F-78グリッドでさらに003号溝が分岐する。024号溝はその地点から北西方向へ30mで谷に向かって消滅するが、この003号溝と分岐して消滅するまでの33mの区間が初期(古代)の形態を残している。024号溝の東側およそ36mの間隔を保ちながら021号溝が併走する。おそらく互いに関連し合う遺構であろう。地点は不明であるが、024号溝覆土中から須恵器長頸瓶底部が出土している。後世古い024号溝の上をなぞるように003号溝、新024号溝(道路)、001号溝が造られていったようである。024号溝の大部分は近世以降古代の輪郭をなぞってはいるが少なからず改変を受けている。時期は023号溝・旧024号溝(現状では殆ど確認できない)が奈良・平安時代の可能性を持つが、003号・新024号・001号溝は近世になると考えられる。

第2節

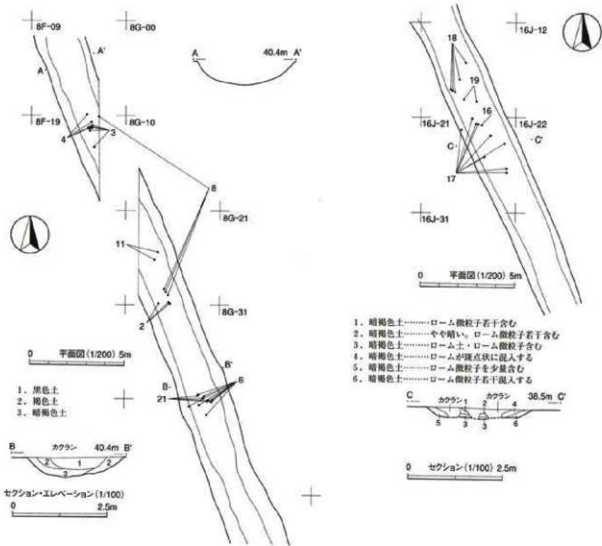
建物

土師器、須恵器類 (第167図, 図版68上)

1から14までは021号溝出土の土師器杯である。1は底部が厚く、体部立ち上がりがかはっきりしており、体部はほぼ直線的に延びる。底部はヘラケズリ調整である。内外面とも一部器面がボロボロとなっている。胎土は薄い褐色で、微砂粒と鉄分粒を多量に含む。口径13.8cm、器高4.1cm、底径8.1cmを測る。2は

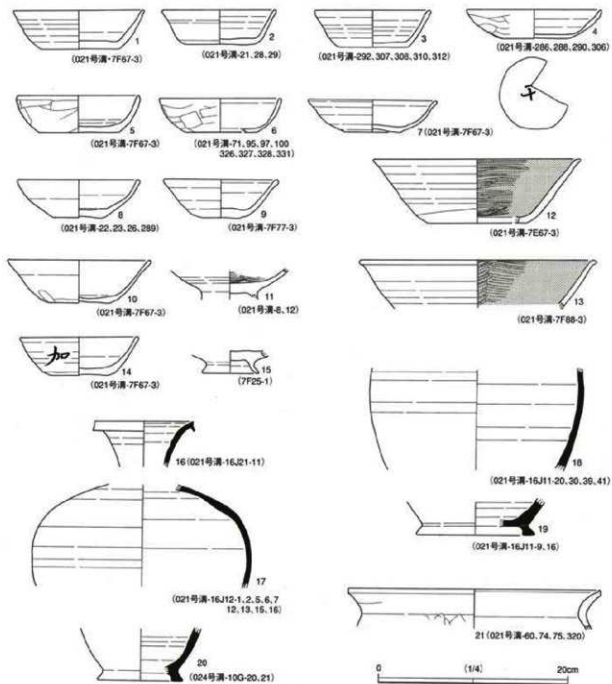


第166圖 溝状道槽全体圖 (1/2500)



第167図 021号溝遺物分布図

ほぼ完存に近い個体である。底部は中央がややくぼんでいるもの、全体には厚手で、体部は直線的に延びる。底部は回転糸切り後、周辺をヘラケズリ調整している。胎土は薄い褐色で、直径1mmの長石・石英粒を多量に含む。また、鉄分粒も含む。内外面共に部分的に器面の剥離が見られる。口径12.0cm, 器高3.6cm, 底径7.2cmを測る。3は1, 2に比べ底面の厚さが薄いもの、体部立ち上がりがはっきりしていて、直線的に延びる点で共通している。底部はヘラケズリ調整を残す。胎土は薄い褐色で、白色微砂粒を多量に含む、また鉄分粒を少量含む。口径12.2cm, 器高3.9cm, 底径7.2cmを測る。4は1から3とは異なり、外面全面にヘラケズリを施し、全体に薄手のもので、体部はやや内湾する傾向にある。底面外には、「千」と読める墨書が認められる。胎土は茶褐色で、白色・黒色微砂粒を多量に含む。口径は14.1cm, 器高3.0cm, 底径7.7cmを測る。5は4同様外面は残存している範囲ではすべてヘラケズリ調整で、体部も著しく内湾する傾向にあるが、立ち上がりが急な分、口径がやや小さくなる。底面は殆ど平坦で、器厚が全体的に厚い。胎土は茶褐色で、微砂粒を多量に含む。口径は13.0cm, 器高3.7cm, 底径8.4cmを測るが、全体にかなり歪みをもっている。6は5と同形態・同調整であるが、全体に薄手である。胎土は茶褐色で、白色微砂粒を多量に含む。口径12.8cm, 器高3.6cm, 底径7.3cmを測る。7は全体の2分の1ほどが残存しているが、底面には回転糸切り痕を残す。底部が内側に上げ底風に盛り上がりしており、体部は中央で内湾するが、口縁端で逆に外反するのが大きな特徴である。胎土は薄い褐色から黒褐色を帯び、透明・白色微砂粒を多量に含む、また鉄分粒を少量含む。口径推定13.6cm, 器高3.4cm, 底径5.9cmを測る。8は全体の2分の1を残し、底部には回転糸切り痕を残す。内面の立ち上がり部分は溝状にやや窪んでおり、体部は内湾するのを特徴とする。内面は薄い褐色、外面は黒褐色を帯び、白色微砂粒と雲母細粒を多量に含む。口径推定12.9cm, 器高4.0cm, 底径5.5cmを測る。他の土師器杯に比較し、底部径が小さく、回転糸切りのまま無調整、体部も内湾するなど、さらに新しい特徴を持つ。9は器厚が厚く重量感がある。口縁端が6分の1ほど欠損しているだけのほぼ完形土器である。底部は直線的なヘラケズリで、立ち上がりは内湾気味であるが、体部は直線的になる。胎土は薄い褐色から黒褐色を帯び、直径1mm前後の砂粒を多量に、また鉄分粒を少量含む。口径は12.2cm, 器高は4.0cm, 底径4.9cmを測る。10はやや大振りの薄手の個体で、使用や被熱により、口縁端は剥落・摩滅し、内外面にも剥落が見られる。底部は中央に回転糸切り痕を残すが、周縁部はヘラケズリ調整である。胎土は薄い褐色から黒色を帯び、白色微砂粒・鉄分粒を含む。口径15.0cm, 器高4.5cm, 底径6.1cmを測る。11は土師器の高台付杯で、高台端と体部の大部分を欠損している。内面はヘラミガキ調整を施す。外面は残存する範囲ではすべてヨコナデ調整である。胎土は薄い褐色で多量の微砂粒と、少量の鉄分を含む。焼成はやや不良の部分がある。12は大形の土師器杯で、体部は直線的であるが、口縁端は微妙に外反する。内面は丁寧なヘラミガキ後、黒色処理を施す。また、外面底部は直線的なヘラケズリで、体部立ち上がり部のみ回転ヘラケズリ調整を施している。外面は薄い褐色、口縁端から内面全体が黒色である。胎土中には微砂粒を含む。口径は推定21.8cm, 器高は6.7cmを測る。13は12と同形態で口縁端が玉縁状に外反する。内面のヘラミガキ部分に光沢があり、薄く漆を塗っている可能性もある。14は厚手のもので、内面が底部から体部にかけて緩やかに内湾するのを特徴とする。底部は全面に回転糸切り痕を残すが、立ち上がり部が斜めにヘラケズリによってカットされている。色調は薄い褐色であるが口縁端が一部黒色を帯びる。直径1mm前後の砂粒を多量に含むため器面がかなりザラザラする。内面には若干の剥離が見られる。また、体部外面には正位で「加」の墨書を確認できる。口径12.6cm, 器高4.1cm, 底径5.5cmを測る。15は土



第168图 土師器・須惠器類

師器高台付杯で、高台裏には回転糸切り痕が残る。胎土は薄い褐色で、細かな気泡が見られる。白色や銀色の微砂粒を多量に含む。高台径5.9cmを測る。16と17は同一個体の須恵器長頸瓶口縁部と胴部片である。外面には全面に灰軸（自然軸）が掛かる。胎土は灰色で、黒色の鉄分の吹き出しが見られる。かなり精選された緻密な胎土で、20に比べ砂っばい。湖西産の可能性はある。18と19は同一個体の須恵器長頸瓶の胴部と底部片である。胴部中位から底部にかけて回転ヘラケズリ痕を残す。高台は付高台で、豊付は外方向に大きく張り出し平滑である。胴部上半と高台端部に自然軸が付着する。胎土は灰色で、大粒砂を含まない。黒色の粒状の吹き出しが見られる。やや砂っばい。20は高台部のみ残す灰軸長頸瓶であるが、内面には若干の鉄分と長石の吹き出しが見られるが、胎土中には砂粒を含まない。外面には厚く灰軸が付着する。また、外面には回転ヘラケズリ痕が認められる。猿投窯産と考えられる。21は土師器甕の口縁部破片である。復元口径は推定26.6cmである。胎土中には白色微砂粒を多く含み、褐色を帯びる。口頸部には粘土の接合痕がはっきりと確認できる。体部外面は縦方向のヘラケズリを残す。

第4章 中・近世

第1節

遺構 (第169・170図, 図版67・68)

中・近世の遺構は溝状遺構16条である。昭和56・57年度は001号から012号溝, 昭和62年度は020号から028号溝を調査している。途中013号から019号は欠番である。なお, 後述のように整理段階で溝の表記を変更した。たとえば調査時点では溝1と表記したものを, 整理段階で001号溝としている。

以下に覆土観察からみた溝間の新旧関係を表にした。

第30表 中近世溝 No 新旧対照表

新	旧	新	旧	新	旧
012	006	012	010	005	009
013	007	012	002	022	021
009	2	005	006	002	020
013	9	005	008	002	021
001	24	002	003		

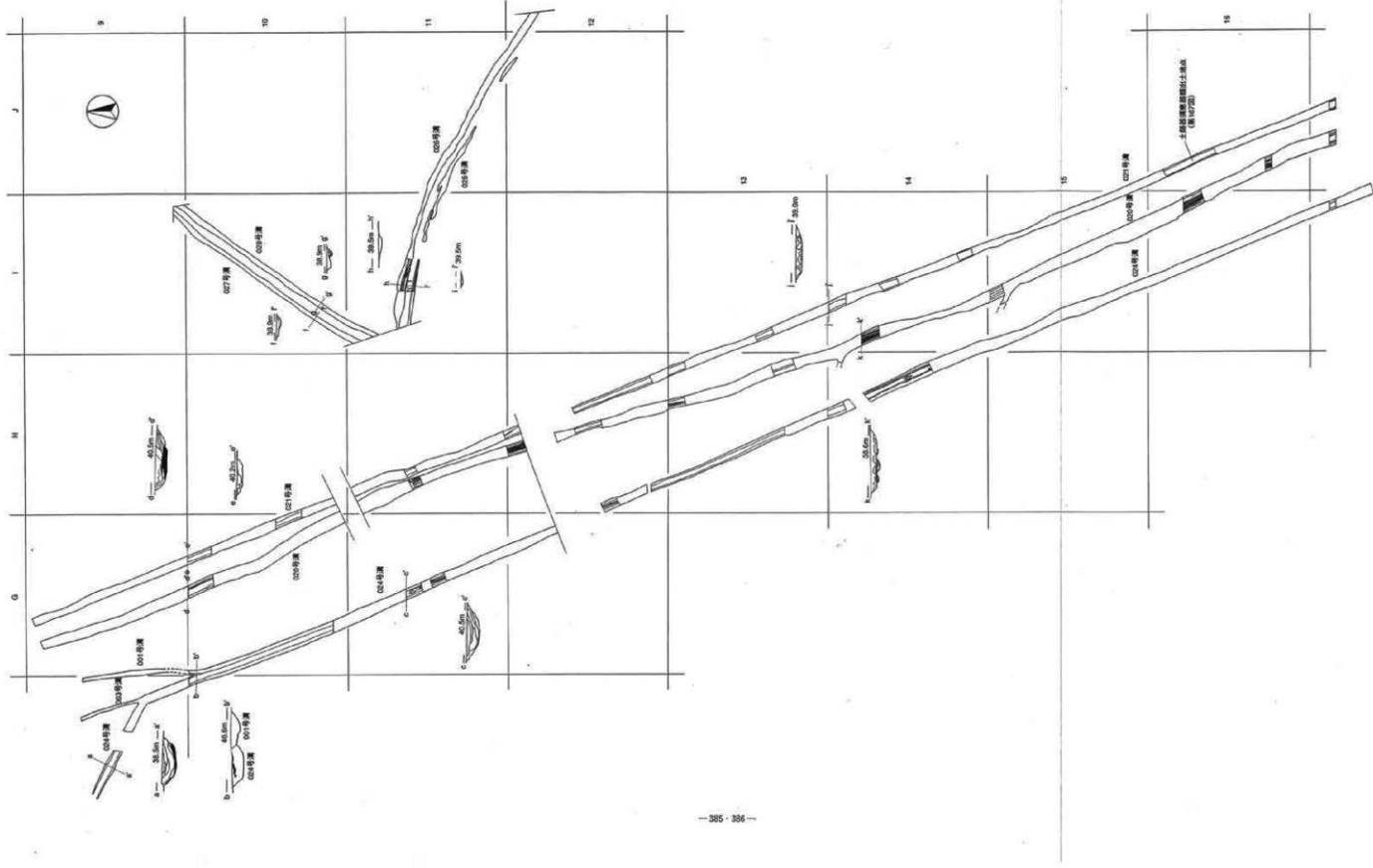
※数字は遺構番号。号溝という呼称は省略。

001号・003号・023号溝 (第169図, 図版67・68下)

001号溝は10G-00グリッドから北方向に向かって024号溝から派生する。緩やかな弧を描くように延びる。分岐してから380mの長さになる。5G-59グリッド近辺で002号溝と交錯するが, その前後で溝の規模が大きく変わる。南側では緩やかな底面の1回程度の浅い掘り込みみであるが, 北側は複数の溝の集合となって, 幾段にも掘り込みが見られる。また, 道路として使用されていた硬化面がその都度数段観察される。すなわち, 北側では002号溝から分岐する溝が合流して結果的に幅広い遺構に変化すると考えられる。そしてさらに西方向に進み十余稲荷峰西遺跡の004号溝に続く。003号溝は9F-78グリッドから真っ直ぐ6E-68グリッドまで直進し, そこから北西の方向に急に向きを変え, 台地縁辺 (4B-41グリッド) まで直進, 再び向きを変え等高線に並行に北に30m 延び自然消滅する。003号溝となつてから上端幅1.5m, 下端幅1.1m, 深さ0.5の断面逆台形状で, 総延長407m を測る。023号溝は003号溝が一旦自然消滅する地点から谷方向に向かって延びる。003号溝の一部と考えられる。

002号・004号溝 (第169図, 図版67・68下)

7B 大グリッドから4F 大グリッドにかけて一直線に延び, 台地縁辺で消滅する総延長270m の溝状遺構である。度重なる埋没・掘削の繰り返しにより上端幅は最大4.5m 前後, 中軸線を南側に移動しつつ, 次第に掘り込みが浅くなっていく。すべてを掘り上げると結果的に, 幾段もの平坦面を持つ階段状の断面の溝となる。遺跡内では北西から南東方向に延びる溝が圧倒的に多い中において, その方向は対時的である。その結果, 様々な溝と交錯する。上記の表のように020号・021号溝より新しいが, 009号・012号溝より古い。最西端 (7B-11グリッド) ではその何番目かの溝が南側に派生する (004号溝)。西半分は比較的単調な埋没状況であるが, 東側半分はいくつもの溝と交差し, 複雑である。断面では道路痕跡の硬化面が幾重にも観察できる。西半分では単純な自然堆積で, 硬化面も見られない。



005号溝 (第169図, 図版67上)

平面的には020号溝に連続するが、そのうち008号溝と交差する地点以北をいう。交差する006号・009号・008号溝のいずれの溝より新しい。長さ90m, 最大幅1.5m, 深さ0.3mの浅い溝である。底面は東側に偏って最深部がある。

006号溝 (第169図, 図版67上)

調査区北西の4F-45グリッド以东からはじまり、ほぼS-60°-Wの方向に延び、4E-89グリッドで真西に転換する。8m西に行ったところでN-80°-Wに折れる。4D-69グリッドでさらに北方向に角度を変えて、ほぼ一直線に延び、次第に掘り込みが浅くなって自然に消滅する。002号溝は何度となく造り替えられているのとは対照的に1回のみ造成である。常に南側の002号・009号・011号溝に平行していることから、それらの幅広い溝と対になる同時期の遺構と判断される。だからとした掘り込みで、下端が不明瞭である。調査では硬化面は確認されていない。幅は0.6m~2.3m, 深さは深いところでも0.3m前後、総延長237mである。

007号溝 (第169図, 図版67・68下)

総じて掘り込みが非常に浅い。そのため、部分的に途切れ途切れになってしまっている。7F-98グリッドあたりから始まり、西側に隣接する020号溝にほぼ平行するように北北西方向に延びる。5Eグリッド内で大きく右折し、021溝を横切って、5F-00グリッドあたりで002号溝に合流し、消滅する。020号溝と併走する様子は、006号溝と011号溝の関係に同じように見える。

008号溝 (第169図, 図版67上)

4E-80グリッドから4E-94グリッド間に現れるが、すぐ南側を現道路が平行しており、大半がこの道路下に隠れてしまっている。009号溝程度の大きな溝になる可能性がある。

009号溝 (第168図, 図版67上)

4E-99グリッドから西方向に延び4E-70グリッドで021号溝と合流し、そのまま021号溝と一体化する。元々002号溝から派生している。幅は約4mで、深さは0.6m前後、断面は幾段にもなり、中心部が最も深くなる。何度も埋没と掘削を繰り返している。土層断面観察では硬化面が見られるので、道路として使われていたようだ。006号溝とセット関係になる。

010号溝 (第168図, 図版67・68下)

4E-97グリッドから4E-99グリッドまでの約10mの区間をいう。009号溝と002号溝を構成する溝の一つである。

011号溝 (第169図, 図版67上)

21号溝が009号溝と合流する4E-80グリッド以西の溝を総じていう。021号溝の方が009号溝より新しいが、双方に大きな時期差はあまりないと考えられる。何回も掘り返され、数段の平坦面が形成される。道路として使用されていて、断面には数段の硬化面が見られる。

012号溝 (第169図, 図版67・68下)

平面的には4E-89グリッドにのみ残存する。006号溝から分岐して002号溝に合流するように見える。

020号溝 (第169図, 図版67・68下)

17J大グリッド以南から始まり、5E-40グリッドで002号溝と交差する。東を021号溝、西側には024・003号溝に挟まれながら、緩やかに蛇行する。何度かの埋没と掘削が行われていて、一部に道路として使

われていた名残の硬化面が見られる。幾条かの溝の集合体である。途中から東側に007号溝が並行する。また、15Iグリッドや14Hグリッド内で一部分岐する。002号溝合流部までの総延長655m、10Gグリッドラインで上端幅3.8m、下端幅2.5m、深さ0.7mを測る。002号溝と合流して、左右に分岐するが、一部そのまま直進して021号溝に合流すると考えられる。

022号溝 (第169図、図版68下)

7F-99グリッドで021号溝から直角に派生するように見える。浅い掘り込みの溝である。幅1.7m、深さ0.4m、総延長80mを測る。

025号・026号溝 (第70図、図版67・68下)

11Iから11J大グリッドにかけて所在する。緩やかに弧を描きながら、南東方向に延びる。調査地内を横断する現道路内から派生するように延びる。掘り込みが緩やかで浅いため、上端幅は一定ではなく、場所によって幅がかなり広くなったり狭くなったりする。極端に浅いところは消滅してしまっている。両溝の間隔はおおよそ3mである。総延長は026号溝で110mほどである。

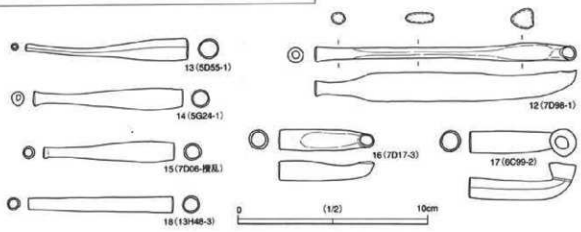
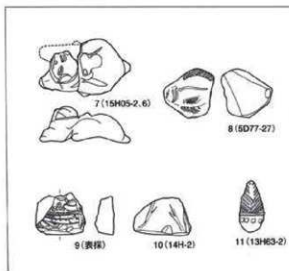
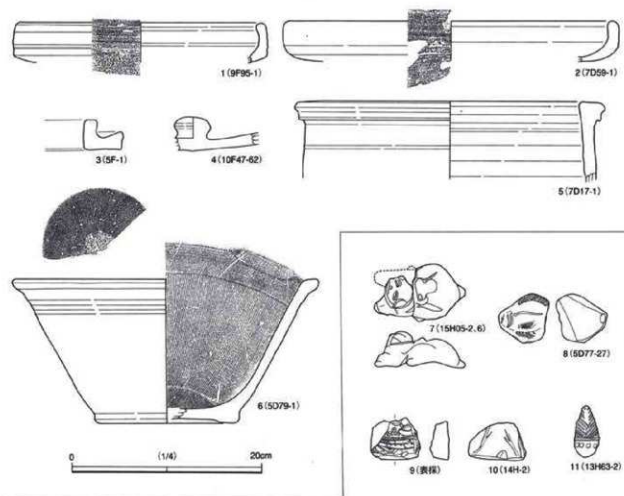
027号・028号溝 (第170図、図版)

10I大グリッドに所在する。調査地内を横断する現道路内から派生するようにN-37°-Eの方向に延びる。上端幅はおおよそ1.5m、総延長70mを測る。両溝の間隔はおおよそ2.5mほどである。おそらく025号・026号・027号・028号溝は現道路下で合流すると思われる。

第2節

中・近世遺物 (第171図、図版69)

1と2は、18世紀後半から19世紀代の焙烙の体部を中心とした破片である。1は底部がザラザラとした砂目で、体部と底部との境にヘラ削り痕を残す。胎土中に大粒砂を全く含まない。瓦質で外面は黒色、内面は灰褐色であるが、断面は中心部が黒色、それを包み込むように厚さ2mmの薄い褐色の範囲が見られる。直径25.6cm、体部高3.4cmを測る。2は底部がザラザラとしたチザレ目、体部と底部との境にヘラ削り痕を残す。胎土中に白色砂粒や直径3mmの大粒の鉄分粒を含む。瓦質で外面は黒色、内面は灰色であるが、断面は中心部が黒色、それを包み込むように厚さ2mmの灰色の範囲が見られる。直径35.4cmを測る。3は褐色の土師質カマド敷片で、胎土中に鉄分粒・金雲母粒を含み、細かな気泡が見られる。個体の直径がかなり大きいので、この小破片では正確な直径が計測できないので、断面実測のみにした。4は薄い褐色の火消壺蓋のつまみ部分である。硬質で重量感があり、非常にがっしりとしたつくりである。外面全体に磨きが掛かっている。胎土中に大粒砂を含まない。また、5は口縁から内面全体に厚くタールが付着しているので、おそらく火消壺であろう。胎土には光沢のある微砂粒を多量に含み、細かな気泡が多く見られる。内外面、断面とも黒色である。表面のロクロ目が非常に顕著である。6は産地不詳の褐色の無釉陶器鉢鉢である。口縁部には幅7.6cmにわたってヘラで切り込みを入れ、注ぎ口を削り出している。内面は細かなビッチの磨面で、丁寧に底面から一気に口縁部まで卸目を引き出し、その後口縁部をナデ調整している。また、底部には畳付け幅1.8cm、高さ1.2cmのがっしりとした高台がある。調整がきれいで歪みが殆ど見られないことから、卸目を除いて、全体には型打ち成型かと思われる。胎土は黒褐色と茶褐色の粘土が糺状に混ざり合っており、白色砂粒を多く含む。なお、底部中央部に内面から穴を開けたような痕跡が見られることから、植木鉢として2次利用されていた可能性がある。口縁直径



第171圖 中・近世遺物

32.2cm, 底部直径15.3cm, 器高15.2cmを測る。7から11はミニチュアの土製玩具である。いずれも土師質の素焼きで、着色、軸葉は一切確認できない。7は伏せた様子の犬で、裏側から型押ししており、中空状態となっている。8は左側に口を持つヒラメ、9は鎧武者、10は着物を着て腰を下ろした人物の後ろ姿で、内面は中空である。11は箆であらう。

2. 金属製品 (第171図, 図版69)

12から17は銅合金のキセルで、すべて表採品である。12は吸口から雁首までが一体成形のもので、ラウに相当する部分が、縦に潰れたようになっている。長さ13.7cm, 最大幅1.5cm, 最小幅0.6cm, 重さ27.19gである。一方、13から15は吸口になる。13は先端部でかなり細くなり、少し曲がってしまっている。長さ8.6cm, 最大幅1.2cm, 重さ6.60gである。14は内部にラウ竹が残存しており、表面には緑青と共に赤錆が付着している。吸い口先端部で少し、ラッパ状に開く。長さ7.9cm, 最大幅1.1cm, 重さ10.64gを測る。15は、先端部がやや膨らみを持つ。長さ6.9cm, 最大幅1.1cm, 重さ13.32gである。16と17は雁首で、16は火皿部分が欠損している。長さ5.0cm, 最大幅1.1cm, 重さ10.34gを測る。17は長さ5.6cm, 最大幅1.2cm, 重さ10.63gを測る。18は銅合金製の円筒形製品で、長さ7.6cm, 直径が最大0.8cm, 最小0.6cm, 重さ11.495gを測る。普通見られる吸口の形状とは明らかに異なり、用途が解らない。19は淳化元寶(北宋:西暦990年初鑄)で、縁の約3分の1が欠損している。11号溝から出土している。20は篆書体の嘉祐通寶(北宋:西暦1056年初鑄)であるが、表面の劣化が著しい。020号溝から出土している。21は7D-14グリッド攪乱出土の寛永通寶である。背には11波の青海波を鑄出している。西暦1768年以降の製造である。

第31表 銭貨属性表

番号	銭貨名	王朝名	初鑄年	計測値 (単位:mm)					重量(g)	出土位置	備考
				縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁厚			
1	淳化元	北宋	990	24.4	18.6	6.7	5.5	1.3	(2.14)	溝11, 4C17-21	
2	嘉祐通寶	北宋	1056	24.6	20.0	8.9	8.0	1.4	3.33	溝20, 7F54-3	
3	寛永通寶		1768	27.9	20.4	8.4	6.5	1.1	3.94	7D14攪乱	青海波(11波)

第5章 まとめ

第1節 縄文時代

縄文時代に関連した遺構は竪穴住居跡等41軒、陥穴147基、炉穴等137基、土坑44基が検出されている。竪穴住居跡・竪穴状遺構等・炉穴等は遺跡のほぼ中央部の谷に面する台地縁部に集中する。陥穴・土坑は遺跡全体に分布するが、比較的中央部分で多く検出された。

竪穴住居跡等と思われる遺構の覆土中からは縄文時代早期熱糸文系の三戸式・田戸下層の土器片が検出されたもの27軒とその主体はこの時期に集中する可能性が高い。早期全体では40軒になる。他に020号竪穴で前期黒浜式土器が検出されている。これらの時期に集落として機能していた可能性は高い。

炉穴・焼土跡は覆土から早期糸文系土器を中心にして検出されていることからこの時期の遺構群として認識される。

陥穴や土坑は遺跡全体に分布することから縄文時代を通じて狩猟採集の場所として機能していたことが考えられる。

遺物は包含層の調査で草創期～後期までの土器片・石器類が多量に出土している。

草創期は調査区の南東側の大グリッドの15Iグリッドを中心に爪型文土器が15点余り出土している。一方石器類は15I-74・75・84・85グリッドを中心とするS-J地点で有舌尖頭器等（細石刃を含む）を主体とする石器群が検出されている。安山岩Aを主要な石材としている。時間的には共存関係にあるものと思われる。

早期の熱糸文系土器は8Gグリッドを中心に446点出土している。北側の台地と南側の台地の間に挟まれた中央部分のやや谷が奥まって入った縁部に沿ってやや分布域が広がるようである。

早期の押型文系土器は7・8Dグリッドを中心にやや散漫に検出され総数301点出土している。一部熱糸文系土器と重なるものやや北西側に広がりを持ちながら台地中央のやや谷が奥まった台地縁辺北側部分に散漫に出土している。

早期の沈線文系土器の三戸式の簡便文系土器は7C・8C・7D・8Dグリッドを中心に2,850点出土している。押型文系土器よりやや北側に広がりながら台地中央の谷が奥まった台地縁辺部西北よりにやや密に分布している。

早期の沈線文系土器の三戸・田戸下層の細沈線文が主体で施文されているものでは7B・6C・7C・8C・6D・7D・8D・6E・10E・11E・7F・8F・10Fグリッドと200点以上出土した地点が広範囲に及ぶ。特に7Dグリッドでは1,043点と集中して検出されている。全体では7,068点出土している。台地中央のやや谷が奥まった台地縁辺西北部分から東よりに密に分布している。

早期の沈線文系土器の三戸・田戸下層の太沈線文が主体で施文されているものでは7B・7C・8C・6D・7D・8D・6E・10Fグリッドと200点以上出土した地点が広がる。細沈線文と同様に7Dグリッドでは737点と比較的集中して検出されている。全体では4,900点出土している。

早期の沈線文系土器の三戸・田戸下層の貝殻腹縁文が主体で施文されているものでは6D・7D・6E・7Fグリッドと200点以上出土した地点が広がる。6Eグリッドでは617点と比較的集中して検出されている。全体では2,589点出土している。

早期の沈線文系土器の田戸下層の条痕文が主体で施文されているものでは7C・6D・7D・8D・6E・7E・10E・6F・7F・10F・11F・10Gグリッドと200点以上出土した地点が広がる。7Dグリッドで1,945点と10Fグリッドで1,545点と特に多量に検出されている。全体では田戸下層の時期の土器群でもっとも広範囲に広がって、台地中央の谷が奥まった台地縁辺西北からやや中程に9,415点出土している。

早期の沈線文系土器の田戸下層の刺突文が主体で施文されているものでは200点以上検出された大グリッドはなく総点数でも346点と少ない。分布域は他のこの時期の土器群に重なるものやや狭い範囲に限られるようである。

早期の沈線文系土器の田戸上層の土器群は8D・7C・7Dグリッドあたりで少量検出されるだけで総点数も38点と乏しい。

早期の沈線文系土器の田戸下層・上層の底部尖底破片は7Dグリッドで238点検出されている。他はほぼ沈線文系土器が出土している範囲で総点数978点である。

早期の条痕文系土器の子母口式の土器群は7Bグリッドで328点と7Cグリッドで270点検出されている。沈線文系の土器群よりやや西に偏って検出されている。総点数も980点とあまり多くはない。

早期の条痕文系土器の野島・鯛ヶ島台式の土器群は3B・4B・4C・8C・8Dグリッドで200点以上検出されている。特に4Bグリッドで935点と多量に検出されている。沈線文系の土器群より北西よりに多く検出されていることが解る。総点数は3,876点とやや多く検出されている。

早期の条痕文系土器の茅山下層・上層の土器群は特に7Bグリッドで466点と7Cグリッドで346点とこの2か所に200点以上の検出が見られる。野島・鯛ヶ島台式土器の分布よりやや南側に位置するよう分布範囲も狭い。総点数は1,457点である。

早期の条痕文系土器の表・裏条痕の土器群は3B・7B・4C・5C・7Cグリッドで200点以上の検出が見られる。特に3Bグリッドで2,324点、7Bグリッド977点、4Cグリッド1,049点と3か所で特に多く検出されている。ほかの条痕文系の土器群と同様に沈線文系の土器群より北西よりに分布域が広がるようである。総点数は6,087点でかなり多く検出されている。

前期前半の黒浜式の土器群は7Bグリッド239点、7Cグリッド411点と2か所で200点以上の検出が見られる。分布範囲そのものは沈線文系や条痕文系の土器群と重なるように分布域が認められる。総点数は1,696点とそれ程多くは検出されていない。

前期後半の諸磯系の土器群は5～7のC～Eの大グリッド付近に主に散布し総点数94点と少ない。浮島系の土器群に客体的に伴うものと考えられる。

前期後半の浮島系の土器群は7B・5E・6E・7E・9Eグリッドで200点以上の検出が見られる。分布範囲は沈線文系の土器群と重なるように台地中央のやや谷が奥まった台地縁辺西北部分から東よりに密に分布している。

前期後半の十三菩提式の土器群は6Cグリッドの23点が最大で総点数65点とあまりまとまった分布域は認められない。

前期末～中期初頭にかけての土器群は7Bグリッドで151点、8Gグリッドで133点と比較的まとまって検出されている以外は少量のものが台地のやや北側にも広がりを見せて分布している。総点数は787点とあまり多くはない。

中期前半五領ヶ台式の土器群は6Bグリッド2点、6Eグリッド6点しか検出されていない。

中期前半玉台式の土器群は8Cグリッドで58点とやや多く検出されている以外はやや南よりに広がりながら散在する。総点数でも123点と非常に少ない。

中期後半加曽利E式の土器群は6Gグリッド周辺で検出されているだけで総点数も7点と非常に少量である。

後期の土器群は10Fグリッド197点、11Fグリッド354点と2か所でまとまって検出されている以外は少量で大きく広がりながら分布している。他の時期の土器群より南東よりまで広がっているのが解る。総点数では1,348点とやや多いが時期がやや幅があるため一概には言えない。

晩期の土器群は8C・8Fグリッドの2か所で13点ずつ検出されている。総点数29点で非常に少量である。

その他の土器群は繊維を含まないもの7,768点と繊維を含むもの5,312点とに分類された。分布域は条痕文系や沈線文系の土器群と重なるためその多くはそれらの時期の土器片であることは容易に推測される。

S-N地点の土器群は総点数70点で構成される。破片が少ないため土器製作跡の可能性より生活空間に近い場所であった可能性が高い。磨石や礫の存在もそうしたことを想起させる。

S-13地点の土器群はその周辺も含めると割片・破片も多数ありブロックというより包含層として捉えたほうがよいと思われる。石礫の点数も68点と多く近くに製作跡がある可能性も高い。

包含層一括遺物には多くの石器がありそれらのことから考えても住居跡のあった時期（沈線文）と炬穴のあった時期（条痕文）に該当する遺物が大半を占めるとと思われる。

第2節 弥生時代

弥生時代は縄文時代の包含層の調査区内で遺構の検出等は皆無で少量の土器片が検出されたのみである。その内容については詳細は不明で多くは語れない。

第3節 奈良・平安時代

奈良・平安時代の道路遺構が検出された。021号溝としたこの遺構と同様な遺構が印西市鳴神山遺跡で検出されている。同遺跡M004遺構は、調査区内590mをほぼ一直線に走る。幅は上端で2.0m～2.5m、下端で1m平均、深さは0.4m～0.7mで、遺構底面はほぼ平坦である。また、覆土中には硬化面を検出していない。時期は8世紀から9世紀にかけてである。これらは、十余三稲荷峰遺跡021号溝（のうち002号溝と交差する地点以南）とはほぼ共通する。したがって同期の道路遺構とした。同様のものは成田市駒井野荒道遺跡でも確認されている。ただし官道と呼ぶには小規模である。鳴神山遺跡M004はその延長上に古代寺院の可能性もある竜眼寺が所在する。これに相当する寺院等の施設がこの十余三稲荷峰遺跡周辺にあるかどうかは不明である。また、これとはほぼ並行して走る023号溝（024号溝の一部含む）も、おおむね同期と考えたいが、4本の溝状遺構が時期を変えながら重複していて、明らかに近世以降に改変されたと見られる地点もある。古代の道路（区画）が近世の道路を伴う区画に影響を及ぼしていることは、注目すべき事例である。

第4節 中・近世

当該期に属する溝状遺構（道路遺構を含む）は16条検出された。この時期の道路として機能していたも

のは、明瞭に硬化面を残している。001号・002号・009号・011号・020号溝等がそれに該当する。また、当地域が馬の放牧を目的とした近世取香牧に接する矢作牧の西端部であったことが知られており、これらの遺構中には、少なからず牧を構成する遺構が含まれているものと思われるが、牧（草地）内を横切るような幹線道路も所在していたのであろう。